

解剖学（人体構造）

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Osamu Kondo, Soichiro Mizushima, Nobuo Shigehara, Yasuhiro Yamada. Ritual tooth ablation in and dento-metric assessment of a newly discovered collective burial at the Hobi shellmound site, Aichi Prefecture, Japan. Anthropological Science, 2022;130 : 33-38.
- 2) Soichiro Mizushima, Osamu Kondo, Nobuo Shigehara, Yasuhiro Yamada. Newly discovered *banjo-shuseki-bo* (square-shaped bone-pile burial) human bones from the Final Jomon Period Hobi shell-mound site, Aichi Prefecture, Japan. Anthropological Science, 2022;130 : 15-23.

学会発表

① 国内学会

- 1) 中村友香, 和久大介, 脇山由基, 渡部裕介, 小金渕佳江, 長岡朋人, 平田和明, 大橋順, 米田穰, 高橋龍三郎, 太田博樹. 次世代シーケンサー解析による古人骨 DNA 残存量と環境および分子因子の相関関係の研究. 第 76 回日本人類学会大会・第 38 回日本霊長類学会大会 連合大会, 2022.
- 2) 水嶋崇一郎, 佐宗亜衣子. 廃屋墓事例の再考: 神奈川県三ツ沢貝塚 A 地点. 第 76 回日本人類学会大会・第 38 回日本霊長類学会大会連合大会, 2022.
- 3) 脇山由基, 和久大介, 中村友香, 小金渕佳恵, 渡部裕介, 大橋順, 米田穰, 藤田尚, 長岡朋人, 平田和明, 高橋龍三郎, 太田博樹. 古人骨ゲノム解析から見た千葉県縄文後晩期の婚姻システム. 第 76 回日本人類学会大会・第 38 回日本霊長類学会大会 連合大会, 2022.

② その他

- 1) 水嶋崇一郎. 縄文人の寿命について. 令和 4 年度日本体育大学公開講座「健康・社会・文化を考える。」, 2022.
- 2) 水嶋崇一郎. 「骨粗鬆症と骨折」を理解するための解剖学. 令和 4 年度日本体育大学公開講座「健康・社会・文化を考える。」, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		2
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	3	
	国際学会		
	その他	2	

解剖学（機能組織）

著書

- 1) 池森敦子、菅谷健、木村健二郎. 尿中 L 型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) 臨床検査データブック 2023-2024 2023;:761-762.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Inoue Kazuho, Yamada Shohei, Hoshino Seiko, Watanabe Minoru, Kimura Kenjiro, Kamiyo-Ikemori Atsuko. Glucagon-like peptide-1 receptor agonist, liraglutide, attenuated retinal thickening in spontaneously diabetic Torii fatty rats. BMC Ophthalmology, 2022;22(1) : 206.
- 2) Takayama S, Inoue K, Ogura Y, Hoshino S, Sugaya T, Ohata K, Kotake H, Ichikawa D, Watanabe M, Kimura K, Shibagaki Y, Kamiyo-Ikemori A.. Angiotensin II type 1a receptor deficiency alleviates muscle atrophy after denervation. Scientific Reports, 2023;13(1) : 519.

② 総説又は症例解説

- 1) Inokuchi M, Hiroi J, Kaneko T. Why can Mozambique tilapia acclimate to both freshwater and seawater? Insights from the plasticity of ionocyte functions in the euryhaline teleost. Frontiers in Physiology, 2022;13 : 914277.
- 2) Kamiyo-Ikemori A, Kimura K. Clinical utility of tubular markers in kidney disease: a narrative review. Journal of Laboratory and Precision Medicine, 2022; : 1-9.

学会発表

① 国内学会

- 1) 高山卓, 井上一步, 小倉裕司, 星野誠子, 市川大介, 菅谷健, 木村健二郎, 柴垣有吾, 池森敦子. アンジオテンシン II 受容体 (AT1a) 欠損による骨格筋萎縮抑制の可能性—除神経モデルにおける検討. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 2) 小竹徹, 山田将平, 小倉裕司, 渡邊詩香, 市川大介, 井上一步, 星野誠子, 田邊淳, 菅谷健, 永井義夫, 木村健二郎, 柴垣有吾, 池森敦子. 習慣的走運動によるサルコペニア及び糖尿病性腎臓病の進行抑制効果の検証. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 3) 小竹徹, 山田将平, 渡邊詩香, 市川大介, 井上一步, 菅谷健, 木村健二郎, 柴垣有吾, 池森敦子. 糖尿病性腎臓病の進行抑制効果を有する習慣的走運動の骨格筋への影響. 第 13 回日本腎臓リハビリテーション学会, 2023.

② 国際学会

- 1) Kotake H, Sugaya T, Shibagaki Y, Kamiyo-Ikemori. Endurance exercise training prevented the progression of diabetic kidney disease with muscle weakness in type 2 diabetic animal models with obesity, hypertension, and hyperlipidemia. Kidney week 2022, 2022.
- 2) Takayama S, Sugaya T, Shibagaki Y, Ikemori A.. Deficiency of Angiotensin II Type 1 Receptor Prevents Muscle Atrophy due to Denervation. Kidney week 2022, 2022.

③ その他

- 1) 池森敦子. 腎疾患診療における尿中 L-FABP の有用性と活用法. 金沢大学 十全医学会「第 4 回学術交流会」, 2022.
- 2) 池森敦子. 運動が腎臓へ及ぼす影響—尿中 L-FABP を使用して. 第 18 回腎・泌尿器検査研究会 学術集会, 2023.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著		2
	解説又は総説		2
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	3	
	国際学会		2
	その他	2	

解剖学（生物学）

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 伊野美幸, 望月篤, 信岡祐彦, 黄世捷, 東郷建, 松本伸行. 【精神科医療における女性医師の役割と期待】医学部教育の視点から 現行の医学部教育および大学の女性医師支援について. 精神科治療学, 2022;37(5):525-531.

学会発表

① 国内学会

- 1) 青木恵美子, 三輪敬蔵, 望月篤, 東郷建, 黄世捷, 佐野政子, 星野紀子, 松田隆秀, 信岡祐彦, 伊野美幸. 医科大学でSDGsに取り組む意義と課題. 第54回日本医学教育学会大会, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		
	解説又は総説	1	
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	1	
	国際学会		
	その他		

生理学（細胞・器官生理）

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Inoue Kazuho, Yamada Shohei, Hoshino Seiko, Watanabe Minoru, Kimura Kenjiro, Kamiyo-Ikemori Atsuko. Glucagon-like peptide-1 receptor agonist, liraglutide, attenuated retinal thickening in spontaneously diabetic Torii fatty rats. BMC Ophthalmology, 2022;22(1) : 206.
- 2) Takayama S, Inoue K, Ogura Y, Hoshino S, Sugaya T, Ohata K, Kotake H, Ichikawa D, Watanabe M, Kimura K, Shibagaki Y, Kamiyo-Ikemori A.. Angiotensin II type 1a receptor deficiency alleviates muscle atrophy after denervation. Scientific Reports, 2023;13(1) : 519.

学会発表

① 国内学会

- 1) 高山卓, 井上一步, 小倉裕司, 星野誠子, 市川大介, 菅谷健, 木村健二郎, 柴垣有吾, 池森敦子. アンジオテンシン II 受容体 (AT1a) 欠損による骨格筋委縮抑制の可能性—除神経モデルにおける検討. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 2) 小竹徹, 山田将平, 小倉裕司, 渡邊詩香, 市川大介, 井上一步, 星野誠子, 田邊淳, 菅谷健, 永井義夫, 木村健二郎, 柴垣有吾, 池森敦子. 習慣的走運動によるサルコペニア及び糖尿病性腎臓病の進行抑制効果の検証. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		2
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	2	
	国際学会		
	その他		

生理学（統合生理）

学会発表

① 国内学会

- 1) 岡本雄希, 船瀬新王, 藤原清悦. 迷路課題における T 字分岐付近の Fm θ 波の出現についての検討. 日本生体工学会大会, 2022.
- 2) 藤原清悦, 岡本 雄希, 船瀬 新王. 迷路の難易度と探索行動. 計測自動制御学会 ライフエンジニアリング部門シンポジウム, 2022.
- 3) 岡本雄希, 船瀬新王, 藤原清悦. 迷路課題中に発生する Fm Θ 波の発現タイミングの検討. 電気学会 電子・情報・システム部門大会, 2022.
- 4) 黒坂光寿, 洪永豊, 町田修一, 幸田和久. IL-4 は細胞融合因子の発現を介して筋芽細胞融合に関与する. 第 77 回日本体力医学会大会, 2022.
- 5) Mitsutoshi Kurosaka, Yung-Li Hung, Shuichi Machida, Kazuhisa Kohda. Roles of interleukin-4 in myoblast fusion via induction of myomerger expression. 第 100 回日本生理学会大会, 2023.

② 国際学会

- 1) Arao Funase, Sei-etsu Fujiwara. EEG signals related to playing maze: Example for spindle wave and Fmq. BMEiCON 2022, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	4	1
	国際学会		1
	その他		

生理学（物理学）

学術論文〔和文〕

① 原著

- 1) 高須雄一．医科大学1年生に対する「統計教育」の実践報告．日本科学教育学会年会論文集 46, 2022;46 : 169-170.
- 2) 晴山慎, 根本幸雄, 高須雄一．オンラインに対応した力学実習の構築と対面実習への適用．大学の物理教育, 2022;28(3) : 155-159.

② その他

- 1) 高須雄一．『大学の物理教育』＝大学＋物理＋教育？．日本物理学会誌, 2022;77(11) : 719-719.

学会発表

① 国内学会

- 1) 高須雄一．医科大学1年生に対する「統計教育」の実践報告．日本科学教育学会第46回年会 愛知大会, 2022.
- 2) 草野広樹, 長岡央, 榎戸輝揚, 晴山慎．月表層の水探索に向けた中性子生成および輸送シミュレーション．日本惑星科学会 2022 年秋季講演会, 2022.
- 3) 長岡央, 榎戸輝揚, 加藤陽, 谷口絢太郎, 辻直希, 大竹淑恵, 藤田訓裕, 若林泰生, 岩本ちひろ, 高梨宇宙, 玉川徹, 晴山慎, 小林泰三, 草野広樹, 池永太一, 中野雄貴, 塚本雄士, 星野健, 唐牛譲, 上野宗孝．月・惑星の水資源探索を目指す中性子ガンマ線測定装置 MoMoTar0 の開発．日本惑星科学会 2022 年秋季講演会, 2022.
- 4) 長岡央, 榎戸輝揚, 加藤陽, 谷口絢太郎, 辻直希, 大竹淑恵, 藤田訓裕, 若林泰生, 岩本ちひろ, 高梨宇宙, 玉川徹, 晴山慎, 小林泰三, 草野広樹, 池永太一, 中野雄貴, 塚本雄士, 星野健, 唐牛譲, 上野宗孝．中性子測定による月の水資源探索を狙う MoMoTar0 計画．第66回宇宙科学技術連合講演会, 2022.
- 5) 榎戸輝揚, 森本健志, 吉浦伸太郎, 本間希樹, 高橋弘充, 長岡央, 辻直希, 加藤陽, 谷口絢太郎, 中澤知洋, 晴山慎, 大竹淑恵, 藤田訓裕, 岩本ちひろ, 高梨宇宙, 若林泰生, 小林泰三, 池永太一, 中野雄貴, 塚本雄士, 草野広樹, 玉川徹, 星野健, 唐牛譲, 上野宗孝．月の水資源探索とも連携した月周辺での天文学・基礎物理の研究．第66回宇宙科学技術連合講演会, 2022.
- 6) 辻直希, 榎戸輝揚, 長岡央, 加藤陽, 谷口絢太郎, 大竹淑恵, 若林泰生, 高梨宇宙, 岩本ちひろ, 玉川徹, 晴山慎, 小林泰三, 池永太一, 中野雄貴, 塚本雄士, 草野広樹, 星野健, 唐牛譲, 上野宗孝．MoMoTar0 計画 - 中性子とガンマ線の測定を目指す検出器開発．日本物理学会 2023 年春季大会, 2023.
- 7) 榎戸輝揚, 辻直希, 長岡央, 加藤陽, 谷口絢太郎, 大竹淑恵, 若林泰生, 高梨宇宙, 岩本ちひろ, 玉川徹, 晴山慎, 小林泰三, 池永太一, 中野雄貴, 塚本雄士, 草野広樹, 星野健, 唐牛譲, 上野宗孝, 森本健志, 吉浦伸太郎, 本間希樹, 高橋弘充, 木坂将大, 中澤知洋, 山岡和貴, 仏坂健太．MoMoTar0 計画 - 月面の水資源探索と基礎科学への活用．日本物理学会 2023 年春季大会, 2023.
- 8) 谷口絢太郎, 榎戸輝揚, 辻直希, 長岡央, 加藤陽, 鶴見美和, 大竹淑恵, 若林泰生, 高梨宇宙, 岩本ちひろ, 玉川徹, 晴山慎, 小林泰三, 池永太一, 中野雄貴, 塚本雄士, 草野広樹, 星野健, 唐牛譲, 上野宗孝, 小松龍世．MoMoTar0 計画 - 月周回軌道を使った中性子寿命の測定．日本物理学会 2023 年春季大会, 2023.

② その他

- 1) 理化学研究所, 聖マリアンナ医科大学, 立命館大学, ソイルアンドロックエンジニアリング株式会社, 量子科学技術研究開発機構．宇宙使用も視野に入れた土木建築での活用を目指す次世代型の中性子水モニタの開発．2022 年度 第2回 宇宙探索オープンイノベーションフォーラム, 2022.
- 2) 辻直希, 榎戸輝揚, 長岡央, 加藤陽, 谷口絢太郎, 晴山慎, 大竹淑恵, 藤田訓裕, 岩本ちひろ, 高梨宇宙, 若林泰生, 小林泰三, 池永太一, 中野雄貴, 塚本雄士, 草野広樹, 玉川徹, 星野健, 唐牛譲, 上野宗孝．月周辺での中性子測定で挑む水資源探索と中性子寿命測定．2022 年度 RANS シンポジウム, 2022.
- 3) 榎戸輝揚, 辻直希, 長岡央, 加藤陽, 谷口絢太郎, 大竹淑恵, 若林泰生, 高梨宇宙, 岩本ちひろ, 玉川徹, 晴山慎, 小林泰三, 池永太一, 中野雄貴, 塚本雄士, 草野広樹, 星野健, 上野宗孝, 森本健志, 吉浦伸太郎, 本間希樹, 高橋弘充, 木坂将大, 中澤知洋, 山岡和貴, 仏坂健太．月の水資源探索と基礎科学への応用．第23回 宇宙科学シンポジウム, 2023.
- 4) 榎戸輝揚, 長岡央, 加藤陽, 谷口絢太郎, 大竹淑恵, 若林泰生, 高梨宇宙, 岩本ちひろ, 玉川徹, 晴山慎, 小林泰三, 池永太一, 中野雄貴, 塚本雄士, 草野広樹, 星野健, 唐牛譲, 上野宗孝．月周辺での中性子・ガンマ線の測定を目指す MoMoTar0 の検出器デザイン．第23回 宇宙科学シンポジウム, 2023.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著	2	
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他	1	
学会発表	国内学会	8	
	国際学会		
	その他	4	

生化学（生化学・化学）

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Shiono Suzuka, Tsutiya Atsuhiko, Kaneko-Ohtani Ritsuko. Early Detection of Male-Predominant Phenotypes in the Pattern of Ultrasonic Vocalizations Emitted by Autism Spectrum Disorder Model (Crmp4-Knockout) Mice. Brain Sciences, 2022;12(5) : 666--.
- 2) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, Kurokawa MS, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K. Serum gasdermin D levels are associated with the chest computed tomography findings and severity of COVID-19. Respiratory Investigation, 2022;60(6) : 750-761.

学会発表

① 国内学会

- 1) 黒川 真奈絵, 佐藤 利行, 佐藤 政秋, 永井 宏平, 内田 貞輔, 有戸 光美, 高桑 由希子, 大岡 正道, 末松 直也, 川畑 仁人, 山野嘉久, 加藤 智啓. 再発性多発軟骨炎のバイオマーカー候補となる血清ペプチドの解析. 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 2) 佐藤政秋, 加藤 正樹, 佐藤 利行, 土屋 貴大, 表山 和樹, 有戸 光美, 末松 直也, 加藤 智啓, 黒川 真奈絵. 潰瘍性大腸炎の新規血清ペプチドバイオマーカーの網羅的探索. 第95回 日本生化学会大会, 2022.
- 3) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, S.Kurokawa M, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K.. Pyroptosis-apoptosis imbalance affects the severity and chest CT findings in COVID-19. 第62回日本呼吸器学会学術講演会, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		2
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	2	1
	国際学会		
	その他		

微生物学

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 大神田敬. 臨床検査 Q&A 細菌検査で CRE が検出されたら, どう対応すればよいでしょうか?. Medical Technology, 2022;50(12) : 1332-1334.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Watanabe Y, Okanda T, Nakamura I, Watanabe H, Nakamura H, Matsumoto T.. Prevalence of toxin genes and clinical characteristics of Clostridioides difficile isolates in diarrheal samples among hospitalized patients at Tokyo Medical University Hospital. Journal of Tokyo Medical University, 2022;80(2) : 102-108.
- 2) Takuro Koshikawa, Masahiro Abe, Minoru Nagi, Yoshitsugu Miyazaki, Hiromu Takemura. Biofilm-formation capability depends on environmental oxygen concentrations in Candida species. Journal of Infection and Chemotherapy, 2022;28(5) : 643-650.
- 3) Takuro Koshikawa, Hiroshi Miyoshi. High-resolution melting analysis to discriminate between the SARS-CoV-2 Omicron variants BA.1 and BA.2. Biochemistry and Biophysics Reports, 2022;31 : 101306.
- 4) Tomonori Takano, Takashi Okanda, Masanori Hirose, Yukitaka Yamasaki, Tomoya Tsuchida, Hiromu Takemura, Kimito Kawahata, Hiroyuki Kunishima. Diagnostic accuracy of four serological tests for COVID-19 and differences in antibody positivity rates based on the need for treatment or ventilator support. Journal of St. Marianna University, 2022;13(1) : 29-37.
- 5) Hiroshi Miyoshi, Masahiro Otomo, Kiyofumi Takahashi. Clomipramine inhibits dynamin GTPase activity by L- α -phosphatidyl-L-serine stimulation. bioRxiv, 2022; : 10.1101/2022.09.09.507370.
- 6) Mouri M, Imamura M, Suzuki S, Kawasaki T, Ishizaki Y, Sakurai K, Nagafuchi H, Matsumura N, Uchida M, Ando T, Yoshioka K, Ooka S, Sugihara T, Miyoshi H, Mori M, Okada T, Yamaguchi M, Kunishima H, Kato M, Kawahata K. Serum polyethylene glycol-specific IgE and IgG in patients with hypersensitivity to COVID-19 mRNA vaccines. Allergology international : official journal of the Japanese Society of Allergology, 2022;71(4) : 512-519.
- 7) Yamasaki Y, Ooka S, Matsuoka S, Tomita H, Hirose M, Takano T, Suzuki S, Imamura M, Handa H, Nishine H, Takita M, Minoura A, Morisawa K, Inoue T, Mineshita M, Kawahata K, Takemura H, Fujitani S, Kunishima H. Predicting the aggravation of coronavirus disease-19 pneumonia using chest computed tomography scans. PloS One, 2022;3(17) : 11.
- 8) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, Kurokawa MS, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K. Serum gasdermin D levels are associated with the chest computed tomography findings and severity of COVID-19. Respiratory Investigation, 2022;60(6) : 750-761.

学会発表

① 国内学会

- 1) 竹村弘, 寺久保繁美, 大神田敬, 越川拓郎, 高野知憲, 國島広之. β -ラクタマーゼ半定量的検査法の開発とその有用性について. 第 70 回日本化学療法学会総会, 2022.
- 2) 越川拓郎, 阿部雅広, 篠原孝幸, 定本聡太, 名木 稔, 竹村 弘, 宮崎義継. *Candida tropicalis* の各酸素濃度におけるバイオフィーム形成能の評価. 第 41 回関東医真菌学会, 2022.
- 3) 篠原孝幸, 阿部雅広, 越川拓郎, 定本聡太, 名木 稔, 知花博治, 宮崎義継. *Candida glabrata* の嫌気環境における Caco-2 細胞への接着能の検討. 第 66 回日本医真菌学会総会・学術集会, 2022.
- 4) 大神田 敬, 越川拓郎, 竹村 弘. 迅速 SNP 検出法を用いたカルバペネマーゼ産生遺伝子の亜型分類の構築. 第 71 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 69 回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会, 2022.
- 5) 越川拓郎, 阿部雅広, 宮崎義継, 大神田 敬, 竹村 弘. *Candida* 属のバイオフィーム形成に与える *Escherichia coli* の影響. 第 71 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 69 回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会, 2022.
- 6) 越川拓郎, 大神田 敬, 竹村 弘. 酸素濃度および大腸菌培養上清が *Candida albicans* のバイオフィーム形成に及ぼす影響. 第 90 回神奈川県感染症医学会, 2022.

- 7) 竹村 弘, 中島二如, 寺久保繁美, 越川拓郎, 大神田 敬. 各種抗菌薬の大腸菌バイオフィルム生成に及ぼす影響の検討. 第 90 回神奈川県感染症医学会, 2022.
- 8) 永田 恵理, 大柳 忠智, 高橋 儀行, 黒沢 未希, 加峯 えみり, 志村 佳菜, 國島 広之, 竹村 弘. 重症 COVID-19 治療中に活動性結核の診断に至った 1 症例. 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 2023.
- 9) 大神田 敬, 松本 哲哉, 越川 拓郎, 竹村 弘. 迅速 SNP 検出法を用いた *bla_{IMP}* 亜型分類系の構築. 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 2023.
- 10) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, S.Kurokawa M, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K.. Pyroptosis-apoptosis imbalance affects the severity and chest CT findings in COVID-19. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 2022.

② その他

- 1) 相見 光, 吉川 裕治, 福地 邦彦, 浅井 大輔, 越川 拓郎, 坂上 宏. リグニンスルホン酸塩によるウイルス不活化に関する検討. 第 88 回紙パルプ研究発表会, 2022.
- 2) 大神田 敬. 多剤耐性菌感染モデルとしての線虫の有用性. 第 82 回聖マリアンナ医科大学医学会, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		8
	解説又は総説	1	
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	9	1
	国際学会		
	その他	2	

薬理学

著書

- 1) 木田圭亮. がん合併心不全の栄養管理 心不全栄養バイブル 2022;:202-207.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 小林侑里, 根本慎司, 笠原西介, 渡辺敏, 武市尚也, 吉沢和也, 渡邊紗都, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 藤村健, 鈴木規雄, 長田尚彦, 足利光平, 木田圭亮, 明石嘉浩. 退院時に身体的フレイルまたはプレフレイルを呈する高齢心不全患者の臨床的特徴. 心臓リハビリテーション, 2022;28(2):197-203.
- 2) 藤村健, 武市尚也, 笠原西介, 吉沢和也, 根本慎司, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 渡辺敏, 足利光平, 出雲昌樹, 木田圭亮, 明石嘉浩. 経カテーテル的大動脈弁置換術後の日常生活動作能力維持に関連する因子の検討. 心臓リハビリテーション, 2022;28(3・4):269-274.
- 3) 藤村健, 武市尚也, 笠原西介, 吉沢和也, 根本慎司, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 渡辺敏, 足利光平, 出雲昌樹, 木田圭亮, 明石嘉浩. 経カテーテル的大動脈弁置換術後の日常生活動作能力維持に関連する因子の検討. 心臓リハビリテーション, 2022;28(3・4):269-274.

② 総説又は症例解説

- 1) 木田圭亮, 貝原俊樹, 佐々木信幸. 【第4次産業革命がもたらすリハビリテーション医療のこれから】遠隔心臓リハビリテーション治療の現状と課題. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2022;59(4):377-384.
- 2) 木田圭亮, 村田理沙子. 特集エネルギー代謝 心不全のエネルギー代謝. リハビリテーション栄養, 2022;6(1):44-49.
- 3) 松本直樹. 特集 循環器薬の使い方—使い分け、モニタリング、導入・中止のタイミング ■VI章 安全性 循環器診療で使ってはいけない薬. 循環器ジャーナル, 2022;70(2):320-325.
- 4) 木田圭亮, 土岐真路. レニン-アンジオテンシン系阻害薬投与時の高カリウム血症にどう対応すべきか?—最近の海外ガイドラインからの考察—. 循環器内科, 2022;91(5):609-616.
- 5) 黄世捷, 木田圭亮. 【図でわかる! ケアに役立つ! 循環器のくすり 作用&要チェックポイント】はじめに (基礎編). ハートナーシング, 2022;35(8):6-9.
- 6) 鈴木規雄, 木田圭亮, 土井駿一, 明石嘉浩. 老年栄養-高齢者の低栄養, フレイル, サルコペニア】疾患と栄養ケア 慢性心不全の栄養障害・栄養ケア. 内科, 2022;130(2):203-208.
- 7) 木田圭亮, 鈴木規雄. 【低栄養の世界的診断基準 GLIM criteria GLIM 基準[Global Leadership Initiative on Malnutrition]】GLIM 基準を心不全診療に生かす. 外科と代謝・栄養, 2022;56(4):113-117.
- 8) 木田圭亮, 鈴木規雄, 佐々木信幸. 【Onco-Cardiology Update】治す 今後の腫瘍循環器診療の展望 腫瘍循環器リハビリテーションの可能性. Heart View, 2022;26(10):1006-1013.
- 9) 木田圭亮, 鈴木規雄, 佐々木信幸. リハビリテーションと薬剤 リハビリテーションにおける疾患・病態に応じた薬剤管理(2) 心不全. Journal of Clinical Rehabilitation, 2022;31(14):1432-1437.

③ その他

- 1) 木田圭亮. 来るべき心不全パンデミックに備える—心不全における栄養療法とその展望—. BEQNEWS, 2022;45:1-2.
- 2) 木田圭亮. Yell For Heart Nurse
ピンチこそ、チーム力で乗り越えて次のステップへ. ハートナーシング, 2023;36(1):1-1.
- 3) 佐瀬一洋, 木田圭亮, 志賀太郎. 特集 ここが変わった! 循環器診療 最新スタンダード
II. 循環器診療に関わる領域
腫瘍循環器学の新しい診療ガイドラインと今後の課題. 循環器ジャーナル, 2023;71(1):122-127.
- 4) 木田圭亮. 医師が語る処方箋の裏側
スピロノラクトンとロケルマ
心不全で併用する狙いは、日経ドラッグインフォメーション, 2023;(305):PE001.
- 5) 浅田隆太, 一村昌彦, 今井晶子, 岩田香苗, 太田有紀, 菊地佳代子, 今野浩一, 高木佳子, 寺田智子, 萩森奈央子, 堀部恵梨佳, 丸本芳雄. 現地開催! スタディマネジャー/プロジェクトマネージャーつながり対話会. 臨床薬理, 2023;54(2):85-88.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Nogi Kazutaka, Ueda Tomoya, Matsue Yuya, Nogi Maki, Ishihara Satomi, Nakada Yasuki, Kawakami Rika, Kagiya Nobuyuki, Kitai Takeshi, Oishi Shogo, Akiyama Eiichi, Suzuki Satoshi, Yamamoto Masayoshi, Kida Keisuke, Okumura Takahiro, Saito Yoshihiko. Effect of carperitide on the 1 year prognosis of patients with acute decompensated heart failure. *ESC Heart Failure*, 2022;9(2) : 1061-1070.
- 2) Kida Keisuke, Nabeta Takeru, Ishida Miwa, Shiono Takaaki, Suzuki Norio, Doi Shunichi, Tsukahara Maya, Ohta Yuki, Kimura Tetsuya, Morishima Yoshiyuki, Takita Atsushi, Matsumoto Naoki, Akashi Yoshihiro J, Ako Junya, Inomata Takayuki. D-dimer levels in patients with nonvalvular atrial fibrillation and acute heart failure treated with edoxaban. *Journal of Cardiology*, 2022;79(6) : 759-767.
- 3) Sezai Akira, Tanaka Atsushi, Imai Takumi, Kida Keisuke, Sekino Hisakuni, Murohara Toyoaki, Sata Masataka, Suzuki Norio, Node Koichi. Comparing the Effects of Canagliflozin vs. Glimepiride by Body Mass Index in Patients with Type 2 Diabetes and Chronic Heart Failure: A Subanalysis of the CANDLE Trial. *Biomedicines*, 2022;10(7) : 1656.
- 4) Kobayashi Tsukasa, Takeba Yuko, Ohta Yuki, Ootaki Masanori, Kida Keisuke, Watanabe Minoru, Iiri Taroh, Matsumoto Naoki. Prenatal glucocorticoid administration enhances bilirubin metabolic capacity and increases Ugt1a and Abcc2 gene expression via glucocorticoid receptor and PXR in rat fetal liver. *THE JOURNAL OF Obstetrics and Gynaecology Research*, 2022;48(7) : 1591-1606.
- 5) Kobayashi Tsukasa, Takeba Yuko, Ohta Yuki, Ootaki Masanori, Kida Keisuke, Watanabe Minoru, Iiri Taroh, Matsumoto Naoki. Prenatal glucocorticoid administration accelerates the maturation of fetal rat hepatocytes. *Molecular Biology Reports*, 2022;49(7) : 5831-5842.
- 6) Nabeta Takeru, Kitai Takeshi, Naruse Yoshihisa, Taniguchi Tatsunori, Yoshioka Kenji, Tanaka Hidekazu, Okumura Takahiro, Sato Shuntaro, Baba Yuichi, Kida Keisuke, Tamaki Yodo, Matsumoto Shingo, Matsue Yuya. Risk stratification of patients with cardiac sarcoidosis: the ILLUMINATE-CS registry. *European Heart Journal*, 2022;43(36) : 3450-3459.
- 7) Haruo Suzuki, Masanori Ootaki, Shigetaka Yoneda. Molecular dynamics study on the hydrogen bond formation between α -hydrogen atom of L-Phe and N5 atom of FAD in the enzyme-substrate complex of the L-Phe oxidase reaction. *Biochemical and Biophysical Research Communications*, 2022;626 : 151-155.
- 8) Kida Keisuke, Nishitani Miho, Kono Yuji, Kamiya Kentaro, Kishi Takuya, Node Koichi, Makita Shigeru, Kimura Yutaka, Ishihara Shunichi. Second Nationwide Survey of Japanese Cardiac Rehabilitation Training Facilities During the Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) Outbreak. *Circulation Reports*, 2022;4(10) : 469-473.
- 9) Nemoto Shinji, Kasahara Yusuke, Izawa Kazuhiro P, Watanabe Satoshi, Yoshizawa Kazuya, Takeichi Naoya, Akao Keigo, Watanabe Sato, Mizukoshi Kei, Suzuki Norio, Ashikaga Kohei, Kida Keisuke, Osada Naohikok, Akashi Yoshihiro J. Relevant factors of leg strength at hospital discharge in patients hospitalized due to acute decompensated heart failure: multi-institutional prospective observational study. *European Journal of Cardiovascular Nursing*, 2022;21(7) : 741-749.
- 10) Makita Noriko, Sato Junichiro, Manaka Katsunori, Akahane Kimiko, Ito Takahiro, Yamazaki Hajime, Mizoguchi Akira, Hikima Yusuke, Horikoshi Hirofumi, Nangaku Masaomi, Iiri Taroh. Successful prednisolone or calcimimetic treatment of acquired hypocalciuric hypercalcemia caused by biased allosteric CaSR autoantibodies. *The Journal of Clinical Investigation*, 2022;7(20) : e156742.
- 11) Ito Miyuki, Maeda Daichi, Matsue Yuya, Shiraishi Yasuyuki, Dotare Taishi, Sunayama Tsutomu, Nogi Kazutaka, Takei Makoto, Ueda Tomoya, Nogi Maki, Ishihara Satomi, Nakada Yasuki, Kawakami Rika, Kagiya Nobuyuki, Kitai Takeshi, Oishi Shogo, Akiyama Eiichi, Suzuki Satoshi, Yamamoto Masayoshi, Kida Keisuke, Okumura Takahiro, Nagatomo Yuji, Kohno Takashi, Nakano Shintaro, Kohsaka Shun, Yoshikawa Tsutomu, Saito Yoshihiko, Minamino Tohru. Association between class of foundational medication for heart failure and prognosis in heart failure with reduced/mildly reduced ejection fraction. *Scientific reports*, 2022;12(1) : 16611.
- 12) Dotare Taishi, Maeda Daichi, Matsue Yuya, Sunayama Tsutomu, Kida Keisuke, Kitai Takeshi, Kagiya Nobuyuki, Yamaguchi Tetsuo, Okumura Takahiro, Mizuno Atsushi, Oishi Shogo, Inuzuka Yasutaka, Akiyama Eiichi, Suzuki Satoshi, Yamamoto Masayoshi, Minamino Tohru. Early drop in systolic blood pressure is associated with poor diuretic response and prognosis in patients with acute heart failure. *European Heart Journal*, 2022;11(10) : 749-757.

- 13) Nakai Kazuki, Manaka Katsunori, Sato Junichiro, Takeuchi Maki, Yamazaki Yuto, Sasano Hironobu, Tsurutani Yuya, Saito Jun, Nishikawa Tetsuo, Iiri Taroh, Nangaku Masaomi, Makita Noriko. Aldosterone-Producing Adenomas of Increased Size Are Associated With Higher Steroidogenic Activity. J Clin Endocrinol Metab, 2022;107(11) : 3045-3054.
- 14) Matsumoto Shingo, Nakamura Norihito, Konishi Masaaki, Shibata Atsushi, Kida Keisuke, Ishii Shunsuke, Ikeda Takanori, Ikari Yuji. Neuroendocrine hormone status and diuretic response to atrial natriuretic peptide in patients with acute heart failure. ESC Heart Fail, 2022;9(6) : 4077-4087.
- 15) Seki Tomotsugu, Murata Makoto, Takabayashi Kensuke, Yanagisawa Takashi, Ogihara Masayuki, Kurimoto Ritsuko, Kida Keisuke, Tamita Koichi, Song Xiaoyang, Ozasa Neiko, Taniguchi Ryoji, Nishitani-Yokoyama Miho, Koba Shinji, Murai Ryosuke, Furukawa Yutaka, Hamasaki Maki, Kondo Hirokazu, Hayashi Hironori, Ootakara-Katsume Asako, Tateishi Kento, Matoba Satoaki, Adachi Hitoshi, Shiraishi Hirokazu. Cardiac Rehabilitation for Patients With Stable Ischemic Heart Disease Without Revascularization - Rationale and Design of a Single-Arm Pilot Study. Circulation Reports, 2023;5(3) : 90-94.
- 16) Shiina Kazuki, Tomiyama Hirofumi, Tanaka Atsushi, Imai Takumi, Hisauchi Itaru, Taguchi Isao, Sezai Akira, Toyoda Shigeru, Dohi Kaoru, Kamiya Haruo, Kida Keisuke, Anzai Toshihisa, Chikamori, Taishiro, Node Koichi. Canagliflozin independently reduced plasma volume from conventional diuretics in patients with type 2 diabetes and chronic heart failure: a subanalysis of the CANDLE trial. Hypertension Research, 2023;46(2) : 495-506.
- 17) Shiga Tsuyoshi, Suzuki Tsuyoshi, Kida Keisuke, Atsushi Suzuki, Kohno Takashi, Ushijima Akiko, Kiuchi Shunsuke, Ishii Shunsuke, Murata Makoto, Ijichi Takeshi, Suzuki Makoto, Nishikawa Masako. Rationale and Design of the Effect of Ivabradine on Exercise Tolerance in Patients With Chronic Heart Failure (EXCILE-HF) Trial - Protocol for a Multicenter Randomized Controlled Trial -. Circulation Reports, 2023;5(4) : 157-161.
- 18) Kurashima Shinichi, i Kitai Takesh, Matsue Yuya, Nogi Kazutaka, Kagiya Nobuyuki, Oishi Shogo, Akiyama Eiichi, Suzuki Satoshi, Yamamoto Masayoshi, Kida Keisuke, Okumura Takahiro, Nogi Maki, Ishihara Satomi, Ueda Tomoya, Kawakami Rika, Furukawa utaka, Saito Yoshihiko, Izumi Chisato. Trajectory of serum chloride levels during decongestive therapy in acute heart failure. International Journal of Cardiology, 2023;375 : 36-43.

② 総説又は症例解説

- 1) Sakurai Kenzo, Takeba Yuko, Osada Yosuke, Mizuno Masanori, Tsuzuki Yoshimitsu, Aso Kentaro, Kida Keisuke, Ohta Yuki, Ootaki Masanori, Iiri Taroh, Hokuto Isamu, Shimizu Naoki, Matsumoto Naoki. Antenatal Glucocorticoid Administration Promotes Cardiac Structure and Energy Metabolism Maturation in Preterm Fetuses. International Journal of Molecular Sciences, 2022;23(17) : 10186.
- 2) Kida Keisuke, Miyajima Isao, Suzuki Norio, Barry H Greenberg, Akashi Yoshihiro-J. Nutritional management of heart failure. Journal of Cardiology, 2023;81(3) : 283-291.

③ その他

- 1) Kida Keisuke, N-Y Miho, Shimada Kazunori, Daida Hiroyuki, Ushijima Akiko, Kono Yuji, Miura Masanobu, Itoh Hidetaka, Sakata Yasuhiko, Nagayama Masatoshi, Furukawa Yutaka, Fukuma Nagaharu, Izawa Hideo, Ohya Yusuke, Saku Keiji, Miura Shin-ichiro, Goto Yoichi, Itoh Haruki, Makita Shigeru. Study Design of the Japanese Association of Cardiac Rehabilitation Registry (J-CARRY) - Protocol for a Prospective, Multicenter, Open Registry-. Circulation Reports, 2022;4(11) : 550-554.
- 2) Kida Keisuke. Left ventricular hypertrophy was not built in a day. Hypertension Research, 2023;46(2) : 341-342.

学会発表

① 国内学会

- 1) 間中勝則, 佐藤潤一郎, 竹内牧, 渡邊広祐, 鹿毛秀宣, 川合剛人, 佐藤悠佑, 宮川卓也, 山田大介, 久米春喜, 佐藤伸一, 長瀬隆英, 飯利太郎, 南学正臣, 榎田紀子. 当院における免疫チェックポイント阻害薬による下垂体機能低下症の経験. 第 95 回日本内分泌学会学術集会, 2022.
- 2) 榎田紀子, 飯利太郎. カルシウム感受容体に対するユニークな自己抗体が原因となるまれな疾患の解析と GPCR の特異的調節機構. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.

- 3) 足利光平, 土井駿一, 鈴木規雄, 木田圭亮, 武市尚也, 渡辺敏, 明石嘉浩. 経皮的大動脈弁術後の患者に対する遠隔心臓リハビリテーションの安全性・有効性. 第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2022.
- 4) 島田和典, 横山美帆, 代田浩之, 福岡長知, 大屋祐輔, 三浦伸一郎, 牛島明子, 木田圭亮, 坂田泰彦, 長山雅俊, 古川裕, 三浦正暢, 伊東秀崇, 後藤葉一, 牧田茂. 心臓リハビリテーション学会レジストリー(The Japanese Association of Cardiac Rehabilitation Registry: J-CARRY study) の現状と今後の展望. 第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会・日本心臓リハビリテーション学会合同セッション, 2022.
- 5) 木田圭亮. 新しい心不全治療薬. 第67回日本透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 6) 松本直樹. 医療倫理. 神奈川県母体保護法指定医師研修会, 2022.
- 7) 木田圭亮. Cardio-Oncology 領域における理学療法: 腫瘍循環器リハビリテーション (Cardio-Oncology Rehabilitation; CORE) とは?. 第6回日本循環器理学療法学会学術集会, 2022.
- 8) 松本直樹, Ohta Yuki, Yamamoto Hitoshi, Takumi Ichiro, Yamazaki Fumie, Thai Ching. Pharmacokinetics, safety, and tolerability of cannabidiol (GWP42003-P, CBD) as a SAD and MAD in Japanese and White subjects. 日本てんかん学会学術集会, 2022.
- 9) 杉村宏一郎, 照井洋輔, 後岡広太郎, 豊田茂, 下島正也, 泉家康宏, 児玉雄介, 北井豪, 岩渕薫, 鈴木秀, 北野大輔, 木田圭亮, 多田寛, 大田英揮, 安田聡. 乳がん治療による心臓合併症の疫学と発症リスク-前向き多施設共同研究 (CHECK HEART-BC Study) -. 日本心臓病学会学術集会, 2022.
- 10) 木田圭亮. 心臓 MRI から見たファブリー病. 日本心臓病学会学術集会, 2022.
- 11) 木田圭亮. 教育セミナー「よくわかる」シリーズ7 循環器疾患の治療: 薬物療法. 第19回日本循環器看護学会学術集会, 2022.
- 12) 山崎太輝, 根本慎司, 笠原西介, 渡辺敏, 武市尚也, 吉沢和也, 渡邊紗都, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 鈴木規雄, 水越慶, 長田尚彦, 足利光平, 木田圭亮, 明石嘉浩. 高齢心不全患者の下肢筋力が日常生活活動の困難感に与える影響 -PMADL-8 を用いた検討 -. 日本心臓リハビリテーション学会第7回関東甲信越支部地方会, 2022.
- 13) 山路貴彦, 高良優希, 渡邊恵都子, 木田圭亮, 渡邊雅貴. 運動誘発にて房室ブロックがけん顕性化した一例. 日本心臓リハビリテーション学会 第7回関東甲信越支部地方会, 2022.
- 14) 土井駿一, 佐藤如雄, 鈴木規雄, 栗田真吾, 出雲昌樹, 石橋祐記, 木田圭亮, 原田智雄, 明石嘉浩. ピロリン酸シンチ視覚スコア2はATTR アミロイドーシスを鑑別できるか. 第26回日本心不全学会学術集会, 2022.
- 15) 木田圭亮. 高齢者心房細動と共存疾患を考える 心不全合併の高齢者心房細動における抗凝固療法の治療戦略. 第26回日本心不全学会学術集会, 2022.
- 16) 木田圭亮. 新薬時代の心不全デバイス治療. 第26回日本心不全学会学術集会, 2022.
- 17) 榎田紀子, 飯利太郎. Ca 感知受容体異常症からみえてくること. 第32回臨床内分泌代謝 update, 2022.
- 18) 太田有紀, 太組一朗, 山本仁, Cuiping Chen, Ching Thai, 山崎文恵, Charlotte Nortvedt, 松本直樹. 大麻カンナビジオール (CBD) の薬物動態、安全性および忍容性に関する検討. 第43回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.
- 19) 木田圭亮. 当院での腫瘍循環器外来開設から4年間で見えてきた新たな役割と課題. 第43回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.
- 20) 松本直樹. 倫理学の基礎から学ぶ医療倫理. 第43回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.
- 21) 小林司, 武半優子, 大滝正訓, 太田有紀, 木田圭亮, 渡辺実, 飯利太郎, 松本直樹. 加齢が腸管平滑筋の自律神経機能に及ぼす影響. 第43回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.
- 22) 大滝正訓, 太田有紀, 武半優子, 小林司, 渡辺実, 木田圭亮, 飯利太郎, 松本直樹. 分子動力学計算による CYP3A4、CYP4A1 への基質特異性の検討. 第43回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.
- 23) 木田圭亮. 循環器領域における漢方薬のパラダイムシフト～症状緩和から心臓リハビリテーションまでをつなぐ漢方薬～. 第43回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.
- 24) 武半優子, 小林司, 大滝正訓, 太田有紀, 木田圭亮, 原雅樹, 飯利太郎, 松本直樹. 肝細胞癌に対する5-フルオロウラシルと血管作動性ペプチド (VIP) 併用効果に関する検討. 第43回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.
- 25) 小林司, 武半優子, 太田有紀, 木田圭亮, 大滝正訓, 飯利太郎, 松本直樹. ジヒドロミリセチンは肝細胞癌由来細胞株 HuH-7 の Superoxide dismutase (SOD)1 を増加させる. 第43回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.
- 26) 木田圭亮. 心不全の最新薬物療法アップデート ～Fantastic four 時代のこれから～. 第43回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.
- 27) 松本直樹. 私たちが備えるべきことは何か. 第43回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.
- 28) 木田圭亮. 心不全診療における適切な薬物療法～高カリウム血症管理も含めて～. 第43回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.
- 29) 松本直樹. 臨床薬理医の育て方. 第43回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.

- 30) ◎廣井朋子, 金子英恵, 大滝正訓, 那和雪乃, 坪野谷真朗, 松本直樹, 佐藤知雄, 松井宏晃. ヒト中枢型トリプトファン水酸化酵素 (TPH2) の exon3 には 7 5 塩基対の翻訳抑制配列が存在する. 日本薬学会 第 143 年会, 2023.
- 31) Okuno Taishi, Izumo Masaki, Shiokawa Noriko, Kuwata Shingo, Ishibashi Yuki, Sato Yukio, Koga Masashi, Okuyama Kazuaki, Suzuki Norio, Kida Keisuke, Tanabe Yasuhiro, Akashi J Yoshihiro. Newer vs. older generation of the MitraClip devices for functional mitral regurgitation in routine clinical practice: a Japanese single-centre experience. PCR Tokyo Valves 2023, 2023.
- 32) Sugimura Koichiro, Terui Yosuke, Toyoda Shigeru, Shimojima Masaya, Izumiya Yasuhiro, Kodama Yusuke, Kitai Takeshi, Iwabuchi Kaoru, Suzuki Shu, Kitano Daisuke, Kida Keisuke, Shibuya Kiyotaka, Oikawa Takuya, Tada Hiroshi, Ota Hideki, Nochioka Kotaro, Yasuda Satoshi. Evaluation of Risk Prediction Models to Identify Chemotherapeutics-related Cardiac Dysfunction in Breast Cancer Patients from Prospective Multicenter Registry in Japan. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 33) Kida Keisuke, Yokoyama Miho, KonoYuji, Kamiya Kentaro, Kishi Takuya, Node Koichi, Makita Shigeru, Kimura Yutaka, Ishihara Shunichi. Second Nationwide Survey of Japanese Cardiac Rehabilitation Training Facilities during the Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) Outbreak. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 34) Misumi Kayo, Matsue Yuya, Nogi Kazutaka, Kagiya Nobuyuki, Kasai Takatoshi, Kitai Takeshi, Ohishi Shogo, Akiyama Eiichi, Suzuki Satoshi, Yamamoto Masayoshi, Kida Keisuke, Okumura Takahiro, Nogi Maki, Ishihara Satomi, Ueda Tomoya, Kawakami Rika, Saito Yoshihiko, Minamino Tooru. Incorporating Hypochloremia Provides Additive Prognostic Information in Hospitalized Patients with Heart Failure. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 35) 堂垂大志, 前田大智, 末永祐哉, 砂山勉, 木田圭亮, 北井豪, 鍵山暢之, 山口徹雄, 奥村貴裕, 水野篤, 大石醒悟, 犬塚康孝, 秋山英一, 鈴木聡, 山本昌良, 南野徹. Early Drop in Systolic Blood Pressure is Associated with Poor Diuretic Response and Prognosis in Patients with Acute Heart Failure. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.

② 国際学会

- 1) Makita Noriko, Iiri Taroh. A rare endocrine disease highlights new era of GPCR regulation. SICEM meeting, 2022.
- 2) Kurashima Shinichi, Kitai Takeshi, Matsue Yuya, Nogi Kazutaka, Kagiya Nobuyuki, Oishi Shogo, Akiyama Eiichi, Suzuki Satoshi, Kida Keisuke, Yamamoto Masayoshi, Okumura Takahiro, Nogi Maki, Ueda Tomoya, Kawakami Rika, Furukawa Yutaka, Saito Yoshihiko, Izumi Chisato. TRAJECTORY OF SERUM CHLORIDE LEVELS DURING DECONGESTION THERAPY IN PATIENTS WITH ACUTE DECOMPENSATED HEART FAILURE. American College of Cardiology 2023, 2023.

③ その他

- 1) 木田圭亮. 心不全の新たな治療戦略. Cardiovascular Expert Meeting, 2022.
- 2) 木田圭亮. これからの心不全診療とチーム医療を考える～SGLT2 阻害薬と高カリウム血症治療薬への期待も含めて～. 20220425_Heart Failure Symposium, 2022.
- 3) 木田圭亮. 心不全の新たな治療戦略 2022. 心血管リモートカンファレンス, 2022.
- 4) 松本直樹. 試験審査委員会 (IRB) の役割と責務ー委員の視点からー. レギュラトリーサイエンス エキスパート研修会 総合コース 2022 年度 開発エキスパート研修講座, 2022.
- 5) 木田圭亮. 急性心不全に対する心臓リハビリテーション. 急性期リハビリテーションと栄養療法, 2022.
- 6) 木田圭亮. 経カテーテル僧帽弁治療 MitraClip™と治療後の心臓リハビリテーション. 第 28 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 スポンサーセミナー, 2022.
- 7) 木田圭亮. 心臓リハビリテーションで今知っておくべき漢方薬の新しい役割. 第 28 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 ランチョンセミナー, 2022.
- 8) 木田圭亮. 心不全の新たな治療戦略 2022. 第 32 回 Kanagawa DM Alliance, 2022.
- 9) 木田圭亮. 非循環器専門医が知っておくべき心不全外来診察～レベル6 ステージC 編～. 川崎心不全クエスト～レベル6 ステージC 編～, 2022.
- 10) 木田圭亮. ・健康ハートウィーク 2022 の取り組み
・東洋医学を取り入れた循環器診療の可能性. 健康ハートウィーク特別企画 循環器領域で東洋医学が貢献できること, 2022.
- 11) 木田圭亮. 心臓リハビリテーションで今知っておくべき漢方薬の新しい役割. 岐阜循環器 地域連携講演会, 2022.
- 12) 木田圭亮. 変わりゆく循環器疾患合併の糖尿病薬物治療. 経口 GLP-1Web 講演会, 2022.
- 13) 木田圭亮. 腫瘍循環器の 5 年間を振り返り、次の 5 年を考える. Onco-Cardiology Web Seminar, 2022.

- 14) 松本直樹. 飲んだ薬の運命 ～診療に役立つやさしい薬理学～. 青葉区医師会循環器研修会, 2022.
- 15) 木田圭亮. 心不全薬物治療 Up Date 2022. 令和4年度DI (Drug Information) 研修会, 2022.
- 16) 木田圭亮. 心不全新時代～今こそ知っておきたい HF pEF の診断と治療～. 心不全パンデミックを防ぐための治療戦略～ジヤディアンス錠 10mg 慢性心不全適応追加1周年講演会～, 2022.
- 17) 槇田紀子, 飯利太朗. 抗 GPCR 抗体病としてのまれな内分泌疾患の解析と展望. POTS 研究会 (第5回起立不耐症研究会), 2022.
- 18) 松本直樹. くすりと上手につきあう方法. 市民公開講座, 2022.
- 19) 木田圭亮. ここがポイント! 心不全の病態と治療. 第1回薬剤師のための循環器疾患ウェビナー, 2022.
- 20) 木田圭亮. 心不全患者さんのよりよい未来のために～MRA の適正使用を考える～. Joint Symposium, 2023.
- 21) 木田圭亮. 心不全栄養アップデート 2023. 第4回いなば心不全 Web カンファレンス, 2023.
- 22) 木田圭亮. 非循環器専門医が知っておくべき心不全外来診察～レベル7 ステージD編～. 川崎心不全クエスト, 2023.
- 23) 木田圭亮. これからの地域での心不全診療のあり方を考える～心リハと SGLT2 阻害薬の新たな役割～. CHF Forum, 2023.
- 24) 木田圭亮. 新時代の心不全ステージに対する治療戦略. 心腎 Expert meeting, 2023.
- 25) 木田圭亮. 次世代の心臓リハビリテーションを考える. 第6回栃木若手循環器勉強会, 2023.
- 26) 木田圭亮. 心臓リハビリテーションの新たな領域、腫瘍循環器リハビリテーションとは?. 加古川循環器リハビリテーション懇話会, 2023.
- 27) 松本直樹. 高齢者の心房細動抗凝固療法はいつまでどのように続けるのか?. 高齢者心房細動を考える会, 2023.
- 28) 木田圭亮. 知っておくべき慢性心不全の最新治療 2023. 神奈川県保険医協会 第611回月例研究会, 2023.
- 29) 木田圭亮. 心不全診療の新時代 ～心臓リハビリテーションと薬物療法について～. 第3回佐賀南部心不全連携セミナー, 2023.
- 30) 木田圭亮. 心不全診療におけるカリウム管理の重要性 ～治療目標達成に向けた多職種連携～. 心不全チーム医療を考える会, 2023.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著	3	18
	解説又は総説	9	2
	症例報告		
	その他	5	2
学会発表	国内学会	30	5
	国際学会		2
	その他	30	

免疫学・病害動物学

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 清水潤, 村山正承, 鈴木登. アレルゲン免疫療法の最新情報と将来展望. アレルギーの臨床, 2022;(7) : 84.
- 2) 清水潤, 村山正承, 鈴木登. 清水潤, 村山正承, 鈴木登. アレルギーの臨床, 2022;(11) : 82.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Miyabe C, Oda T, Miyata R, Miyabe Y, Ishiguro N.. Nephritis-associated plasmin receptor in the cutaneous vessels in IgA vasculitis. The Journal of Dermatology, 2022; : doi: 10.1111/1346-8138.16574..

② 総説又は症例解説

- 1) Shimizu J, Murayama MA, Miyabe Y, Suzuki N. Immunopathology of Behcet's Disease: An Overview of the Metagenomic Approaches. Rheumato, 2022;2(3) : 74-86.
- 2) Murayama M.A, Shimizu J, Miyabe C, Yudo K, Miyabe Y.. Chemokines and chemokine receptors as promising targets in rheumatoid arthritis. Front Immunol, 2023;14 : 1100869.

学会発表

① 国内学会

- 1) 宮部斉重. 関節でのⅢ型アレルギー反応機序における補体の新規機能の解析. 第58回日本補体学会学術集会, 2022.
- 2) 宮部斉重, 高野竜太郎, 黒田聖子, 岩井佳子. 免疫チェックポイント阻害剤抗PD-1抗体および抗PD-L1抗体投与後の生体内局在. 第95回日本生化学会大会, 2022.

② 国際学会

- 1) Shimizu J, Murayama M, Miyabe Y, Suzuki N. Gut microbe metabolite short-chain fatty acids may associate with development of respiratory involvement in patients with relapsing polychondritis. American College of Rheumatology annual meeting, 2022.

③ その他

- 1) 中田一有光 なぎさ. 生体イメージング技術を用いた中枢性神経疾患の病態解明. 聖マリアンナ医科大学・明治大学共同研究会, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		1
	解説又は総説	2	2
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	2	
	国際学会		1
	その他	1	

病理学（診断病理・分子病理）

著書

- 1) 大橋健一、小池淳樹、富田茂樹、原重雄. 非腫瘍性疾患病理アトラス 腎 2022;:1-436.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 西谷友里, 川口皓平, 工藤公介, 川口拓哉, 大林樹真, 田中邦英, 大山慧, 古田繁行, 関保二, 小池淳樹, Pringle KC, 北川博昭. 腎発生における HNF1 β の役割. 発達腎研究会誌, 2022;29(1):21-25.
- 2) 本吉愛, 小池淳樹, 津川浩一郎. BRCA1/2 病的バリエーション保有者の対側乳房リスク低減手術検体における病理評価法の検討. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2022;50(2):47-54.
- 3) 頌彦尚, 中江星子, 外崎麻里, 根本仁, 大池信之, 門松香一. 骨破壊を来した Superficial acral fibromyxoma の1例. 形成外科, 2022;65(7):869-874.

② 総説又は症例解説

- 1) 大池信之, 神谷健太郎, 野呂瀬朋子, 柳澤信之, 中矢大輝. 小池淳樹. 膵神経内分泌腫瘍の病理解析と機械学習. 肝胆膵, 2022;84(6):779-782.
- 2) 大池信之, 神谷健太郎, 野呂瀬朋子, 柳澤信之, 中矢大輝, 小池淳樹. 【膵神経内分泌腫瘍-新たなる胎動 2022-】病理診断 膵神経内分泌腫瘍の病理解析と機械学習. 肝胆膵, 2022;84(6):779-782.
- 3) 大池信之, 野呂瀬朋子, 柳澤信之, 杉野隆, 小池淳樹. 【膵・消化管腫瘍の病理と分子異常】膵に発生する機能性・遺伝性神経内分泌腫瘍の病理診断と分子異常. 病理と臨床, 2022;40(12):1224-1230.
- 4) 大池信之, 野呂瀬 朋子, 柳澤 信之, 杉野 隆, 小池 淳樹. 【神経内分泌腫瘍-さらなる病態の理解に向けて-】膵・消化管腫瘍の病理と分子異常 膵に発生する機能性・遺伝性神経内分泌腫瘍の病理診断と分子異常. 病理と臨床, 2022;40(12):1224-1230.
- 5) 戸高明子, 野呂瀬朋子, 大池信之. 【膵癌・胆道癌 2023(上)膵癌編-基礎・臨床の最新研究動向-】上皮性腫瘍 浸潤性膵管癌 特殊な組織型(臨床病理学的特徴) 退形成癌. 日本臨床, 2023;81:241-246.

③ 症例報告

- 1) 梅澤早織, 小林慎二郎, 中原一有, 路川陽介, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 佐藤純也, 小池淳樹, 大坪毅人. EUS-FNA で術前に確定診断できた TS1 の多形細胞型退形成癌の1例. 膵臓, 2022;37(2):104-111.
- 2) 坂本菜央, 本吉愛, 敦賀智子, 川本久紀, 津川浩一郎, 田島信哉, 小池淳樹. 心臓転移をきたした乳腺扁平上皮癌の1例. 乳癌の臨床, 2022;37(3):263-268.
- 3) 長坂智裕, 方波見卓行, 山本雄太郎, 松葉怜, 清水紗智, 矢吹由香里, 有泉泰, 長宗我部基弘, 吉田一彦, 長嶋洋治, 山崎有人, 笹野公伸, 曾根正勝. 乳癌、甲状腺乳頭癌を併発した副腎皮質癌の一例. ACTH RELATED PEPTIDES, 2022;33:19-21.
- 4) 臼井創大, 内藤正規, 天野優希, 勝又健太, 菊地悠輔, 根岸宏行, 大島隆一, 國場幸均, 有泉 泰, 長宗我部基弘, 古畑智久, 大坪毅人. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に合併した横行結腸癌の1例. 癌と化学療法, 2022;49(13):1823-1825.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Yano M, Nasu K, Yasuda M, Katoh T, Kagabu M, Kobara H, Matsuura M, Tokuyama O, Yamawaki T, Wakahashi S, Noguchi T, Mizuno K, Shitsukawa K, Onohara Y, Nakabori T, Miyasaka A, Nakao T, Matsunaga T, Kunimi Y, Sakurai M, Uchiyama A, Itoh R, Ohike N, Hirakawa T, Watanabe T, Nishino K, Motohashi T, Ito K. Clinicopathological features and programmed death-ligand 1 immunohistochemical expression in a multicenter cohort of uterine and ovarian melanomas: a retrospective study in Japan (KCOG-G1701s). Melanoma research, 2022;32(3):150-158.
- 2) Nishiya Yuri, Kawaguchi Kohei, Kudo Kosuke, Kawaguchi Takuya, Obayashi Juma, Tanaka Kunihide, Ohya Kei, Furuta Shigeyuki, Seki Yasuji, Koike Junki, Pringle KC, Kitagawa Hiroaki. Factors influencing the development of multicystic dysplastic kidney(MCDK) following urinary tract obstruction in the fetal lamb. Pediatric Surgery International, 2022;38(6):913-918.
- 3) Morikawa Kei, Kida Hiroataka, Handa Hiroshi, Inoue Takeo, Saji Hisashi, Koike Junki, Nakamura Seiji, Sato Yoshiharu, Ueda Yumi, Suzuki Fumihiko, Matoba Ryo, Mineshita Masamichi. A Prospective Validation Study of Lung Cancer Gene Panel Testing Using Cytological Specimens. Cancers, 2022;14(15):3783.

- 4) Motohiro Chosokabe, Yasushi Ariizumi, Junki Koike. Remote Rapid Intraoperative Diagnosis Support System Using the Remote Desktop. *Mathews Journal of Cancer Science*, 2022;7(3) : 1-6.
- 5) Kinoshita Kohei, Morikawa Kei, Tsuruoka Hajime, Chosokabe Motohiro, Kida Hirotaka, Handa Hiroshi, Inoue Takeo, Miyazawa Tomoyuki, Saji Hisashi, Mineshita Masamichi. Efficacy of combined transbronchial lung cryobiopsy and conventional forceps biopsy for lung malignancies: a prospective cohort study. *Scientific Reports*, 2023;13(1) : 1850. doi: 10.1038/s41598-023-29007-y.

② 症例報告

- 1) Nishi Yoshihiro, Handa Hiroshi, Tsuruoka Hajime, Inoue Takeo, Naruki, Saeko, Abe Tatsuyuki, Mineshita Masamichi. Successful Treatment with Radiation Therapy in an Older Patient with Endobronchial Schwannoma. *Case Reports in Oncology*, 2022;15(1) : 212.
- 2) Imai T, Shinohara K, Uchino K, Okuma H, Maki F, Hiruma K, Ariizumi Y, Yamano Y. Paraneoplastic cerebellar degeneration with anti-Yo antibodies and an associated submandibular gland tumor: a case report. *BMC Neurology*, 2022;22(1) : 165.
- 3) Ogawa Yukihiisa, Kubota Manabu, Takagi Masayuki, Hidefumi Mimura. A feasibility study of percutaneous transhepatic gallbladder filling (PTGBF) in a swine model. *Minimally Invasive Therapy & Allied Technologies*, 2022; : DOI-10.1080/13645706.2022.2080509.
- 4) Natsumi Furuya, Junichi Hasegawa, Chika Homma, Tai Kawahara, Yuriko Iwahata, Hideyuki Iwahata, Haruhiro Kondo, Masatomo Doi, Junki Koike, Nao Suzuki. Novel ultrasound assessment of placental pathological function using superb microvascular imaging. *The journal of maternal-fetal & neonatal medicine : the official journal of the European Association of Perinatal Medicine, the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies, the International Society of Perinatal Obstetricians*, 2022;35(16) : 3036-3039.
- 5) Segami Kohei, Kobayashi Shinjiro, Hiwatari Masaki, Ogura Yuta, Katayama Masafumi, Koizumi Satoshi, Chosokabe Motohiro, Koike Junki, Otsubo Takehito. Lymph node recurrence and re-excision after primary tumor resection of a histiocytic sarcoma of duodenal origin : a case report. *Surgical Case Report*, 2022;(8) : 189-194.
- 6) Kohatsu K, Suzuki T, Takimoto M, Matsui K, Hashiguchi A, Koike J, Shirai S. Granulomatous interstitial nephritis with CTLA-4 haploinsufficiency: a case report. *BMC Nephrology*, 2022;23(1) : 367.
- 7) Morikawa Kei, Handa Hiroshi, Ueno Junko, Tsuruoka Hajime, Inoue Takeo, Shimada Naoki, Koike Junki, Nakamura Seiji, Sato Yoshiharu, Mineshita Masamichi. RET fusion mutation detected by re-biopsy 7 years after initial cytotoxic chemotherapy: A case report. *Frontiers in Oncology*, 2022; : doi: 10.3389/fonc.2022.1019932..
- 8) Motohiro Chosokabe, Yasushi Ariizumi, Toshiya Kobayashi. A Case Report of an Extensively Ossified Left Atrial Myxoma. *Surgical Case Report*, 2022;5(3) : 1-4.

Nishiyama Kazuhiro, Morikawa Kei, Shinozaki Yusuke, Ueno Junko, Tanaka Satoshi, Tsuruoka Hajime, Azagami Shinya, Ishida Atsuko, Yanagisawa Nobuyuki, Akashi J. Yoshihiro, Mineshita Masamichi. Electrocardiographic changes in pembrolizumab-induced fatal myocarditis. *Frontiers in Immunology*, 2023;14 : doi:10.3389/fimmu.2023.1078838.

③ その他

- 1) Junichi Hasegawa, Natsumi Furuya, Masatomo Doi, Junki Koike, Chika Homma, Mayumi Nieda, Yoko Nishimura, Nao Suzuki. Histological Assessment of the Placenta Accreta Spectrum Diagnosed with a 33-MHz Linear Probe during Cesarean Section. *Ultrasound in medicine & biology*, 2022;48(6) : 1151-1156.

学会発表

① 国内学会

- 1) 工藤公介, 大山慧, 田中邦英, 川口皓平, 渡邊春花, 柳澤信之, 小池淳樹, 古田繁行, 北川博昭. 小児肝細胞癌における GPC3 発現の検討. 第 59 回日本小児外科学会学術集会, 2022.
- 2) 野呂瀬朋子, 大池信之, 刀稱亀代志, 大野幸代, 佐々木恵子, 杉野隆. 脾組織診断と細胞診断の collaboration 脾腫瘍における脾組織診と細胞診の位置づけ. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会, 2022.
- 3) 田島亮, 白井小百合, 野田竜之介, 井上友彦, 小池淳樹, 市川大介, 柴垣有吾. 当院における特発性膜性腎症の臨床経過とその特徴. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 4) 北野史也, 白井小百合, 高山卓, 野田竜之介, 井上友彦, 市川大介, 小池淳樹, 柴垣有吾. IgA 腎症保存的加療例の寛解, 腎予後および追加治療の有効性の検討. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.

- 5) 韓蔚, 白井小百合, 高山卓, 野田竜之介, 井上友彦, 市川大介, 小池淳樹, 柴垣有吾. 扁桃摘出術, ステロイドパルスを行った IgA 腎症患者における血尿, 蛋白尿の寛解因子の検討. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 6) 宮下紗季, 生澤竜, 島田直樹, 大川千絵, 小池淳樹, 伊藤薫, 鈴木直. 浸潤性小葉癌が卵巣に転移した 1 例. 第 63 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2022.
- 7) 郷田敦史, 生澤竜, 那須隆二, 石井輝子, 才荷翼, 林衛, 村田莉紗, 磯崎勝, 芹澤昭彦. 細胞診スライドセミナーシステムの構築～Post COVID-19 を見据えて～. 第 63 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2022.
- 8) 菊地栄次, 早川望, 生澤竜, 小池淳樹. 泌尿器科医からみた尿細胞診標本採取の現状と課題. 第 63 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2022.
- 9) 野呂瀬朋子, 大池信之, 刀稱亀代志, 大野幸代, 佐々木恵子, 杉野隆. 腓腫瘍における腓組織診と細胞診の位置づけ. 第 63 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2022.
- 10) 森川慶, 島田直樹, 大川千絵, 木田博隆, 井上健男, 小池淳樹, 峯下昌道. 細胞診パネル検査のため ROSE を再考し再興する. 第 63 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2022.
- 11) 早川 智絵, 稲山 久美子, 千川 晶弘, 井村 穰二, 荻野 正宗, 沖津 駿介, 宇杉 美由紀, 上野 隆彦, 相田 芳夫. 腓領域における良悪性の鑑別方法と診断上の落とし穴. 第 63 回日本臨床細胞学会総会, 2022.
- 12) 佐々木真実, 草苺宏有, 奥原柚美, 赤埴由紀子, 安田玲子, 長宗我部基弘, 有泉泰. 関節液からのアミロイド検索が診断の一助となった一例. 第 63 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2022.
- 13) 赤埴由紀子, 奥原柚美, 佐々木真実, 草苺宏有, 安田玲子, 長宗我部基弘, 有泉泰. 当院の EUS-FNA や EBUS-TBNA における ROSE の院内感染防止対策. 第 63 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2022.
- 14) 佐々木木友, 生澤竜, 島田直樹, 大川千絵, 小池淳樹. 乳癌術後 6 年に発生した粘液線維肉腫の 1 例. 第 63 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2022.
- 15) 佐々木 貴浩, 古畑智久, 野田顕義, 小野龍宣, 西村正成, 小泉宏隆, 大坪毅人. 胃癌リンパ節転移診断における OSNATM 法の検討. 第 47 回日本外科連合学会学術集会, 2022.
- 16) 野田顕義, 古畑智久, 西村正成, 小野龍宣, 佐々木貴浩, 小泉宏隆, 大坪毅人. 偶発的に発見された胃好酸球性肉芽腫症の 1 例. 第 47 回日本外科連合学会学術集会, 2022.
- 17) 久保こすみ, 鶴岡一, 森川慶, 半田寛, 遠藤陽, 峯下昌道. 気管支内視鏡所見にて治療効果判定のできた再発性多発軟骨炎 (RP; Relapsing polychondritis) の一例. 第 181 回 日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2022.
- 18) 西川徹, 佐々木美紀, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 金山益佳, 田雑瑞穂, 坂本菜央, 中野万理, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂新, 都築麻紀子, 本吉愛, 小島康幸, 川本久紀, 福田護, 津川浩一郎, 白英, 河原太, 小池淳樹. 10mm 以上の充実性腫瘤像を呈した DCIS 症例. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 19) 大井涼子, 長宗我部基弘, 黒田貴子, 永澤慧, 吉江玲子, 秋山恭子, 都築麻紀子, 志茂新, 本吉愛, 小島康幸, 津川浩一郎. 当院における乳腺扁平上皮癌の臨床病理学的特徴. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 20) 田雑瑞穂, 小池淳樹, 小島康幸, 中野万理, 坂本菜央, 金山益佳, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂彩華, 志茂新, 本吉愛, 都築麻紀子, 白英, 西川徹, 河原太, 川本久紀, 福田護, 津川浩一郎. 当院における浸潤性小葉癌の PD-L1 発現状況の検討. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 21) 佐々木美紀, 西川徹, 杉山瑠菜, 山田都, 伊藤一希, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 金山益佳, 坂本菜央, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂新, 都築麻紀子, 本吉愛, 小島康幸, 川本久紀, 津川浩一郎, 小池淳樹. 再発巣にて HER2 陽転化を生じた 6 例の検討. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 22) 臼井創大, 内藤正規, 天野優希, 勝又健太, 菊地悠輔, 根岸宏行, 大島隆一, 國場幸均, 有泉泰, 長宗我部基弘, 大坪毅人. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に合併した横行結腸癌の 1 例. 第 44 回日本癌局所療法研究会, 2022.
- 23) 天野優希, 内藤正規, 大島隆一, 根岸宏行, 菊地悠輔, 勝又健太, 臼井創大, 長宗我部基弘, 國場幸均, 大坪毅人. 壁外性発育を示した回盲部大腸癌の 1 例. 第 44 回日本癌局所療法研究会, 2022.
- 24) 劉璟壬, 伊藤薫, 大原樹, 河津理, 山本紗季, 飯田瀬里香, 今井悠, 金森怜, 遠藤拓, 竹内淳, 横道憲幸, 久慈志保, 近藤春裕, 長谷川潤一, 鈴木直, 柳澤信之, 小池淳樹, 戸澤晃子. 腹腔鏡手術で診断及び治療に至った大網妊娠の 1 例. 第 436 回神奈川産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 25) 姫井紅里, 高野祐一, 野田淳, 山脇將貴, 浅見哲史, 松原大, 吉田詠里加, 東畑美幸子, 鈴木伶佳, 遠藤利行, 高橋祐季, 松尾憲一, 田中邦哉, 大池信之, 野呂瀬朋子, 阿曾沼邦央, 五味邦代, 山本頼正, 長濱正亜. 診断に苦慮した腓神経内分岐腫瘍の一例. 日本消化器病学会関東支部第 370 回例会, 2022.
- 26) 木村祐之, 大坪莞爾, 酒井寛貴, 宮澤知之, 丸島秀樹, 小島宏司, 成木佐瑛子, 土居正知, 小池淳樹, 佐治久. 同時性三重多発肺癌の切除例. 第 193 回日本肺癌学会関東支部学術集会, 2022.

- 27) 勝又健太, 大島隆一, 天野優希, 臼井創大, 菊地悠輔, 根岸宏行, 内藤正規, 國場幸均, 長曾我部基弘, 大坪毅人. 胃原発胎児消化管類似癌の1例. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 28) 臼井創大, 大島隆一, 天野優希, 勝又健太, 根岸宏行, 内藤正規, 國場幸均, 長曾我部基弘, 有泉泰, 大坪毅人. 胆嚢出血を契機に発見された胆嚢癌の2例. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 29) 土橋篤仁, 小林慎二郎, 井田圭亮, 小泉哲, 大坪毅人, 土居正和, 大池信之, 小池淳樹. 当院で経験した退形成癌の7例. 第49回日本膵切研究会, 2022.
- 30) 小柳壮史, 方波見卓行, 清水紗智, 松葉怜, 山本雄太郎, 長坂智裕, 有泉泰, 長宗我部基弘, 木村伯子, 山崎有人, 鈴木貴, 藤田哲夫, 曾根正勝, 笹野公伸. 胃粘膜下腫瘍を併発し, Sunitinibによる腫瘍縮小効果を得たSDHA変異陽性パラングリオーマの一例. 第23回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 31) 五十嵐央祥, 荒木建一, 近江亮介, 松尾康正, 落合康利, 中嶋孝司, 小泉宏隆, 立石敬介. IgG4陽性大腸炎症性ポリープの1例. 日本消化器病学会関東支部第371回例会, 2022.
- 32) 杉山美沙紀, 高野祐一, 山脇將貴, 野田淳, 浅見哲史, 野呂瀬朋子, 大池信之, 長濱正亞. 乳癌胆管転移の一例. 日本消化器病学会関東支部第371回例会, 2022.
- 33) 佐々木千鶴子. ラット骨格筋の神経筋接合部と運動終板の電顕観察. 第34回 医学生物学電子顕微鏡技術研修会および総会, 2022.
- 34) 天野優希, 大島隆一, 根岸宏行, 勝又健太, 臼井創大, 内藤正規, 國場幸均, 長宗我部基弘, 有泉泰, 相田芳夫. 大腸原発のSpindle cell carcinomaによる腸重積の1例. 第77回日本大腸肛門病学会学術集会, 2022.
- 35) 北野史也, 市川大介, 吉田圭佑, 井上友彦, 鈴木智, 白井小百合, 小池淳樹, 柴垣有吾. 全身の広範囲な動脈に壊死性血管炎を発症したMPO-ANCA関連血管炎の1例. 第52回日本腎臓学会東部学術集会, 2022.
- 36) 山本雄太郎, 方波見卓行, 長坂智裕, 清水紗智, 小柳壮史, 矢吹由香里, 有泉泰, 長宗我部基弘, 吉田一彦, 長嶋洋治, 山崎有人, 曾根正勝, 笹野公伸. 副腎皮質癌、乳癌、甲状腺乳頭癌を併発した同時性重複癌の一例. 第26回日本臨床内分泌病理学会学術総会, 2022.
- 37) 松原圭輔, 早川望, 佐々木雅英, 塚田光, 山田龍治, 青木直人, 相田紘一郎, 中澤龍斗, 篠田和伸, 丸井祐二, 小池淳樹, 菊地栄次. 孤立性乳房転移を認めた腎盂癌の一例. 第74回西日本泌尿器科学会総会, 2022.
- 38) 戸澤晃子, 中村勝, 原勝洋, 永澤侑子, 久慈志保, 大原樹, 大熊克彰, 小泉宏隆, 小池淳樹, 木口一成, 鈴木直. 当院におけるASC-H症例の臨床病理学的検討. 第61回日本臨床細胞学会秋期大会, 2022.
- 39) 荻野正宗, 矢嶋祥英, 沖津駿介, 宇杉美由紀, 早川智絵, 大熊克彰, 相田芳夫. 卵管原発癌肉腫の一例. 第61回日本臨床細胞学会秋期大会, 2022.
- 40) 塚田光, 早川望, 松原圭輔, 佐々木雅英, 山田龍治, 青木直人, 相田紘一郎, 中澤龍斗, 篠田和伸, 丸井祐二, 小池淳樹, 菊地栄次. 膣、陰唇に続発性乳房外パジェット病を呈した膀胱上皮内癌の1例. 第74回西日本泌尿器科学会総会, 2022.
- 41) 清水紗智, 方波見卓行, 小柳壮史, 松葉怜, 山本雄太郎, 長坂智裕, 有泉泰, 長宗我部基弘, 木村伯子, 山崎優人, 鈴木貴, 藤田哲夫, 曾根正勝, 笹野公伸. SDHA遺伝子変異を認めた胃粘膜下腫瘍併発パラングリオーマ. 第32回臨床内分泌代謝Update, 2022.
- 42) 佐々木千鶴子, 夏木靖典, 四戸歩, 小池淳樹. 導電性コーティング剤BEL-1に導電染色法を使用したSEM観察. 医学生物学電子顕微鏡技術学会 第38回学術講演会, 2022.
- 43) 佐々木千鶴子, 夏木靖典, 四戸歩, 小池淳樹. BEL-1を使用した絶縁物のSEM観察. 医学生物学電子顕微鏡技術学会 第38回学術講演会, 2022.
- 44) 小林慎二郎, 梅澤早織, 大池信之, 中原一有, 増田哲之, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 路川陽介, 野呂瀬朋子, 大坪毅人. 膵腫瘍に対して過不足のない安全な膵切除を目指す取り組み. 第26回日本外科病理学会学術集会, 2022.
- 45) 梅澤早織, 小林慎二郎, 瀬上航平, 樋渡正樹, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 長宗我部基弘, 野呂瀬朋子, 大池信之, 小池淳樹, 大坪毅人. 術後リンパ節再発をきたした十二指腸原発組織球肉腫の1例. 第26回日本外科病理学会学術集会, 2022.
- 46) 増田哲之, 小林慎二郎, 野呂瀬朋子, 梅澤早織, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 大池信之, 大坪毅人. 化学療法が奏功しConversion surgery後も比較的長期生存している非乳頭十二指腸癌の1例. 第26回日本外科病理学会学術集会, 2022.
- 47) 菊地悠輔, 天野優希, 臼井創大, 勝又健太, 根岸宏行, 大島隆一, 内藤正規, 大坪毅人, 長宗我部基弘. 術前診断し得なかったDe Garengeot herniaに伴う盲腸穿孔の1例. 第84回日本臨床外科学会総会, 2022.
- 48) 工藤公介, 大山慧, 田中邦英, 川口皓平, 渡邊春花, 柳澤信之, 小池淳樹, 古田繁行, 北川博昭. 小児肝細胞性腫瘍と成人肝細胞癌における肝細胞特異タンパク、肝幹細胞マーカーおよび類洞内皮細胞タンパク発現. 第64回日本小児血液・がん学会学術集会, 2022.

- 49) 鈴木桜子, 内藤正規, 勝又健太, 天野優希, 臼井創大, 菊地悠輔, 根岸宏行, 大島隆一, 長宗我部基弘, 有泉泰, 小林慎二郎, 古畑智久, 國場幸均, 大坪毅人. 診断に難渋した胆嚢摘出術後と思われた患者の胆嚢腺腫及び胆嚢十二指腸瘻の1例. 第84回日本臨床外科学会総会, 2022.
- 50) 勝又健太, 内藤正規, 小林慎二郎, 天野優希, 臼井創大, 菊地悠輔, 根岸宏行, 大島隆一, 長宗我部基弘, 有泉泰, 古畑智久, 國場幸均, 大坪毅人. 腹腔動脈を圧排するように発育した後腹膜成熟嚢胞性奇形腫の1例. 第84回日本臨床外科学会総会, 2022.
- 51) 天野優希, 内藤正規, 大島隆一, 根岸宏行, 菊地悠輔, 勝又健太, 臼井創大, 長宗我部基弘, 古畑智久, 國場幸均, 大坪毅人. 腎細胞癌再発との鑑別が困難であった腸間膜デスモイド腫瘍の1例. 第84回日本臨床外科学会総会, 2022.
- 52) 吉田良仁, 黒木優一郎, 金澤 実, 見原雄貴, 得平卓也, 高橋秀明, 松本伸行, 長宗我部基弘, 有泉 泰, 立石敬介. H. pylori 除菌にてESD術中出血コントロール可能であった免疫性血小板減少性合併早期胃癌の一例. 第115回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 2022.
- 53) 畠山高亨, 木村祐之, 大坪莞爾, 酒井寛貴, 宮澤知行, 土居正知, 丸島秀樹, 小島宏司, 小池淳樹, 佐治久. 後縦隔Muller管嚢胞の1切除例. 第183回日本呼吸器内視鏡学会 関東支部会, 2022.
- 54) 成木佐瑛子, 遠藤陽, 小池淳樹, 中本悠輔, 前畑忠輝. 胃底腺型腺癌の1例. 第116回神奈川県病理医会例会 第45回総会, 2023.
- 55) 柴田真知, 内藤正規, 大島隆一, 根岸宏行, 菊地悠輔, 勝又健太, 天野優希, 臼井創大, 有泉泰, 長宗我部基弘, 國場幸均, 大坪毅人. 虫垂炎を契機に偶発的に発見された小腸異所性腺の1例. 第59回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 56) 伏屋愛加, 上村 悠, 神野正敏, 安井 寛, 中島香緒里, 鈴木 黎, 鈴木義則, 富田直人, 加藤雅之, 佐野文明, 小池淳樹, 新井文子. アザシチジン・ベネトクラクス療法が奏功した皮下腫瘍合併急性骨髄単球性白血病. 第18回日本血液学会関東甲信越地方会, 2023.

② 国際学会

- 1) Kato Sojiro, Kobayashi Shinjiro, Sawada Masahiro, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Otsubo Takehito, Naruki Saeko, Doi Masatomo, Koike Junki. A case of heterogeneous primary hepatocellular carcinoma and interhepatic cholangiocarcinoma with three overlapping tumors after surgery for pancreatic IPMN. The 34th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2022.
- 2) Tsuchihashi Atsuhito, Kobayashi Shinjiro, Ida Keisuke, Koizumi Satoshi, Otsubo Takehito, Naruki Saeko, Tajima Shinya, Doi Masatomo, Koike Junki. Three case of pancreatic cancer diagnosed by pancreatic juice and pancreatic ductal abrasion cytology and resected without malignancy in postoperative pathological results. The 34th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2022.
- 3) Kudo Kosuke, Ohya Kei, Tanaka Kunihide, Kawaguchi Kohei, Watanabe Haruka, Furuta Shigeyuki, Kitagawa Hiroaki, Yanagisawa Nobuyuki, Koike Junki. Comparative study of biological characteristics in adult hepatocellular carcinoma and pediatric hepatocellular tumors. (3mins). 35th International Symposium on Pediatric Surgical Research, 2022.

③ その他

- 1) 久慈志保, 野呂瀬朋子, 三上芳喜. 子宮体癌 MSI-high の3症例. 第4回聖マリアンナ医科大学婦人科病理症例カンファレンス, 2022.
- 2) 淵上淳也, 八木橋国博, 蛭間弘光, 大森淳二, 木村裕介, 熊野玲子, 岩武桜子, 長宗我部基弘. 副鼻腔炎手術を契機に診断されたNK/T細胞リンパ腫の1例. 神奈川県放射線医会総会・第62回例会, 2022.
- 3) 増田哲之, 小林慎二郎, 水上拓郎, 野呂瀬朋子, 梅澤早織, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 砂川優, 大池信之, 大坪毅人. 初診時切除不能と判断したがConversion surgery後も長期生存している非乳頭部十二指腸癌の1例. 第55回制癌剤適応研究会, 2023.
- 4) 池田七海, 山本雄太郎, 清水紗智, 長坂智裕, 竹本彩夏, 近藤恒徳, 増永敦子, 有泉泰, 山崎有人, 鈴木貴, 曾根正勝, 方波見卓行. 副腎癌との鑑別に難渋した片側副腎悪性リンパ腫の一例. 第34回間脳・下垂体・副腎系研究会, 2023.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著	3	5
	解説又は総説	5	
	症例報告	4	8
	その他		1
学会発表	国内学会	56	
	国際学会		3
	その他	4	

予防医学（環境保健）

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 山内博, 高田礼子, 吉田貴彦. ヒ素暴露による健康障害に関する最近の話題: ヒ素化学兵器と中国の慢性ヒ素中毒. Arsenic Letter, 2022;27:6-16.
- 2) 本橋隆子, 永田修, 伏見清秀, 高田礼子. 人工膝関節全置換術後の急性期リハビリテーション医療に対する診療報酬改定の影響評価. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2022;59(9):939-950.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Kimura M, Yamauchi J, Sato T, Yagishita N, Araya N, Aratani S, Tanabe K, Horibe E, Watanabe T, Coler-Reilly A, Nagasaka M, Akasu Y, Kaburagi K, Kikuchi T, Shibata S, Matsumoto H, Koseki A, Inoue S, Takata A, Yamano Y.. Health-related quality of life evaluation using the Short Form-36 in patients with human T-Lymphotropic leukemia virus type 1-associated myelopathy. Frontiers in Medicine, 2022;9:879379.
- 2) Oichi Y, Mineharu Y, Agawa Y, Morimoto T, Funaki T, Hitomi T, Kobayashi H, Todo K, Tani S, Imamura H, Yoshida K, Kataoka H, Koizumi A, Sakai N, Miyamoto S.. Characterization of Moyamoya and Middle Cerebral Artery Diseases by Carotid Canal Diameter and RNF213 p.R4810K Genotype. Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases, 2022;31(6):106481.
- 3) Lyu Z, Harada KH, Kim S, Fujitani T, Cao Y, Hitomi T, Fujii Y, Kho Y, Choie K.. Exposure to phthalate esters in Japanese females in Kyoto, Japan from 1993 to 2016: Temporal trends and associated health risks. Environment International, 2022;165:107288.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎山徳雅人, 萩原悠太, 長谷川大輔, 桑島規夫, 高田礼子, 山野嘉久. 脳神経内科における両立支援外来の重要性. 第63回日本神経学会学術大会, 2022.
- 2) ◎山内博, 高田礼子. ヒ素暴露と健康影響:現状と将来の問題. 日本学術会議・安全工学シンポジウム, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著	2	3
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	2	
	国際学会		
	その他		

予防医学（健康増進・疫学）

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 本橋隆子, 永田修, 伏見清秀, 高田礼子. 人工膝関節全置換術後の急性期リハビリテーション医療に対する診療報酬改定の影響評価. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2022;59(9) : 939-950.

② 総説又は症例解説

- 1) 木村美也子. コロナ禍における高齢者の生活. 木村美也子. 保健の科学, 2022;64(8) : 531-535.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Ide K, Jeong S, Tsuji T, Watanabe R, Miyaguni Y, Nakamura H, Kimura M, Kondo K. Suggesting Indicators of Age-Friendly City: Social Participation and Happiness, an Ecological Study from the JAGES. Int J Environ Res Public Health, 2022; : DOI-10.3390/ijerph19095096.
- 2) Takita M, Yoshida T, Tsuchida T, Nakagama Y, Kido Y, Suzuki S, Imamura M, Kawahata K, Shimizu G, Yoshida H, Morikawa D, Kawaguchi T, Fujii S, Tsukuda J, Motohashi T, Fujitani S. Low SARS-CoV-2 antibody titers may be associated with poor clinical outcomes for patients with severe COVID-19. Scientific Reports, 2022;12(1) : 9147.
- 3) Yoshida H, Motohashi T, Liesbet De Bus, Jan De Waele, Takaba A, Kuriyama A, Kobayashi A, Tanaka C, Hashi H, Hashimoto H, Nashiki H, Shibata M, Kanamoto M, Inoue M, Hashimoto S, Katayama S, Fujiwara S, Kameda S, Shindo S, Suzuki T, Komuro T, Kawagishi T, Kawano Y, Fujita Y, Kida Y, Hara Y, Fujitani S, DIANA Study Japanese group. Use of broad-spectrum antimicrobials for more than 72 h and the detection of multidrug-resistant bacteria in Japanese intensive care units: a multicenter retrospective cohort study. Antimicrobial Resistance & Infection Control, 2022;11(1) : 119.
- 4) Kimura M, Ide K, Sato K, Bang E, Ojima T, Kondo K. The relationships between social participation before the COVID-19 pandemic and preventive and health-promoting behaviors during the pandemic: the JAGES 2019-2020 longitudinal study. Kimura et al. Environmental Health and Preventive Medicine, 2022; : DOI-10.1265/ehpm.22-00154.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎木村美也子, 山崎喜比古. 未就学児をもつ母親のネガティブサポート体験と援助要請への抵抗感. 木村美也子, 山崎喜比古. 第48回日本保健医療社会学会大会, 2022.
- 2) ◎木村美也子. 血友病周辺女性にとっての保因者である可能性が妊娠・出産・子育て経験にもたらすこと—血友病患者出生後の妊娠・出産と次子の性別—. 木村美也子. 第48回日本保健医療社会学会大会, 2022.
- 3) ◎原田奈穂子, 香田将英, 木村美也子. 障がい児のいる家庭における避難行動と支援の実態調査. 原田奈穂子, 香田将英, 木村美也子. 第118回日本精神神経学会学術総会, 2022.
- 4) ◎香田将英, 原田奈穂子, 木村美也子. 障がい児の養育者における災害前後の経済状況と災害後の精神的苦痛の関連分析. 香田将英, 原田奈穂子, 木村美也子. 第118回日本精神神経学会学術総会, 2022.
- 5) ◎木村美也子. 新型コロナウイルス感染症流行下における感染予防/健康行動の変化: 幼い子を養育する母親を対象とした縦断調査による検証. 木村美也子. 第30回日本健康教育学会, 2022.
- 6) ◎木村美也子. 幼い子をもつ母親の受援力とかかりつけ医の存在. 木村美也子. 第63回日本社会医学会総会, 2022.
- 7) ◎白井千晶, 菅野摂子, 木村美也子. アジア9か国における出生前検査の国際比較調査 (3) 出生前検査への一般的な態度と障害観. 白井千晶, 菅野摂子, 木村美也子. 第63回日本母性衛生学会総会, 2022.
- 8) ◎菅野摂子, 木村美也子, 白井千晶. アジア9か国における出生前検査の国際比較調査 (1) 妊娠時に受けた検査の受検状況とその要因. 菅野摂子, 木村美也子, 白井千晶. 第63回日本母性衛生学会総会, 2022.
- 9) ◎木村美也子, 菅野摂子, 白井千晶. アジア9か国における出生前検査の国際比較調査 (2) 次回妊娠時のNIPT受検意向と障害観. 木村美也子, 菅野摂子, 白井千晶. 第63回日本母性衛生学会総会, 2022.
- 10) ◎木村美也子, 井手一茂, 方恩知, 尾島俊之, 近藤克則. 高齢者の新型コロナ流行前の社会参加と流行期の感染予防/健康行動: JAGES縦断研究. 木村美也子, 井手一茂, 方恩知, 尾島俊之, 近藤克則. 第81回日本公衆衛生学会学術総会, 2022.

- 11) ◎木村美也子. 子育て期の女性におけるパンデミック下の望ましい職場の対応とは？木村美也子. 第93回日本衛生学会学術総会, 2023.
- 12) ◎木村美也子. 他者からのことばに対するネガティブな受け止め方と受援力：未就学児の母親の全国調査. 木村美也子. 第93回日本衛生学会学術総会, 2023.
- 13) ◎木村美也子, 井手一茂, 尾島俊之, 近藤克則. 市町レベルの通いの場の新規参加率と脱落率：JAGES2016-2019 縦断研究. 木村美也子, 井手一茂, 尾島俊之, 近藤克則. 第93回日本衛生学会学術総会, 2023.

② 国際学会

- 1) ◎Kimura M. The relationships between negative social support and capacity to receive support. Kimura M. The International Conference on Communication in Healthcare (ICCH) 2022, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著	1	4
	解説又は総説	1	
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	13	
	国際学会		1
	その他		

法医学

著書

- 1) 呂彩子, 景山則正.. 病理からみた下肢深部静脈血栓症 血管超音波テキスト 第2版 2022;:266-267.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 千葉正悦, 呂彩子, 向井敏二, 林南帆, 福岡莉里花, 飯酒孟勇鉄堅, 磯部英二, 内ヶ崎西作, 奥田貴久. 口腔内液(唾液)中DNAに関する研究(第3報). DNA多型, 2022;30(1):74-80.
- 2) 村田久美, 呂彩子, 景山則正, 貝森峻, 水上創, 森晋二郎.. 医原性の化膿性脊椎炎の一部検例. 法医学の実際と研究, 2022;65:17-21.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Ayako Ro, Narimasa Kageyama, Toshiji Mukai.. Clinicopathological Characteristics of Cancer Associated Venous Thromboembolism (CAT-VTE) from a Medicolegal Autopsy. Annals of Vascular Diseases, 2022;15(2):101-106.
- 2) Hideto Suzuki, Ayako Ro, AyaTakada, Kazuyuki Saito, Kino Hayashi.. Autopsy findings of post-COVID-19 vaccination deaths in Tokyo Metropolis,. Legal Medicine, 2022;59:102134.
- 3) Masatoshi Ito, Natsuko Fujii, Saori Kohara, Shuho Hori, Masayuki Tanaka, Christopher Wittwer, Kenta Kikuchi, Takatoshi Iijima, Yu Kakimoto, Kenichi Hirabayashi, Daisuke Kurotaki, Henning J. Jessen, Adolfo Saiardi, Eiichiro Nagata. Inositol pyrophosphate profiling reveals regulatory roles of IP6K2-dependent enhanced IP7 metabolism in the enteric nervous system. JBC, 2023;:102928.
- 4) Marie Yoshikawa, Sho Torii, Kazuki Aihara, Masatoshi Ito, Norihito Nakamura, Satoshi Noda, Ayako Yoshikawa, Sayo Utsunomiya, Gaku Nakazawa Md, Yuji Ikari. Differences in Biologic Drug Effects and Distal Particulate Embolization in Three Paclitaxel-Coated Ballons for Femoropopliteal Lesions in a Rabbit Model. Sage Journal, 2023;:10.1177.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎呂彩子, 千葉正悦, 景山則正, 鷺盛久, 大出透乃, 井川亨, 一場一江, 向井敏二. 法医病理診断における唾液腺組織の有用性の検討(2)脂肪細胞の増加. 第106次日本法医学会学術全国集会, 2022.
- 2) ◎千葉正悦, 井川亨, 大出透乃, 一場一江, 鷺盛久, 呂彩子. カフェインとその代謝物のヒト有機アニオントランスポーター及びヒト有機カチオントランスポーターを介した体内動態について. 日本法中毒学会 第41年会, 2022.
- 3) ◎呂彩子, 景山則正, 千葉正悦, 鷺盛久, 井川亨, 大出透乃, 一場一江. 生死産の鑑別に苦慮した水中分娩児の1剖検例. 第91回日本産医学会関東地方集会, 2022.
- 4) ◎千葉正悦, 太田昂矢, 鉄堅, 磯部英二, 内ヶ崎西作, 奥田貴久, 飯酒孟勇, 小森賢一, 呂彩子.. 口腔内液(唾液)中DNAに関する研究(第4報). 日本DNA多型学会 第31回学術集会, 2022.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著	2	4
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	4	
	国際学会		
	その他		

スポーツ医学

著書

- 1) 藤谷博人. 頸椎捻挫 講座スポーツ整形外科学 2022;:2-7.
- 2) 藤谷博人. アメリカンフットボール ドクター編 ナショナルチームドクター・トレーナーが書いた種目別スポーツ障害の評価とリハビリテーション 2022;:190-197.
- 3) Kanaka Yatabe, Kohei Ashikaga, Ryota Muroi, Naoko Yui, Satomi Kasuya, Rumiko Inoue, Shu Somemura, Fumiko Terawaki, Hisao Miyano, Hiroto Fujiya.. Chapter 16. Effects of a Medical Approach Involving Periodic Intervention: An Approach towards Anxiety and Mood among Ballet Dancers. Emerging Trends in Disease and Health Research 2022;7:165-174.
- 4) Kanaka Yatabe, Kohei Ashikaga, Ryota Muroi, Naoko Yui, Satomi Kasuya, Shu Somemura, Fumiko Terawaki, Ko Sato, Kazuo Yudoh, Hisao Miyano, Hiroto Fujiya.. Chapter 8. Determining the Effects of Serotonin Transporter Gene Polymorphism on Mood during the Period before the Competition in Japanese Ballet Dancers. New Horizons in Medicine and Medical Research 2022;6:54-68.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 小林侑里, 根本慎司, 笠原西介, 渡辺敏, 武市尚也, 吉沢和也, 渡邊紗都, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 藤村健, 鈴木規雄, 長田尚彦, 足利光平, 木田圭亮, 明石嘉浩. 退院時に身体的フレイルまたはプレフレイルを呈する高齢心不全患者の臨床的特徴. 心臓リハビリテーション, 2022;28(2) : 197-203.
- 2) 藤村健, 武市尚也, 笠原西介, 吉沢和也, 根本慎司, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 渡辺敏, 足利光平, 出雲昌樹, 木田圭亮, 明石嘉浩. 経カテーテルの大動脈弁置換術後の日常生活動作能力維持に関連する因子の検討. 心臓リハビリテーション, 2022;28(3・4) : 269-274.
- 3) 藤村健, 武市尚也, 笠原西介, 吉沢和也, 根本慎司, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 渡辺敏, 足利光平, 出雲昌樹, 木田圭亮, 明石嘉浩. 経カテーテル的大動脈弁置換術後の日常生活動作能力維持に関連する因子の検討. 心臓リハビリテーション, 2022;28(3・4) : 269-274.
- 4) 藤谷博人, 川原貴, 月村泰規, 立石智彦, 反町武史, 中山晴雄, 植原健二, 齋藤良彦, 小松太一, 山田慎, 福田崇, 麻生敬, 青柳康史. COVID-19 による長期活動休止がその試合時の外傷に与える影響—関東大学アメリカンフットボールにおける検討—. 日本臨床スポーツ医学会誌, 2023;31(1) : 24-29.

② 総説又は症例解説

- 1) 室井良太. 自宅でできるリハビリテーション(第11回) 高齢者のためのストレッチング指導. LOCO CURE, 2022;8(3) : 75-80.
- 2) 藤谷博人. 感染対策 アメリカンフットボール. フットボールの科学, 2023;18(1) : 266-269.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Ashikaga Kohei, Yoneyama Kihei, Musha Haruki, Akashi J Yoshihiro, Kawahara Takashi. Association of electrographic left ventricular hypertrophy with incident hypertension among the Tokyo 1964 Olympic athletes: a 50-year follow-up study. Sports Sciences for Health, 2022;18(2) : 517-523.
- 2) Ashikaga Kohei, Yoneyama Kihei, Hirayama Kuniaki, Suzuki Tatsuhiko, Muroi Ryota, Inoue Rumiko, Ishibashi Yuki, Nakase Junsuke, Takeda Hideaki, Fujiya Hiroto. Medical care provision at the venue of the weightlifting event of the Tokyo 2020 Olympic Games. Sport Sciences for Health, 2022;18(3) : 847-852.
- 3) Nemoto Shinji, Kasahara Yusuke, Izawa Kazuhiro P, Watanabe Satoshi, Yoshizawa Kazuya, Takeichi Naoya, Akao Keigo, Watanabe Sato, Mizukoshi Kei, Suzuki Norio, Ashikaga Kohei, Kida Keisuke, Osada Naohiko, Akashi Yoshihiro J. Relevant factors of leg strength at hospital discharge in patients hospitalized due to acute decompensated heart failure: multi-institutional prospective observational study. European Journal of Cardiovascular Nursing, 2022;21(7) : 741-749.
- 4) Kanaka Yatabe, Naoko Yui, Satomi Kasuya, Ryota Muroi, Rumiko Inoue, Shu Somemura, Kohei Ashikaga, Fumiko Terawaki, Hisao Miyano, Ko Sato, Kazuo Yudoh, Hiroto Fujiya.. Professional Ballet Dancers' Balance Ability and Psychological Traits and States: A Longitudinal Pilot Study. The Open Sports Sciences Journal, 2022;15(e1875399X2207200) : 1-12.

- 5) Ashikaga Kohei, Itoh Haruki, Maeda Tomoko, Itoh Hidetaka, Tanaka Shiori, Ichikawa Yuri, Nagayama Masatoshi, Akashi Yoshihiro, Isobe Mitsuaki. Usefulness of the predicted percentage ventilatory efficiency for carbon dioxide output during exercise in patients with chronic heart failure. Heart and Vessels, 2023;38(1) : 56-65.
- 6) Ashikaga Kohei, Itoh Haruki, Maeda Tomoko, Ichikawa Yuri, Tanaka Shiori, Koike Akira, Makita Shigeru, Omiya Kazuto, Kato Yuko, Adachi Hitoshi, Nagayama Masatoshi, Akashi Yoshihiro J. Age- and sex-stratified normal values for circulatory and ventilatory power during ramp exercise derived from a healthy Japanese population. Heart and Vessels, 2023; : DOI=https://doi.org/10.1007/s00380-023-02258-5.

② 症例報告

- 1) Iizuka Y, Tsuchida T, Ashikaga K, Ie K, Matsuda T, Ishizuka K, Okuse C, Matsuda T, Ohira Y. Patent Foramen Ovale Complicated With Renal Infarction and Pulmonary Embolism: A Case Report With Literature Review. Cureus, 2023;15(2) : e35433.

学会発表

① 国内学会

- 1) 足利光平, 土井駿一, 鈴木規雄, 木田圭亮, 武市尚也, 渡辺敏, 明石嘉浩. 経皮的動脈弁術後の患者に対する遠隔心臓リハビリテーションの安全性・有効性. 第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2022.
- 2) 足利光平. 教育デモンストレーション1「心肺運動負荷試験編」. 第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2022.
- 3) 藤谷博人. スポーツ現場のトピックス -脳振盪-. 日本病院薬剤師会関東ブロック第52回学術大会, 2022.
- 4) 寺脇史子, 室井良太, 谷田部かなか, 井上留美子, 足利光平, 藤谷博人. マリアンナ筋力アップ教室におけるサルコペニアへの対応の試み (第5報) -3か月間のトレーニングによる筋量変化の実態-. 第77回日本体力医学会大会, 2022.
- 5) 小野寺英孝, 中村歩希, 中山博文, 藤谷博人, 村田英俊. スポーツ関連脳震盪患者の追従性眼球運動の改善をSCAT5の変遷絡み分析. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第81回学術総会, 2022.
- 6) 山崎太輝, 根本慎司, 笠原西介, 渡辺敏, 武市尚也, 吉沢和也, 渡邊紗都, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 鈴木規雄, 水越慶, 長田尚彦, 足利光平, 木田圭亮, 明石嘉浩. 高齢心不全患者の下肢筋力が日常生活活動の困難感に与える影響 -PMADL-8を用いた検討-. 日本心臓リハビリテーション学会第7回関東甲信越地方会, 2022.
- 7) 谷田部かなか, 足利光平, 室井良太, 内田将司, 日高岳, 橋本和明, 染村嵩, 井上留美子, 寺脇史子, 小野寺英孝, 藤谷博人. アンケートを利用した小児における脳振盪に関する調査について. 第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2022.
- 8) 室井良太, 寺脇史子, 井上留美子, 谷田部かなか, 足利光平, 藤谷博人. 野球とアメリカンフットボールにおける投球動作の比較. 第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2022.
- 9) 藤谷博人, 室井良太, 寺脇史子, 谷田部かなか, 井上留美子, 足利光平. COVID-19用消毒液によるアメリカンフットボールのボール及びグローブ表面の微細構造変化. 第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2022.
- 10) 上田佳穂, 宇野津伶奈, 谷田部かなか, 足利光平, 室井良太, 寺脇史子, 藤谷博人. マスクの着用が運動時の心理に及ぼす影響. 聖マリアンナ医科大学医学会第83回学術集会, 2023.
- 11) 谷田部かなか, 小野寺英孝, 足利光平, 室井良太, 内田将司, 日高岳, 橋本知明, 染村嵩, 井上留美子, 寺脇史子, 藤谷博人. 小児における脳振盪および脳振盪様症状に関するアンケート調査. 聖マリアンナ医科大学医学会第83回学術集会, 2023.

② その他

- 1) 藤谷博人. KCFAにおける過去30年における重症頭頸部外傷事故. 2022年度関東学生アメリカンフットボール連盟安全対策セミナー, 2022.
- 2) 藤谷博人. 我が国のアメリカンフットボールにおける外傷および重大事故の実態. 2022年度公認日本アメリカンフットボール協会指導員講習会(東京会場), 2023.
- 3) 藤谷博人. COVID-19による長期活動休止がその後の試合時の外傷に与える影響-2020関東学生リーグ戦における検証-. 第25回日本アメリカンフットボール医科学研究会, 2023.
- 4) 藤谷博人. 頭頸部の外傷とその予防. 2022年度関東学生アメリカンフットボール連盟医務担当者講習会, 2023.
- 5) 藤谷博人. スポーツにおける脳振盪 -最近の話題. 市民公開講座健康スポーツ医学講座(川崎市医師会), 2023.

		和 文	英 文
著 書		2	2
論 文	原著	4	6
	解説又は総説	2	
	症例報告		1
	その他		
学会発表	国内学会	11	
	国際学会		
	その他	5	

臨床検査医学

著書

- 1) 五十嵐岳、後藤和人. 検査の Tips ! 第 61 回 前回のデータはどんな患者さんだったの？ ～続・RPC でトレーニング！～ 2022;1(24):90-91.
- 2) 五十嵐岳、後藤和人. 検査の Tips ! 第 62 回 その検体の保存方法は室温保存？冷凍保存？ 2022;3(24):510-511.
- 3) 五十嵐岳、後藤和人. 検査の Tips ! 第 63 回 PT 正常 APTT 延長(全編) 何を確認, 検査したらいいの？ 2022;4(24):652-653.
- 4) 五十嵐岳、後藤和人. 検査の Tips ! 第 64 回 PT 正常 APTT 延長(後編) どう解釈する？ 2022;6(24):1036-1037.
- 5) 五十嵐岳、後藤和人. 検査の Tips ! 第 65 回 遺伝外来は、何をしらべてから依頼したらいいの？ 2022;7(24):1190-1191.
- 6) 五十嵐岳、後藤和人. 検査の Tips ! 第 66 回 がん遺伝子パネル検査～実施するのに必要な検体はどう取り扱うの？～ 2022;9(24):1568-1569.
- 7) 五十嵐岳、後藤和人. 検査の Tips ! 第 67 回 腎機能が正常なのに、なぜ Cr が高い！？ 2022;10(24):1720-1721.
- 8) 右田王介. 医学画報
早期発見こそ長生きの鍵 メディカルワードで知る
体のメンテナンス法 2022;②(別冊付録):42-44.
- 9) 五十嵐岳、後藤和人. 検査の Tips ! 第 68 回 検診の肝機能異常の注意すべきポイントは？ 2022;12(24):2115-2119.
- 10) 久道三佳子、柴垣有吾. 領域別臨床検査データの診かた
電解質異常 月刊 臨牀と研究 別冊 2023;2(100):63-68.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 本吉愛, 久我亜沙美, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 右田王介, 津川浩一郎. 包括的がんゲノムプロファイリング検査で抽出される二次的所見に関する実態調査. 遺伝性腫瘍, 2022;22(2):36-40.

② 総説又は症例解説

- 1) 伊野美幸, 望月篤, 信岡祐彦, 黄世捷, 東郷建, 松本伸行. 【精神科医療における女性医師の役割と期待】医学部教育の視点から 現行の医学部教育および大学の女性医師支援について. 精神科治療学, 2022;37(5):525-531.
- 2) 久道三佳子, 柴垣有吾. 【症例に学ぶ臨床検査データの診かた】領域別臨床検査データの診かた 電解質異常. 臨牀と研究, 2023;100(2):201-206.

学術論文[英文]

① 症例報告

- 1) Kyoko Oshina, Yoshimasa Kamei, Asuka Hori, Fuyuki Hasegawa, Kosuke Taniguchi, Ohsuke Migita, Atsuo Itakura, Kenichiro Hata. A novel FLNA variant in a fetus with skeletal dysplasia. 日本人類遺伝学会, 2022;:1-3.

② その他

- 1) Hidetaka Uryu, Ohsuke Migita, Minami Ozawa, Chikako Kamiyo, Saki Aoto, Kohji Okamura, Fuyuki Hasegawa, Torayuki Okuyama, Motomichi Kosuga. Automated urinary sediment detection for Fabry disease using deep-learning algorithms. ELSEVIER, 2022;33(100921):1-7.

学会発表

① 国内学会

- 1) 青木恵美子, 三輪敬蔵, 望月篤, 東郷建, 黄世捷, 佐野政子, 星野紀子, 松田隆秀, 信岡祐彦, 伊野美幸. 医科大学で SDGs に取り組む意義と課題. 第 54 回日本医学教育学会大会, 2022.
- 2) 長田尚彦, 井上智友記, 松本裕子, 信岡祐彦. “いびき”の間診から睡眠時無呼吸症候群は推定できるのか. 第 59 回日本臨床生理学会総会, 2022.
- 3) 井上智友記, 長田尚彦, 信岡祐彦, 松本裕子. 重度閉塞性睡眠時無呼吸症候群 (OSA) の血圧変動について. 第 59 回日本臨床生理学会総会, 2022.
- 4) 土田幸子, 井上智友記, 五十嵐岳, 信岡祐彦. 深部静脈血栓症予防のための下肢圧迫法の効果 ―超音波 Doppler 法を用いた血流速度変化による検討―. 第 69 回日本臨床検査医学会学術集会, 2022.

- 5) 鈴木黎，佐野文明，齊木祐輔，上村悠，大島久美，細貝茜，大橋彩香，辻村浩司，小島尚美，清水則夫，今留謙一，新井文子. Alemtuzumab を用いた HLA 半合致造血幹細胞移植が奏効した成人発症慢性活動性 EB ウイルス病. 第 45 回日本造血・免疫細胞療法学会，2023.

		和 文	英 文
著 書		10	
論 文	原著	1	
	解説又は総説	2	
	症例報告		1
	その他		1
学会発表	国内学会	5	
	国際学会		
	その他		

内科学（総合診療内科）

著書

- 1) 土田知也. FILE11 前皮神経絞扼症候群（ACNES） 消化器疾患のゲシュタルト 2022; (1):100-105.
- 2) 奥瀬千晃. FILE01 肝障害（健診で指摘された時どう対応したらよいか） 消化器疾患のゲシュタルト 2022; (1):162-171.
- 3) 家研也. FILE01 慢性下痢症 消化管 消化器疾患を疑われる全身疾患、漿膜疾患を含む 2022;:2-9.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 大槻拓矢, 家研也, 廣瀬雅宣, 本橋伊織, 土田知也, 相原茉莉, 楠瀬澤, 八木橋国博, 奥瀬千晃, 松田隆秀, 大平善之. 気腫性変化を基礎に有する肺炎患者の予後予測～A-DROP と Goddard 分類を組み合わせた A G - D R O P による評価法～. 日本病院総合診療医学会雑誌, 2022;18(5):332-339.
- 2) 加藤優一, 山下裕顕, 山田祐揮, 廣瀬雅宣, 酒井翼, 本橋伊織, 石田潤, 松永光太郎, 家研也, 松田隆秀, 大平善之, 奥瀬千晃. 梅の種子による食餌性十二指腸閉塞の1例. 日本病院総合診療医学会雑誌, 2022;18(6):445-447.

② 総説又は症例解説

- 1) 松田隆秀. 漢方医学 卒前教育確立への願い. 日本漢方医学教育振興財団活動業績集, 2022;:28-31.
- 2) 石塚晃介. 【めまい診療根拠をもって対応できる! ”何となく”を解消! 救急でよく出合う疾患の診断ポイントと原因を意識した処置、フォロー・再発予防】持続性知覚性姿勢誘発めまい(PPPD) (解説). レジデントノート, 2022;24(7):1169-1174.
- 3) 家研也. 12. フォーカス不明の発熱: 不明熱診療における身体診察の勘所. Hospitalist, 2022;1:179-184.
- 4) 大平善之. AI と総合診療医の共存. Precision Medicine, 2022;5(11):998-1001.
- 5) 大槻拓矢, 家研也. 【” じゃないほう” の消化器症状】肺炎. 臨床雑誌 内科, 2023;131(1):38-41.
- 6) 土田知也. 腹痛で受診した患者の・・・? 前皮神経絞扼症候群. 臨床雑誌 内科, 2023;131(1):72-75.
- 7) 石塚晃介. 慢性疾患診療のお悩みポイントまとめました 高血圧からヘルスマネジメントまで 心房細動で DOAC は使ったほうがいいですか? DOAC の注意点はありますか?. medicina, 2023;60(2):326-330.
- 8) 片山皓太. 慢性疾患診療のお悩みポイントまとめました 高血圧からヘルスマネジメントまで Ca 拮抗薬をよく使うのですが、注意することはありますか?. medicina, 2023;60(2):254-256.
- 9) 宮沢玲, 奥瀬千晃, 中山みどり, 小磯有美枝, 中村裕子, 桑折正美, 相澤亮, 長島梧郎. コロナ禍における医師事務作業補助者の介入効果の検討. 全国自治体病院協議会雑誌, 2023;2023(62(3)):41-45.

③ その他

- 1) 栗原むつか, 石塚晃介, 野田和敬, 上原孝紀, 生坂政臣. 第 266 回: 手のふやけを主訴に受診した 47 歳女性. キーフレーズで読み解く外来診断学, 2022;(5112):1-2.
- 2) 田原淳輔, 石塚晃介, 大平善之. 国際医療福祉大学成田病院症例カンファレンス 70 歳代女性の後頭部痛, 発熱+炎症反応高値で疑うべきは?. カンファで学ぶ臨床推論, 2022;:1.
- 3) 山本大基, 柳田育孝, 石塚晃介, 上原孝紀, 生坂政臣. 第 270 回: 発作的な脱力感を主訴に受診した 53 歳男性. キーフレーズで読み解く外来診断学, 2022;(5121):1-2.
- 4) 石塚晃介, 大平善之. 聖マリアンナ医科大学病院・国際医療福祉大学成田病院合同カンファレンス 労作で改善する呼吸苦と胸部圧迫感って?. カンファで学ぶ臨床推論, 2022;:1.
- 5) 片山皓太. 病院総合医チーム Presents 実践! 使える論文 My Top 5-病棟あるある編-. 日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア, 2022;7(4):63-65.
- 6) 石塚晃介, 大平善之. 聖マリアンナ医科大学病院・国際医療福祉大学成田病院合同カンファレンス 若年女性の皮下出血, MCV 高値で聞くべきは?. カンファで学ぶ臨床推論, 2022;:1.
- 7) 小島愉生利, 石塚晃介, 横川大樹, 上原孝紀, 生坂政臣. 第 278 回: 亜急性に増悪する全身性リンパ節腫大, 全身性浮腫を主訴に受診した 53 歳男性. キーフレーズで読み解く外来診断学, 2022;(5138):1-2.
- 8) 石塚晃介, 大平善之. 聖マリアンナ医科大学病院・国際医療福祉大学成田病院合同カンファレンス 温熱刺激で生じる全身痛と膨疹といえばこれ!. カンファで学ぶ臨床推論, 2022;:1.
- 9) 石塚晃介. 医療面接での病歴聴取のスキルを高める. 集中連載◎「Diagnostic Excellence」を追求しよう, 2022;:1.
- 10) 石塚晃介. 聖マリアンナ医科大学病院・国際医療福祉大学成田病院合同カンファレンス 40 歳代女性の腕の動かしにくさ、鑑別の進め方. カンファで学ぶ臨床推論, 2023;:1.
- 11) 田村弘樹, 石塚晃介, 野田和敬, 上原孝紀, 生坂政臣. 第 288 回: 発熱, 全身倦怠感を主訴に受診した 46 歳女性. キーフレーズで読み解く外来診断学, 2023;(5160):1-2.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Yokokawa D, Shikino K, Kishi Y, Ban T, Miyahara S, Ohira Y, Yanagita Y, Yamauchi Y, Hayashi Y, Ishizuka K, Hirose Y, Tsukamoto T, Noda K, Uehara T, Ikusaka M. Does scoring patient complexity using COMPRI predict the length of hospital stay? A multicentre case-control study in Japan. *BMJ Open*, 2022;12(4) : e051891.
- 2) Maeda H, Saito N, Igarashi A, Ishida M, Suami K, Yagiuchi A, Kimura Y, Komino M, Arai H, Morikawa T, Motohashi I, Miyazawa R, Moriyama T, Kamura H, Terada M, Kuwamitsu O, Hayakawa T, Sando E, Ohara Y, Teshigahara O, Suzuki M, Morimoto K. Effectiveness of mRNA COVID-19 vaccines against symptomatic SARS-CoV-2 infections during the Delta variant epidemic in Japan: Vaccine Effectiveness Real-time Surveillance for SARS-CoV-2 (VERSUS). *Clinical Infectious Diseases*, 2022;75(11) : 1971-1979.
- 3) Tsuchida T, Onishi H, Ono Y, Machino A, Inoue F, Kamegai M. Factors associated with preferred place of death among older adults: a qualitative interview study in Tama City, Tokyo, Japan. *BMJ Open*, 2022;12(5) : e059421.
- 4) Yokokawa D, Noda K, Yanagita Y, Uehara T, Ohira Y, Shikino K, Tsukamoto T, Ikusaka M. Validating the representation of distance between infarct diseases using Word2Vec word embedding. *BMC Medical Informatics and Decision Making*, 2022;22(1) : 322.
- 5) Uchida S, Shikino K, Ishizuka K, Yamauchi Y, Yanagita Y, Yokokawa D, Tsukamoto T, Noda K, Uehara T, Ikusaka M. The flipped classroom is effective for medical students to improve deep tendon reflex examination skills: A mixed-method study. *PLoS One*, 2022;17(6) : e0270136.
- 6) Takita M, Yoshida T, Tsuchida T, Nakagawa Y, Kido Y, Suzuki S, Imamura M, Kawahata K, Shimizu G, Yoshida H, Morikawa D, Kawaguchi T, Fujii S, Tsukuda J, Motohashi T, Fujitani S. Low SARS-CoV-2 antibody titers may be associated with poor clinical outcomes for patients with severe COVID-19. *Scientific Reports*, 2022;12(1) : 9147.
- 7) Shigefuku Ryuta, Takahashi Hideaki, Watanabe Tsunamasa, Hattori Nobuhiro, Ikeda Hiroki, Matsunaga Kotaro, Ehira Takuya, Suzuki Tatsuya, Matsumoto Nobuyuki, Okuse Chiaki, Iwasa Motoh, Nakagawa Hayato, Itoh Fumio, Suzuki Michihiro. Effects of endoscopic injection sclerotherapy for esophagogastric varices on portal hemodynamics and liver function. *BMC gastroenterology*, 2022;22(1) : 350.
- 8) Tsuchida T, Hirose M, Inoue Y, Kunishima H, Otsubo T, Matsuda T. Relationship between changes in symptoms and antibody titers after a single vaccination in patients with Long COVID. *Journal of Medical Virology*, 2022;94(7) : 3416-3420.
- 9) Namkoong H, Eda Hiro R, Takano T, Nishihara H, Shirai Y, Sonehara K, Tanaka H, Azekawa S, Mikami Y, Lee H, Hasegawa T, Okudela K, Okuzaki D, Motooka D, Kanai M, Naito T, Yamamoto K, Wang QS, Saiki R, Ishihara R, Matsubara Y, Hamamoto J, Hayashi H, Yoshimura Y, Tachikawa N, Yanagita E, Hyugaji T, Shimizu E, ..., Tsuchida T, Fujitani S, Takita M, Morikawa D, Yoshida T, Izumo T, Inomata M, ..., Komase Y, Hida N, Tsuburai T, Oyama B, ..., Shimada H, Endo M, Ohira Y, Watanabe M, ..., Fukunaga K, Okada Y. DOCK2 is involved in the host genetics and biology of severe COVID-19. DOCK2 is involved in the host genetics and biology of severe COVID-19. *Nature*, 2022;609(7928) : 754-760.
- 10) Katayama K, Kurita N, Takada T, Miyashita J, Azuma T, Fukuhara S, Takeshima T. Door-to-oral time and in-hospital outcomes in older adults with aspiration pneumonia undergoing dysphagia rehabilitation. *Clin Nutr.*, 2022;41(10) : 2219-2225.
- 11) Wang QS, Eda Hiro R, Namkoong H, Hasegawa T, Shirai Y, Sonehara K, Tanaka H, Lee H, Saiki R, Hyugaji T, Shimizu E, Katayama K, Kanai M, Naito T, Sasa N, Yamamoto K, Kato Y, Morita T, Takahashi K, Harada N, Naito T, Hiki M, Matsushita Y, Takagi H, Ichikawa M, Nakamura A, Harada S, Sandhu Y, Kabata H, Masaki K, ..., Tsuchida T, Fujitani S, Takita M, Morikawa D, Yoshida T, Izumo T, ..., Komase Y, Hida N, Tsuburai T, Oyama B, Takada M, Kanda H, Kitagawa Y, Fukuta T, ..., Endo M, Ohira Y, Watanabe M, Inoue S, ..., Okada Y. The whole blood transcriptional regulation landscape in 465 COVID-19 infected samples from Japan COVID-19 Task Force Miyake T, Yoshida S, Ogura S, Abe S. The whole blood transcriptional regulation landscape in 465 COVID-19 infected samples from Japan COVID-19 Task Force. *Nature Communications*, 2022;13(1) : 4830.
- 12) Takeshima M, Aoki Y, Ie K, Katsumoto E, Tsuru E, Tsuboi T, Inada K, Kise M, Watanabe K, Mishima K, Takaesu Y. Attitudes and Difficulties Associated with Benzodiazepine Discontinuation. *International journal of environmental research and public health*, 2022;19(23) : 15990.

- 13) Tamura H, Shikino K, Sogai D, Yokokawa D, Uchida S, Li Y, Yanagita Y, Yamauchi Y, Kojima J, Ishizuka K, Tsukamoto T, Noda K, Uehara T, Imaizumi T, Kataoka H, Ikusaka M. Association Between Physician Empathy and Difficult Patient Encounters: a Cross-Sectional Study. *Journal of General Internal Medicine*, 2022;16 : doi: 10.1007/s11606-022-07936-0..
- 14) Nagasaki K, Nishizaki Y, Hachisuka C, Shinozaki T, Shimizu T, Yamamoto Y, Shikino K, Fukui S, Nishiguchi S, Katayama K, Kurihara M, Kobayashi H, Tokuda Y. Impact of duty hours on competency-related knowledge acquisition among community hospital residents. *Journal of General and Family Medicine*, 2022;24(2) : 87-93.
- 15) Umeda A, Miyagawa K, Mochida A, Takeda H, Ohira Y, Kato T, Okada Y, Kotani K. Effects of smoking cessation using varenicline on the serum concentrations of oxidized high-density lipoprotein: Comparison with high-density lipoprotein cholesterol. *PLoS One*, 2022;17(11) : e0277766..
- 16) Yamasaki Y, Ooka S, Matsuoka S, Tomita H, Hirose M, Takano T, Suzuki S, Imamura M, Handa H, Nishine H, Takita M, Minoura A, Morisawa K, Inoue T, Mineshita M, Kawahata K, Takemura H, Fujitani S, Kunishima H. Predicting the aggravation of coronavirus disease-19 pneumonia using chest computed tomography scans. *PloS One*, 2022;3(17) : 11.
- 17) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, Kurokawa MS, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K. Serum gasdermin D levels are associated with the chest computed tomography findings and severity of COVID-19. *Respiratory Investigation*, 2022;60(6) : 750-761.
- 18) Nakagama Y, Candray K, Kaku N, Komase Y, Rodriguez-Funes MV, Dominguez R, Tsuchida T, Kunishima H, Nagai E, Adachi E, Ngoyi DM, Yamasue M, Komiya K, Hiramatsu K, Uemura N, Sugiura Y, Yasugi M, Yamagishi Y, Mikamo H, Shiraishi S, Izumo T, Nakagama S, Watanabe C, Nitahara Y, Tshibangu-Kabamba E, Kakeya H, Kido Y. Antibody avidity maturation, following recovery from infection or the booster vaccination, grants breadth in SARS-CoV-2 neutralizing capacity. *The Journal of Infectious Diseases*, 2022;227(6) : 780-787.
- 19) Nishizaki Y, Nagasaki K, Shikino K, Kurihara M, Shinozaki T, Kataoka K, Shimizu T, Yamamoto Y, Fukui S, Nishiguchi S, Katayama K, Kobayashi H, Tokuda Y. Relationship between COVID-19 care and burnout among postgraduate clinical residents in Japan: a nationwide cross-sectional study. *BMJ Open*, 2023;13(1) : e066348.
- 20) Maeda H, Saito N, Igarashi A, Ishida M, Terada M, Ito T, Ikeda H, Kamura H, Motohashi I, Kimura Y, Komino M, Arai H, Kuwamitsu O, Akuzawa N, Sando E, Morikawa T, Imura H, Inoue H, Hayakawa T, Teshigahara O, Ohara Y, Suzuki M, Morimoto K. Effectiveness of mRNA COVID-19 vaccines against symptomatic SARS-CoV-2 infections during the SARS-CoV-2 Omicron BA.1 and BA.2 epidemic in Japan: vaccine effectiveness real-time surveillance for SARS-CoV-2 (VERSUS). *Expert Review of Vaccines*, 2023;22(1) : 288-298.
- 21) Kawada S, Moriya J, Wakabayashi H, Kise M, Okada T, Ie K.. Mental health training in family medicine residencies: International curriculum overview. *Journal of General and Family Medicine*, 2023; : DOI-10.1002/jgf2.608..
- 22) Nakagawara K, Kamata H, Chubachi S, Namkoong H, Tanaka H, Lee H, Otake S, Fukushima T, Kusumoto T, Morita A, Azekawa S, Watase M, Asakura T, Masaki K, Ishii M, Endo A, Koike R, Ishikura H, Takata T, Matsushita Y, Harada N, Kokutou H, Yoshiyama T, Kataoka K, Mutoh Y, Miyawaki M, Ueda S, Ono H, Ono T, Shoko T, Muranaka H, Kawamura K, Mori N, Mochimaru T, Fukui M, Chihara Y, Nagasaki Y, Okamoto M, Amishima M, Odani T, Tani M, Nishi K, Shirai Y, Edahiro R, Ando A, Hashimoto N, Ogura S, Kitagawa Y, Kita T, Kagaya T, Kimura Y, Miyazawa N, Tsuchida T, Fujitani S, Murakami K, ...Miyano S, Hasegawa N, Ogawa S, Kanai T, Fukunaga K; Japan COVID-19 Task Force.. Diagnostic significance of secondary bacteremia in patients with COVID-19. *Journal of Infection and Chemotherapy*, 2023;29(4) : 422-426.
- 23) Ishizuka K, Shikino K, Tamura H, Yokokawa D, Yanagita Y, Uchida S, Yamauchi Y, Hayashi Y, Kojima J, Li Y, Sato E, Yamashita S, Hanazawa N, Tsukamoto T, Noda K, Uehara T, Ikusaka M. Hybrid PBL and Pure PBL: Which one is more effective in developing clinical reasoning skills for general medicine clerkship?-A mixed-method study. *PloS one*, 2023;18(1) : e0279554.
- 24) Nagasaki K, Nishizaki Y, Shinozaki T, Shimizu T, Yamamoto Y, Shikino K, Fukui, S, Nishiguchi S, Kurihara M, Katayama K, Kobayashi H, Tokuda Y. Association between prolonged weekly duty hours and self-study time among residents: across-sectional study. *Postgraduate medical journal*, 2023; : 1-8.

- 25) Takeshima M, Aoki Y, Ie K, Katsumoto E, Tsuru E, Tsuboi T, Inada K, Kise M, Watanabe K, Mishima K, Takaesu Y. Physicians' attitudes toward hypnotics for insomnia: A questionnaire-based study. *Frontiers in psychiatry*, 2023;14 : 1071962.
- 26) Shikino K, Mito T, Ohira Y, Yokokawa D, Katsuyama Y, Ota T, Sato E, Hirose Y, Yamashita S, Suzuki S, Noda K, Uehara T, Ikusaka M. Frequency of difficult patient encounters in Japanese university hospital and community hospitals: A cross-sectional study. *Internal Medicine*, 2023;62(4) : 533-537.
- 27) Ie K, Machino R, Albert SM, Tomita S, Kushibuchi M, Hirose M, Matsuda T, Okuse C, Ohira Y. Deprescribing as an Opportunity to Facilitate Patient-Centered Care: A Qualitative Study of General Practitioners and Pharmacists in Japan. *Int J Environ Res Public Health*. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 2023;20(4) : 3543.
- 28) Tohyo Yuko, Shiraishi Makoto, Matsumoto Hirofumi, Torikai Keito, Narita Nobuyoshi, Miyake Hitoshi. Effects of lifestyle-related diseases on asymptomatic cerebral ischemic lesions in occupational health checkup participants. *Journal of Clinical Physiology*, 2023;53(1) : 29-36.
- 29) Sakurai H, Inada K, Aoki Y, Takeshima M, Ie K, Kise M, Yoshida E, Tsuboi T, Yamada H, Hori H, Inada Y, Shimizu E, Mishima K, Watanabe K, Takaesu Y. Management of unspecified anxiety disorder: Expert consensus. *Neuropsychopharmacology reports*, 2023; : doi: 10.1002/npr2.12323.
- 30) Nobuyuki Sasaki, Masato Yamatoku, Tomoya Tsuchida, Hiroyuki Sato, Keiichiro Yamaguchi.. Effect of Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation on Long Coronavirus Disease 2019 with Fatigue and Cognitive Dysfunction. *Progress in Rehabilitation Medicine*, 2023;8 : doi: 10.2490/prm.20230004.

② 総説又は症例解説

- 1) Ishizuka K, Yamashita S, Katsukura S, Matsuura H. Five tips to guide beginners and young general physicians on writing clinical image reports. *Journal of General and Family Medicine*, 2022;23(6) : 413-415.
- 2) Ishizuka K, Nagano H, Miyagami T, Toyooka T, Ohara S, Ogami E. Real opinions on general medicine residency programs in Japan: Perspectives from medical students, residents, and young academic generalists. *Journal of General and Family Medicine*, 2022;24(1) : 59-60.
- 3) Ishizuka K, Ohira Y, Uehara T, Noda K, Tsukamoto T, Shikino K, Yokokawa D, Ikusaka M. VAPES: a new mnemonic for considering paroxysmal disorders. *Diagnosis (Berlin, Germany)*, 2023; : 10.1515/dx-2022-0132.
- 4) Miyagami T, Ishizuka K, Harada T, Nagano H, Otsuka Y, Kumakawa T, Yamashita S. Five strategies on writing research papers for beginners and young general medicine doctors. *Journal of General and Family Medicine*, 2023;24(2) : 141-142.

③ 症例報告

- 1) Tsuji R, Motohashi, I, Suyama Y. Pylephlebitis due to *Listeria monocytogenes*. *BMJ Case Rep*, 2022;15(5) : e250014.
- 2) Ishizuka K, Shikino K, Ikusaka M. A 68-year-old man with acute exertional dyspnoea and holosystolic murmur. *Emergency medicine journal*, 2022;39(5) : e2.
- 3) Ishizuka K, Ohira Y. Scurvy. *QJM*, 2022;115(7) : 475-475.
- 4) Kurihara K, Ishizuka K, Ikusaka M. Aquagenic Wrinkling of the Palms. *The American journal of medicine*, 2022;135(7) : e216-e217.
- 5) Tawara J, Ishizuka K, Enomoto K, Kamata M, Katayama K, Kaji Y, Ohira Y. Madelung Disease. *The American journal of medicine*, 2022;135(7) : e214-e215.
- 6) Ishizuka K, Yokokawa D, Ikusaka M. Erythromelalgia presenting with body pain. *Canadian Medical Association journal*, 2022;194(28) : E993.
- 7) Tsuchida T, Kondo Y, Ishizuka K, Matsuda T, Ohira Y. Nerve Identification Procedures Are Necessary for Complete Recovery From Recurrent Cases of Anterior Cutaneous Nerve Entrapment Syndrome: A Case Report. *Cureus*, 2022;14(7) : e26497..
- 8) Ishizuka K, Ohira Y. Restless Chest Syndrome: A Rare Variant of Restless Legs Syndrome. *European journal of case reports in internal medicine*, 2022;9(7) : 003398-003398.
- 9) Shikino K, Ohira Y, Sato E, Ikegami A, Suzuki S, Noda K, Uehara T, Ikusaka M. Behavior - based medical diagnosis—Applying perspectives of behavioral science to clinical reasoning. *Journal of General and Family Medicine*, 2022;23(4) : 291-292.

- 10) Ishizuka K, Katayama K, Ohira Y. Giant cell arteritis presenting with chronic cough and headache after BNT162b2 mRNA COVID-19 vaccination. QJM, 2022;115 : 621-622.
 - 11) Katayama K, Ishizuka K, Tawara J, Kaji Y, Komuta M, Hayashi Y, Gomi H, Akahane M, Ohira Y. Temporal Arteritis Caused by Tertiary Syphilis. Internal medicine, 2022;62(7) : 1095-1097.
 - 12) Ishizuka K, Sugaya M. Japanese Spotted Fever. The New England journal of medicine, 2022;387(5) : 451-451.
 - 13) Fukuzawa F, Shikino K, Ishizuka K, Yamauchi Y, Yokokawa D, Ikegami A, Uehara T, Ikusaka M. Muscular polyarteritis nodosa: a case series study of 6 patients. AIM Clinical Cases., 2022;1(7) : e220179.
 - 14) Ishizuka K, Katayama K, Ohira Y. Moeller-Hunter glossitis. BMJ Case Rep., 2022;15(8) : e251810.
 - 15) Otsuki T, Kuroya S, Hachisuka R, Yamada S, Sumi H, Shibagaki Y, Tominaga N. Hyponatremia in a patient with hypertensive emergency. Clinical Nephrology, 2022;998(4) : 217-218.
 - 16) Ishizuka K, Ohira Y. Cholinergic urticaria after COVID-19 infection. The American journal of medicine, 2022;136(3) : e37-e38.
 - 17) Otsuki T, Ishizuka K, Hirose M, Ie K. Hoagland sign in infectious mononucleosis. BMJ Case Reports, 2022;15 : e252839.
 - 18) Ie K, Ishizuka K, Sakai T, Motohashi I, Asai S, Okuse C. Subacute Thyroiditis Developing Within 2 Days of Vaccination Against COVID-19 with BNT162b2 mRNA. European Journal of Case Reports in Internal Medicine, 2023;10(1) : 003735.
 - 19) Iizuka Y, Tsuchida T, Ashikaga K, Ie K, Matsuda T, Ishizuka K, Okuse C, Matsuda T, Ohira Y. Patent Foramen Ovale Complicated With Renal Infarction and Pulmonary Embolism: A Case Report With Literature Review. Cureus, 2023;15(2) : e35433.
 - 20) Ishizuka K, Ohira Y. WINGED SCAPULA CAUSED BY PARSONAGE-TURNER SYNDROME AFTER BNT162B2 MRNA COVID-19 VACCINATION. European journal of case reports in internal medicine, 2023;10(2) : 003779.
 - 21) Tsuchida T, Ishizuka K, Ohira Y. Intestinal Obstruction Caused by Japanese Pickled Plum. Journal of General Internal Medicine, 2023;38(5) : 1303.
- ④ その他
- 1) Yamashita S, Nagano H, Harada T, Miyagami T, Ishizuka K, Ikusaka M. Increasing the Status of Hospital General Medicine Departments with Emphasis on Outpatient Care in Japan. International Journal of General Medicine, 2022;15 : 6599-6602.
 - 2) Tago M, Hirata R, Shikino K, Watari T, Sasaki Y, Takahashi H, Nakamura T, Kiyota M, Yabuki T, Ie K, Shimizu T. Common foundations of hospital general medicine and family medicine in Japan : harmonizing and merging. JOURNAL OF HOSPITAL GENERAL MEDICINE, 2022;4(5) : 264-265.
 - 3) Kawada S, Moriya J, Wakabayashi H, Kise M, Okada T, Ie K. Mental health training in family medicine residencies:International curriculum overview. Journal of General and Family Medicine, 2023;24(2) : 63-71.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎土田知也, 廣瀬雅宣, 井上陽子, 大坪毅人 松田隆秀. 新型コロナウイルス感染後後遺症患者へのワクチン接種前後の症状変化と抗体価についての調査. 第119回日本内科学会講演会, 2022.
- 2) 竹村弘, 寺久保繁美, 大神田敬, 越川拓郎, 高野知憲, 國島広之. β -ラクタマーゼ半定量的検査法の開発とその有用性について. 第70回日本化学療法学会総会, 2022.
- 3) ◎櫛渕澤, 家研也, 奥瀬千晃, 土田知也, 廣瀬雅宣, 本橋伊織. 幼少期の社会経済的ステータス (SES) とヘルスリテラシー (HL) が糖尿病コントロールに及ぼす影響の検証. 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2022.
- 4) 土田知也, 井上陽子, 吉岡千恵子, 中村晴美, 桑島規夫, 村岡広代. 【全国の新型コロナウイルス感染後遺症診療体制の充実に向けて-聖マリアンナ医科大学病院での多職種連携による治療内容と後遺症診療神奈川モデル-】. 第13回日本プライマリケア連合学会学術大会, 2022.
- 5) 河田祥吾, 家研也. シン・家庭医療専門医の目指すべきメンタルヘルス教育～委員会からの提言. 第13回日本プライマリケア連合学会学術大会, 2022.
- 6) 國友耕太郎, 畑拓磨, 山口章江, 芦野朱, 幌沙小里, 坂田一樹, 林良典, 原田拓, 石塚晃介, 相馬渉, 宮上泰樹, 鈴木智倉澤康之, 杉原大輔. 実はあなたがキーパーソン?! 多職種で目指す、診断的安全性が高い組織への道. 第13回日本プライマリケア連合学会学術大会, 2022.

- 7) 石塚晃介. インタレストグループ3: Pharm G 2022 - presented by 千葉大総診. 第13回日本プライマリケア連合学会学術大会, 2022.
- 8) 中村琢弥, 清田実穂, 佐々木陽典, 鋪野紀好, 家研也, 矢吹拓, 和足孝之, 高橋宏瑞. 病院総合診療と家庭医療の共通基盤 ー調和と融合を目指してー. 第13回日本プライマリケア連合学会学術大会, 2022.
- 9) 家研也, 高田俊彦, 廣瀬雅宣, 本橋伊織, 櫛渕澤. やってみよう! はじめての研究 ー観察研究編. 第13回日本プライマリケア連合学会学術大会, 2022.
- 10) 青島周一, 矢吹拓, 家研也. 再考! ポリファーマシー ー真に効果的なアプローチとはー. 第13回日本プライマリケア連合学会学術大会, 2022.
- 11) 多胡雅毅. 志水太郎, 中村琢弥, 清田実穂, 佐々木陽典, 鋪野紀好, 家研也, 矢吹拓, 和足孝之, 高橋宏瑞. 病院総合診療と家庭医療の共通基盤 ー調和と融合を目指してー. 第13回日本プライマリケア連合学会学術大会, 2022.
- 12) 鶴木友都, 國友耕太郎, 畑拓磨, 吉村文孝, 石塚晃介, 尾下寿彦. 0 から始めよう! M&M カンファレンス. ACP(米国内科学会)日本支部主催年次総会・講演会, 2022.
- 13) ◎古家紗帆, 角浩史, 奥山恵美子, 山田将平, 蜂須賀里菜, 柴垣有吾, 富永直人. 高血圧緊急症の治療経過中に急性乏尿性腎不全と脳虚血性病変を来した一例. 第67回日本透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 14) 青木恵美子, 三輪敬蔵, 望月篤, 東郷建, 黄世捷, 佐野政子, 星野紀子, 松田隆秀, 信岡祐彦, 伊野美幸. 医科大学でSDGsに取り組む意義と課題. 第54回日本医学教育学会大会, 2022.
- 15) ◎大槻拓矢, 家研也, 漆原裕人, 本橋伊織, 中村紗里香, 松永光太郎, 奥瀬千晃, 松田隆秀, 大平善之. 腹水の性状変化を契機に診断に至った特発性多中心キャッスルマン病の1例. 第25回日本病院総合診療医学会学術総会, 2022.
- 16) 官澤洋平, 原田拓, 林亮佑, 大塚勇輝, 飯塚玄明, 勝倉真一, 熊川友子, 青木のぞみ, 石塚晃介, 原田愛子, 栗原むつか, 任洋輝. 内科・総合診療専門研修プログラムの本音 若手同士で語ろう 専攻医と卒業生の視点より. 第25回日本病院総合診療医学会学術総会, 2022.
- 17) 國友耕太郎, 鶴木友都, 石塚晃介, 尾下寿彦, 畑拓磨, 吉村文孝. 診断学/診断エラー学の知見の日常臨床での有用な実践「M&M カンファレンスを開催してみよう!」. 第25回日本病院総合診療医学会学術総会, 2022.
- 18) 宮上泰樹, 石塚晃介, 大塚勇輝, 熊川友子, 長野広之, 原田拓, 山下駿. Beginner のための論文: 読んで、書いて、楽しい! 記述研究を学んでモチモチ指導医になろう! . 第25回日本病院総合診療医学会学術総会, 2022.
- 19) ◎家 研也, 八木橋 国博, 橋本 一樹, 大岡 正道, 関 征央, 内田 竜二, 酒井翼, 本橋 伊織, 奥瀬 千晃, 松田 隆秀, 大平 善之. シェーグレン症候群のステロイド抵抗性乳び胸に胸管塞栓術が有用であった1例. 第25回日本病院総合診療医学会学術総会, 2022.
- 20) ◎廣瀬雅宣, 土田知也, 家研也, 本橋伊織, 井上陽子, 奥瀬千晃, 松田隆秀, 大平善之. 肺炎併存の有無による COVID-19 罹患後後遺症の特徴に関する検討. 第25回日本病院総合診療医学会学術総会, 2022.
- 21) ◎加藤優一, 奥瀬千晃, 山下裕顕, 山田祐揮, 石田潤, 酒井翼, 本橋伊織, 家研也, 松永光太郎, 松田隆秀, 大平善之. 内視鏡的治療が可能であった梅干しの種子による十二指腸閉塞の1例. 第25回日本病院総合診療医学会学術総会, 2022.
- 22) 平間千絵, 満尾有沙, 加藤優一, 本橋伊織, 酒井翼, 家研也, 田中拓, 奥瀬千晃, 藤谷茂樹. 肺骨化像の急速な進行と改善を認めた COVID-19 肺炎の稀な一例. 第182回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会 第251回日本呼吸器学会関東地方会 合同学会, 2022.
- 23) ◎鳥飼圭人. 高齢者健診における脂質異常症治療と中性脂肪値の検討. 第59回日本臨床生理学会総会, 2022.
- 24) ◎本橋伊織. 悪性腫瘍が鑑別となった結核性縦隔リンパ節炎による食道穿孔の1例. 第71回日本感染症学会東日本地方会学術集会, 2022.
- 25) 棚橋淳子, 藤井真樹, 白井美江子, 組原寛之, 笠貫浩史, 古茶大樹, 井上ふみ子, 奥瀬千晃, 長島悟郎. COVID-19 患者関連メンタルサポートチーム活動 川崎市立多摩病院における職員への支援. 第60回全国自治体病院学会, 2022.
- 26) 藤井啓世, 緒方聖友, 丑丸秀, 藤島理恵, 角浩史, 富永直人. エリスロポエチン (EPO) 相対的低値から診断し得た ANCA 関連血管炎 (AAV) に伴う急性尿細管間質性腎炎の1例. 第682回日本内科学会関東地方会, 2022.
- 27) ◎内田竜二, 家研也, 石塚晃介, 荻原理子, 奥瀬千晃, 大平善之. パルボウイルス感染が契機となった若年女性の結節性紅斑の稀な一例. 第11回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会, 2022.
- 28) 石塚晃介, 山下駿, 大塚勇輝, 川島亮, 中西俊就, 西澤俊紀, 宮上泰樹. 若手の論文執筆経験者が紐解く診断への迫り方! . 第26回日本病院総合診療医学会学術総会, 2023.
- 29) 石塚晃介, 宮上泰樹, 佐野文昭, 田村弘樹, 山里一志, 細川旬, 鶴田慧司郎. 若手総合医のための診断プロセスのpitfall-器質疾患と心因性疾患の鑑別. 第26回日本病院総合診療医学会学術総会, 2023.
- 30) ◎土田知也, 石橋祐記, 石塚晃介, 片山皓太, 井上陽子, 廣瀬雅宣, 明石嘉浩, 大平善之. 新型コロナウイルス後遺症に合併する体位性頻脈症候群の治療経過について. 第26回日本病院総合診療医学会学術総会, 2023.

- 31) ◎片山皓太, 鈴木智晴, 沼田賢治, 片山真穂, 和足孝之, 徳田安春, 大平善之. 本邦の剖検事例における診断エラーの検討. 第26回日本病院総合診療医学会学術総会, 2023.
- 32) ◎畠山慎也. 高齢男性PBCに発症した肝細胞癌の1例. 第26回日本病院総合診療医学会学術総会, 2023.
- 33) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, S.Kurokawa M, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K.. Pyroptosis-apoptosis imbalance affects the severity and chest CT findings in COVID-19. 第62回日本呼吸器学会学術講演会, 2022.
- 34) ◎石塚晃介, 片山皓太, 梶有貴, 田原淳輔, 大平善之. Ultrasonography of Paget-Schroetter Syndrome. ACP(米国内科学会)日本支部主催年次総会・講演会, 2022.

② 国際学会

- 1) ◎Ishizuka K, Shikino K, Tamura H, Yokokawa D, Tsukamoto T, Ikusaka M.. Hybrid PBL and Pure PBL: which one is more effective in developing clinical reasoning skills for general medicine clerkship? - A mixed method study. AMEE 2022 The Virtual Conference, 2022.

③ その他

- 1) ◎土田知也. 新型コロナウイルス感染後遺症-その実態と必要な対応について-. 公明と 厚生労働部会, 2022.
- 2) ◎土田知也. 新型コロナウイルス感染後遺症 その実態と治療方法について. 富士市医師会学術講演会, 2022.
- 3) ◎土田知也. 治らない腹痛 次はどうすれば?. 第108回東京GIMカンファレンス, 2022.
- 4) 石塚晃介. 「めまい」の講義とワークショップ. 千葉大学医学部 General Medicine Interest Group, 2022.
- 5) ◎土田知也. 診療の手引き別冊罹患後症状のマネジメント (第1版) を踏まえた新型コロナ後遺症診療の実践. 新型コロナウイルス感染症罹患後症状 (後遺症) 医療従事者向け研修, 2022.
- 6) ◎土田知也. 新型コロナウイルス感染罹患後症状の実態-大学病院からの知見-. 第11回 COVID-19 臨床懇談会 「今、「罹患後症状」を知る」, 2022.
- 7) ◎石塚晃介, 大平善之. 呼吸苦, 胸部圧迫感を主訴に受診した23歳女性. IUHW グランドカンファレンス, 2022.
- 8) ◎大平善之. プライマリ・ケアにおけるアレルギー関連疾患～蕁麻疹などを中心に～. 2022年度 うつくしま医療懇話会, 2022.
- 9) ◎大平善之. 診断推論総論. いわき市医療センター初期研修医勉強会, 2022.
- 10) ◎石塚晃介, 大平善之. 両耳の痛み, 咳嗽を主訴に受診した74歳男性. 千葉大 GM カンファレンス, 2022.
- 11) ◎土田知也. 新型コロナウイルス感染症に関する感染対策等について. 新型コロナウイルス感染症対策に関する講演, 2022.
- 12) ◎大平善之. ちょっと困った患者さんへの対応のコツ～Difficult patient への対応方法～. Difficult patient 横浜市プライマリ・ケア医会講演会, 2022.
- 13) ◎土田知也. Brain Fog に対する脳血流評価と rTMS による治療効果について. 東京 iCDC 後遺症タスクフォースによる 新型コロナウイルス後遺症オンラインセミナー, 2022.
- 14) ◎大平善之. 診断推論カンファレンス. いわき市医療センター初期研修医勉強会, 2022.
- 15) ◎石塚晃介, 大平善之. 両足に多発するアザを主訴に受診した23歳女性. IUHW グランドカンファレンス, 2022.
- 16) ◎石塚晃介. 画像論文作成の5 Tips- NEJM アクセプトへの道. 練馬光が丘病院, 2022.
- 17) ◎大平善之. 総合診療医が遭遇するしびれ・いたみへのアプローチ. Pain Live Symposium～総合診療医はこう診る～, 2022.
- 18) ◎土田知也. 新型コロナウイルス感染症後外来の現状. 第82回聖マリアンナ医科大学医学会学術集会, 2022.
- 19) ◎石塚晃介, 大平善之. 全身の痛みを主訴に受診した39歳女性. IUHW グランドカンファレンス, 2022.
- 20) ◎大平善之. 診断推論カンファレンス. いわき市医療センター初期研修医勉強会, 2022.
- 21) ◎土田知也. 新型コロナウイルス感染症に関する感染対策等について. 新型コロナウイルス感染症対策に関する講演, 2022.
- 22) ◎土田知也. それって、コロナの後遺症? ～どの診療科にも訪れるコロナ後遺症患者さんをすくうために～. 調布市医師会学術講演会, 2022.
- 23) ◎土田知也. 新型コロナウイルス感染症の後遺症について. 「新型コロナウイルス感染症」を最新医学から学ぶ, 2022.
- 24) ◎鳥飼圭人. 上手に健診を受けるコツ～健診を受ける際の注意点～. 第49回聖マリアンナ医科大学公開講座, 2022.
- 25) ◎鳥飼圭人. 健診にはどんな種類があるの?. 第49回聖マリアンナ医科大学公開講座, 2022.
- 26) ◎石塚晃介. 呼吸苦, 胸部圧迫感を主訴に受診した23歳女性. 湘南鎌倉総合病院多施設カンファレンス, 2022.
- 27) ◎石塚晃介. 「めまい」の講義とワークショップ. 千葉大学医学部 General Medicine Interest Group, 2022.

- 28) ◎石塚晃介. 画像論文の書き方. Primary Care Research (PCR) Connect 第4回年次集会, 2022.
- 29) 石塚晃介, 大平善之. 左腕の動かさにくさを主訴に受診した45歳女性. IUHW グランドカンファレンス, 2022.
- 30) 原田侑典, 磯田翔, 原田拓, 宮上泰樹, 石塚晃介, 國友耕太郎, 田村弘樹, 栗原むつか, 藤井啓世, 大槻拓矢. 初手を究める～あなたの潜在的な診断力を引き出す、医療面接の始め方～. 第18回若手医師のための家庭医療学冬季セミナー, 2023.
- 31) ◎大平善之. 診断推論カンファレンス. いわき市医療センター初期研修医勉強会, 2023.
- 32) 石塚晃介, 大平善之. 両下肢のしびれを主訴に受診した71歳男性. IUHW グランドカンファレンス, 2023.
- 33) ◎土田知也. 新型コロナウイルス感染罹患後症状の実態とその対応について. コロナ罹患後症状と不眠について考える会, 2023.
- 34) ◎土田知也. コロナ後遺症外来について. 第2回新型コロナウイルス感染症対応に資する人材育成研修, 2023.
- 35) ◎土田知也. どこでも対応可能な新型コロナウイルス感染後後遺症の評価と治療について. 宮城県保険医協会 診療向上学習会, 2023.
- 36) 石塚晃介, 田中英美里, 野中沙織, 牧石徹也. 日本におけるバーンアウトの現状. ACP Physicians Well-being Champions- Cross Talk Live with Experts-, 2022.

		和 文	英 文
著 書		3	
論 文	原著	2	30
	解説又は総説	9	4
	症例報告		21
	その他	11	3
学会発表	国内学会	32	2
	国際学会		1
	その他	35	1

内科学（呼吸器内科）

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 上野純子, 大山バク, 駒瀬裕子, 粒来崇博, 檜田直也, 峯下昌道. 院内クラスターにおける COVID-19 感染疑いかつ SARS-CoV-2 PCR 陰性者の抗 SARS-CoV-2 抗体による検出. 聖マリアンナ医科学会雑誌, 2022;50(3) : 77-84.
- 2) 大山バク, 粒来崇博, 駒瀬裕子, 小野綾美, 村岡弘海, 篠崎勇輔, 西山和宏, 上野純子, 西由紘, 沼田雄, 薄場彩乃, 山口裕礼, 檜田直也. 横浜市西部地区における双方向クリニカルパスを用いた、気管支喘息病診連携の現状. アレルギー, 2022;71(8) : 934-943.
- 3) 西根広樹, 平本雄彦, 松澤慎, 木田博隆, 半田寛, 丸田勝弘, 井上健男, 宮澤輝臣, 峯下昌道. マルチ呼吸機能測定装置 (FB-8010*) を用いた気道狭窄の評価. 気管支学, 2023;45(2) : 82-88.
- 4) 鶴岡一, 森川慶, 木田博隆, 半田寛, 西根広樹, 井上健男, 小島宏司, 大池信之, 佐治久, 峯下昌道. 気管内多発結節を呈した三重癌術後再発 (SCLC) の 1 例. 気管支学, 2023;45(2) : 151-152.

② 総説又は症例解説

- 1) 森川慶. 肺がんコンパクトパネル-細胞診検体でのパネル検査も可能な All in One を目指して-. 呼吸器内科, 2022;42(1) : 69-75.
- 2) 森川慶, 関順彦. 非小細胞肺癌に対する EGFR 遺伝子変異検査の現状と展望. 呼吸器内科, 2022;42(1) : 1-9.
- 3) 西山和宏, 峯下昌道. COPD の新しい気管支鏡的インターベンション. 呼吸器内科, 2022;42(4) : 416-420.
- 4) 駒瀬裕子. 思春期に発症しうる疾患：気管支喘息. 臨床雑誌内科, 2023;131(3) : 376-379.

③ その他

- 1) 粒来崇博. 医師のつぶやき ロシア料理を排斥する？. さくら(相模原アレルギーの会会報), 2022;32(2) : 4.
- 2) 粒来崇博. 医師のつぶやき ミッション：福富先生の弟子を増やせ！. さくら(相模原アレルギーの会会報), 2022;32(3) : 5.
- 3) 粒来崇博. 医師のつぶやき 紫衣事件の再来？専門医制度に思うこと. さくら(相模原アレルギーの会会報), 2022;32(4) : 7.
- 4) 粒来崇博. 医師のつぶやき あれからどうなった？COVID19. さくら(相模原アレルギーの会会報), 2023;33(1) : 7.
- 5) 篠崎勇輔, 粒来崇博, 駒瀬裕子, 大山バク, 檜田直也. 双方向クリニカルパスを用いた気管支喘息病診連携の合併症調査. アレルギー, 2023;72(2) : 184-185.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Izawa N, Shiokawa H, Onuki R, Hamaji K, Morikawa K, Saji H, Ohashi H, Kasugai S, Hayakawa N, Ohara T, Sunakawa Y. The clinical utility of comprehensive measurement of autoimmune disease-related antibodies in patients with advanced solid tumors receiving immune checkpoint inhibitors: a retrospective study. ESMO Open, 2022;7(2) : 100415.
- 2) Yukari Tsubata, Takamasa Hotta, Kosuke Hamai, Naoki Furuya, Toshihide Yokoyama, Ryota Saito, Atsushi Nakamura, Takeshi Masuda, Megumi Hamaguchi, Shoichi Kuyama, Ryoichi Honda, Tadashi Senoo, Masamoto Nakanishi, Masahiro Yamasaki, Nobuhisa Ishikawa, Kazunori Fujitaka, Tetsuya Kubota, Kunihiro Kobayashi, Takeshi Isobe. A new risk-assessment tool for venous thromboembolism in advanced lung cancer: a prospective, observational study. Journal of hematology & oncology, 2022;15(1) : 40.
- 3) Daichi Fujimoto, Hiroaki Akamatsu, Takeshi Morimoto, Kazushige Wakuda, Yuki Sato, Yoshitaka Kawa, Toshihide Yokoyama, Motohiro Tamiya, Ryota Hiraoka, Naoki Shingu, Hideki Ikeda, Akihiro Tamiya, Masaki Kanazu, Eisaku Miyauchi, Satoru Miura, Masaaki Yanai, Makiko Yomota, Ryotaro Morinaga, Takashi Yokoi, Akito Hata, Hidekazu Suzuki, Hirotaka Matsumoto, Shinya Sakata, Naoki Furuya, Yuhei Harutani, Ichiro Nakachi, Ayumu Otsuki, Shinya Uematsu, Satoshi Hara, Keiki Yokoo, Takeya Sugimoto, Nobuyuki Yamamoto. Affiliations expand. Histologic transformation of epidermal growth factor receptor-mutated lung cancer. European journal of cancer, 2022;166 : 41-51.
- 4) Morikawa Kei, Kinoshita Kohei, Kida Hirotaka, Inoue Takeo, Mineshita Masamichi. Preliminary Results of NGS Gene Panel Test Using NSCLC Sputum Cytology and Therapeutic Effect Using Corresponding Molecular-Targeted Drugs. Genes, 2022;13(5) : 812.

- 5) Nakajima T, Yoshifuji H, Yamano Y, Yurugi K, Miura Y, Maekawa T, Yoshida T, Handa H, Ohmura K, Mimori T, Terao C. Co-occurrence of Relapsing Polychondritis and Autoimmune Thyroid Diseases. *Orphanet Journal of Rare Diseases*, 2022;17(1) : 101.
- 6) Akamatsu Hiroaki, Teraoka Shunsuke, Takamori Shinkichi, Miura Satoru, Hayashi Hidetoshi, Akito Hata, Toi Yukihiro, Shiraishi Yoshimasa, Maesaya Nobuaki, Sato Yuki, Furuya Naoki, Oyanagi Jun, Koh Yasuhiro, Mishumi Toshihiro, Yamamoto Nobuyuki, Nakagawa Kazuhiko. Nivolumab retreatment in non-small cell lung cancer patients who responded to prior immune-checkpoint inhibitors and had ICI-free intervals (WJOG9616L). *Clinical cancer research*, 2022;28(15) : 3207-3213.
- 7) Namkoong H, Edahiro R, Takano T, Nishihara H, Shirai Y, Sonehara K, Tanaka H, Azekawa S, Mikami Y, Lee H, Hasegawa T, Okudela K, Okuzaki D, Motooka D, Kanai M, Naito T, Yamamoto K, Wang QS, Saiki R, Ishihara R, Matsubara Y, Hamamoto J, Hayashi H, Yoshimura Y, Tachikawa N, Yanagita E, Hyugaji T, Shimizu E,..., Tsuchida T, Fujitani S, Takita M, Morikawa D, Yoshida T, Izumo T, Inomata M,..., Komase Y, Hida N, Tsuburai T, Oyama B,..., Shimada H, Endo M, Ohira Y, Watanabe M,..., Fukunaga K, Okada Y. DOCK2 is involved in the host genetics and biology of severe COVID-19. *DOCK2 is involved in the host genetics and biology of severe COVID-19. Nature*, 2022;609(7928) : 754-760.
- 8) Oki Masahide, Handa Hiroshi, Saka Hideo, Kogure Yoshihito, Niwa Hideyuki, Yamada Arisa, Torii Atsushi, Ando Masahiko, Mineshita Masamichi. Changes in Pulmonary Function Test Results and Respiratory Symptoms before and after Airway Stent Removal. *Respiration*, 2022;101(10) : 925-930.
- 9) Yukari Tsubata, Takamasa Hotta, Kosuke Hamai, Naoki Furuya, Toshihide Yokoyama, Ryota Saito, Atsushi Nakamura, Takeshi Masuda, Megumi Hamaguchi, Shoichi Kuyama, Ryoichi Honda, Tadashi Senoo, Masamoto Nakanishi, Masahiro Yamasaki, Nobuhisa Ishikawa, Kazunori Fujitaka, Tetsuya Kubota, Hiroshi Ohtsu, Kunihiro Kobayashi, Takeshi Isobe. Incidence of venous thromboembolism in advanced lung cancer and efficacy and safety of direct oral anticoagulants: a multicenter, prospective, observational study (Rising-VTE/NEJ037 study). *Therapeutic advances in medical oncology*, 2022; : doi: 10.1177/17588359221110171..
- 10) Morikawa Kei, Kida Hirotaka, Handa Hiroshi, Inoue Takeo, Saji Hisashi, Koike Junki, Nakamura Seiji, Sato Yoshiharu, Ueda Yumi, Suzuki Fumihiko, Matoba Ryo, Mineshita Masamichi. A Prospective Validation Study of Lung Cancer Gene Panel Testing Using Cytological Specimens. *Cancers*, 2022;14(15) : 3783.
- 11) Wang QS, Edahiro R, Namkoong H, Hasegawa T, Shirai Y, Sonehara K, Tanaka H, Lee H, Saiki R, Hyugaji T, Shimizu E, Katayama K, Kanai M, Naito T, Sasa N, Yamamoto K, Kato Y, Morita T, Takahashi K, Harada N, Naito T, Hiki M, Matsushita Y, Takagi H, Ichikawa M, Nakamura A, Harada S, Sandhu Y, Kabata H, Masaki K,..., Tsuchida T, Fujitani S, Takita M, Morikawa D, Yoshida T, Izumo T,..., Komase Y, Hida N, Tsuburai T, Oyama B, Takada M, Kanda H, Kitagawa Y, Fukuta T,..., Endo M, Ohira Y, Watanabe M, Inoue S,..., Okada Y. The whole blood transcriptional regulation landscape in 465 COVID-19 infected samples from Japan COVID-19 Task Force Miyake T, Yoshida S, Ogura S, Abe S. The whole blood transcriptional regulation landscape in 465 COVID-19 infected samples from Japan COVID-19 Task Force. *Nature Communications*, 2022;13(1) : 4830.
- 12) Nishioka Y, Toyoda Y, Egashira R, Johkoh T, Terasaki Y, Hebisawa A, Abe K, Baba T, Fujikura Y, Fujita E, Hamada N, Handa T, Hasegawa Y, Hidaka K, Hisada T, Hisata S, Honjo C, Ichikado K, Inoue Y, Izumi S, Kato M, Kishimoto T, Okamoto M, Miki K, Mineshita M, Nakamura Y, Sakamoto S, Sano M, Tsukada Y, Yamasue M, Bando Y, Homma S, Hagiwara K, Suda T, Inase N.. Nationwide retrospective observational study of idiopathic dendriform pulmonary ossification: clinical features with a progressive phenotype. *Respiratory Research*, 2022;9(1) : e001337. doi: 10.1136/bmjresp-2022-001337.
- 13) Satoshi Ikeda, Terufumi Kato, Hirotsugu Kenmotsu, Takashi Ogura, Yuki Sato, Aoi Hino, Toshiyuki Harada, Kaoru Kubota, Takaaki Tokito, Isamu Okamoto, Naoki Furuya, Toshihide Yokoyama, Shinobu Hosokawa, Tae Iwasawa, Rika Kasajima, Yohei Miyagi, Toshihiro Misumi, Hiroaki Okamoto. Atezolizumab for Pretreated Non-Small Cell Lung Cancer with Idiopathic Interstitial Pneumonia: Final Analysis of Phase II AMBITIOUS Study. *The oncologist*, 2022;27(9) : 720.
- 14) Taniguchi Yuri, Shimokawa Tsuneo, Takiguchi Yuichi, Misumi Toshihiro, Nakamura Yukiko, Kawashima Yosuke, Furuya Naoki, Shiraishi Yoshimasa, Harada Toshiyuki, Tanaka Hisashi, Miura Satoru, Uchiyama Ayumi, Nakahara Yoshiro, Tokito Takaaki, Naoki Katsuhiko, Bessho Akihiro, Goto Yasuhiro, Seike Masahiro Okamoto Hiroaki. A randomized comparison of nivolumab versus nivolumab + docetaxel for previously treated advanced or recurrent ICI-naïve non-small-cell lung cancer: TORIG1630. *Clinical Cancer Research*, 2022;28(20) : 4402-4409.

- 15) Yamasaki Y, Ooka S, Matsuoka S, Tomita H, Hirose M, Takano T, Suzuki S, Imamura M, Handa H, Nishine H, Takita M, Minoura A, Morisawa K, Inoue T, Mineshita M, Kawahata K, Takemura H, Fujitani S, Kunishima H. Predicting the aggravation of coronavirus disease-19 pneumonia using chest computed tomography scans. PloS One, 2022;3(17) : 11.
- 16) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, Kurokawa MS, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K. Serum gasdermin D levels are associated with the chest computed tomography findings and severity of COVID-19. Respiratory Investigation, 2022;60(6) : 750-761.
- 17) Tamiya Yutaro, Matsumoto Shingo, Zenke Yoshitaka, Yoh Kiyotaka, Ikeda Takaya, Shibata Yuji, Kato Terufumi, Nishino Kazumi, Nakamura Atsushi, Furuya Naoki, Miyamoto Shingo, Kuyama Shoichi, Nomura Shogo, Ikeno Takashi, Udagawa Hibiki, Sugiyama Eri, Nosaki Kaname, Izumi Hiroki, Sakai Tetsuya, Hashimoto Naozumi, Goto Koichi. Large-scale clinico-genomic profile of non-small cell lung cancer with KRAS G12C: Results from LC-SCRUM-Asia study. Lung Cancer, 2023;176 : 103-111.
- 18) Kinoshita Kohei, Morikawa Kei, Tsuruoka Hajime, Chosokabe Motohiro, Kida Hirotaka, Handa Hiroshi, Inoue Takeo, Miyazawa Tomoyuki, Saji Hisashi, Mineshita Masamichi. Efficacy of combined transbronchial lung cryobiopsy and conventional forceps biopsy for lung malignancies: a prospective cohort study. Scientific Reports, 2023;13(1) : 1850. doi: 10.1038/s41598-023-29007-y.

② 症例報告

- 1) Nishi Yoshihiro, Handa Hiroshi, Tsuruoka Hajime, Inoue Takeo, Naruki, Saeko, Abe Tatsuyuki, Mineshita Masamichi. Successful Treatment with Radiation Therapy in an Older Patient with Endobronchial Schwannoma. Case Reports in Oncology, 2022;15(1) : 212.
- 2) Handa Hiroshi, Tsuruoka Hajime, Matsuzawa Shin, Azagami Shinya, Mineshita Masamichi. Temporary stenting in a case of bronchomalacia due to relapsing polychondritis. Respiratory case reports, 2022;10(12) : e01060. doi: 10.1002/rcr2.1060.
- 3) Morikawa Kei, Handa Hiroshi, Ueno Junko, Tsuruoka Hajime, Inoue Takeo, Shimada Naoki, Koike Junki, Nakamura Seiji, Sato Yoshiharu, Mineshita Masamichi. RET fusion mutation detected by re-biopsy 7 years after initial cytotoxic chemotherapy: A case report. Frontiers in Oncology, 2022; : doi: 10.3389/fonc.2022.1019932.
- 4) Nishiyama Kazuhiro, Morikawa Kei, Shinozaki Yusuke, Ueno Junko, Tanaka Satoshi, Tsuruoka Hajime, Azagami Shinya, Ishida Atsuko, Yanagisawa Nobuyuki, Akashi J. Yoshihiro, Mineshita Masamichi. Electrocardiographic changes in pembrolizumab-induced fatal myocarditis. Frontiers in Immunology, 2023;14 : doi:10.3389/fimmu.2023.1078838.

学会発表

① 国内学会

- 1) 森川慶. 気管支鏡検体等の細胞診検体を使用した肺癌遺伝子マルチパネルの有用性. 第 119 回日本内科学会講演会, 2022.
- 2) 木田博隆. 続発性難治性気胸に対する治療戦略～EWS と胸膜癒着術の併用療法～. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 2022.
- 3) 駒瀬裕子, 粒来崇博, 檜田直也, 大山バク, 峯下昌道. 横浜市西部地域における病診連携の現状、特に連携教育実地医家の専門性に関する検討. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 2022.
- 4) 大山バク, 粒来崇博, 駒瀬裕子, 西由紘, 上野純子, 山口裕礼, 檜田直也, 峯下昌道. 横浜市西部地域における臨床ルパスを用いた気管支喘息病診連携-FENO, FEV1 の推移と関連. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 2022.
- 5) 森川慶. 診断過渡期における検体採取の一工夫～個別化医療均てん化のために～. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 2022.
- 6) 西田皓平, 角田哲人, 棚橋淳子, 半田寛, 西根広樹, 井上健男, 峯下昌道. 結核治療のisoniazid内服により平衡障害、言語障害を来した一例. 第 249 回日本呼吸器学会関東地方会, 2022.
- 7) 鶴岡一, 森川慶, 大川千絵, 島田直樹, 西山和宏, 田中智士, 篠崎勇輔, 木下康平, 峯下昌道. 末梢病変に対する迅速細胞診 (ROSE) を再考する. 第 45 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2022.
- 8) 田中智士, 鶴岡一, 西山和宏, 上野純子, 篠崎勇輔, 森川慶, 半田寛, 峯下昌道. 結核後遺症による気道狭窄に対するインターベンションの 3 例. 第 45 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2022.

- 9) 木田博隆, 西山和宏, 上野純子, 田中智士, 篠崎勇輔, 木下康平, 鶴岡一, 松澤慎, 阿座上真哉, 村岡弘海, 石田敦子, 森川慶, 半田寛, 西根広樹, 井上健男, 峯下昌道. EWS にて治癒し得た有癭性膿胸 3 症例についての検討. 第 45 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2022.
- 10) 森川慶. 呼吸器内視鏡画像診断の最先端～新型 4K 対応システムがもたらす有用性～. 第 45 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2022.
- 11) 半田寛. 寺子屋式症例検討セミナー この症例あなたならどう対応する?: ようこそ, multidisciplinary 症例カンファレンスへ. 第 45 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2022.
- 12) 森川慶, 鶴岡一, 松澤慎, 阿座上真哉, 村岡弘海, 木下康平, 木田博隆, 石田敦子, 半田寛, 西根広樹, 井上健男, 峯下昌道. 気管支洗浄液を使用した遺伝子パネル検査の有用性. 第 45 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2022.
- 13) 西山和宏, 鶴岡一, 沼田雄, 田中智士, 半田寛, 峯下昌道, 宮本康裕. リバース鉗子を用いて硬性気管支鏡下に T-tube 留置を行った一例. 第 45 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2022.
- 14) 森川慶. 実診療での細胞診パネル検査の活用法. 第 45 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2022.
- 15) 峯下昌道. 慢性閉塞性肺疾患に対する気管支鏡治療. 第 45 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2022.
- 16) 篠崎勇輔, 森川慶, 木田博隆, 半田寛, 西根広樹, 井上健男, 峯下昌道. 気管支鏡検査における被験者の酸素化および換気の経時的動態. 第 45 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2022.
- 17) 森川慶, 木田博隆, 半田寛, 西根広樹, 井上健男, 峯下昌道. 気管支鏡検体等の細胞診検体を使用した肺癌コンパクトパネルの有用性. 第 45 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2022.
- 18) 森川慶, 島田直樹, 大川千絵, 木田博隆, 井上健男, 小池淳樹, 峯下昌道. 細胞診パネル検査のため ROSE を再考し再興する. 第 63 回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2022.
- 19) 久保こすみ, 鶴岡一, 森川慶, 半田寛, 遠藤陽, 峯下昌道. 気管支内視鏡所見にて治療効果判定のできた再発性多発軟骨炎(RP; Relapsing polychondritis)の一例. 第 181 回 日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2022.
- 20) 半田寛. 中枢気道狭窄に対する内視鏡治療. 聖マリアンナ医科大学病院第 47 回地域連携 WEB セミナー, 2022.
- 21) 森川慶. 呼吸器疾患における気管支鏡手技の重要性. 第 13 回呼吸器インターベンション実技セミナー, 2022.
- 22) 上野純子, 西由紘, 久保こすみ, 篠崎勇輔, 田中智士, 鶴岡一, 森川慶, 峯下昌道. 詳細な問診が診断の一助となった肺吸虫症の一例. 第 182 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会/第 251 回日本呼吸器学会関東地方会, 2022.
- 23) 西山和宏, 馬場智尚, 織田恒幸, 大川亮太, 西寄雅史, 奥寺康司, 小倉 高志. 肺腺癌から形質転換した EGFR 陽性肺扁平上皮癌に pembrolizumab が奏効した一例. 第 251 回日本呼吸器学会関東地方会, 2022.
- 24) 山口裕礼, 佐々木浩昭, 薄場彩乃, 石田明, 粒来崇博. ベバスチマブ(BV)で心筋傷害を呈したと考えられた肺非小細胞がんの一例. 第 680 回日本内科学会関東地方会, 2022.
- 25) 佐々木浩昭, 山口裕礼, 薄場彩乃, 石田明, 粒来崇博. 新規喘息吸入薬エナジア, アテキュラ 989 例における吸入手技の習得率. 第 71 回日本アレルギー学会学術講演会, 2022.
- 26) 山口裕礼, 佐々木浩昭, 薄場彩乃, 石田明, 粒来崇博. レルベアにて症状が残存する喘息患者をアテキュラの同等ステップで変更した 48 例の検討. 第 71 回日本アレルギー学会学術講演会, 2022.
- 27) 佐々木浩昭, 山口裕礼, 薄場彩乃, 石田明, 粒来崇博. 吸入器テリルジー 365 名における苦味とむせに関する実態調査. 第 71 回日本アレルギー学会学術講演会, 2022.
- 28) 山口裕礼, 佐々木浩昭, 薄場彩乃, 石田明, 粒来崇博. テリルジーにて症状が残存する喘息患者をエナジアの同等ステップで変更した 37 例の検討. 第 71 回日本アレルギー学会学術講演会, 2022.
- 29) 金子省太郎, 鶴岡一, 半田寛, 沼田雄, 田中智士, 木下康平, 峯下昌道. 当院で悪性腫瘍による気道狭窄に対して Cosmotec stent を留置した 11 例. 第 26 回呼吸器インターベンションセミナー, 2022.
- 30) 半田寛, 森川慶, 西根広樹, 峯下昌道, 宮澤輝臣. 気管・気管支結核による気道狭窄の女性 30 年の旅路: 神奈川編. 第 26 回呼吸器インターベンションセミナー, 2022.
- 31) 沼田雄, 鶴岡一, 半田寛, 金子省太郎, 田中智士, 木下康平, 峯下昌道. 当院で Heparinless vv ECMO 下に緊急気道 Stent 留置術を経験した 3 例. 第 26 回呼吸器インターベンションセミナー, 2022.
- 32) 晝間清, 多村悠紀, 棚橋淳子. 異時性交代性に発症したアレルギー性真菌性副鼻腔炎と推定される 1 例. 第 71 回日本アレルギー学会学術集会, 2022.
- 33) 棚橋淳子, 角田哲人, 西田皓平, 今村愉子, 森田翔, 多村悠紀, 晝間清, 半田寛, 西根広樹, 井上健男, 峯下昌道. 重症喘息患者に対する dupilumab 投与間隔延長の現状. 第 71 回日本アレルギー学会学術集会, 2022.
- 34) 森川慶. 肺がんコンパクトパネル -細胞診検体でのパネル検査も可能な All in One を目指して-. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会, 2022.
- 35) 棚橋淳子, 藤井真樹, 白井美江子, 組原寛之, 笠貫浩史, 古茶大樹, 井上ふみ子, 奥瀬千晃, 長島悟郎. COVID-19 患者関連メンタルサポートチーム活動 川崎市立多摩病院における職員への支援. 第 60 回全国自治体病院学会, 2022.

- 36) 古屋直樹, 津端由佳里, 堀田尚誠, 横山俊秀, 山崎正弘, 石川暢久, 藤高一慶, 窪田哲也, 小林国彦, 磯部威. 多施設共同前向き観察研究 Rising-VTE/NEJ037 における進行期肺癌の動脈塞栓症率とリスク因子の検討. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 2022.
- 37) 森川慶. 細胞診検体等を用いた肺がんコンパクトパネルの多機関検証試験. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 2022.
- 38) 森川慶. EGFR mt (+) NSCLC の afatinib バイオマーカー探索前向き観察研究 (EXTRA 試験): 臨床パート第 2 報. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 2022.
- 39) 森川慶. 進行期 EGFR 遺伝子変異陽性肺癌に対する afatinib または osimertinib を一次治療とした無作為化非盲検第 2 相試験. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 2022.
- 40) 森川慶. 細胞診パネル検査の臨床的意義と検体取り扱いの実際. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 2022.
- 41) 森川慶. ハイビジョン気管支鏡の有用性～新規機能をフル活用する意義～. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 2022.
- 42) 郷原佑太, 西田皓平, 角田哲人, 棚橋淳子, 齋木祐輔, 玉井勇人, 峯下昌道. ニューモシスチス肺炎を契機に成人 T 細胞白血病の診断に至った一例. 第 683 回日本内科学会関東地方会, 2022.
- 43) 鶴岡一. 気管内多発結節を呈した三重癌術後再発 (SCLC) の 1 例. 第 183 回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2022.
- 44) 森川慶. 狭帯域光観察 (NBI) で直視下に観察し得た血管内血球動態. 第 183 回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2022.
- 45) 西由紘. CD74-NRG1 融合遺伝子陽性の原発性肺腺癌の気管内再発に対して硬性鏡で core out を繰り返し行い予後が改善した症例. 第 183 回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2022.
- 46) 峯下昌道. 閉塞性肺疾患に対する Bronchoscopic Lung Volume Reduction (BLVR). 第 30 回日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医大会, 2023.
- 47) 西山和宏, 馬場智尚, 織田恒幸, 関根朗雅, 丹羽崇, 山田翔, 大川亮太, 酒寄雅史, 鍋木翔太, 長澤遼, 松村舞依, 奥寺康司, 武村民子, 岩澤多恵, 峯下昌道, 小倉高志. TBLC 後に両側気胸と縦隔気腫を発症した一例. 第 253 回日本呼吸器学会関東地方会, 2023.
- 48) 森川慶. 始動!! 細胞診パネル検査～標準化のための手技～. 第 195 回日本肺癌学会関東支部学術集会, 2023.
- 49) 牧野有花, 駒瀬裕子, 粒来崇博, 田中智士, 大山バク, 檜田直也, 森本耕三, 慶長直人, 土方美奈子, 山田博之. カルタゲナー症候群の一例. 第 685 回日本内科学会関東地方会, 2023.
- 50) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, S. Kurokawa M, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K.. Pyroptosis-apoptosis imbalance affects the severity and chest CT findings in COVID-19. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 2022.
- 51) Furuya Naoki. Randomized P-II/III trial of nivolumab (NIV) vs NIV+docetaxel for previously treated advanced/recurrent NSCLC: TORG1630. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.
- 52) Morikawa Kei. A randomized P2 study of first line afatinib or osimertinib for advanced EGFR-mutant lung cancer (Heat on Beat): Interim report on treatment safety. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.
- 53) Morikawa Kei. Prospective exosome-focused translational research for afatinib study of non-small cell lung cancer patients expressing EGFR (EXTRA study). 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.

② 国際学会

- 1) 森川慶. 気管支鏡の基本と実際 (EBUS-GS). 中外 e セミナー 気管支鏡ハンズオンパッケージ ステップ②, 2023.
- 2) Handa Hiroshi. Changes in Pulmonary Function Test Results and Respiratory Symptoms Before and After Airway Stent Removal. ATS2022, 2022.
- 3) Shibata Y, Matsumoto S, Mori S, Sakai T, Izumi H, Udagawa H, Nosaki K, Zenke Y, Yoh K, Daga H, Tamura A, Sakakibara-Konishi J, Kuyama S, Furuya N, Nakamura A, Shingyoji M, Nishino K, Kato T, Kobayashi S, Goto K.. Co-occurring gene alterations associated with efficacy of osimertinib in EGFR-mutated lung cancer: Based on a large-scale genomic screening project (LC-SCRUM-Asia). ASCO annual meeting 2022, 2022.
- 4) Kawashima Y, Taniguchi Y, Shimokawa T, Takiguchi Y, Misumi T, Nakamura A, Furuya N, Tanaka K, Harada T, Tanaka H, Miura S, Sata M, Kato T, Tokito T, Naoki K, Bessho A, Goto Y, Nakamichi S, Okamoto H.. A randomized phase II/ III trial of nivolumab versus nivolumab plus docetaxel for previously treated advanced or recurrent non-small cell lung cancer: TORG1630. ASCO annual meeting 2022, 2022.
- 5) Naoki Furuya, Satoshi Watanabe, Atsushi Nakamura, Jun Shiihara, Ichiro Nakachi, Hisashi Tanaka, Mika Nakao, Koichi Minato, Masahiro Seike, Shinichi Sasaki, Akira Kisohara, Susumu Takeuchi, Ryoichi Honda, Kei Takamura, Hiroshi Kagamu, Kenichi Yoshimura, Toshiaki Kikuchi, Kunihiro Kobayashi. NEJ043: A phase 2 study of atezolizumab (atezo) plus bevacizumab (bev) plus carboplatin (carbo) plus paclitaxel (pac; ABCP) for previously treated patients with NSCLC harboring EGFR mutations (EGFRm). ASCO annual meeting 2022, 2022.

- 6) Morikawa Kei, Kida Hiroataka, Handa Hiroshi, Inoue Takeo, Mineshita Masamichi. A Prospective Validation Study of Lung Cancer Gene Panel Testing Using Cytological Specimens. IASLC 2022, 2022.
 - 7) Okahisa M, Udagawa H, Matsumoto S, Kato T, Yokouchi H, Furuya N, Kanemaru R, Toyozawa R, Nishiyama A, Ohashi K, Miyamoto S, Nishino K, Oi H, Kah MLG, Zhuo J, Young YD, Yang Y, Lim C, Kleinman NJ, Goto K. Amivantamab vs Real World (RW) Therapies for Advanced Non-small Cell Lung Cancer (aNSCLC) with Epidermal Growth Factor Receptor (EGFR) Exon-20 Insertion Mutation (E20i) in Japan. ESMO congress 2022, 2022.
 - 8) Mineshita Masamichi. Vaccine efficacy in severe COVID-19 patients before and after the Delta variant endemic. ERS International congress 2022, 2022.
 - 9) Furuya Naoki, Sumei Lu, Tamio Okimoto, Yi Wang, No Joon Song, Anqi Li, Hong Dong, Bao Zhao, Ju Hwan Cho, David Carbone, Zihai Li, Haitao Wen, Kai He. AIM2 modulates azacytidine-induced antitumor immunity in lung cancer. 37th SITC Annual Meeting, 2022.
 - 10) Tanahashi Junko, Nishida Kohei, Tsunoda Akihito, Handa Hiroshi, Nishine Hiroki, Inoue Takeo, Mineshita Masamichi. Monoclonal Antibodies for Severe Asthma: Current Status for the Treatment for Asthma During the COVID-19 pandemic. 第31回国際喘息学会日本・北アジア部会, 2022.
- ③ その他
- 1) 峯下昌道. 聖マリアンナ医科大学におけるコロナ禍の呼吸器診療：肺がん治療を中心に. 宮前高津呼吸器連携セミナー, 2022.
 - 2) 森川慶. 当院における肺癌遺伝子検査と治療戦略について. MercExpertForum in Tama, 2022.
 - 3) 森川慶. 気管支鏡検査に求められる診断精度～安全かつ確実な検体採取のために～. 気管支鏡オンラインセミナー, 2022.
 - 4) 棚橋淳子. 当院における重症喘息治療. Type2 Inflammation Cross-link Seminar, 2022.
 - 5) 森川慶. 進展型小細胞肺癌の Best Practice. AstraZeneca Lung Cancer Conference in Kanagawa, 2022.
 - 6) 棚橋淳子. それぞれの病院における喘息治療の課題と地域医療とは. Asthma Expert & Primary Care Meeting -喘息治療の均てん化に向けたプライマリケアと地域医療-, 2022.
 - 7) 棚橋淳子. より良い治療をめざした COPD の吸入薬選択. 多摩区吸入療法セミナー, 2022.
 - 8) 森川慶. 肺末梢病変に対する ROSE の適応と実績. Respiratory Endoscopy Technical Web Seminar, 2022.
 - 9) 駒瀬裕子. 病診・病薬連携で対応する重症喘息患者～抗体製剤の使用を中心に. 西部地区重症喘息患者を支える連携の会, 2022.
 - 10) 森川慶. ALK 陽性 NSCLC 治療の最前線～1 次治療はどう変わるか～. ALUNBRIG 1st anniversary WEB Seminar, 2022.
 - 11) 半田寛. 重症喘息治療における生物学的製剤の IC について. 第 44 回西横浜喘息・COPD 懇話会, 2022.
 - 12) 村岡弘海. 吸入指導に関して. 聖マリアンナ医科大学病院 病院と薬局の顔が見える会, 2022.
 - 13) 森川慶. EGFR 変異陽性肺癌の治療展望～高感度 NGS から判る病態と EXTRA 試験臨床パート結果～. Lung Cancer Web Academy, 2022.
 - 14) 鶴岡一. 喘息診療のピットフォール. Lecture for young physicians in respiratory medicine, 2022.
 - 15) 森川慶. 肺末梢病変に対する ROSE の適応と実績. 中外 e セミナー 気管支鏡ハンズオンパッケージステップ①, 2022.
 - 16) 篠崎勇輔. 気管支鏡検査における被検者の換気および酸素化の経時的動態. 多摩川呼吸器ミーティング 2022, 2022.
 - 17) 駒瀬裕子. 感染流行時の吸入支援とデバイス選択について. COPD web seminar in Kanagawa, 2022.
 - 18) 木下康平. 肺末梢病変に対する凍結生検の有用性. 第 46 回 KRC, 2022.
 - 19) 森川慶. 最新のエビデンスを臨床にどう活かすか?. Lung cancer Meeting, 2022.
 - 20) 駒瀬裕子. 重症喘息の治療戦略～病診・病薬連携を通じて地域を一つの病院に～. SANOFI Type2 Forum in Yokohama, 2022.
 - 21) 森川慶. 実臨床での ICI の使いどころ・効果と安全性 ～進行期から周術期まで～. 第 3 回 Respiratory Endoscopy Technical Web Seminar, 2022.
 - 22) 森川慶. 個別化医療とシークエンス治療の深化. マリアンナ肺癌化学療法セミナー, 2022.
 - 23) 駒瀬裕子. 横浜市西部地区におけるクリニカルパスを用いた気管支喘息病診連携の現実. 第 20 回 KINKI HOKURIKU AIRWAY disease CONFERENCE, 2022.
 - 24) 駒瀬裕子. COVID19 流行下における吸入支援～何に注意すべきか、それが問題だ. これからの喘息治療を考える会, 2022.
 - 25) 森川慶. ALK 陽性 NSCLC 治療のベストシークエンスを考える. ALUNBRIG 1st anniversary WEB Seminar, 2022.
 - 26) 森川慶. 扁平上皮癌の病態と治療の展望. 肺がん Web カンファレンス in Kanagawa, 2022.
 - 27) 森川慶. 気管支鏡の基本と実際 (EBUS-GS). 中外 e セミナー 気管支鏡ハンズオンパッケージステップ②, 2022.
 - 28) 森川慶. EGFR 変異陽性肺癌の治療展望～高感度 NGS から判る病態と EXTRA 試験臨床パート結果～. 肺癌分子標的治療セミナー, 2022.

- 29) 村岡弘海. コロナ禍における気管支鏡検査の実際. 第2回川崎・横浜北部 Young Professional Academy on respiratory diseases, 2022.
- 30) 駒瀬裕子. コロナ共生時代の喘息治療. Asthma Web Seminar in 新横浜, 2022.
- 31) 森川慶. 気管支鏡の基本と実際 (EBUS-GS). 中外 e セミナー 気管支鏡ハンズオンパッケージステップ③, 2022.
- 32) 駒瀬裕子. COVID19 いまだ流行中だからこそ必要な喘息治療の強化と吸入支援. コロナ禍での吸入指導 Seminar, 2022.
- 33) 半田寛. 聖マリアンナ医科大学呼吸器内科の取り組み. 喘息医療連携 WEB セミナー in 川崎医療圏, 2022.
- 34) 駒瀬裕子. COVID19 いまだ流行中だからこそ必要な喘息治療の強化と吸入支援. COVID19 禍の喘息治療最前線 Asthma Frontier Meeting @ 日立, 2022.
- 35) 半田寛. 社員教育企画. 社内教育研修, 2022.
- 36) 峯下昌道. 重症喘息治療の課題と今後の発展. KAWASAKI Severe Asthma Seminar, 2022.
- 37) 森川慶. ALK 陽性非小細胞肺癌のベストシークエンス～ALK-TKI からつなぐバトン～. Lung Cancer Experts Webinar in SAITAMA, 2022.
- 38) 駒瀬裕子. 特徴的な画像から疾患を考える. 神奈川学生画像診断セミナー, 2022.
- 39) 棚橋淳子. 重症喘息の治療と好酸球. 好酸球 week TV symposium Series11, 2022.
- 40) 森川慶. 気管支鏡の観察深度の違い. 第5回 Respiratory Endoscopy Technical Web Seminar, 2022.
- 41) 半田寛. COPD 患者の健康寿命から新しい治療戦略を考える. ZERO Symposium from 川崎, 2022.
- 42) 森川慶. 既治療進行非小細胞肺癌の治療戦略. KAWASAKI Lung Cancer Seminar, 2022.
- 43) 森川慶. 当院における NIVO+IPI の使用経験と使いどころ. IO-IO Combination NSCLC Web Seminar, 2022.
- 44) 峯下昌道. 慢性閉塞性肺疾患について. 星総合病院特別講演会, 2022.
- 45) 駒瀬裕子. 多職種で行う理想的な吸入支援と実際. Entezair National Symposium, 2022.
- 46) 森川慶. 「安全」かつ「低侵襲」な気管支鏡検査の実際. 第7回肺癌免疫療法セミナー, 2022.
- 47) 篠崎勇輔. 気管支鏡における被験者の換気および酸素化の経時的動態. 第19回川崎・横浜呼吸器フォーラム, 2022.
- 48) 駒瀬裕子. 多職種連携で挑む・重症喘息マネージメント. 医師・看護師対象 web 講演会 重症喘息のマネージメント, 2022.
- 49) 森川慶. 肺末梢病変に対する EBUS-GS 法. 中外 e セミナー 気管支鏡ハンズオンパッケージ ステップ①, 2022.
- 50) 駒瀬裕子. ガイドラインの改訂と吸入支援. 吸入療法ステップアップセミナー, 2022.
- 51) 森川慶. 肺癌の遺伝子検査について. Young Thoracic Oncology Seminar in Tokai, 2022.
- 52) 森川慶. 気管支鏡の基本と実際 (EBUS-GS). 中外 e セミナー 気管支鏡ハンズオンパッケージ ステップ②, 2022.
- 53) 粒来崇博. 横浜市西部地区における双方向クリニカルパスを用いた気管支喘息病診連携の現状. 横浜市西部喘息診療連携を考える会, 2022.
- 54) 井上健男. 遠隔 EBUS-TBNA トレーニング. 遠隔 EBUS-TBNA トレーニング, 2022.
- 55) 森川慶. ALK 陽性 NSCLC 治療の治療戦略. Lung Cancer Webinar in Kanagawa, 2022.
- 56) 駒瀬裕子. 地域医療連携で守る ILD 患者の QOL と予後. 旭区医師会間質性肺炎セミナー, 2022.
- 57) 森川慶. 気管支鏡の基本と実際 (EBUS-GS) ～モデル演習～. 中外 e セミナー 気管支鏡ハンズオンパッケージ ステップ③, 2022.
- 58) 駒瀬裕子. 地域医療連携で守る ILD 患者の QOL と予後. 間質性肺炎 web セミナー, 2022.
- 59) 森川慶. 肺末梢病変に対する EBUS-GS 法. 中外 e セミナー 気管支鏡ハンズオンパッケージ ステップ①, 2023.
- 60) 森川慶. 肺末梢病変に対する EBUS-GS 法. 中外 e セミナー 気管支鏡ハンズオンパッケージ ステップ①, 2023.
- 61) 鶴岡一. ALK 陽性 NSCLC の施設の現状. ALK Lung Cancer Webinar, 2023.
- 62) 森川慶. ALK 陽性非小細胞肺癌脳転移症例の臨床背景と治療戦略. Lung Cancer Webinar, 2023.
- 63) 森川慶. ALK 陽性肺癌脳転移症例の臨床背景と最適な治療法. Lung Cancer Symposium, 2023.
- 64) 森川慶. 気管支鏡の基本と実際 (EBUS-GS). 中外 e セミナー 気管支鏡ハンズオンパッケージ ステップ②, 2023.
- 65) 駒瀬裕子. 咳と気管支喘息の深い関係. Kyorin Asthma Webinar, 2023.
- 66) 森川慶. 気管支鏡の基本と実際 (EBUS-GS). 中外 e セミナー 気管支鏡ハンズオンパッケージ ステップ③, 2023.
- 67) 森川慶. 気管支鏡の基本と実際 (EBUS-GS) ～モデル実演～. 中外 e セミナー 気管支鏡ハンズオンパッケージ ステップ③, 2023.
- 68) 森川慶. 気管支鏡の基本と実際 (EBUS-GS). 中外 e セミナー 気管支鏡ハンズオンパッケージ ステップ③, 2023.
- 69) 駒瀬裕子. 吸入療法支援から考える呼吸困難と身体不活動性を考える. 第二回湘南・医療と在宅呼吸管理勉強会, 2023.
- 70) 半田寛. 間質性肺疾患の診断と治療. 間質性肺疾患 Web アカデミー, 2023.
- 71) 峯下昌道. COPD に対する気管支鏡的肺容量減量術. 第40回 Tokyo Lung Conference U40 ～COPD の非薬物療法～, 2023.
- 72) 駒瀬裕子. 抗体製剤導入のコツと患者支援. 第4回友好の会, 2023.

- 73) 棚橋淳子. 喘息治療のアップデート ～トリプルの使いどころ～. GSK 喘息 WEB セミナー, 2023.
- 74) 西根広樹. 安定期 COPD に対するハイフローセラピーの使用経験. 在宅 HFNC/NPPV Meet The Expert, 2023.
- 75) 鶴岡一. COPD 吸入指導連携の理想と現実からエアロスフィアの特徴と必要性～. 川崎北部, 2023.
- 76) 村岡弘海. 吸入指導の処方箋記載方法や新しい電子カルテシステムについて. 川崎北部吸入指導連携会, 2023.
- 77) 駒瀬裕子. 重症喘息 one more point. 明日からの治療に！重症喘息を考える会, 2023.
- 78) 森川慶. ドライバー陽性 NSCLC：個別化医療を進めるマルチ遺伝子検査の New Wave. Precision Medicine For Lung Cancer 2023, 2023.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著	4	18
	解説又は総説	4	
	症例報告		4
	その他	5	
学会発表	国内学会	49	4
	国際学会	1	9
	その他	78	

内科学（循環器内科）

著書

- 1) 出雲昌樹. 今さら聞けない病態別評価法 Paradoxical low-flow low-gradient AS の評価の仕方を教えてください 新 今さら聞けない心エコー図 2022; (1):132-133.
- 2) 出雲昌樹. 今さら聞けない検査法 運動負荷心エコー図検査の適応と禁忌を教えてください 新 今さら聞けない心エコー図 2022; (1):218-219.
- 3) 出雲昌樹. 今さら聞けない検査法 ドブタミン負荷心エコー図検査の適応と禁忌を教えてください 新 今さら聞けない心エコー図 2022; (1):220-222.
- 4) 出雲昌樹. 僧帽弁閉鎖不全症/僧帽弁逆流 (Mitral Regurgitation: MR) エキスパートを目指す 心臓弁膜症診療ハンドブック 2022; (1):106-123.
- 5) 鈴木知美, 出雲昌樹. SHD インターベンションパート シェント疾患 卵円孔開存(PFO) 病態生理と解剖 PCI・EVT・SHD インターベンション スペシャルハンドブック 2023;:229-229.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 小林侑里, 根本慎司, 笠原西介, 渡辺敏, 武市尚也, 吉沢和也, 渡邊紗都, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 藤村健, 鈴木規雄, 長田尚彦, 足利光平, 木田圭亮, 明石嘉浩. 退院時に身体的フレイルまたはプレフレイルを呈する高齢心不全患者の臨床的特徴. 心臓リハビリテーション, 2022;28(2):197-203.
- 2) 石垣彩, 桑田真吾, 佐藤如雄, 出雲昌樹, 石橋祐記, 明石嘉浩. 妊婦に発症した感染性心内膜炎に対する治療戦略. Therapeutic Research, 2022;43(7):574-577.
- 3) 藤村健, 武市尚也, 笠原西介, 吉沢和也, 根本慎司, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 渡辺敏, 足利光平, 出雲昌樹, 木田圭亮, 明石嘉浩. 経カテーテル的大動脈弁置換術後の日常生活動作能力維持に関連する因子の検討. 心臓リハビリテーション, 2022;28(3・4):269-274.
- 4) 藤村健, 武市尚也, 笠原西介, 吉沢和也, 根本慎司, 赤尾圭吾, 桑村雄偉, 渡辺敏, 足利光平, 出雲昌樹, 木田圭亮, 明石嘉浩. 経カテーテル的大動脈弁置換術後の日常生活動作能力維持に関連する因子の検討. 心臓リハビリテーション, 2022;28(3・4):269-274.

② 総説又は症例解説

- 1) 桑田真吾. 【いま,これだけは押さえない弁膜症診療】治す 三尖弁閉鎖不全症に対するインターベンション治療. Heart View, 2022;26(4):102-106.
- 2) 木田圭亮, 具原俊樹, 佐々木信幸. 【第4次産業革命がもたらすリハビリテーション医療のこれから】遠隔心臓リハビリテーション治療の現状と課題. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2022;59(4):377-384.
- 3) 古川俊行. 【マイナーエマージェンシー 外来診療・一人当直に強くなる! いざというときの対処法】内科的 minor emergency 反射性失神(神経調節性失神). Medical Practice, 2022;39(臨時増刊号):103-105.
- 4) 木田圭亮, 村田理沙子. 特集エネルギー代謝 心不全のエネルギー代謝. リハビリテーション栄養, 2022;6(1):44-49.
- 5) 笠原西介, 井澤和夫, 武市尚也, 根本慎司, 鈴木規雄. 【内部障害患者の緩和ケアにおける理学療法士の役割】心臓病患者の緩和ケアにおける理学療法士の役割. 理学療法, 2022;39(5):398-409.
- 6) 伊野美幸, 望月篤, 信岡祐彦, 黄世捷, 東郷建, 松本伸行. 【精神科医療における女性医師の役割と期待】医学部教育の視点から 現行の医学部教育および大学の女性医師支援について. 精神科治療学, 2022;37(5):525-531.
- 7) 黄世捷, 伊佐早健司. 脳神経内科領域における医学教育の展望 Post/with コロナ時代を見据えて(Vol.10) DX時代の病院と臨床教育の実践. BRAIN and NERVE: 神経研究の進歩, 2022;74(6):819-821.
- 8) 古賀将史, 田邊康宏. 【SHD カテーテル治療の現状を知ろう 教育から適応, 治療まで】治す TAVI で治す: 大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療の最前線. Heart View, 2022;26(7):716-722.
- 9) 古川俊行. 【迷走神経の不思議】血管迷走神経性失神. BRAIN and NERVE, 2022;74(8):965-969.
- 10) 黄世捷, 木田圭亮. 【図でわかる! ケアに役立つ! 循環器のくすり 作用&要チェックポイント】はじめに(基礎編). ハートナーシング, 2022;35(8):6-9.
- 11) 鈴木規雄, 木田圭亮, 土井駿一, 明石嘉浩. 老年栄養-高齢者の低栄養, フレイル, サルコペニア【疾患と栄養ケア 慢性心不全の栄養障害・栄養ケア. 内科, 2022;130(2):203-208.
- 12) 木田圭亮, 鈴木規雄. 【低栄養の世界的診断基準 GLIM criteria GLIM 基準[Global Leadership Initiative on Malnutrition]】GLIM 基準を心不全診療に生かす. 外科と代謝・栄養, 2022;56(4):113-117.

- 13) 明石嘉浩. 【心不全 心不全パンデミックをどう乗り越えるか?】新しい心不全治療の考え方 心臓リハビリテーションの重要性 運動・生活指導・カウンセリング. Medical Practice, 2022;39(9) : 1387-1392.
- 14) 木田圭亮, 鈴木規雄, 佐々木信幸. 【Onco-Cardiology Update】治す 今後の腫瘍循環器診療の展望 腫瘍循環器リハビリテーションの可能性. Heart View, 2022;26(10) : 1006-1013.
- 15) 栗田真吾. 【予防を科学する：炎症細胞社会学】最先端医療の今 三尖弁閉鎖不全症に対する治療最適時期を運動負荷心エコー検査で探る. Medical Science Digest, 2022;48(11) : 39-41.
- 16) 若林秀隆, 前田圭介, 百崎良, 小蔵 要司, 吉村芳弘, 藤原大, 小坂鎮太郎, 鈴木規雄. リハビリテーション栄養における診断推論 日本リハビリテーション栄養学会によるポジションペーパー. リハビリテーション栄養, 2022;6(2) : 267-276.
- 17) 樋熊拓未. 【急性心筋梗塞の至適再灌流療法-病態ごとの治療原則を整理し, 次の緊急 PCI に備える-】心筋梗塞に至った各病態のアセスメントと至適なインターベンション 内臓びらんに関連する血栓閉塞. Coronary Intervention, 2022;18(6) : 21-25.
- 18) 木田圭亮, 鈴木規雄, 佐々木信幸. リハビリテーションと薬剤 リハビリテーションにおける疾患・病態に応じた薬剤管理(2) 心不全. Journal of Clinical Rehabilitation, 2022;31(14) : 1432-1437.
- 19) 田邊康宏. 太田論文に対する Editorial Comment. 心臓, 2022;54(12) : 1370.
- 20) 塩川則子, 出雲昌樹. 【Point of care ultrasoundを循環器診療に活かす】治す カテーテル治療に反映する. Heart View, 2023;27(2) : 172-177.
- 21) 佐藤如雄, 出雲昌樹. 【心不全パンデミック時代に求められる心エコーとは】これって心不全の原因ですか? 心房細動に合併した MR と TR. 心エコー, 2023;24(2) : 176-182.
- 22) 明石嘉浩. 【ST 上昇型心筋梗塞 update】急性期からの心臓リハビリテーション. 循環器内科, 2023;93(3) : 286-292.
- 23) 栗田真吾. 右心系カテーテルインターベンション治療の進歩 経皮的三尖弁植込み術とその他の三尖弁治療. 心臓, 2023;55(3) : 226-230.

③ 症例報告

- 1) 富樫大輔, 原田智雄, 中島育太郎, 須知太郎, 中山由衣, 佐々木憲一, 明石嘉浩, 高野誠, 松田央郎, 鈴木文男. 心外膜 必須緩徐伝導路を両方向に旋回し血行動態破綻をきたす心室頻拍のアブレーションに成功した HIV 関連心筋症の 1 例. 臨床心臓電気生理, 2022;45 : 53-61.
- 2) 村松和樹, 土井駿一, 田邊康宏, 佐藤如雄, 栗田真吾, 御手洗敬信, 出雲昌樹, 石橋祐記, 原田智雄, 明石嘉浩. 僧帽弁閉鎖不全症、大動脈弁狭窄症による重症心不全に合併した Heyde 症候群に対して経皮的僧帽弁接合不全修復術、経皮的動脈弁植込み術を施行し改善が得られた 1 例. 心臓, 2022;54(6) : 714-719.
- 3) 伊藤伸悟, 水越慶, 古藤弾, 中西亨, 笠原みづほ, 桑田真吾, 高野誠, 松田央郎, 水野幸一, 出雲昌樹, 石橋祐記, 明石嘉浩. 心不全入院を繰り返した心房性機能性僧帽弁閉鎖不全症に対して経皮的僧帽弁接合不全修復術 MitraClip が奏効した 1 例. Therapeutic Research, 2022;43(7) : 569-573.
- 4) 松田迪, 奥山和明, 鮫島未奈, 若林隼人, 土井駿一, 佐藤如雄, 鈴木規雄, 中島育太郎, 原田智雄, 明石嘉浩. 心原性ショックに対して IMPELLA 補助下での VT アブレーションが奏効した 1 例. Therapeutic Research, 2022;43(7) : 565-568.
- 5) 渡邊紗都, 八木麻衣子, 赤尾圭吾, 田中修, 長田尚彦, 太田明雄. COVID-19 肺炎重症管理後の自宅退院までのリハビリテーションを経験した 2 症例. 日本臨床生理学会雑誌, 2022;52(3) : 129-135.

④ その他

- 1) 明石嘉浩. 岡田論文に対する Editorial Comment. 心臓, 2022;54(5) : 578-579.
- 2) 栗田真吾, 出雲昌樹. 【エキスパートがお答えします! 日常臨床のあるあるの疑問】(第 1 章)循環器 MitraClip の適応となるのはどのような人でしょうか?. 内科, 2022;130(3) : 364-368.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Matsuda Hisao, Nakayama Yui, Noda Airi, Nakanishi Toru, Koto Dan, Kasahara Mizuho, Warisawa Takayuki, Mizukoshi Kei, Takano Makoto, Mizuno Koichi, Kasagawa Akira, Suchi Tarou, Togashi Daisuke, Nakajima Ikutarou, Sasaki Kenichi, Miyazaki Hidekazu, Furukawa Toshiyuki, Harada Tomoo, Akashi Yoshihiro J. Enlarged left ventricular diastolic dimension does not predict irreversible left ventricular systolic function in patients with atrial arrhythmia. International Journal of Clinical Cardiology, 2022;9(2) : DOI:10.23937/2378-2951/1410252.

- 2) Mori Hiroyoshi, Mizukami Takuya, Maeda Atsuo, Fukui Kazuki, Akashi Yoshihiro, Ako Junya, Ikari Yuji, Ebina Toshiaki, Tamura Kouichi, Namiki Atsuo, Michishita Ichiro, Kimura Kazuo, Suzuki Hiroshi. A Japanese dose of prasugrel versus a standard dose of clopidogrel in patients with acute myocardial infarction from the K-ACTIVE registry. *Journal of Clinical Medicine*, 2022;11(7) : 2016–doi: 10.3390/jcm11072016..
- 3) Dukkupati Srinivas R, Nakamura Tomofumi, Nakajima Ikutaro, Oates Connor, Narui Ryohsuke, Tanigawa Shinichi, Sljapic Tatjana, Whang William, Koruth Jacob S, Choudry Subbarao, Schaeffer Benjamin, Fujii Akira, Tedrow Usha B, Sapp John L, Stevenson William G, Reddy Vivek Y. Intramural Needle Ablation for Refractory Premature Ventricular Contractions. *Circulation Arrhythmia and Electrophysiology*, 2022;15(5) : e010020.
- 4) Kaihara Toshiki, Intan-Goey Valent, Scherrenberg Martijn, Falter Maarten, Frederix Ines, Dendale Paul. Impact of activity trackers on secondary prevention in patients with coronary artery disease: a systematic review and meta-analysis. *European Journal of Preventive Cardiology*, 2022;29(7) : 1047–1056.
- 5) Warisawa Takayuki, Kawase Yoshiaki, Itakura Ryosuke, Akashi Yoshihiro J, Matsuo Hitoshi. Pinhole perforation of polyurethane membrane-covered stent detected by optical coherence tomography. *JACC Cardiovascular Interventions*, 2022;15(10) : 1089–1091.
- 6) Mori Hiroyoshi, Fukui Kazuki, Maeda Atsuo, Akashi Yoshihiro, Ako Junya, Ikari Yuji, Ebina Toshiaki, Tamura Kouichi, Namiki Atsuo, Michishita Ichiro, Kimura Kazuo, Suzuki Hiroshi. Impact of atrial fibrillation and the clinical outcomes in patients with acute myocardial infarction from the K-ACTIVE registry. *Journal of Cardiology*, 2022;79(6) : 768–775.
- 7) Kida Keisuke, Nabeta Takeru, Ishida Miwa, Shiono Takaaki, Suzuki Norio, Doi Shunichi, Tsukahara Maya, Ohta Yuki, Kimura Tetsuya, Morishima Yoshiyuki, Takita Atsushi, Matsumoto Naoki, Akashi Yoshihiro J, Ako Junya, Inomata Takayuki. D-dimer levels in patients with nonvalvular atrial fibrillation and acute heart failure treated with edoxaban. *Journal of Cardiology*, 2022;79(6) : 759–767.
- 8) Ashikaga Kohei, Yoneyama Kihei, Musha Haruki, Akashi J Yoshihiro, Kawahara Takashi. Association of electrographic left ventricular hypertrophy with incident hypertension among the Tokyo 1964 Olympic athletes: a 50-year follow-up study. *Sports Sciences for Health*, 2022;18(2) : 517–523.
- 9) Sasaki Kenichi, Togashi Daisuke, Nakajima Ikutaro, Suchi Taro, Nakayama Yui, Harada Tomoo, Akashi Yoshihiro J.. Clinical outcomes of non-atrial fibrillation bradyarrhythmias treated with a ventricular demand leadless pacemaker compared with an atrioventricular synchronous transvenous pacemaker – A propensity score-matched analysis. *Circulation Journal*, 2022;86(8) : 1283–1291.
- 10) Falter Maarten, Scherrenberg Martijn, Driesen Karen, Pieters Zoe, Kaihara Toshiki, Xu Linqi, Caiani Enrico Gaiani, Castiglioni Paolo, Faini Andrea, Parati Gianfranco, Dendale Paul. Smartwatch-based blood pressure measurement demonstrates insufficient accuracy. *Frontiers in Cardiovascular Medicine*, 2022;9 : 958212.
- 11) Sato Takao, Goto Sonoka, Kishi Shohei, Yamaguchi Kohei, Warisawa Takayuki, Kozuki Amane, Toshihiro Suga, Tsuchida Keiichi, Yokoi Hirokazu, Kazuya Kawai, Akazawa Kohei, Aizawa Yoshifusa. Predictors and outcomes of ischemia-driven target lesion revascularization in deferred lesion based on fractional flow reserve: a multi-center retrospective cohort study. *Cardiovascular Diagnosis and Therapy*, 2022;12(4) : 485–494.
- 12) Onishi Hirokazu, Naganuma Toru, Izumo Masaki, Ouchi Toru, Yuki Haruhito, Mitomo Satoru, Nakamura Sunao. Prognostic relevance of B-type natriuretic peptide in patients with moderate mixed aortic valve disease. *ESC Heart Failure*, 2022;9(4) : 2474–2483.
- 13) Kuwata Shingo, Izumo Masaki, Shiokawa Noriko, Sato Yukio, Kamijima Ryo, Doi Shunichi, Kameshima Haruka, Kaihara Toshiki, Koga Masashi, Okuyama Kazuaki, Tanabe Yasuhiro, Harada Tomoo, Ishibashi Yuki, Akashi Yoshihiro J. Prognostic impact of right ventricular dysfunction following transcatheter mitral valve repair. *Journal of Transcatheter Valve Therapies*, 2022;4(1) : 9–16.
- 14) Iwano Hiroyuki, Utsunomiya Hiroto, Shibayama Kentaro, Tanaka Hidekazu, Isotani Akihiro, Onishi Toshinari, Obokata Masaru, Izumo Masaki, Kusunose Kenya, Furukawa Atsuko, Yamada Masahiro, Kitai Takeshi, Onishi Tetsuuri, Yamamoto Masayoshi, Sasaki Shunsuke, Nochioka Kotaro, Ito Yoichi M, Anzai Toshihisa. Results of prospect trial to elucidate the utility of echocardiography-based cardiac output in acute heart failure (PREDICT). *Journal of Cardiology*, 2022;80(3) : 218–225.
- 15) Ashikaga Kohei, Yoneyama Kihei, Hirayama Kuniaki, Suzuki Tatsuhiko, Muroi Ryota, Inoue Rumiko, Ishibashi Yuki, Nakase Junsuke, Takeda Hideaki, Fujiya Hiroto. Medical care provision at the venue of the weightlifting event of the Tokyo 2020 Olympic Games. *Sport Sciences for Health*, 2022;18(3) : 847–852.

- 16) Jujo Satoshi, Sakka Brandan I, Lee-Jayaram Jannet J, Kataoka Akihisa, Izumo Masaki, Kusunose Kenya, Nakahira Atsushi, Oikawa Sayaka, Kataoka Yuki, Berg Benjamin W. Medical student medium-term skill retention following cardiac point-of-care ultrasound training based on the American Society of Echocardiography curriculum framework. *Cardiovascular Ultrasound*, 2022;20(1) : 26.
- 17) Watanabe Yusuke, Hayashida Kentaro, Yamamoto Masanori, Yamanaka Futoshi, Yamasaki Kazumasa, Naganuma Toru, Ohno Yohei, Yamawaki Masahiro, Morioka Nobuyuki, Mizutani Kazuki, Tada Norio, Ueno Hiroshi, Nishina Hidetaka, Izumo Masaki, Nakajima Yoshifumi, Ando Kenji, Takagi Kensuke, Kimura Tetsuya, Sugio Kumiko, Dangas George, Van Mieghem Nicolas M, Hengstenberg Christian, Chen Cathy, Jin James, Unverdorben Martin, Saito Shigeru. Edoxaban vs. vitamin K antagonist for atrial fibrillation after transcatheter aortic valve replacement in Japanese patients – A subanalysis of the ENVISAGE-TAVI AF trial. *Circulation Journal*, 2022;86(11) : 1756-1763.
- 18) Takaya Yoichi, Akagi Teiji, Hara Hidehiko, Kanazawa Hideaki, Ikari Yuji, Isotani Akihiro, Shirai Shinichi, Kubo Shunsuke, Morikawa Takao, Naganuma Toru, Saji Mike, Kuwata Shingo, Hiasa Go, Watanabe Yusuke, Yamawaki Masahiro, Imai Masao, Matsumoto Takashi, Yamamoto Masanori, Murakami Tsutomu, Asami Masahiko, Mizote Isamu, Okai Tsukasa, Bota Hiroki, Ito Hiroshi. Iatrogenic atrial septal defect requiring transcatheter closure following transcatheter mitral valve repair. *Circulation Journal*, 2022;86(11) : 1740-1744.
- 19) Miyake Makoto, Takegami Misa, Obayashi Yuki, Amano Masashi, Kitai Takeshi, Fujita Tomoyuki, Koyama Tadaaki, Tanaka Hidekazu, Ando Kenji, Komiya Tatsuhiko, Izumo Masaki, Kawai Hiroya, Eishi Kiyoyuki, Yoshida Kiyoshi, Kimura Takeshi, Nawada Ryuzo, Sakamoto Tomohiro, Shibata Yoshisato, Fukui Toshihiro, Minatoya Kenji, Tsujita Kenichi, Sakata Yasushi, Kimura Tetsuya, Sugio Kumiko, Takita Atsushi, Iwakura Atsushi, Tamura Toshihiro, Nishimura Kunihiro, Furukawa Yutaka, Izumi Chisato. Comparison of direct oral anticoagulants and warfarin in patients with atrial fibrillation and an aortic bioprosthetic valve. *Circulation Journal*, 2022;86(11) : 1699-1707.
- 20) Shimamura Toshio, Izumo Masaki, Sato Yukio, Shiokawa Noriko, Uenomachi Nina, Miyauchi Motoki, Miyamoto Junko, Kikuchi Hidekazu, Shinoda Junko, Okamura Takanori, Akashi Yoshihiro J. Additive value of the right parasternal view for the assessment of aortic stenosis. *Echocardiography*, 2022;39(10) : 1338-1343.
- 21) Nemoto Shinji, Kasahara Yusuke, Izawa Kazuhiro P, Watanabe Satoshi, Yoshizawa Kazuya, Takeichi Naoya, Akao Keigo, Watanabe Sato, Mizukoshi Kei, Suzuki Norio, Ashikaga Kohei, Kida Keisuke, Osada Naohikok, Akashi Yoshihiro J. Relevant factors of leg strength at hospital discharge in patients hospitalized due to acute decompensated heart failure: multi-institutional prospective observational study. *European Journal of Cardiovascular Nursing*, 2022;21(7) : 741-749.
- 22) Shimizu Yuuki, Kondo Kazuhisa, Hayashida Ryo, Sasaki Ken-Ichiro, Ohtsuka Masanori, Fukumoto Yoshihiro, Takashima Shinichiro, Inoue Oto, Usui Soichiro, Takamura Masayuki, Sakuma Masashi, Inoue Teruo, Nagata Tokuichiro, Akashi Yoshihiro J, Yamada Yoshihiro, Kato Tamon, Kuwahara Koichiro, Tateno Kaoru, Kobayashi Yoshio, Shibata Rei, Murohara Toyoaki; TACT-ADRC multicenter trial Group. Therapeutic angiogenesis for patients with no-option critical limb ischemia by adipose-derived regenerative cells: TACT-ADRC multicenter trial. *Angiogenesis*, 2022;25(4) : 535-546.
- 23) Scherrenberg Martijn , Bonneux Cindel, Falter Maarten, Hansen Dominique, Mahmood Deeman, Kaihara Toshiki, Xu Linqi, Jaeken Elaine, Schols Lotte, Kindermans Hanne, Coninx Karin , Dendale Paul. Smartphone-based 6-minute walking test while walking in the park: bringing physical fitness monitoring to the patient's hands. *European Journal of Preventive Cardiology*, 2022;29(15) : e350-e352.
- 24) Yamazaki Hiroshi, Tanabe Yasuhiro, Ishibashi Yuki, Akashi Yoshihiro J. Quantitative evaluations of thrombus burden in acute pulmonary thromboembolism by contrast-enhanced CT: association between thrombus location and right heart strain and its changes with direct oral anticoagulant treatment. *日本臨床生理学会雑誌*, 2022;52(5) : 171-180.
- 25) Ashikaga Kohei, Itoh Haruki, Maeda Tomoko, Itoh Hidetaka, Tanaka Shiori, Ichikawa Yuri, Nagayama Masatoshi, Akashi Yoshihiro, Isobe Mitsuaki. Usefulness of the predicted percentage ventilatory efficiency for carbon dioxide output during exercise in patients with chronic heart failure. *Heart and Vessels*, 2023;38(1) : 56-65.
- 26) Takano Makoto, Matsuda Hisao, Harada Tomoo, Akashi J Yoshihiro. The impact of novel active fixation left ventricular leads and conventional passive fixation leads in cardiac resynchronization therapy. *International Journal of Clinical Cardiology*, 2023;10(1) : DOI: 10.23937/2378-2951/1410273.

- 27) Okumura Y, Nagashima K, Watanabe R, Yokoyama K, Kato T, Fukaya H, Hayashi H, Nakahara S, Shimizu W, Iwasaki YK, Fujimoto Y, Mukai Y, Ejima K, Otsuka T, Suzuki S, Murakami M, Kimura M, Harada M, Koyama J, Okamatsu H, Yamane T, Yamashita S, Tokuda M, Narui R, Takami M, Shoda M, Harada Tomoo, Nakajima Ikutaro, Fujiu K, Hiroshima K, Tanimoto K, Fujino T, Nakamura K, Kumagai K, Okada A, Kobayashi H, Hayashi T, Watari Y, Hatsuno M, Tachibana E, Iso K, Sonoda K, Aizawa Y, Chikata A, Sakagami S, Inoue M, Minamiguchi H, Makino N, Satomi K, Yazaki Y, Aoyagi H, Ichikawa M, Haruta H, Hiro T, Okubo K, Arima K, Tojo T, Kihara H, Miyana S, Fukuda Y, Oiwa K, Fujiishi T, Akabane M, Ishikawa N, Kusano K, Miyamoto K, Tabuchi H, Shiozawa T, Miyamoto K, Mase H, Murotani K. Registry for evaluating healthy life expectancy and long-term outcomes after catheter ablation of atrial fibrillation in the very elderly (REHEALTH AF) study: rationale and design of a prospective, multicentre, observational, comparative study. *BMJ Open*, 2023;13(2) : e068894.
 - 28) Mori Hiroyoshi, Sakurai Kaoru, Ikari Yuji, Fukui Kazuki, Maeda Atuo, Akashi Yoshihiro, Ako Junya, Ebina Toshiaki, Tamura Kouichi, Namiki Atsuo, Michishita Ichiro, Kimura Kazuo, Suzuki Hiroshi. Radial versus femoral access in patients undergoing primary percutaneous coronary intervention for ST-elevation myocardial infarction: A propensity-matched analysis from real-world data of the K-ACTIVE registry. *Journal of Cardiology*, 2023;81(2) : 189-195.
 - 29) Tohyo Yuko, Shiraishi Makoto, Matsumoto Hirofumi, Torikai Keito, Narita Nobuyoshi, Miyake Hitoshi. Effects of lifestyle-related diseases on asymptomatic cerebral ischemic lesions in occupational health checkup participants. *Journal of Clinical Physiology*, 2023;53(1) : 29-36.
 - 30) Tanabe Yasuhiro, Takahara Mitsuyoshi, Kohsaka Shun, Shinke Toshiro, Takamisawa Itaru, Amano Tetsuya, Kanazawa Hideaki, Suzuki Tomomi, Kuwata Shingo, Ishibashi Yuki, Akashi Yoshihiro J, Ikari Yuji. Intracardiac echocardiography guidance for percutaneous transcatheter closure of atrial septal defects - Nationwide registry data analysis. *Circulation Journal*, 2023;87(4) : 517-524.
 - 31) Ashikaga Kohei, Itoh Haruki, Maeda Tomoko, Ichikawa Yuri, Tanaka Shiori, Koike Akira, Makita Shigeru, Omiya Kazuto, Kato Yuko, Adachi Hitoshi, Nagayama Masatoshi, Akashi Yoshihiro J. Age- and sex-stratified normal values for circulatory and ventilatory power during ramp exercise derived from a healthy Japanese population. *Heart and Vessels*, 2023; : DOI-<https://doi.org/10.1007/s00380-023-02258-5>.
 - 32) Scherrenberg Martijn, Falter Maarten, Kaihara Toshiki, Xu Linqi, van Leunen Mayke, Kemps Hareld, Kindermans Hanne, Dendale Paul. Development and internal validation of the digital health readiness questionnaire: Prospective single-center survey study. *Journal of Medical Internet Research*, 2023;25 : e41615.
- ② 総説又は症例解説
- 1) Onishi Hirokazu, Izumo Masaki, Naganuma Toru, Nakamura Sunao, Akashi Yoshihiro J. Dynamic secondary mitral regurgitation: Current evidence and challenges for the future. *Frontiers in Cardiovascular Medicine*, 2022;9 : 883450-doi: 10.3389/fcvm.2022.883450.
 - 2) Gregorio Cesare de, Pistelli Lorenzo, Borgi Marco, Trio Olimpia, Akashi Yoshihiro J, Andò Giuseppe. TakoTsubo syndrome: A well-known disease but not everything is clear yet. *Reviews in Cardiovascular Medicine*, 2022;23(6) : DOI: 10.31083/j.rcm2306184.
 - 3) Wong Randolph H.L, Fan Yiting, Izumo Masaki, Lee Alex P.W.. Editorial: Advanced echocardiographic techniques in structural heart intervention. *Frontiers in Cardiovascular Medicine*, 2022;9 : 970515-doi: 10.3389/fcvm.2022.970515.
 - 4) Kaihara Toshiki, Scherrenberg Martijn, Intan-Goey Valent, Falter Maarten, Kindermans Hanne, Frederix Ines, Dendale Paul. Efficacy of digital health interventions on depression and anxiety in patients with cardiac disease: a systematic review and meta-analysis. *European Heart Journal - Digital Health*, 2022;3(3) : 445-454.
 - 5) Falter Maarten, Scherrenberg Martijn, Kaihara Toshiki, Dendale Paul. Exercise-based cardiac rehabilitation: different angles to grasp its beauty. *European Journal of Preventive Cardiology*, 2022;29(16) : 2135-2136.
 - 6) Kaihara Toshiki, Intan-Goey Valent, Scherrenberg Martijn, Falter Maarten, Kario Kazuomi, Akashi Yoshihiro, Dendale Paul. Automatic transmission of home blood pressure data can be effective in managing hypertension: a systematic review and meta-analysis. *European Heart Journal - Digital health*, 2022;3(4) : 638-653.
 - 7) Kou Seisyou, Abe Tatsuki, Nomura Osamu. Digital spoilers of the Japanese medical practice, digital sclerosis of the Japanese healthcare institutions. *医学教育*, 2022;53(6) : 563-565.

- 8) Makita S, Yasu T, Akashi Yoshihiro J, Adachi H, Izawa H, Ishihara S, Iso Y, Ohuchi H, Omiya K, Ohya Y, Okita K, Kimura Y, Koike A, Kohzuki M, Koba S, Sata M, Shimada K, Shimokawa T, Shiraishi H, Sumitomo N, Takahashi T, Takura T, Tsutsui H, Nagayama M, Hasegawa E, Fukumoto Y, Furukawa Y, Miura S, Yasuda S, Yamada S, Yamada Y, Yumino D, Yoshida T, Adachi T, Ikegame T, Izawa KP, Ishida T, Ozasa N, Osada N, Obata H, Kakutani N, Kasahara Y, Kato M, Kamiya K, Kinugawa S, Kono Y, Kobayashi Y, Koyama T, Sase K, Sato S, Shibata T, Suzuki N, Tamaki D, Yamaoka-Tojo M, Nakanishi M, Nakane E, Nishizaki M, Higo T, Fujimi K, Honda T, Matsumoto Y, Matsumoto N, Miyawaki I, Murata M, Yagi S, Yanase M, Yamada M, Yokoyama M, Watanabe N, Itoh H, Kimura T, Kyo S, Goto Y, Nohara R, Hirata K. JCS/JACR 2021 Guideline on rehabilitation in patients with cardiovascular disease. *Circulation Journal*, 2023;87(1) : 155-235.
- 9) Kida Keisuke, Miyajima Isao, Suzuki Norio, Barry H Greenberg, Akashi Yoshihiro-J. Nutritional management of heart failure. *Journal of Cardiology*, 2023;81(3) : 283-291.

③ 症例報告

- 1) Warisawa Takayuki, Hashimoto Yukiko, Doi Shunichi, Matsuda Hisao, Akashi Yoshihiro J. Serial change in physiological significance of coronary artery disease with or without large pericardial effusion. *JACC Cardiovascular Interventions*, 2022;15(8) : e85-e87.
- 2) Warisawa Takayuki, Nakanishi Toru, Akashi Yoshihiro J. Successful kissing balloon technique using contemporary balloon catheters via 7Fr-matched guide extension catheter in transradial PCI. *Cardiovascular Intervention and Therapeutics*, 2022;37(3) : 576-577.
- 3) Takano Makoto, Inamura Yukihiro, Matsuda Hisao, Harada Tomoo, Akashi Yoshihiro J. A new method for left ventricular lead delivery: A side helix can overcome the tortuous left lateral vein of the coronary sinus. *International Journal of Clinical Cardiology*, 2022;9(4) : DOI:10.23937/2378-2951/1410261.
- 4) Nishiyama Kazuhiro, Morikawa Kei, Shinozaki Yusuke, Ueno Junko, Tanaka Satoshi, Tsuruoka Hajime, Azagami Shinya, Ishida Atsuko, Yanagisawa Nobuyuki, Akashi J. Yoshihiro, Mineshita Masamichi. Electrocardiographic changes in pembrolizumab-induced fatal myocarditis. *Frontiers in Immunology*, 2023;14 : doi:10.3389/fimmu.2023.1078838.
- 5) Warisawa Takayuki, Kawase Yoshiaki, Tanigaki Toru, Akashi Yoshihiro J, Matsuo Hitoshi. Structural coronary microvascular dysfunction in asymptomatic patients with apical hypertrophic cardiomyopathy. *JACC:Advances*, 2023;2(2) : 100268.

④ その他

- 1) Ohte Nobuyuki, Ishizu Tomoko, Izumi Chisato, Itoh Hiroshi, Iwanaga Shiro, Okura Hiroyuki, Otsuji Yutaka, Sakata Yasushi, Shibata Toshihiko, Shinke Toshiro, Seo Yoshihiro, Daimon Masao, Takeuchi Masaaki, Tanabe Kazuaki, Nakatani Satoshi, Nii Masaki, Nishigami Kazuhiro, Hozumi Takeshi, Yasukochi Satoshi, Yamada Hirotsugu, Yamamoto Kazuhiro, Izumo Masaki, Inoue Katsuji, Iwano Hiroyuki, Okada Atsushi, Kataoka Akihisa, Kaji Shuichiro, Kusunose Kenya, Goda Akiko, Takeda Yasuharu, Tanaka Hidekazu, Dohi Kaoru, Hamaguchi Hiroto, Fukuta Hidekatsu, Yamada Satoshi, Watanabe Nozomi, Akaishi Makoto, Akasaka Takashi, Kimura Takeshi, Kosuge Masami, Masuyama Tooru; Japanese Circulation Society Joint Working Group. JCS 2021 guideline on the clinical application of echocardiography. *Circulation Journal*, 2022;86(12) : 2045-2119.

学会発表

① 国内学会

- 1) 大西宏和, 出雲昌樹, 三友悟, 長沼亨, 西川はるか, 鈴木知美, 佐藤如雄, 渡部美佳, 桑田真吾, 上嶋亮, 明石嘉浩, 中村淳. 低圧較差高度大動脈弁狭窄症における真性高度大動脈弁狭窄症の安静時予測因子 : ドプタミン負荷心エコーによる検討. 日本心エコー図学会第 33 回学術集会, 2022.
- 2) 出雲昌樹. 術中経食道心エコー評価と PVL が予後に及ぼす影響. 日本心エコー図学会第 33 回学術集会, 2022.
- 3) 小林芳邦, 佐藤如雄, 庄司達朗, 土井駿一, 本田圭, 金光陽子, 桑田真吾, 奥山和明, 古賀将史, 渡部美佳, 出雲昌樹, 原田智雄, 明石嘉浩. TAVI 術中に左房内異常構造物が出現! ? 経食道心エコー図で観察し得た一例. 日本心エコー図学会第 33 回学術集会, 2022.
- 4) 塩川則子, 出雲昌樹. Save the Patients! 検査技師が担う役割. 日本心エコー図学会第 33 回学術集会, 2022.

- 5) 塩川則子, 出雲昌樹, 佐藤如雄, 桑田真吾, 小林芳邦, 本田圭, 渡部美佳, 古賀将史, 奥山和明, 田邊康宏, 石橋祐記, 明石嘉浩. 二次性僧帽弁閉鎖不全症に対する MitraClip™G4 システムの急性期成績: G2 システムとの比較. 日本心エコー図学会第 33 回学術集会, 2022.
- 6) 出雲昌樹. SHD でインターベンショナルエコーが果たすべき役割. 日本心エコー図学会第 33 回学術集会, 2022.
- 7) 栗田真吾. 三尖弁閉鎖不全症を治す新しい治療オプション. 日本心エコー図学会第 33 回学術集会, 2022.
- 8) 鈴木知美, 出雲昌樹, 塩川則子, 佐藤如雄, 桑田真吾, 渡部美佳, 田邊康宏, 明石嘉浩. 経カテーテル的心房中隔欠損症閉鎖術前評価における 3D 自動左心耳解析ソフトの応用. 日本心エコー図学会第 33 回学術集会, 2022.
- 9) 篠田旬子, 出雲昌樹, 佐藤如雄, 小林芳邦, 本田圭, 桑田真吾, 渡部美佳, 古賀将史, 奥山和明, 田邊康宏, 岡村隆徳, 明石嘉浩. TAVI 後評価における energy loss coefficient index (ELI) の診断的意義. 日本心エコー図学会第 33 回学術集会, 2022.
- 10) 有馬佑策, 佐藤如雄, 栗田真吾, 奥山和明, 古賀将史, 出雲昌樹, 石橋祐記, 田邊康宏, 原田智雄, 明石嘉浩. 透析患者における経カテーテル的大動脈弁留置術の急性期成績. 第 119 回日本内科学会総会・講演会, 2022.
- 11) ◎秋山久尚, 栗田千尋, 深野崇之, 萩原悠太, 清水高弘, 山野嘉久, 田邊康宏, 鈴木知美, 栗田真吾, 明石嘉浩. 経皮的卵円孔開存閉鎖術 12 か月後の閉鎖栓内膜被覆度を血管内視鏡で評価した 1 例. 第 9 回日本心臓血管脳卒中学会学術集会, 2022.
- 12) 本田圭, 御手洗敬信, 田邊康宏, 古賀将史, 奥山和明, 石橋祐記, 明石嘉浩. CHIP intervention が奏功した急性冠症候群に伴う心肺停止蘇生後の 1 例. 第 59 回日本心臓血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 2022.
- 13) 高木宗兵, 上原征洋, 大島祐太郎, 浅田俊樹, 蒲生忠継, 岩城卓, 野末剛, 道下一朗. ガイドカテーテルのキンクに対して非侵襲的な方法で解除に成功した一例. 第 59 回日本心臓血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 2022.
- 14) 御手洗敬信, 田邊康宏, 明石嘉浩, 森敬善, 阿古潤哉, 伊莉裕二, 並木淳郎, 福井和樹, 道下一朗, 海老名俊明, 木村一雄, 鈴木洋. COVID-19 パンデミックにより循環器救急搬送システムが受けた影響と改善策についての提案 ~K-ACTIVE Registry より~. 第 59 回日本心臓血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 2022.
- 15) 田邊康宏. 実臨床における Interventional heart failure therapy. 第 59 回日本心臓血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 2022.
- 16) 出雲昌樹. 単独 severe TR の心エコー図 重症度をどう診断するか?. The 39th Live Demonstration in KOKURA, 2022.
- 17) 出雲昌樹. 画像診断を活かした心不全治療選択. 第 32 回日本心臓血管画像動態学会, 2022.
- 18) 塩川則子, 出雲昌樹. MitraClip を見据えた Functional MR の術前診断. 日本超音波医学会第 95 回学術集会, 2022.
- 19) 塩川則子, 出雲昌樹. 左室機能評価における 3D 心エコー. 日本超音波医学会第 95 回学術集会, 2022.
- 20) 出雲昌樹. 二次性 MR 例における負荷心エコー図検査. 日本超音波医学会第 95 回学術集会, 2022.
- 21) 割澤高行, 川瀬史明, 板倉良輔, 原野義夫, 志村徹郎, 谷垣徹, 中山雅文, 大久保宗則, 神谷宏樹, 松尾仁司. PK Papyrus カバードステントのピンホール状の破損を OCT で同定し、止血し得た一例. 日本心臓血管インターベンション治療学会(CVIT)第 46 回 東海北陸地方会, 2022.
- 22) 石垣彩, 中島育太郎, 中山由衣, 須知太郎, 富樫大輔, 佐々木憲一, 出雲昌樹, 原田智雄, 明石嘉浩. 低左心機能心不全を発症しカテーテルアブレーションが奏功した WPW 症候群の一例. 第 264 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2022.
- 23) 芦川有美, 栗田真吾, 庄司達朗, 土井駿一, 小林芳邦, 佐藤如雄, 石橋祐記, 出雲昌樹, 原田智雄, 明石嘉浩. 心原性ショックを呈したたこぼ症候群の一例. 第 264 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2022.
- 24) ◎清水高弘, 赤須友香利, 萩原悠太, 深野崇之, 栗田千尋, 秋山久尚, 鈴木知美, 栗田真吾, 田邊康宏, 山野嘉久. 高リスク PF0 を合併し、再発リスクが高いと考えられた奇異性脳塞栓症の 73 歳女性例. 第 41 回日本脳神経超音波学会総会, 2022.
- 25) 原田智雄. 各種心疾患における 12 誘導心電図所見. 第 68 回日本不整脈心電学会学術大会, 2022.
- 26) 中島育太郎. How to Learn/Research Abroad?: 僕、留学したいんだけど、何から始めればいい?. 第 68 回日本不整脈心電学会学術大会, 2022.
- 27) Watanabe Ryuta, Nagashima Koichi, Wakamatsu Yuji, Otsuka Naoto, Yokoyama Katsuaki, Matsumoto Naoya, Otsuka Takayuki, Suzuki Shinya, Hirata Akio, Murakami Masato, Takami Mitsuru, Kimura Masaomi, Fukaya Hidehira, Nakahara Shiro, Kato Takeshi, Hayashi Hiroshi, Iwasaki Yu-Ki, Shimizu Wataru, Nakajima Ikutaro, Harada Tomoo, Koyama Junjiro, Okumura Ken, Tokuda Michifumi, Yamane Teiichi, Tanimoto Kojiro, Moriyama Yukihiko, Nonoguchi Noriko, Soejima Kyoko, Ejima Koichiro, Hagiwara Nobuhisa, Harada Masahide, Sonoda Kazumasa, Inoue Masaru, Kumagai Koji, Hayashi Hidemori, Yazaki Yoshinao, Satomi Kazuhiro, Watari Yuji, Okumura Yasuo. The effect of comorbidity on clinical outcomes in elderly patients undergoing atrial fibrillation ablation. 第 68 回日本不整脈心電学会学術大会, 2022.

- 28) Takano Makoto, Matsuda Hisao, Nakayama Yui, Suchi Taro, Togashi Daisuke, Nakajima Ikutaro, Sasaki Kenichi, Harada Tomoo, Akashi Yoshihiro. Optimize manual atrioventricular synchronization in patients with VDD leadless pacemakers. 第 68 回日本不整脈心電学会学術大会, 2022.
- 29) Okumura Uasuo, Watanabe Ryuta, Nagashima Koichi, Wakamatsu Yuji, Otsuka Naoto, Yokoyama Katsuaki, Matsumoto Naoya, Otsuka Takayuki, Suzuki Shinya, Hirata Akiko, Murakami Masato, Takami Mitsuru, Kimura Masaomi, Fukaya Hidehira, Nakahara Shiro, Kato Takeshi, Hayashi Hiroshi, Iwasaki Yu-Ki, Shimizu Wataaru, Nakajima Ikutaro, Harada Tomoo, Koyama Junjiro, Okumura Ken, Tokuda Michifumi, Yamane Teiichi, Tanimoto Kojiro, Moriyama Yukihiro, Nonoguchi Noriko, Soejima Kyoko, Ejima Koichiro, Hagiwara Nobuhisa, Harada Masahide, Sonoda Kazumasa, Inoue Masaru, Kumagai Koji, Hayashi Hidemori, Yazaki Yoshinao, Satomi Kazuhiro, Watarai Yuji. Clinical implications of the results of the AF frontier ablation registry. 第 68 回日本不整脈心電学会学術大会, 2022.
- 30) 足利光平, 土井駿一, 鈴木規雄, 木田圭亮, 武市尚也, 渡辺敏, 明石嘉浩. 経皮的動脈弁置換後の患者に対する遠隔心臓リハビリテーションの安全性・有効性. 第 28 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2022.
- 31) 出雲昌樹. 今、再考すべき 1st Valve の在り方. 第 12 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会, 2022.
- 32) 出雲昌樹. Atrial FMR に対する MitraClip. 第 12 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会, 2022.
- 33) 出雲昌樹. TAVI 時代における Inoue Balloon の活用を考える. 第 12 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会, 2022.
- 34) 小島茂樹, 吉田圭佑, 野田竜之介, 出雲昌樹, 佐藤如雄, 渡部美佳, 栗田真吾, 古賀将史, 奥山和明, 田邊康宏, 明石嘉浩, 柴垣有吾, 櫻田勉. 経カテーテル動脈弁植込み術 (TAVI) が内シャントに与える影響に関する検討. 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 35) 割澤高行. Physiology を使いこなす. TOPIC 2022, 2022.
- 36) 大西宏和, 出雲昌樹, 長沼亨, 中村淳, 明石嘉浩. ダイナミックに変化する二次性僧帽弁逆流症と経皮的僧帽弁形成術. 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2022.
- 37) 栗田真吾, 出雲昌樹, 小林芳邦, 佐藤如雄, 古賀将史, 奥山和明, 渡部美佳, 田邊康宏, 石橋祐記, 原田智雄, 明石嘉浩. 経カテーテル動脈弁置換術中の急性脳虚血に対し緊急血栓除去術を施行し Bailout に成功した 2 症例. 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2022.
- 38) 前野遼太, 櫻井馨, 畔上幸司, 前田敦雄, 明石嘉浩, 阿古潤哉, 伊刈裕二, 海老名俊明, 田村功一, 並木淳郎, 福井和樹, 道下一朗, 木村一雄, 鈴木洋. 胸痛を伴わない急性心筋梗塞の臨床転帰について〜K-Active Registry. 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2022.
- 39) 大木初里, 割澤高行, 橋元由紀子, 土井駿一, 中西亨, 古藤弾, 笠原みづほ, 水野幸一. PCI 中の VF storm に対して機械補助導入よりも血行再建を優先し、救命し得た 1 例. 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2022.
- 40) 割澤高行, 中西亨, 橋元由紀子, 大木初里, 古藤弾, 笠原みづほ, 川瀬世史明, 水野幸一, 松尾仁司. ガイドエクステンションカテーテルの楕円変形により、7Fr 対応 Guidezilla 使用下の KBT が可能であった橈骨動脈アプローチ PCI の一例. 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2022.
- 41) 田邊康宏, 石橋祐記, 明石嘉浩, 阿古潤哉, 伊刈裕二, 海老名俊明, 並木淳郎, 福井和樹, 森敬善, 道下一朗, 木村一雄, 前田敦雄, 鈴木洋. COVID-19 パンデミックにより循環器救急搬送システムが受けた影響とその地域差、K-ACTIVE Registry より. 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2022.
- 42) 割澤高行, 土井駿一, 橋元由紀子, 大木初里, 笠原みづほ, 川瀬世史明, 水野幸一, 松尾仁司. Y コネクタの弁の種類や状態の違いが、冠圧測定に与える影響〜ベンチテストからの考察〜. 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2022.
- 43) 山崎浩史, 中西亨, 古藤弾, 笠原みづほ, 水越慶, 松田央郎, 水野幸一. 心筋梗塞攻略法. 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2022.
- 44) 橋元由紀子, 割澤高行, 大木初里, 土井駿一, 中西亨, 笠原みづほ, 水野幸一. 大量の全周性心嚢液の存在の有無によって、冠動脈病変の生理学的な重症度が変化した一例. 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2022.
- 45) 中西亨, 古藤弾, 笠原みづほ, 水越慶, 高野誠, 水野幸一, 松田央郎, 明石嘉浩. 急性冠症候群に対する灌流型冠動脈形成術バルーンによる初回再灌流法の有効性と安全性. 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2022.
- 46) 古賀将史, 出雲昌樹, 小林芳邦, 佐藤如雄, 栗田真吾, 渡部美佳, 奥山和明, 石橋祐記, 田邊康宏, 明石嘉浩. CKD 合併動脈狭窄症患者に対する Zero-contrast TAVI. 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2022.
- 47) 石橋祐記. PCI の現状と未来: Robotic PCI への期待. 第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2022.

- 48) Warisawa Takayuki, Cook Christopher, Nakayama Masafumi, Doi Shunichi, Kawasea Yoshiaki, Nishina Hidetaka, Lerman Amir, Escaned Javier, Davies Justin E, Matsuo Hitoshi, Akashi Yoshihiro J. iFR ガイドの左主幹部病変に対する PCI と CABG の長期臨床成績の比較：DEFINE-LM レジストリーより．第 30 回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会，2022.
- 49) 出雲昌樹. 運動負荷心エコーを心不全治療選択に活かす. 第 30 回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会，2022.
- 50) 村松和樹，御手洗敬信，古賀将史，奥山和明，石橋祐記，田邊康宏，原田智雄，明石嘉浩. Bailout に成功した冠動脈解離の 2 例. 第 30 回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会，2022.
- 51) 中西亨，松田央郎，明石嘉浩. 左主幹部に突出したステントへのデュアルルーメンカテーテル補助下ナックルワイヤーテクニック. 第 30 回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会，2022.
- 52) 中西亨，古藤弾，笠原みづほ，水越慶，高野誠，水野幸一，松田央郎，明石嘉浩. 緊急 PCI から 8 時間後に心タンポナーデを契機に覚知した亜急性心筋破裂を呈した STEMI の症例. 第 30 回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会，2022.
- 53) 御手洗敬信. COVID-19 パンデミックにより循環器救急搬送システムが受けた影響と改善策についての提案～K-ACTIVE Registry より～. 第 30 回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会，2022.
- 54) 黄世捷. ICT を利用した問題付臨床実習補助教材を作ってみよう. 第 54 回日本医学教育学会大会，2022.
- 55) 青木恵美子，三輪敬蔵，望月篤，東郷建，黄世捷，佐野政子，星野紀子，松田隆秀，信岡祐彦，伊野美幸. 医科大学で SDGs に取り組む意義と課題. 第 54 回日本医学教育学会大会，2022.
- 56) 出雲昌樹. 僧帽弁： atrial MR. ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション 2022，2022.
- 57) 佐藤如雄. どこまで MitraClip で治療できる？. ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション 2022，2022.
- 58) 出雲昌樹. 慢性心不全の再入院を回避する一手～その診断とカテーテル治療～. ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション 2022，2022.
- 59) 栗田真吾. 心房性機能性 MR の再発症例. ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション 2022，2022.
- 60) 奥山和明. 症例増加に立ち向かえ！これからの症例マネジメントを考える. ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション 2022，2022.
- 61) 佐藤如雄. 医原性 ASD 当院の経験. ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション 2022，2022.
- 62) 栗田真吾. MitraClip のエンドポイント. ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション 2022，2022.
- 63) 中村愛，佐藤如雄，出雲昌樹，有馬佑策，小林芳邦，甲斐貴彦，栗田真吾，奥山和明，田邊康宏，原田智雄，明石嘉浩. 急性心不全にて救急搬送された超高齢 AS に対し緊急 TAVI を施行し救命し得た一例. ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション 2022，2022.
- 64) 田邊康宏，明石嘉浩，阿古潤哉，伊莉裕二，海老名俊明，並木淳郎，福井和樹，道下一朗，木村一雄，森敬善，鈴木洋. Covid 禍における STEMI 搬送システム～K-ACTIVE Registry から明らかとなった本邦の誇りと課題～. 第 70 回日本心臓病学会学術集会，2022.
- 65) 石橋祐記. COVID-19 後遺症 POTS の実態. 第 70 回日本心臓病学会学術集会，2022.
- 66) 出雲昌樹. 運動負荷心エコーを弁膜症に活かす. 第 70 回日本心臓病学会学術集会，2022.
- 67) 栗田真吾. 右心不全をどう治すか. カテーテルオプションも加えて治療ストラテジーを考える. 第 70 回日本心臓病学会学術集会，2022.
- 68) 高橋怜史，古賀将史，宇津木友維，本田圭，笠川彰，鈴木知美，宮崎秀和，樋熊拓未，明石嘉浩. 左前下行枝の慢性完全閉塞を合併した左回旋枝の急性心筋梗塞で来院した単冠動脈症の 1 例. 日本内科学会第 680 回関東地方会，2022.
- 69) 明石嘉浩. ACS に対する集中治療室における超急性期リハビリ. 第 70 回日本心臓病学会学術集会，2022.
- 70) 出雲昌樹. TR に対する経カテーテル治療の現状と今後の展望. 第 70 回日本心臓病学会学術集会，2022.
- 71) 森敬善，伊莉裕二，前田敦雄，福井和樹，田村功一，海老名俊明，木村一雄，道下一朗，明石嘉浩，並木淳郎，阿古潤哉，鈴木洋. Radial versus femoral approach in ST-elevation myocardial infarction from K-ACTIVE registry. 第 70 回日本心臓病学会学術集会，2022.
- 72) 栗田真吾. 多面的にカテーテル治療で治す三尖弁閉鎖不全症. 第 70 回日本心臓病学会学術集会，2022.
- 73) 出雲昌樹. 長期エコーフォローでみてきたこと Interventional Imager の考える治療戦略. 第 70 回日本心臓病学会学術集会，2022.
- 74) 山崎大輝，根本慎司，笠原西介，渡辺敏，武市尚也，吉沢和也，渡邊紗都，赤尾圭吾，桑村雄偉，鈴木規雄，水越慶，長田尚彦，足利光平，木田圭亮，明石嘉浩. 高齢心不全患者の下肢筋力が日常生活活動の困難感に与える影響 -PMADL-8 を用いた検討-. 日本心臓リハビリテーション学会第 7 回関東甲信越地方会，2022.

- 75) 御手洗隆信. ステンント脱落的回収と断裂した IVC カテーテルの回収. 第 60 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 2022.
- 76) 高木宗兵, 御手洗敬信, 古賀将史, 奥山和明, 石橋祐記, 田邊康宏, 明石嘉浩. 予期せぬ医原性冠動脈解離に対し Bail out に成功したものの慢性期に再狭窄を来した 1 例. 第 60 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 2022.
- 77) 栗田真吾. 大動脈弁狭窄症の人生設計を考える. 第 60 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 2022.
- 78) 中西亨, 松田太郎, 明石嘉浩. 急性冠症候群に対する Primary perfusion balloon angioplasty と従来治療法の中期予後比較. 第 60 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 2022.
- 79) 甲斐貴彦, 御手洗敬信, 奥山和明, 古賀将史, 石橋祐記, 田邊康宏, 明石嘉浩. ガイドエクステンションカテーテルによって右冠動脈に spiral dissection を起こしたがカッティングバルーンによって bail out に成功した一例. 第 60 回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会, 2022.
- 80) 土井駿一, 佐藤如雄, 鈴木規雄, 栗田真吾, 出雲昌樹, 石橋祐記, 木田圭亮, 原田智雄, 明石嘉浩. ピロリン酸シンチ視覚スコア 2 は ATTR アミロイドーシスを鑑別できるか. 第 26 回日本心不全学会学術集会, 2022.
- 81) 栗田真吾. MitraClip 治療の効果を考える. 第 26 回日本心不全学会学術集会, 2022.
- 82) 松田迪, 佐藤如雄, 村田理沙子, 金光陽子, 鈴木規雄, 石橋祐記, 縄田寛, 宮入剛, 原田智雄, 明石嘉浩. 著名な真菌石灰化を来した急性心筋炎の 1 例. 第 26 回日本心不全学会学術集会, 2022.
- 83) 大西宏和, 出雲昌樹, 長沼亨, 西川はるか, 鈴木知美, 佐藤如雄, 渡部美佳, 栗田真吾, 上嶋亮, 中村淳, 明石嘉浩. 正常左室収縮能の低圧格差高度大動脈弁狭窄症におけるドプタミン負荷時血流指標と予後. 第 59 回日本臨床生理学会総会, 2022.
- 84) 井上智友記, 長田尚彦, 信岡祐彦, 松本裕子. 重度閉塞性睡眠時無呼吸症候群 (OSA) の血圧変動について. 第 59 回日本臨床生理学会総会, 2022.
- 85) 白石眞, 戸兵雄子, 成田信義, 松本博文, 三宅仁. 職域健診者を対象とした生活習慣病リスクコントロールが無症候性脳虚血病巣に及ぼす影響. 第 59 回日本臨床生理学会総会, 2022.
- 86) 長田尚彦, 井上智友記, 松本裕子, 信岡祐彦. “いびき” の問診から睡眠時無呼吸症候群は推定できるのか. 第 59 回日本臨床生理学会総会, 2022.
- 87) 吉田俊哉, 栗田真吾, 出雲昌樹, 石橋祐記, 田邊康宏, 原田智雄, 明石嘉浩. 起立性低血圧を主訴に ATTRv アミロイドーシスの診断に至った 1 例. 日本内科学会第 681 回関東地方会, 2022.
- 88) 割澤高行. これだけは知っておこう! カテ室で診る、冠微小循環障害の ABC. 日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) 第 47 回東海北陸地方会, 2022.
- 89) 甲斐貴彦. Successful rescue CHIP intervention for extravasation through frank perforation in the context of infectious bypass graft and recover the native coronary artery. Complex Cardiovascular Therapeutics (CCT) 2022, 2022.
- 90) 中西亨. Left main true bifurcation calcified lesion in a young out-hospital cardiac arrest survivor: combination therapy of emergent rotational and urgent orbital atherectomy. Complex Cardiovascular Therapeutics (CCT) 2022, 2022.
- 91) 御手洗敬信. U-40 CTO & Complex 症例検討. Complex Cardiovascular Therapeutics (CCT) 2022, 2022.
- 92) 割澤高行. 微小循環障害をどうやって診断し、治療するの?. Complex Cardiovascular Therapeutics (CCT) 2022, 2022.
- 93) 割澤高行. 冠動脈の包括的機能評価の 5W1H を考える. Complex Cardiovascular Therapeutics (CCT) 2022, 2022.
- 94) 明石嘉浩. SHD 治療前後の心臓リハビリテーション. 日本心臓リハビリテーション学会第 8 回関東甲信越地方会, 2022.
- 95) 割澤高行. 冠微小循環障害の ABC ～カテ室での特殊検査から、標準検査へ～. 日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) 第 55 回 北海道地方会, 2022.
- 96) 佐藤如雄. 移植適応年齢の高度機能性 MR 合併 DCM 症例における治療戦略. 第 60 回日本人工臓器学会大会, 2022.
- 97) 割澤高行. 徹底討論! Angio-based FFR の時代における Pressure Wire の意味: Key Learning Points from the Session. Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement (ARIA 2022), 2022.
- 98) 石橋祐記. ロボット PCI 新規導入施設の事例. Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement (ARIA 2022), 2022.
- 99) 割澤高行. Physiology を用いて左主幹部病変に対する PCI の価値を上げる. Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement (ARIA 2022), 2022.
- 100) 瀧澤菜. Shock 状態からの離脱に難渋した ST 上昇型急性心筋梗塞の 1 例. Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement (ARIA 2022), 2022.

- 101) 割澤高行. 最難関病変 Calcified Nodule の至適 Management を考える. Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement (ARIA 2022), 2022.
- 102) 割澤高行. カテ室での CMD 検査の有用性と注意点. Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement (ARIA 2022), 2022.
- 103) 甲斐貴彦. Guide extension catheter によって spiral dissection を起こした 1 例. Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement (ARIA 2022), 2022.
- 104) 瀧澤菜, 佐藤如雄, 鈴木規雄, 出雲昌樹, 石橋祐記, 原田智雄, 明石嘉浩. 高齢者心不全への SGLT2 阻害薬の使用経験. 第 43 回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.
- 105) 割澤高行. 冠微小循環障害の現在地と未来予測図. 第 266 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2022.
- 106) 中西亨, 松田央郎, 明石嘉浩. MDA-LDL 高値を契機に覚知した無症候性冠動脈主幹部三枝石灰化病変に対し PCI により突然死を予防しえた症例. 第 266 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2022.
- 107) 中島育太郎. 心不全に合併する不整脈: 我々は今どこにいるのか、そしてどこへ向かうべきか. 第 266 回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2022.
- 108) 出雲昌樹. 耐久性のある僧帽弁形成術とは? 術後運動負荷心エコー図からの検証. 第 12 回日本心臓弁膜症学会, 2022.
- 109) 栗田真吾. 三尖弁閉鎖不全症をカテーテルでどう治すか-Myth and fact に迫る-. 第 12 回日本心臓弁膜症学会, 2022.
- 110) 割澤高行. Physiology と Imaging の二刀流で最適な冠動脈疾患マネージメントを目指す. 第 33 回日本心血管画像動態学会, 2023.
- 111) 村田理沙子. Fallot 四徴症術後遠隔期の肺動脈弁閉鎖不全に経皮的肺動脈置換術を選択した一例. 第 24 回日本成人先天性心疾患学会学術集会, 2023.
- 112) 出雲昌樹. TAVI における Multimodality Imaging の活用. 第 33 回日本心血管画像動態学会, 2023.
- 113) 割澤高行. ○FR、●FR って、何だっけ? 今さら聞けない Physiology について整理しよう! . 第 33 回日本心血管画像動態学会, 2023.
- 114) 鈴木規雄. 心疾患に対する急性期リハ栄養の取り組みと課題. 第 12 回日本リハビリテーション栄養学会学術集会, 2023.
- 115) 割澤高行. 2023 年版! 冠微小循環障害の“イマ”と今後の展望. 日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) 第 40 回 近畿地方会, 2023.
- 116) Izumo Masaki. Key factors to achieve optimal outcomes in Japan. PCR Tokyo Valves 2023, 2023.
- 117) Izumo Masaki. Contemporary three-year outcomes from 500 patients treated with MitraClip: results from the Japan post-marketing Surveillance study. PCR Tokyo Valves 2023, 2023.
- 118) ◎土田知也, 石橋祐記, 石塚晃介, 片山皓太, 井上陽子, 廣瀬雅宣, 明石嘉浩, 大平善之. 新型コロナウイルス後遺症に合併する体位性頻脈症候群の治療経過について. 第 2 回日本病院総合診療医学会学術総会, 2023.
- 119) Kuwata Shingo. Transcatheter tricuspid valve repair and replacement -Ongoing trials and future innovations. PCR Tokyo Valves 2023, 2023.
- 120) Ishigaki Aya. Should be close ASD? Should be clip mitral valve?. PCR Tokyo Valves 2023, 2023.
- 121) Shingo Kuwata. Case3 - Functional mitral regurgitation. PCR Tokyo Valves 2023, 2023.
- 122) 富樫大輔, 笠川彰, 中山由衣, 中島育太郎, 佐々木憲一, 原田智雄, 明石嘉浩. 経カテーテル大動脈弁置換術により生じた房室ブロックに対して左脚エリアペーシング施行後、房室解離を伴う narrow QRS 頻拍を発症した 1 例. 日本不整脈心電学会第 15 回植込みデバイス関連冬季大会, 2023.
- 123) 笠川彰. スマートフォンアプリによる遠隔モニタリングの実際～えらべるシアワセを患者さんのもとへ. 日本不整脈心電学会第 15 回植込みデバイス関連冬季大会, 2023.
- 124) 金光陽子, 曾根啓太, 佐藤如雄, 桑田真吾, 出雲昌樹, 石橋祐記, 原田智雄, 明石嘉浩, 藤谷茂樹. ECPella を要する心原性ショックを呈し、鑑別診断に苦慮した COVID-19 (BA-5 株) の一例. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 125) 土井駿一, 松田央郎, 吉田俊哉, 中山由衣, 鈴木規雄, 出雲昌樹, 石橋祐記, 田辺康宏, 田中修, 原田智雄, 明石嘉浩. Impact of a-wave in left atrial pressure for recurrence of persistent atrial fibrillation after restoring sinus rhythm with catheter ablation. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 126) 児玉翔, 福井和樹, 前田敦雄, 明石嘉浩, 阿古潤哉, 伊莉裕二, 海老名俊明, 田村功一, 並木淳郎, 道下一朗, 木村一雄, 鈴木洋. Impact of total ischemic time on clinical outcome in STEMI patients calling for ambulance within 30 minutes of onset: from K-ACTIVE. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 127) 明石嘉浩. 維持期心臓リハビリテーションの有効性に関するレビュー. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.

- 128) 土方禎裕, 櫻井馨, 畔上幸司, 前田敦雄, 明石嘉浩, 阿古潤哉, 伊莉裕二, 海老名俊明, 田村功一, 並木淳郎, 福井和樹, 道下一朗, 木村一雄, 鈴木洋. Clinical outcomes of acute myocardial infarction in the left circumflex artery: Comparison of TIMI scores -K-ACTIVE registry-. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 129) 中西亨, 古藤弾, 笠原みづほ, 山崎浩史, 水越慶, 高野誠, 水野幸一, 松田央郎, 明石嘉浩. Physiological pressure evaluation during perfusion balloon angioplasty. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 130) 富樫大輔, 佐々木憲一, 奥山和明, 出雲昌樹, 中島育太郎, 中山由衣, 原田智雄, 明石嘉浩. Two-year outcomes of ventricular demand leadless pacemaker therapy for heart block after transcatheter aortic valve replacement. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 131) 村松和樹, 道下一朗, 野末剛, 岩城卓, 浅田俊樹, 大島祐太郎, 飯倉早映子. A case of right heart failure associated with beriberi heart while living in jail. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 132) 田代一真, 森敬善, 前田敦雄, 明石嘉浩, 阿古潤哉, 伊莉裕二, 海老名俊明, 田村功一, 並木淳郎, 福井和樹, 道下一朗, 木村一雄, 鈴木洋. The impact of hospital arrival time on characteristics of patients with ST-elevation myocardial infarction -Report from K-ACTIVE registry-. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 133) 福島琢, 櫻井馨, 畔上幸司, 前田敦雄, 明石嘉浩, 阿古潤哉, 伊莉裕二, 海老名俊明, 並木淳郎, 福井和樹, 道下一朗, 木村一雄, 鈴木洋. Clinical impact of malnutrition with acute myocardial infarction in young patients from Kanagawa-acute cardiovascular registry (K-ACTIVE). 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 134) 曾根浩元, 森敬善, 前田敦雄, 明石嘉浩, 阿古潤哉, 伊莉裕二, 海老名俊明, 佐藤直樹, 並木淳郎, 福井和樹, 道下一朗, 木村一雄, 鈴木洋. Impact of CK-elevation in patients with ST-elevation myocardial infarction and non-ST-elevation myocardial infarction from Kanagawa-acute cardiovascular registry (K-ACTIVE). 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 135) 吉田俊哉, 土井駿一, 松田央郎, 中山由衣, 笠原みづほ, 鈴木規雄, 出雲昌樹, 石橋祐記, 田邊康宏, 原田智雄, 明石嘉浩. Effect of restoring sinus rhythm on left atrial pressure and brain natriuretic peptide after catheter ablation in persistent atrial fibrillation. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 136) 大森真理, 平澤憲祐, 出雲昌樹, 塩川則子, 落田美瑛, 佐藤如雄, 小林芳邦, 栗田真吾, 奥山和明, 有馬秀紀, 笹野哲郎, 明石嘉浩. Influence of device generations on alternations of mitral annulus after transcatheter edge-to-edge repair: A real-time three-dimensional transesophageal echocardiography study. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 137) 石橋祐記. 循環器チーム医療推進における特定行為研修修了者が活躍する可能性を探る. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 138) 中西亨, 古藤弾, 笠原みづほ, 山崎浩史, 水越慶, 高野誠, 水野幸一, 松田央郎, 明石嘉浩. Reverse remodeling, symptom improvement and prognosis with angiotensin receptor neprilysin inhibitors (ARNI) for chronic heart failure. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 139) 甲斐貴彦, 小林芳邦, 佐藤如雄, 栗田真吾, 奥山和明, 古賀将史, 出雲昌樹, 石橋祐記, 明石嘉浩. Prevalence and clinical outcomes of non-cardiac surgery after transcatheter aortic valve replacement. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 140) 佐々木憲一, 富樫大輔, 中島育太郎, 中山由衣, 原田智雄, 明石嘉浩. Incidence and predictors of worsening atrioventricular valve regurgitation and left ventricular systolic function with comparison between leadless and transvenous pacemakers. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 141) 田邊康宏, 吉田俊哉, 鈴木知美, 富樫大輔, 栗田真吾, 出雲昌樹, 石橋祐記, 明石嘉浩. Angioscopic evaluation of device endothelialization after the trans-catheter closure for the interatrial communications (IACs). 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 142) 庄司達朗, 出雲昌樹, 塩川則子, 小林芳邦, 奥野泰史, 佐藤如雄, 栗田真吾, 奥山和明, 石橋祐記, 田邊康宏, 明石嘉浩. Prevalence and outcomes of transcatheter edge-to-edge repair in patients with atrial functional mitral regurgitation. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 143) 中西亨, 古藤弾, 笠原みづほ, 山崎浩史, 水越慶, 高野誠, 水野幸一, 松田央郎, 明石嘉浩. An elderly man walked alone after resuscitation for ventricular fibrillation with plaque disruption followed by healing in left anterior descending. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 144) 出雲昌樹. タイミングを見極める! 心エコーのポイントと治療の判断基準. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 145) 石橋祐記. Feature of long COVID-19 infection with postural orthostatic tachycardia syndrome. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 146) 割澤高行. Cath Lab で何が見えるの? Wire-based CMD 診断の価値. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.

- 147) 小林芳邦, 奥山和明, 甲斐貴彦, 奥野泰史, 佐藤如雄, 栗田真吾, 古賀将史, 出雲昌樹, 田邊康宏, 明石嘉浩. Hypo attenuated leaflet thrombosis following transcatheter aortic valve implantation in patients on hemodialysis. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 148) 割澤高行. 症例から学ぶガイドラインセミナー「2023 年ガイドラインフォーカスアップデート版 PCPS/ECMO/循環補助用心内留置型ポンプカテーテルの適応・操作」. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 149) 田邊康宏. 静脈血栓塞栓症～DOAC 時代における Unmetneeds とカテーテル治療への期待～. 第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会, 2023.
- 150) 栗田真吾. Percutaneous coronary interventions after transcatheter aortic valve implantation with balloon-expandable valve. 第 30 回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会, 2022.
- 151) Okuno Taishi, Izumo Masaki, Shiokawa Noriko, Kuwata Shingo, Ishibashi Yuki, Sato Yukio, Koga Masashi, Okuyama Kazuaki, Suzuki Norio, Kida Keisuke, Tanabe Yasuhiro, Akashi J Yoshihiro. Newer vs. older generation of the MitraClip devices for functional mitral regurgitation in routine clinical practice: a Japanese single-centre experience. PCR Tokyo Valves 2023, 2023.
- 152) Inohara Taku, Yamamoto Masanori, Watanabe Yusuke, Tada Norio, Naganuma Toru, Yamanaka Futoshi, Mizutani Kazuki, Noguchi Masahiko, Ueno Hiroshi, Takagi Kensuke, Asami Masahiko, Yamasaki Kazumasa, Suzuyama Hiroto, Izumo Masaki, Ohno Yohei, Shirai Shinichi, Hayashida Kentaro. Transcatheter aortic valve implantation for dialysis patients: Insights from the OCEAN-TAVI dialysis cohort. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 153) Warisawa Takayuki, Kawase Yoshiaki, Matsuo Hitoshi. The significant impact of left ventricular outflow tract obstruction on coronary physiological assessment. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 154) Okuno Taishi, Tomii Daijiro, Lanz Jonas, Dik Heg, Praz Fabien, Stortecky Stefan, Reineke David, Windecker Stephan, Pilgrim Thomas. Five-year outcomes with self-expanding versus balloon-expandable transcatheter aortic valve replacement in patients with small annuli: A propensity-score matched comparison. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 155) Ohno Yohei, Kamioika Norihiko, Miyamoto Junichi, Ikari Yuji, Tada Norio, Naganuma Toru, Yamanaka Futoshi, Shirai Shinichi, Mizutani Kazuki, Noguchi Masahiko, Takagi Kensuke, Ueno Hiroshi, Izumo Masaki, Yamasaki Kazumasa, Suzuyama Hiroto, Fuku Yasushi, Asami Masahiko, Yashima Fumiaki, Watanabe Yusuke, Yamamoto Masanori, Hayashida Kentaro. Outcomes of transcatheter aortic valve implantation for failed surgical bioprosthesis: Insights from the OCEAN-TAVI TAV-in-SAV cohort. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 156) Sato Kimi, Seo Yoshihiro, Ishizu Tomoko, Albakaa Noor, Izumo Masaki, Okada Atsushi, Izumi Chisato, Inami Shu, Takeda Yasuharu, Onishi Toshinari, Izumi Yuki, Kumagai Akiko, Fukuda Tomoko, Takahashi Naohiko, Kitai Takeshi, Iwano Hiroyuki, Sugawara Shigeo, Akasaka Kazumi, Harada Kenji, Masaoka Yoshiko, Ieda Masaki. Prognosis of patients with low-gradient severe aortic stenosis who underwent transcatheter aortic valve implantation. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 157) Asami Masahiko, Naganuma Toru, Ohno Yohei, Tani Tomoyuki, Okamatsu Hideharu, Mizutani Kazuki, Watanabe Yusuke, Izumo Masaki, Saji Maiku, Mizuno Shingo, Ueno Hiroshi, Kubo Shunsuke, Shirai Shinichi, Nakashima Masaki, Yamamoto Masanori, Hayashida Kentaro. Initial Japanese multicenter experience and age-related outcomes following left atrial appendage closure: Insight from the OCEAN-LAAC registry. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 158) Kaihara Toshiki, Falter Maarten, Scherrenberg Martijn, Xu Linqi, Dendal Paul. Impact of heart failure telemonitoring on unplanned hospitalization: findings from the non-invasive cardiac telemonitoring programme. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 159) Kaihara Toshiki, Falter Maarten, Scherrenberg Martijn, Xu Linqi, Dendale Paul. A randomized controlled trial investigating the impact of dietary education, counselling with a smartphone application for cardiac rehabilitation (TeleDiet Study). 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 160) Kuwata Shingo, Izumo Masaki, Shiokawa Noriko, Sato Yukio, Koga Masashi, Okuyama Kazuaki, Tanabe Yasuhiro, Harada Tomoo, Ishibashi Yuki, Akashi Yoshihiro. Impact of renal congestion on mortality in patients with secondary mitral regurgitation after transcatheter mitral valve repair. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.

- 161) Yamamoto Myong Hwa, Mori Hiroyoshi, Mizukami Takuya, Okabe Toshitaka, Isomura Naoei, Kobayashi Nobuaki, Takano Masamichi, Kondo Seita, Sugiyama Tomoyo, Katsuta Tsunekazu, Wakabayashi Kohei, Suwa Satoru, Dohi Tomotaka, Kimura Shigeki, Mitomo Satoru, Nakamura Sunao, Higuma Takumi, Yamaguchi Junichi, Yonetsu Taishi, Natsumeda Makoto, Ikari Yuji, Yamashita Jun, Ochiai Masahiko, Shinke Toshiro. Impact of admission hyperglycemia and underlying causes of acute coronary syndrome on prognosis: A substudy from the TACTICS registry. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.
- 162) Saji Mike, Yamamoto Masanori, Kubo Shunsuke, Watanabe Yusuke, Enta Yusuke, Izumo Masaki, Mizuno Shingo, Amaki Makoto, Kodama Kazuhisa, Yamaguchi Jyuichi, Nakashima Yoshifumi, Naganuma Toru, Asami Masahiko, Bota Hiroki, Ohno Yohei, Yamawaki Masahiro, Ueno Hiroshi, Mizutani Kazuki, Shirai Shinichi, Hayashida Kentaro. Acute results following transcatheter edge-to-edge repair with MitraClip: Insights from the OCEAN-mitral registry. 第 87 回日本循環器学会学術集会, 2023.

② 国際学会

- 1) Warisawa Takayuki, Cook Christopher, Kawase Yoshiaki, Howard James, Nakayama Masafumi, Ahmad Yousif, Seligman Henry, Rajkuma Christopher, Doi Shunichi, Nakajima Akihiro, Goto Sonoka, Vera-Urquiza Rafael, Kikuta Yuetsu, Lerman Amir, Akashi Yoshihiro John, Escaned Javier, Matsuo Hitoshi, Davies Justin E.. Medical therapy vs. revascularization in left main coronary artery disease with proven ischemia: insights from the define-LM registry. American College of Cardiology (ACC.22) 71st Annual Scientific Session, 2022.
- 2) Doi Shunichi. A case of fulminant myocarditis and biventricular thrombus after COVID-19 ,RNA vaccination. American College of Cardiology (ACC.22) 71st Annual Scientific Session, 2022.
- 3) Kaihara Toshiki, Falter Maarten, Scherrenberg Martijn, Maes Jana, Meesen Elise, Dendale Paul. The telediet study: A randomised controlled study investigating the impact of smartphone-supported dietary education and counselling on secondary prevention of coronary heart disease. European Society of Cardiology (ESC) Preventive Cardiology Congress 2022, 2022.
- 4) Warisawa Takayuki, Nakanishi Toru, Hashimoto Yukiko, Ohki Uiri, Koto Dan, Kasahara Mizuho, Matsuda Hisao, Mizuno Koichi, Akashi Yoshihiro. Successful kissing balloon technique via 7Fr-matched guide extension catheter in transradial PCI. Euro PCR 2022, 2022.
- 5) Ohki Uiri, Warisawa Takayuki, Hashimoto Yukiko, Suzuki Norio, Doi Shunichi, Kasahara Mizuho, Mizukoshi Kei, Matsuda Hisao, Mizuno Koichi, Akashi Yoshihiro. Directional rotational atherectomy for calcified nodule of left main bifurcation. Euro PCR 2022, 2022.
- 6) Warisawa Takayuki, Cook Christopher M, Ahmad Yousif, Kawase Yoshiaki, Howard James P, Nishina Hidetaka, Akashi Yoshihiro J, Escaned Javier, Matsuo Hitoshi, Davies Justin E. Initial Invasive or conservative strategy for left main coronary disease. Euro PCR 2022, 2022.
- 7) Hashimoto Yukiko, Warisawa Takayuki, Ohki Uiri, Nagatomi Akiyoshi, Doi shunichi, Mizukoshi Kei, Matsuda Hisao, Mizuno Koichi, Akashi Yoshihiro. Impact of pericardial effusion on physiological assessment of coronary disease. Euro PCR 2022, 2022.
- 8) Kawagoe Yasuhito. Early vascular responses to abluminal biodegradable polymer-coated versus circumferential durable polymer-coated newer-generation drug-eluting stents in humans: a pathologic study. European Society of Cardiology (ESC) Congress 2022, 2022.
- 9) Warisawa Takayuki. The Beauty of Novel Ultreon OCT System. HKSTENT- Cardiovascular Intervention Complication Forum 2022, 2022.
- 10) Warisawa Takayuki. The Role of Coronary Physiology to Improve the Quality of PCI in Bifurcation Lesion. The 16th Qianjiang International Cardiovascular Conference (QICC 2022), 2022.
- 11) Tanabe Yasuhiro. Angioscopic evaluation of device endothelialization after the trans-catheter closure for the inter atrial communications (IACs). CSI FOCUS LAA & PFO 2022, 2022.
- 12) Kuwata Shingo. Invasive hemodynamics in guiding TMVR. CSI Asia-Pacific 2022, 2022.
- 13) Kawagoe Yasuhito, Nishimori Makoto, Shinohara Masakazu, Akashi Yoshihiro J, Tahara Yoshio. A counterfactual machine learning model study to estimate the impact of coronary angiography for out of hospital cardiac arrest. American Heart Association (AHA) Scientific Sessions 2022, 2022.

- 14) Nakanishi Toru, Koto Dan, Kasahara Mizuho, Mizukoshi Kei, Takano Makoto, Mizuno Koichi, Matsuda Hisao, Akashi Yoshihiro J. Primary perfusion balloon angioplasty in primary percutaneous coronary intervention for st-segment elevation myocardial infarction - The novel cardioprotective revascularization strategy. American Heart Association (AHA) Scientific Sessions 2022, 2022.
- 15) Nakajima Ikutaro. An individualized ATP algorithm for reducing unnecessary shocks. 15th ASIA Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (APHS 2022), 2022.
- 16) Warisawa Takayuki. Invasive Pressure Wire is Still Necessary. Taiwan Society of Cardiovascular Interventions (TSCI) 2023, 2023.

③ その他

- 1) 佐々木憲一. 不整脈における ARNI の有用性. 循環器領域高血圧 Symposium, 2022.
- 2) 石橋祐記. 地域で診る心不全診療の意義と役割. 第2回地域における心不全連携を考える会, 2022.
- 3) 出雲昌樹. TAVI 透析患者への適応拡大. 腎不全患者の心疾患を考える会, 2022.
- 4) 割澤高行. CMD Round Table Discussion～包括的な診断の新しい価値を考える～. CMD ラウンドテーブルディスカッション, 2022.
- 5) 村田理沙子. 心基部を中心とする非対称性心室中隔肥大の症例に生じた左室内腔狭窄. 第5回多摩コレgium・心エコー, 2022.
- 6) 水越慶. SAM-MR に対する治療の新戦略. 第5回多摩コレgium・心エコー, 2022.
- 7) 御手洗敬信. Think less invasive! ～Launch of new devices～. 4th Yokohama Live Demonstration, 2022.
- 8) 田邊康宏. カテーテルインターベンションの最近の話題～Impella, Robotic PCI, 抗血栓療法～. 第20回川崎大動脈ステントグラフト研究会, 2022.
- 9) 出雲昌樹. 急性心不全の治療方針のための心エコー図情報. 日本超音波医学会教区委員会主催：第21回教育セッション, 2022.
- 10) 栗田真吾. TAVI との compatibility. Next Generation Surgeons Meeting 2022～TAVR 時代に求める SAVR 治療とは～, 2022.
- 11) 田邊康宏. DOAC 時代における VTE の診療～薬剤とカテーテル治療～. Xarelto VTE WEB Symposium～DOAC 時代における静脈血栓塞栓症のトータルマネジメント～, 2022.
- 12) 割澤高行. 実臨床における冠動脈の包括的機能評価を考える ～目の前の患者さんに最大限デキルコト～. e-casebook LIVE Physiology の“イマ”を知る, 2022.
- 13) 石橋祐記. 心不全進展ステージから地域での心不全予防と治療を考える. 宮前区医師会学術講演会, 2022.
- 14) 田邊康宏. 血管内視鏡による経皮的心房中隔欠損閉鎖術後の閉鎖栓の内膜被覆度の評価. 15th Trans-catheter Imaging Forum, 2022.
- 15) 横山恵理子, 東祐圭, 原田智雄. 単形性心室頻拍の機序に乳頭筋部 Purkinje 線維網の関与が想定された瘢痕化心尖部瘤を伴う中部閉塞性肥大型心筋症の一例. 第52回臨床心臓電気生理研究会, 2022.
- 16) 中島育太郎, 高野誠, 笠川彰, 中山由衣, 須知太郎, 冨樫大輔, 佐々木憲一, 松田央郎, 宮崎秀和, 原田智雄. 左室側壁心外膜の不整脈基質へのアブレーションが有効であった心室細動ストームを呈した J 波症候群の1例. 第52回臨床心臓電気生理研究会, 2022.
- 17) 割澤高行. CMD 診断の 5W1H を考える ～CMD 診断を臨床に活かす～. Abbott Medical Japan 講演会, 2022.
- 18) 宇津木友維. Long RP' Tachycardia の症例. 第18回多摩川ハートカンファランス, 2022.
- 19) 出雲昌樹. 弁膜症診療における負荷心エコーの活かし方. 第7回広島 Cardiology Young Conference-弁膜症の観点から見た心房細動-, 2022.
- 20) 割澤高行. State-of-the-art CAD Management ～Coronary Physiology を最大限活用する～. Hyperlipidemia Web Seminar for Next Generation, 2022.
- 21) 奥山和明. TAVI 患者における PCI 治療. 第43回ハートケアネットワーク懇話会, 2022.
- 22) 割澤高行. 高度石灰化病変での治療戦略の最適化を目指す. 石灰化病変の最適治療を考える会, 2022.
- 23) 高井学. 病病連携で診る弁膜症診療. MR 治療介入のための医療連携, 2022.
- 24) 栗田真吾. 紹介を受けた MR 患者への治療方針と当院における MitraClip™ 治療の経過. MR 治療介入のための医療連携, 2022.
- 25) 割澤高行. The Essentials for Safety Rotablator. CTO Club 2022, 2022.
- 26) 松田央郎. 心不全薬物治療の現在、心不全地域連携の推進にむけて. ARNI WEB Symposium 横浜市西部エリア, 2022.
- 27) 明石嘉浩. 心臓病二次予防におけるリハビリテーション. 循環器病対策基本法を考える会 in 神奈川 (川崎分科会), 2022.
- 28) 中島育太郎. LV summit PVC：困難症例より学ぶ. 第8回川崎不整脈アブレーション Conference, 2022.

- 29) 割澤高行. 明日から始める Rotablator ～Junior Operator のココロガマエ Imaging Guidance を中心に～. 豊橋ライブ 2022, 2022.
- 30) 高野誠. 潜在性心房細動へのアプローチ. 横浜西部循環器連携の会, 2022.
- 31) 鈴木規雄. 地域で取り組む心不全の急性期から緩和ケアまで. 横浜西部循環器連携の会, 2022.
- 32) 原田智雄. 心房細動治療 Up to DATA ～ハイリスク症例への治療戦略～. 会津医学会学術講演会～心房細動～, 2022.
- 33) 割澤高行. Physiology-guided PCI ～Physiology ガイドで目指す Optimal PCI～. 豊橋ライブ 2022, 2022.
- 34) 出雲昌樹. 地域で支える弁膜症. TAVI (経カテーテル的大動脈弁置換術) フォーラム, 2022.
- 35) 原田智雄. 心房細動治療 Up to DATE～ハイリスク症例への治療戦略～. 第10回開業医のためのわかりやすい心房細動治療勉強会～患者さんを脳梗塞にさせないために～, 2022.
- 36) 原田智雄. 心房細動治療最前線～左心耳閉鎖術～. 川崎市心疾患診療セミナー, 2022.
- 37) 原田智雄. 心房細動 Up to Date～抗凝固療法と経皮的左心耳閉鎖術～. 循環器内科&消化器内科 Collaboration Conference, 2022.
- 38) 佐藤如雄. 当院における SGLT2 阻害薬の使用経験. 神奈川循環動態研究会, 2022.
- 39) 割澤高行. 実臨床の中での冠微小循環障害 ～包括的な評価の新しい価値を考える～. 東北 Physiology ラウンドテーブル, 2022.
- 40) 石橋祐記. 循環器内科医からみた心腎連関. 川崎北部地域連携心腎連関セミナー, 2022.
- 41) 黄世捷. 非専門外来での PH 診療. PH カンファレンス 2022, 2022.
- 42) 栗田真吾. 本邦だからこそ出来る SHD インターベンション. Young Cardiologist Education Seminar, 2022.
- 43) 田邊康宏. 静脈血栓塞栓症に対する薬剤、カテーテル治療. 多職種で診る静脈血栓症 Web Seminar, 2022.
- 44) 割澤高行. これだけは知っておきたい！冠微小循環障害の ABC ～若手医師に送るエッセンス～. SING Live 2022, 2022.
- 45) 奥野泰史. スイス・ベルン初 三尖弁カテーテル治療成功例. SHD 最終章 TR のカテ治療, 2022.
- 46) 中島育太郎. Change Your Strategy for AF treatment: この先 10 年の心房細動治療を考える. 第 11 回武蔵小杉脳卒中・循環器 web 講演会, 2022.
- 47) 割澤高行. Physiology guide PCI for LMD update 2022. PCI Optimization by Physiology And Imaging (POPAI), 2022.
- 48) 村松和樹. 血液検査から想起するハットとする合併症. 神奈川循環器研究会, 2022.
- 49) 佐々木憲一. 心電図診断のアンメットメイズ-ノイズ処理から半読アルゴリズムまで-. 聖マリアンナ医科大学・明治大学共同研究会, 2022.
- 50) 高野誠. 夢-内科医師、循環器内科医、不整脈医、そして-. 循環器 Total Care Conference, 2022.
- 51) 石橋祐記. 心不全進展ステージから見据えた高血圧治療. エンレスト高血圧症適応追加 1 周年講演会, 2022.
- 52) 割澤高行. Coronary Physiology を駆使して、カテ室での More than Best を目指す！. 第 2 回 Kitasato PCI Conference, 2022.
- 53) 割澤高行. CMD とは？診断の意義. 第 6 回 ARIA 塾 ～見えないモノを Physiology の力で診る～, 2022.
- 54) 奥野泰史. PPM ほんとに重要？. 第二回若手留学経験者による最新の TAVI, 2022.
- 55) 栗田真吾. TAVI が変えた今、TAVI が変える未来. 心不全トータルマネジメントカンファレンス in 横浜川崎北部, 2022.
- 56) 笠川彰. 高血圧治療 私の処方箋～エンレスト導入症例～. 神奈川循環器領域 高血圧×心不全 講演会, 2022.
- 57) 石橋祐記. EF 軸から見た ARNI の感触. 神奈川循環器領域 高血圧×心不全 講演会, 2022.
- 58) 中島育太郎. Change Your Strategy for AF Treatment. 足柄上医師会・第 692 回小田原医師会学術講演会, 2022.
- 59) 割澤高行. 皆さんのカテ室で評価する、冠微小循環障害の ABC. 第 19 回 四国お遍路ライブ, 2022.
- 60) 明石嘉浩. 循環器診療におけるパラダイムシフト. 生活習慣病フォーラム, 2022.
- 61) 出雲昌樹. 循環器疾患と腎性貧血. 第 164 回循環器学術研究会, 2022.
- 62) 富樫大輔. 短期間に再発した心原性脳塞栓症に対して経皮的左心耳閉鎖が有用であったケースについて. 第 44 回ハートケアネットワーク懇話会, 2022.
- 63) 出雲昌樹. ICD/CRT 適応エコースクリーニング. NEXT Generation Echo Conference ～in JAKODATE～, 2022.
- 64) 割澤高行. 明日、カテ室で評価する冠微小循環 ～包括的な評価の新しい価値を考える～. CMD Roundtable Discussion in Kyushu, 2022.
- 65) 出雲昌樹. 地域で支える弁膜症. 心不全治療医療連携カンファレンス in 高知, 2022.
- 66) 割澤高行. Looking Back into TCT 2022 - New Evidences to Improve Quality of PCI -. Physiology Luncheon Webinar, 2022.
- 67) 出雲昌樹. 高齢心不全に対する最新治療～ご紹介から逆紹介、その後のフォローまで～. 宮前区医師会循環器疾患 WEB セミナー, 2022.
- 68) 黄世捷. 肺高血圧症の早期発見のための心エコー. 第 5 回神奈川県次世代肺高血圧症を考える会, 2022.

- 69) 割澤高行. 実臨床に活かす Coronary Physiology ～これだけは知って PCI をしよう！～. Kobe Cardiac Catheter Team Meeting, 2022.
- 70) 出雲昌樹. 高齢心不全に対する最新治療. 宮前区循環器疾患連携セミナー, 2022.
- 71) 出雲昌樹. 弁膜症治療と心エコー. 心臓疾患について考える会, 2022.
- 72) 曾根啓太. MitraClip により運動耐容能の著名な改善を認めた僧帽弁閉鎖不全症例. 20th SPHERE, 2022.
- 73) 石橋祐記. 心不全超早期ステージを意識した高血圧診療を考える. Web Symposium With ARNI～高血圧診療を再考する～, 2022.
- 74) 山崎浩史. EVT～未来への躍進～. 神奈川循環器研究会, 2022.
- 75) 割澤高行. Physiology を最大限活用した State-of-the-art PCI Update 2022 を知る！. Physiology summit 2022, 2022.
- 76) 割澤高行. 急性冠症候群における冠微小循環障害・冠攣縮. PAC 2022, 2022.
- 77) 吉田俊哉, 田邊康宏, 鈴木知美, 富樫大輔, 栗田真吾, 出雲昌樹, 石橋祐記, 明石嘉浩. 経皮的卵円孔閉鎖術施行患者における静脈血栓塞栓症の特徴. 第 29 回肺塞栓症研究会学術集会, 2022.
- 78) 割澤高行. GLOBAL 基準！プレゼンスキルの極意 ～ARISTOTLE 試験で実践～. e-casebook LIVE, 2022.
- 79) 割澤高行. State-of-the-art PCI のソノサキへ ～Physiology を駆使して Quality of PCI を追求する～. Physiology Workshop in NAGAHAMA, 2022.
- 80) 石橋祐記. 心不全、切れ目ない連家体制を考える. 第 3 回地域における心不全連携を考える会, 2022.
- 81) 富樫大輔, 原田智雄, 中山由衣, 中島育太郎, 佐々木憲一, 明石嘉浩. 心室中隔を起源とする持続性心室頻拍に対して心外膜アプローチが有用であった心室中部閉塞性肥大型心筋症の 1 例. 日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連秋季大会 2022 公開研究会, 2022.
- 82) 松田央郎, 高野誠, 福村健太, 中西亨, 古藤弾, 笠原みづほ, 山崎浩史, 水越慶, 水野幸一, 笠川彰, 中山由衣, 須知太郎, 富樫大輔, 中島育太郎, 佐々木憲一, 宮崎秀和, 原田智雄, 明石嘉浩. Vein of Marshall の化学的アブレーションにより左房後壁隔離における食道近傍の焼灼を回避できた 1 例. 日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連秋季大会 2022 公開研究会, 2022.
- 83) 瀧澤栄. 施設における CKD マネジメントの現状. 第 76 回神奈川循環器講演会, 2022.
- 84) 割澤高行. State-of-the-art Physiology-guided PCI Update 2022. 九州大学 FFR Work Shop, 2022.
- 85) 田邊康宏. 静脈血栓塞栓症における薬剤とカテーテル治療. グザレルト発売 10 周年&PAD 適応追加記念講演会～Advances in Anticoagulant Therapy～, 2022.
- 86) 田邊康宏. 脳梗塞再発予防の新たな治療～経皮的卵円孔開存閉鎖術～. 神奈川心疾患最新治療セミナー ブレインハートチームによる治療戦略－, 2022.
- 87) 原田智雄. 不整脈治療最前線～左心耳閉鎖術～. 神奈川心疾患最新治療セミナー ブレインハートチームによる治療戦略－, 2022.
- 88) 割澤高行. CMD 診断の More than Best! ～Seeing is believing から To see is to believe へ～. Total Physiology Webinar in Chikamori Hospital, 2022.
- 89) 割澤高行. FFRangio の実臨床における可能性. Yokohama CTO Summit VI, 2022.
- 90) 割澤高行. Coronary Physiology を駆使して、カテ室での診療 Quality を上げる ～State-of-the-art Physiology guided PCI から CMD 診療まで～. 第 35 回 滋賀カテーテルインターベンションカンファレンス (SCIC), 2022.
- 91) 甲斐貴彦. 地域における心不全治療を考える. Metabolic Heart WEB Conference, 2022.
- 92) 鈴木知美. 心不全治療における当院の取り組みについて. これからの心不全診療を考える会～医療連携の視点から～, 2022.
- 93) 富樫大輔. 出血リスクを伴う心房細動に対する治療戦略. 第 87 回内科合同勉強会, 2022.
- 94) 割澤高行. FFRangio の実臨床での有用性. 第 29 回 鎌倉ライブ 2022, 2022.
- 95) 出雲昌樹. CRT について. 第 4 回城南循環器道場研究会, 2022.
- 96) 割澤高行. 明日から始める CMD 測定. CMD 講演会@桜橋渡辺病院, 2022.
- 97) 割澤高行. 明日からはじめる Rotablator～Junior Operator に捧げるエッセンス～. J-CalC 2023, 2023.
- 98) 割澤高行. 石灰化病変における Physiology: Physiology, Imaging, Knowledge, Skill, and Spirit. J-CalC 2023, 2023.
- 99) 笠川彰. 三次元構築画像が LV summit 領域心室期外収縮に対するアブレーションに有用だった 1 例. 第 33 回神奈川不整脈・心電図勉強会, 2023.
- 100) 割澤高行. ローターカクテルについて本気出して考えてみた by J-CalC. J-CalC 2023, 2023.
- 101) 佐藤如雄. TEE、最大限活かします、ツンツンサイン. TAVI Professional Case Solutions -TAVI Professional による手技 Tips-, 2023.

- 102) 原田智雄. 不整脈 Up to Date ～心房細動ハイリスク症例への治療戦略～. イグザレト WEB カンファレンス 心房細動を発見した時に検討すべき薬物治療と非薬物治療, 2023.
- 103) 佐藤如雄. 御紹介いただいた心不全症例. 第 45 回ハートケアネットワーク懇話会, 2023.
- 104) 石橋祐記. 心不全地域連携. 第 45 回ハートケアネットワーク懇話会, 2023.
- 105) 割澤高行. Invasive FFR について再考する. Medtronic 講演会, 2023.
- 106) 石橋祐記. これからの川崎北部心不全病診地域連携を考える. わが街の在宅医療を考える Web セミナー～心不全と緩和ケア～, 2023.
- 107) 田邊康宏. 静脈血栓塞栓症における薬剤とカテーテル治療. Xarelto WEB Conference in Hokkaido, 2023.
- 108) 割澤高行. 冠微小循環障害: “ミエナイ” 血管たちと四つに組む. 群馬県立心臓血管センター 第 87 回学術講演会, 2023.
- 109) 割澤高行. CATH CMD に学ぶカテ室での検査方法の課題～ちょっと待って! その CMD 診断、大丈夫ですか!?～. e-casebook LIVE, 2023.
- 110) 割澤高行. Physiology を駆使して、左主幹部病変に対する最適解を考える. 中国四国ライブ in 倉敷, 2023.
- 111) 割澤高行. LMCA/分岐部病変における Physiology: LMCA 病変. Tokyo Physiology 2023, 2023.
- 112) 割澤高行. びまん性/連続性病変における Physiology: Resting index pullback. Tokyo Physiology 2023, 2023.
- 113) 割澤高行. State-of-the-art CAD Management～Physiology を用いて最適な個別化診療を行う～. Tokyo Physiology 2023., 2023.
- 114) 出雲昌樹. 心不全パンデミック時代の地域連携を考える～透析 TAVI の現状を踏まえて～. 腎不全患者の心疾患を考える会, 2023.
- 115) 宇津木友維, 栗田真吾, 曾根啓太, 本郷玲, 金光陽子, 佐藤如雄, 原島祐貴, 田邊康宏, 出雲昌樹, 石橋祐記, 明石嘉浩. 薬物療法、非薬物療法含めた治療選択に苦慮した低新機能心不全の一例. 第 34 回神奈川心不全研究会, 2023.
- 116) 割澤高行. カテ室で実現可能な INOCA 診断～微小血管狭心症から心不全・心筋症まで～. Beyond Angiography Japan XXVII, 2023.
- 117) 石橋祐記. Frantastic4 時代における MRA の使い方【虚血の観点から】. 神奈川 Frantastic4 を考える会 2023, 2023.
- 118) 出雲昌樹. 心不全パンデミック時代における新たな治療薬の可能性. 新都市 Expert Meeting-Brain X Heart disease management-, 2023.
- 119) 割澤高行. 出血ハイリスクを最重視する時代のカテーテルインターベンション～心房細動合併冠動脈疾患のマネージメント～. 地域医療連携 WEB セミナー, 2023.
- 120) 栗田真吾. 地域で支える大動脈弁狭窄症治療. 神奈川北部循環器疾患 WEB セミナー, 2023.
- 121) Warisawa Takayuki. Beyond and Above: the State-of-the-art PCI
- Improving the Quality of PCI using Pressure Wire Pullback -. EDGE Online Program, 2022.

		和 文	英 文
著 書		5	
論 文	原著	4	32
	解説又は総説	23	9
	症例報告	5	5
	その他	2	1
学会発表	国内学会	149	13
	国際学会		16
	その他	120	1

内科学（消化器内科）

著書

- 1) 中野弘康. 非アルコール性脂肪性肝疾患 Common Diseases Up to date 2022;:238-245.
- 2) 中野弘康. 肝硬変 Common Diseases Up to date 2022;:246-257.
- 3) 中野弘康. アルコール性肝障害 Common Diseases Up to date 2022;:258-265.
- 4) 中野弘康, 須藤 博. 大船中央病院の勉強会 Common Diseases Up to date 2022;:287.
- 5) 中野弘康. FILE18 腹腔動脈起始部圧迫症候群 消化器疾患のゲシュタルト 2022;:154-160.
- 6) 松本伸行. FILE02 急性肝炎 消化器疾患のゲシュタルト 2022;:172-182.
- 7) 中野弘康. FILE03 肝硬変 消化器疾患のゲシュタルト 2022;:183-191.
- 8) 重福隆太. FILE04 アルコール性肝疾患 消化器疾患のゲシュタルト 2022;:192-202.
- 9) 重福隆太. FILE05 非アルコール性脂肪性肝疾患 消化器疾患のゲシュタルト 2022;:203-213.
- 10) 渡邊綱正. FILE06 B型肝炎 消化器疾患のゲシュタルト 2022;:214-223.
- 11) 高橋秀明. FILE07 C型慢性肝炎 消化器疾患のゲシュタルト 2022;:224-231.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 藤本 愛, 斎藤 豊, 阿部清一郎, 布袋屋 修, 野村浩介, 安田 宏, 松尾康正, 浦岡俊夫, 栗林志行, 辻 陽介, 大木大輔, 前畑忠輝, 加藤元彦, 矢作直久. 内視鏡的粘膜下層剥離術中の止血処置における Red Dichromatic Imaging の臨床的有用性 多施設非盲検化ランダム化比較試験による第一報. Gastroenterological Endoscopy, 2022;64(8) : 1499-1512.
- 2) 加藤優一, 山下裕顕, 山田祐揮, 廣瀬雅宣, 酒井翼, 本橋伊織, 石田潤, 松永光太郎, 家研也, 松田隆秀, 大平善之, 奥瀬千晃. 梅の種子による食餌性十二指腸閉塞の1例. 日本病院総合診療医学会雑誌, 2022;18(6) : 445-447.
- 3) 松尾康正, 落合康利, 薩田祐輔, 安田 宏, 伊東文生. 模擬粘膜を用いた新規シリコン製ESD牽引デバイスの有用性評価. Progress of Digestive Endoscopy, 2022;101(1) : 28-31.

② 総説又は症例解説

- 1) 中野弘康. ローテックでもここまでできる! おなかのフィジカル診断塾(第1回) お腹が痛い(その1) 虫垂炎のフィジカルフィジカルで虫垂の位置を当てる!. Medicina, 2022;59(5) : 597-601.
- 2) 中野弘康. 【フィジカル大全 読んで、見て、聴いて、身体診察を完全マスター】(第4章)消化器・腹部 肝臓と脾臓, 腹水の診かた 肝硬変を中心に. Medicina, 2022;59(4) : 142-147.
- 3) 中原一有, 松田浩二. 【内視鏡データリファレンスブック 2022】臓器別 胆道・脾臓 悪性胆道閉塞に対する術前胆道ドレナージ. 消化器内視鏡, 2022;34(4) : 802-805.
- 4) 中野弘康. ローテックでもここまでできる! おなかのフィジカル診断塾(第2回) お腹が痛い(その2) 前皮神経絞扼症候群画像検査で異常がみつからない腹痛. Medicina, 2022;59(6) : 781-785.
- 5) 津田桃子, 渡邊嘉行, 渡辺亮介, 東野真幸, 久保公利, 山本博幸, 加藤元嗣. 胃内視鏡廃液を用いたQprobe法を原理とするH. pylori 遺伝子検出POCT試薬の臨床評価. 日本ヘリコバクター学会誌, 2022;24(1) : 22-24.
- 6) 津田桃子, 渡邊嘉行, 渡辺亮介, 東野真幸, 久保公利, 山本博幸, 加藤元嗣. 胃内H. pyloriのCAM耐性変異率と除菌治療成績についての検討. 日本ヘリコバクター学会誌, 2022;24(1) : 19-21.
- 7) 伊野美幸, 望月篤, 信岡祐彦, 黄世捷, 東郷建, 松本伸行. 【精神科医療における女性医師の役割と期待】医学部教育の視点から 現行の医学部教育および大学の女性医師支援について. 精神科治療学, 2022;37(5) : 525-531.
- 8) 佐藤義典, 清川博史. 【内視鏡検査で大腸癌の見落としゼロを目指して】見落とし病変と考えられた症例 症例から学んだこと サーベイランス内視鏡にて進行大腸癌で発見されたPCCRCの2例. 臨床消化器内科, 2022;37(6) : 708-712.
- 9) 中野弘康. ローテックでもここまでできる! おなかのフィジカル診断塾(第3回) お腹が痛い(その3) 急性脾炎のフィジカル “おなかのやけど”. Medicina, 2022;59(7) : 981-986.
- 10) 佐藤義典, 清川博史. 【特集: 内視鏡検査で大腸癌の見落としゼロを目指して】4. 見落とし病変と考えられた症例 — 症例から学んだこと (4) サーベイランス内視鏡にて進行大腸癌で発見されたPCCRCの2例. 臨床消化器内科, 2022;37(6) : 708-712.
- 11) 中野弘康. ローテックでもここまでできる! おなかのフィジカル診断塾(第4回) おなかの痛い(その4) 急性胆嚢炎 Murphy 徴候だけじゃない!. Medicina, 2022;59(8) : 1189-1192.
- 12) 高橋秀明, 立石敬介, 鈴木 拓. 最先端医療の今 microRNA フィールド破壊に基づくB型肝炎の発がんリスク診断および治療法開発. Medical Science Digest, 2022;48(8) : 392-395.

- 13) 中野弘康. ローテックでもここまでできる! おなかのフィジカル診断塾(第5回) おなかが痛い(その5) 心窩部痛 おなかの音を聴きに行け!. *Medicina*, 2022;59(9):1405-1408.
- 14) 石井大太, 中野弘康. 【身体診察】頭頸部の診察 active に身体所見を探しにいくためのポイント. *Hospitalist*, 2022;10(1):33-45.
- 15) 中野弘康. ローテックでもここまでできる! おなかのフィジカル診断塾(第6回) おなかが痛い(その6) 脾破裂 デルマトームを意識して痛みの発生部位を把握しよう!. *Medicina*, 2022;59(10):1597-1600.
- 16) 中野弘康. ローテックでもここまでできる! おなかのフィジカル診断塾(第7回) -おなかが痛い(その7) 正中弓状靱帯圧迫症候群 身体の静かなる音に耳を傾けよう!. *Medicina*, 2022;59(11):1789-1792.
- 17) 中野弘康. 消化器医にちょっと役立つ豆知識 4)腹痛を診る(全4回)第1回:腹痛診療の病歴・身体診察の重要性. 消化器クリニカルアップデート, 2022;4(1):116-121.
- 18) 中野弘康. 【日常診療に潜む「処方カスケード」-その症状、薬のせいではないですか?】下痢 下痢の原因にARBも!. 総合診療, 2022;32(10):1228-1231.
- 19) 中野弘康. ローテックでもここまでできる! おなかのフィジカル診断塾(第8回) おなか(下腹部)が膨満している(その1) 尿閉のフィジカル おなかを真横からみる. *Medicina*, 2022;59(12):2093-2096.
- 20) 路川陽介, 中原一有, 五十嵐洋介, 薩田祐輔, 関根章裕, 立石敬介. 【胆膵専門外来〜エキスパートによる至極の指南書〜】紹介患者の診断外来 黄疸・胆道系酵素上昇,胆管拡張で紹介された症例. 胆と膵, 2022;43(特別):1357-1363.
- 21) 中野弘康. ローテックでもここまでできる! おなかのフィジカル診断塾(第9回) 腹部膨満(その2) 腸閉塞のフィジカル お腹をじっと視てみよう!. *Medicina*, 2022;59(13):2315-2318.
- 22) 前畑忠輝, 藤本 愛, 小松拓実, 中本悠輔, 加藤正樹, 川島亜貴世, 清川博史, 佐藤義典, 松尾康正, 林 由紀恵, 高林 馨, 加藤元彦, 落合康利, 安田 宏, 矢作直久, 立石敬介. 【IEE を使いこなす】RDI(Red Dichromatic Imaging)の原理と活用法. 胃と腸, 2022;57(13):1702-1708.
- 23) 中原一有, 小林慎二郎, 立石敬介. 新規 5Fr 先端スパイラル型胆嚢プラスチックステントを用いた内視鏡的経乳頭胆嚢ドレナージ術の経験. 胆道, 2022;36(5):643-645.
- 24) 中野弘康. ローテックでもここまでできる! おなかのフィジカル診断塾(第10回) おなかが膨満している(その3) 肝嚢胞のフィジカル 腹部膨満+αの症状に注目. *Medicina*, 2023;60(1):1-5.
- 25) 中野弘康. 【“じゃないほう”の消化器症状-潜んでいる他領域疾患を見逃さない】[Chapter 4]便秘で受診した患者の……? 便秘で受診した患者の診察ポイント. 内科, 2023;131(1):99-101.
- 26) 中野弘康. 【“じゃないほう”の消化器症状-潜んでいる他領域疾患を見逃さない】[Chapter 3]腹部膨満で受診した患者の……? 腹部膨満で受診した患者の診察ポイント. 内科, 2023;131(1):87-89.
- 27) 中野弘康. 【“じゃないほう”の消化器症状-潜んでいる他領域疾患を見逃さない】[Chapter 2]腹痛で受診した患者の……? 正中弓状靱帯圧迫症候群. 内科, 2023;131(1):76-80.
- 28) 中野弘康. 【“じゃないほう”の消化器症状-潜んでいる他領域疾患を見逃さない】[Chapter 1]嘔気で受診した患者の……? 嘔気で受診した患者の診察ポイント. 内科, 2023;131(1):6-8.
- 29) 中野弘康. 【“じゃないほう”の消化器症状-潜んでいる他領域疾患を見逃さない】[Chapter 2]腹痛で受診した患者の……? 腹痛で受診した患者の診察ポイント. 内科, 2023;131(1):34-37.
- 30) 中野弘康. 【“じゃないほう”の消化器症状-潜んでいる他領域疾患を見逃さない】[Chapter 6]体重減少で受診した患者の……? 体重減少で受診した患者の診察ポイント. 内科, 2023;131(1):124-126.
- 31) 中野弘康. 【“じゃないほう”の消化器症状-潜んでいる他領域疾患を見逃さない】[Chapter 5]下痢で受診した患者の……? 下痢で受診した患者の診察ポイント. 内科, 2023;131(1):111-113.
- 32) 中野弘康. ローテックでもここまでできる! おなかのフィジカル診断塾(第11回) お腹が膨満している(その4) 腹水のフィジカル 病歴と視診・打診から腹水貯留をみつけよう!. *Medicina*, 2023;60(2):209-212.
- 33) 佐藤義典, 前畑忠輝, 中本悠輔, 清川博史, 立石敬介. 【上部消化管内視鏡のトラブルシューティング】胃 ESD 後出血時に凝血塊が潰瘍底に固着しており、出血点が同定できない. 消化器内視鏡, 2023;35(2):225-226.
- 34) 加藤裕之, 立石敬介, 藤城光弘. 【新しい技術で解明されてきた膵臓の病態】膵管内乳頭粘液性腫瘍の解明 IPMN オルガノイドの樹立. 膵臓, 2023;38(1):10-18.
- 35) 中野弘康. ローテックでもここまでできる! おなかのフィジカル診断塾(第12回) お腹が膨満している(その5) 肝硬変のフィジカル 総論. *Medicina*, 2023;60(3):441-445.
- 36) 中野弘康. 【“思春期内科”-大人でも子どもでもない患者を診る】[Chapter 2]思春期に発症しうる疾患 機能的消化管障害. 内科, 2023;131(3):371-375.

③ 症例報告

- 1) 梅澤早織, 小林慎二郎, 中原一有, 路川陽介, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 佐藤純也, 小池淳樹, 大坪毅人. EUS-FNA で術前に確定診断できた TS1 の多形細胞型退形成癌の 1 例. 脾臓, 2022;37(2) : 104-111.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Umemoto K, Yamamoto H, Oikawa R, Takeda H, Doi A, Horie Y, Arai H, Ogura T, Mizukami T, Izawa N, Moore JA, Sokol ES, Sunakawa Y. The molecular landscape of pancreatobiliary cancers for novel targeted therapies from real-world genomic profiling. *Journal of the National Cancer Institute*, 2022;114(9) : 1279-1286.
- 2) Shigefuku Ryuta, Takahashi Hideaki, Watanabe Tsunamasa, Hattori Nobuhiro, Ikeda Hiroki, Matsunaga Kotaro, Ehira Takuya, Suzuki Tatsuya, Matsumoto Nobuyuki, Okuse Chiaki, Iwasa Motoh, Nakagawa Hayato, Itoh Fumio, Suzuki Michihiro. Effects of endoscopic injection sclerotherapy for esophagogastric varices on portal hemodynamics and liver function. *BMC gastroenterology*, 2022;22(1) : 350.
- 3) Watanabe Y, Matsuba I, Kunishima T, Takechi Y, Takuma T, Araki Y, Hirotsu N, Sakai H, Oikawa R, Danno H, Fukuda M, Futagami S, Wada K, Yamamoto H, Itoh F, Oda I, Hattori Y, Degawa H.. Heterogeneity assessment of vaccine-induced effect using the point-of-care test based surrogate neutralization test for severe acute respiratory syndrome coronavirus 2. *Journal of clinical laboratory analysis*, 2022;36(7) : e24545.
- 4) Hattori Nobuhiro, Ikeda Hiroki, Watanabe Tsunamasa, Satta Yosuke, Ehira Takuya, Suzuki Tatsuya, Kiyokawa Hirofumi, Nakahara Kazunari, Takahashi Hideaki, Matsunaga Kotaro, Matsumoto Nobuyuki, Yasuda Hiroshi, Suzuki Michihiro, Itoh Fumio, Tateishi Keisuke. Risk factors for liver-related mortality of patients with hepatitis C virus after sustained virologic response to direct-acting antiviral agents. *JGH open : an open access journal of gastroenterology and hepatology*, 2022;6(10) : 685-691.
- 5) Tanaka I, Ono S, Watanabe Y, Yamamoto H, Oikawa R, Matsumoto S, Kubo M, Nishimura Y, Shimoda Y, Ono M, Yamamoto K, Sakamoto N.. Long-term changes in aberrant DNA methylation and gastritis after *Helicobacter pylori* eradication focused on metachronous gastric cancer. *Helicobacter*, 2022;27(5) : e12915.
- 6) Oikawa R, Watanabe Y, Yotsuyanagi H, Yamamoto H, Itoh F.. DNA methylation at hepatitis B virus integrants and flanking host mitochondrially encoded cytochrome C oxidase III. *Oncology Letters*, 2022;24(6) : 424.
- 7) Nakahara Kazunari, Michikawa Yosuke, Sato Junya, Igarashi Yosuke, Sekine Akihiro, Satta Yosuke, Tateishi Keisuke. Pancreatic duct stenting using an endoscopic ultrasound-guided intrapancreatic duct rendezvous technique. *Endoscopy*, 2022;54(S 02) : E954-E955.
- 8) Tsuda M, Watanabe Y, Watanabe Y, Higashino M, Kubo K, Yamamoto H, Kato M.. Clinical evaluation of a novel molecular diagnosis kit for clarithromycin-resistant *Helicobacter pylori* using gastric juice. *Helicobacter*, 2022;27(6) : e12933.
- 9) Nakahara Kazunari, Sato Junya, Tateishi Keisuke. Posterior Superior Pancreaticoduodenal Artery Pseudoaneurysm Caused by a Large-bore Biliary Metal Stent. *Journal of gastrointestinal and liver diseases : JGLD*, 2022;31(4) : 382.
- 10) Mihara H, Uchida K, Watanabe Y, Nanjo S, Sakumura M, Motoo I, Ando T, Minemura M, Muhammad JS, Yamamoto H, Itoh F, Yasuda I.. Colonic TRPV4 overexpression is related to constipation severity. *BMC Gastroenterology*, 2023;23(1) : 13.
- 11) Sato Yoshinori, Aoki Tomonori, Sadashima Eiji, Nakamoto Yusuke, Kobayashi Katsumasa, Yamauchi Atsushi, Yamada Atsuo, Omori Jun, Ikeya Takashi, Aoyama Taiki, Tominaga Naoyuki, Kishino Takaaki, Ishii Naoki, Sawada Tsunaki, Murata Masaki, Takao Akinari, Mizukami Kazuhiro, Kinjo Ken, Fujimori Shunji, Uotani Takahiro, Fujita Minoru, Sato Hiroki, Suzuki Sho, Narasaka Toshiaki, Hayasaka Junnosuke, Funabiki Tomohiro, Kinjo Yuzuru, Mizuki Akira, Kiyotoki Shu, Mikami Tatsuya, Gushima Ryosuke, Fujii Hiroyuki, Fuyuno Yuta, Gunji Naohiko, Toya Yosuke, Narimatsu Kazuyuki, Manabe Noriaki, Nagaike Koji, Kinjo Tetsu, Sumida Yorinobu, Funakoshi Sadahiro, Kobayashi Kiyonori, Matsubashi Tamotsu, Komaki Yuga, Maehata Tadateru, Tateishi Keisuke, Kaise Mitsuru, Nagata Naoyoshi. Long-term Risks of Recurrence After Hospital Discharge for Acute Lower Gastrointestinal Bleeding: A Large Nationwide Cohort Study. *Clinical gastroenterology and hepatology : the official clinical practice journal of the American Gastroenterological Association*, 2023;S1542-3565(23) : 00401-9.

- 12) Shiratori Yasutoshi, Ishii Naoki, Aoki Tomonori, Kobayashi Katsumasa, Yamauchi Atsushi, Yamada Atsuo, Omori Jun, Aoyama Taiki, Tominaga Naoyuki, Sato Yoshinori, Kishino Takaaki, Sawada Tsunaki, Murata Masaki, Takao Akinari, Mizukami Kazuhiro, Kinjo Ken, Fujimori Shunji, Uotani Takahiro, Fujita Minoru, Sato Hiroki, Suzuki Sho, Narasaka Toshiaki, Hayasaka Junnosuke, Funabiki Tomohiro, Kinjo Yuzuru, Mizuki Akira, Kiyotoki Shu, Mikami Tatsuya, Gushima Ryosuke, Fujii Hiroyuki, Fuyuno Yuta, Gunji Naohiko, Toya Yosuke, Narimatsu Kazuyuki, Manabe Noriaki, Nagaïke Koji, Kinjo Tetsu, Sumida Yoriobu, Funakoshi Sadahiro, Kobayashi Kiyonori, Matsuhashi Tamotsu, Komaki Yuga, Miki Kuniko, Watanabe Kazuhiro, Yamamoto Kazuki, Yoshimoto Takaaki, Takasu Ayaka, Ikeya Takashi, Omata Fumio, Fukuda Katsuyuki, Kaise Mitsuru, Nagata Naoyoshi. Timing of colonoscopy in acute lower GI bleeding: a multicenter retrospective cohort study. *Gastrointestinal endoscopy*, 2023;97(1) : 89-99.
- 13) Nakahara Kazunari, Sekine Akihiro, Tateishi Keisuke. Self-assembling peptide gel application to achieve endoscopic hemostasis for fistula bleeding after lumen apposing metal stent removal. *Digestive Endoscopy*, 2023;35(3) : e48-e49.

② 総説又は症例解説

- 1) Kobayashi Katsumasa, Nagata Naoyoshi, Furumoto Yohei, Yamauchi Atsushi, Yamada Atsuo, Omori Jun, Ikeya Takashi, Aoyama Taiki, Tominaga Naoyuki, Sato Yoshinori, Kishino Takaaki, Ishii Naoki, Sawada Tsunaki, Murata Masaki, Takao Akinari, Mizukami Kazuhiro, Kinjo Ken, Fujimori Shunji, Uotani Takahiro, Fujita Minoru, Sato Hiroki, Suzuki Sho, Narasaka Toshiaki, Hayasaka Junnosuke, Kaise Mitsuru. Effectiveness and adverse events of endoscopic clipping versus band ligation for colonic diverticular hemorrhage: a large-scale multicenter cohort study. *Endoscopy*, 2022;54(8) : 735-744.
- 2) Sato Junya, Nakahara Kazunari, Michikawa Yosuke, Suetani Keigo, Igarashi Yosuke, Sekine Akihiro, Satta Yusuke, Kobayashi Shinjiro, Otsubo Takehito, Tateishi Keisuke. Long-term outcomes of endoscopic transpapillary gallbladder drainage using a novel spiral plastic stent in acute calculus cholecystitis. *BMC gastroenterology*, 2022;22(1) : 539.
- 3) Maehata Tadateru, Sato Yoshinori, Nakamoto Yusuke, Kato Masaki, Kawashima Akiyo, Kiyokawa Hirofumi, Yasuda Hiroshi, Yamamoto Hiroyuki, Tateishi Keisuke. Updates in the Field of Submucosal Endoscopy. *Life*, 2022;13(1) : 104.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎佐藤純也, 中原一有, 伊東文生, 路川陽介, 末谷敬吾, 五十嵐洋介, 関根章裕, 薩田祐輔, 小林慎二郎. 胆石性急性胆嚢炎に対する内視鏡的経乳頭胆嚢ドレナージ術における手技失敗因子に関する検討. 第108回日本消化器病学会総会, 2022.
- 2) ◎中原一有. 胆道炎に対する内視鏡治療の最新 topic. 第103回日本消化器内視鏡学会総会, 2022.
- 3) ◎佐藤純也, 中原一有, 伊東文生, 路川陽介, 末谷敬吾, 五十嵐洋介, 関根章裕, 薩田祐輔, 小林慎二郎. 胆石性急性胆嚢炎に対するらせん型ステントを用いた内視鏡的経乳頭胆嚢ステント留置術の長期成績に関する検討. 第103回日本消化器内視鏡学会総会, 2022.
- 4) ◎吉田良仁, 落合康利, 川島亜貴世, 原 雅樹, 五十嵐央祥, 黄 世揚, 井上永介, 中嶋孝司, 伊東文生. 大腸腺腫と過形成性ポリープの鑑別における Linked color miaging の可能性. 第103回日本消化器内視鏡学会総会, 2022.
- 5) ◎竹之内恵菜, 末谷敬吾, 石田 潤, 近江亮介, 中村紗里香, 黄 世揚, 松永光太郎. 出血源同定に難渋した十二指腸憩室出血の1例. 日本消化器病学会関東支部第369回例会, 2022.
- 6) ◎堀江 勲, 五十嵐洋介, 中原一有, 路川陽介, 佐藤純也, 関根章裕, 増田有亮, 伊東文生. 出血性急性胆嚢炎に対する内視鏡的経乳頭ドレナージ術後に胆嚢穿孔をきたした1例. 日本消化器病学会関東支部第369回例会, 2022.
- 7) ◎関根章裕, 中原一有, 佐藤純也, 五十嵐洋介, 末谷敬吾, 路川陽介, 伊東文生. ERCP時の親水性ガイドワイヤー操作により肝実質内および肝被膜下血腫をきたした1例. 第103回日本消化器内視鏡学会総会, 2022.
- 8) ◎五十嵐央祥, 落合康利, 見原雄貴, 薩田祐輔, 川島亜貴世, 松尾康正, 中嶋孝司, 伊東文生. 当院で緊急内視鏡を施行した上部消化管出血の臨床的検討. 第103回日本消化器内視鏡学会総会, 2022.
- 9) ◎清川博史, 前畑忠輝, 安田 宏. PDT後の偶発症予防に対する新規デバイスの開発. 第103回日本消化器内視鏡学会総会, 2022.
- 10) ◎荒木建一, 清川博史, 前畑忠輝, 飯島良彦, 薩田祐輔, 中本悠輔, 加藤正樹, 佐藤義典, 山本博幸, 安田 宏. 当院における十二指腸憩室出血に対する内視鏡的止血術の治療経験. 第103回日本消化器内視鏡学会総会, 2022.

- 11) ◎小松拓実, 黒木優一郎, 松本伸行. 新型コロナウイルス蔓延下における感染対策と上部消化管出血に対する緊急内視鏡の実態. 第 103 回日本消化器内視鏡学会総会, 2022.
- 12) ◎薩田祐輔, 松尾康正, 見原雄貴, 川島亜貴世, 五十嵐央祥, 落合康利, 中嶋孝司, 伊東文生. 好酸球性食道炎と無症候性食道好酸球症の内視鏡所見の比較. 第 103 回日本消化器内視鏡学会総会, 2022.
- 13) ◎中原一有. 内視鏡的乳頭切開術～乳頭を“斬る”～. 第 103 回日本消化器内視鏡学会総会, 2022.
- 14) ◎鈴木達也, 江口暁子, 竹井謙之. NASH-HCC の病態進展において核移行シグナル受容体である Karyopherin alpha2 の機能不全が生じる. 第 58 回日本肝臓学会総会, 2022.
- 15) ◎松尾康正, 安田 宏, 薩田祐輔, 落合康利, 伊東文生. 消化管 ESD におけるシリコーン製トラクションデバイスの開発. 第 114 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 2022.
- 16) ◎中本悠輔, 前畑忠輝, 佐藤義典, 高松由佳, 伊東文生. 内視鏡時の急変に対する Rapid response system の有用性について. 第 114 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 2022.
- 17) ◎荒木建一, 佐藤義典, 中本悠輔, 清川博史, 前畑忠輝. 大腸憩室出血に対する内視鏡的クリップ直達法の治療成績. 第 114 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 2022.
- 18) 小林慎二郎, 土橋篤仁, 中原一有, 井田圭亮, 加藤宗次郎, 澤田真裕, 小泉哲, 路川陽介, 佐藤淳也, 大坪毅人. 膵頭十二指腸切除術後の良性胆管空腸吻合部狭窄. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 19) ◎大槻拓矢, 家研也, 漆原裕人, 本橋伊織, 中村紗里香, 松永光太郎, 奥瀬千晃, 松田隆秀, 大平善之. 腹水の性状変化を契機に診断に至った特発性多中心キャッスルマン病の 1 例. 第 25 回日本病院総合診療医学会学術総会, 2022.
- 20) ◎安田 宏. 潰瘍性大腸炎の診療の Up to Date. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 52 回学術大会, 2022.
- 21) ◎加藤優一, 奥瀬千晃, 山下裕顕, 山田祐揮, 石田潤, 酒井翼, 本橋伊織, 家研也, 松永光太郎, 松田隆秀, 大平善之. 内視鏡的治療が可能であった梅干しの種子による十二指腸閉塞の 1 例. 第 25 回日本病院総合診療医学会学術総会, 2022.
- 22) ◎井崎裕都, 菱田吉明, 窪田珠理, 常見真吾, 鈴木達也, 川名部新, 加納麻弓子, 月山秀一, 中村祐太, 中川朋子, 横田健一, 曽根正勝. 先端巨大症に併発した肝腫瘍の診断に苦慮した 1 例. 第 23 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 23) ◎五十嵐央祥, 荒木建一, 近江亮介, 松尾康正, 落合康利, 中嶋孝司, 小泉宏隆, 立石敬介. IgG4 陽性大腸炎症性ポリープの 1 例. 日本消化器病学会関東支部第 371 回例会, 2022.
- 24) ◎関根章裕, 中原一有, 薩田祐輔, 五十嵐洋介, 路川陽介, 立石敬介. 完全内臓逆位の胆管結石除去において内視鏡挿入法の工夫が有用であった一例. 第 58 回日本胆道学会学術集会, 2022.
- 25) ◎五十嵐洋介, 中原一有, 路川陽介, 佐藤純也, 関根章裕, 薩田祐輔, 立石敬介. 当院における出血性胆嚢炎の検討. 第 58 回日本胆道学会学術集会, 2022.
- 26) ◎中原一有. 徹底検証 ! 噂の新型ガイドワイヤー J-Wire !. 第 58 回日本胆道学会学術集会, 2022.
- 27) ◎佐藤純也, 中原一有, 伊東文生. 胆石性急性胆嚢炎に対するらせん型ステントを用いた内視鏡的経乳頭胆嚢ステント留置術の長期成績に関する検討. 第 58 回日本胆道学会学術集会, 2022.
- 28) ◎間崎 護, 瀬上瑛子, 中野弘康, 須藤 博. 大量飲酒後に膀胱破裂で急性腹症となった 1 例. 日本内科学会第 681 回関東地方会, 2022.
- 29) ◎吉田良仁, 黒木優一郎, 角田樹生, 小松拓実, 原 雅樹, 高橋秀明, 松本伸行. 生物学的製剤によって不顕性化したメサラジン不耐. 第 64 回日本消化器病学会大会 (JDDW2022), 2022.
- 30) ◎佐藤純也, 中原一有, 伊東文生. 高齢者における胆石性急性胆嚢炎に対するらせん型ステントを用いた内視鏡的経乳頭胆嚢ステント留置術に関する検討. 第 104 回日本消化器内視鏡学会総会 (JDDW2022), 2022.
- 31) ◎小松拓実, 佐藤義典, 前畑忠輝. 制限輸血が与える大腸憩室出血の入院後転帰について. 第 64 回日本消化器病学会大会 第 104 回日本消化器内視鏡学会総会 第 20 回日本消化器外科学会大会 第 60 回日本消化器がん検診学会大会 (JDDW2022), 2022.
- 32) ◎松本伸行, 見原雄貴, 得平卓也, 吉田良仁, 黒木優一郎, 高橋秀明, 立石敬介. アシアロ糖蛋白受容体を標的とした肝細胞造影機能を持つヨード性造影剤の開発. 第 33 回日本消化器癌発生学会総会, 2022.
- 33) 佐藤政秋, 加藤 正樹, 佐藤 利行, 土屋 貴大, 表山 和樹, 有戸 光美, 末松 直也, 加藤 智啓, 黒川 真奈絵. 潰瘍性大腸炎の新規血清ペプチドバイオマーカーの網羅的探索. 第 95 回 日本生化学会大会, 2022.
- 34) ◎立石敬介. オルガノイドを用いた IPMN のエピゲノム解析. 日本患者由来がんモデル学会 2022 年度学術集会, 2022.
- 35) 小林慎二郎, 梅澤早織, 大池信之, 中原一有, 増田哲之, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 路川陽介, 野呂瀬朋子, 大坪毅人. 膵腫瘍に対して過不足のない安全な膵切除を目指す取り組み. 第 26 回日本外科病理学会学術集会, 2022.
- 36) ◎松本伸行, 高橋秀明, 立石敬介. 肝細胞造影機能を持つヨード性造影剤の新規開発. 第 44 回日本肝臓学会東部会, 2022.
- 37) ◎薩田祐輔, 池田裕喜, 鈴木達也, 服部伸洋, 渡邊綱正, 得平卓也, 高橋秀明, 松本伸行, 松永光太郎, 立石敬介. 肝細胞癌に対する体幹部定位放射線療法の当院の治療成績. 第 44 回日本肝臓学会東部会, 2022.

- 38) ◎鈴木達也, 渡邊綱正, 薩田洋輔, 服部伸洋, 池田裕喜, 立石敬介. HBe 抗原陰性 B 型肝炎における核酸アナログ中止の有用性の検討. 第 44 回日本肝臓学会東部会, 2022.
- 39) ◎藤原弘明, 高原楠晃, 中井陽介, 小池和彦, 藤城光弘, 立石敬介. 胆管癌における 5-アミノレブリン酸を利用した光線力学的診断法の応用可能性. 第 43 回日本臨床薬理学会, 2022.
- 40) ◎増田有亮, 清川博史, 前畑忠輝, 安田 宏, 立石敬介. 当院における胃石の治療成績. 第 115 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 2022.
- 41) ◎吉田良仁, 黒木優一郎, 金澤 実, 見原雄貴, 得平卓也, 高橋秀明, 松本伸行, 長宗我部基弘, 有泉 泰, 立石敬介. H. pylori 除菌にて ESD 術中出血コントロール可能であった免疫性血小板減少性合併早期胃癌の一例. 第 115 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 2022.
- 42) 成木佐瑛子, 遠藤陽, 小池淳樹, 中本悠輔, 前畑忠輝. 胃底腺型腺癌の 1 例. 第 116 回神奈川県病理医会例会 第 45 回総会, 2023.
- 43) ◎中本悠輔. 胃 ESD 困難症例に対する当院の対応について. 第 95 回日本胃癌学会総会, 2023.
- 44) ◎渡邊嘉行, 二神生爾, 多田智裕. AI 診断と分子マーカーを用いた胃 Group2 病変評価の検討. 第 103 回日本消化器内視鏡学会総会, 2022.
- 45) Oikawa Ritsuko, Watanabe Yoshiyuki, Yotsuyanagi Hiroshi, Yamamoto Hiroyuki. DNA methylation in HBV integration in human mitochondria and its association with carcinogenesis. 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022.
- 46) ◎Fujiwara Hiroaki, Tateishi Keisuke, Soga Tomoyoshi, Koike Kazuhiko, Fujishiro Mitsuhiro. Mutant IDH1 activates glycolysis in biliary epithelial cells through PFKF upregulation. 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022.
- 47) ◎Tateishi Keisuke, Kato Hiroyuki, Iwadate Dosuke, Yamamoto Keisuke. Epigenomic analyses of pancreatic cancers using patient-derived organoids. 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022.

② 国際学会

- 1) Kobayashi shinjiro, Nakahara Kazunari, Sawada Masahiro, Kato Sojiro, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Michikawa Yosuke, Otsubo Takehito. Cholecystectomy after endoscopic transpaillary gallbladder drainage(ETGBD). The 34th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2022.
- 2) Momoko Tsuda, Yoshiyuki Watanabe, Ryosuke Watanabe, Masayuki Higashino, Kimitoshi Kubo, Hiroyuki Yamamoto, Mototsugu Kato. Clinical evaluation of H. pylori molecular diagnosis POCT kit based on Qprobe using gastric juice. The 18th Japan-Korea H. pylori Joint Symposium, 2022.
- 3) Umezawa Saori, Kobayashi Shinjiro, Nakahara Kazunari, Takagi Shinpei, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Michikawa Yosuke, Otsubo Takehito. A case of pancreatic tail resection for pancreatic rupture associated with pseudocyst. Joint Congress of The 26th International Association of Pancreatology And The 53th Annual Meeting of Japan Pancreas Society, 2022.
- 4) ◎Matsuda Koji. EUS in Pancreatic Tumors. Interventional EUS Workshop in Hue, 2022.
- 5) ◎Matsuda Koji. EUS-guided drainage. Interventional EUS Workshop in Hue, 2022.

③ その他

- 1) ◎中原一有. DIC 合併急性胆道炎に挑む～人事を尽くして天命を待つ～. 重症急性胆管炎合併症を考える会, 2022.
- 2) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘症 WEB セミナー, 2022.
- 3) ◎中原一有. 急性胆管炎に対する切らない/刺さない低侵襲治療～内視鏡的経乳頭胆嚢ドレナージ～. 消化器疾患最前線, 2022.
- 4) ◎加藤正樹. 潰瘍性大腸炎治療～川崎の腸炎の砦として～. 消化器疾患最前線, 2022.
- 5) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘症 WEB セミナー in 藤沢, 2022.
- 6) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘症 WEB セミナー in 東葛北部, 2022.
- 7) ◎得平卓也. 画像所見が急性発症型自己免疫性肝炎と酷似する成因不明の慢性肝炎例. 第 48 回日本急性肝不全研究会, 2022.
- 8) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘症 WEB 講演会, 2022.
- 9) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 透析疾患合併症フォーラム, 2022.
- 10) ◎服部伸洋. 当院における LEN-TACE 療法の実績と治療効果. HCC Pioneers Meeting in Kawasaki～肝がんにおける最新のトピックスを学ぶ～, 2022.
- 11) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 便秘 Web フォーラム in 千葉, 2022.
- 12) ◎黒木優一郎. 下部消化管内視鏡の up date ～診断から治療まで～. 横浜西部 消化器疾患連携 Meeting, 2022.
- 13) ◎前畑忠輝. 最新の内視鏡治療～GERD 診療ガイドラインの改訂ポイント含めて～. 横浜西部 消化器疾患連携 Meeting, 2022.

- 14) ◎前畑忠輝. 消化器医から診た抗血栓療法. 循環器内科&消化器内科 Collaboration Conference, 2022.
- 15) ◎加藤正樹. 潰瘍性大腸炎治療における 5ASA 製剤の最適化. 県西地区 IBD 治療セミナー, 2022.
- 16) ◎渡邊綱正. 発癌から見た B 型慢性肝疾患治療. Kanagawa HBV Web Seminar, 2022.
- 17) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘 Web セミナー, 2022.
- 18) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘 Web セミナー, 2022.
- 19) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘 Web セミナー, 2022.
- 20) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘症 WEB セミナー, 2022.
- 21) ◎中原一有. 二刀流で挑む! DIC 合併急性胆道炎. 鹿児島消化器内科 TM 講演会, 2022.
- 22) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 便秘診療ステップアップレクチャー, 2022.
- 23) ◎路川陽介. 急性胆道炎に対する治療戦略. Asahi Gastroenterology Web Seminar～消化器病 WEB セミナー～, 2022.
- 24) ◎中野弘康. 日常診療に役立つ“おなかの診かた”. 兵庫県保険医協会・研究部 診療内容向上研究会, 2022.
- 25) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 神奈川県慢性便秘 WEB チャンネル, 2022.
- 26) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 便秘治療を考える会, 2022.
- 27) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 便秘診療ステップアップレクチャー, 2022.
- 28) ◎中原一有. DIC 合併急性胆道炎に挑む!. Tokyo QUAD digestive congress, 2022.
- 29) ◎立石敬介. 胆膵研究～Epigenetics is everywhere～. Tokyo QUAD digestive congress, 2022.
- 30) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 埼玉西部慢性便秘症セミナー, 2022.
- 31) ◎前畑忠輝. 当院における潰瘍性大腸炎治療～エンタビオを中心に～. 多摩川 IBD Web Seminar, 2022.
- 32) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 慢性便秘症ウェブセミナー, 2022.
- 33) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 慢性便秘 Web セミナー, 2022.
- 34) ◎加藤正樹. 川崎の IBD 診療を考える～医療連携の構築を目指して～. 川崎 IBD Network～地域医療の架け橋～, 2022.
- 35) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 便秘診療ステップアップレクチャー, 2022.
- 36) ◎加藤正樹. 潰瘍性大腸炎の治療戦略～エンタビオを中心に～. IBD×医療統計 Web セミナー, 2022.
- 37) ◎加藤正樹. 当院での IBD 診療の現状. IBD Conference in 神奈川, 2022.
- 38) ◎安田 宏. 潰瘍性大腸炎の診療 Up to Date. 日本化薬 社内研修会, 2022.
- 39) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 慢性便秘症治療 Web フォーラム, 2022.
- 40) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. グーフィス WEB チャンネル長野・山梨, 2022.
- 41) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 慢性便秘症治療 STEP UP セミナー, 2022.
- 42) ◎松尾康正. 大腸腫瘍の内視鏡治療-新規 ESD トラクションデバイス開発のご紹介-. GI Web Seminar in Kawasaki, 2023.
- 43) ◎清川博史. 逆流性食道炎 (GERD) の治療戦略と光線力学療法について. GI Web Seminar in Kawasaki, 2023.
- 44) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 生活習慣病フォーラム, 2023.
- 45) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. メディカルオンラインセミナー, 2023.
- 46) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 女性疾患研究会, 2023.
- 47) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 慢性便秘 Web セミナー, 2023.
- 48) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 腎・透析から診る慢性便秘症治療 Seminar, 2023.
- 49) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 東部地区慢性便秘症 WEB フォーラム, 2023.
- 50) ◎加藤正樹. 潰瘍性大腸炎治療における 5ASA 製剤の最適化. 潰瘍性大腸炎 WEB セミナー～リアルダ錠発売 6 周年記念講演会～, 2023.
- 51) ◎立石敬介. 聖マリアンナ医科大学病院における三位一体の消化器癌診療. 第 40 回川崎市医師会医学会, 2023.
- 52) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 慢性便秘症 Web セミナー ～便秘治療を考える～, 2023.
- 53) ◎立石敬介. 三位一体の消化器病診療～より良い地域連携のために～. 世田谷区医師会講演会, 2023.
- 54) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 便秘診療ネットフォーラム, 2023.
- 55) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 慢性便秘症治療を考える会, 2023.
- 56) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 慢性便秘 Web セミナー, 2023.
- 57) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 慢性便秘症 WEB セミナー, 2023.
- 58) ◎加藤正樹. 実診療下におけるクローン病の治療戦略と課題. IBD seminar ～基礎、臨床の架け橋～, 2023.
- 59) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 西三河慢性便秘症 WEB フォーラム, 2023.
- 60) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 慢性便秘症 WEB セミナー, 2023.

		和 文	英 文
著 書		11	
論 文	原著	3	13
	解説又は総説	36	3
	症例報告	1	
	その他		
学会発表	国内学会	43	4
	国際学会		5
	その他	60	

内科学（腎臓・高血圧内科）

著書

- 1) 市川滉介, 小波津香織. Q1. AKI の診断方法の歴史を教えてください 実践理解！心腎関連症候群 Q&A 2022;(1):32-38.
- 2) 寺下真帆, 富永直人. 腎を救うのはあなた！急性腎障害の診かた AKI の鑑別に際し有用な身体所見と細胞外液量評価 レジデントノート 2022;12(24):2042-2048.
- 3) 小島茂樹, 櫻田勉. 非カフ型カテーテル挿入術の実際 カテーテル透析パーフェクトマネジメント 2022;(1):30-31.
- 4) 柴垣有吾. 同種臓の特徴と使い分け 今日の治療指針 2023 2023;(65):581-583.
- 5) 野田竜之介, 村澤昌. 酸塩基平衡の異常：緊急対応が必要な酸塩基平衡異常 腎疾患・透析 最新の治療 2023-2025 2023;(1):79-82.
- 6) 池森敦子, 菅谷健, 木村健二郎. 尿中 L 型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) 臨床検査データブック 2023-2024 2023;;761-762.
- 7) 今井直彦. 腎臓の機能 からだが見える 2023;(1):516-537.
- 8) 白井小百合. 糸球体濾過量 からだが見える 2023;(1):516-517.
- 9) 久道三佳子, 柴垣有吾. 領域別臨床検査データの診かた 電解質異常 月刊 臨床と研究 別冊 2023;2(100):63-68.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 山田将平, 小波津香織, 村澤昌, 小島茂樹, 柴垣有吾, 櫻田勉. 患者負担の少ない腹膜透析の新たな離脱法 外来でのカテーテル再埋没法. 腎と透析別冊腹膜透析 2022, 2022;93:53-55.
- 2) Azegami T, Kounoue N, Sofue T, Yazawa M, Tsujita M, Masutani K, Kataoka Y, Oguchi H. Efficacy of pre-emptive kidney transplantation for adults with end-stage kidney disease: a systematic review and meta-analysis. Renal failure, 2022;45(1):2169618.

② 総説又は症例解説

- 1) 高山卓, 村澤昌. 【高齢者と栄養と健康～高齢者の疾病と栄養～】CKD（慢性腎臓病）. Biophilia, 2022;11(1):20-27.
- 2) 桑野克久, 谷澤雅彦, 柴垣有吾. 電解質の管理 低 Na 血症 急性・慢性低 Na 血症の初期治療. Medicina, 2022;59(5):630-636.
- 3) 藤島理恵, 谷澤雅彦. (第9章)腎臓・泌尿器 尿毒症, 腎不全. Medicina, 2022;59(4):274-278.
- 4) 今井直彦. 特集 症例から学ぶ-電解質と体液量管理のベストアンサー 扉. medicina, 2022;59:606-607.
- 5) 赤沼嵩史, 小島茂樹. 急性腎不全 (ARF) から急性腎障害 (AKI) へ AKI の予後. 日本医師会雑誌, 2022;151(1):64-64.
- 6) 吉田圭佑, 市川大介. 【ネフローゼ症候群 update】合併症と対策 急性腎障害. 腎と透析, 2022;92(4):756-759.
- 7) 林晃一, 今井直彦. 1 ページでわかる内科疾患の診療ノート“あたりまえ”のなかにある大事な視点 (第10章)腎臓 腎硬化症. 臨床雑誌内科, 2022;129(4):1019-1022.
- 8) 角浩史, 富永直人. 低ナトリウム血症～その病態に基づいた鑑別診断～. 日本内科学会雑誌, 2022;111:902-911.
- 9) 堀内ゆか, 谷澤雅彦, 柴垣有吾. 【内分泌代謝緊急症】低 Na 血症. 糖尿病・内分泌代謝科, 2022;54(5):580-586.
- 10) 藤島理恵, 谷澤雅彦. 【腎代替療法のすべて】(第9章)透析患者の合併症 末梢神経障害. 腎と透析, 2022;92:510-514.
- 11) 村澤昌, 櫻田勉. 【腎代替療法のすべて】(第8章)周術期管理の注意点とポイント 腹膜透析患者. 腎と透析, 2022;92:444-447.
- 12) 高山卓, 白井小百合. 【IgA 腎症-最新の知見-】IgA 腎症と RA 阻害薬. 腎と透析, 2022;92(6):1052-1057.
- 13) 谷澤雅彦, 櫻井裕子. 腎移植レシピエントにおける脂質異常症. 日本臨床腎移植学会雑誌, 2022;10(1):30-40.
- 14) 寺下真帆, 谷澤雅彦. 腹膜透析患者の腎移植 移植前後の管理法. 臨床透析, 2022;38(8):1064-1070.
- 15) 小島茂樹, 櫻田勉. 総論 管理目標値と患者の“いつもの値”を知っておこう. 透析ケア, 2022;28(7):646-653.
- 16) 平野宏之介, 今井直彦. 尿管輸送異常症 尿管性アシドーシス. 日本臨床, 2022;1:233-237.
- 17) 白井佳那, 河原崎宏雄. 慢性腎臓病の患者にプロトンポンプ阻害薬は投与しない方がよいのでしょうか?. 内科, 2022;130(3):591-593.
- 18) 柴垣有吾. 臨床 ケトアシドーシスとは何なのか? Back to the Basics. The Lipid, 2022;33(2):177-186.
- 19) 渡邊 詩香, 市川 大介. 【嚢胞腎】多発性嚢胞腎 (ADPKD) の合併症とその治療 心血管合併症, 腸憩室疾患. 腎と透析, 2022;93(4):593-596.
- 20) 寺下真帆, 富永直人. AKI の鑑別に際し有用な身体所見と細胞外液量評価. レジデントノート, 2022;24(12):2042-2048.
- 21) 大迫希代美, 谷澤雅彦. AKI の疫学・定義・一般的なマネージメント. レジデントノート, 2022;24(12):2031-2036.

- 22) 近藤千紘, 石倉健司, 一岡聡子, 大前憲史, 奥田雄介, 小坂橋賢一郎, 佐々木彰, 陶山浩一, 谷澤雅彦, 水上拓郎, 柴垣有吾, 平田純生, 安藤雄一, 古市賢吾, 西山博之, 松原雄, 星野純一, 柳田素子. 【がん薬物療法時の腎障害診療ガイドライン 2022 版のポイント】がんサバイバーにおける慢性腎臓病のマネジメント. 癌と化学療法, 2022;49(11):1200-1204.
- 23) 柴垣有吾, 栗田宜明. CKD(透析)患者の Patient Reported Outcome を考える. 日本透析医学会雑誌, 2022;37(3):366-372.
- 24) 麻生芽亜, 小波津香織, 柴垣有吾. AKI の薬物治療 ループ利尿薬の使い方. 月間薬事, 2022;64(16):3357-3363.
- 25) 今井直彦. 腎臓内科の進歩と臨床医の使命. 炉辺閑話 2023, 2023;5150:38.
- 26) 小山哲平, 小島茂樹. 急性腎障害(AKI)病態と鑑別診断. 腎と透析, 2023;94(1):11-14.
- 27) 小山 亮, 谷澤 雅彦. 【“じゃないほう”の消化器症状-潜んでいる他領域疾患を見逃さない】[Chapter 1]嘔気で受診した患者の……? 低ナトリウム血症. 臨床雑誌内科, 2023;131(1):14-19.
- 28) 池田麻理, 市川大介. 11. がん患者における貧血・電解質異常のマネジメント. 循環器内科, 2023;93(2):153.
- 29) 久道三佳子, 柴垣有吾. 【症例に学ぶ臨床検査データの診かた】領域別臨床検査データの診かた 電解質異常. 臨牀と研究, 2023;100(2):201-206.
- 30) 櫻田勉. 私たちが取り組む慢性腎臓病教育入院. 医薬の門, 2023;63(1):4-7.
- ③ 症例報告
 - 1) 寺下真帆, 谷澤雅彦, 柴垣有吾. 臓器障害と AKI 横紋筋融解. 腎と透析, 2022;93(1):101-105.
- ④ その他
 - 1) 櫻田勉. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)と腹膜透析. 神奈川県透析施設連絡協議会報, 2022;2022(37):15.
 - 2) 柴垣有吾, 平木幸治, 音部雄平. 合併症を有する CKD 患者に対するリハビリテーション 高齢保存期 CKD 患者における運動介入の意義と効果. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2022;:A332.
 - 3) 谷澤雅彦. 特集にあたって “一歩早く”AKI に対応するために. レジデントノート, 2022;24(12):2024-2025.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Murasawa M, Watanabe S, Koitabashi K, Shibagaki Y, Sakurada T. A prospective observational study on caregiver burden of elderly peritoneal dialysis patients. Clinical and experimental nephrology, 2022;26(4):376-377.
- 2) Makinouchi R, Machida S, Matsui K, Shibagaki Y, Imai N. Severe hypokalemia in the emergency department: A retrospective, single-center study. Health Science Reports, 2022;5(3):e594.
- 3) Takayama S, Sakurada T, Shibagaki Y, Imai N. Seasonal variation in emergent hemodialysis initiation in the late elderly: A single-center study. Hemodialysis International, 2022;26(2):160-165.
- 4) Yamamoto R, Imai E, Maruyama S, Yokoyama H, Sugiyama H, Takeda A, Tsukamoto T, Uchida S, Tsuruya K, Shoji T, Hayashi H, Akai Y, Fukunaga M, Konta T, Nishio S, Goto S, Tamai H, Nagai K, Katafuchi R, Masutani K, Wada T, Nishino T, Shirasaki A, Sobajima H, Nitta K, Yamagata K, Kazama J, Hiromura K, Yasuda H, Mizutani M, Akahori T, Naruse T, Hiramatsu T, Morozumi K, Mimura T, Saka Y, Ishimura E, Hasegawa H, Ichikawa D, Shigematsu T, Sato H, Narita I, Isaka Y, Japan Nephrotic Syndrome Cohort Study investigators. Time to remission of proteinuria and incidence of relapse in patients with steroid-sensitive minimal change disease and focal segmental glomerulosclerosis: the Japan nephrotic syndrome cohort study. Journal of Nephrology, 2022;35(4):1135-1144.
- 5) Inoue Kazuho, Yamada Shohei, Hoshino Seiko, Watanabe Minoru, Kimura Kenjiro, Kamiyo-Ikemori Atsuko. Glucagon-like peptide-1 receptor agonist, liraglutide, attenuated retinal thickening in spontaneously diabetic Torii fatty rats. BMC Ophthalmology, 2022;22(1):206.
- 6) Yamamoto Ryohei, Imai Enyu, Maruyama Shoichi, Yokoyama Hitoshi, Sugiyama Hitoshi, Takeda Asami, Uchida Shunya, TsukamotoTatsuo, Tsuruya Kazuhiko, Akai Yasuhiro, Nitta Kosaku, Fukunaga Megumu, Hayashi Hiroki, Masutani Kosuke, Wada Takashi, Konta Tsuneo, Katafuchi Ritsuko, Nishio Saori, Goto Shunsuke, Tamai Hirofumi, Shirasaki Arimasa, Shoji Tatsuya, Nagai Kojiro, Nishino Tomoya, Yamagata Kunihiro, Kazama J-Junichiro, Hiromura Keiju, Yasuda Hideo, Mizutani Makoto, Naruse Tomohiko, Hiramatsu Takeyuki, Morozumi Kunio, Sobajima Hiroshi, Saka Yosuke, Ishimura Eiji, Ichikawa Daisuke, Shigematsu Takashi, Sofue Tadashi, Fujimoto Shouichi, Ito Takafumi, Sato Hiroshi, Narita Ichiei, Isaka Yoshitaka: JNSCS Investigators. Predictors of early remission of proteinuria in adult patients with minimal change disease: a retrospective cohort study. Scientific reports, 2022;12(1):9782.

- 7) Yoshida Keisuke, Shimizu Sayaka, Kita Yohei, Han Takagi Wei, Shibagaki Yugo, Sakurada Tsutomu. Impact of inpatient educational programs on mortality after the start of dialysis therapy. *Clinical and experimental nephrology*, 2022;26(8) : 819-826.
- 8) Kosaki K, Tarumi T, Mori S, Matsui M, Sugawara J, Sugaya T, Kuro-O M, Saito C, Yamagata K, Oka K, Maeda M. Cerebral and renal hemodynamics: similarities, differences, and associations with chronic kidney disease and aortic hemodynamics. *Hypertension research*, 2022;45(8) : 1363-1372.
- 9) Kawano K, Otaki Y, Suzuki N, Fujimoto S, Iseki K, Moriya T, Yamagata K, Tsuruya K, Narita I, Kondo M, Shibagaki Y, Kasayara M, Asahi K, Watanabe T, Konta T. Prediction of mortality risk of health checkup participants using machine learning-based models: the J-SHC study. *Scientific reports*, 2022;12(1) : 14154.
- 10) Sumi H, Imai N, Shibagaki Y. Incidence and risk factors of overcorrection in patients presenting with severe hyponatremia to the emergency department. *Clinical and experimental nephrology*, 2022;26(11) : 1086-1091.
- 11) Kojima Shigeki, Marui Yuhji, Shibagaki Yugo, Sakurada Tsutomu. Accidental removal of dialysis central venous catheter inserted for blood purification therapy: a single-center study. *Clinical and Experimental Nephrology*, 2022;26(12) : 1218-1222.
- 12) Maruyama Y, Yokoyama K, Higuchi C, Snaka T, Tanaka Y, Sakai K, Kanno Y, Ryuzaki M, Sakurada T, Hosoya T, Nakayama M. Clinical feasibility of transfer to combined therapy with peritoneal dialysis and hemodialysis for patients on peritoneal dialysis: A prospective multicenter study in Japan. *Therapeutic Apheresis and Dialysis*, 2022;26(6) : 1226-1234.
- 13) Fukuhara Shunichi, Yamazaki Hajime, Wakita Takafumi, Ware John E. Jr., Wang Jui, Onishi Yoshihiro, Yajima Toshitaka, Sada Kenei, Yamamoto Yosuke, Shibagaki Yugo. Validation of a new instrument for measuring disease-specific quality of life: A pilot study among patients with chronic kidney disease and hyperkalemia. *Annals of Clinical Epidemiology*, 2023;5(1) : 13-19.
- 14) Hara H, Wada T, Muso E, Maruyama S, Kato S, Furuichi K, Yoshimura K, Toyama T, Sakai N, Suzuki H, Tsukamoto T, Miyazaki M, Sato E, Abe M, Shibagaki Y, Narita I, Goto S, Sakamaki Y, Yokoyama H, Mori N, Tanaka T, Yuzawa Y, Hasegawa M, Matsubara T, Wada J, Tanabe K, Matsutani K, Abe Y, Tsuruya K, Fujimoto S, Iwatsubo S, Tuda A, Suzuki H, Katsuno K, Terada Y, Nakata T, Iino N, Sofue T, Miyata H, Nakano T, Ohtake T, Kobayashi S; LICENSE study group. Effect of low-density lipoprotein apheresis on quality of life in patients with diabetes, proteinuria, and hypercholesterolemia. *Blood purification*, 2023;52(4) : 373-381.
- 15) Yazawa M. Efficacy of pre-emptive kidney transplantation for adults with end-stage kidney disease: a systematic review and meta-analysis. *Renal Failure*, 2023;45(1) : 2169618.
- 16) Takayama S, Inoue K, Ogura Y, Hoshino S, Sugaya T, Ohata K, Kotake H, Ichikawa D, Watanabe M, Kimura K, Shibagaki Y, Kamiyo-Ikemori A.. Angiotensin II type 1a receptor deficiency alleviates muscle atrophy after denervation. *Scientific Reports*, 2023;13(1) : 519.
- 17) Endo K, Hayashi K, Hara Y, Miyake A, Takano K, Horikawa T, Yoshino K, Sakai M, Kitamura K, Ito S, Imai N, Fujitani S, Suzuki T. Impact of early initiation of renin-angiotensin blockade on renal function and clinical outcomes in patients with hypertensive emergency: a retrospective cohort study. *BMC Nephrology*, 2023; : doi-org/10.1186/s12882-023-03117-1.
- 18) Kimura Y, Yamamoto R, Shinzawa M, Aoki K, Tomi R, Ozaki S, Yoshimura R, Shimomura A, Iwatani H, Isaka Y, Iseki K, Tsuruya K, Fujimoto S, Narita I, Konta T, Kondo M, Kasahara M, Shibagaki Y, Asahi K, Watanabe T, Yamagata K, Moriyama T. Alcohol consumption and a decline in glomerular filtration rate: the japan specific health checkups study. *Nutrients*, 2023;15(6) : 1540.
- 19) Sofue T, Oguchi H, Yazawa M, Tsujita T, Futamura K, Nishihira M, Toyoda M, Kano, T Suzuki H. Serological and histopathological assessment of galactose-deficient immunoglobulin A1 deposition in kidney allografts: A multicenter prospective observational study. *PLoS ONE*, 2023;18(2) : e0281945.
- 20) Iwasaki T, Kimura H, Tanaka K, Asahi K, Iseki K, Moriyama T, Yamagata K, Tsuruya K, Fujimoto S, Narita I, Konta T, Kondo M, Kasahara M, Shibagaki Y, Watanabe T, Kazama J. Association between height loss and mortality in the general population. *Scientific reports*, 2023;13(1) : 3593.

② 症例報告

- 1) Noda R, Nishinarita J, Araki K, Kohatsu K, Yazawa M. Emphysematous cystitis caused by dysuria due to sulpiride in a patient with chronic kidney disease: a case report. *SN Comprehensive Clinical Medicine*, 2022;4 : 97.

- 2) Noda R, Kakinuma Y, Suzuki K, Ide S, Bae Y, Miyauchi A, Ishibashi Y. Pregnancy-onset thrombotic thrombocytopenic purpura with nephrotic syndrome: a case report. CEN Case Reports, 2022;11(2) : 203-207.
 - 3) Miyauchi T, Terashita M, Ogata M, Murata M, Osako K, Imai N, Sakurai Y, Sasaki H, Ohashi Y, Ichida K, Shibagaki Y, Yazawa M. Renal hypouricemia in recipient with living kidney transplantation: a case report and literature review. CEN Case Reports, 2022;11(2) : 177-183.
 - 4) Ogata M, Morikubo S, Imai N, Shibagaki Y, Yazawa M. Tonicity matters, especially in complex hyponatremia resulting from pseudo-, translocational, and true hypotonic hyponatremia: An educational case report. Internal Medicine, 2022;61(10) : 1567-1571.
 - 5) Noda R, Han W, Shibagaki Y, Yazawa M. Renovascular hypertension secondary to massive iliopsoas hematoma. Kidney International, 2022;101(6) : 1304.
 - 6) Noda R, Ishibashi Y, Ishikawa A. Recurrence of renal cell carcinoma in a patient who underwent kidney transplantation after a 2-year, 5-month interval of partial nephrectomy: A case report. Therapeutic Apheresis and Dialysis, 2022;27(1) : 184-185.
 - 7) Fujita Y, Yoshida K, Ichikawa D, Shibagaki Y, Yazawa M. Abrupt worsening of occult IgA nephropathy after the first dose of SARS-CoV-2 vaccination. CEN case reports, 2022;11(3) : 302-308.
 - 8) Fuchigami Junya, Wada Shinji, Ishida Hikaru, Hashimoto Kazuki, Yoshida Keisuke, Kohatsu Kaori, Mumura Hidefumi. Development of ileocolic artery pseudoaneurysm after renal biopsy. Radiology case reports, 2022;17(11) : 4413-4416.
 - 9) Otsuki T, Kuroya S, Hachisuka R, Yamada S, Sumi H, Shibagaki Y, Tominaga N.. Hyponatremia in a patient with hypertensive emergency. Clinical Nephrology, 2022;99(4) : 217-218.
 - 10) Sakurada T, Yamada T, Kojima S. Secondary embedding of peritoneal dialysis catheter in a patient scheduled for kidney transplantation: A case report. Therapeutic Apheresis and Dialysis, 2022;26(5) : 1054-1055.
 - 11) Kohatsu K, Suzuki T, Takimoto M, Matsui K, Hashiguchi A, Koike J, Shirai S. Granulomatous interstitial nephritis with CTLA-4 haploinsufficiency: a case report. BMC Nephrology, 2022;23(1) : 367.
 - 12) Ogata M, Ushimaru S, Fujishima R, Sumi H, Shiizaki K, Tominaga N. Romosozumab improves low bone mineral density in a postmenopausal woman undergoing chronic hemodialysis and treated with a calcium-sensing receptor agonist. Bone Reports, 2022;17 : 101639.
 - 13) Sumi H, Shiizaki K, Tominaga N. Letter to the Editor from Sumi et al: "Lower bone turnover and skeletal PTH responsiveness in Japanese compared to European patients receiving hemodialysis". The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism, 2022; : dgac696.
 - 14) Iizuka Y, Tsuchida T, Ashikaga K, Ie K, Matsuda T, Ishizuka K, Okuse C, Matsuda T, Ohira Y. Patent Foramen Ovale Complicated With Renal Infarction and Pulmonary Embolism: A Case Report With Literature Review. Cureus, 2023;15(2) : e35433.
 - 15) Yamada S, Shibagaki Y, Tominaga N. Distended bladder beyond the umbilicus: asymptomatic diabetic cystopathy. Internal Medicine, 2023;62(4) : 671-672.
 - 16) Sakurada T, Hayashi K, Kojima S. Temporary switching from combination therapy to peritoneal dialysis monotherapy during the COVID-19 pandemic: a case report. Therapeutic Apheresis and Dialysis, 2023;27(1) : 180-181.
- ③ その他
- 1) Noda Ryunosuke , Yazawa Masahiko. New Biomarker of Preeclampsia in Kidney Transplant Recipients. Kidney International Reports, 2022;8(2) : 379-380.
 - 2) Maruyama Yukio, Yokoyama Keitaro, Higuchi Chieko, Sanaka Tsutomu, Tanaka Yoshihide, Sakai Ken, Kanno Yoshihiko, Ryuzaki Munekazu, Sakurada Tsutomu, Hosoya Tatsuo, Nakayama Masaaki; EARTH (Evaluation of the Adequacy of Renal replacement Therapy) study group. Clinical feasibility of transfer to combined therapy with peritoneal dialysis and hemodialysis for patients on peritoneal dialysis: A prospective multicenter study in Japan. Therapeutic apheresis and dialysis : official peer-reviewed journal of the International Society for Apheresis, the Japanese Society for Apheresis, the Japanese Society for Dialysis Therapy, 2022;26(6) : 1226-1234.

学会発表

① 国内学会

- 1) 矢田哲康, 石井美恵子, 内海清乃, 小井土雄一, 太田真由子, 藤田育也, 金龍児, 三上幸恵, 北見伸吾, 松井綾, 佐藤崇史, 齋藤充央, 岡部栄, 富永直人. 災害拠点病院の集中治療室における持続的腎代替療法に対応可能な臨床工学技士の体制に関する実態調査. 第 32 回日本臨床工学会, 2022.
- 2) 田島亮, 白井小百合, 野田竜之介, 井上友彦, 小池淳樹, 市川大介, 柴垣有吾. 当院における特発性膜性腎症の臨床経過とその特徴. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 3) 北村博司, 富田茂樹, 白井小百合, 岩崎沙理, 難波倫子, 原重雄. 病理形態から展望する COVID-19 感染症に関連する腎障害 コロナ関連腎障害の病理像 アンケート調査より. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 4) 韓蔚, 白井小百合, 高山卓, 野田竜之介, 井上友彦, 市川大介, 小池淳樹, 柴垣有吾. 扁桃摘出術, ステロイドパルスを行った IgA 腎症患者における血尿, 蛋白尿の寛解因子の検討. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 5) 市川大介. 微小変化型ネフローゼの国際比較. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 6) 高山卓, 井上一步, 小倉裕司, 星野誠子, 市川大介, 菅谷健, 木村健二郎, 柴垣有吾, 池森敦子. アンジオテンシン II 受容体 (AT1a) 欠損による骨格筋萎縮抑制の可能性—除神経モデルにおける検討. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 7) 丑丸秀, 清水さやか, 柴垣有吾, 櫻田勉. 慢性腎臓病教育入院と透析導入後の心血管疾患新規発症との関連. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 8) 寺下真帆, 宮内隆政, 祖父江理, 小口英世, 辻田誠, 升谷耕介, 谷澤雅彦. 高齢末期腎不全患者に対する腎移植のシステムティックレビューとメタ解析. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 9) 喜多洋平, 韓蔚, 柴垣有吾, 清水さやか, 櫻田勉. 慢性腎臓病患者のヘルスリテラシーと患者転帰との関連. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 10) 今井直彦. 最新の論文で学ぶ、水電解質の臨床アップデート. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 11) 北野史也, 白井小百合, 高山卓, 野田竜之介, 井上友彦, 市川大介, 小池淳樹, 柴垣有吾. IgA 腎症保存的加療例の寛解, 腎予後および追加治療の有効性の検討. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 12) 畔上達彦, 高上紀之, 祖父江理, 谷澤雅彦, 辻田誠, 升谷耕介, 小口英世. 成人腎不全患者における先行的腎移植の臨床効果に関するメタ解析. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 13) 祖父江理, 小口英世, 谷澤雅彦, 辻田誠, 二村健太, 西平守邦, 豊田麻理子, 鈴木仁. 糖鎖異常 IgA1 解析を用いた腎移植後 IgA 沈着症の予後予測の試み. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 14) 栗田宜明, 河原崎宏雄, 祖父江理, 柴垣有吾. 腎代替療法選択における共同意思決定に必要な構成要素・アウトカムと本邦での実態に関する臨床疫学的検討. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 15) 井上友彦, 市川大介, 鈴木智, 白井小百合, 野田竜之介, 韓蔚, 柴垣有吾. NELL-1 陽性膜性腎症の臨床的特徴. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 16) 小竹徹, 山田将平, 小倉裕司, 渡邊詩香, 市川大介, 井上一步, 星野誠子, 田邊淳, 菅谷健, 永井義夫, 木村健二郎, 柴垣有吾, 池森敦子. 習慣的走運動によるサルコペニア及び糖尿病性腎臓病の進行抑制効果の検証. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 17) 櫻田勉, 町田慎治, 吉田圭佑, 高木蔚, 清水さやか, 柴垣有吾. CKD 教育入院がもたらす効果について. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 18) 牧野内龍一郎, 町田慎治, 松井勝臣, 柴垣有吾, 今井直彦. 救急外来における重度低カリウム血症の単施設での検討. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 19) 小山哲平, 平野宏之介, 牧野内龍一郎, 町田慎治, 松井勝臣, 柴垣有吾, 今井直彦. 当院の救急外来における重度高カリウム血症を呈した患者についての検討. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 20) 堀内ゆか, 高木蔚, 柴垣有吾, 櫻田勉. 慢性腎臓病教育入院への参加と診療ガイドラインの目標達成率との関連. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 21) 野田竜之介, 井上友彦, 韓蔚, 白井小百合, 小池淳樹, 柴垣有吾, 市川大介. 腎生検で IgG 線状沈着を示す症例の IgG サブクラスの解析. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 22) 平木幸治, 西澤肇, 柴垣有吾. 保存期 CKD 患者の腎臓リハビリテーション. 第 65 回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 23) 柴垣有吾. CKD 患者における新たな PRO: 希望. 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 24) ◎古家紗帆, 角浩史, 奥山恵美子, 山田将平, 蜂須賀里菜, 柴垣有吾, 富永直人. 高血圧緊急症の治療経過中に急性乏尿性腎不全と脳虚血性病変を来した一例. 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 25) 小島茂樹, 吉田圭佑, 野田竜之介, 出雲昌樹, 佐藤如雄, 渡部美佳, 栗田真吾, 古賀将史, 奥山和明, 田邊康宏, 明石嘉浩, 柴垣有吾, 櫻田勉. 経カテーテル大動脈弁植え込み術 (TAVI) が内シャントに与える影響に関する検討. 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 26) 谷澤雅彦. 生体腎移植ドナーの適応と腎提供後経過. 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会, 2022.

- 27) 甲斐千尋, 小形厚貴, 坪谷綾子, 相田紘一朗, 吉岡まき, 山田将平, 富永直人, 伊藤由香. 重篤な低Ca血症を呈したがデノスマブを再投与し得た前立腺癌多発性骨転移の一例. 日本病院薬剤師会関東ブロック第52回学術大会, 2022.
- 28) 清水麻鈴, 石川春奈, 坪谷綾子, 富永直人, 伊藤由香. ロキサデュスタット服用による脳梗塞発症が疑われた1例. 日本病院薬剤師会関東ブロック第52回学術大会, 2022.
- 29) 吉田圭佑, 小島茂樹, 森久保悟, 小山哲平, 小松純, 野田竜之介, 友廣忠寿, 山川宙, 宮本雅仁, 丸井祐二, 櫻田勉. 当院におけるVAIVTモダリティの変化とその影響に関する検討. 第17回日本インターベンショナルネフロロジー学会学術集会, 2022.
- 30) 谷澤雅彦, 村田真理絵, 宮内隆政, 緒方聖友, 櫻井裕子, 斉藤由美子, 田中真純, 杉山彩, 平木幸治, 篠田和伸, 柴垣有吾. 82歳への腎移植. 第7回腎移植内科研究会, 2022.
- 31) 小林慎二郎, 中原一有, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 路川陽介, 大坪毅人. 深在性外傷性膝損傷に対する治療戦略. 第14回日本Acute Care Surgery学会学術集会, 2022.
- 32) 角浩史, 藤島理恵, 緒方聖友, 丑丸秀, 富永直人, 笹川成. カフ型カテーテル留置中にガイドワイヤーが三尖弁の一部に巻絡し抜去困難となった一例. 第26回日本透析アクセス医学会学術集会・総会, 2022.
- 33) 小松純, 野田竜之介, 吉田圭佑, 櫻田勉, 丸井祐二, 小島茂樹. 同一部位頻回穿刺により表在化動脈からの出血を繰り返した一例. 第26回日本透析アクセス医学会学術集会・総会, 2022.
- 34) 松原主輔, 篠田和伸, 白井大介, 佐々木秀郎, 丸井祐二, 櫻井裕子, 大迫希代美, 寺下真帆, 谷澤雅彦, 柴垣有吾, 菊地栄次. 聖マリアンナ医科大学病院における腎移植後のCOVID-19患者の重症化リスク因子の検討. 第58回日本移植学会総会, 2022.
- 35) 谷澤雅彦, 大迫希代美, 寺下真帆, 櫻井裕子, 田中真純, 斉藤由美子, 篠田和伸. 腎移植領域で腎代替療法専門指導士に求められる事〜当院の取り組み〜. 第58回日本移植学会総会, 2022.
- 36) 谷澤雅彦. 腎移植患者へのHIF-PH阻害薬の使用経験から移植後貧血の治療戦略を再考する. 第58回日本移植学会総会, 2022.
- 37) 大迫希代美. 認知機能障害を初発症状として診断されたlate onset PCNS-PTLDの2症例. 第58回日本移植学会総会, 2022.
- 38) 白井小百合, 吉田圭佑, 緒方聖友, 渡邊詩香, 松田拓也, 市川大介, 柴垣有吾. 肉眼的血尿と急性腎障害の原因に難渋した一例. 名称 第52回日本腎臓学会東部学術大会, 2022.
- 39) 麻生芽亜, 市川大介, 白井小百合, 鈴木智, 柴垣有吾. 妊娠20週未満でネフローゼ症候群を呈した妊娠高血圧腎症3症例の検討. 第52回日本腎臓学会東部学術総会, 2022.
- 40) 小山哲平, 白井小百合, 平野宏之介, 牧野内龍一郎, 町田慎治, 松井勝臣, 今井直彦. ネフローゼ症候群を呈し、著明な半月体形成を伴う溶連菌感染後急性糸球体腎炎の一例. 第52回日本腎臓学会東部学術集会, 2022.
- 41) 白井佳那. 橋本病悪化をきたした微小変化型ネフローゼ症候群の一例. 第52回日本腎臓学会東部学術集会, 2022.
- 42) 谷澤雅彦. 腎移植の進歩2022. 第52回日本腎臓学会東部学術集会, 2022.
- 43) 小松純. 巨大腸腰筋血腫による腎動脈の屈曲から腎血管性高血圧を呈した片腎患者の一例. 第52回日本腎臓学会東部学術集会, 2022.
- 44) 藤島理恵, 白井小百合, 市川大介, 柴垣有吾. 悪性胸膜中皮腫の免疫チェックポイント阻害薬での治療中にMPAを発症した一例. 第52回日本腎臓学会東部学術集会, 2022.
- 45) 北野史也, 市川大介, 吉田圭佑, 井上友彦, 鈴木智, 白井小百合, 小池淳樹, 柴垣有吾. 全身の広範囲な動脈に壊死性血管炎を発症したMPO-ANCA関連血管炎の1例. 第52回日本腎臓学会東部学術集会, 2022.
- 46) 佐藤菜摘美, 市川大介, 麻生芽亜, 野田竜之介, 藤田陽子, 渡邊詩香, 井上友彦, 白井小百合, 柴垣有吾. 慢性感染症によるAAアミロイドーシスとIgA腎症を合併した1例. 第52回日本腎臓学会東部学術集会, 2022.
- 47) 平野宏之介, 白井小百合, 小山哲平, 町田慎治, 牧野内龍一郎, 松井勝臣, 今井直彦. 原発性マクログロブリン血症に随伴したMCNSに対し化学療法が奏効した一例. 第52回日本腎臓学会東部学術集会, 2022.
- 48) 小山亮, 森久保悟, 坂本敦, 渡邊詩香, 小山哲平, 小波津香織, 白井小百合, 市川大介, 柴垣有吾. 骨折や手術によるADL低下で門脈血栓症を合併したADPKDの一例. 第52回日本腎臓学会東部学術集会, 2022.
- 49) 齋藤充央, 嶋田愛, 太田真由, 藤田育也, 矢田哲康, 土田善之, 富永直人. 「神奈川モデル」重点医療機関における新型コロナウイルス感染症に対する高流量鼻カニューレ酸素療法の安全対策の成果と今後の課題. 第60回全国自治体病院学会, 2022.
- 50) 麻生芽亜, 遠藤知美, 田端恵, 宮内美帆, 高柳俊亮, 森慶太, 武曾恵理, 塚本達雄. 低von Willebrand factor(VWF)血症を合併した真性多血症による二次性巣状分節性糸球体硬化症の一例. 第52回日本腎臓学会西部学術総会, 2022.
- 51) 藤井啓世, 緒方聖友, 丑丸秀, 藤島理恵, 角浩史, 富永直人. エリスロポエチン(EPO)相対的低値から診断し得たANCA関連血管炎(AAV)に伴う急性尿管間質性腎炎の1例. 第682回日本内科学会関東地方会, 2022.

- 52) 小山哲平, 小波津香織, 森久保悟, 小島茂樹, 櫻田勉. 約 1 年間の血液透析施行後, 自ら希望して腹膜透析へ完全移行し QOL が改善した一例. 第 28 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 53) 櫻田勉. 腹膜透析の離脱時期に関する多施設アンケート調査からみてきたこと. 第 28 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 54) 櫻田勉. 本の腹膜透析患者における Incremental PD の効果. 第 28 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 55) 柴垣有吾. 腹膜透析患者におけるカリウム代謝異常. 第 28 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 56) 平木幸治, 柴垣有吾, 櫻田勉. 腹膜透析患者における身体活動量. 第 28 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 57) 櫻田勉. 腹膜透析用カテーテル留置術後の転帰に関する多施設共同前向き観察研究. 第 28 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 58) 櫻田勉, 土谷健, 川西秀樹, 水口潤. 日本の腹膜透析患者における Incremental PD の効果. 第 28 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 59) 小島茂樹, 櫻田勉. 腹膜透析患者の導入期管理. 第 28 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 60) 薬師寺優希, 東山恵, 畠中真弓, 長谷川友香, 重水恒太, 関千浩, 田中明子, 小波津香織, 小島茂樹, 櫻田勉. 透析療法選択外来の患者満足度調査. 第 28 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 61) 田島亮, 小島茂樹, 森久保悟, 小波津香織, 柴垣有吾, 櫻田勉. 膜透析カテーテル挿入後に術後肩痛および季肋部痛を認めた 1 例. 第 28 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 62) 谷澤雅彦. 透析再導入期における腎臓内科への early referral の効果. 第 56 回日本臨床腎移植学会, 2023.
- 63) 藤田陽子. 腎移植後クローン病に生じたアデノウイルス腎症. 第 56 回日本臨床腎移植学会, 2023.
- 64) 大迫希代美. 腎移植後長期患者におけるダブロデュスタットの使用経験. 第 56 回日本臨床腎移植学会, 2023.
- 65) 篠田和伸, 武田弘幸, 櫻井裕子, 大迫希代美, 谷澤雅彦, 佐々木秀郎, 中澤龍斗, 柴垣有吾, 菊地栄次. 腎移植後に甲状腺乳頭癌が再発し、I-131 内用療法抵抗性の症例に対しレンパチニブを導入した経験. 第 56 回日本臨床腎移植学会, 2023.
- 66) 谷澤雅彦. 大学病院腎臓内科における腎移植内科医育成. 第 56 回日本臨床腎移植学会, 2023.
- 67) 小波津香織, 小坂橋賢一郎, 小島茂樹, 櫻田勉. 当院における透析療法選択外来と透析導入後の予後との関連. 第 2 回日本腎不全合併症医学会学術集会・総会, 2023.
- 68) 矢田哲康, 石井美恵子, 内海清乃, 小井土雄一, 土田善之, 富永直人. 災害拠点病院 ICU で持続的腎代替療法に対応可能な臨床工学技士に関する実態調査～首都圏調査からの統報～. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 69) 谷澤雅彦. 急性腎障害予防のための less is more (polypharmacy と大量輸液. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 70) 西川徹, 小島康幸, 月山秀一, 横田健一, 曾根正勝, 谷澤雅彦, 篠田和伸, 道下由紀子, 印牧義英, 津川浩一郎. 当院における副甲状腺機能亢進症に対する手術治療～院内連携なくして治療はできない～. 聖マリアンナ医科大学医学会第 83 回学術集会, 2023.
- 71) 小竹徹, 山田将平, 渡邊詩香, 市川大介, 井上一步, 菅谷健, 木村健二郎, 柴垣有吾, 池森敦子. 糖尿病性腎臓病の進行抑制効果を有する習慣的走運動の骨格筋への影響. 第 13 回日本腎臓リハビリテーション学会, 2023.
- 72) 谷澤雅彦. 腎移植患者の腎臓リハビリテーション. 第 13 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2023.
- 73) 音部雄平, 平木幸治, 柴垣有吾, 富永直人. 高齢保存期慢性腎臓病患者への運動介入が血管内皮機能へ与える影響—無作為化比較試験による検討—. 第 13 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2023.
- 74) 櫻田勉. 腹膜透析患者における身体活動と運動. 第 13 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2023.
- 75) Ogata M, Morikubo S, Horiuchi Y, Inoue T, Shibagaki Y, Yazawa M. Transition of gap- to non-gap metabolic acidosis in a patient with toluene intoxication. 米国内科学会 (ACP) 日本支部年次総会・講演会 2022, 2022.

② 国際学会

- 1) Yazawa M, Terashita M, Miyauchi T, Oguchi H, Tsujita M, Sofue T, Matsutani K. Kidney transplantation in elderly patients with end-stage kidney disease: A systematic review and meta-analysis. American society of nephrology kidney week 2022, 2022.
- 2) Ogata M, Miyauchi T, Murata M, Terashita M, Osako K, Shinoda K, Shibagaki Y, Yazawa M. Hypoxia-inducible factor prolyl hydroxylase inhibitors for treatment of post kidney transplant anemia. kidneyweek 2022, 2022.
- 3) Yazawa M, Terashita M, Miyauchi T, Oguchi H, Tsujita M, Sofue T, Matsutani K. Kidney transplantation in elderly patients with end-stage kidney disease: A systematic review and meta-analysis. kidneyweek 2022, 2022.
- 4) Kotake H, Sugaya T, Shibagaki Y, Kamiyo-Ikumori. Endurance exercise training prevented the progression of diabetic kidney disease with muscle weakness in type 2 diabetic animal models with obesity, hypertension, and hyperlipidemia. Kidney week 2022, 2022.

- 5) Takayama S, Sugaya T, Shibagaki Y, Ikemori A.. Deficiency of Angiotensin II Type 1 Receptor Prevents Muscle Atrophy due to Denervation. Kidney week 2022, 2022.
- 6) Takayama S, Sugaya T, Shibagaki Y, Ikemori A.. Deficiency of Angiotensin II type 1 receptor prevents muscle atrophy due to denervation. kidneyweek 2022, 2022.
- 7) Yazawa M, Osako K, Terashita M, Miyauchi T, Marie M, Imai N, Shinoda K, Shibagaki Y. Safety and use of kidneys from elderly living donors. Asian Transplant Week 2022, 2022.
- 8) Yazawa M. Current trend of kidney transplantation in Japan. Second Joint Meeting - JSN and the YNP of the ERA, Transplant Talks., 2023.

③ その他

- 1) 今井直彦. STOP! CKD CKD 教育入院を活用しよう！. STOP! CKD web セミナーin 横浜西部, 2022.
- 2) 今井直彦. 当院における CKD 連携 ADPKD. 横浜西部 CKD 連携 Meeting, 2022.
- 3) 今井直彦. 腎移植ドナーについて. 腎移植連携セミナー, 2022.
- 4) 富永直人. 外来で管理する！慢性心腎連関と貧血. Kobe Master Class for GIM in 2022 Spring, 2022.
- 5) 富永直人. 心腎不全の外来管理を考える. Tama・Kajigaya CKD Seminar, 2022.
- 6) 丑丸秀, 清水さやか, 柴垣有吾, 櫻田勉. 慢性腎臓病教育入院による透析導入後の心血管疾患への影響. 第 102 回神奈川腎研究会総会・研究集会, 2022.
- 7) 奥山恵美子, 市川大介, 白井小百合. 抗 SSA 抗体陽性、抗 RNP 抗体陽性合併蛋白尿に対しての診断. 川崎市腎病理研究会, 2022.
- 8) 小波津香織, 白井小百合, 市川大介, 柴垣有吾.. 膜性腎症, podocytopathy, 半月体形成, IgA 腎症を同時に発症した症例. 第 78 回神奈川腎炎研究会, 2022.
- 9) 緒方聖友. 腎性貧血に対する HIF-PH 阻害薬の使用経験. 第 37 回川崎多摩地区腎臓高血圧セミナー, 2022.
- 10) 今井直彦. CKD 診療 当院の取り組みと最近の話題. 旭区薬剤師会講演会, 2022.
- 11) 市川滉介, 市川大介, 野田竜之介, 韓蔚, 白井小百合, 柴垣有吾, 小池淳樹, 水島万智子, 今村充. 著明な血管内皮障害を認めた ANCA 陰性の壊死性血管炎の一例. 第 107 回東京腎生検カンファランス, 2022.
- 12) 小島茂樹, 森久保悟. Kana Neph Seminar と当科腎不全治療の紹介. 第 4 回 Kana Neph Seminar, 2022.
- 13) 今井直彦. CKD 関連 電解質から貧血まで. 緑区薬剤師会講演会, 2022.
- 14) 谷澤雅彦. 保存期 CKD 患者への HIF-PH 阻害薬の使用経験と考察. Meet the Expert 昭和大学藤が丘病院 聖マリアンナ医科大学 合同セミナー, 2022.
- 15) 谷澤雅彦. 腎移植後の ルーティンとトラブルシューティング. 腎移植内科勉強会, 2022.
- 16) 小島茂樹. 腹膜透析患者における腎性貧血治療について. 鳥居薬品株式会社社内講演会, 2022.
- 17) 今井直彦. CKD の病診連携. 横浜西部地区 CKD Total Management, 2022.
- 18) 谷澤雅彦. 「腎移植の現状と HIF-PH 阻害薬の使用経験」～臨床データから読み解く各製剤の違い～. 第 5 回 CKD 医療連携ネットワーク, 2022.
- 19) 谷澤雅彦. 腎移植患者のカリウム代謝と管理. Hyperkalemia Management Autumn Seminar, 2022.
- 20) 谷澤雅彦. The Next Generation of Nephrologist. 次世代の腎臓内科診療を描くステップアップセミナー2022, 2022.
- 21) 小島茂樹. 腹膜透析患者における腎性貧血治療について. 扶桑薬品工業株式会社社内講演会, 2022.
- 22) 谷澤雅彦. 腎移植後の内科合併症管理について -貧血、脂質を中心に-. 腎移植合併症セミナー, 2022.
- 23) 小島茂樹. 腹膜透析患者における腎性貧血治療について. 協和キリン株式会社社内講演会, 2022.
- 24) 富永直人. Na 濃度異常 米国専門医問題に挑戦. 第 9 回電解質ウィンターセミナー2022, 2022.
- 25) 小島茂樹. 病診連携を活かした慢性腎臓病診療. CKD ネットワーク Web セミナー, 2022.
- 26) 小島茂樹. 病診連携で取り組む慢性腎臓病患者の貧血マネジメント. Cardio-Renal Anemia Syndrome Seminar, 2023.
- 27) 小島茂樹. 腹膜透析患者における CKD-MBD 管理. Dialysis Online Seminar, 2023.

		和 文	英 文
著 書		9	
論 文	原著	2	20
	解説又は総説	30	
	症例報告	1	16
	その他	3	2
学会発表	国内学会	74	1
	国際学会		8
	その他	27	

内科学（代謝・内分泌内科）

著書

- 1) 中村祐太. 糖尿病合併心不全の栄養管理 心不全栄養バイブル 2022;:187-194.
- 2) 曾根正勝. 原発性アルドステロン症 ここが知りたい！内分泌疾患診療ハンドブック Ver. 3 2023;:253-262.
- 3) 方波見卓行, 川名部新. 褐色細胞腫・パラガングリオーマ ここが知りたい！内分泌疾患診療ハンドブック Ver. 3 2023;:272-277.
- 4) 曾根正勝. 内分泌疾患 わかりやすい内科学 2023; (5):651-656.
- 5) 方波見卓行. 褐色細胞腫 今日の治療指針 2023 2023;:786-768.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 横田健一, 曾根正勝. 高齢者と副腎機能異常. 日本老年医学会雑誌, 2022;59(2):158-162.
- 2) 曾根正勝. 原発性アルドステロン症診療ガイドライン 2021 の主要な変更点. 循環器内科, 2022;91(5):624-628.
- 3) 方波見卓行, 清水紗智, 中川朋子. 副腎不全. 糖尿病・内分泌代謝科, 2022;54(5):561-568.
- 4) 堀江重郎, 天野俊康, 石井智弘, 井手久満, 伊藤直樹, 岩月正一郎, 上芝元, 大山力, 小川純人, 蔭山和則, 方波見卓行, 川戸佳, 菅野潤子, 功刀浩, 重原一慶, 周東孝浩, 白石晃司, 白川智也, 鈴木和浩, 高岡正和, 高橋裕, 竹石恭知, 立花修, 田邊真紀人, 辻村晃, 鳥居俊, 西岡宏, 長谷川泰延, 畠山真吾, 濱島崇, 濱野逸人, 福井道明, 福岡秀規, 松井克之, 松下一仁, 溝上敦, 村元啓仁, 八木弘子, 安井孝周, 柳瀬敏彦, 義久精臣. 男性の性腺機能低下症ガイドライン 2022. 日本内分泌学会雑誌, 2022;98(Suppl):1-140.
- 5) 方波見卓行, 清水紗智, 山本雄太郎. 副腎皮質がん. 糖尿病・内分泌代謝科, 2022;55(1):43-51.
- 6) 曾根正勝. 原発性アルドステロン症. BIO Clinica, 2022;37(8):7-11.
- 7) 方波見卓行, 清水紗智, 長坂智裕. クッシング症候群・サブクリニカル症候群. BIO Clinica, 2022;37(8):16-20.
- 8) 横田健一, 曾根正勝. ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬の原発性アルドステロン症治療における役割. 糖尿病・内分泌代謝科, 2022;55(2):196-203.
- 9) 方波見卓行, 長坂智裕, 山本雄太郎. 原発性両側大結節性副腎皮質過形成(PBMAH)のマネージメント. 糖尿病・内分泌代謝科, 2022;55(3):314-322.
- 10) 方波見卓行, 成瀬光栄. 診療ガイドライン at a glance 褐色細胞腫・パラガングリオーマ診療ガイドライン 2018. 日本内科学会雑誌, 2023;112(2):221-227.

② 症例報告

- 1) 長坂智裕, 方波見卓行, 山本雄太郎, 松葉怜, 清水紗智, 矢吹由香里, 有泉泰, 長宗我部基弘, 吉田一彦, 長嶋洋治, 山崎有人, 笹野公伸, 曾根正勝. 乳癌、甲状腺乳頭癌を併発した副腎皮質癌の一例. ACTH RELATED PEPTIDES, 2022;33:19-21.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Naruse M, Katabami T, Shibata H, Sone M, Takahashi K, Tanabe A, Izawa S, Ichijo T, Otsuki M, Omura M, Ogawa Y, Oki Y, Kurihara I, Kobayashi H, Sakamoto R, Satoh F, Takeda Y, Tanaka T, Tamura K, Tsuiki M, Hashimoto S, Hasegawa T, Yoshimoto T, Yoneda T, Yamamoto K, Rakugi H, Wada N, Saiki A, Ohno Y, Haze T. Japan Endocrine Society clinical practice guideline for the diagnosis and management of primary aldosteronism 2021. Endocrine journal, 2022;69(4):327-359.
- 2) Katabami T, Matsuba R, Kobayashi H, Nakagawa T, Kurihara I, Ichijo T, Tsuiki M, Wada N, Ogawa Y, Sone M, Inagaki N, Yoshimoto T, Takahashi K, Yamamoto K, Izawa S, Kakutani M, Tanabe A, Naruse M. Primary aldosteronism with mild autonomous cortisol secretion increases renal complication risk. European journal of endocrinology / European Federation of Endocrine Societies, 2022;186(6):645-655.
- 3) Kohata N, Kurihara I, Yokota K, Kobayashi S, Murai-Takeda A, Mitsuishi Y, Nakamura T, Morisaki M, Kozuma T, Torimitsu T, Kawai M, Hiroshi I. Lysine-specific demethylase 1 as a corepressor of mineralocorticoid receptor. Hypertension Research, 2022;45(4):641-649.

- 4) Nomura M, Kurihara I, Itoh H, Ichijo T, Katabami T, Tsuiki M, Wada N, Yoneda T, Sone M, Oki K, Yamada T, Kobayashi H, Tamura K, Ogawa Y, Inagaki N, Yamamoto K, Otsuki M, Yabe D, Izawa S, Takahashi Y, Suzuki T, Yasoda A, Tanabe A, Naruse M; JPAS/JRAS Study Group.. Association of cardiovascular disease risk and changes in renin levels by mineralocorticoid receptor antagonists in patients with primary aldosteronism. *Hypertension Research*, 2022;45(9) : 1476-1485.
- 5) Hishida Y, Nagai Y, Tsukiyama H, Nakamura Y, Nakagawa T, Ishizaki S, Tanaka Y, Sone M. Effects of Elobixibat in Patients with Diabetes and Concomitant Chronic Constipation: an 8-week, Prospective, Single-center, Single-arm Study. *Advances in therapy*, 2022;39(9) : 4205-4217.
- 6) Spyroglou A, Handgriff L, Müller L, Schwarzlmüller P, Parasiliti-Caprino M, Fuss CT, Remde H, Hirsch A, O'Toole SM, Thuzar M, Petramala L, Letizia C, Deflorenne E, Amar L, Vrckovnik R, Kocjan T, Zhang CD, Li D, Singh S, Katabami T, Yoneda T, Murakami M, Wada N, Inagaki N, Quinkler M, Ghigo E, Maccario M, Stowasser M, Drake WM, Fassnacht M, Bancos I, Reincke M, Naruse M, Beuschlein F. The metabolic phenotype of patients with primary aldosteronism: impact of subtype and sex - a multicenter-study of 3566 Caucasian and Asian subjects. *European journal of endocrinology / European Federation of Endocrine Societies*, 2022;187(3) : 361-372.
- 7) Kometani M, Yoneda T, Karashima S, Takeda Y, Tsuiki M, Yasoda A, Kurihara I, Wada N, Katabami T, Sone M, Ichijo T, Tamura K, Ogawa Y, Kobayashi H, Okamura S, Inagaki N, Kawashima J, Fujita M, Oki K, Matsuda Y, Tanabe A, Naruse M. Effect of Intraprocedural Cortisol Measurement on ACTH-stimulated Adrenal Vein Sampling in Primary Aldosteronism. *Journal of the Endocrine Society*, 2022;6(9) : bvac104.
- 8) Kano M, Mizutani E, Homma S, Masaki H, Nakauchi H. Xenotransplantation and interspecies organogenesis: current status and issues. *Frontiers in Endocrinology*, 2022;13 : 963282.
- 9) Tsunemi S, Nakamura Y, Yokota K, Nakagawa T, Tsukiyama H, Kubo Y, Oyanagi T, Takemoto A, Nagai Y, Tanaka Y, Sone M. Correlation between blood ketones and exhaled acetone measured with a semiconducting gas sensor. *Journal of breath research*, 2022;16(4) : DOI-10.1088/1752-7163/ac836a.
- 10) Sakaguchi S, Okamoto R, Inoue C, Akao M, Kamemura K, Kurihara I, Takeda Y, Ohno Y, Inagaki N, Rakugi H, Katabami T, Tsuiki M, Tanabe A, Tamura K, Fujita S, Yano Y, Dohi K; JRAS investigators, Naruse M. Associated factors and effects of comorbid atrial fibrillation in hypertensive patients due to primary aldosteronism. *Journal of human hypertension*, 2022; : DOI-10.1038/s41371-022-00753-2.
- 11) Haze Tatsuya, Yano Yuichiro, Hatano Yu, Tamura Kouichi, Kurihara Isao, Kobayashi Hiroki, Tsuiki Mika, Ichijo Takamasa, Wada Norio, Katabami Takuyuki, Yamamoto Koichi, Okamura Shintaro, Kai Tatsuya, Izawa Shoichiro, Yoshikawa Yuichiro, Yamada Masanobu, Chiba Yoshiro, Tanabe Akiyo, Naruse Mitsuhide, JPAS/JRAS Study Group. Association of achieved blood pressure after treatment for primary aldosteronism with long-term kidney function. *Journal of human hypertension*, 2022;36(10) : 904-910.
- 12) Ozaki H, Suga H, Sakakibara M, Soen M, Miyake N, Miwata T, Taga S, Nagai T, Kano M, Mitsumoto K, Miyata T, Kobayashi T, Sugiyama M, Onoue T, Takagi H, Hagiwara D, Iwama S, Banno R, Iguchi G, Takahashi Y, Muguruma K, Inoue H, Arima H. Differentiation of human induced pluripotent stem cells into hypothalamic vasopressin neurons with minimal exogenous signals and partial conversion to the naive state. *Scientific Reports*, 2022;12(1) : 17381.
- 13) Ishii T, Kashimada K, Amano N, Takasawa K, Nakamura-Utsunomiya A, Yatsuga S, Mukai T, Ida S, Isobe M, Fukushima M, Satoh H, Yoshino K, Otsuki M, Katabami T, Tajima T. Clinical guidelines for the diagnosis and treatment of 21-hydroxylase deficiency (2021 revision). *Clinical Pediatric Endocrinology*, 2022;31(3) : 116-143.
- 14) Naruse M, Murakami M, Katabami T, Kocjan T, Parasiliti-Caprino M, Quinkler M, St-Jean M, O'Toole S, Ceccato F, Kraljevic I, Kastelan D, Tsuiki M, Deinum J, Torre EM, Puar T, Markou A, Piaditis G, Laycock K, Wada N, Grytaas MA, Kobayashi H, Tanabe A, Tong CV, Gallego NV, Gruber S, Beuschlein F, Kürzinger L, Sukor N, Azizan EABA, Ragnarsson O, Nijhoff MF, Maiolino G, Dalmazi GD, Kalugina V, Lacroix A, Furnica RM, Suzuki T. International multicenter survey on screening and confirmatory testing in primary aldosteronism. *European journal of endocrinology / European Federation of Endocrine Societies*, 2023;188(1) : lvac002.
- 15) Akter S, Shimba A, Ikuta K, Mahmud MRA, Yamada S, Sasanuma H, Tsuda M, Sone M, Ago Y, Murai K, Tanaka H, Takeda S. Physiological concentrations of glucocorticoids induce pathological DNA double-strand breaks. *Genes to cells : devoted to molecular & cellular mechanisms*, 2023;28(1) : 53-67.

- 16) Rie Jo, Hirotaka Shibata, Isao Kurihara, Kenichi Yokota, Sakiko Kobayashi, Ayano Murai-Takeda, Yuko Mitsuishi, Takeshi Hayashi, Toshifumi Nakamura, Hiroshi Itoh. Mechanisms of mineralocorticoid receptor-associated hypertension in diabetes mellitus: the role of O-GlcNAc modification. Hypertension Research, 2023;46(1) : 19-31.
- 17) Kobayashi H, Nakamura Y, Abe M, Tanabe A, Sone M, Katabami T, Kurihara I, Ichijo T, Tsuiki M, Izawa S, Wada N, Yoneda T, Takahashi K, Tamura K, Ogawa Y, Inagaki N, Yamamoto K, Rakugi H, Naruse M; JPAS/JRAS Study Group. Impact of a change to a novel chemiluminescent immunoassay for measuring plasma aldosterone on the diagnosis of primary aldosteronism. Endocrine Journal, 2023;32(9-10) : 237-245.
- 18) Yokota K, Shibata H, Kurihara I, Itoh H, Sone M. CASZ1: a promising factor modulating aldosterone biosynthesis and mineralocorticoid receptor activity. Hypertension Research, 2023;46(2) : 417-420.
- 19) Karashima S, Kawakami M, Nambo H, Kometani M, Kurihara I, Ichijo T, Katabami T, Tsuiki M, Wada N, Oki K, Ogawa Y, Okamoto R, Tamura K, Inagaki N, Yoshimoto T, Kobayashi H, Kakutani M, Fujita M, Izawa S, Suwa T, Kamemura K, Yamada M, Tanabe A, Naruse M, Yoneda T; JPAS/JRAS Study Group.. A hyperaldosteronism subtypes predictive model using ensemble learning. Scientific Reports, 2023;13(1) : 3043.
- 20) Nakamura Y, Takemoto A, Oyanagi T, Tsunemi S, Kubo Yui, Nakagawa T, Nagai Yoshio, Tanaka Y, Sone M. Effects of cooked rice containing high resistant starch on postprandial plasma glucose, insulin, and incretin in patients with type 2 diabetes. Asia Pacific journal of clinical nutrition, 2023;32(1) : 48-56.
- 21) Ohno Y, Taura D, Okamoto K, Fujita H, Honda-Kohmo K, Matsuo K, Sone M. Nicotine reduces ROS and enhances cell proliferation via the $\alpha 4$ nicotinic acetylcholine receptor subunit in human induced pluripotent stem cells. Stem cells and development, 2023;32(9-10) : 237-245.

② 総説又は症例解説

- 1) Kano M, Sasaki H, Miwata T, Suga H. Recipe for pituitary organoids. Frontiers in endocrinology, 2023;13 : 1025825.
- 2) Yokota K, Sone M. Autonomous cortisol secretion in patients with primary aldosteronism: A possible risk factor for new-onset diabetes mellitus. Hypertension Research, 2023;46(3) : 803-805.

③ 症例報告

- 1) Ie K, Ishizuka K, Sakai T, Motohashi I, Asai S, Okuse C. Subacute Thyroiditis Developing Within 2 Days of Vaccination Against COVID-19 with BNT162b2 mRNA. European Journal of Case Reports in Internal Medicine, 2023;10(1) : 003735.
- 2) Kawanabe S, Katabami T, Oshima R, Yanagisawa N, Sone M, Kimura N. A rare case of multiple paragangliomas in the head and neck, retroperitoneum and duodenum: A case report and review of the literature. Front Endocrinol, 2023;13 : 1054468.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎永沼秀崇, 横田健一, 山本雄太郎, 中川朋子, 中村祐太, 月山秀一, 川名部新, 曾根正勝. 記憶力低下と関節炎から発見された IgG4 関連下垂体炎による汎下垂体機能低下症の一例. 第 119 回日本内科学会総会・講演会 ことはじ 2022 京都, 2022.
- 2) ◎中村祐太, 竹本彩夏, 常見真吾, 菱田吉明, 中川朋子, 永井義夫, 田中逸, 曾根正勝. 新品種レジスタントスターチ高配合米が糖尿病患者の食後血糖に与える影響の検討. 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2022.
- 3) ◎山本雄太郎, 松葉怜, 清水紗智, 長坂智裕, 曾根正勝, 方波見卓行. 日本人 2 型糖尿病患者における骨質・骨量評価とビタミン D 摂取の現状. 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2022.
- 4) ◎菱田吉明, 中村祐太, 小柳壮史, 常見真吾, 久保ゆい, 川名部新, 月山秀一, 中川朋子, 横田健一, 曾根正勝. 日本人の糖尿病性ケトアシドーシスにおける治療適正化の検討. 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2022.
- 5) ◎月山秀一, 山崎美千子, 井上正範, 曾根正勝. 遠隔糖尿病回診支援サービスについて. 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2022.
- 6) ◎小柳壮史, 佐田幸由, 佐々木要輔, 竹本彩夏, 曾根正勝, 田中逸. 糖尿病患者の体組成検査における位相角の検討 第一報. 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2022.
- 7) ◎竹本彩夏, 永井義夫, 川名部新, 中川朋子, 松本佳歩, 長谷川潤一, 鈴木直, 曾根正勝, 田中逸. 妊娠糖尿病 (GDM) の診断時期における臨床的背景の違い. 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2022.

- 8) ◎菱田吉明, 横田健一, 小柳壮史, 常見真吾, 久保ゆい, 川名部新, 月山秀一, 中村祐太, 中川朋子, 曾根正勝. SARS-CoV-2 ワクチンによる autoimmune/inflammatory syndrome induced by adjuvants を来した亜急性甲状腺炎の2例. 第95回日本内分泌学会学術総会, 2022.
- 9) ◎中野依莉子, 向井康祐, 福原淳範, 大月道夫, 下村伊一郎, 稲垣暢也, 方波見卓行, 田辺晶代, 成瀬光栄. 原発性アルドステロン症のACTH 負荷によるアルドステロン反応性は脳心血管イベントと関連する. 第95回日本内分泌学会学術総会, 2022.
- 10) ◎松葉怜, 方波見卓行, 小林洋輝, 曾根正勝, 立木美香, 田辺晶代, 成瀬光栄. 軽微な自律性コルチゾール過剰分泌併発(MACS)は原発性アルドステロン症(PA)の腎合併症リスクを増加させる. 第95回日本内分泌学会学術総会, 2022.
- 11) ◎長坂智裕, 方波見卓行, 松葉怜, 清水紗智, 山本雄太郎, 曾根正勝. メチラポン, トリロスタン併用からオシロドロスタットに変更したクッシング病術後の一例. 第95回日本内分泌学会学術総会, 2022.
- 12) ◎小林洋輝, 中村吉宏, 阿部雅紀, 一城貴政, 曾根正勝, 方波見卓行, 田辺晶代, 成瀬光栄, AMED-JPAS 研究班. CLEIA 法への血漿アルドステロン濃度(PAC)測定法の変更が原発性アルドステロン症(PA)における病型診断予測モデルに与える影響についての検討. 第95回日本内分泌学会学術総会, 2022.
- 13) ◎小林洋輝, 中村吉宏, 阿部雅紀, 一城貴政, 曾根正勝, 方波見卓行, 田辺晶代, 成瀬光栄, AMED-JPAS 研究班. CLEIA 法への血漿アルドステロン濃度(PAC)測定法の変更が原発性アルドステロン症(PA)診断に与える影響についての検討. 第95回日本内分泌学会学術総会, 2022.
- 14) ◎方波見卓行, 山本雄太郎. 転移・進行性褐色細胞腫の現状と課題. 第95回日本内分泌学会学術総会, 2022.
- 15) ◎伊澤正一郎, 田辺晶代, 成瀬光栄, 鈴木知子, 方波見卓行, 吉本貴宣, 大月道夫, 曾根正勝, 武田仁勇, 岡本真太郎, 一城貴政, 立木美香. コルチゾール自律分泌性の骨密度への影響には男女差が存在する. 第95回日本内分泌学会学術総会, 2022.
- 16) ◎曾根正勝. Cushing 症候群の診断と治療. 第95回日本内分泌学会学術総会, 2022.
- 17) ◎月山秀一, 横田健一, 中川朋子, 中村祐太, 川名部新, 菱田吉明, 浅井志高, 方波見卓行, 曾根正勝. irAE に伴う続発性副腎不全を検出するための一般検査所見の有用性の検討. 第95回日本内分泌学会学術総会, 2022.
- 18) ◎横田健一. サブクリニカルクッシング症候群に関するトピックス. 第95回日本内分泌学会学術総会, 2022.
- 19) ◎横田健一, 柴田洋孝, 栗原勲, 曾根正勝, 伊藤裕. CASZ1b は新規のミネラルコルチコイド受容体転写抑制因子である. 第95回日本内分泌学会学術総会, 2022.
- 20) 小竹徹, 山田将平, 小倉裕司, 渡邊詩香, 市川大介, 井上一步, 星野誠子, 田邊淳, 菅谷健, 永井義夫, 木村健二郎, 柴垣有吾, 池森敦子. 習慣的走運動によるサルコペニア及び糖尿病性腎臓病の進行抑制効果の検証. 第65回日本腎臓学会学術総会, 2022.
- 21) ◎加納 麻弓子. 多能性幹細胞を用いた内分泌臓器再生. 第40回日本内分泌学会内分泌代謝学サマーセミナー, 2022.
- 22) 森川松次郎, 橋本一樹, 大杉真也, 縄田晋太郎, 和田慎司, 富田隼人, 小川普久, 濱口真吾, 三村秀文, 菱田吉明. 選択的副甲状腺サンプリングにて原発性副甲状腺機能亢進症の局在診断をしえた一例. 第33回関東 IVR 研究会, 2022.
- 23) ◎三原祥平, 月山秀一, 山崎和子, 中村祐太, 中川朋子, 横田健一, 曾根正勝. 抗リン脂質抗体症候群による両側副腎出血, 原発性副腎不全を来した一例. 第23回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 24) ◎黒須智彦, 浅井志高, 久米怜奈, 内山修太朗, 曾根正勝. 内視鏡治療で止血困難な上部消化管出血を呈した高血糖高浸透圧症候群(HHS)の2例. 第23回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 25) ◎中川朋子, 川名部新, 菱田義明, 松葉怜, 久保ゆい, 中村祐太, 月山秀一, 加納麻弓子, 横田健一, 方波見卓行, 曾根正勝. 急性間欠性ポルフィリン症の周産期管理を行った2例. 第23回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 26) ◎小柳壮史, 方波見卓行, 清水紗智, 松葉怜, 山本雄太郎, 長坂智裕, 有泉泰, 長宗我部基弘, 木村伯子, 山崎有人, 鈴木貴, 藤田哲夫, 曾根正勝, 笹野公伸. 胃粘膜下腫瘍を併発し, Sunitinib による腫瘍縮小効果を得た SDHA 変異陽性パラグングリオーマの一例. 第23回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 27) ◎山本千智, 中川朋子, 川名部新, 池田七海, 常見真吾, 菱田義明, 中村祐太, 月山秀一, 加納麻弓子, 横田健一, 曾根正勝. メルカゾールによるバセドウ病治療開始3か月後、発熱、移動性関節痛、皮疹が出現し Antithyroid arthritis syndrome と診断した1例. 第23回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 28) ◎内山修太朗, 原直也, 川名部新, 中川朋子, 中村祐太, 月山秀一, 水上拓郎, 曾根正勝. 食道癌に対してニボルマブ治療開始13か月後、尿糖自己測定により irAE による劇症1型糖尿病を早期に捉えた1例. 第23回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 29) ◎井崎裕都, 菱田吉明, 窪田珠理, 常見真吾, 鈴木達也, 川名部新, 加納麻弓子, 月山秀一, 中村祐太, 中川朋子, 横田健一, 曾根正勝. 先端巨大症に併発した肝腫瘍の診断に苦慮した1例. 第23回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.

- 30) ◎長坂智裕, 方波見卓行, 山本雄太郎, 清水紗智, 小柳壮史, 曾根正勝. メチラポンからオシロドロスタットへの切替えが有用であった Cushing 症候群の一例. 第 23 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 31) ◎山本雄太郎, 方波見卓行, 松葉伶, 清水紗智, 長坂智裕, 小柳壮史, 曾根正勝. 日本人 2 型糖尿病患者における TBS を用いた骨質・骨量評価とビタミン D 摂取の現状. 第 23 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 32) ◎呉暄, 月山秀一, 窪田珠理, 中村祐太, 中川朋子, 横田健一, 曾根正勝. オピオイドによる続発性副腎皮質機能低下症が考えられた一例. 第 23 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 33) ◎柴田真知, 山本雄太郎, 長坂智裕, 清水紗智, 小柳壮史, 矢吹由香里, 吉田一彦, 長嶋洋治, 山崎有人, 曾根正勝, 笹野公伸, 方波見卓行. 乳癌、甲状腺乳頭癌を併発した副腎皮質癌の一例. 第 23 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 34) ◎久米怜奈, 浅井志高, 黒須智彦, 内山修太朗, 曾我海馬, 篠原健介, 曾根正勝. メトホルミン長期投与下に亜急性連合性脊髄変性症を発症した自己免疫性多内分泌症候群の 1 例. 第 23 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 35) ◎西成田純, 中川朋子, 清水紗智, 川名部新, 池田七海, 村橋登, 竹本彩夏, 常見真吾, 菱田義明, 中村祐太, 月山秀一, 加納麻弓子, 横田健一, 曾根正勝. 糖尿病合併ブラダークウィリ症候群に対して短時間作用型 GLP-1 受容体作動薬が有効であった 1 例. 第 23 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 36) ◎横田健一. 症候から考える内分泌疾患患 (内分泌疾患を見落とさないために). 第 23 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 37) ◎曾根正勝. 糖尿病合併症を考慮した血圧管理. 第 37 回日本糖尿病合併症学会, 2022.
- 38) ◎山本雄太郎, 方波見卓行, 長坂智裕, 清水紗智, 小柳壮史, 矢吹由香里, 有泉泰, 長宗我部基弘, 吉田一彦, 長嶋洋治, 山崎有人, 曾根正勝, 笹野公伸. 副腎皮質癌、乳癌、甲状腺乳頭癌を併発した同時性重複癌の一例. 第 26 回日本臨床内分泌病理学会学術総会, 2022.
- 39) ◎浅井勇磨, 月山秀一, 加藤正高, 井下尚子, 山田正三, 曾根正勝. 鞍上部腫瘍として発見された血管芽腫の一例. 第 26 回日本臨床内分泌病理学会学術総会, 2022.
- 40) ◎常見真吾, 中川朋子. MMI によるバセドウ病治療中、発熱、移動性関節痛、皮診が出現し Antithyroid arthritis syndrome と診断した Down 症候群の 1 例. 第 65 回日本甲状腺学会学術集会, 2022.
- 41) ◎菱田吉明, 川名部新, 加納麻弓子, 月山秀一, 中村祐太, 中川朋子, 横田健一, 西川徹, 曾根正勝. 両側副甲状腺腫大が指摘されたが、甲状腺静脈サンプリングにより片側過剰分泌と診断しえた原発性副甲状腺機能亢進症の 1 例. 第 65 回日本甲状腺学会学術集会, 2022.
- 42) 西川徹, 印牧義英, 小島康幸, 横田健一, 曾根正勝, 福田護, 津川浩一郎. 甲状腺がん術後再発診断における全身 MRI 検査 (DWIBS 法) の有用性. 第 65 回日本甲状腺学会学術集会, 2022.
- 43) ◎長坂智裕, 方波見卓行, 山本雄太郎, 清水紗智, 小柳壮史, 曾根正勝. メチラポンからオシロドロスタットに切り替えた Cushing 症候群 4 例. 第 32 回臨床内分泌代謝 Update, 2022.
- 44) ◎池田七海, 中川朋子, 川名部新, 菱田吉明, 中村祐太, 月山秀一, 加納麻弓子, 横田健一, 山野嘉久, 曾根正勝. MMI によるバセドウ病治療中にぶどう膜炎を発症した HAM の 1 例. 第 32 回臨床内分泌代謝 Update, 2022.
- 45) ◎清水紗智, 方波見卓行, 小柳壮史, 松葉伶, 山本雄太郎, 長坂智裕, 有泉泰, 長宗我部基弘, 木村伯子, 山崎優人, 鈴木貴, 藤田哲夫, 曾根正勝, 笹野公伸. SDHA 遺伝子変異を認めた胃粘膜下腫瘍併発パラガングリオーマ. 第 32 回臨床内分泌代謝 Update, 2022.
- 46) ◎方波見卓行, 松葉伶, 山本雄太郎. 原発性アルドステロン症 (PA) の診療ガイドライン 2021 : 現状, 課題, 未来. 第 32 回臨床内分泌代謝 Update, 2022.
- 47) ◎浅井勇磨, 月山秀一, 高砂浩史, 加藤正高, 井下尚子, 山田正三, 曾根正勝. 鞍上部に発生し下垂体前葉機能低下症を来した血管芽腫の一例. 第 32 回臨床内分泌代謝 Update, 2022.
- 48) 佐々木美紀, 田雑瑞穂, 本吉愛, 在原卓, 垣本紗代子, 酒巻香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 中野万理, 金山益佳, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂彩華, 志茂新, 都築麻紀子, 小島康幸, 西川徹, 川本久紀, 川名部新, 津川浩一郎. Atezolizumab 投与中止 2 ヶ月後の劇症 1 型糖尿病を発症した乳癌の 1 例. 第 18 回日本乳癌学会関東地方会, 2022.
- 49) ◎清水紗智, 方波見卓行, 山本雄太郎, 長坂智裕, 竹本彩夏, 池田七海, 小柳壮史, 曾根正勝. 頻回輸血により二次性ヘモクロマトーシスをきたしたインスリン依存型糖尿病の 1 例. 第 60 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2023.
- 50) ◎村橋登, 中川朋子, 中村祐太, 常見真吾, 川名部新, 菱田吉明, 月山秀一, 加納麻弓子, 横田健一, 曾根正勝. セマグルチドにより、血糖・体重マネージメントが改善した肥満合併 2 型糖尿病の一例. 第 60 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2023.
- 51) ◎土肥見江子, 長谷川亜矢, 太田明雄. リアルタイム CGM の導入指導時に直面した問題点から考える CGM の選定について. 第 60 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2023.

- 52) ◎酒井健輔, 太田明雄, 小藤梢. 血液透析日と非透析日の血糖の推移を rtCGM で評価した糖尿病患者の 1 例. 第 60 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2023.
- 53) ◎内山修太郎, 佐田幸由, 三原祥平, 佐々木要輔, 曾根正勝, 田中逸. 経口セマグルチド投与による体組成への影響. 第 60 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2023.
- 54) ◎中辻侑子, 中川朋子, 常見真吾, 川名部新, 菱田吉明, 中村祐太, 月山秀一, 加納麻弓子, 横田健一, 曾根正勝. HbA1c と、血糖・GA の乖離により溶血性貧血の診断に至った 2 型糖尿病の一例. 第 60 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2023.
- 55) ◎楠田修平, 月山秀一, 竹本彩夏, 窪田珠理, 常見真吾, 菱田吉明, 川名部新, 横田健一, 曾根正勝. 2 型から緩徐進行型 1 型に移行した糖尿病の 1 例. 第 60 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2023.
- 56) ◎横田健一, 中川朋子, 月山秀一, 中村祐太, 加納麻弓子, 川名部新, 菱田吉明, 常見真吾, 久保ゆい, 曾根正勝. 視床下部性肥満症例に対しセマグルチド投与により減量と糖尿病の改善を認めた症例. 第 60 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2023.
- 57) ◎小藤梢, 酒井健輔 太田明雄, 曾根正勝. 左下 3 番根尖性歯周炎より下顎に瘻孔をきたした 1 型糖尿病の 1 例. 第 60 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2023.
- 58) ◎山本雄太郎, 方波見卓行, 池田七海, 清水沙智, 長坂智裕, 竹本彩夏, 本田美沙, 志村和浩, 本間桂子, 曾根正勝, 長谷川奉延. 急性心筋梗塞による CPA を契機に発見された 17 α 水酸化酵素欠損症 (17 α -OHD) の一例. 第 30 回日本ステロイドホルモン学会学術集会, 2023.
- 59) ◎浅井志高, 方波見卓行, 松葉怜, 曾根正勝, 伊澤正一郎, 立木美香, 田辺昌代, 成瀬光栄. わが国における顕性副腎性 Cushing 症候群の診断実態. 第 30 回日本ステロイドホルモン学会学術集会, 2023.
- 60) 西川徹, 小島康幸, 月山秀一, 横田健一, 曾根正勝, 谷澤雅彦, 篠田和伸, 道下由紀子, 印牧義英, 津川浩一郎. 当院における副甲状腺異常亢進症に対する手術治療～院内連携なくして治療はできない～. 聖マリアンナ医科大学医学会第 83 回学術集会, 2023.
- 61) ◎曾根正勝. Characteristics of cardiovascular and renal complications in patients with primary aldosteronism. 第 95 回日本内分泌学会学術総会, 2022.

② その他

- 1) ◎川名部新. 当院での GLP-1 受容体作動薬の使用実態について. GLP-1Web 講演会, 2022.
- 2) ◎曾根正勝. インクレチン製剤の上手な使い分け／原発性アルドステロン症ガイドラインの変更点. 糖尿病治療研究会 in Fukuoka 2022, 2022.
- 3) ◎曾根正勝. インクレチン製剤の上手な使い分け／原発性アルドステロン症ガイドラインの変更点. これからの GLP-1 製剤を考える会, 2022.
- 4) ◎太田明雄. 当院におけるイメグリミンの使用経験—isCGM による投与前後の比較. 青葉区循環器研修会, 2022.
- 5) ◎浅井志高. 糖尿病診療・治療の方針～当院における薬剤選択・GLP-1 製剤の使い分けについて～. GLP-1Web 講演会, 2022.
- 6) ◎曾根正勝. 副腎腫瘍の診断と pitfalls. 第 3 回東関東糖尿病代謝内分泌研究会, 2022.
- 7) ◎曾根正勝. 糖尿病の最近の新しい治療について. 第 23 回川崎糖尿病市民講座, 2022.
- 8) ◎曾根正勝. インクレチン製剤の上手な使い分け. 内分泌 Update Web Seminar, 2022.
- 9) ◎曾根正勝. 原発性アルドステロン症における臓器障害の解析と診療ガイドラインの変更点. Hypertension Forum in Hiroshima, 2022.
- 10) ◎横田健一. 日本における高血圧合併糖尿病患者の血圧管理のコンセンサス. 神奈川糖尿病領域高血圧 Symposium, 2022.
- 11) ◎曾根正勝. 高血圧治療における血圧調節ホルモンの重要性. 第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会ランチョンセミナー17, 2022.
- 12) ◎中川朋子. 2 型糖尿病治療のアンメット・メディカル・ニーズと IDegLira. Teams Web 講演会, 2022.
- 13) ◎曾根正勝. 糖尿病合併高血圧治療について. 世界高血圧デーにエンレストを考える, 2022.
- 14) ◎曾根正勝. 高血圧と血管に対する NP (ナトリウム利尿ペプチド) の役割. 京都糖尿病医学会学術講演会—高血圧治療の新たな展開—, 2022.
- 15) ◎曾根正勝. アルドステロン測定法の変更に伴う原発性アルドステロン症診療ガイドラインの変更点と今後の展望. 第 95 回日本内分泌学会学術総会ランチョンセミナー21, 2022.
- 16) ◎楠田修平, 中村祐太, 浅井勇磨, 窪田珠理, 中川朋子, 横田健一, 曾根正勝. 縦隔気腫を契機に糖尿病ケトアシドーシスと診断された Hamman 症候群の 2 型糖尿病の一例. 第 85 回内科合同勉強会, 2022.
- 17) ◎菱田吉明, 中村祐太, 小柳壮史, 常見真吾, 久保ゆい, 川名部新, 月山秀一, 中川朋子, 横田健一, 曾根正勝. 本邦における糖尿病性ケトアシドーシス治療適正化の検討. 第 38 回神奈川糖尿病研究会, 2022.
- 18) 中村祐太, 角浩史, 鈴木規雄. 3 科診療科で考える SGLT2 阻害剤の適正使用. 心・腎・代謝 連携セミナー, 2022.

- 19) ◎曾根正勝. 原発性アルドステロン症から見たミネラルコルチコイドによる臓器障害の解析と診療ガイドラインの主要な変更点. 第 91 回臨床内分泌代謝懇話会, 2022.
- 20) ◎曾根正勝. 糖尿病治療のパラダイムシフトと個別化医療. 糖尿病と肝臓を考える会 IN 川崎, 2022.
- 21) ◎横田健一. 新規ミネラルコルチコイド受容体転写共役因子の探索と本態性高血圧発症メカニズム. Endocrinology Update Seminar, 2022.
- 22) 井守洋一, 方波見卓行, 溝端正博, 山本雄太郎. 明日の診療から使えるエンレストの適正患者像と用法・用量を考える. 高血圧 Web Live Meeting, 2022.
- 23) ◎太田明雄. 当院におけるイメグリミンの使用経験～isCGM による投与前後の比較～. DUAL Seminar in 三河 「血糖調節」を考え直す会, 2022.
- 24) 西尾善彦, 中村祐太. 合併症予防を目指した糖尿病治療～GLP-1 製剤の役割～. Incretin Online Conference, 2022.
- 25) 中澤龍斗, 高砂浩史, 横田健一. 内分泌疾患の診療連携. 川崎内分泌疾患医療連携 WEB セミナー, 2022.
- 26) 田島一樹, 山本雄太郎. 糖尿病の治療強化. Incretin Web Seminar, 2022.
- 27) ◎中川朋子. ディスカッション. Diabetes Online Conference., 2022.
- 28) ◎太田明雄. 糖尿病と感染症. 第 12 回東横健康増進フォーラム, 2022.
- 29) ◎中川朋子. 地域医療における糖尿病多職種連携. 多摩区糖尿病多職種連携会, 2022.
- 30) ◎菱田吉明. 本邦における糖尿病性ケトアシドーシス治療に対する適正化の検討. 第 13 回内分泌代謝トランスレーショナル医学塾, 2022.
- 31) ◎曾根正勝. ホルモンの持つ多彩な作用と内分泌の概念の変遷. 神奈川県内科医学会 第 46 回臨床医学研修講座, 2022.
- 32) ◎山本雄太郎. 2 型糖尿病患者におけるレジスタンス運動の実際と展望. Diabetes Seminar in Kanagawa, 2022.
- 33) ◎曾根正勝. 内分泌疾患に伴う糖尿病の特徴とその治療. エクア・エクメット・メトグルコ ライブ配信講演会, 2022.
- 34) ◎月山秀一. オピオイドによる続発性副腎皮質機能低下症の 1 例. 第 56 回神奈川内分泌・代謝セミナー, 2022.
- 35) ◎中村祐太. CGM/AGP/TIR Lecture. CGM/isCGM Case Conference Vol.3, 2022.
- 36) ◎菱田吉明. 症例検討. CGM/isCGM Case Conference Vol.3, 2022.
- 37) 山本博幸, 月山秀一, 萩原悠太, 佐藤如雄. ディスカッション. 慢性便秘症 Web セミナー～各診療科の垣根を超えた便秘症診療～, 2022.
- 38) ◎曾根正勝. 原発性アルドステロン症における臓器障害のミネラルコルチコイド依存性の解析～糖尿病合併症におけるフィネレノンの効果との共通点～. WEB カンファレンス in 東北, 2022.
- 39) ◎中村祐太. 食事・運動療法～代謝・内分泌内科医の視点から～. 第 3 回 DEN ON cooperation, 2022.
- 40) ◎曾根正勝. 糖尿病合併高血圧の新たな治療戦略. 第 37 回日本糖尿病合併症学会 ランチョンセミナー1, 2022.
- 41) ◎曾根正勝. 糖尿病合併症におけるフィネレノンの効果への期待～原発性アルドステロン症における臓器障害との共通点～. ケレンディア錠新発売記念 WEB 講演会, 2022.
- 42) ◎中川朋子. 2 型糖尿病治療のアンメット・メディカル・ニーズと IDegLira. Teams Web 講演会, 2022.
- 43) ◎太田明雄. 当院におけるイメグリミンの使用経験～isCGM による投与前後の比較～. DUAL Seminar in 大阪, 2022.
- 44) 八木稔人, 金子隆志, 太田明雄. ディスカッション. DUAL Seminar in 大阪, 2022.
- 45) ◎方波見卓行. 実臨床から学ぶ Cushing 症候群の新規治療薬オシロドrostatt の使い方: ベネフィットとアテンション. 第 32 回臨床内分泌代謝 Update 共催セミナー1, 2022.
- 46) ◎曾根正勝. 糖尿病合併症におけるフィネレノンの効果への期待～原発性アルドステロン症における臓器障害との共通点～. CDK-TALKS, 2022.
- 47) ◎山本雄太郎. 高齢 2 型糖尿病患者におけるレジスタンス運動の現実と未来. Diabetes Online Seminar, 2022.
- 48) ◎曾根正勝. 糖尿病合併症におけるフィネレノンの効果への期待～原発性アルドステロン症における臓器障害との共通点～. ケレンディア Web カンファレンス, 2022.
- 49) ◎菱田吉明. GLP-1 受容体作動薬の処方経験から見えてきたもの～若手医師の立場から～. GLP-1Web 講演会, 2022.
- 50) ◎横田健一. 下垂体性副腎機能低下症の診療の実際. 市民公開講座, 2022.
- 51) 山本雄太郎, 荒川健太郎, 岡田孝弘. より良い地域医療連携を目指して. True Simplicity Seminar in 横浜市西部, 2022.
- 52) ◎曾根正勝. 病態に応じた糖尿病治療の選択と個別化医療. Diabetes Update in 横浜, 2022.
- 53) ◎中川朋子. 糖尿病・内分泌領域における動脈硬化性疾患. 学術講演会, 2023.
- 54) ◎山本雄太郎. パルモディア錠の症例報告. Kowa Web Conference, 2023.
- 55) ◎中川朋子. 当院における高血圧診療～エンレストの使用経験を踏まえて～. ALL 神奈川代謝・内分泌領域 高血圧/心不全講演会, 2023.
- 56) 曾根正勝. 糖尿病治療薬の進歩による治療アルゴリズムと個別化医療. 第 2 回神奈川糖尿病治療センター, 2023.

- 57) ◎曾根正勝. ミネラルコルチコイドによる臓器障害から見た糖尿病合併症におけるフィネレノンの効果への期待. 第 60 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 ランチョンセミナー 7, 2023.
- 58) ◎中村祐太. 当院での糖尿病診療の新しい取り組み. Diabetes Web Seminar, 2023.
- 59) ◎中川朋子. 降圧治療における ARNI の位置づけを考える. Consider the positioning of ARNI, 2023.
- 60) ◎太田明雄. 高度肥満糖尿病症例における減量・代謝改善手術～東横病院における取り組み～. TAISHO Diabetes Meeting, 2023.
- 61) ◎中川朋子. ATL・パセドウ病合併、チアマゾール治療中にぶどう膜炎を発症した HAM 患者の一例. 令和 4 年度 AMED・厚労科研費 HAM 関連研究班合同班会議, 2023.
- 62) ◎曾根正勝. 原発性アルドステロン症診断の課題点と糖尿病診療におけるミネラルコルチコイドの意義. 第 2 回糖尿病・内分泌代謝疾患研究会, 2023.
- 63) ◎中村祐太. 各施設の特徴を踏まえた高血圧治療の現状（糖尿病専門医の立場より）. Consider the positioning of ARNI, 2023.
- 64) ◎山口こと葉, 菱田吉明, 中村祐太, 曾根正勝. チアマゾールによる好中球減少症を来し、内分泌疾患センター内診療科連携により速やかに手術療法に移行できたパセドウ病の一例. 第 40 回川崎市医師会医学会, 2023.
- 65) ◎曾根正勝. ミネラルコルチコイドによる臓器障害から見た糖尿病合併症におけるフィネレノンの効果への期待. 第 57 回糖尿病学の進歩 ランチョンセミナー A, 2023.
- 66) 久保田章, 久米玲奈, 宗宮清美. 「患者さんへのアプローチ」クリニカルイナーシャ・治療強化時の向き合い方について. DiaMond Seminar in 川崎～血糖目標値を再考する～, 2023.
- 67) 鈴木規雄, 菱田吉明, 今井直彦. 多方面から高尿酸血症治療を考える. 高尿酸血症治療スキルアップ Web セミナー, 2023.
- 68) ◎方波見卓行. 副腎性 Cushing 症候群；診断法の現状と課題. 第 30 回日本ステロイドホルモン学会学術集会 ランチョンセミナー, 2023.
- 69) ◎曾根正勝. 糖尿病治療における HbA1c 目標値のあり方の再考と早期治療強化の意. DiaMond Seminar in 川崎, 2023.
- 70) ◎中村祐太. 糖尿病治療の真の目標を達成するために―他科・多職種・地域による糖尿病チーム医療の醸成一. DiaMond Seminar in 川崎, 2023.
- 71) ◎中川朋子. HCL 症例発表とそれに対するアドバイス. HCL スタートアップセミナー 症例発表 style, 2023.
- 72) ◎中村祐太. 最新の血統モニタリングシステムを通した血糖推移の理解. 第 88 回内科合同勉強会, 2023.
- 73) ◎曾根正勝. ミネラルコルチコイドによる臓器障害から見た糖尿病合併症におけるフィネレノンの効果への期待. ケレンディア錠 WEB カンファレンス, 2023.
- 74) ◎長坂智裕, 山本雄太郎, 清水紗智, 竹本彩夏, 池田七海, 松葉怜, 曾根正勝, 方波見卓行. メチラポン, トリロスタン併用からオシロドロスタットに変更したクッシング病術後の一例. 第 34 回間脳・下垂体・副腎系研究会, 2023.
- 75) ◎池田七海, 山本雄太郎, 清水紗智, 長坂智裕, 竹本彩夏, 近藤恒徳, 増永敦子, 有泉泰, 山崎有人, 鈴木貴, 曾根正勝, 方波見卓行. 副腎癌との鑑別に難渋した片側副腎悪性リンパ腫の一例. 第 34 回間脳・下垂体・副腎系研究会, 2023.
- 76) ◎月山秀一, 方波見卓行. 一般検査所見による急性副腎不全診断モデルの開発、適応、限界. 第 34 回間脳・下垂体・副腎系研究会, 2023.
- 77) ◎清水紗智, 方波見卓行, 山本雄太郎, 長坂智裕, 竹本彩夏, 池田七海, 小柳壮史, 薄場渉, 山崎有人, 鈴木貴, 曾根正勝, 笹野公伸. メトピロンからオシロドロスタットへの変更を試みた副腎性クッシング症候群の 1 例. 第 34 回間脳・下垂体・副腎系研究会, 2023.
- 78) ◎窪田珠理, 中村祐太, 菱田吉明, 中川朋子, 横田健一, 曾根正勝. COVID-19 による劇症型心筋炎の際に汎下垂体機能低下を認めた empty sella 症候群の一例. 第 34 回間脳・下垂体・副腎系研究会, 2023.
- 79) ◎三原祥平, 月山秀一, 山崎和子, 中村祐太, 中川朋子, 横田健一, 曾根正勝. 抗リン脂質抗体症候群に伴う副腎出血及び原発性副腎不全を認めた一例. 第 34 回間脳・下垂体・副腎系研究会, 2023.
- 80) ◎横田健一. 高血圧診療における至適治療と治療抵抗性高血圧へのアプローチ. 川崎北部医療連携講演会, 2023.
- 81) ◎山本雄太郎. 急性心筋梗塞による CPA を契機に発見された 17 α 水酸化酵素欠損症 (17 α -OHD) の一例. Pacific Pituitary Forum 2023, 2023.
- 82) ◎曾根正勝. 糖尿病治療における地域連携～新規治療薬を含めて～. 宮前区医師会学術講演会―地域医療のための研修会―, 2023.
- 83) 伊藤克彦, 月山秀一. アルゴリズムから探る新薬の位置づけ. 宮前区医師会学術講演会―地域医療のための研修会―, 2023.
- 84) ◎曾根正勝. ミネラルコルチコイドによる臓器障害から見た糖尿病合併症におけるフィネレノンの効果への期待. 心腎関連と早期治療介入の重要性, 2023.

- 85) ◎曾根正勝. ミネラルコルチコイドによる臓器障害から見た糖尿病合併症におけるフィネレノンの効果への期待. 糖尿病性腎臓病のトータルマネジメント, 2023.
- 86) ◎山本雄太郎. 糖尿病治療の視点から見た高血圧治療. 高血圧から心不全までシームレスな治療を考える, 2023.
- 87) Toru Nishikawa, Yoshihide Kanemaki, Yasuyuki Kojima, Kenichi Yokota, Masakatsu Sone, Mamoru Fukuda, Koichiro Tsugawa. Is non-contrast MRI useful in the Localization of parathyroid tumors?. 29th Czech-Japan Surgical Symposium YOKOHAMA2022, 2022.

		和 文	英 文
著 書		5	
論 文	原著		21
	解説又は総説	10	2
	症例報告	1	2
	その他		
学会発表	国内学会	60	1
	国際学会		
	その他	86	1

内科学（脳神経内科）

著書

- 1) 秋山久尚. COVID-19 関連頭痛（急性期） COVID-19 神経ハンドブック 2022;:119-128.
- 2) 秋山久尚. 片頭痛と脳血管障害はどのような関係があるか？ ジェネラリストのための頭痛診療マスター 2022;:176-178.
- 3) 長谷川泰弘. 脳卒中治療薬 Pocket Drugs 2023 2023;:108-114.
- 4) 秋山久尚. DOAC 内服中に非弁膜症性心房細動患者で脳梗塞を発症した場合、抗凝固薬をどうすべきか？ 脳卒中治療 Controversy 2023;:287-293.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 今井健, 清水高弘, 土橋瑤子, 赤須友香利, 秋山久尚, 山内淳司, 長谷川泰弘, 山野嘉久. 活動性担癌患者における脳梗塞発症後の死亡関連因子に関する検討. 脳卒中, 2022;44(3) : 252-258.
- 2) 星野俊, 土橋瑤子, 佐々木梨衣, 大塚快信, 山野嘉久. 新規診断基準が早期診断に有用であった Creutzfeldt-Jakob 病 4 例の比較検討. 脳神経内科, 2022;97(6) : 776-782.

② 総説又は症例解説

- 1) 山野嘉久. HTLV-1-associated myelopathy (HAM). 日本臨床, 2022;80(suppl5) : 340-346.
- 2) 黄世捷, 伊佐健司. 脳神経内科領域における医学教育の展望 Post/with コロナ時代を見据えて (Vol. 10) DX 時代の病院と臨床教育の実践. BRAIN and NERVE: 神経研究の進歩, 2022;74(6) : 819-821.
- 3) 鷹尾直誠, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM). CLINICAL NEUROSCIENCE, 2022;40(6) : 798-800.
- 4) 山野嘉久. 難病患者へのオンライン診療の挑戦と展望. Medical Science Digest, 2022;48(7) : 16-18.
- 5) 山野嘉久, 松田文彦. 難病プラットフォームの確立と展開. 臨床評価, 2022;50(2) : 194-208.
- 6) 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM). CLINICAL NEUROSCIENCE, 2022;40(11) : 1406-1408.
- 7) 長谷川泰弘. 【脳血管障害-脳卒中医療の今、そして未来】実地医家に必要な最新の知識 脳卒中と診療報酬. Medical Practice, 2022;39(12) : 1855-1858.
- 8) 秋山久尚. 慢性頭痛のオンライン診療. medicina, 2022;59(13) : 2444-2449.
- 9) 秋山久尚. 片頭痛：新たな抗 CGRP 関連抗体薬（ガルカネズマブ・エレヌマブ・フレマネズマブ）を踏まえて. 眼科, 2022;64(12) : 1145-1152.
- 10) 櫻井謙三, 山野嘉久. 神経感染症の治療の進歩 (2021). 神経治療学, 2022;39(5) : 760-763.
- 11) 鷹尾直誠, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の病態に基づく個別化医療. 神経治療学, 2022;39(4) : 448-452.
- 12) 鷹尾直誠, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM). CLINICAL NEUROSCIENCE, 2023;41(1) : 122-125.
- 13) 秋山久尚. 大きく様変わりした抗 CGRP 関連抗体薬による片頭痛の予防方法. 新薬と臨床, 2023;72(4) : 331-341.

③ 症例報告

- 1) 星野俊, 清水高弘, 藤井修一, 柳澤俊之, 長谷川泰弘, 山野嘉久. New-Onset Refractory Status Epilepticus の治療経過中に両手指足趾にテタニー様症状を呈した 39 歳女性例. 神経治療学, 2022;39(1) : 37-41.
- 2) 星野俊, 伊藤葵, 清水高弘, 秋山久尚, 山野嘉久. 延髄梗塞を合併した帯状疱疹性脊髄炎の一例. BRAIN and NERVE, 2023;75(3) : 269-273.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Kimura M, Yamauchi J, Sato T, Yagishita N, Araya N, Aratani S, Tanabe K, Horibe E, Watanabe T, Coler-Reilly A, Nagasaka M, Akasu Y, Kaburagi K, Kikuchi T, Shibata S, Matsumoto H, Koseki A, Inoue S, Takata A, Yamano Y.. Health-related quality of life evaluation using the Short Form-36 in patients with human T-Lymphotropic leukemia virus type 1-associated myelopathy. Frontiers in Medicine, 2022;9 : 879379.
- 2) Hamanaka K, Miyake N, Mizuguchi T, Miyatake S, Uchiyama Y, Tsuchida N, Sekiguchi F, Mitsunashi S, Tsurusaki Y, Nakashima M, Saito H, Yamada K, Sakamoto M, Fukuda H, Ohori S, Saida K, Itai T, Azuma Y, Koshimizu E, Fujita A, Erturk B, Hiraki Y, Ch'ng GS, Kato M, Okamoto N, Takata A, Matsumoto N.. Large-scale discovery of novel neurodevelopmental disorder-related genes through a unified analysis of single-nucleotide and copy number variants. Genome medicine, 2022;14(1) : 40.

- 3) Uchida Masashi, Ito Hidemichi, Takasuna Hiroshi, Goto Tetsuya, Takumi Ichiro, Fukano Takayuki, Hagiwara Yuta, Tanaka Yuichiro. Initial experience with left transradial neurointerventions for cerebral aneurysms using the 6-French Simmons guiding sheath. *Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases*, 2022;31(4) : 106350–10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2022.106350.
- 4) Nakajima T, Yoshifuji H, Yamano Y, Yurugi K, Miura Y, Maekawa T, Yoshida T, Handa H, Ohmura K, Mimori T, Terao C. Co-occurrence of Relapsing Polychondritis and Autoimmune Thyroid Diseases. *Orphanet Journal of Rare Diseases*, 2022;17(1) : 101.
- 5) Tsujikawa K, Hamanaka K, Riku Y, Hattori Y, Hara N, Iguchi Y, Ishigaki S, Hashizume A, Miyatake S, Mitsushashi S, Miyazaki Y, Kataoka M, Jiayi L, Yasui K, Kuru S, Koike H, Kobayashi K, Sahara N, Ozaki N, Yoshida M, Kakita A, Saito Y, Iwasaki Y, Miyashita A, Iwatsubo T; Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative (J-ADNI); Ikeuchi T; Japanese Longitudinal Biomarker Study in PSP and CBD (JALPAC) Consortium; Miyata T, Sobue G, Matsumoto N, Sahashi K, Katsuno M.. Actin-binding protein filamin-A drives tau aggregation and contributes to progressive supranuclear palsy pathology. *Science advances*, 2022;8(21) : eabm5029.
- 6) Wada Y, Sato T, Hasegawa H, Matsudaira T, Nao N, Coler-Reilly A, Tasaka T, Yamauchi S, Okagawa T, Momose H, Tanio M, Kuramitsu M, Sasaki D, Matsumoto N, Yagishita N, Yamauchi J, Araya N, Tanabe K, Yamagishi M, Nakashima M, Nakahata S, Iha H, Ogata M, Imaizumi Y, Uchimaru K, Miyazaki Y, Konnai S, Yanagihara K, Morishita K, Watanabe T, Yamano Y, Saito M.. RAISING is a high-performance method for identifying random transgene integration sites. *Commun Biol*, 2022;5(1) : 535.
- 7) Yoshie T, Matsuda Y, Arakawa Y, Otsubo H, Araga T, Tatsuno K, Takaishi S, Usuki N, Ueda T.. The Influence of Experience on Gazing Patterns during Endovascular Treatment: Eye-Tracking Study. *Journal of Neuroendovascular Therapy*, 2022;16(6) : 294–300.
- 8) Tanaka Y, Sato T, Yagishita N, Yamauchi J, Araya N, Aratani S, Takahashi K, Kunitomo Y, Nagasaka M, Kanda Y, Uchimaru K, Morio T, Yamano Y. Potential Role of HTLV-1 Tax-Specific Cytotoxic T Lymphocytes expressing a Unique T-cell Receptor to Promote Inflammation of the Central Nervous System in Myelopathy Associated with HTLV-1. *Frontiers in Immunology*, 2022;13 : 993025.
- 9) Hagiwara Y, Takao N, Usuki N, Yoshie T, Takaishi S, Shimizu T, Ueda T, Hasegawa Y, Yamano Y.. Carotid ultrasound using superb microvascular imaging to identify patients developing in-stent restenosis after CAS. *Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases*, 2022;31(8) : 106627.
- 10) Sasaki N, Sato T, Yamatoku M, Yamano Y.. Efficacy of repetitive transcranial magnetic stimulation for gait disturbance in HTLV-1 associated myelopathy. *NeuroRehabilitation*, 2022;51(3) : 519–526.
- 11) Matsumoto H, Shiraishi M, Higashi A, Hino S, Kaburagi M, Mizukami H, Maki F, Yamauchi J, Tanabe K, Sato T, Yamano Y. The Forward and Lateral Tilt Angle of the Neck and Trunk Measured by Three-Dimensional Gait and Motion Analysis as a Candidate for a Severity Index in Patients with Parkinson's Disease. *Neurology International*, 2022;14(3) : 727–737.
- 12) Kikuchi T, Takao N, Sato T, Isahaya K, Hino S, Kaburagi M, Tachikawa K, Ko R, Shibata S, Kaburagi K, Iijima N, Mizukami H, Sakurai K, Yamauchi J, Kimura A, Shimohata T, Yamano Y. The level of CSF CXCL10 is highly elevated and decreased after steroid therapy in patients with autoimmune glial fibrillary acidic protein astrocytopathy. *Clinical and Experimental Neuroimmunology*, 2022;14(1) : 61–68.
- 13) Puccioni-Sohler M, Poton AD, Cabral-Castro MJ, Yamano Y, Taylor G, Casseb J. Human T lymphotropic virus type 1-associated myelopathy: overview of HTLV-1/2 tests and potential biomarkers. *AIDS Research and Human Retroviruses*, 2022;38(12) : 924–932.
- 14) Ueda T, Takaishi S, Yoshie T, Usuki N, Tatsuno K, Ohtsubo H, Araga T, Kaga Y, Takada T. Long-term outcome and factors associated with restenosis after combination therapy of balloon angioplasty and stenting for symptomatic intracranial stenosis. *BMC Neurology*, 2022;22(1) : 477.
- 15) Kato D, Mitsushashi S, Miya F, Saitoh S, Okamoto N, Tsunoda T, Kochi Y. Utility of tissue-specific gene expression scores for gene prioritization in Mendelian diseases. *Journal of human genetics*, 2022;67(12) : 739–742.
- 16) Shibata S, Sakurai K, Tachikawa K, Ko R, Hino S, Fukano T, Isahaya K, Haraguchi T, Yamauchi J, Tanabe K, Nagasaka M, Hagiwara Y, Shimizu T, Akiyama H, Kobayashi Y, Hasegawa Y, Yamano Y. The Utility of Automated ASPECTS in Acute Ischemic Stroke for Intravenous Recombinant Tissue Plasminogen Activator (IV-rtPA) Therapy. *Neurology International*, 2022;14(4) : 981–990.

- 17) Komine Y, Shimizu T, Akiyama H, Hagiwara Y, Fukano T, Kuwata C, Hasegawa Y, Yamano Y. The Usefulness of Heart Rate Variability Spectral Analysis in Detecting Covert Atrial Fibrillation Among Patients with Cryptogenic Stroke. *St. Marianna Medical Journal*, 2022;13(2) : 127-135.
 - 18) Kaburagi K, Shimizu T, Hagiwara Y, Fukano T, Shibata S, Hoshino M, Sasaki N, Akiyama H, Hasegawa Y, Yamano Y. Usefulness of carotid duplex ultrasonography in predicting residual large-vessel occlusions after intravenous recombinant tissue plasminogen activator therapy in patients with acute ischemic stroke. *Journal of Medical Ultrasonics*, 2023;50(1) : 103-109.
 - 19) Nozuma S, Matsuura E, Tashiro Y, Nagata R, Ando M, Hiramatsu Y, Higuchi Y, Sakiyama Y, Hashiguchi A, Michizono K, Higashi K, Matsuzaki T, Kodama D, Tanaka M, Yamano Y, Moritoyo T, Kubota R, Takashima H. Efficacy of l-Arginine Treatment in Patients with HTLV-1-Associated Neurological Disease. *Annals of Clinical and Translational Neurology*, 2023;10(2) : 237-245.
 - 20) Tohyo Yuko, Shiraishi Makoto, Matsumoto Hirofumi, Torikai Keito, Narita Nobuyoshi, Miyake Hitoshi. Effects of lifestyle-related diseases on asymptomatic cerebral ischemic lesions in occupational health checkup participants. *Journal of Clinical Physiology*, 2023;53(1) : 29-36.
 - 21) Shiraishi M, Kamo T, Kumazawa R, Sasaki N, Isahaya K, Akiyama H, Furusawa Y, Onodera R, Fernandez J Otsuka M, Yamano Y. A multicenter, prospective, observational study to assess the satisfaction of an integrated digital platform of online medical care and remote patient monitoring in Parkinson's disease. *Neurology and Clinical Neuroscience*, 2023;11(3) : 152-163.
- ② 総説又は症例解説
- 1) Kamoi K, Watanabe T, Uchimar K, Okayama A, Kato S, Kawamata T, Kurozumi-Karube H, Horiguchi N, Zong Y, Yamano Y, Hamaguchi I, Nannya Y, Tojo A, Ohno-Matsui K. Updates on HTLV-1 uveitis. *Viruses*, 2022;14(4) : 794.
- ③ 症例報告
- 1) Imai T, Shinohara K, Uchino K, Okuma H, Maki F, Hiruma K, Ariizumi Y, Yamano Y. Paraneoplastic cerebellar degeneration with anti-Yo antibodies and an associated submandibular gland tumor: a case report. *BMC Neurology*, 2022;22(1) : 165.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎金成真由, 畑真由美, 櫻井謙三, 河越龍方, 高木均. 片眼性視神経炎寛解後に肥厚性硬膜炎が明らかとなった一症例. 第126回日本眼科学会総会, 2022.
- 2) ◎秋山久尚, 栗田千尋, 深野崇之, 萩原悠太, 清水高弘, 山野嘉久, 田邊康宏, 鈴木知美, 栗田真吾, 明石嘉浩. 経皮的卵円孔開存閉鎖術12か月後の閉鎖栓内膜被覆度を血管内視鏡で評価した1例. 第9回日本心血管脳卒中学会学術集会, 2022.
- 3) ◎山徳雅人, 萩原悠太, 長谷川大輔, 桑島規夫, 高田礼子, 山野嘉久. 脳神経内科における両立支援外来の重要性. 第63回日本神経学会学術大会, 2022.
- 4) ◎眞木二葉, 日野栄絵, 仲野雅幸, 山口敏雄, 高崎正人, 岩室宏一, 飯島健, 大内崇弘, 長谷川泰弘, 笹沼仁一, 渡邊一夫. パーキンソン病の振戦に対するMRガイド下集束超音波療法の位置づけ. 第63回日本神経学会学術大会, 2022.
- 5) ◎秋山久尚, 佐々木直, 山野嘉久. 実臨床におけるエリスマブ皮下注投与終了後の片頭痛頻度についての検討. 第63回日本神経学会学術大会, 2022.
- 6) ◎白石眞, 三上恭平, 加茂晃, 常深泰司, 加茂力, 大熊泰之, 藤本健一, 野川茂, 横田優樹, 中嶋秀人, 長田高志, 関守信, 永山寛, 鈴木圭輔, 山元敏正, 波田野琢, 山野嘉久, 服部信孝, 飯嶋睦. パーキンソン病患者の垂直姿勢の認識が前屈姿勢に及ぼす影響～多施設研究(中間報告). 第63回日本神経学会学術大会, 2022.
- 7) ◎新谷奈津美, 荒谷聡子, 八木下尚子, 山内淳司, 佐藤知雄, 山野嘉久. HTLV-1関連脊髄症(HAM)の病態形成機構. 第63回日本神経学会学術大会, 2022.
- 8) ◎萩原悠太. 特殊な病態に応用した頸動脈超音波検査. 日本超音波医学会第95回学術集会, 2022.
- 9) ◎水上平祐, 白石眞, 鏑木真弓, 日野栄絵, 鏑木圭, 松本博文, 眞木二葉, 山野嘉久. パーキンソン病患者における血中カルニチン濃度の検討. 第63回日本神経学会学術大会, 2022.
- 10) ◎栗田千尋, 秋山久尚, 柴田宗一郎, 山野嘉久. 実臨床におけるガルカネズマブ皮下注に対する患者満足度調査. 第63回日本神経学会学術大会, 2022.
- 11) ◎秋山久尚. 抗CGRP関連抗体薬の出現で片頭痛予防療法は変わったか?. 第63回日本神経学会学術大会, 2022.
- 12) ◎赤須友香利, 清水高弘, 秋山久尚, 栗田千尋, 萩原悠太, 長谷川泰弘, 山野嘉久. 潜在性心房細動の予測因子探索ための長時間心電図モニターの心拍変動の自律神経解析. 第63回日本神経学会学術大会, 2022.

- 13) ◎佐藤衆望, 伊佐早健司, 櫻井謙三, 栗田千尋, 萩原悠太, 深野崇之, 清水高弘, 秋山久尚, 長谷川泰弘, 山野嘉久. 院内発症脳梗塞の国内実態調査. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 14) ◎伊佐早健司, 柴田宗一郎, 飯島直樹, 平川経晃, 伊藤歩, 西村直, 福田隆浩, 佐々木諒, 藤井伸治, 佐藤知雄, 山野嘉久. 成人 T 細胞白血病移植後の神経障害例 2 例の検討. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 15) ◎青木良磨, 白石眞, 三上恭平, 加茂力. パーキンソン病における punding、hobbyism の行為内容に関する解析. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 16) ◎小室香, 時任孝英, 治田悠介, 杉村裕子, 大熊壮尚. 急性期病院における認知症高齢者の食支援に対する多職種協働の検討. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 17) ◎櫻井謙三, 伊佐早健司, 今井健, 土橋瑤子, 鷹尾直誠, 山野嘉久. 患者報告アウトカム (PRO) を用いた多発性硬化症の治療標的に関する探索研究. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 18) ◎柴田宗一郎, 櫻井謙三, 太刀川慶史, 高梨世子, 日野栄絵, 深野崇之, 伊佐早健司, 原口貴史, 石橋麻希, 小林泰之, 山野嘉久. 脳梗塞における人口知能 (AI) を用いた頭部 CT 画像読影の検証. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 19) ◎鍋木圭, 清水高弘, 萩原悠太, 飯島直樹, 栗田千尋, 深野崇之, 秋山久尚, 長谷川泰弘, 山野嘉久. 脳血管障害における JAK2V617F 変異遺伝子有病率とその患者背景についての検討. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 20) ◎萩原悠太. ライブデモンストレーション (血管 (脳神経含む) 領域) 塞栓症診断 頸動脈/経口腔超音波. 日本超音波医学会 第 95 回学術集会, 2022.
- 21) ◎清水高弘, 赤須友香利, 萩原悠太, 深野崇之, 栗田千尋, 秋山久尚, 鈴木知美, 栗田真吾, 田邊康宏, 山野嘉久. 高リスク PF0 を合併し、再発リスクが高いと考えられた奇異性脳塞栓症の 73 歳女性例. 第 41 回日本脳神経超音波学会総会, 2022.
- 22) ◎櫻井謙三. 視神経脊髄炎スペクトラム障害 (NMOSD) の病態・治療について ～抗補体 C5 治療により再発ゼロを目指して～. 第 31 回日本脳ドック学会総会ランチョンセミナー6, 2022.
- 23) ◎山野嘉久. 難病の全ゲノム解析等実証事業の現状と展望. 第 7 回クリニカルバイオバンク学会シンポジウム, 2022.
- 24) ◎白石眞, 三上恭平, 加茂晃, 常深泰司, 加茂力, 大熊泰之, 藤本健一, 横田優樹, 野川茂, 長田高志, 関守信, 永山寛, 波田野琢, 中嶋秀人, 鈴木圭輔, 山元敏正, 山野嘉久, 服部信孝, 飯嶋睦. パーキンソン病患者の垂直姿勢の認識が前屈姿勢に及ぼす影響～多施設観察研究～. 第 16 回パーキンソン病・運動障害疾患カンファレンス, 2022.
- 25) ◎三上恭平, 白石眞, 加茂力. COVID-19 環境下における PD および関連疾患患者の外来リハビリテーション受診動態への影響. 第 16 回パーキンソン病・運動障害疾患カンファレンス, 2022.
- 26) ◎水上平祐, 白石眞, 鍋木真弓, 日野栄絵, 鍋木圭, 菊池崇之, 松本博文, 山野嘉久. パーキンソン病患者におけるカルニチン欠乏症の検討. 第 16 回パーキンソン病・運動障害疾患カンファレンス, 2022.
- 27) ◎久米怜奈, 浅井志高, 黒須智彦, 内山修太朗, 曾我海馬, 篠原健介, 曾根正勝. メトホルミン長期投与下に亜急性連合性脊髄変性症を発症した自己免疫性多内分泌症候群の 1 例. 第 23 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 28) ◎萩原悠太. 経口腔超音波の実際と病変評価. 日本超音波医学会 第 34 回関東甲信越地方会学術集会, 2022.
- 29) ◎宮内元樹, 萩原悠太. 慢性内頸動脈閉塞症例における脳 SPECT と総頸動脈左右拡張末期血流速度比の相関に関する検討. 日本超音波医学会 第 34 回関東甲信越地方会学術集会, 2022.
- 30) 吉田泰之, 小野元, 植田敏浩, 村田英俊. 高齢者の未破裂脳動脈瘤に対する開頭クリッピング術. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 31) ◎高梨世子, 櫻井謙三, 柴田宗一郎, 赤須友香利, 鍋木真弓, 飯島直樹, 鍋木圭, 土橋瑤子, 鷹尾直誠, 山野嘉久. 当院での水痘・帯状疱疹ウイルス髄膜炎での機能予後の検討. 第 26 回日本神経感染症学会総会・学術大会, 2022.
- 32) ◎鍋木圭, 櫻井謙三, 鷹尾直誠, 柴田宗一郎, 日野栄絵, 水上平祐, 伊佐早健司, 木村暁夫, 下畑享良, 山野嘉久. 当院における自己免疫性 GFAP アストロサイトパチーの中期的な経時的変化の検討. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022.
- 33) ◎伊佐早健司・櫻井謙三, 柴田宗一郎, 鍋木圭, 赤須友香利, 高桑由宇, 川畑仁人, 山野嘉久. 好酸球性多発血管炎性肉腫による抹消神経障害に対する IL-5 モノクローナル抗体の効果. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022.
- 34) ◎櫻井謙三, 柴田宗一郎, 金子航, 今井健, 伊佐早健司, 山野嘉久. 視神経脊髄炎関連疾患のオンライン診療～当院での事例より～. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022.
- 35) ◎柴田宗一郎, 櫻井謙三, 金子航, 小嶺友香利, 今井健, 伊佐早健司, 山野嘉久. 来院時所見から人工呼吸器管理を予知する因子についての検討. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022.
- 36) ◎山野嘉久. HAM 病態研究の最近の知見と今後の展望. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022.
- 37) ◎櫻井謙三. NMOSD における次世代の治療戦略 ～患者 QoL を次のステージへ～. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022.
- 38) ◎小嶺友香利, 櫻井謙三, 鍋木真弓, 森翔, 山崎和子, 今井健, 伊佐早健司, 森雅亮, 山野嘉久. NMOSD と MCTD を合併した 14 歳女性にサトラリズマブ導入し良好な経過を辿った一例. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022.

- 39) 白石眞, 戸兵雄子, 成田信義, 松本博文, 三宅仁. 職域健診者を対象とした生活習慣病リスクコントロールが無症候性脳虚血病巣に及ぼす影響. 第 59 回日本臨床生理学会総会, 2022.
- 40) ◎高梨世子, 櫻井謙三, 柴田宗一郎, 小嶺友香利, 鍋木真弓, 飯島直樹, 鍋木圭, 土橋瑤子, 鷹尾直誠, 山野嘉久. 当院での水痘・带状疱疹ウイルスによる髄膜炎の臨床的特徴の検討. 第 40 回日本神経治療学会学術集会, 2022.
- 41) ◎秋山久尚, 栗田千尋, 伊佐早健司, 山野嘉久. 抗 CGRP 関連抗体薬の有効性・卒業に関する患者アンケート調査. 第 40 回日本神経治療学会学術集会, 2022.
- 42) ◎鍋木圭, 伊佐早健司, 小嶺友香利, 土橋瑤子, 櫻井謙三, 今井健, 大塚快信, 秋山久尚, 山野嘉久. Loffer 心膜炎, 多発脳梗塞を合併した好酸球増多症候群に対しメボリツマブが有効であった 50 歳女性例. 第 40 回日本神経治療学会学術集会, 2022.
- 43) ◎櫻井謙三, 伊佐早健司, 今井健, 山野嘉久. 視神経脊髄炎における生物学的製剤導入後のステロイド薬減量速度の検討. 第 40 回日本神経治療学会学術集会, 2022.
- 44) ◎秋山久尚. ここまで変化した片頭痛の予防治療. 第 40 回日本神経治療学会学術集会, 2022.
- 45) ◎白石眞, 三上恭平, 加茂晃, 野川茂, 長田高志, 関守信, 永山寛, 中嶋秀人, 山野嘉久. 服部信孝, 飯嶋睦. パーキンソン病患者の前屈姿勢の経過と薬物投与状況について～施設観察研究(中間報告)～. 第 40 回日本神経治療学会学術集会, 2022.
- 46) ◎山野嘉久. 難病領域におけるリアルワールドデータ活用の動向～難病プラットフォームを例に～. 第 40 回日本神経治療学会学術集会, 2022.
- 47) ◎相良康子, 中村仁美, 堀部恵梨佳, 入田和男, 山野嘉久, 渡邊俊樹. ウェブサイト・トラフィック –HTLV-1 ウェブサイトの検証と解析-. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 48) ◎伊佐早健司, 柴田宗一郎, 飯島直樹, 平川経晃, 伊藤歩, 福田隆浩, 佐々木諒, 藤井伸治, 佐藤知雄, 山野嘉久. 成人 T 細胞白血病移植後の神経障害例 2 例の検討. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 49) ◎菅田 謙治, タン ベンジー・ジェックヤン, ホサイン ベラル, ラジブ サミウルラジ, レダ オムニア, 徳永 雅仁, 野村 隼也, 増田 曜章, 佐藤 知雄, 植田 光晴, 宇都宮 與, 山野 嘉久, 佐藤 賢文. HAM 患者末梢血および脳脊髄液のシングルセル解析による HAM 病態解明と疾患サロゲートマーカーの探索研究. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 50) ◎新谷 奈津美, 荒谷 聡子, 八木下 尚子, 山内 淳司, 鷹尾 直誠, 佐藤 知雄, 山野 嘉久. HTLV-1 関連脊髄症(HAM)の神経障害機構の解析. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 51) ◎倉光 球, 石塚 賢治, 久保田 龍二, 佐藤 知雄, 山野 嘉久, 橋倉 悠輝, 梅北 邦彦, 野坂 生郷, 長谷川 寛雄, 三浦 清徳, 宇都宮 與, 高 起良, 相良 康子, 蕎麦田 理英子, 佐竹 正博, 浜口 功. イムノクロマト法による新規 HTLV-1 抗体検査法の性能評価—多施設共同研究. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 52) ◎堀部恵梨佳, 相良康子, 山野嘉久, 内丸薫, 浜口功, 渡邊俊樹. JSPFAD アンケート調査による HTLV-1 水平感染の現状. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 53) ◎鷹尾直誠, 佐藤知雄, 山内淳司, 八木下尚子, 新谷奈津美, 荒谷聡子, 山野嘉久. HAM の排尿障害における臨床症状評価と治療効果判定の標準化スケールの確立. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 54) ◎松浦英治, 野妻智嗣, 田代雄一, 安藤匡宏, 平松有, 樋口雄二郎, 崎山雄介, 橋口昭大, 道園久美子, 東桂子, 松崎敏男, 兒玉大介, 田中正和, 山野嘉久, 久保田龍二, 高嶋博. HAM/TSP の運動障害に対する L-アルギニンの効果を評価する第 2 相臨床試験(特定臨床研究). 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 55) ◎山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の病態生理に基づく治療. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 56) ◎佐藤 知雄, 斎藤 益満, 和田 悠作, 長谷川 寛雄, 松平 崇弘, 今泉 芳孝, 内丸 薫, 渡邊 俊樹, 山野 嘉久. HTLV-1 クロナリティ定量検査 RAISING-CLOVA を用いた ATL 発症リスク評価法の開発. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 57) ◎佐藤知雄. オンライン相談の実際. 世界 HTLV デー記念講演会, 2022.
- 58) 内田将司, 伊藤英道, 梶友紘, 久代裕一郎, 深野崇之, 村田英俊. Trousseau 症候群による脳腫動脈閉塞に対する急性期血栓回収術の検討. 第 38 回 NPO 法人 日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2022.
- 59) ◎池田七海, 中川朋子, 川名部新, 菱田吉明, 中村祐太, 月山秀一, 加納麻弓子, 横田健一, 山野嘉久, 曾根正勝. MMI によるパセドウ病治療中にぶどう膜炎を発症した HAM の 1 例. 第 32 回臨床内分泌代謝 Update, 2022.
- 60) ◎金山俊介, 石川均, 後関利明, 龍井苑子, 秋山久尚, 庄司信行. MRI にて大脳白質に広汎な高信号領域を認め後に膠芽腫と診断された m11778 点変異陽性視神経症の一例. 第 60 回日本神経眼科学会総会, 2022.
- 61) ◎秋山久尚, 伊佐早健司, 山野嘉久. 単眼性視覚障害発作の出現側と反対側に頭痛を生じた網膜片頭痛の一例. 第 60 回日本神経眼科学会総会, 2022.
- 62) ◎伊佐早健司, 櫻井謙三, 鍋木圭, 柳澤俊之, 山野嘉久. prolonged excise test 陽性であった抗体陰性重症筋無力症の一例. 日本臨床神経生理学会 第 52 回学術大会, 2022.

- 63) ◎秋山久尚, 伊佐早健司, 山野嘉久. 単眼性視覚障害側と反対側に頭痛を生じた網膜片頭痛の一例. 第 50 回日本頭痛学会総会, 2022.
- 64) ◎秋山久尚. Telemedicine による頭痛診断の可能性と問題点. 第 50 回日本頭痛学会総会, 2022.
- 65) ◎大熊壮尚. 緊張型頭痛の発症メカニズム. 第 50 回日本頭痛学会総会, 2022.
- 66) ◎秋山久尚, 赤須友香利, 柴田宗一郎, 栗田千尋, 山野嘉久. ヒト化抗 CGRP モノクローナル抗体製剤ガルカネズマブ皮下注の長期的有効性. 第 50 回日本頭痛学会総会, 2022.
- 67) ◎秋山久尚, 山野嘉久. リアルワールドにおけるラスミジタンコハク酸塩の有効性と安全性. 第 50 回日本頭痛学会総会, 2022.
- 68) ◎山野嘉久. 難病領域におけるレジストリ活用の動向 ～難病プラットフォームについて～. 第 43 回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.
- 69) 小野元, 吉田泰之, 大坪治喜, 植田敏浩, 村田英俊. 再発を繰り返す慢性硬膜下血腫への中硬膜動脈閉塞術例の検討. 第 46 回日本脳神経外傷学会, 2023.
- 70) ◎三宅茂太, 石川駿, 中居康展, 甘利和光, 山本良央, 天野悠, 上村直哉, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎. 発症前 mRS2-3 の患者に対する急性期再還流療法の検討
KNET registry (多施設共同研究) 2313 症例のサブ解析. STROKE2023 合同シンポジウム, 2023.
- 71) 小野元, 萩原悠太, 山野嘉久, 長谷川泰弘. 一都市全体の Quality Control による脳卒中搬送体制の最適化: 川崎脳卒中ネットワーク (KNS) の経験から. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 72) ◎高石智, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎, 津本智幸. 脳底動脈閉塞に対する再開通療法における神経学的重症度と時間が転帰に及ぼす影響: K-NET registry サブ解析. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 73) ◎大坪治喜, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 壺井祥史, 山本良央, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 井島大輔, 各務宏, 伊藤英道, 小野寺英孝. 血栓回収療法の初期画像診断として CT あるいは MRI どちらが有用か: K-NET 登録研究サブ解析. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 74) ◎山本良央, 上村直哉, 石川駿, 三宅茂太, 天野悠, 甘利和光, 中居康展, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 城倉健. 脳底動脈閉塞に対する血栓回収手技の比較: KNET 研究のサブ解析. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 75) ◎山崎英一, 森本将史, 岩崎充宏, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎, 寺田友昭, 森島啓之. NIHSS < 6 の軽症急性期脳梗塞に対する血栓回収療法の治療成績: K-NET registry sub-analysis. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 76) ◎植田敏浩, 高石智, 吉江智秀, 臼杵乃理子, 辰野健太郎, 大坪治喜, 飯島直樹, 荒賀崇. 症候性頭蓋内動脈狭窄症に対する PTA/stenting の周術期合併症と再狭窄に関連する因子の検討. STROKE2023 合同シンポジウム, 2023.
- 77) ◎山下雄輔, 川越さおり, 伊佐早健司, 清水高弘, 山野嘉久, 内田将司, 伊藤英道, 村田英俊. 院内発症脳卒中对策チーム (iSAT) の活動と看護師教育について. STROKE2023 看護シンポジウム, 2023.
- 78) ◎臼杵乃理子, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥文, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎, 津本智幸. 血栓回収療法時代における tPA 静注療法の治療成績: K-NET registry サブ解析. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 79) ◎田口博基, 長谷川泰弘, 玉川聡, 島浩史, 丹羽義和, 子安英樹, 渡邊雄幸, 山下晃平, 島崎賢治, 日暮雅一. 歩いて受診する脳卒中患者の地域トリアージに関する新たな試み. 第 52 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 2023.
- 80) ◎赤松伸太郎, 植田敏浩, 吉江智秀, 臼杵乃理子, 高石智, 辰野健太郎, 大坪治喜, 飯島直樹, 萩原悠太, 山野嘉久. 当院におけるプラスグレールを含めた抗血小板薬併用療法の使用経験. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 81) ◎石井誠也, 清水高弘, 深野崇之, 萩原悠太, 栗田千尋, 星野俊, 秋山久尚, 山野嘉久. 担癌患者における脳梗塞発症後の再発予防療法についての検討. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 82) ◎植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥文, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎, 津本智幸. 脳血栓回収療法の適応外及びハイリスク例に対する治療の現状: 神奈川県登録研究 (K-NET) による解析結果. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 83) ◎伊佐早健司, 清水高弘, 萩原悠太, 深野崇之, 栗田千尋, 星野俊, 秋山久尚, 山野嘉久. 血管炎による脳梗塞症例の検討. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 84) ◎秋山久尚, 星野俊, 栗田千尋, 深野崇之, 萩原悠太, 清水高弘, 山野嘉久. 直接経口抗凝固薬 (under dose) 投与例による脳出血の検討. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.

- 85) ◎辰野健太郎, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎, 寺田友昭, 森嶋啓之. ASPECTS 低値の患者に対する脳血栓回収療法における年齢の及ぼす影響: KNET 登録研究サブ解析. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 86) ◎吉江智秀, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥文, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎, 津本智幸, 森嶋啓之, 加賀保行, K-NET 研究グループ:13. MeVO に対する血管内治療と t-PA 静注単独療法の比較—KNET 全期間でのマッチング解析—. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 87) ◎石川駿, 三宅茂太, 中居康展, 上村直哉, 天野悠, 山本良央, 甘利和光, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎. 時間帯による急性期脳梗塞治療成績の検討—K-NET Registry のサブ解析—. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 88) ◎大内崇弘, 眞木二葉, 杉江正行, 鈴木祐, 水越元気, 東村益孝, 山本航, 山谷昌之, 福永眞治, 長谷川泰弘, 笹沼仁一, 木村和美. 皮質下出血後から亜急性の進行性意識障害を認め、出血の再発、白質脳症を呈した血管内リンパ腫の一例. 第 52 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 2023.
- 89) ◎阿部恵, 矢口裕章, 工藤彰彦, 長井梓, 白井慎一, 岩田育子, 松島理明, 中村直子, 伊佐早健司, 赤須 友香利, 柴田宗一郎, 山野嘉久, 芦田真士, 笠井高士, 木村暁夫, 下畑享良, 矢部一郎. Cerebellar ataxia patients with anti-Sez612 antibody in Japan. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.

② 国際学会

- 1) Yamauchi J, Sato T, Yagishita N, Araya N, Nakagawa M, Matsuura E, Tsuboi Y, Tamaki K, Sakima H, Ishihara S, Araujo A, Jacobson S, Grassi MFR, Galvão-Castro B, Bland M, Taylor GP, Martin F, Yamano Y.. A randomized controlled trial on corticosteroid therapy for HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis in Japan (HAMLET-P trial). 20th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses(HTLV2022), 2022.
- 2) Sato T, Yagishita N, Araya N, Yamauchi J, Takahashi K, Kunitomo Y, Hasegawa Y, Higashikuse Y, Miyachi K, Yamano Y.. Evaluation of quantification method of HTLV-1 proviral load in white blood cells using whole blood. 20th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses(HTLV22), 2022.
- 3) ◎Mitsuhashi S. Long-read sequencing in Neurology. 4th Japan-UK Neuroscience Symposium 2022., 2022.
- 4) Yoshie T, Ueda T, Takeuchi M, Morimoto M, Tsuboi Y, Yamamoto R, Kaku S, Ayabe J, Akiyama T, Ishima D, Hasegawa Y and K-NET Registry Investigators. Is Endovascular Thrombectomy More Effective Than IV-tPA For Distal Vessel Occlusions? Propensity Score-matched Analysis From K-net Registry. International Stroke Conference 2023, 2023.
- 5) Ueda T, Takeuchi M, Morimoto M, Tsuboi Y, Yamamoto R, Kaku S, Ayabe J, Akiyama T, Ishima D, Yoshie T, Hasegawa Y and K-NET Registry Investigators. Primary Results Of Mechanical Thrombectomy For Acute Ischemic Stroke In Clinical Practice: K-net Registry. International Stroke Conference 2023, 2023.
- 6) Ohtsubo H, Ueda T, Hasegawa Y, Takeuchi M, Morimoto M, Tsuboi Y, Yamamoto R, Kaku S, Ayabe J, Akiyama T, Ishima D and K-NET Registry Investigators. Selection Of Magnetic Resonance Imaging Or Computed Tomography Before Mechanical Thrombectomy For Acute Ischemic Stroke. International Stroke Conference 2023, 2023.
- 7) Tanaka K, Miwa K, Yoshimura S, Kamiyama K, Yagita Y, Nagakane Y, Hoshino H, Terasaki T, Okada Y, Yakushiji Y, Takahashi S, Ueda T, Hasegawa Y, Shiozawa M, Sasaki M, Kudo K, Tanaka J, Nishihara M, Yamaguchi Y, Fujita K, Honda Y, Kawano H, Ide T, Yoshimoto T, Ihara M, Koga M, Hirano T and Toyoda K. Cerebral Small Vessel Disease Burden For Bleeding Risk During Antithrombotic Therapy -BAT2-. International Stroke Conference 2023, 2023.

③ その他

- 1) ◎白石眞, 三上恭平, 加茂晃, 常深泰司, 加茂力, 大熊泰之, 藤本健一, 横田優樹, 野川茂, 長田高志, 関守信, 永山寛, 波田野琢, 中嶋秀人, 鈴木圭輔, 山元敏正, 山野嘉久, 服部信孝, 飯嶋睦. パーキンソン病患者の垂直姿勢の認識が前屈姿勢の長期経過に及ぼす影響～多施設観察研究(中間報告)～. カテコールアミンと神経疾患研究会 2022, 2022.
- 2) ◎櫻井謙三. 治療からみる NMOSD. 田邊三菱製薬社内勉強会, 2022.
- 3) ◎清水高弘. 脳血栓回収療法の川崎市の現状について. 第 6 回神奈川脳血栓回収療法セミナー, 2022.
- 4) ◎吉江智秀. 文献レビュー. 第 6 回神奈川脳血栓回収療法セミナー, 2022.
- 5) ◎植田敏浩. K-NET 登録研究からの報告. 第 6 回神奈川脳血栓回収療法セミナー, 2022.
- 6) ◎清水高弘. 虚血性脳血管障害におけるエフィエントの期待される効果と今後の展望について. Brain Heart Conference, 2022.

- 7) ◎秋山久尚. 日常生活支障のない世界を実現するための CGRP 関連抗体薬. Migraine Web セミナー, 2022.
- 8) ◎秋山久尚. CGRP as the target of new migraine therapies ～エムガルティの使用経験～. Migraine Web Seminar, 2022.
- 9) ◎今井健. COVID-19 ワクチン接種後に横断性脊髄炎を発症した 5 例. 神奈川県東部神経免疫セミナーⅧ, 2022.
- 10) ◎秋山久尚. CGRP as the target of new migraine therapies ～エムガルティの使用経験～. Tokyo Migraine Conference 2022, 2022.
- 11) ◎白石眞. 進行性パーキンソン病において LCIG 治療を成功に導く多職種連携. 第 3 回勝浦 LCIG 研究会, 2022.
- 12) ◎山野嘉久. 難病プラットフォームの確立と展開. LHS 研究所設立一周年記念プログラム, 2022.
- 13) ◎秋山久尚. Targeting CGRP for the Prevention of Migraine. 片頭痛治療 Up To Date Web セミナー, 2022.
- 14) ◎秋山久尚. 片頭痛患者の生活支障と社会的損失を知る. 患者さん目線の片頭痛治療 up to date, 2022.
- 15) ◎秋山久尚. 閃輝暗点を伴う片頭痛～抗 CGRP 製剤を踏まえて～. joint Web Seminar～脳神経内科 脳神経外科 眼科で診療を考える～, 2022.
- 16) ◎櫻井謙三. well-being を目指した重症筋無力症の治療戦略. MG/NMOSD 治療の最前線～実臨床とエビデンスから学ぶ C5 阻害薬への期待～, 2022.
- 17) ◎秋山久尚. Targeting CGRP for the Prevention of Migraine. 片頭痛治療 Up To Date, 2022.
- 18) ◎秋山久尚. Targeting CGRP for the Prevention of Migraine. 本庄市児玉郡医師会学術講演会, 2022.
- 19) ◎秋山久尚. CGRP as the target of new migraine therapies ～エムガルティの使用経験～. Migraine Web Seminar, 2022.
- 20) ◎山野嘉久. リサーチクエストの作り方. 第 2 回臨床研究セミナー, 2022.
- 21) ◎秋山久尚. CGRP as the target of new migraine therapies ～エムガルティの使用経験～. Migraine Conference in Kanagawa, 2022.
- 22) ◎鈴木祐. 抗 CGRP 製剤への期待と実態. Migraine Expert Meeting, 2022.
- 23) ◎秋山久尚. Next Generation Acute Migraine Therapies. 片頭痛治療 Up to Date, 2022.
- 24) ◎萩原悠太. 超音波専門医の曲芸脳神経超音波. 第 85 回内科合同勉強会, 2022.
- 25) ◎櫻井謙三. 重症筋無力症ってどんな病気？将来を見据えた診療の実践. 重症筋無力症オンライン市民公開講座 2022 年第 2 回「最新の診療の話」, 2022.
- 26) ◎長谷川泰弘. 「歩いて受信する脳卒中」の連携医療 ～神奈川県脳循環法対策推進計画における位置づけ～. Stroke update in Kanagawa, 2022.
- 27) ◎山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症. 第 1 回神経免疫疾患診療医育成セミナー, 2022.
- 28) 伊佐早健司, 篠原健介. 抗 CGRP 製剤への期待 ―Well Being を意識した出口戦略―. 片頭痛診療の再考 ―若手と考える抗 CGRP 製剤―, 2022.
- 29) ◎秋山久尚. Galcanezumab (Emgality) as the groundbreaking migraine prevention drug. 頭痛 Web セミナー, 2022.
- 30) ◎山野嘉久. HTLV-1 の基礎知識とキャリア妊産婦・患者への支援. 令和 4 年度山梨県 HTLV-1 母子感染予防対策研修会, 2022.
- 31) ◎秋山久尚. 片頭痛患者の疾病負担と患者さんが望む治療. 新しい片頭痛治療 ―効果的な IC と自己注射導入の実践―, 2022.
- 32) ◎秋山久尚. The migraine preventive therapy with CGRP drug (Emgality) promises relief. Migraine Web Conference in Kanagawa, 2022.
- 33) ◎櫻井謙三. 頭痛診療のパラダイムシフト～つくるな、頭痛難民！～. 第 436 回港北区医師会学術講演会, 2022.
- 34) ◎櫻井謙三. NMOSD 治療における SDM と治療の実践. B cell Therapy Seminar, 2022.
- 35) ◎櫻井謙三. 患者ニーズから考える MS の境界線へのアプローチ. 令和の MS 診断・治療を学ぶ会, 2022.
- 36) ◎秋山久尚. 片頭痛患者の日常生活の支障はどう変わったか？ ～1year CGRP Clinical Experience～. Emgality Summer Web Series, 2022.
- 37) ◎櫻井謙三. 重症筋無力症の治療戦略 2022 ～新ガイドラインからみえる近未来の治療～. 日本病院薬剤師会関東ブロック 第 52 回学術大会 スポンサーシップセッション, 2022.
- 38) ◎秋山久尚. 革新的な進化を遂げた片頭痛治療. 地域で診る片頭痛 ～片頭痛のあたりまえを変えていこう～, 2022.
- 39) ◎秋山久尚. “我慢があたりまえ”を変えたガルカネズマブ（エムガルティ）. Migraine National Web, 2022.
- 40) ◎白石眞. パーキンソン病診療における適切な評価の重要性 ～科学的根拠と実際～. Parkinson's Disease Web Seminar, 2022.
- 41) ◎櫻井謙三. 視神経脊髄炎の早期診断の意義 ～視神経炎は人生の分かれ道？～. 第 37 回真鶴セミナー 共催セミナー, 2022.

- 42) ◎櫻井謙三. MS と就労～脳萎縮と認知機能を中心に～. TOKYO MS NETWORK, 2022.
- 43) ◎大熊壮尚. MG 治療の現状課題と今後への期待. MG Forum in Kawasaki, 2022.
- 44) ◎櫻井謙三. 使用経験から考えるウィフガートの使い方. MG Forum in Kawasaki, 2022.
- 45) ◎鍋木圭. 重度心奇形を有し脳塞栓症を発症した少年に対するゲノム解析によるアプローチ. Young Neurologist WEB セミナー, 2022.
- 46) ◎白石眞. 高齢化社会における進行期パーキンソン病診療のドパミンアゴニストの位置づけ. パーキンソン病 Web 連続セミナー in 神奈川 ～ドパミンアゴニストを再考する～, 2022.
- 47) ◎櫻井謙三. 当院の処方例から考えるケシンプタの立ち位置. MS Expert Meeting, 2022.
- 48) ◎清水高弘. 見逃してはならない頭痛～オタワルール～. 健康寿命の延伸を図る くも膜下出血セミナー in 神奈川, 2022.
- 49) ◎鍋木圭. 内臓逆位を有し塞栓源不明脳梗塞症を発症した 16 歳男性例におけるゲノム解析. 第 432 回 神奈川神経談話会, 2022.
- 50) ◎櫻井謙三. 神経免疫疾患における最新の治療戦略 2022. 第 432 回神奈川神経談話会, 2022.
- 51) ◎秋山久尚. 抗 CGRP 抗体薬の卒業、その後はどうなる. 頭痛診療の Tips Series, 2022.
- 52) ◎櫻井謙三. 頭痛難民ゼロの地域へ ～予防療法の実践～. 頭痛診療の Tips Series, 2022.
- 53) ◎山野嘉久. 脳神経内科領域における総合的な取り組みを目指して ～急性期疾患から神経難病診療の現状と展望～. 神奈川県内科医学会 第 46 回臨床医学研修講座, 2022.
- 54) ◎山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) 診療ガイドライン作成の実際について. 第 24 回診療ガイドライン作成に関する意見交換会「難治性疾患を対象とした診療ガイドライン作成における工夫と課題」, 2022.
- 55) ◎秋山久尚. エムガルティの登場で片頭痛患者の日常生活への支障は変わったか?. 片頭痛治療を語り尽くす会 on Web, 2022.
- 56) ◎秋山久尚. ここまで変わった片頭痛の予防療法. 知ってもらいたい痛み対応の新たな選択肢, 2022.
- 57) ◎櫻井謙三. 重症筋無力症の治療展望 ～医薬と IT の融合で次のステージへ～. 重症筋無力症 Update Web 講演会, 2022.
- 58) ◎白石眞. みんなで診ていくパーキンソン病診療とは. 宮前区医師会学術講演会 パーキンソンパンデミック時代のかかりつけ医の役割, 2022.
- 59) ◎櫻井謙三. 片頭痛治療の意義と実践. Pharmacist Web Seminar ～片頭痛のあたりまえを変えていこう～, 2022.
- 60) ◎秋山久尚. ここまで進歩した片頭痛治療. 井田病院 院内研修会, 2022.
- 61) ◎伊佐早健司. 当院における SCIG 導入の経験. 実臨床から考える、現場で使える CIDP Seminar, 2022.
- 62) ◎櫻井謙三. 実践！明日からできる患者のために最新の片頭痛診療. 神経内科で遭遇する痛みについて考える会, 2022.
- 63) ◎白石眞. みんなで取り組むパーキンソン病診療とは ～神奈川県川崎市北部医療圏での活動～. 第 103 回広島市南区医師会講演会 ～パーキンソン病診療の地域連携を深める会～, 2022.
- 64) ◎白石眞. LCIG 治療における院外連携について. 長野県 LCIG 講演会, 2022.
- 65) ◎秋山久尚. エムガルティ自己注射について考える. Central Japan Migraine Web Conference, 2022.
- 66) ◎白石眞. パーキンソン病は消化器疾患でもある！. 川崎北部医療連携セミナー, 2022.
- 67) ◎櫻井謙三. 抗体陰性 MG の診断と治療の実際. gMU Update Seminar, 2022.
- 68) ◎秋山久尚. ここまで変わった片頭痛の予防療法. 片頭痛治療 UP to DATE, 2022.
- 69) ◎長谷川泰弘. 歩いて受診する脳卒中の初療と連携 ～Zero Preventable Disabilities～. 令和 4 年度地域医療構想普及促進事業 「神奈川県循環器病対策推進計画」に基づく脳血管疾患における「病院・診療所間の連携強化」に係る WEB 研修, 2022.
- 70) ◎鍋木真弓. 治療強化しているにも関わらず画像上再発を繰り返した症例. MS Case Conference, 2022.
- 71) ◎秋山久尚. 片頭痛急性期治療薬の新たな選択肢 ～どうする？レイボアの使い方～. REYVOW® National Web, 2022.
- 72) ◎櫻井謙三. オンライン診察による神経免疫専門外来の可能性 ～当院の試みを踏まえて～. 神経内科領域におけるオンライン診療の現状と未来, 2022.
- 73) ◎山野嘉久. 医療薬学持論. 東京大学大学院薬学系研究科講義, 2022.
- 74) ◎秋山久尚. ここまで変わった片頭痛の治療方法. 第 35 回こうかんクリニカルカンファレンス, 2022.
- 75) ◎櫻井謙三. 分子標的薬を武装しよう ～すべては患者 QoL のために～. 西三河 Neurologists' meeting, 2022.
- 76) ◎櫻井謙三. MS 診療における疲労と QOL 改善. MS Conference in Kanagawa, 2022.
- 77) ◎櫻井謙三. 我々はなぜ MG 治療をするのか？ ～真の治療目標に到達するために～. MG 治療の最前線 2022, 2022.
- 78) ◎櫻井謙三. MS の個別治療戦略の盲点 ～De-escalation～. MS Week, 2022.
- 79) ◎櫻井謙三. MS 患者の障害進行を精緻に捉える (2) —オンライン診療・デジタルツールの活用—. MS seminar in 北海道, 2022.
- 80) 伊佐早健司, 鹿島悟. 片頭痛診療を再考する. Migraine Web Forum, 2022.

- 81) ◎深野崇之. 最新の急性期脳梗塞治療について. 地域医療連携 WEB セミナー, 2022.
- 82) ◎清水高弘. 虚血性脳血管障害におけるエフィエントの期待される効果と今後の展望について. Brain Heart Conference, 2022.
- 83) ◎今井健. 多発性硬化症の早期診断の重要性、多発性硬化症患者の COVID19 ワクチン接種について. これからの神経疾患を考える In Kanagawa, 2022.
- 84) ◎櫻井謙三. 分子標的薬を武装しよう ～すべては患者 QoL のために～. Neurologists' interactive meeting gMG 治療の新展開, 2022.
- 85) ◎秋山久尚. 患者さんの片頭痛発作の不安がない思い描く日常を目指して. Emgality & REYVOW Executive Speaker Academy, 2022.
- 86) ◎秋山久尚. 脳卒中予防の実践 ～脳卒中治療ガイドライン 2021 から～. 第 236 回都筑区医師会学術講演会, 2022.
- 87) ◎秋山久尚. ここまで変わった片頭痛の治療方法. 片頭痛治療 Up To Date -患者さんの QOL 向上を考える-, 2022.
- 88) ◎秋山久尚. パーキンソン病の歴史から治療まで ～ハルロピテプの有用性～. 協和キリン株式会社パーキンソン病講演会, 2022.
- 89) ◎山野嘉久. 医師主導治験. 愛媛大学大学院医学系研究科臨床薬理学講義, 2023.
- 90) ◎櫻井謙三. 眼科の先生に知ってほしい脳神経内科からみた NMOSD の治療. PLUS CHUGAI Web 講演会, 2023.
- 91) ◎櫻井謙三. 明日から役立つ MG 診療 ～真の治療目標を目指して～. mikawa 神経免疫 MG セミナー, 2023.
- 92) ◎山野嘉久. HTLV-1 の基礎知識と HAM について ～HTLV-1 陽性と判明した妊婦への説明例も含めて～. 令和 4 年度 HTLV-1 対策講演会, 2023.
- 93) ◎山野嘉久. HTLV-1 の基礎知識と相談支援について. 北海道 HTLV-1 母子感染予防対策研修会, 2023.
- 94) ◎萩原悠太. 脳卒中診療における治療と仕事の両立支援の重要性. Frontiers in Stroke Web Seminar, 2023.
- 95) ◎櫻井謙三. 神経免疫疾患の早期診断の意義 ～眼科医の役割と脳神経内科の義務～. Novartis Web Symposium, 2023.
- 96) ◎櫻井謙三. NMOSD の治療戦略 ～分子標的薬とユプリズナの立ち位置～. NMOSD リスクマネジメントセミナー, 2023.
- 97) ◎秋山久尚. 片頭痛の診断から最新治療まで. REYVOW® Web Seminar, 2023.
- 98) ◎松本博文. 神経免疫疾患における Selective PE の可能性. 第 4 回神経免疫疾患のアフレシス療法を考える会, 2023.
- 99) ◎山野嘉久. HTLV-1 母子感染の予防と対策. 令和 4 年度性と健康の相談支援者研修, 2023.
- 100) ◎櫻井謙三. NMOSD 治療の考え方. Latest Trends in Neuroimmune Therapy for Stroke Specialists, 2023.
- 101) ◎秋山久尚. ここまで進化した片頭痛の予防療法. 片頭痛診療 UP to DATE, 2023.
- 102) ◎櫻井謙三. MG における抗補体薬 ～ソリリス®の使用経験とユルトミリス®への期待～. ユルトミリス®MG 特別講演会, 2023.
- 103) ◎伊佐早健司. ALS 治療と地域連携. 川崎北部 ALS 地域連携会, 2023.
- 104) ◎櫻井謙三. NMOSD における次世代の治療戦略 ～個別化医療を提供するために～. Meet the Expert 1, 2023.
- 105) ◎秋山久尚. ここまで変わった片頭痛の治療法. 足柄上内科医会学術講演会, 2023.
- 106) ◎櫻井謙三. 分子標的薬を武装しよう ～すべては患者の QoL のために～. gMG update 講演会, 2023.
- 107) ◎櫻井謙三. 重症筋無力症の治療. MG 首都圏コンソーシアム 2023, 2023.
- 108) ◎櫻井謙三. テクフィデラの有効性を考える. TECFIDERA National Symposium, 2023.
- 109) ◎山野嘉久. HAM ならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂. 令和 4 年度厚生労働省&AMED 支援課題 HTLV-1 関連疾患研究領域研究班合同発表会, 2023.
- 110) ◎山野嘉久. 新規 HTLV-1 感染モデルを用いた HAM の発症予防法・治療法の開発. 令和 4 年度厚生労働省&AMED 支援課題 HTLV-1 関連疾患研究領域研究班合同発表会, 2023.
- 111) ◎山野嘉久. HAM・HTLV-1 陽性難治性疾患の患者レジストリ活用によるエビデンス創出. 令和 4 年度厚生労働省&AMED 支援課題 HTLV-1 関連疾患研究領域研究班合同発表会, 2023.
- 112) ◎秋山久尚. 急性期治療について考える. Migraine Area Speakers Academy in YOKOHAMA, 2023.
- 113) ◎櫻井謙三. NMOSD における次世代の個別化医療. NMOSD Web Seminar, 2023.
- 114) ◎秋山久尚. ここまで変わった片頭痛の治療法. 片頭痛診療 UP to DATE, 2023.
- 115) ◎櫻井謙三. 実臨床におけるソリリス®の有効性と安全性のエビデンス. Believe in Relapse-free as a treatment goal for NMOSD, 2023.
- 116) 櫻井謙三, 鈴木祐, 柴田宗一郎. 片頭痛診療を再考する. Migraine Web Forum, 2023.
- 117) ◎秋山久尚. 大きく様変わりした片頭痛の予防療法. Emgality Web Seminar, 2023.
- 118) ◎櫻井謙三. MG 治療の目線合わせ ～Gap の均てん化を目指して～. MG Clinical Practice Web セミナー 2023, 2023.
- 119) ◎眞木二葉. パーキンソン病に対する集束超音波治療. パーキンソン病診療地域医療連携講演会, 2023.
- 120) ◎水上平祐. 当院で経験した抗 IgLON5 抗体関連疾患の症例. パーキンソン病診療地域医療連携講演会, 2023.

- 121) ◎櫻井謙三. 脳神経内科医から診る NMOSD ～視神経炎が人生の分岐点～. Joint Meeting on NMOSD in Chiba, 2023.
- 122) 鹿島悟, 田中啓太, 荒賀崇. パーキンソン病患者さんが併発する睡眠障害を考える. 第2回 Young Neurologist Conference, 2023.
- 123) ◎櫻井謙三. 初発後にケシンプタを導入した EDSS0 の 20 歳女性. MS Expert Clinical Conference, 2023.
- 124) ◎白石眞. パーキンソン病におけるオンライン診療のあり方
ラザジリン処方期待できること (自験例も含めて). アジレクト錠 4 周年記念 Webinar, 2023.
- 125) ◎白石眞. パーキンソン病治療におけるパラダイムシフト ～高齢患者を踏まえて～. ノウリアスト Daytime Live Webinar, 2023.
- 126) 山野嘉久. これからの難病医療と産学連携. RDD medU-net フォーラム, 2023.
- 127) ◎山野嘉久. 患者レジストリを活用した医療イノベーションへの挑戦 ～治療そして予防まで～. 令和4年度第3回聖マリア病院特別講演会, 2023.
- 128) ◎秋山久尚. 大きく様変わりした片頭痛の予防療法. Tokai Migraine Conference, 2023.
- 129) ◎櫻井謙三. 神経免疫領域における分子標的薬のこれから -MS の個別化治療と MG の治療展望-. 神経免疫エキスパート講演会, 2023.
- 130) ◎櫻井謙三. 実践! 明日からできる患者中心の MG 治療戦略 2023. 函館 MG セミナー, 2023.
- 131) ◎秋山久尚. ここまで変わった片頭痛の治療法. 片頭痛診療 Web セミナー, 2023.

		和 文	英 文
著 書		4	
論 文	原著	2	21
	解説又は総説	13	1
	症例報告	2	1
	その他		
学会発表	国内学会	88	1
	国際学会		7
	その他	131	

内科学（血液・腫瘍内科）

著書

- 1) 新井文子. 血球貪食症候群、血球貪食性リンパ組織球症 今日の治療指針 2023 2023;:668.
- 2) 上村 悠、平川経見. 慢性活動性 EB ウイルス病、EB ウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症 慢性活動性 EB ウイルス病とその類縁疾患の診療ガイドライン 2023 2023;:10-42.
- 3) 安井 寛. ヒト精巢上体蛋白 4/TFPI2 臨床検査データブック 2023-2024 2023;:678-680.
- 4) 安井 寛, 今井浩三. フェリチン/血清アミロイド A 蛋白/ α 1-酸性糖蛋白/APR スコア/ヘモペキシン/塩基性フェトプロテイン/CA19-9/DU-PAN-2/SPAN-1 抗原/NCC-ST-439/サイトケラチン 19 フラグメント/SCC 抗原/神経特異エノラーゼ/CA15-3/BCA225/エストロゲンレセプター/プロゲステロンレセプター/CA125/シアリル Tn 抗原/CA72-4/ヒトパピローマウイルス DNA 臨床検査データブック 2023-2024 2023;:140-684.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 齊木祐輔, 神野正敏, 新井文子. 消化管悪性リンパ腫治療における消化管関連合併症の検討 -びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫を中心に-. 日本腹部救急医学会雑誌, 2023; 43(3): 641-646.
- 2) 大橋彩香, 上村 悠, 新井文子. Epstein-Barr Virus による T,NK 細胞の腫瘍化のメカニズム. 日本臨牀, 2023;81(増刊3): 107-111.

② その他

- 1) 新井文子. 慢性活動性 EB ウイルス病の診断と治療の進歩. 血液内科, 2022;85(3): 294-297.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Oshima K, Yoshimori M, Ohashi A, Nishio M, Shimizu N, Arai A. Simvastatin Induces Anti-Tumor Effects on Systemic CAEBV In Vitro and In Vivo. Journal of St. Marianna University, 2022;13(2): in press.
- 2) Ohashi A, Uemura Y, Yoshimori M, Wada N, Imadome K, Yudo K, Koyama T, Shimizu N, Nishio M, Arai A. The Plasma Level of Interleukin- 1β Can Be a Biomarker of Angiopathy in Systemic Chronic Active Epstein-Barr Virus Infection. Front Microbiol, 2022;13: doi: 10.3389/fmicb.2022.874998.
- 3) Yamamoto M, Sato M, Onishi Y, Sasahara Y, Sano H, Masuko M, Nakamae H, Matsuoka KI, Ara T, Washio K, Onizuka M, Watanabe K, Takahashi Y, Hirakawa T, Nishio M, Sakashita C, Kobayashi T, Sawada A, Ichinohe T, Fukuda T, Hashii Y, Atsuta Y, Arai A. Registry data analysis of hematopoietic stem cell transplantation on systemic chronic active Epstein-Barr virus infection patients in Japan. American journal of hematology, 2022;97(6): 780-790.
- 4) Uemura Y, Ohashi A, Yoshimori M, Nishio M, Hirakawa T, Shimizu N, Wada N, Imadome K, Arai A. Plasma interferon- γ concentration: a potential biomarker of disease activity of systemic chronic active Epstein-Barr virus infection. Frontiers in Virology, 2022;doi:10.3389/fviro.2022.2:~999929.
- 5) Sakai H, Miura I, Arai A. Quantitative evaluation of treatment response to lenalidomide by applying fluorescence in situ hybridization for peripheral blood granulocytes in a patient with 5q- syndrome. J Clin Exp Hematop, 2022;62(3): 158-163.
- 6) Miyazaki K, Sakai R, Iwaki N, Yamamoto G, Murayama K, Nishikori M, Sunami K, Yoshida I, Yano H, Takahashi N, Okamoto A, Munemoto S, Sawazaki A, Suehiro Y, Fukuhara N, Wake A, Arai A, Masaki Y, Toyama K, Yokoyama A, Tsunemine H, Hasegawa Y, Matsumoto K, Yamada T, Nishimura Y, Tamaru S, Asano N, Miyawaki K, Izutsu K, Kinoshita T, Suzuki R, Ohshima K, Kato K, Katayama N, Yamaguchi M. Five-year follow-up of a phase II study of DA-EPOCH-R with high-dose MTX in CD5-positive DLBCL. Cancer Sci, 2023;: doi: 10.1111/cas.15784.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎伊佐早健司, 柴田宗一郎, 飯島直樹, 平川経見, 伊藤歩, 西村直, 福田隆浩, 佐々木諒, 藤井伸治, 佐藤知雄, 山野嘉久. 成人 T 細胞白血病移植後の神経障害例 2 例の検討. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 2) 近藤千雅, 八木麻衣子, 笠原西介, 塩尻智恵子, 佐野文明. 複数回入院し化学療法を行なった造血器腫瘍患者の身体機能および QOL の経過. 第 27 回日本緩和医療学会学術大会, 2022.

- 3) 四柳敬之, 富田直人, 齊木佑輔, 内田晶子, 上村 悠, 鈴木義則, 平川経晃, 加藤雅之, 新井文子. MALT リンパ腫白血化の1例. 第17回日本血液学会関東甲信越地方会, 2022.
 - 4) 尚原弘和, 内田晶子, 齊木佑輔, 上村 悠, 鈴木義則, 平川経晃, 富田直人, 加藤雅之, 新井文子. ギルテリチニブで寛解を維持したFLT3-ITD 変異陽性難治性急性前骨髄球性白血病. 第17回日本血液学会関東甲信越地方会, 2022.
 - 5) ©伊佐早健司, 柴田宗一郎, 飯島直樹, 平川経晃, 伊藤歩, 福田隆浩, 佐々木諒, 藤井伸治, 佐藤知雄, 山野嘉久. 成人T細胞白血病移植後の神経障害例2例の検討. 第8回日本HTLV-1学会学術集会, 2022.
 - 6) 郷原佑太, 西田皓平, 角田哲人, 棚橋淳子, 齋木祐輔, 玉井勇人, 峯下昌道. ニューモシスチス肺炎を契機に成人T細胞白血病の診断に至った一例. 第683回日本内科学会関東地方会, 2022.
 - 7) 井上靖之, 上村悠, 小杉成樹, 神野正敏, 佐野文明. HLA 半合致同種移植後、FK506 血中濃度調節が困難であったAML 合併 Shwachman-Diamond 症候群成人例. 第45回日本造血・免疫細胞学会, 2023.
 - 8) 上村悠, 大島久美, 伏屋愛加, 細貝茜, 大橋彩香, 神野正敏, 新井文子. ペグフィルグラスチム投与後の末梢血幹細胞移植ドナーに発症した大動脈炎. 第45回日本造血・免疫細胞学会, 2023.
 - 9) 鈴木黎, 佐野文明, 齊木祐輔, 上村悠, 大島久美, 細貝茜, 大橋彩香, 辻村浩司, 小島尚美, 清水則夫, 今留謙一, 新井文子. Alemtuzumab を用いた HLA 半合致造血幹細胞移植が奏効した成人発症慢性活動性EBウイルス病. 第45回日本造血・免疫細胞学会, 2023.
 - 10) 鈴木黎, 佐野文明, 齊木祐輔, 上村悠, 大島久美, 細貝茜, 大橋彩香, 辻村浩司, 小島尚美, 清水則夫, 今留謙一, 新井文子. Alemtuzumab を用いた HLA 半合致造血幹細胞移植が奏効した成人発症慢性活動性EBウイルス病. 第45回日本造血・免疫細胞学会, 2023.
 - 11) 伏屋愛加, 上村 悠, 神野正敏, 安井 寛, 中島香緒里, 鈴木 黎, 鈴木義則, 富田直人, 加藤雅之, 佐野文明, 小池淳樹, 新井文子. アザシチジン・ベネトクラクス療法が奏功した皮下腫瘤合併急性骨髄単球性白血病. 第18回日本血液学会関東甲信越地方会, 2023.
 - 12) 南川愛莉, 熊木優喜, 吉森真由美, 福田笑夏, 新井文子, 西尾美和子. 慢性活動性EBウイルス病(CAEBV)患者由来iPS細胞の樹立と評価. 第22回日本再生医療学会総会, 2023.
 - 13) Ayaka Ohashi, Morito Kurata, Ayako Arai. The Effects of BCL2 Inhibitors on Chronic Active EBV Infections, an Intractable T- or NK-cell Lymphoid Neoplasm. 第81回日本癌学会学術総会, 2022.
 - 14) 齊藤美緑, 熊木優喜, 吉森真由美, 大橋彩香, 米瀬一朗, 澤田めぐみ, 西尾美和子, 新井文子. 慢性活動性EBウイルス感染症における血清中抗EBV抗体価の検討. 第84回日本血液学会学術集会, 2022.
 - 15) Yu Uemura, Masahide Yamamoto, Masataka Ishimura, Hirokazu Kanegane, Akihisa Sawada, Akihiro Hirakawa, Ken-Ichi Imadome, Mayumi Yoshimori, Norio Shimizu, Ryuji Koike, Ayako Arai. Phase II study of a JAK1/2 inhibitor ruxolitinib for chronic active Epstein-Barr virus infection. 第84回日本血液学会学術集会, 2022.
 - 16) Ayaka Ohashi, Yusuke Saiki, Ken Shimizu, Marie Ohbuchi, Norio Shimizu, Kazuo Yudo, Morito Kurata, Mayumi Yoshimori, Miwako Nishio, Ayako Arai. BCL2 and BCL-xL inhibitors combat both tumor and inflammation of chronic active EBV infection. 第84回日本血液学会学術集会, 2022.
 - 17) 小杉成樹, 神野正敏, 佐野文明, 井上靖之. Successful treatment of high-grade B-cell lymphoma with PV before HLA-haploidentical transplantation. 第84回日本血液学会学術集会, 2022.
- ② 国際学会
- 1) Ayaka Ohashi, Ayako Arai. Will BCL2 be a potent therapeutic target for systemic chronic active Epstein-Barr virus disease?. 12th AACR-JCA Joint Conference, 2022.
 - 2) Yu Uemura, Masahide Yamamoto, Masataka Ishimura, Hirokazu Kanegane, Akihisa Sawada, Akihiro Hirakawa, Ken-Ichi Imadome, Mayumi Yoshimori, Masashi Nagata, Norio Shimizu, Ryuji Koike, Ayako Arai. Phase II Study of a JAK1/2 Inhibitor Ruxolitinib for Systemic Chronic Active Epstein-Barr Virus Disease: An Investigator-Initiated Trial. 64th ASH Annual Meeting & Exposition, 2022.
 - 3) Mayumi Yoshimori, Ayaka Ohashi, Kotaro Yoshioka, Takanori Yokota, Norio Shimizu, Miwako Nishio, Ayako Arai. Expression Profile of EBV-Derived Micro-RNA in Systemic Chronic Active EBV Disease. 64th ASH Annual Meeting & Exposition, 2022.
- ③ その他
- 1) 平川経晃, 齊木佑輔, 内田晶子, 上村 悠, 大橋彩香, 吉森真由美, 小島尚美, 清水則夫, 今留謙一, 新井文子. HLA 半合致末梢血幹細胞移植を行った慢性活動性EBウイルス感染症. 第44回日本造血・免疫細胞学会総会, 2022.
 - 2) 齊藤美緑, 熊木優喜, 吉森真由美, 大橋彩香, 米瀬一朗, 澤田めぐみ, 西尾美和子, 新井文子. 慢性活動性EBウイルス感染症における血清中抗体価の検討. 第35回ヘルペスウイルス研究会, 2022.

- 3) 上村 悠, 神野正敏, 大橋彩香, 今留謙一, 大島久美, 小島尚美, 清水則夫, 新井文子. HLA 半合致同種造血幹細胞移植後の Human herpesvirus 7 型脳症. 第 35 回ヘルペスウイルス研究会, 2022.
- 4) 吉森真由美, 大橋彩香, 吉岡耕太郎, 横田隆徳, 清水則夫, 西尾美和子, 新井文子. 慢性活動性 EB ウイルス病の EBV 由来 microRNA 発現プロファイル解析. 第 3 1 回 EBV 感染症研究会, 2023.
- 5) 竹ノ内里早, 大橋彩香, 住谷 卓, 吉森真由美, 西尾美和子, 清水則夫, 今留謙一, 新井文子. 慢性活動性 EB ウイルス病に対する BCL 2 阻害剤の効果の検討. 第 3 1 回 EBV 感染症研究会, 2023.
- 6) 鈴木 黎, 佐野文明, 齊木祐輔, 上村 悠, 大島久美, 大橋彩香, 辻村浩司, 小島尚美, 清水則夫, 今留謙一, 新井文子. Alemtuzumab を用いた HLA 半合致造血幹細胞移植が奏功した成人発症慢性活動性 EB ウイルス病. 第 3 1 回 EBV 感染症研究会, 2023.

		和 文	英 文
著 書		4	
論 文	原著		6
	解説又は総説	2	
	症例報告		
	その他	1	
学会発表	国内学会	12	5
	国際学会		3
	その他	6	

内科学（リウマチ・膠原病・アレルギー内科）

著書

- 1) 森雅亮. 若年性特発性関節炎(JIA). 私の治療 2022;5148:43-43.
- 2) 森雅亮. IV. 関節リウマチの治療 1. 治療総論 小児, 移行期における治療戦略 - 若年性特発性関節炎に承認されている抗リウマチ薬を中心に - 日本臨床増刊号 最新関節リウマチ学 (第2版) - 寛解・治療を目指した研究と最新治療 - 2022;:324-330.
- 3) 鈴木翔太郎. ステロイドの薬物動態 (代謝・相互作用・半減期など) ステロイド 研修医はコレだけ覚える 2022;:17-27.
- 4) 森雅亮. V. 特殊なケースの薬物療法 09. 成人移行期の関節リウマチ診療 関節リウマチ治療 実践バイブル改訂第2版 2022;:228-232.
- 5) 川畑仁人. 疾患活動性の評価法 関節リウマチ治療 実践バイブル改訂第2版 2022;:86-91.
- 6) 川畑仁人. 改訂第10版 リウマチ専門医試験 例題と解説 2022;:1-401.
- 7) 森雅亮. 第13章 臨床免疫学総論 標準小児科学 第9版 2022;(9):269-280.
- 8) 川畑仁人. 免疫複合体性小型血管炎, Cogan 症候群 今日の治療指針 2023 2023;:866-867.
- 9) 森雅亮. 抗真菌薬. 今日の治療薬 2023 2023;:117-132.
- 10) 森雅亮. 若年性特発性関節炎. 小児科診療ガイドライン -最新の診療指針- 〈第5版〉 2023;:644-650.
- 11) 森雅亮. 慢性活動性EBウイルス病とその類縁疾患の診療ガイドライン 2023 2023;(2023):1-80.
- 12) 森雅亮. 成人スチル病診療ガイドライン 2017年版「2023年Update」 2023;:1-106.
- 13) 川畑仁人. 治療抵抗性ASDに対して、IL-6阻害薬と免疫抑制薬のどちらが有用か 成人スチル病診療ガイドライン 2017年版「2023年Update」 2023;:84-85.
- 14) 森雅亮. 小児看護 第2章「子どもの生理」p232-237「疾病の予防と予防接種」p256-257、第4章「消化器疾患患児の看護」「呼吸器疾患患児の看護」p357-365「腎・泌尿器疾患患児の看護」p366-373 新看護学 母子看護 14 2023;:232-237.
- 15) 森雅亮. リウマチ性疾患の移行期医療 最新ガイドライン準拠 小児科診療・治療指針. 改訂第3版 2023;:00-00.
- 16) 永渕裕子. 血管病変に対する抗凝固療法 現場がエキスパートに聞きたいパーチェット病 2023;:122-125.
- 17) 森雅亮. 伊藤秀一. 森雅亮(監修) 2023-03-31 ISBN: 小児リウマチ疾患 トシリズマブ治療の理論と実際. 2023;1:1-201.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 森雅亮. IVIG 抵抗性川崎病に対するアナキンラの有効性と安全性. リウマチ科, 2022;67(4):462-467.
- 2) 森雅亮. 【サイトカインストームと小児疾患】サイトカインストームの基礎 サイトカインストームの概念. 小児科診療, 2022;85(4):415-421.
- 3) 森雅亮. 【-寛解・治療を目指した研究と最新治療-】関節リウマチの治療 治療総論 小児, 移行期における治療戦略 若年性特発性関節炎に承認されている抗リウマチ薬を中心に. 日本臨床 増刊号 最新関節リウマチ学(第2版), 2022;80(4):324-330.
- 4) 川畑仁人. 反応性関節炎(Reiter 症候群). 日本臨床 増刊号 最新関節リウマチ学(第2版), 2022;80(増刊号4):258-263.
- 5) 杉原毅彦. 治療総論 高齢者・透析患者の治療戦略. 日本臨床 増刊号 「関節リウマチ学 (第2版)」, 2022;80(4):331-334.
- 6) 森雅亮. 【予防接種 Update-beyond COVID-19】Vaccine hesitancy(ワクチン忌避). 臨床と研究, 2022;99(4):78 (482)-81 (485).
- 7) 川畑仁人. Rheumatic immune-related adverse events のマネージメント. リウマチ科, 2022;67(5):638-644.
- 8) 川畑仁人. リウマチ・膠原病における新たな潮流. アレルギーの臨床, 2022;42(6):416-418.
- 9) 森雅亮. 膠原病・リウマチ性疾患. 小児科臨床, 2022;75(3):481-486.
- 10) 森雅亮. 小児科専門医を目指す人のためのQ&Aで読み解く分野別誌上セミナー 膠原病・リウマチ性疾患. 小児科臨床, 2022;75(3):481(127)-486(132).
- 11) 川畑仁人. CNS ループス. 炎症と免疫, 2022;30(4):36-42.
- 12) 杉原毅彦. 巨細胞性動脈炎と高安動脈炎に対するACR診療ガイドライン. リウマチ科, 2022;68(1):78-85.
- 13) 森雅亮. 若年性特発性関節炎. 特集 成人患者における小児期発症慢性疾患. 成人期における主な小児期発症疾患の病態・管理. 膠原病・リウマチ性疾患・自己炎症性疾患. 小児内科, 2022;54(9):1598-1604.
- 14) 國松淳和, 川畑仁人, 綿貫聡. “乾癬”の“内科疾患”という側面. 内科, 2022;129(1):125-131.
- 15) 鈴木翔太郎. ステロイドの副作用と対策. 人工呼吸, 2022;39(2):145-152.

- 16) 川畑仁人. 結節性多発動脈炎. 消化器・肝臓内科, 2022;11(2) : 176-180.
- 17) 森雅亮. 若年性特発性関節炎 (JIA) . 日本医事新報, 2022;5148 : 43-44.
- 18) 森雅亮. 若年性特発性関節炎における疾患活動性評価. リウマチ科, 2023;69(1) : 90-94.
- 19) 須永眞司、萩野昇、川畑仁人、篠原聡. 関節リウマチ診療のアンメット・メディカル・ニーズに挑む. Medical Practice, 2023;40(2) : 166-180.
- 20) 森雅亮. 血管炎症候群 (川崎病, 高安動脈炎, ANCA 関連血管炎など) 特集 分子標的薬を極める. 小児内科, 2023;55(2) : 213-216.
- 21) 森雅亮. 膠原病・リウマチ疾患. 特集 その道のプロの経験から学ぶ 小児診療のピットフォール. 小児科, 2023;64(2) : 143-151.
- 22) 川畑仁人. 自己免疫疾患領域. Pharma Medica, 2023;40(1) : 31-34.
- 23) 川畑仁人. JAK 阻害薬の薬物動態と JAK 選択性. リウマチ科, 2023;69(3) : 255-261.
- ② その他
 - 1) 永渕裕子. 膠原病の腎障害と生活上の注意点. 全国膠原病友の会神奈川県支部会報, 2023;79 : 12-23.
 - 2) 中原仁、室圭、前田嘉信、川畑仁人、坂田泰史. 10 年後の治療展望. Pharma Medica, 2023;40(1) : 11-17.
 - 3) 森雅亮. リウマチ性疾患の移行期医療. リウマチクリニック, 2023; : 00-00.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Kondo F, Sugihara T, Umezawa N, Hasegawa H, Hosoya T, Kimura N, Mori M, Yasuda S. Associated factors with poor treatment response to initial glucocorticoid therapy in patients with adult-onset Still's disease. Arthritis research & therapy, 2022;24(1) : 92.
- 2) Sugihara T. Treatment strategies for elderly-onset rheumatoid arthritis in the new era. Modern Rheumatology, 2022;32(3) : 493-499.
- 3) Yamamoto A, Saito T, Hosoya T, Kawahata K, Asano Y, Sato S, Mizoguchi F, Yasuda S, Kohsaka H. Therapeutic Effect of Cyclin-Dependent Kinase 4/6 Inhibitor on Dermal Fibrosis in Murine Models of Systemic Sclerosis. Arthritis & rheumatology(Hoboken,NJ), 2022;74(5) : 860-870.
- 4) Yamazaki K, Suzuki S, Kawaguchi T. Extramedullary haematopoiesis within hepatic sinusoids of a patient with primary myelofibrosis. British journal of haematology, 2022;196(5) : 1130.
- 5) Yamasaki Y, Iida H, Ando T, Goto Y, Suzuki S, Kawasaki T, Ishizaki Y, Sakurai K, Kiyokawa T, Mizushima M, Takakuwa Y, Tonooka K, Yamazaki K, Imamura M, Ooka S, Nagafuchi H, Kawahata K.. Long-term outcomes and chronological lung volumes in patients with interstitial lung disease with anti-aminoacyl tRNA synthetase antibodies and anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibodies. Clinical Rheumatology and Related Research, 2022;34(2) : 152-165.
- 6) Takita M, Yoshida T, Tsuchida T, Nakagama Y, Kido Y, Suzuki S, Imamura M, Kawahata K, Shimizu G, Yoshida H, Morikawa D, Kawaguchi T, Fujii S, Tsukuda J, Motohashi T, Fujitani S. Low SARS-CoV-2 antibody titers may be associated with poor clinical outcomes for patients with severe COVID-19. Scientific Reports, 2022;12(1) : 9147.
- 7) Tomonori Takano, Takashi Okanda, Masanori Hirose, Yukitaka Yamasaki, Tomoya Tsuchida, Hiromu Takemura, Kimito Kawahata, Hiroyuki Kunishima. Diagnostic accuracy of four serological tests for COVID-19 and differences in antibody positivity rates based on the need for treatment or ventilator support. Journal of St. Marianna University, 2022;13(1) : 29-37.
- 8) Sugihara T, Nakaoka Y, Uchida HA, Yoshifuji H, Maejima Y, Watanabe Y, Amiya E, Tanemoto K, Miyata T, Umezawa N, Manabe Y, Ishizaki J, Shirai T, Nagafuchi H, Hasegawa H, Miyamae T, Niino H, Ito S, Ishii T, Isobe M, Harigai M. Establishing Clinical Remission Criteria and the Framework of a Treat-To-Target Algorithm for Takayasu arteritis: Results of a Delphi Exercise Carried out by an Expert Panel of the Japan Research Committee of the Ministry of Health, Labour, and Welfare for intractable vasculitis. Modern Rheumatology, 2022;32(5) : 930-937.
- 9) Hosoya T, Saito T, Baba H, Tanaka N, Noda S, Komiya Y, Tagawa Y, Yamamoto A, Mizoguchi F, Kawahata K, Miyasaka N, Kohsaka H, Yasuda S. Chondroprotective effects of CDK4/6 inhibition via enhanced ubiquitin-dependent degradation of JUN in synovial fibroblasts. Rheumatology (Oxford, England), 2022;61(8) : 3427-3438.

- 10) Narazaki H, Akioka S, Akutsu Y, Araki M, Fujieda M, Fukuhara D, Hara R, Hashimoto K, Hattori S, Hayashibe R, Imagawa T, Inoue Y, Ishida H, Ito S, Itoh Y, Kawabe T, Kitoh T, Kobayashi I, Matsubayashi T, Miyamae T, Mizuta M, Mori M, Murase A, Nakagishi Y, Nagatani K, Nakano N, Nishimura T, Nozawa T, Okamoto N, Okura Y, Sawada H, Sawanobori E, Sugita Y, Tanabe Y, Tomiita M, Yamaguchi KI, Yasuoka R, Yokoyama K. Epidemiology and conduct of paediatric rheumatic diseases based on the registry database of the Pediatric Rheumatology Association of Japan. *Modern Rheumatology*, 2022; : doi: 10.1093/mr/roac112. Epub ahead of print..
- 11) Mouri M, Imamura M, Suzuki S, Kawasaki T, Ishizaki Y, Sakurai K, Nagafuchi H, Matsumura N, Uchida M, Ando T, Yoshioka K, Ooka S, Sugihara T, Miyoshi H, Mori M, Okada T, Yamaguchi M, Kunishima H, Kato M, Kawahata K. Serum polyethylene glycol-specific IgE and IgG in patients with hypersensitivity to COVID-19 mRNA vaccines. *Allergology international : official journal of the Japanese Society of Allergology*, 2022;71(4) : 512-519.
- 12) Takano T, Okada T, Hirose M, Yamasaki Y, Tsuchida T, Takemura H, Kawahata K, Kunishima H. ,. Diagnostic accuracy of four serological tests for COVID-19 and differences in antibody positivity rates based on the need for treatment or ventilator support. *Journal of St. Marianna University*, 2022;13(1) : 29-37.
- 13) Tono T, Kikuchi H, Sawada T, Takeno M, Nagafuchi H, Kirino Y, Tanaka Y, Yamaoka K, Hirohata S. Clinical features of Behçet's Disease Patients with Joint Symptoms in Japan: A National Multicenter Study. *Modern Rheumatology*, 2022;32(6) : 1146-1152.
- 14) Yamasaki Y, Ooka S, Matsuoka S, Tomita H, Hirose M, Takano T, Suzuki S, Imamura M, Handa H, Nishine H, Takita M, Minoura A, Morisawa K, Inoue T, Mineshita M, Kawahata K, Takemura H, Fujitani S, Kunishima H. Predicting the aggravation of coronavirus disease-19 pneumonia using chest computed tomography scans. *PloS One*, 2022;3(17) : 11.
- 15) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, Kurokawa MS, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K. Serum gasdermin D levels are associated with the chest computed tomography findings and severity of COVID-19. *Respiratory Investigation*, 2022;60(6) : 750-761.
- 16) Niwano T, Hosoya T, Kadowaki S, Toyofuku E, Naruto T, Shimizu M, Ohnishi H, Koike R, Morio T, Imai K, Yoshida M, Yasuda S. An adult case of suspected A20 haploinsufficiency mimicking polyarteritis nodosa. *Rheumatology (Oxford, England)*, 2022;61(11) : e337-e340.
- 17) Fujita Y, Suzuki S, Shirakawa Y, Kuwashima S, Yoshihara S. Computed tomography-like magnetic resonance images based on T1 spoiled gradient-echo to detect calcinosis in a patient with anti-nuclear matrix protein 2 antibody-positive juvenile dermatomyositis. *Rheumatology Advances in Practice*, 2022;6(3) : rkac093.
- 18) Nagafuchi H, Goto Y, Kiyokawa T, Kawahata K. Reasons for discontinuation of methotrexate in the treatment of rheumatoid arthritis and challenges of methotrexate resumption: a single-center, retrospective study. *Egyptian Rheumatology and Rehabilitation*, 2022; : doi.org/10.1186/s43166-022-00162-w.
- 19) Nagasaka K, Amano K, Dobashi H, Nagafuchi H, Sada K, Komagata Y, Yamamura M, Kato M, Endo T, Nakaya I, Takeuchi T, Murakawa Y, Sugihara T, Saito M, Hayashi T, Furuta S, Tamura N, Karasawa K, Banno S, Endo S, Majima M, Kaname S, Arimura Y, Harigai M. Nation-wide cohort study of remission induction therapy using rituximab in Japanese patients with ANCA-associated vasculitis: effectiveness and safety in the first six months. *Modern Rheumatology*, 2022; : doi.org/10.1093/mr/roac150.
- 20) Goto H, Kawahata K, Shida A, Nakagane S, Isohata H, Yamazaki Y, Yoshimura Y, Hattori K, Sekiguchi K, Ishikawa R, Onishi Y, Kanai Y, Unno N, Ochiai D.. Immunosuppressive therapy before and during pregnancy may improve obstetric outcomes in pregnancy complicated by dermatomyositis with anti-MDA-5 antibody positivity. A case report. *Case Rep Womens Health.*, 2023;37 : e00479..
- 21) Nagafuchi H, Kikuchi H, Ishibashi H, Maeda H, Ogino H, Kirino Y, Sawada T, Saito K, Kuwana M, Hirohata S, Ishigatsubo Y, Niimi M, Okita Y, Miyata T, Shigematsu H, Takeno M. Recommendations for the management of the vascular involvement in Behçet's disease by the Japanese national research committee for Behçet's disease-secondary publication. *Modern Rheumatology*, 2023; : doi: 10.1093/mr/road002.
- 22) Ito H, Nishida K, Kojima T, Matsushita I, Kojima M, Hirata S, Kaneko Y, Kishimoto M, Kohno M, Mori M, Morinobu A, Murashima A, Seto Y, Sugihara T, Tanaka E, Nakayama T, Yamanaka H, Kawahito Y, Harigai M.. Non-drug and surgical treatment algorithm and recommendations for the 2020 update of the Japan College of Rheumatology clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis-secondary publication. *Modern Rheumatology*, 2023;33(3) : 36-45.

- 23) Wakatsuki R, Shimizu M, Asami S, Adachi E, Kanamori T, Yamazaki S, Udagawa T, Takasawa K, Kashimada K, Morio T, Mori M. Atrophic Autoimmune Thyroiditis Complicated with Systemic Lupus Erythematosus. *Modern Rheumatology*, 2023;3(7) : 65-67.
- 24) Kawahito Y, Morinobu A, Kaneko Y, Kohno M, Hirata S, Kishimoto M, Seto Y, Sugihara T, Tanaka E, Ito H, Kojima T, Matsushita I, Nishida K, Mori M, Murashima A, Yamanaka H, Nakayama T, Kojima M, Harigai M.. Drug treatment algorithm and recommendations from the 2020 update of the Japan College of Rheumatology clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis-secondary publication. *Modern Rheumatology*, 2023;3(33) : 21-35.
- 25) Shimizu M, Irabu H, Shimbo A, Kaneko S, Mori M.. Monthly intravenous immunoglobulin for refractory intestinal IgA vasculitis. *Pediatrics International*, 2023;65(1) : e15470.
- 26) Kaneko S, Shimizu M, Miyaoka F, Shimbo A, Irabu H, Mizuta M, Nakagishi Y, Iwata N, Fujimura J, Mori M, Morio T.. The dynamics of laboratory markers reflecting cytokine overproduction in macrophage activation syndrome complicated with systemic juvenile idiopathic arthritis. *Clinical immunology*, 2023; : Epub ahead of print..
- 27) Craig TJ, Reshef A, Li HH, Jacobs JS, Bernstein JA, Farkas H, Yang WH, Stroes ESG, Ohsawa I, Tachdjian R, Manning ME, Lumry WR, Sager IM, Aygören-Pürsün E, Ritchie B, Sussman GL, Anderson J, Kawahata K, Suzuki Y, Staubach P, Treudler R, Feuersenger H, Glassman F, Jacobs I, Magerl M.. Efficacy and safety of garadacimab, a factor XIIIa inhibitor for hereditary angioedema prevention (VANGUARD): a global, multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial. *Lancet*, 2023;401 : 1079-1090.
- 28) Kubo M, Miyagaki T, Ohashi H, Kishi A, Miyano K, Okano T, Muto M, Takeuchi S, Imamura M, Kadono T. A case of ruptured Baker's cyst induced by nivolumab and ipilimumab. *Cutaneous Immunology and Allergy*, 2023; : <https://doi.org/10.1002/cia2.12290>.
- 29) Takakuwa Y, Yamasaki Y, Matsushita H, Kiyokawa T, Mizushima M, Tonooka K, Nagafuchi H, Matsuoka S, Ooka S, Kawahata K. Long-term survival, causes of death, and prognostic factors for mortality in patients with microscopic polyangiitis and those with anti-neutrophil cytoplasmic antibody-positive interstitial lung disease: A single-center retrospective study. *International journal of rheumatic diseases*, 2023;26(3) : 446-453.

② 症例報告

- 1) Nagahata K, Suzuki S, Yokochi R, Nei Y, Hagino N. Recurrent Optic Perineuritis With Myelin Oligodendrocyte Glycoprotein Antibody-Associated Disease Complicated With Granulomatous Polyangiitis. *Cureus*, 2022;14(5) : e25239.
- 2) Hayashi Y, Odagiri T, Echizenya T, Dewa K, Muraki Y. Isolation of human parechovirus type 3 from an infant with sudden death. *Pediatrics International*, 2022; : doi: 10.1111/ped.15305..
- 3) Mouri M, Kanamori T, Tanaka E, Hiratoko K, Okubo M, Inoue M, Morio T, Shimizu M, Nishino I, Okiyama N, Mori M. Hepatic veno-occlusive disease accompanied by thrombotic microangiopathy developing during treatment of juvenile dermatomyositis and macrophage activation syndrome: A case report. *Modern Rheumatology*, 2022; : DOI-10.1093/mrcr/rxac086.

学会発表

① 国内学会

- 1) 村越未希, 宇田川智広, 金森透, 奥津美夏, 真保麻実, 伊良部仁, 阿久津裕子, 清水正樹, 森雅亮, 森尾友宏.. 当院で腎生検を施行したループス腎炎 24 名の臨床的検討と腎生検合併症. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 2022.
- 2) 平床華奈子, 菊池絵梨子, 樋口明日樹, 重盛朋子, 吉岡耕平, 下田益弘, 荒木聡.. Diamino-Diphenyl sulfone (DDS) がステロイド離脱に有効であった難治性 IgA 血管炎の一例. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 2022.
- 3) 石井大裕, 中村隆広, 武井陽, 吉橋知邦, 有坂敦子, 大森多恵, 三澤正弘, 酒井愛子, 鮎沢衛, 森雅亮. 当院で経験した最初の Multisystem Inflammatory Syndrome in Children (MIS-C) の 1 例. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 2022.
- 4) 真保麻実, 金子修也, 伊良部仁, 阿久津裕子, 清水正樹, 森雅亮, 森尾友宏.. 生物学的製剤治療中の全身型若年性特発性関節炎における腸恥滑液包炎. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 2022.
- 5) 水島万智子, 杉原毅彦, 櫻井恵一, 永渕裕子, 森雅亮, 松井利浩, 川畑仁人.. 関節リウマチにおける固形癌よりも悪性リンパ腫合併に関連する因子の検討. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 6) 水島万智子, 大岡正道, 山崎和子, 柏戸桃子, 川崎達也, 殿岡久美子, 川畑仁人. 高安静脈炎との鑑別を要したスポーツ障害による右鎖骨窩動脈狭窄の 1 例. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.

- 7) 石崎克樹, 櫻井恵一, 水島万智子, 遠藤信幸, 後藤由多加, 川崎達也, 品川尚志, 鈴木翔太郎, 清川智史, 高桑由希子, 殿岡久美子, 山崎和子, 今村充, 杉原毅彦, 永渕裕子, 大岡正道, 森雅亮, 川畑仁人. アテゾリズマブによる irAE の多発筋炎の一例. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 8) 吉岡耕平, 山崎和子, 元永裕生, 森翔, 柏戸桃子, 林祐子, 毛利万里子, 川畑仁人, 森雅亮. COVID-19 ワクチン接種後に関節炎再燃と胸骨舌骨筋付着部炎を発症した多関節炎型若年性特発性関節炎の一例. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 9) 殿岡久美子, 石崎克樹, 遠藤信幸, 松村憲浩, 内田麻理奈, 櫻井恵一, 清川智史, 水島万智子, 川上美里, 高桑由希子, 今村充, 杉原毅彦, 永渕裕子, 大岡正道, 川畑仁人. 上大静脈症候群として発症し、IgG4 関連疾患との鑑別を要したびまん性大細胞性 B 細胞性リンパ腫の一例. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 10) 松村憲浩, 元永裕生, 遠藤信幸, 石崎克樹, 内田麻理奈, 川崎達也, 鈴木翔太郎, 櫻井恵一, 清川智史, 水島万智子, 殿岡久美子, 川上美里, 大岡正道, 川畑仁人. Belimumab が有効であったシェーグレン症候群に合併した抗 ds-DNA 抗体陰性ループス腎炎 V 型の 2 例. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 11) 森雅亮, 宮前多佳子, 松井利浩. 移行期における患者支援. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 12) 山崎和子, 柏戸桃子, 森翔, 吉岡耕平, 元永裕生, 林祐子, 森雅亮, 川畑仁人. 若年性特発性関節炎との鑑別が必要だった Pachydermodactyly の一例. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 13) 川上美里, 松村憲浩, 遠藤信幸, 石崎克樹, 元永裕生, 安藤貴泰, 内田麻理奈, 川崎達也, 鈴木翔太郎, 林祐子, 櫻井恵一, 清川智史, 水島万智子, 高桑由希子, 殿岡久美子, 今村充, 杉原毅彦, 大岡正道, 永渕裕子, 川畑仁人. 自然寛解した後血圧上昇を呈し血管狭窄の進行が示唆された高安静脈炎の一例. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 14) 高桑由希子. 関節リウマチにおけるフィルゴチニブの有効性と安全性の検討～FINCH 試験との比較～. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 15) ◎鈴木直. 本邦におけるがん・生殖医療の現状と課題ーリウマチ学との接点は?. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 16) 林祐子, 元永裕生, 森翔, 柏戸桃子, 毛利万里子, 吉岡耕平, 山崎和子, 高松漂太, 森雅亮, 川畑仁人. グルココルチコイドが無効でベリムマブを導入した SLE 合併リジネ尿酸性蛋白不耐症の一例. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 17) 鈴木翔太郎, 今村充, 石崎克樹, 安藤貴泰, 飯田春信, 後藤由多加, 鈴木可奈子, 川崎達也, 櫻井恵一, 清川智史, 水島万智子, 山崎和子, 永渕裕子, 大岡正道, 川畑仁人. 2 度の妊娠の経過で、発症・再増悪をきたした抗 MDA5 抗体陽性無筋症性皮膚筋炎の一例. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 18) 川畑仁人. 関節リウマチ病態に関する最新知見～フィルゴチニブの臨床的意義を考える～. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 19) 元永裕生, 森翔, 柏戸桃子, 林祐子, 毛利万里子, 吉岡耕平, 山崎和子, 川畑仁人, 森雅亮. 種々の TNF α 阻害薬に反応せず、ヒト型抗ヒト IL-17A モノクローナル抗体製剤が有効であった若年性体軸性脊椎関節炎の 1 女児例. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 20) 黒川 真奈絵, 佐藤 利行, 佐藤 政秋, 永井 宏平, 内田 貞輔, 有戸 光美, 高桑 由希子, 大岡 正道, 末松 直也, 川畑 仁人, 山野嘉久, 加藤 智啓. 再発性多発軟骨炎のバイオマーカー候補となる血清ペプチドの解析. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 21) 森翔, 山崎和子, 元永裕生, 柏戸桃子, 林祐子, 毛利万里子, 吉岡耕平, 川畑仁人, 森雅亮. 縦隔気腫を生じた急速進行性肺疾患合併若年性皮膚筋炎の 1 例. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 22) 杉原毅彦. 高齢関節リウマチの治療の課題. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会イブニングセミナー4, 2022.
- 23) 川崎綾, 佐田憲映, 草薙恭圭, 伊藤健司, 小野伸之, 平野史生, 小林茂人, 長坂憲治, 杉原毅彦, 藤本隆, 草生真規雄, 田村直人, 山縣邦弘, 住田孝之, 尾崎承一, 橋本博史, 榎野博史, 有村義宏, 針谷正祥, 土屋尚之. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症と HLA-DRB1 および TSLP パリアントの関連. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 24) 杉原毅彦. CRANE コホートにおける高齢者発症 RA の治療の現状と課題. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 25) 永渕裕子, 後藤由多加, 川畑仁人. 単関節型リウマチの臨床的特徴. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 26) 森雅亮, 杉原毅彦. 自己免疫疾患に関する調査研究班のレジストリ研究. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 27) 宮岡双葉, 金子修也, 真保麻実, 伊良部仁, 阿久津裕子, 山崎晋, 毛利万里子, 清水正樹, 瀬川裕子, 森雅亮. 当院における環軸関節炎を伴う若年性特発性関節炎 7 例の検討. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 28) 西村謙一, 金子詩子, 杉田侑子, 謝花幸祐, 岡本奈美, 岩田直美, 久保田知洋, 安村純子, 宮前多佳, 作村直人, 横山忠史, 梅林宏明, 木澤敏毅, 伊藤秀一, 森雅亮. トシリズマブ皮下注製剤を使用した若年性特発性関節炎患者の実態調査: 多機関共同後ろ向き観察研究. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.

- 29) 金子修也, 清水正樹, 真保麻実, 伊良部仁, 水田麻雄, 中岸保夫, 岩田直美, 森雅亮. 全身型若年性特発性関節炎に合併したマクロファージ活性化症候群における活動性指標の早期診断に対する有用性. 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 30) 川畑仁人. 関節リウマチ治療の課題とアパセプトの果たす役割. 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 31) 櫻井恵一, 大岡正道, 今村充, 山崎和子, 川上美里, 殿岡久美子, 高桑由希子, 水島万智子, 清川智史, 鈴木翔太郎, 川崎達也, 内田麻理奈, 安藤貴泰, 石崎克樹, 松村憲浩, 遠藤信幸, 林祐子, 元永裕生, 川畑仁人. COVID-19-mRNA ワクチン接種後に発症または増悪した抗ARS抗体陽性皮膚筋炎の4例. 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 32) 永渕裕子, 後藤由多加, 清川智史, 大岡正道, 川畑仁人. 挙児希望のためメトトレキサートを中止した女性関節リウマチ患者の妊娠の転帰. 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 33) 森雅亮. 小児リウマチ移行期医療の現状とそれを打開する実際の取り組み. 第95回日本整形外科学会学術集会, 2022.
- 34) 森雅亮. 新型コロナウイルス感染症パンデミック下における感染症の変遷と現況. 第49回横須賀・三浦小児科医会学術講演会, 2022.
- 35) 櫻井恵一, 西田真, 豊福悦史, 林祐子, 吉岡耕平, 山崎和子, 大岡正道, 川畑仁人. リウマチ性疾患と誤診された筋骨格系感染症の2例. 第77回神奈川リウマチ医会, 2022.
- 36) ◎家 研也, 八木橋 国博, 橋本 一樹, 大岡 正道, 関 征央, 内田 竜二, 酒井翼, 本橋 伊織, 奥瀬 千晃, 松田 隆秀, 大平 善之. シェーグレン症候群のステロイド抵抗性乳び胸に胸管塞栓術が有用であった1例. 第25回日本病院総合診療医学会学術集会, 2022.
- 37) 川畑仁人. 関節リウマチの病態と臨床課題から見えてきたJAK阻害薬の役割. 第33回中部リウマチ学会, 2022.
- 38) ◎三原祥平, 月山秀一, 山崎和子, 中村祐太, 中川朋子, 横田健一, 曾根正勝. 抗リン脂質抗体症候群による両側副腎出血, 原発性副腎不全を来した一例. 第23回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 39) 川畑仁人. 関節リウマチ治療における感染症リスクマネジメント. 第51回日本リウマチの外科学会, 2022.
- 40) 森雅亮. 若年性突発性関節炎(JIA)におけるぶどう膜炎診療の実際. 日本脊椎関節炎学会第32階学術集会, 2022.
- 41) 森雅亮. TNF阻害薬および血漿交換療法が奏功する、急性期の免疫病態. 第42回日本川崎病学会・学術集会, 2022.
- 42) 毛利万里子, 今村充, 永渕裕子, 大岡正道, 山口正雄, 川畑仁人. COVID-19 mRNA ワクチンに対するアレルギー診断におけるPEG特異的IgEおよびIgGの有用性について. 第71回日本アレルギー学会学術大会, 2022.
- 43) 中込一之, 今村充, 川野雅章, 川畑仁人, 高木理英, 原田広顕, 土肥眞, 松下祥, 永田真. 抗IgE抗体は、肺におけるIL-17産生を制御することで、OVA惹起好中球生気道炎症を抑制する. 第71回日本アレルギー学会学術大会, 2022.
- 44) 毛利万里子, 今村充, 吉岡耕平, 川崎達也, 永渕裕子, 大岡正道, 山口正雄, 川畑仁人. ポリソルベートアレルギーにおけるポリソルベート特異的IgE測定の有効性について. 第71回日本アレルギー学会学術大会, 2022.
- 45) 森雅亮. 自己免疫疾患の移行期医療. 第71回日本アレルギー学会学術大会, 2022.
- 46) 棚橋淳子, 角田哲人, 西田皓平, 今村愉子, 森田翔, 多村悠紀, 晝間清, 半田寛, 西根広樹, 井上健男, 峯下昌道. 重症喘息患者に対するdupilumab投与間隔延長の現状. 第71回日本アレルギー学会学術集会, 2022.
- 47) 晝間清, 多村悠紀, 森田翔, 棚橋淳子, 今村愉子. 異時性交替性に発症したアレルギー性真菌性副鼻腔炎と推測される1例. 第71回日本アレルギー学会学術大会, 2022.
- 48) 山上啓子, 福田知雄, 川畑仁人, 鈴木勇三, 佐々木善浩, 宮城敬, Iris Jacobs, John-Philip Lawo, Fiona Glassman, 赤真秀人, 秀道広, 大澤勲. 日本人遺伝性血管性浮腫(HAE)患者を対象としたC1-インアクチベーター(C1-INH)皮下投与の第3相臨床試験. 第71回日本アレルギー学会学術大会, 2022.
- 49) 豊福悦史. 思春期・若年成人世代での服薬コンプライアンス不良から増悪した抗リン脂質抗体症候群の2症例. 第31回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 50) 林祐子. 成人Still病が疑われた化膿性脊椎炎の一例〜発達障害を有するAYA期診療の問題点〜. 第31回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 51) 川畑仁人. 免疫チェックポイント阻害薬による自己免疫病態. 第50回日本臨床免疫学会, 2022.
- 52) 吉岡耕平. 倦怠感と腹痛を主訴に紹介され、経過中に陰部痛を呈していたAYA世代のクローン病女性例. 第31回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 53) 川畑仁人. 成人およびAYA世代の全身性エリテマトーデス治療Up To Date. 第31回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 54) 森雅亮. 日本専門医機構が認定するリウマチ・膠原病領域サブスペシャルティ専門医制度の進捗状況と小児リウマチ学会としての方向性について. 第31回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 55) 森翔. 視神経脊髄炎の加療中に混合性結合組織病を発症した14歳女児例. 第31回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2022.

- 56) 山崎和子. 仙腸関節 MRI の小児期および AYA 期の正常所見と若年性脊椎関節炎における評価. 第 31 回日本小児リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 57) 森雅亮. 小児・移行期の膠原病について. 第 50 回日本臨床免疫学会総会, 2022.
- 58) ©伊佐早健司、櫻井謙三、柴田宗一郎、鐺木圭、赤須友香利、高桑由宇、川畑仁人、山野嘉久. 好酸球性多発血管炎性肉腫瘍による抹消神経障害に対する IL-5 モノクローナル抗体の効果. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022.
- 59) ©小嶺友香利、櫻井謙三、鐺木真弓、森翔、山崎和子、今井健、伊佐早健司、森雅亮、山野嘉久. NMOSD と MCTD を合併した 14 歳女性にサトラリズマブ導入し良好な経過を辿った一例. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022.
- 60) 川畑仁人. 全身性疾患としての乾癬. 第 37 回日本臨床リウマチ学会, 2022.
- 61) 櫻井恵一. リウマチ性疾患における肺高血圧症スクリーニングと部門横断的協力体制の重要性. 第 37 回日本臨床リウマチ学会, 2022.
- 62) 森雅亮. 移行期 SLE 治療におけるベリムマブの位置づけ. 第 37 回日本臨床リウマチ学会, 2022.
- 63) 木戸礼乃、櫻井恵一、矢野裕介、松村憲浩、豊福悦史、林祐子、吉岡耕平、山崎和子、大岡正道、川畑仁人. 早期にトファシニブを導入し救命し得た、抗 MDA-5 抗体陽性皮膚筋炎に伴う急速進行性間質性肺炎の 2 例. 第 32 回日本リウマチ学会関東支部学術集会, 2022.
- 64) 森雅亮. 生ワクチン接種後の免疫抑制療法. 第 686 回日本小児科学会東京都地方会講話会, 2022.
- 65) 安斎亘、小林梢、日隈のどか、服部透也、水野克己、森雅亮. BCG 接種後早期に ACTH 療法を施行した West 症候群の乳児例. 第 686 回日本小児科学会東京都地方会講話会, 2022.
- 66) 川畑仁人. 関節リウマチ薬物治療最近の話題について. 日本臨床腫瘍学会 2023, 2023.
- 67) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, S. Kurokawa M, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K. Pyroptosis-apoptosis imbalance affects the severity and chest CT findings in COVID-19. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 2022.
- 68) Sugihara T, Yoshifuji H, Uchida H, Nakaoka Y. Optimizing treatment of large vessel vasculitides-the time is now. 第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.

② 国際学会

- 1) Sugihara T, Ishizaki T, Baba H, Matsumoto T, Kubo K, Kamiya M, Hirano F, Hosoya T, Kojima M, Miyasaka N, Harigai M. Associated factors with physical dysfunction of elderly-onset rheumatoid arthritis treated with a treat-to-target strategy: CRANE cohort. EULAR 2022, 2022.
- 2) Takako Miyamae, Yusuke Manabe, Takahiko Sugihara, Natsuka Umezawa, Hajime Yoshifuji, Naoto Tamura, Yoshiyuki Abe, Shunsuke Furuta, Manami Kato, Takashi Kumagai, Kaito Nakamura, Hiroko Nagafuchi, Jun Ishizaki, Naoko Nakano, Tatsuya Atsumi, Kohei Karino, Koichi Amano, Takahiko Kurasawa, Shuichi Ito Ryusuke Yoshimi, Noriyoshi Ogawa, Shogo Banno, Taio Naniwa, Satoshi Ito, Akinori Hara, Shinya Hirahara, Haruhito A. Uchida, Yasuhiro Onishi, Yohko Murakawa, Yoshinori Komagata, Yoshikazu Nakaoka, Masayoshi Harigai. Pregnancy and childbirth in Takayasu arteritis in Japan - a nationwide retrospective study. EULAR 2022, 2022.

③ その他

- 1) 川畑仁人. 患者背景に応じた JAK 阻害薬の使用～リンヴォックの役割を考える～. リンヴォック発売 2 周年記念講演会 in 南東北, 2022.
- 2) 川畑仁人. 全身性エリテマトーデス治療の現在の課題. LUPUS Seminar in KAWASAKI, 2022.
- 3) 川畑仁人. 関節リウマチの最新治療戦略と課題～エタネルセプトの果たす役割を考える～. メディカルスタッフによるライフステージに応じた関節リウマチ患者支援を考える, 2022.
- 4) 川畑仁人. MTX 治療の課題と求められる RA 治療. RINVOQ Monotherapy Speaker Forum～よりシンプルな RA 治療を目指して～, 2022.
- 5) 杉原毅彦. 高齢関節リウマチに対する T2T の有効性と安全性. ゼルヤンツ・エンブレル Web 講演会, 2022.
- 6) 川畑仁人. 関節リウマチの病態と JAK 阻害剤の果たす役割～ジセレカの臨床的意義を考える～. ジセレカ錠適正使用講演会, 2022.
- 7) 今村充. CTD-ILD の病態と治療. ILD Web Academy, 2022.
- 8) 川畑仁人. MTX 治療の課題と求められる RA 治療. RINVOQ Monotherapy Speaker Forum～よりシンプルな RA 治療を目指して～, 2022.
- 9) 川畑仁人. NINJA データベースから見た関節リウマチ診療の課題. 実臨床とガイドライン研究会, 2022.
- 10) 大岡正道. 聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病生涯治療センターの取り組み～地域連携、他科連携の重要性～. 東京・神奈川リウマチ膠原病診療連携の会, 2022.

- 11) 川畑仁人. WoCBA 世代 RA 患者さんの治療課題～世代を超えたシームレスな取り組みについて～. 東京・神奈川リウマチ膠原病診療連携の会, 2022.
- 12) 高桑由希子. ジセレカの有用性～実臨床化における使用経験を踏まえて～. Immunology Remote Seminar, 2022.
- 13) 川畑仁人. Ninja データからリウマチ診療の今後を考える. リウマチ診療を考える会-アダリムマブ BS『FKB』発売 1 周年記念講演会, 2022.
- 14) 川畑仁人. 関節リウマチにおける関節破壊の病態とジセレカの臨床的意義. 医療関係者向け資料解説動画, 2022.
- 15) 森雅亮. 免疫不全・ダウン症候群児における palivizumab ～本邦のみの適応追加が成就するまで～. SYNAGIS Anniversary Meeting ～この 20 年とその先へ～, 2022.
- 16) 森翔. 縦隔気腫を生じた抗 MDA5 抗体陽性若年性皮膚筋炎の一例. 第 38 回 Metropolitan Pediatric Rheumatology Conference, 2022.
- 17) 吉岡耕平. COVID-19 ワクチン接種後に関節炎再燃と胸骨舌骨筋付着部炎を発症した多関節炎型若年性特発性関節炎の一例. 第 38 回 Metropolitan Pediatric Rheumatology Conference, 2022.
- 18) 川畑仁人. 免疫チェックポイント阻害薬における有害事象マネジメント. 膠原病×呼吸器連携セミナー, 2022.
- 19) 安藤貴泰, 石崎克樹, 赤司俊介, 島田絢子. 呼吸器内科と膠原病内科の診療連携について. 膠原病×呼吸器連携セミナー, 2022.
- 20) 川畑仁人. 患者背景を考慮した JAK 阻害薬の検討. JAK 阻害薬を考える会 in 新宿, 2022.
- 21) 杉原毅彦. 高齢 RA における治療戦略に関して. 甲斐の国サリルマブ Web セミナー, 2022.
- 22) 今村充. 新型コロナウイルスワクチン接種における過敏症について. 第 41 回地域医療連携 WEB セミナー, 2022.
- 23) 川畑仁人. 膠原病内科医から診た進行性線維化を伴う間質性肺疾患. CTD-ILD Web Academy, 2022.
- 24) 山崎和子. 小児リウマチ性疾患?と思った場合の関節炎と不明熱のみかた. 小児アレルギー・自己免疫疾患セミナー in 新潟, 2022.
- 25) 櫻井恵一, 瀬川有実. 発熱・関節痛の精査で診断した脊椎膿瘍の一例. 第 85 回内科合同勉強会, 2022.
- 26) 川畑仁人. 膠原病内科医から診た進行性線維化を伴う間質性肺疾患. CTD-ILD Collaboration Web Seminar, 2022.
- 27) 高桑由希子. 聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病生涯治療センターでの取り組み. 第 2 回ライフステージを考慮したリウマチ治療を考える会, 2022.
- 28) 川畑仁人. 関節リウマチと悪性腫瘍～腫瘍既往例におけるリウマチ治療を中心に～. 札幌リウマチオンラインセミナー～関節リウマチと悪性腫瘍について考える～, 2022.
- 29) 川畑仁人. シンプルな RA 治療とは? (日本の RA の実態). リンヴォック発売 2 周年記念全国講演会, 2022.
- 30) 森雅亮. 多職種協同による移行期若年性突発性関節炎(JIA)の患者支援の必要性. 第 12 回 RA ヘルスプロフェッショナル研究会, 2022.
- 31) 川畑仁人. 関節リウマチと悪性腫瘍. Sarilumab And Rheumatology Internet seminar the 6th, 2022.
- 32) 川畑仁人. 患者背景を考慮した JAK 阻害薬の検討. Beyond Pain セミナー in 南東北, 2022.
- 33) 川畑仁人. 皮膚筋炎・多発性筋炎. 令和 4 年度横浜市都筑区難病講演会, 2022.
- 34) 森雅亮. With/After コロナでの治験実施や医療現場における課題と取り組みについて. グラクソ・スミスクライン株式会社 外部講師招聘勉強会, 2022.
- 35) 水島万智子. Ninja データからみた悪性腫瘍合併関節リウマチにおける臨床像と治療に関する検討. JOINT seminar Vol.2, 2022.
- 36) 小澤南, 右田王介, 吉岡耕平, 北東功, 山本仁, 清水直樹. 選択的新生児スクリーニングと神経代謝病疾患. 第 6 回神経代謝病研究会, 2022.
- 37) 川畑仁人. 膠原病内科医から診た進行性線維化を伴う間質性肺疾患. ILD Web Academy, 2022.
- 38) 永渕裕子. ANCA 関連血管炎(顕微鏡的多発血管炎・多発血管炎性肉芽腫症・好酸球性多発血管炎性肉芽腫症)の基礎知識と日常生活の過ごし方. 令和 4 年度横浜市金沢区難病講演会, 2022.
- 39) 森雅亮. 小児～成人の関節リウマチに対する生物学的製剤の留意点. 大正製薬株式会社社内講演会, 2022.
- 40) 川畑仁人. 患者背景を考慮した JAK 阻害薬の検討. JAK 阻害薬を考える会 in 長野, 2022.
- 41) 安藤貴泰. 高齢者のリウマチ治療. リウマチカンファレンス in KAWASAKI, 2022.
- 42) 永渕裕子. 顕微鏡的多発血管炎等類似疾患～病気の理解と治療、日常生活について～. 令和 4 年度横浜市旭区難病講演会, 2022.
- 43) 森雅亮. 小児期発症 SLE の移行期医療とベリムマブの位置付け. 小児 LUPUS Seminar, 2022.
- 44) 櫻井恵一, 大岡正道, 遠藤信幸, 松村憲浩, 石崎克樹, 元永裕生, 森翔, 川崎達也, 鈴木翔太郎, 林祐子, 安藤貴泰, 内田麻理奈, 清川智史, 水島万智子, 殿岡久美子, 川上美里, 高桑由希子, 吉岡耕平, 今村充, 山崎和子, 永渕裕子, 杉原毅彦, 森雅亮, 川畑仁人. 乳がんとの鑑別に苦慮した IgG4 関連疾患の 1 例. 第 62 回関東リウマチ研究会, 2022.

- 45) 川畑仁人. Ninja データからリウマチ診療の今後を考える. リウマチセミナー in 多摩, 2022.
- 46) 川畑仁人. 患者背景に応じた関節リウマチ治療～TNF 阻害薬の役割を考える～. 第 127 回大分県リウマチ懇話会, 2022.
- 47) 川畑仁人. 患者背景を考慮した JAK 阻害薬の検討. RA WEB 講演会 form 伊勢原, 2022.
- 48) 川畑仁人. リウマチ治療における JAK 阻害剤の有用性・安全性. 北海道リンヴォック発売 2 周年記念講演会, 2022.
- 49) 川畑仁人. 患者背景を考慮した JAK 阻害剤の検討. JAK 阻害剤を考える会 in 横浜南・横須賀, 2022.
- 50) 高桑由希子. ジセレカの有用性～実臨床下における使用経験を踏まえて～. RA Web Conference from みなとみらい, 2022.
- 51) 川畑仁人. 患者背景を考慮した JAK 阻害薬の検討. JAK 阻害剤を考える会 in 埼玉, 2022.
- 52) 川畑仁人. 患者背景に応じた関節リウマチ治療～TNF 阻害薬の役割を考える～. RA Biologics Expert Seminar in TOHOKU, 2022.
- 53) 高桑由希子. ジセレカの有用性～実臨床下における使用経験を踏まえて～. JYSELECA T2T Seminar in 埼玉, 2022.
- 54) 林祐子. 小児期および AYA 期の SLE 診療～当院での現状と課題～. SLE Online Seminar, 2022.
- 55) 高桑由希子. ジセレカの有用性～実臨床下における使用経験を踏まえて～. RA WEB 講演会 In 東海, 2022.
- 56) 森雅亮. 不明熱からみた小児リウマチ性疾患へのアプローチ. 第 4 回 Rheumatology Expert Seminar -RA 治療に携わる次代の会-, 2022.
- 57) 森雅亮. 小児・移行期における RA(若年性突発性関節炎)治療について. リウマチ性疾患と母性外来を考える会 Vol. 2, 2022.
- 58) 川畑仁人. 患者背景に応じた関節リウマチ治療～TNF 阻害薬の役割を考える～. リウマチ Web セミナー～高齢者に求められる RA 治療とは～, 2022.
- 59) 山崎宜興. SSc のマネジメント: 腎病変の位置づけ. 第 16 回膠原病の腎障害研究会, 2022.
- 60) 川畑仁人. 自己免疫疾患の病態形成にかかわる T 細胞サブセットの解明. 第 97 回 Marianna Research Council, 2022.
- 61) 吉岡耕平. 高安動脈炎にクローン病と若年性脊椎関節炎を合併した男児の一例. 脊椎関節炎 画像診断フォーラム, 2022.
- 62) 高桑由希子. ジセレカの有用性～実臨床下における使用経験を踏まえて～. JAK 阻害剤を考える会 from 昭島, 2022.
- 63) 櫻井恵一. 当院におけるサリルマブの 5 年の軌跡とこれからを考える. Sarilumab web conference, 2022.
- 64) 川畑仁人. RA 薬物治療 UPTODATE -治療に悩む関節リウマチを中心に-. 多摩 RA セミナー, 2022.
- 65) 川畑仁人. 自己炎症性疾患における移行期医療. 自己炎症性疾患の移行期医療を考える会, 2022.
- 66) 石崎克樹. カナキヌマブ治療中の Muckle-Wells 症候群の 1 例(仮). 自己炎症性疾患の移行期医療を考える会, 2022.
- 67) 元永裕生. 乳児期に発症した全身性若年性特発性関節炎の成人期を迎えた一例. 自己炎症性疾患の移行期医療を考える会, 2022.
- 68) 高桑由希子. タブネオスカプセルの販売戦略について. アドバイザーミーティング, 2022.
- 69) 川畑仁人. 患者背景を考慮した JAK 阻害薬の検討. 若手膠原病内科勉強会, 2022.
- 70) 森雅亮. 若年性突発性関節炎(JIA)の診かた・考え方. 第 62 回リウマチカンファレンス, 2022.
- 71) 高桑由希子. ジセレカの有用性～実臨床下における使用経験を踏まえて～. JAK 阻害剤を考える会 in 九州, 2022.
- 72) 川畑仁人. 呼吸器合併症を有する関節リウマチの診療～間質性肺疾患および気道病変を中心に～. Final announcement リウマチ Web セミナー, 2022.
- 73) 川畑仁人. WoCBA(Women of Child-Bearing Age)RA 患者の実際の診療～患者視点のプレコンセプションケア～. Medical Webinar in 神奈川 若い女性患者の関節リウマチ診療, 2022.
- 74) 川畑仁人. WoCBA 世代の RA 治療～世代を超えた取り組みについて～. Tsukuba Network of Fab Forum, 2022.
- 75) 川畑仁人. SLE の病態と治療における最新の話. SLE WEB Seminar, 2022.
- 76) 森雅亮. 川崎病における冠動脈病変発症をゼロにする新たな挑戦的施策と免疫不全・ダウン症候群児における palivizumab の実際. 第 27 回阪神小児循環器疾患研究会, 2022.
- 77) 森雅亮. 若年性突発性関節炎(JIA)と成人移行期医療のアップデート. 第 38 回リウマチ研修会, 2022.
- 78) 川畑仁人. Ninja データベースから見た関節リウマチ診療の課題. 実臨床とガイドライン研究会 2nd, 2022.
- 79) 高桑由希子. ジセレカの有用性～実臨床下における使用経験を踏まえて～. 第 2 回筑後 JAK 阻害剤を考える会, 2022.
- 80) 川畑仁人. JAK 阻害薬の適切な使用を考える. MINATO OLUMIANT SEMINAR, 2022.
- 81) 大岡正道. 妊娠可能情勢における SLE 治療戦略. SLE Women's Meeting, 2022.
- 82) 高桑由希子. プレシニア患者の課題と治療戦略. Simponi Seminar for Health Care Professional in 神奈川, 2022.
- 83) 川畑仁人. 眼炎症をきたすリウマチ膠原病の臨床と病態. 東京眼炎症セミナー, 2022.
- 84) 山崎宜興. CTD-ILD: 多彩な疾患挙動とマネジメント. ILD Collaboration Conference～早期診断・治療とチーム医療～, 2022.
- 85) 山崎宜興. RA-ILD における診断・治療の現状と課題. CTD-ILD Web Academy, 2022.

- 86) 川畑仁人. 膠原病内科医から診た進行性線維化を伴う間質性肺疾患. CTD-ILD Web Academy, 2022.
- 87) 森雅亮. 自己炎症性疾患における移行期医療・他科連携の取り組みと実際. Autoinflammatory Disease Academy2022, 2022.
- 88) 川畑仁人. シンプルな関節リウマチ治療を目指して. 20221206 シンプルな RA 診療を考える会, 2022.
- 89) 川畑仁人. IL-6 阻害薬の適切な使用を考える. Sarilumab And Rheumatology Internet SARI seminar the 7 t h, 2022.
- 90) 森雅亮. 小児・移行期 SLE の治療戦略〜ベリムマブの位置付け〜. 中四国小児 SLE expert seminar, 2022.
- 91) 川畑仁人. 自己免疫とがん免疫〜がん既往・又は合併 RA に対するマネージメント〜. Personalized Strategy for the Treatment of RA, 2022.
- 92) 森雅亮. 免疫不全状態を呈する小児予防接種の現状とワクチン・感染症に関する最新の話題. 第 8 回横浜市薬剤師会学術研修会, 2022.
- 93) 高桑由希子. ジセレカの有用性〜実臨床下における使用経験を踏まえて〜. RA 診療を考える会 in 山梨, 2023.
- 94) 森雅亮. 若年・移行期から成長した成人の関節リウマチの治療について. 若年期から成人期の関節リウマチ治療を考える, 2023.
- 95) 高桑由希子. ジセレカの有用性〜実臨床下における使用経験を踏まえて〜. ジセレカ錠発売 2 周年記念講演会 in 神奈川, 2023.
- 96) 川畑仁人. 高齢 RA に対する IL-6 阻害薬の副作用マネージメント. ケブザラ Web 講演会, 2023.
- 97) 森雅亮. 小児リウマチ移行期医療の現状と取り組み状況. 2022 年度移行期医療支援研修会, 2023.
- 98) 山崎和子. 若年性特発性関節炎の最近のトピック. JOINT seminar Vol.3, 2023.
- 99) 櫻井恵一. 当院におけるサリルマブの 5 年の軌跡とこれからを考える. JOINT seminar Vol.3, 2023.
- 100) 櫻井恵一. 当院におけるサリルマブの 5 年の軌跡とこれからを考える. Kevzara Summit in Kanagawa 2023, 2023.
- 101) 高桑由希子. ジセレカの有効性〜実臨床下における使用経験を踏まえて〜. RA 診療を考える会 in 兵庫, 2023.
- 102) 高桑由希子. ライフステージに応じた関節リウマチ診療〜プレシニア世代を中心に〜. 関節リウマチセミナー〜プレシニア世代の診療課題を考える〜, 2023.
- 103) 高桑由希子. ジセレカの有効性〜実臨床下における使用経験を踏まえて〜. JAK 阻害剤を考える会 in 北海道/神奈川, 2023.
- 104) 森雅亮. 膠原病・リウマチの移行期医療. 第 9 回小児から成人までの免疫難病コンソーシアム, 2023.
- 105) 櫻井恵一. TCZ の毎週投与間隔は有用か?. 神奈川リウマチ性疾患 Evidence 検証研究会, 2023.
- 106) 櫻井恵一. SLE 治療の実際と I 型インターフェロン阻害治療への期待. 聖マリアンナ医科大学 櫻井恵一先生 社員勉強会, 2023.
- 107) 山崎和子. 慢性疾患患者さんの小児期から成人期への課題と支援-リウマチ性疾患でのとりくみ-. オンライン難病講演会, 2023.
- 108) 高桑由希子. 多様化する患者背景から RA の最適な治療を考える〜患者・医師の目線から〜. Diversity of rheumatic diseases-リウマチ性疾患の多様性を考える-, 2023.
- 109) 高桑由希子. ライフステージに応じた関節リウマチ診療〜プレシニア世代を中心に〜. 関節リウマチ治療セミナー, 2023.
- 110) 川畑仁人. 全身性エリテマトーデスの病態と治療に関する最新知見〜アニフロルマブの役割を考える〜. SLE Biologics Clinical Seminar, 2023.
- 111) 川畑仁人. 患者背景に応じた関節リウマチ治療〜TNF 阻害薬の役割を考える〜. ～Simponi Beyond 10th～ RA Biologics Expert Seminar in Fukushima, 2023.
- 112) 鈴木翔太郎. 関節炎診療のスキルアップ〜非典型的な関節症状へのアプローチ〜. RA Expert Web Seminar, 2023.
- 113) 櫻井恵一. 関節リウマチ治療におけるサリルマブの使用感と注意点. RA Web Seminar, 2023.
- 114) 川畑仁人. 関節リウマチと悪性腫瘍. リウマチ Web セミナー, 2023.
- 115) 川畑仁人, 森雅亮. 関節リウマチ患者における骨粗鬆症治療について〜チャイルドベアリングエージにおける骨粗鬆症治療〜. Kanagawa RA Bone Health Age free Conference 5th, 2023.
- 116) 山崎宜興. CTD-PH の多様性と診断・治療の難しさ. 社内研修会, 2023.
- 117) 高桑由希子. 当院での SLE の診療とアニフロルマブの使用経験. SLE 治療戦略 WEB セミナー, 2023.
- 118) ◎三原祥平, 月山秀一, 山崎和子, 中村祐太, 中川朋子, 横田健一, 曾根正勝. 抗リン脂質抗体症候群に伴う副腎出血及び原発性副腎不全を認めた一例. 第 34 回間脳・下垂体・副腎系研究会, 2023.
- 119) 水島万智子, 安藤貴泰. 呼吸器とリウマチ (JAK 阻害剤の可能性). JAK Clinical Seminar, 2023.
- 120) 川畑仁人. シンプルな関節リウマチ治療を目指して〜高齢リウマチ治療におけるリンヴォックの有用性を考える〜. 高齢化時代における RA 診療を考える会, 2023.
- 121) 川畑仁人. 全身性エリテマトーデスの病態と治療に関する最新の知見. 神奈川県 LUPUS Seminar, 2023.

- 122) 川畑仁人. 呼吸器合併症を有する関節リウマチの診療～間質性肺疾患および気道病変を中心に～, 第9回兵庫神戸RAカンファレンス, 2023.
- 123) 今村充. 当科における遺伝性血管性浮腫の現状, 膠原病で診る希少疾患-身近な症状に潜む難病 遺伝性血管性浮腫(HAE)とは?- , 2023.

		和 文	英 文
著 書		17	
論 文	原著		29
	解説又は総説	23	
	症例報告		3
	その他	3	
学会発表	国内学会	66	2
	国際学会		2
	その他	123	

神経精神科学

著書

- 1) 木下直紀. 先生たちの卒業論文 信田さよ子先生 心理臨床の広場 29 号 2022;:24.
- 2) 古茶大樹. 統合失調症の責任能力について 統合失調症という問い 脳と心の文化 2022;:111-124.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 小西公子, 芳賀俊明, 袖長光知穂, 蜂須貢. M1WT3 培養細胞を用いたラジオレセプターアッセイ系で測定した抗精神病薬の抗コリン活性. 聖マリアンナ医学雑誌, 2022;50(3): 69-76.
- 2) 菅原一晃. 病気を理由に地位から逃れること-フランシス・デ・ゴヤによる Salutogenesis の試み. 聖マリアンナ医学研究誌, 2023;23(98): 10-20.

② 総説又は症例解説

- 1) 安藤久美子. 司法精神科医からみた地域医療への期待. 日米精神神経科診療所協会誌, 2022;(特集号): 117-123.
- 2) 小野和哉. 【次世代を見据えた精神疾患の変貌】パーソナリティ障害の動向精神. 精神科, 2022;40(5): 615-621.
- 3) 安藤久美子. データでみる医学領域におけるジェンダーイクオリティの行方. 精神科治療学, 2022;37(5): 483-491.
- 4) 古茶大樹. 純粋精神医学-伝統的精神医学への回帰-. 精神神経学雑誌, 2022;124(6): 397-403.
- 5) 古茶大樹. 「治療対抗性うつ病」の盲点. 精神科治療学, 2022;37: 817-822.
- 6) 小口芳世, 古茶大樹. COVID-19 感染後の精神医学的後遺症. 精神科治療学, 2022;37(8): 909-913.
- 7) 古茶大樹. 妄想の類型論. 臨床精神病理, 2022;43: 157-163.
- 8) 安藤 久美子. 性欲が旺盛だからではない」精神科医が解説”一発アウトの性加害”を犯してしまう本当の理由. プレジデント・ウーマン・オンライン, 2022;: <https://president.jp/articles/-/62254>.
- 9) 安藤久美子. 「性欲が旺盛だからではない」精神科医が解説”一発アウトの性加害”を犯してしまう本当の理由. プレジデント・オンライン, 2022;: <https://president.jp/articles/-/62163>.
- 10) 古茶大樹. 老年期の非器質性幻覚・妄想状態. 日本医師会雑誌, 2022;151: S237-S239.
- 11) 中川敦夫. 認知行動療法. 日本医師会雑誌, 2022;151(特別号 2): S110-S114.
- 12) 安藤久美子. 術後に創部感染を繰り返しています。どうも自分でやっているかもしれません」一作為症／虚偽性障害への対応相談－. 精神科治療学精神科診療ライブ, 2022;37(増刊号): 345-348.
- 13) 安藤久美子. 巻頭言 見えざる真実をみる力：社会病理へのアプローチ. 日本社会精神医学会雑誌, 2022;31: 229-230.
- 14) 小口芳世. 「特集 本人のもつセルフスティグマに気づき、支えよう－統合失調症、認知症、そして、てんかん、ギャンブル依存症－ 統合失調症とセルフスティグマ」. 精神神経学雑誌, 2022;124: 771-777.
- 15) 笠貫浩史. 認知症とスティグマをめぐって. 精神神経学雑誌, 2022;124(11): 778-784.
- 16) 笠貫浩史. 特集認知症. 初期対応. レビー小体型認知症. 精神科 Resident, 2022;3(4): 252-254.
- 17) 安藤久美子, 戸邊友揮. 自閉スペクトラム症の理解と対応. 精神科, 2023;42(1): 124-131.
- 18) 天野瑞紀, 中川敦夫. うつ病の認知行動療法 update. 臨床精神医学, 2023;52(1): 53-59.
- 19) 小口芳世. 特集 今、あらためて考えるうつ病の診断と治療－ 適応障害とうつ病は鑑別できるか. 臨床精神医学, 2023;52(1): 21-25.
- 20) 古茶大樹. Kurt Schneider の「臨床精神病理学」. 精神神経誌, 2023;125: 158-166.
- 21) 中川敦夫. 反復性うつ病の抑うつ的反すうへの対応を探る－反すう焦点化認知行動療法の出会いと実践－. 臨床精神医学, 2023;52(2): 155-159.

③ 症例報告

- 1) 小野和哉, 金子律子, 安藤久美子, 小口芳世, 神山昌也, 塚原さち子, 塩野鈴佳, 鈴木亜也加. デジタル耳栓の自閉スペクトラム症 音響過敏症への臨床応用に関する研究. 最新精神医学, 2022;27(5): 377-381.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Ikenouchi A, Konno Y, Fujino Y, Adachi N, Kubota Y, Azekawa T, Ueda H, Edagawa K, Katsumoto E, Goto E, Hongo S, Kato M, Tsuboi T, Yasui-Furukori N, Nakagawa A, Kikuchi T, Watanabe K, Yoshimura R. Relationship Between Employment Status and Unstable Periods in Outpatients with Bipolar Disorder: A Multicenter Treatment Survey for Bipolar Disorder in Psychiatric Outpatient Clinics (MUSUBI) Study. Neuropsychiatr Dis Treat, 2022;18: 801-809.

- 2) Nogami W, Nakagawa A, Kato N, Sasaki Y, Kishimoto T, Horikoshi M, Mimura M. Efficacy and Acceptability of Remote Cognitive Behavioral Therapy for Patients With Major Depressive Disorder in Japanese Clinical Settings: A Case Series. *Cogn Behav Pract*, 2022; : doi: 10.1016/j.cbpra.2022.04.002. Online ahead of print.
 - 3) Asaoka D, Jinzhong Xiao J, Takeda T, Yanagisawa N, Yamazaki T, Matsubara Y, Sugiyama H, Endo N, Higa M, Kasanuki K, Ichimiya Y, Koido S, Ohno K, Bernier F, Katsumata N, Nagahara A, Arai H, Ohkusa T. Effect of probiotic *Bifidobacterium breve* in improving cognitive function and preventing brain atrophy in older patients with suspected mild cognitive impairment: Results of a 24-week randomized, double-blind, placebo-controlled trial. *J Alzheimers Dis*, 2022;88(1) : 75-95.
 - 4) Valentino RR, Ramnarine C, Heckman MG, Johnson PW, Soto-Beasley AI, Walton RL, Koga S, Kasanuki K, Murray ME, Uitti RJ, Fields JA, Botha H, Ramanan VK, Kantarci K, Lowe VJ, Jack CR, Ertekin-Taner N, Savica R, Graff-Radford J, Petersen RC, Parisi JE, Reichard RR, Graff-Radford NR, Ferman TJ, Boeve BF, Wszolek ZK, Dickson DW, Ross OA. Mitochondrial genomic variation in dementia with Lewy bodies: association with disease risk and neuropathological measures. *Acta Neuropathol Commun*, 2022;10(1) : 103.
 - 5) Kawamata Y, Yasui-Furukori N, Adachi N, Ueda H, Hongo S, Azekawa T, Kubota Y, Katsumoto E, Edagawa K, Goto E, Miki K, Kato M, Nakagawa A, Kikuchi T, Tsuboi T, Yoshimura R, Shimoda K, Watanabe K. Effect of age and sex on prescriptions for outpatients with bipolar disorder in the MUSUBI study: a cross-sectional study. *Ann Gen Psychiatry*, 2022;21(1) : 37.
 - 6) Erika Kuzminskaite, Anouk W Gathier, Pim Cuijpers, Brenda W J H Penninx, Robert T Ammerman, Eva-Lotta Brakemeier, Sanne Bruijnicks, Sara Carletto, Trisha Chakrabarty, Katie Douglas, Boadie W Dunlop, Moritz Elsaesser, Frank Euteneuer, Anne Guhn, Elizabeth D Handley, Erkki Heinonen, Marcus J H Huibers, Andrea Jobst, Gary R Johnson, Daniel N Klein, Johannes Kopf-Beck, Lotte Lemmens, Xiao-Wen Lu, Somaia Mohamed, Atsuo Nakagawa, Satoshi Okada, Winfried Rief, Leonardo Tozzi, Madhukar H Trivedi, Suzanne van Bronswijk, Patricia van Oppen, Sidney Zisook, Ingo Zobel, Christiaan H Vinkers. Treatment efficacy and effectiveness in adults with major depressive disorder and childhood trauma history: a systematic review and meta-analysis. *Lancet Psychiatry*, 2022;9(11) : 860-873.
 - 7) Nogami W, Nakagawa A, Katayama N, Kudo Y, Amano M, Ihara S, Kurata C, Kobayashi Y, Sasaki Y, Ishikawa N, Sato Y, Mimura M. Effect of Personality Traits on Sustained Remission Among Patients with Major Depression: A 12-Month Prospective Study. *Neuropsychiatr Dis Treat*, 2022;28(18) : 2771-2781.
 - 8) Amano M, Katayama N, Umeda S, Terasawa Y, Tabuchi H, Kikuchi T, Abe T, Mimura M, Nakagawa A. The effect of cognitive behavioral therapy on future thinking in patients with major depressive disorder: A randomized controlled trial. *Front Psychiatry*, 2023;25(14) : 997154.
 - 9) Tamura NT, Shikimoto R, Nagashima K, Sato Y, Nakagawa A, Irie S, Iwashita S, Mimura M, Fujisawa D. Group multi-component programme based on cognitive behavioural therapy and positive psychology for family caregivers of people with dementia: a randomised controlled study (3C study). *Psychogeriatrics*, 2023;23(1) : 141-156.
 - 10) Tokumitsu K, Yasui-Furukori N, Adachi N, Kubota Y, Watanabe Y, Miki K, Azekawa T, Edagawa K, Katsumoto E, Hongo S, Goto E, Ueda H, Kato M, Nakagawa A, Kikuchi T, Tsuboi T, Watanabe K, Shimoda K, Yoshimura R. Predictors of psychiatric hospitalization among outpatients with bipolar disorder in the real-world clinical setting. *Front Psychiatry*, 2023;16(14) : 1078045.
- ② 症例報告
- 1) Kasanuki K, Nishiguchi M, Hagiwara M, Natsume S, Katsuta N, Ichimiya Y, Sato K. Case report: Late-onset mania as a presentation of underlying Lewy body disease. *Bipolar Disorders*, 2022;24(6) : 693-696.
 - 2) Oguchi Y, Nakagawa A, Kocha H. A case of postpsychotic depression improved by switching antipsychotic monotherapy. *Neuropsychopharmacol Rep*, 2023;43(1) : 146-149.
- ③ その他
- 1) Oguchi Y. Impact of the COVID-19 Pandemic on Medication Adherence and Maintenance Treatment for Schizophrenia: A Reconsideration [Letter]. *Neuropsychiatr Dis Treat*, 2022;22(18) : 2979-2980.

学会発表

① 国内学会

- 1) 伏屋研二, 菅原一晃, 瀬下翔也, 勝村恭子, 古茶大樹. 全身性エリテマトーデスの増悪時に生じた Schneider の一級症状が遷延し、統合失調症が疑われた 1 例. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 2022.
- 2) 小口芳世. 家族が経験するスティグマとは?. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 2022.
- 3) 古茶大樹. 臨床精神病理学的視点から見たケース・カンファレンス. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 2022.
- 4) 安藤久美子. Impact of COVID-19 on Japanese Children. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 2022.
- 5) 小口芳世. 総合病院における精神医療に対するスティグマ ～COVID-19 事例対応もまじえて～. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 2022.
- 6) 戸邊友揮, 清水梨々花, 安藤久美子. わが国の一般人口における触法精神障がい者の社会受容に関する分析. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 2022.
- 7) 古茶大樹. 内因性精神病の責任能力について. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 2022.
- 8) 清水梨々花, 戸邊友揮, 安藤久美子. 触法精神障がい者の社会共生に関わる要因分析：全国実態調査から. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 2022.
- 9) 中川敦夫. Part2：急性期、安定・維持期の統合失調症治療. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 2022.
- 10) 中川敦夫. 認知行動療法マニュアルが備えておくべきもの：診療の質の確保を目指して. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 2022.
- 11) 古茶大樹. 統合失調症とは何かー精神病理学的視点からー. 第 24 回有床総合病院精神科フォーラム, 2022.
- 12) 袖長光知穂, 勝村恭子, 古茶大樹. 7 つの着眼点について. 第 18 回日本司法精神医学会, 2022.
- 13) 中川敦夫. 職域におけるうつ病のマネジメント：認知行動療法的アプローチの活用. 第 29 回日本産業精神学会, 2022.
- 14) 中川敦夫. 難治性うつ病に対する認知行動療法. 第 19 回日本うつ病学会総会, 2022.
- 15) 中川敦夫. 各ライフステージにおける女性のメンタルヘルス. 第 50 回日本女性心身医学会学術集会／第 34 回日本女性心身医学会研修会, 2022.
- 16) 木下直紀. 克服したつむりの心もとなさと、諦めてしまった希望を思い出させてくれる機会ー医療現場での実習生指導の経験. 日本心理臨床学会第 41 回大会 教育・研修委員会シンポジウム「心理臨床の初学者に学ぶー教育・研修における相互作用ー」, 2022.
- 17) 古茶大樹. 教育講演「純粋精神医学の思想 精神医学における疾患とは」. 第 41 回日本精神科診断学会, 2022.
- 18) 安藤久美子. 他者への不利益行動：司法精神医学的観点からの考察. 第 30 回日本精神科救急学会学術総会, 2022.
- 19) 木下直紀. COVID-19 対応総合病院における医療従事者への心理支援ー当事者としての専門家によるピアサポートの報告ー. 日本心理臨床学会第 41 回大会, 2022.
- 20) 木下直紀, 三根芳明. 精神科急性期病棟における絵画療法の意義. 日本芸術療法学会, 2022.
- 21) 工藤弘毅. 「純粋精神医学」とは何か. 第 25 回日本精神医学史学会大会, 2022.
- 22) 笠貫浩史, 加藤伸司, 本間昭, 繁田雅弘, 松下正明. 長谷川和夫先生の功績を辿りその精神を引き継ぐ. 第 41 回日本認知症学会学術集会／第 37 回日本老年精神医学会合同開催, 2022.
- 23) 笠貫浩史, 西口素, 萩原幹子, 比賀雅行, 夏目俊太郎, 済田貴生, 遠藤野絵美, 杉山秀樹, 佐藤潔, 一宮洋介. 物忘れ外来で実施するレビュー小体病症状簡易質問紙”DCARD”の有用性. 第 41 回日本認知症学会学術集会／第 37 回日本老年精神医学会合同開催, 2022.
- 24) 三宅誠実, 芳賀俊明, 戸邊友揮, 小口芳世, 安藤久美子. MK-801 を用いた統合失調症様モデルマウスに対する水素ガス療法の有用性. 第 44 回日本生物学的精神医学会, 2022.
- 25) 瀬下翔也, 菅原一晃, 鈴木洋平, 三宅誠実, 古茶大樹. 外傷を契機にパリペリドンによる錐体外路症状が出現し、ロナセンテープへの切り替えて症状が速やかに改善した症例. 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会学術集会, 2022.
- 26) 古茶大樹. 特別講演「精神療法のエッセンス」. 第 53 回日本芸術療法学会, 2022.
- 27) 藤澤大介, 田島美幸, 田村法子, 近藤裕美子, 菊地俊暁, 中川敦夫, 大野裕. 本邦における認知行動療法の実施状況：全国医療機関調査より. 第 22 回日本認知療法・認知行動療法学会, 2022.
- 28) 田島美幸, 小林由季, 清水恒三朗, 岡田佳詠, 大嶋伸雄, 前田初代, 丹野義彦, 中川敦夫, 藤澤大介. 認知行動療法における多職種連携マニュアルの開発. 第 22 回日本認知療法・認知行動療法学会, 2022.
- 29) 倉田知佳, 満田大, 片山奈理子, 野上和香, 佐々木洋平, 中川敦夫. うつ病に対する認知行動療法の持続性効果：長期追跡の検討. 第 22 回日本認知療法・認知行動療法学会, 2022.
- 30) 小林由季, 中川敦夫, 田島美幸, 満田大, 大野裕, 三村将. 認知行動療法実施における現状とその課題ー厚生労働省認知行動療法研修事業アンケート結果よりー. 第 22 回日本認知療法・認知行動療法学会, 2022.
- 31) 中川敦夫. わが国の精神科医療の中で精神科専門療法としての CBT. 第 22 回日本認知療法・認知行動療法学会, 2022.
- 32) 棚橋淳子, 藤井真樹, 白井美江子, 組原寛之, 笠貫浩史, 古茶大樹, 井上ふみ子, 奥瀬千晃, 長島悟郎. COVID-19 患者関連メンタルサポートチーム活動 川崎市立多摩病院における職員への支援. 第 60 回全国自治体病院学会, 2022.

- 33) 谷田部かなか, 足利光平, 室井良太, 内田将司, 日高岳, 橋本和明, 染村嵩, 井上留美子, 寺脇史子, 小野寺英孝, 藤谷博人. アンケートを利用した小児における脳振盪に関する調査について. 第33回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2022.
- 34) 小野和哉. コロナ禍での発達障害児の状況とICT教育. 第63回日本児童青年精神医学会総会, 2022.
- 35) 大野裕, 中川敦夫, 菊地俊暁. CBT スキルアップ: 認知療法・認知行動療法の基礎固め. 第22回日本認知療法・認知行動療法学会, 2022.
- 36) 大野裕, 中川敦夫, 菊地俊暁. 面接動画を用いたスキルアップ: 臨床実践においてつまづきやすいポイント. 第22回日本認知療法・認知行動療法学会, 2022.
- 37) 小西公子, 芳賀俊明, 袖長光知穂, 蜂須貢, 古茶大樹. 抗コリン作用からみた抗精神病薬の薬剤選択. 第37回日本老年精神医学会大会第41回日本認知症学会学術集会, 2022.
- 38) 田所正典, 笠貫浩史, 袖長光知穂, 橋本知明, 工藤弘毅, 木下英子, 古茶大樹. 認知症介護家族への支援の創生とこれから～長谷川和夫先生追悼に寄せて～. 第37回日本老年精神医学会大会第41回日本認知症学会学術集会, 2022.
- 39) 工藤弘毅, 丹羽恵佑, 神山昌也, 笠貫浩史, 古茶大樹. DLB-psych が疑われた措置入院の1例: 構造分析 (Birnbau) による症例定式化の試み. 第41回日本認知症学会学術集会/第37回日本老年精神医学会, 2022.
- 40) 安藤久美子. 死因究明等の推進と犯罪学. 第59回日本犯罪学会総会, 2022.
- 41) 福原里恵, 野崎昌俊, 田口律代, 吉田佳織, 廣明由子, 尾方綾, 竹下由菜, 間宮規子, 柿沼千秋, 坂上彩, 羽布律碧, 林英美子, 片岡英里奈. 「児の最善の利益」を話し合うために～家族との話し合いが進まなくなった事例を通して考えよう～. 第66回日本新生児成育医学会・学術集会, 2022.
- 42) 安藤久美子. 「神経発達症」のこれまでとこれから. 第62回日本心身医学会九州地方会, 2023.
- 43) 小口芳世, 根本隆洋, 森良一, 山口大樹, 神尾陽子, 水野雅文. 日本の高校生における精神疾患に関する知識の現状. 第41回日本社会精神医学会, 2023.

② 国際学会

- 1) Kasanuki K, Nishiguchi M, Hagiwara M, Natsume S, Katsuta N, Ichimiya Y, Sato K. Case report: late-onset mania as a presentation of underlying Lewy body disease. International Lewy body dementia Conference 2022, 2022.
- 2) Kumiko ANDO. COVID-19's Impact on Women and Children in Japan. 9th World Congress on Women's Mental Health, 2022.
- 3) KAZUYA ONO, KUMIKO ANDO, YUKI TOBE, TOSHIKI HAGA. RESEARCH ON THE POSSIBILITY OF TREATING AUTISM SPECTRUM DISORDERS WITH ANIMAL TYPE ROBOTS. 25th World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions, 2022.

③ その他

- 1) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究 研究分担班班会議, 2022.
- 2) 小口芳世. コロナ禍における統合失調症に対するLAI治療. Otsuka Web Seminar (株) 大塚製薬, 2022.
- 3) 古茶大樹. 精神医学における疾患とは. デエビゴ発売2周年記念講演会, 2022.
- 4) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究 研究分担班班会議, 2022.
- 5) 小口芳世. 日本初の大学病院におけるLAI外来～MILAI外来の将来展望～. Change LAI Concept Seminar (株) ヤンセンファーマ, 2022.
- 6) 安藤久美子. 精神障害・発達障害について. 取調べ技術専科(講演) 警察大学校, 2022.
- 7) 古茶大樹. 統合失調症とは何か. Expert Lecture Meeting, 2022.
- 8) 中川敦夫. 臨床研究と倫理: 倫理委員の審査の視点～研究を審査する際に留意しているポイント2022～. 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター第41回臨床研究推進啓発セミナー, 2022.
- 9) 小口芳世. 地域における統合失調症治療を考える. 統合失調症治療地域医療連携を考える会(株) Meiji Seika ファルマ, 2022.
- 10) 安藤久美子. 司法精神医学. 埼玉医科大学(特別講義), 2022.
- 11) 中川敦夫. 臨床研究入門: 研究デザイン概説. 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター臨床研究講習会, 2022.
- 12) 安藤久美子. 精神医学Ⅰ. 裁判所書記官養成課程第一部第19期研修・第二部第18期研修 家庭裁判所調査官養成課程第19期研修(講師), 2022.
- 13) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究 研究分担班班会議, 2022.

- 14) 安藤久美子. 精神医学Ⅱ責任能力について. 裁判所書記官養成課程第一部第19期研修・第二部第18期研修 家庭裁判所調査官養成課程第19期研修(講師), 2022.
- 15) 中川敦夫. プロトコールコンセプト: 研究疑問定式化(PICO)と design. R4年度厚生労働省臨床研究・治験従事者研修事業, 2022.
- 16) 中川敦夫. 双極性障害の治療アドヒアランスを考えるー精神療法的アプローチによる工夫ー. 第1回川崎市精神科医会学術講演会, 2022.
- 17) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究 研究分担班班会議, 2022.
- 18) 笠貫浩史. レビー小体型認知症の初期症状に関して. 第2回Psychiatric Zoom Meeting, 2022.
- 19) 古茶大樹. 統合失調症とは何か. 第10回京都統合失調症フォーラム, 2022.
- 20) 安藤久美子. 解離性障害と精神鑑定. 第1回安田班研究班会議「刑事裁判における争点整理・事実認定を見据えた責任能力論の課題解決」, 2022.
- 21) 菅原一晃. 薬物療法に臨むヤスバース 精神病的に薬物療法を考える. 第2回Next Generation Doctor's Conference (株) Meiji Pharma, 2022.
- 22) 菅原一晃, 三浦裕介, 矢鉾隆史, 長塚雄大. 精神療法を活かした診療の工夫. 第2回Next Generation Doctor's Conference (株) Meiji Pharma, 2022.
- 23) 中川敦夫. コロナ禍でのうつ・不安への対応: ~認知行動療法のアプローチを上手に活用しよう~. 新宿区保健所保健予防課, 2022.
- 24) 笠貫浩史. Season8~認知症疾患医療センターを中心に~. 当センターにおける取組みと連携について. DLBWeb セミナー, 2022.
- 25) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究 研究分担班班会議, 2022.
- 26) 古茶大樹. 精神医学における疾患とは. 令和4年度「多職種連携交流会」, 2022.
- 27) 中川敦夫. 厚生労働省認知行動療法研修事業. 認知行動療法の基盤研修及びうつ病に係る認知行動療法研修, 2022.
- 28) 木下直紀, 岩倉拓, 岡田美穂子. なぜか語られない臨床のエッジ. <あざみのCafe×JFPSP ラジオアネックス>スペシャルコラボ企画! 『話せないハナシ』~みんなで話せば大丈夫~, 2022.
- 29) 中川敦夫. 事例検討会(精神保健相談). R4年度新宿区四谷保健センター事業, 2022.
- 30) 安藤久美子. 被害児童の心理と特性. 「児童の性的搾取事犯専科」教養(講演), 警察大学校, 2022.
- 31) 安藤久美子. 精神障害と責任能力. 検事一般研修, 法務総合研究所, 2022.
- 32) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究 研究分担班班会議, 2022.
- 33) 中川敦夫. うつ病の標準治療研修. 第1回うつ病の標準治療研修, 2022.
- 34) 中川敦夫. 未来を見据えたうつ病治療~認知行動療法の視点から~. 横浜・川崎うつ病講演会, 2022.
- 35) 笠貫浩史. 意識とレビー小体型認知症. 第32回NPネットワーク研究会, 2022.
- 36) 小口芳世. 統合失調症における抑うつ(post psychotic depression)に関する最近の話題 -1例をまじえて-. Schizophrenia Forum 2022 (株) 住友ファーマ, 2022.
- 37) 安藤久美子. 知的障害・発達障害を有する者の取調べ要領. 捜査実務専科(講師), 関東管区警察局, 2022.
- 38) 菅原一晃. 日常臨床における睡眠障害 ~生活指導から薬物療法まで~. 横浜市西部 不眠症診療を考える (株) エイザイ, 2022.
- 39) 笠貫浩史. 指定討論. 新時代を迎える認知症診療. 第38回Brain Function Imaging Conference, 2022.
- 40) 安藤久美子. 発達障害と司法精神医学. 医療観察法等司法精神医学委員会勉強会, 日本精神神経科診療所協会(講師), 2022.
- 41) 安藤久美子. 統合失調症と暴力. 多摩 Schizophrenia 研究会(特別講演), 2022.
- 42) 安藤久美子. 慢性疼痛. 慢性疼痛を考える会, 2022.
- 43) 小口芳世. 1ヶ月製剤から3ヶ月製剤へーゼプリオン TRI は実臨床に何をもたらしたのか?. 第2回 SUPER NEXT GENERATION (株) ヤンセンファーマ, 2022.
- 44) 中川敦夫. 臨床研究デザイン概論. 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター2022年度臨床研究プロトコールワークショップ, 2022.
- 45) 安藤久美子. 再犯防止に関する取り組み. 川崎市再犯防止推進会議(講演), 2022.
- 46) 古茶大樹. 精神医学における疾患とは. 精神科医療を考える in 但馬, 2022.
- 47) 中川敦夫. 未来を見据えたうつ病治療~認知行動療法を中心に~. うつ病治療を考える in 神奈川, 2022.

- 48) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究 研究分担班班会議, 2022.
- 49) 小口芳世. 精神科医療従事者としてスティグマに向き合う ～アンチスティグマ教育の重要性～. Lundbeck Psychiatry Expert Seminar (株) ルンドベック・ジャパン, 2022.
- 50) 小口芳世. 日本の高校生における精神疾患に関する知識の現状. 東邦慶應 Lab ミーティング, 2022.
- 51) 笠貫浩史. 「“高齢者うつ病”を診ること」について. 第1回 Psychiatry Expert Web Seminar, 2022.
- 52) 小口芳世. LAI に対する患者さんの受け入れと精神科医の Attitude. 統合失調症当事者と家族の退院後の生活を見据えた治療を考える会 (株) ヤンセンファーマ, 2022.
- 53) 笠貫浩史. レビー小体型認知症の見立てについて. 横浜市精神科医学会学術講演会, 2022.
- 54) 小口芳世. コロナ禍の統合失調症治療における LAI. HOPE IN SCHIZOPHRENIA ゼプリオン TRI 発売 2 周年記念講演会 ～山梨県立北病院が今、最新の LAI 治療を考える～ (株) ヤンセンファーマ, 2022.
- 55) 中川敦夫. 未来を見据えたうつ病治療: 認知行動療法を活用する. S-RIM 講演会, 2022.
- 56) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究 研究分担班班会議, 2022.
- 57) 中川敦夫. 臨床研究入門: 研究デザイン概説. 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター臨床研究講習会, 2022.
- 58) 安藤久美子. 統合失調症の社会心理的治療. 大塚製薬社内研修会 (講演), 2022.
- 59) 小口芳世. 不眠症の治療について ～睡眠衛生指導の重要性と薬物治療～. 第2回 神奈川精神科薬物療法専門薬剤師セミナー (株) エーザイ, 2022.
- 60) 安藤久美子. ケースアセスメントと多角的な支援を考える～性被害. NPO メンタルケア協議会事例検討研修会 (講師), 2022.
- 61) 安藤久美子. 解離等の精神鑑定. 第14回刑事精神鑑定ワークショップ (講師), 2022.
- 62) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究 研究分担班班会議, 2022.
- 63) 瀬下翔也. ミルタザピンが著効したうつ病の一例. うつ病の薬物療法を再考する (株) 住友ファーマ, 2023.
- 64) 安藤久美子. 低年齢の性加害を含む問題行動を反復している少年に対する調査と働き掛けの在り方について. 横浜家庭裁判所川崎支部研修会 (特別講演), 2023.
- 65) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究 研究分担班班会議, 2023.
- 66) 笠貫浩史. 「高齢者のうつ病」の臨床的整理ーレビー小体病も含めてー. 埼玉精神神経診療所協会イブニングセミナー, 2023.
- 67) 菅原一晃. 行動する人間～脳科学からみたうつ病と トリンテリックスの可能性～. MDD Expert Meeting (株) ルンドベック ジャパン社/武田薬品工業株式会社, 2023.
- 68) 田所正典. 認知症の人への心理アセスメントの基礎「認知症の人のアセスメントの基礎」「観察・聴き取りの方法とポイント」. 日本公認心理士協会研修会講師, 2023.
- 69) 小口芳世. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 後の精神医学的後遺症. 蔵戸田医師会学術講演会 共催 蔵戸田医師会 (株) 武田薬品工業 (株) ルンドベック・ジャパン, 2023.
- 70) 安藤久美子. わが国における性犯罪者治療の今～性犯罪者の治療介入アプローチ: SPIRITS の開発と実践. 警察庁国際セミナー第7回子供の性被害防止セミナー (特別講演), 2023.
- 71) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究 研究分担班班会議, 2023.
- 72) 中川敦夫. 医学研究の倫理と倫理審査委員会の役割. R4 年度厚生労働省治験・倫理審査委員会委員研修事業, 2023.
- 73) 中川敦夫. 未来を見据えたうつ病治療～認知行動療法を中心に～. メンタルケアセミナー, 2023.
- 74) 安藤久美子. 精神障害と責任能力. 検事専門研修, 法務総合研究所, 2023.
- 75) 菅原一晃. アセナピンは SDM に活かせるか. 第3回 Next Generation Doctor's Conference (株) Meiji Pharma, 2023.
- 76) 安藤久美子. 知的障害・発達障害を有する者の取調べ要領. 捜査実務専科 (講師), 関東管区警察局, 2023.
- 77) 中川敦夫. ブラッシュアップセミナー・スーパーバイザー会議. 厚生労働省認知行動療法研修事業, 2023.
- 78) 小口芳世. 双極性障害治療のいま 2023. 首都圏大学連携の会～双極性障害治療を再考する～ (株) 共和薬品工業, 2023.
- 79) 小口芳世. 措置通報および措置入院の実態に関する研究. 良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究 研究分担班班会議, 2023.
- 80) 中川敦夫. 働く人のストレスマネジメント～認知行動療法的アプローチを使った働く人のメンタルヘルス・マネジメントのコツ!～. 公益財団法人神奈川県労働福祉協会講演, 2023.

- 81) 安藤久美子. 医師から学ぶ精神鑑定ビギナーズ. 東京第一弁護士会, 2023.
- 82) 安藤久美子. こころといたみを考える. 第一三共製薬 (講演), 2023.

		和 文	英 文
著 書		2	
論 文	原著	2	10
	解説又は総説	21	
	症例報告	1	2
	その他		1
学会発表	国内学会	43	
	国際学会		3
	その他	82	

小児科学（小児科・新生児）

著書

- 1) 今泉太一. てんかんってなに？ 波 2022;:4-4.
- 2) 勝田友博. ワクチンの基礎知識 Infection Control 2022;5(31):88-92.
- 3) 勝田友博. HPV ワクチンの接種をすすめるために モダンメディア 2022;5(68):21-25.
- 4) 北洋輔, 澤江幸則, 古莊純一, 加久翔太郎. 小児の運動に関わる疾患や障害 DCD・不器用な子も楽しめるスポーツがある社会のために 2022;1(1):14-20.
- 5) 小町詩織, 長江千愛. エキスパートに学ぶ DIC の診断と治療 ガイドラインと“オレ流”は共存できる? Thrombosis Medicine 2022;2(12):8-8.
- 6) 長江千愛. その他の後天性凝固異常症, 血液凝固障害物質 小児血液・腫瘍学 改訂第2版 2022;(2):15-17.
- 7) 三浦慎也, 川口敦. 重症患者搬送中の人口呼吸管理～個人、搬送チーム、施設レベルでの総合アプローチが重要～ LiSA 周術期管理を核とした総合誌 2022;7(29):670-675.
- 8) 川口敦. なぜ今、搬送医療、搬送医学が注目され始めてているのか～安全かつ効果的な搬送を実践するためのヒント～ LiSA 周術期管理を核とした総合誌 2022;7(29):642-647.
- 9) 吉村 博, 上原 正嗣. 第25章 小児：新生児から青年期まで ベイツ診察法 Bate's Guide to Physical Examination and History Taking 13th Edition 訳 2022;(3):955-1104.
- 10) 勝田友博. 国内における HPV ワクチンの現状 日本ワクチン学会ニュースレター 2022;:5-7.
- 11) 宮地麻衣. コラム 日本でクエン酸の出番はあるのか？ クエン酸の良い点と困る点 小児救命救急・ICU ピックアップ⑥血液浄化 2022;:73-73.
- 12) 長江千愛. 先天性および後天性血管障害による出血 血液疾患最新の治療 2023-2025 2022;:203-206.
- 13) 勝田友博. 小児の COVID-19 感染症 ドクターサロン 2022;:33-37.
- 14) 宮本雄策. どのような場合に専門医に紹介するのが望ましいですか？ 初心者のための小児のてんかん・けいれん 2022;(初版):1-354.
- 15) 宮地麻衣, 川口敦. 腎不全、血液浄化法、腹膜透析、利尿薬 小児集中治療ポケットブック 2022;:149-165.
- 16) 長江千愛. VII. 血液・腫瘍性疾患
9. 血友病 小児内科 2022 年 54 巻増刊号 小児疾患診療のための病態生理 3 2022;(6):5-5.
- 17) 山下敦己, 瀧正志. 血友病 小児科診療ガイドラインー最新の診療指針ー 2023;(5):437.
- 18) 勝田友博. With/After コロナ時代の VPD 医学と薬学 2023;:149-154.
- 19) 勝田友博. HPV ワクチン騒動 日本医事新報 2023;:63-63.
- 20) 北住映二(監修)、宮本雄策(編集). 医療的ケア研修テキスト・改定増補版 2023;(初版):1-265.
- 21) 勝田友博. おたふくかぜワクチン調査 日本医事新報 2023;:59-59.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 小町 詩織, 長江 千愛, 森内 美希, 置塩 英美, 鈴木 真波, 山下 敦己, 北東 功, 瀧 正志, 清水 直樹. 新生児 DIC との鑑別が必要な病態についての検討. 日本産婦人科・新生児血液学会誌, 2022;31(2):159-165.
- 2) 宮地麻衣. 公衆衛生大学院体験談:海外編. INTENSIVIST, 2022;14(3):596-600.
- 3) 三浦慎也, 川口敦. scientific writing とは-新しい知見を広め、知ってもらうために. INTENSIVIST, 2022;14(3):503-513.
- 4) 川口敦. 質の高い臨床研修実施のために必要な要素とは. INTENSIVIST, 2022;14(3):461-466.
- 5) 秋山類, 吉田拓司, 齊藤修, 清水直樹. ECMO 装着小児の院内搬送における搬送用熱交換装置による低体温防止効果. 医工学治療, 2022;34(3):133-140.
- 6) 勝田友博, 清水直樹, 神谷元, 天羽晴子, 大城誠, 菅秀, 津川毅, 西村直子, 菱木はるか, 藤岡雅司, 細矢光亮, 水野由美, 吉川哲史, 和田泰三, 石和田稔彦, 是松聖悟, 中野貴司, 宮入烈, 尾内一信, 齋藤昭彦, 森内浩幸, 多屋馨子, 日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会. データベースを用いた国内小児新型コロナウイルス感染症の臨床症状に関する評価. 日本小児科学会誌, 2023;127(1):79-83.

② 総説又は症例解説

- 1) 勝田友博. 国内における小児 COVID-19 の現状と今後. 小児感染免疫, 2022;34(3):235-243.
- 2) 清水直樹. 【ガイドラインから見た最新の救急蘇生法】小児、新生児の救急蘇生法. 日本医師会雑誌, 2022;151(6):977-980.

- 3) 宮本雄策. 小児神経専門医から見た学校における医療的ケアとその課題について. 学校保健研究, 2022;64(3) : 212-215.
- 4) 中村幸嗣, 勝田友博. 各論Ⅱ 各種感染症における迅速検査と最新の診断技術 COVID-19. 小児科臨床, 2022; : 85-85.
- 5) 清水直樹. 【With/After コロナ時代の小児感染症】After コロナ時代への備え. 医学と薬学, 2023;80(2) : 177-181.

③ 症例報告

- 1) 鈴木 智裕, 西山 昌秀, 田口 さやか, 近藤 千雅, 岩澤 裕之, 志堅原 隆広, 星野 姿子, 長江 千愛, 瀧 正志. 初発の膝関節内出血後に生じた伸展可動域制限に対して理学療法介入が奏効した月齢8ヵ月の血友病A患児. 理学療法-技術と研究-, 2022;50 : 95-98.
- 2) 小町詩織, 北東功, 森内美希, 鈴木真波, 長江千愛, 瀧正志. 臍動脈カテーテル留置により腹部大動脈血栓症を発症した超低出生体重児の一例. 日本産婦人科・新生児血液学会誌, 2022;32(1) : 3-4.

④ その他

- 1) 中村幸嗣, 勝田友博, 清水直樹, 神谷元, 天羽清子, 大城誠, 菅秀, 津川毅, 西村直子, 菱木はるか, 藤岡雅司, 細矢光亮, 水野由美, 吉川哲史, 和田泰三, 石和田稔彦, 是松聖悟, 中野貴司, 宮入烈, 尾内一信, 相澤悠太, 庄司健介, 齋藤昭彦, 森内浩幸, 多屋馨子. コロナウイルス感染症 2019 流行下における国内小児医療の現状に関する調査. 日本小児学会雑誌, 2023;127(1) : 84-89.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Takae Seido, Furuta Shigeyuki, Iwahata Hideyuki, Iwahata Yuriko, Keino Dai, Kanamori Ryo, Oyama Kei, Tanaka Kunihide, Shiraishi Eriko, Suzuki Yuki, Sugishita Yodo, Horage Yuki, Sakamoto Miki, Mori Tetsuya, Kitagawa Hiroaki, Suzuki Nao. Cryopreservation of paediatric ovarian tissue with an updated version of the Edinburgh criteria for appropriate patient selection. Reproductive biomedicine online, 2022;44(4) : 667-676.
- 2) Junichi Hara, Chika Nitani, Hiroyuki Shichino, Tatsuo Kuroda, Tomoro Hishiki, Toshinori Soejima, Tetsuya Mori, Kimikazu Matsumoto, Yoji Sasahara, Tomoko Iehara, Takako Miyamura, Yoshiyuki Kosaka, Tetsuya Takimoto, Akira Nakagawara, Tatsuro Tajiri. Outcome of children with relapsed high-risk neuroblastoma in Japan and analysis of the role of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Japanese Journal of Clinical Oncology, 2022;52(5) : 486-492.
- 3) Michaël Levy, Lestrade Victor, Carla Said, Philippe Juvet, Atsushi Kawaguchi. Consequences of Social Distancing Measures During the COVID-19 Pandemic First Wave on the Epidemiology of Children Admitted to Pediatric Emergency Departments and Pediatric Intensive Care Units: A Systematic Review. Frontiers in Pediatrics, 2022;https://doi.org/10.3389/fped.2022.-874045.
- 4) Stephane Bourassa, Daniel Noebert, Marc Dauphin, Jerome Rambaud, Atsushi Kawaguchi, François Léger, Daan Beijer, Yvan Fortier, Mina Dligui, Hristijan Ivanovski, Serge Simard, Philippe Juvet, Jacinthe Leclerc. Acute care for patients exposed to a chemical attack: protocol for an international multicentric observational study. BMJ Open Respiratory Research, 2022;doi:10.1136/bmjopen.-2022-065015.
- 5) Kishi Yasuhiro, Takumi Ichiro, Yamamoto Hitoshi, Ishimaru Takako, Thurber Steven. Patient complexity, depression, and quality of life in patients with epilepsy at an epilepsy center in Japan. Epilepsia Open, 2022; : doi: 10.1002/epi4.12614.
- 6) Yuki Kotani, Sungwon Na, Jason Phua, Nonbuaki Shime, Tatsuya Kawasaki, Hideto Yasuda, Jong Hun Jun, Atsushi Kawaguchi. The research environment of critical care in three Asian countries: A cross-sectional questionnaire survey. Frontiers, 2022; : https://doi.org/10.3389/fmed.2022.-.975750.
- 7) Ono Rintaro, Sakamoto Kenichi, Doi Takehiko, Yanagisawa Ryu, Tamura Akihiro, Hashimoto Hiroya, Kanegane Hirokazu, Ishii Eiichi, Nakazawa Yozo, Shioda Yoko, Miyajima Yuji, Mori Mari, Yamato Genki, Sakaguchi Kimiyoshi, Kozaki Aiko, Onuma Masaei, Maeda Naoko, Suenobu Souichi, Okada Keiko, Yamasaki Kai, Miyamura Takako, Arakawa Yuki, Mori Tetsuya, Nomura Keiko, Suzuki Ryoko. A retrospective survey of patients who discontinued participation in the JPLSG HLH-2004 clinical trial. International Journal of Hematology, 2022;116(3) : 434-441.
- 8) Yoko Akamine, Kentaro Ide, Atsushi Kawaguchi. Assessing agreement on Canadian pediatric critical care training objectives in Japan. Pediatrics International, 2022;64(1) : doi/10.1111/-ped.15363.

- 9) Mai Miyaji, Kentaro Ide, Kouhei Takashima, Mikiko Maeno, Kelli Krallman, Danielle Lazear, Stuart Goldstein. Comparison of Nafamostat Mesilate to Citrate Anticoagulation in Pediatric CKRT. *Pediatric Nephrology*, 2022;37(11) : 2733-2742.
- 10) Enomoto Naosuke, Yamashita Tomoyuki, Furuta Marie, Tanaka Hiroaki, Ng Edmond S. W, Matsunaga Shigetaka SakuraiAtsushi, Kato Rie, Takahashi Shinji, Takeda Jun, Nakao Masahiro, Nakamura Eishin, Nii Masafumi, Yamahata Yoshihiro, Tsuji, Makoto, Maenaka Takahide, Baba Shinji, Hosokawa Yuki, Nonogi Hiroshi, Aibiki Mayuki, Ikeyama Takanari, Isayama Tetsuya, Iwami Taku, Kuroda Yasuhiro, Sakamoto Tetsuya, Shimizu, Naoki, Nagayama Masao, Nishiyama Chika, Hatanaka Tetsuo, Hosono Shigeharu, Matsuyama Tasuku. Effect of maternal positioning during cardiopulmonary resuscitation: a systematic review and meta-analyses. *BMC Pregnancy and Childbirth*, 2022;22(1) : 10.1186/s12884-021-04334-y.
- 11) Masataka Yuji, Sugiyama Takeshi, Takumi Ichiro, Yamamoto Hitoshi. Cannabidiol supplement reduces epileptic seizures in the Japanese population: Cross-sectional study for intractable epilepsy patients. *Neurology Asia*, 2022;27(4) : 891-898.
- 12) Takeda Kanako, Miyamoto Yusaku, Yamamoto Hisako, Iwasaki Toshiyuki, Sumitomo Noriko, Takeshita Eri, Ishii, Atsushi, Hirose Shinichi, Shimizu Naoki. Mutation in the STXB1 Gene Associated with Early Onset West Syndrome: A Case Report and Literature Review. *Pediatric Reports*, 2022;14(4) : 386-395.
- 13) Katsuta Tomohiro, Shimizu Naoki, Okada Kenji, Tanaka-Taya Keiko, Nakano Takashi, Kamiya Hajime, Amo Kiyoko, Ishiwada Naruhiko, Iwata Satoshi, Oshiro Makoto, Okabe Nobuhiko, Kira Ryutaro. The clinical characteristics of pediatric coronavirus disease 2019 in 2020 in Japan. *Pediatrics International*, 2022;64(1) : 10.1111/ped.14912.
- 14) Mai Miyaji, Atsushi Kawaguchi, Charlene Pringle, Torrey Baines, Ravi Samraj. High-frequency oscillatory ventilation as a rescue mode for refractory hypercarbia in children. *Tokyo Women's Medical University Journal*, 2022;6 : 130-133.
- 15) Shinya Miura, Nobuaki Michihata, Yohei Hashimoto, Hiroki Matsui, Kiyohide Fushimi, Hideo Yasunaga. Descriptive statistics and risk factor analysis of children with community-acquired septic shock. *Journal of Intensive Care*, 2023;11(1) : 6-13.
- 16) Kurisu Akemi, Sugiyama Aya, Takumi Ichiro, Yamamoto Hitoshi, Iida Koji, Tanaka Junko. Incidence and prevalence of epilepsy in Japan: a retrospective analysis of insurance claims data of 9,864,278 insured persons. *Journal of epidemiology / Japan Epidemiological Association*, 2023; : doi: 10.2188ea.JE20220316.
- 17) Shinya Miura, Satoshi Miyata, Atsushi Kawaguchi, Kazue Yamaoka. Regional variation of pediatric interhospital critical care transport in Japan. *Pediatrics International*, 2023;65(1) : e15492-e15499.
- 18) Katsuta Tomohiro, Aizawa Yuta, Shoji, Kensuke, Shimizu Naoki, Okada Kenji, Nakano Takashi, Kamiya Hajime, Amo Kiyoko, Ishiwada Naruhiko, Iwata Satoshi, Oshiro Makoto, Okabe Nobuhiko, Korematsu Seigo, Suga Shigeru, Tsugawa Takeshi, Nishimura Naoko, Hishiki Haruka, Fujioka Masashi, Hosoya Mitsuaki, Mizuno Yumi, Miyairi Isao, Miyazaki Chiaki, Morishima Tsuneo, Yoshikawa Tetsushi, Wada Taizo, Ouchi Kazunobu, Moriuchi Hiroyuki, Tanaka-Taya Keiko, Saitoh Akihiko. Acute and Postacute Clinical Characteristics of Coronavirus Disease 2019 in Children in Japan. *The Pediatric Infectious Disease Journal*, 2023;42(3) : 240-246.

② 総説又は症例解説

- 1) Sadatomo Tasaka, Shinichiro Ohshimo, Muneyuki Takeuchi, Hideto Yasuda, Kazuya Ichikado, Kenji Tsushima, Moritoki Egi, Satoru Hashimoto, Nobuaki Shime, Osamu Saito, Shotaro Matsumoto, Eishu Nango, Yohei Okada, Kenichiro Hayashi, Masaaki Sakuraya, Mikio Nakajima, Satoshi Okamori, Shinya Miura, Tatsuma Fukuda, Tadashi Ishihara, Tetsuro Kamo, Tomoaki Yatabe, Yasuhiro Norisue, Yoshitaka Aoki, Yusuke Iizuka, Yutaka Kondo, Chihiro Narita, Daisuke Kawakami, Hiromu Okano, Jun Takeshita, Keisuke Anan, Satoru Robert Okazaki, Shunsuke Taito, Takuya Hayashi, Takuya Mayumi, Takero Terayama, Yoshifumi Kubota, Yoshinobu Abe, Yudai Iwasaki, Yuki Kishihara, Jun Kataoka, Tetsuro Nishimura, Hiroshi Yonekura, Koichi Ando, Takuo Yoshida, Tomoyuki Masuyama, Masamitsu Sanui, ARDS Clinical Practice Guideline 2021 committee from the Japanese Society of Intensive Care Medicine, the Japanese Respiratory Society, and the Japanese Society of Respiratory Care Medicine. ARDS Clinical Practice Guideline 2021. *Journal of Intensive Care*, 2022;10(1) : 32-83.

- 2) Sadatomo Tasaka, Shinichiro Ohshimo, Muneyuki Takeuchi, Hideto Yasuda, Kazuya Ichikado, Kenji Tsushima, Moritoki Egi, Satoru Hashimoto, Nobuaki Shime, Osamu Saito, Shotaro Matsumoto, Eishu Nango, Yohei Okada, Kenichiro Hayashi, Masaaki Sakuraya, Mikio Nakajima, Satoshi Okamori, Shinya Miura, Tatsuma Fukuda, Tadashi Ishihara, Tetsuro Kamo, Tomoaki Yatabe, Yasuhiro Norisue, Yoshitaka Aoki, Yusuke Iizuka, Yutaka Kondo, Chihiro Narita, Daisuke Kawakami, Hiromu Okano, Jun Takeshita, Keisuke Anan, Satoru Robert Okazaki, Shunsuke Taito, Takuya Hayashi, Takuya Mayumi, Takero Terayama, Yoshifumi Kubota, Yoshinobu Abe, Yudai Iwasaki, Yuki Kishihara, Jun Kataoka, Tetsuro Nishimura, Hiroshi Yonekura, Koichi Ando, Takuo Yoshida, Tomoyuki Masuyama, Masamitsu Sanui, ARDS Clinical Practice Guideline Committee 2021 from the Japanese Respiratory Society, the Japanese Society of Intensive Care Medicine, and the Japanese Society of Respiratory Care Medicine. ARDS clinical practice guideline 2021. Respiratory Investigation, 2022;60(4) : 446-495.
 - 3) Sakurai Kenzo, Takeba Yuko, Osada Yosuke, Mizuno Masanori, Tsuzuki Yoshimitsu, Aso Kentaro, Kida Keisuke, Ohta Yuki, Ootaki Masanori, Iiri Taroh, Hokuto Isamu, Shimizu Naoki, Matsumoto Naoki. Antenatal Glucocorticoid Administration Promotes Cardiac Structure and Energy Metabolism Maturation in Preterm Fetuses. International Journal of Molecular Sciences, 2022;23(17) : 10186.
- ③ 症例報告
- 1) Taichi Imaizumi, Atsuki Yamashita, Tomoko Ashikaga, Naoki Shimizu, Masaki Taki. Usefulness of Cross-Mixing Test for Immune Thrombocytopenia in a Pediatric Patient with Coagulation Abnormalities. J. St. Marianna Univ., 2022;13 : 39-43.
- ④ その他
- 1) Tadashi Matsushita, Nobuaki Suzuki, Azusa Nagao, Chiai Nagae, Haruko Yamaguchi-Suita, Yui Kyogoku, Akiko Ioka, Keiji Nogami. AKATSUKI study: a prospective, multicentre, phase IV study evaluating the safety of emicizumab under and immediately after immune tolerance induction therapy in persons with congenital haemophilia A with factor VIII inhibitors. BMJ Open, 2022;12(3) : e057018. doi: 10.1136/bmjopen-2021--e057018. doi: 10.1136/bmjopen-2021-057018..

学会発表

① 国内学会

- 1) 長江千愛. 血友病 A 治療の残された課題とエミシズマブへの期待. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 2022.
- 2) 松永綾子. 厚生労働省科学研究 SUID 研究班の研究進捗と SUID センターの提言とモデル事業について. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 2022.
- 3) 大串健一郎, 桜井研三, 吉村加代, 曾根田瞬, 清水直樹. 乳児期早期に精査を行い成長ホルモン治療を行うことで成長が改善した先天性心疾患を合併した CHARGE 症候群の一例. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 2022.
- 4) 石原唯史, 松永綾子, 粒良昌弘, 岡田広, 田邊良, 戸石悟司, 山本重則, 佐藤好範, 濱田洋通, 中島弘道. 災害時に全県での小児医療機関を可能とする CPD-net の構築とその活動～災害対応から COVID-19 によるパンデミック対応まで～. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 2022.
- 5) 長江千愛, 近澤悠志, 稲垣有佐, 後藤美和, 牧野健一郎, 小粥美香, 柿沼章子, 小島賢一, 村上由則, 野島正寛, 瀧正志, 竹谷英之. 我が国における小児血友病患者の QOL の現状. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 2022.
- 6) 森美佳, 長江千愛, 梅沢陽太郎, 足利朋子, 山下敦己, 清水直樹, 瀧正志. エミシズマブを導入したインヒビター非保有血友病 A 小児例の現況. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 2022.
- 7) 秋山類, 渡邊伊知郎, 齋藤修, 清水直樹. 小児呼吸・循環不全に対する ECMO 搬送事業の導入効果に関する単施設検討. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 2022.
- 8) 渡邊康大, 後藤海人, 梅沢陽太郎, 加久翔太郎, 中村幸嗣, 勝田友博, 清水直樹. 血球貪食性リンパ組織球症様の病態を呈したコロナウイルス感染症 2019 (COVID-19) 肺炎の乳児例. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 2022.
- 9) 勝田友博. 日本における小児に対する新型コロナワクチン COVID-19 vaccines for children in Japan. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 2022.
- 10) 紺野愛, 長田洋資, 大山玲子, 文元礼, 村田俊輔, 足利朋子, 宇田川紀子, 中村幸嗣, 清水直樹. 造影 CT 検査が早期診断に有用であった声門下血管腫の 2 例. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 2022.
- 11) 長江千愛. インヒビター非保有血友病 A に対する Emicizumab の使用経験. 第 3 回群馬血友病連携セミナー, 2022.
- 12) 長江千愛. 血友病保因者について. 第 3 回中四国ヘモフィリアネットワークセミナー, 2022.
- 13) 勝田友博. 国内における HPV ワクチン接種をとりまく状況. HPV ワクチン Update カンファレンス, 2022.
- 14) 勝田友博. 小児における新型コロナウイルス感染症とワクチン. 青葉区学術講演会, 2022.

- 15) 長江千愛. VWD の病態と診断. 第 70 回日本輸血・細胞治療学会学術集会ランチョンセミナー, 2022.
- 16) 岩崎俊之. 焦点てんかん患者におけるペランパネル内服治療の有効性と血中濃度との相関について. 第 64 回日本小児神経学会学術集会, 2022.
- 17) 大山玲子, 加久翔太郎, 長田洋資, 紺野愛, 宇田川紀子, 今泉太一, 山本寿子, 橋本修二, 新井奈津子, 山本仁, 宮本雄策, 清水直樹. オナセムノゲンアベパルボベク投与後 RSV 感染を契機に抜管困難となった SMA I 型に対するリズジブラムの追加投与について. 第 64 回日本小児神経学会学術集会, 2022.
- 18) 長江千愛. 血液凝固異常症の周産期管理. 第 32 回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会, 2022.
- 19) 廣石篤司, 藤川あつ子, 福元拓郎, 大出創, 齋藤祐貴, 三村秀文, 勝田友博, 長江千愛, 清水直樹. 血球貪食性リンパ組織球症の 2 例. 第 58 回小児放射線科学会学術集会, 2022.
- 20) 後藤 理華, 加久 翔太郎, 梅沢 陽太郎, 後藤 海人, 金 裕花, 渡邊 康大, 長江 千愛, 宮本 雄策, 中村 幸嗣, 勝田 友博, 清水 直樹. 進行性弛射性麻痺を認め、早期診断に至った乳児ボツリヌス症の 1 例. 第 370 回日本小児科学会神奈川県地方会, 2022.
- 21) 岩崎俊之. 小児期発症のてんかんとは? 小児科医の立場で考えるてんかん患者の移行期医療について. 第 13 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2022.
- 22) 勝田友博. ロタウイルスワクチン
定期接種化と今後の課題. 第 33 回日本小児科医会総会フォーラム in 高松, 2022.
- 23) 森本勇樹, 篠田和伸, 大出創, 塚田光, 山田龍治, 西智弘, 早川望, 中澤龍斗, 丸井祐二, 菊地栄次. 片腎の腎細胞癌に対し、ex vivo partial nephrectomy 後に自家腎移植を施行した一例. 第 37 回腎移植・血管外科研究会, 2022.
- 24) 本吉愛, 川本久紀, 小澤南, 高橋由妃, 杉下陽堂, 久我亜沙美, 右田王介, 津川浩一郎. 若年で異時性両側乳癌及び肺癌を発症した Peutz-Jeghers 症候群の一例. 第 28 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会, 2022.
- 25) 勝田友博. 日本小児科学会による COVID-19 レジストリ構築の意義と課題. 第 63 回日本臨床ウイルス学会, 2022.
- 26) 松下正, 鈴木伸明, 長江千愛, 長尾梓, 野坂大輔, 山口晴子, 京極結, 井岡暁子, 野上恵嗣. AKATSUKI Study 中間報告: ITI 実施下及び実施後のエミシズマブの安全性評価. 第 44 回日本血栓止血学会学術集会, 2022.
- 27) 長江千愛. 「Advance QOL ～Beyond ABR から考える」～血友病性関節症の早期診断の重要性と課題～. 第 44 回日本血栓止血学会学術集会, 2022.
- 28) 中島眞生子, 今泉太一, 加久翔太郎, 山本寿子, 橋本修二, 新井奈津子, 宇田川紀子, 宮本雄策, 須貝研司, 山本仁, 岩崎俊之, 清水直樹. 夜間睡眠中のみの運動発作に対し長時間ビデオ脳波モニタリングが診断に有用であった内側側頭葉てんかんの一例. 第 16 回日本てんかん学会関東甲信越地方会, 2022.
- 29) 川口敦. 急性期医療における遠隔モニタリングの今と未来. 第 33 回臨床モニター学会, 2022.
- 30) 梅沢陽太郎, 山下敦己, 森美佳, 足利朋子, 長江千愛, 秋田美恵子, 鈴木典子, 山崎哲, 松井宏晃, 杉山誠, 高山成伸, 瀧正志. 糖質コルチコイドはヒト肝類洞内皮細胞における凝固第 VIII 因子 mRNA 産生を直接亢進する. 第 44 回日本血栓止血学会学術集会, 2022.
- 31) 山下敦己, 梅沢陽太郎, 森美佳, 足利朋子, 長江千愛, 秋田美恵子, 鈴木典子, 山崎哲, 高山成伸, 瀧正志. トロンビン生成試験を用いた糖質コルチコイド治療時の凝固学的変化に関する検討. 第 44 回日本血栓止血学会学術集会, 2022.
- 32) 勝田友博. 小児の新型コロナワクチンにおける Vaccine Hesitancy とその対策. NPO 法人 VPD を知って、子どもを守ろうの会 VPD セミナー, 2022.
- 33) 勝田友博. 国内における HPV ワクチン接種をとりまく状況. 伊勢崎佐渡医師会 学術 WEB 講演会, 2022.
- 34) 勝田友博. 国内におけるムンプスをとりまく現状. 第 3 回神奈川ワクチンミーティング学術講演会, 2022.
- 35) 中島眞生子, 今泉太一, 加久翔太郎, 山本寿子, 橋本修二, 新井奈津子, 宇田川紀子, 宮本雄策, 須貝研司, 山本仁, 岩崎俊之, 清水直樹. 夜間睡眠中のみの運動発作に対し長時間ビデオ脳波モニタリングが診断に有用であった内側側頭葉てんかんの一例. 第 415 回川崎市小児科医会症例検討会, 2022.
- 36) 渡邊康大, 今野愛, 長田洋資, 桜井研三, 北翔太, 近田正英, 麻生健太郎. 完全房室中隔欠損症に併発した心房頻拍による心不全に開胸 ECMO 搬送を行った乳児例. 第 58 回日本小児循環器学会, 2022.
- 37) 升森智香子, 長田洋資, 渡邊康大, 紺野愛, 中野茉莉恵, 桜井研三, 麻生健太郎. 麻酔管理に難渋した重症特発性肺動脈性肺高血圧症の幼児例. 第 58 回日本小児循環器学会, 2022.
- 38) 桜井研三, 渡邊康大, 紺野愛, 長田洋資, 中野茉莉恵, 升森智香子, 麻生健太郎. 新生児期の心室頻拍で診断に至った先天性 QT 延長症候群の 2 例. 第 58 回日本小児循環器学会, 2022.
- 39) 麻生健太郎, 長田洋資, 桜井研三, 中野茉莉恵, 升森智香子, 小徳暁生. 心臓の MRI の T1 mapping を加えることで心筋性状評価が可能となった心筋疾患の 3 例～遅延造影だけでは見落とす可能性がある～. 第 58 回日本小児循環器学会, 2022.
- 40) 長田洋資, 紺野愛, 渡邊康大, 中野茉莉恵, 升森智香子, 桜井研三, 麻生健太郎. けいれん重積・横紋筋融解症に合併した若年発症のたこつば型心筋症. 第 58 回日本小児循環器学会, 2022.

- 41) 長田洋資, 桜井研三, 中野茉莉恵, 升森智香子, 紺野愛, 渡邊康大, 麻生健太郎, 橋本一樹, 藤川あつ子. Fontan 術後の難治性 PLE の病態確認のための造影 MR lymphangiography. 第 58 回日本小児循環器学会, 2022.
- 42) 紺野愛, 長田洋資, 中野茉莉恵, 桜井研三, 升森智香子, 渡邊康大, 麻生健太郎. COVID-19 ワクチン接種後心筋炎に心臓 MRI を施行した小児 3 例. 第 58 回日本小児循環器学会, 2022.
- 43) 渡邊春花, 大山慧, 田中邦英, 川口皓平, 渡邊康大, 長田洋資, 藤川あつ子, 清水直樹, 古田繁行. 血管アクセスを留置して Active observation を行った外傷性肺動脈損傷の 4 歳女児例. 第 35 回日本小児救急医学会学術集会, 2022.
- 44) 三浦慎也, 山岡和枝, 宮田敏. Comparative Interrupted Time Series による高流量鼻カヌラ導入効果の推定. 2022 年度統計関連学会連合大会, 2022.
- 45) 三浦慎也, 山岡和枝, 宮田敏. Comparative Interrupted Time Series による高流量鼻カヌラ導入効果の推定. 2022 年度統計関連学会連合大会, 2022.
- 46) 鹿野直樹, 松永綾子, 清水直樹. 胆道閉鎖症と鑑別を要したシトリン欠損症の一例. 第 371 回日本小児科学会神奈川県地方会, 2022.
- 47) 岩川雅彦, 今泉太一, 紺野愛, 中島眞生子, 文元礼, 加久翔太郎, 山本寿子, 岩崎俊之, 宮本雄策, 清水直樹. 無呼吸を伴う喉頭軟化症に在宅 High-flow nasal cannula が有効であった一例. 第 371 回日本小児科学会神奈川県地方会, 2022.
- 48) 松森隆史, 太組一朗, 川口公悠樹, 日高岳, 高砂浩史, 山本仁, 宮本雄策, 宇多川紀子, 村田英俊. てんかんセンターにおける小児てんかん外科手術の転帰について. 第 55 回日本てんかん学会学術集会, 2022.
- 49) 松本直樹, Ohta Yuki, Yamamoto Hitoshi, Takumi Ichiro, Yamazaki Fumie, Thai Ching. Pharmacokinetics, safety, and tolerability of cannabidiol (GW42003-P, CBD) as a SAD and MAD in Japanese and White subjects. 日本てんかん学会学術集会, 2022.
- 50) 岩崎俊之, 宮本雄策, 宇田川 紀子, 橋本修二, 山本寿子, 加久翔太郎, 今泉太一, 中島眞生子, 新井奈津子, 須貝研司, 山本仁, 清水直樹. 焦点てんかん患者におけるラコサミド内服の有効性と血中濃度との相関. 第 55 回日本てんかん学会学術集会, 2022.
- 51) 太組一朗, 山本仁, 松森隆史, 岸康宏, 饒波正博. 難治性てんかんにおける大麻由来医薬品開発. 第 55 回日本てんかん学会学術集会, 2022.
- 52) 岸泰宏, 太組一朗, 山本仁, 石丸貴子. 成人てんかん患者におけるケアの複雑性 (Care Complexity) ・うつ病と QOL (生活の質) . 第 55 回日本てんかん学会学術集会, 2022.
- 53) 山本仁, 太組一朗, Cuping Chen, 山崎文恵, Nortvedt Charlotte. カンナビジオール (CBD) は乱用や依存のリスクが低く薬物離脱症状を示さない. 第 55 回日本てんかん学会学術集会, 2022.
- 54) 長江千愛. 我が国の血友病患者の QOL の現状. 第 10 回日本運動器理学療法学会学術大会, 2022.
- 55) 川口拓哉, 脇坂宗親, 田中邦英, 渡邊康大, 古田繁行. アデノウイルス胃腸炎罹患後に胃穿孔を発症した乳児の 1 例. 第 56 回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 2022.
- 56) 清水直樹. 小児救急の患者安全とトリアージにおいて ORi™, RRa®, RRp® に期待されるもの. 日本小児麻酔学会第 27 回大会, 2022.
- 57) 紺野愛, 長田洋資, 中野茉莉恵, 桜井研三, 升森智香子, 渡邊康大, 麻生健太郎. 心臓 MRI を施行した COVID-19 ワクチン接種後心筋炎の小児 3 例. 第 31 回日本小児心筋疾患学会, 2022.
- 58) 三浦慎也, 宮田敏, 川口敦, 山岡和枝. 重症小児の病院間救急搬送、日本の疫学から地域格差を記述する. 第 29 回小児集中治療ワークショップ, 2022.
- 59) 吉村博. セルディング法を用いたベッドサイドでの急性腹膜透析カテーテル留置 ～リソースが限られているとき使える古くて新しいテクニック～. 第 35 回日本小児 PD・HD 研究会, 2022.
- 60) 勝田友博. 新型コロナウイルス感染症小児の重症例. 第 6 回日本小児科医会小児救急研修会, 2022.
- 61) 勝田友博. HPV ワクチン接種状況と若年発症型再発性呼吸器乳頭腫症の疫学の関連性. 第 73 回日本気管食道科学会, 2022.
- 62) 文元礼. 抗 MRSA 薬. 第 54 回小児感染症学会 ベーシックセミナー, 2022.
- 63) 後藤理華, 文元礼, 森内巧, 新谷亮, 中村幸嗣, 勝田友博. 小児発熱性疾患に対する呼吸器感染症マルチプレックス PCR 法の有用性. 第 54 回日本小児感染症学会学術集会, 2022.
- 64) 勝田友博. 国内における小児 COVID-19 の感染状況. 第 54 回日本小児感染症学会学術集会, 2022.
- 65) 飛田睦, 本間瑠子, 後藤海人, 小黒詩織, 木谷好希, 塚原歩, 古藤優貴, 吉村博. とんかつ調理に用いたダニ汚染小麦を摂取しアナフィラキシーを発症した学童例. 第 59 回小児アレルギー学会学術集会, 2022.
- 66) 飛田睦, 森内美希, 廣瀬あかね, 鈴木真波, 水書教雄, 北東功. 出生直後からの呼吸障害により発見された下咽頭梨状窩嚢の一例. 第 66 回日本新生児育成医学会, 2022.
- 67) 山下敦己. 新たに作成された von Willebrand 病の診療ガイドラインからみた今後の診療展望. 第 64 回日本小児血液・がん学会, 2022.

- 68) 清水直樹. 小児救急・集中治療における終末期医療の話し合い～多彩な価値観と選択肢：国内外で感じた違和感を含めて～. 第66回日本新生児育成医学会・学術集会, 2022.
- 69) 勝田友博. HPV ワクチン接種の現状 今後の展開. 第26回日本ワクチン学会学術集会, 2022.
- 70) 勝田友博. 23 価肺炎球菌荚膜ポリサッカライドワクチン接種後有害事象に対する能動的解析：VENUS Study. 第26回日本ワクチン学会学術集会, 2022.
- 71) 田中邦英, 古田繁行, 古谷菜摘, 本間千夏, 西村陽子, 後藤海人, 森内美希, 廣瀬あかね, 北東功, 長谷川潤一. 胎児嚢胞穿刺ドレナージを施行した肝嚢胞の一例. 第19回日本胎児治療学会学術集会, 2022.
- 72) 長江千愛. 受け継がれる大学病院における動物介在療法. 日本身体障害者補助犬学会第14回学術大会, 2022.
- 73) 加久翔太郎, 中村幸嗣, 大山玲子, 紺野愛, 小黒詩織, 梅沢陽太郎, 宮本雄策, 清水直樹. 学校と連携したことで軽快した COVID-19 流行下における慢性咳嗽. 第13回 日本小児心身医学会 関東甲信越地方会, 2023.
- 74) ◎佐治正太, 仲村将光, 西村陽子, 中野茉莉恵, 長谷川潤一, 鈴木直. 区分診断法を活用した複雑心疾患の胎児診断. 日本胎児心臓病学会第29回学術集会, 2023.
- 75) 後藤理華, 長江千愛, 宮本雄策, 長田洋資, 田中拓, 加久翔太郎, 吉村博, 清水直樹, 川口敦. オナセムノゲン-アベパルボベクによる血栓性微小血管症に対し保存的に腎不全管理を行った小児の一例. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 76) 三浦慎也, 市場晋吾. ECMO と感染症 小児集中治療医の視点から. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 77) 三浦慎也, 竹内宗之. 心臓術後小児における, 呼吸器離脱を科学する. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 78) 三浦慎也, 道端伸明, 橋本洋平, 松居宏樹, 伏見清秀, 康永秀生. 市中発症の小児敗血症性ショックの記述統計とリスク要因分析. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023.

② 国際学会

- 1) Atsushi Kawaguchi. Monitoring respiratory function during ECMO. 10th Annual Congress European ELSO, 2022.
- 2) Tadahito Kato, Atsushi Kawaguchi. Pediatric case series of dynamic pressure bearing technology supporting the impeller in a non-contact. 10th Annual Congress European ELSO, 2022.
- 3) Atsushi Kawaguchi. Establishment of a research network in pediatric critical care in Japan and Asia; challenges and future vision in ECMO research. 10th Annual Congress European ELSO, 2022.
- 4) Toshiyuki Iwasaki. How to use perampanel safely and effectively for epilepsy children? —Recommendation of TDM—. The Asian and Oceanian Child Neurology Association(AOCNA) 2022 Virtual Symposium, 2022.
- 5) Tomohiro Katsuta. Usefulness of clinical and epidemiological surveys for COVID-19 using a case report form. The 10th Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases, 2022.
- 6) Takako Misaki, Tomohiro Katsuta, Nobuhiko Okabe. Impact of the COVID-19 pandemic on routine immunization coverage in children in Kawasaki City, Japan. The 10th Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases, 2022.

③ その他

- 1) 山下敦己. 血友病Aのインヒビターの現状と対策～インヒビター発現を最小限にするFVIII 製剤の選択とは～. Hemophilia Meeting in Kanagawa, 2022.
- 2) 宮本雄策. こどものてんかん. 2022 年度てんかん講座, 2022.
- 3) 長江千愛. 血友病患者さんの関節症ケア. 北海道 Hemophilia Conference, 2022.
- 4) 小澤南, 右田王介, 吉岡耕平, 北東功, 山本仁, 清水直樹. 選択的新生児スクリーニングと神経代謝病疾患. 第6回神経代謝病研究会, 2022.
- 5) 長江千愛. 血友病とスポーツ. 第1回長野県血友病治療 UpDate, 2022.
- 6) 岩川雅彦, 今泉太一, 紺野愛, 中島眞生子, 文元礼, 加久翔太郎, 山本寿子, 岩崎俊之, 宮本雄策, 清水直樹. 無呼吸を伴う喉頭軟化症に在宅ハイフローセラピーが有効であった一例. 第415回川崎市小児科医会症例検討会, 2022.
- 7) 長江千愛. 血友病治療の最前線. 止血血栓カンファレンス, 2022.
- 8) 山下敦己. 日本における血友病治療の現状. バイエルヘモフィリアセミナー2022, 2022.
- 9) 中村幸嗣. 小児の結核. 第13回都立小児感染症科 GR, 2022.
- 10) 長江千愛. 当院における血友病保因者ケアの実践. 湘南ヘモフィリアセミナー2021, 2022.
- 11) 長江千愛. 先天性無フィブリノゲン血症の周術期管理の経験. 先天性凝固異常に関する研究会, 2022.
- 12) 山下敦己. 当院における血友病の診療連携について. 第17回東京ヘモフィリアネットワーク, 2022.
- 13) 宮本雄策. 小児てんかんの基本と移行期医療について. てんかん月間 2022 市民公開講座, 2022.
- 14) 長江千愛. 血友病患者の QOL 改善のためにできること～スポーツと理学療法の推奨～. 血友病患者さんの身体機能と QOL を考える会, 2022.

- 15) 宮本雄策. こどものてんかん・てんかんの移行期医療について. てんかん月間メディアセミナー2022, 2022.
- 16) 長江千愛. 軽症・中等症血友病に対する治療介入. 第14回Mini Conference 神戸, 2022.
- 17) 勝田友博. 感染症とワクチンの話 子どもの新型コロナワクチン. 令和4年度東京都教育委員会委託研修会, 2022.
- 18) 山下敦己. 血友病診療における臨床検査の重要性と血友病治療の最近の話題. 第1回LSIM 神奈川血液・凝固学術セミナー, 2022.
- 19) 勝田友博. COVID-19 小児診療の実際. 新型コロナウイルス感染症対策に資する人材養成研修会, 2022.
- 20) 長江千愛. 先天性血友病治療に残された課題. Thrombosis & Hemostasis seminar, 2022.
- 21) 長江千愛. 当院における血友病診療の特徴. 血友病 Update seminar, 2022.
- 22) 長江千愛. 血友病診療の Up to date. 湘南ヘモフィリア WEB セミナー, 2022.
- 23) 長江千愛. 血友病治療の課題と今後の展開. 第119回埼玉小児血液同好会, 2022.
- 24) 山下敦己. 自立支援～血友病患者が行うスポーツの観点から～. こどもリレー～小児血友病診療について考える～, 2022.
- 25) 勝田友博. 日本の予防接種システムの課題. 神奈川県立こども医療センター医師の会 講演会, 2022.
- 26) 長江千愛. 血友病性関節症の早期診断の重要性と課題. Joint Seminar in Kanagawa, 2022.
- 27) 宇田川紀子, 宮本雄策, 中島眞生子, 今泉太一, 加久翔太郎, 橋本修二, 山本寿子, 新井奈津子, 岩崎俊之, 須貝研司, 山本仁, 清水直樹. 再発時に自覚症状を認めなかった MOGAD の 8 歳女児. 第64回神奈川小児神経懇話会, 2022.
- 28) 山下敦己. 血友病性関節症の現状と課題. 神奈川血友病性関節症 関節超音波エコーの実際と実技, 2023.
- 29) 勝田友博. 「HPV ワクチンを知らなかった」で後悔しないように. 第18回かながわ健康財団がん克服シンポジウム, 2023.
- 30) 新谷亮. RSV 治療と予防. 第134回多摩新生児懇話会, 2023.
- 31) 勝田友博. With/After コロナ時代における予防接種. 令和5年度川崎市定期予防接種事業説明会, 2023.
- 32) 勝田友博. Post COVID-19 時代における小児科診療. 令和4年度 沼津市医師会乳幼児保健会講演会, 2023.
- 33) 勝田友博. 子宮頸がん予防へ ワクチン接種の理解に必要な情報とは. 日本対がん協会 対がんセミナー, 2023.
- 34) 勝田友博. こどもの感染症 2023. 第42回大阪府医師会感染症サーベイランスモニター会, 2023.
- 35) 勝田友博. ワクチン忌避 どうしてみんなワクチン接種が怖いのか?. 第55回静岡小児臨床研究ネットワーク勉強会, 2023.
- 36) 山下敦己. 当院における血友病診療連携と関節症診療. 血液凝固 Web Seminar, 2023.

		和 文	英 文
著 書		21	
論 文	原著	6	18
	解説又は総説	5	3
	症例報告	2	1
	その他	1	1
学会発表	国内学会	78	
	国際学会		6
	その他	36	

外科学（消化器・一般外科）

著書

- 1) 牧角良二, 大坪毅人. 第7章 虫垂 1. 腹腔鏡下虫垂切除術 消化器内視鏡外科手術バイブル 2023;1(1):285-290.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 佐々木貴浩, 古畑智久, 西村正成, 小野龍宣, 大坪毅人. 1 胆嚢摘出における Senhance Distal Laparoscopy System(SLDS) の 安全性. 川崎市医師会医学会誌, 2022;39:1-5.

② 総説又は症例解説

- 1) 大島隆一, 國場幸均, 勝又健太, 根岸宏行, 内藤正規, 大坪毅人. 右側横行結腸癌に対する小切開先行手技を用いた腹腔鏡手術. 手術, 2022;76(5):801-808.
- 2) 大坪毅人, 小泉哲, 小林慎二郎. 高難度肝胆膵外科手術アトラス 2022 II 各論 A 肝臓 4. 基本手技④—Glisson 鞘一括処理. 手術, 2022;76(4):455-460.
- 3) 佐々木貴浩, 古畑智久. IV. 各論 腸閉塞 腸閉塞総論. 日本臨床, 2022;80(7):328-332.
- 4) 佐々木貴浩, 古畑智久. III 小腸・大腸—良性疾患 S 状結腸軸捻転. 臨床外科, 2022;77(11):151-155.
- 5) 中原一有, 小林慎二郎, 立石敬介. 新規 5Fr 先端スパイラル型胆嚢プラスチックステントを用いた内視鏡的経乳頭胆嚢ドレナージ術の経験. 胆道, 2022;36(5):643-645.
- 6) 内藤正規, 國場幸均, 大島隆一, 根岸宏行, 古畑智久, 大坪毅人. 特集 こだわりの体腔内縫合・吻合術 III. 大腸外科
2) 腹腔鏡下回盲部切除術後の体腔内吻合. 手術, 2023;77(2):203-208.
- 7) 小泉哲, 井田圭亮, 大坪毅人. 特集 最新医療機器・材料を使いこなす ヘルニア
成人鼠径部ヘルニア手術に用いるメッシュの選択法と手技のコツ. 臨床外科, 2023;78(2):231-235.

③ 症例報告

- 1) 梅澤早織, 小林慎二郎, 中原一有, 路川陽介, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 佐藤純也, 小池淳樹, 大坪毅人. EUS-FNA で術前に確定診断できた TS1 の多形細胞型退形成癌の 1 例. 膵臓, 2022;37(2):104-111.
- 2) 臼井創大, 内藤正規, 天野優希, 勝又健太, 菊地悠輔, 根岸宏行, 大島隆一, 國場幸均, 有泉 泰, 長宗我部基弘, 古畑智久, 大坪毅人. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に合併した横行結腸癌の 1 例. 癌と化学療法, 2022;49(13):1823-1825.
- 3) 勝又健太, 内藤正規, 久恒靖人, 天野優希, 臼井創大, 菊地悠輔, 根岸宏行, 大島隆一, 國場幸均, 古畑智久, 大坪毅人. 術後補助化学療法中に発症したオキサリプラチンによる横紋筋融解症の 1 例. 癌と化学療法, 2023;50(2):233-235.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Umezawa Saori, Kobayashi Shinjiro, Otsubo Takehito. Low preoperative psoas muscle mass index is a risk factor distal cholangiocarcinoma recurrence after pancreatoduodenectomy: a retrospective analysis. World journal of surgical oncology, 2022;20(1):176-184.
- 2) Tsuchida T, Hirose M, Inoue Y, Kunishima H, Otsubo T, Matsuda T. Relationship between changes in symptoms and antibody titers after a single vaccination in patients with Long COVID. Journal of Medical Virology, 2022;94(7):3416-3420.
- 3) Shibata Tetsuya, Murata Kohei, Kishimoto Mitsuo, Yao Takashi, Noura Shingo, Morita Shunji, Akiyoshi Takashi, Okamura Shu, Imasato Mitsunobu, Furuhashi Tomohisa, Suto Takeshi, Takemasa Ichiro, Shingai Tatsushi, Ueda Masami, Mizuno Hitoshi, Hisamatsu Yuichi, Takeda Takashi, Fujii Makoto, Kagawa Yoshinori, Sugihara Kenichi. Clinicopathological features of appendiceal goblet cell adenocarcinoma in Japan: a multicenter retrospective study. Surgery Today, 2022;53:174-181.
- 4) Sasaki Takahiro, Furuhashi Tomohisa, Nisimura Masashige, Arifuku Hirotaka, Ono Tatsunori, Noda Akiyoshi, Otsubo Takehito. Initial 30 cholecystectomy procedures performed with the Shnhance digital laparoscopy system. Asian Journal of Endoscopic Surgery, 2022;:1-8.
- 5) Shimada Jin, Mikami Shinya, Hiwatari Masaki, Tsukamoto Yoshitsugu, Hisatsune Yasuhito, Enomoto Takeharu, Otsubo Takehito. Total Drain Fluid Amylase Values Over Time Correlate with Late Complications of Pancreatic Fistulas after Gastrectomy. Journal of St. Marianna University, 2022;13(2):69-75.

- 6) Hisatsune Yasuhito, Kokuba Yukihito, Katsumata Kenta, Negishi Hiroyuki, Oshima Ryuichi, Enomoto Takeharu, Otsubo Takehito. Utility of a Chimney-Type Penrose Drain for Prevention of Superficial Surgical Sift Infection in Cases of Lower Gastrointestinal Perforation. Journal of St. Marianna University, 2022;13(2) : 51-57.
- 7) Otsubo Takehito, Kobayashi Shinjiro, Sano Keiji, Misawa Takeyuki, Katagiri Satoshi, Nakayama Hisashi, Suzuki Shuji, Watanabe Manabu, Ariizumi Shunichi, Unno Michiaki, Tanabe Minoru, Nagano Hiroaki, Kokubo Norihiro, Hirano Satoshi, Nakamura Masafumi, Shirabe Ken, Suzuki Yasuyuki, Yoshida Masahiro, Takada Yasutsugu, Nakagohri Toshio, Horiguchi Akihiko, Ohdan Hideki, Eguchi Susumu, Ohtsuka Masayuki, Sho Masayuki, Rikiyama Toshiki, Hatano Etsuro, Taketomi Akinobu, Fujii Tsutomu, Yamaue Hiroki, Miyazaki Masaru, Yamamoto Masakazu, Takada Tadahiro, Endo Itaru. A nationwide certification system to increase the safety of highly advanced hepatobiliary-pancreatic surgery. Journal of Hepato-Biliary- Pancreatic Sciences, 2023;30(1) : 60-71.

② 総説又は症例解説

- 1) Sato Junya, Nakahara Kazunari, Michikawa Yosuke, Suetani Keigo, Igarashi Yosuke, Sekine Akihiro, Satta Yusuke, Kobayashi Shinjiro, Otsubo Takehito, Tateishi Keisuke. Long-term outcomes of endoscopic transpapillary gallbladder drainage using a novel spiral plastic stent in acute calculus cholecystitis. BMC gastroenterology, 2022;22(1) : 539.

③ 症例報告

- 1) Segami Kohei, Kobayashi Shinjiro, Hiwatari Masaki, Ogura Yuta, Katayama Masafumi, Koizumi Satoshi, Chosokabe Motohiro, Koike Junki, Otsubo Takehito. Lymph node recurrence and re-excision after primary tumor resection of a histiocytic sarcoma of duodenal origin : a case report. Surgical Case Report, 2022;(8) : 189-194.

学会発表

① 国内学会

- 1) 佐々木貴浩, 古畑智久, 西村正成, 小野龍宣, 野田顕義, 大坪毅人. 胆嚢摘出術における Senhance Distal Laparoscopy System の安全性. 第 122 回日本外科学会定期学術集会, 2022.
- 2) ◎土田知也, 廣瀬雅宣, 井上陽子, 大坪毅人 松田隆秀. 新型コロナウイルス感染後遺症患者へのワクチン接種前後の症状変化と抗体価についての調査. 第 119 回日本内科学会講演会, 2022.
- 3) ◎佐藤純也, 中原一有, 伊東文生, 路川陽介, 末谷敬吾, 五十嵐洋介, 関根章裕, 薩田祐輔, 小林慎二郎. 胆石性急性胆嚢炎に対する内視鏡的経乳頭胆嚢ドレナージ術における手技失敗因子に関する検討. 第 108 回日本消化器病学会総会, 2022.
- 4) ◎佐藤純也, 中原一有, 伊東文生, 路川陽介, 末谷敬吾, 五十嵐洋介, 関根章裕, 薩田祐輔, 小林慎二郎. 胆石性急性胆嚢炎に対するらせん型ステントを用いた内視鏡的経乳頭胆嚢ステント留置術の長期成績に関する検討. 第 103 回日本消化器内視鏡学会総会, 2022.
- 5) 大坪琢磨, 松下恒久, 本橋直輝, 林久志, 吉川健太郎, 安部雄, 宮原利行, 角泰廣, 大坪毅人. 腹腔鏡下虫垂切除における虫垂つり上げ法. 第 76 回手術手技研究会, 2022.
- 6) 松下恒久, 大坪琢磨, 林久志, 吉川健太郎, 宮原利行, 角泰廣, 佐治攻, 榎本武治, 民上真也, 中野浩, 大坪毅人. 腹腔鏡下幽門側胃切除で当院が行っている再建 (Augmented Rectangle Technique: ART 吻合について). 第 76 回手術手技研究会, 2022.
- 7) 勝又健太, 根岸宏行, 梅澤早織, 内藤正規, 森 佑紀, 清水朋子, 民上真也, 大坪毅人. 術後経過中に Sulbactam /Cefoperazone による凝固障害を来した 2 例. 第 37 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 (JSPEN 2022) , 2022.
- 8) 樋渡正樹, 朝倉武士, 佐々木大祐, 片山真史, 石井将光, 四万村司, 大坪毅人. 当院での鼠径部ヘルニア手術の定型化. 第 20 回日本ヘルニア学会学術集会, 2022.
- 9) 塚本芳嗣, 長谷川拓男, 嶋田久, 嶋田元. CT にて術前診断し得た内臓逆位に合併した Amyand's hernia の 1 例. 第 20 回日本ヘルニア学会学術集会, 2022.
- 10) 亀井奈津子, 井田圭亮, 久恒靖人, 嶋田仁, 小泉哲, 大坪毅人. 神奈川県支部の鼠径ヘルニア手術における 4 年間の報告. 第 20 回日本ヘルニア学会学術集会, 2022.
- 11) 佐々木大祐, 澤田真裕, 鈴木卓也, 樋渡正樹, 片山真史, 石井将光, 四万村司, 朝倉武士, 大坪毅人. 高齢者における膿瘍形成性虫垂炎に対する Interval Appendectomy の検討. 第 47 回日本外科連合学会学術集会, 2022.
- 12) 澤田真裕, 佐々木大祐, 鈴木卓也, 樋渡正樹, 石井将光, 片山真史, 四万村司, 朝倉武士, 大坪毅人. 乳糜腹水を認めた腸回転異常症の一例. 第 47 回日本外科連合学会学術集会, 2022.

- 13) 野田顕義, 古畑智久, 西村正成, 小野龍宣, 佐々木貴浩, 小泉宏隆, 大坪毅人. 偶発的に発見された胃好酸球性肉芽腫症の1例. 第47回日本外科連合学会学術集会, 2022.
- 14) 木村紗衣, 浜辺太郎, 有福厚孝, 亀井奈津子, 福岡麻子, 朝野隆之, 牧角良二, 大坪毅人. 再々発性腹壁癒痕ヘルニア嵌頓に対して IPOM plus を施行した一例. 第47回日本外科連合学会学術集会, 2022.
- 15) 佐々木 貴浩, 古畑智久, 野田顕義, 小野龍宣, 西村正成, 小泉宏隆, 大坪毅人. 胃癌リンパ節転移診断における OSNATM法の検討. 第47回日本外科連合学会学術集会, 2022.
- 16) 勝又健太, 内藤正規, 天野優希, 臼井創大, 菊地悠輔, 根岸宏行, 大島隆一, 四万村司, 牧角良二, 民上真也, 古畑智久, 國場幸均, 大坪毅人. オキサリプラチンによる横紋筋融解症を発症した上行結腸癌術後再発の1例. 第44回日本癌局所療法研究会, 2022.
- 17) 臼井創大, 内藤正規, 天野優希, 勝又健太, 菊地悠輔, 根岸宏行, 大島隆一, 國場幸均, 有泉泰, 長宗我部基弘, 大坪毅人. 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に合併した横行結腸癌の1例. 第44回日本癌局所療法研究会, 2022.
- 18) 天野優希, 内藤正規, 大島隆一, 根岸宏行, 菊地悠輔, 勝又健太, 臼井創大, 長宗我部基弘, 國場幸均, 大坪毅人. 壁外性発育を示した回盲部大腸癌の1例. 第44回日本癌局所療法研究会, 2022.
- 19) 福岡麻子, 梅澤早織, 浜辺太郎, 瀬上航平, 朝野隆之, 牧角良二, 大坪毅人. 当院における閉塞性大腸癌、大腸ステント挿入症例の検討. 第97回大腸癌研究会学術集会, 2022.
- 20) 小野龍宣, 古畑智久, 有福厚孝, 西村正成, 野田顕義, 佐々木貴浩, 大坪毅人. 胆嚢摘出術におけるセンハンス・デジタルパロスコピー・システムの導入. 第66回神奈川県消化器病研究会, 2022.
- 21) 久恒靖人, 民上真也, 有福厚孝, 嶋田仁, 榎本武治, 大坪毅人. 当科における噴門側胃切除術に対する現状と治療成績. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 22) 西村正成, 古畑智久, 佐々木貴浩, 野田顕義, 小野龍宣, 大坪毅人. 当院における StageII 結腸癌の再発リスク因子の検討. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 23) 根岸宏行, 大島隆一, 天野優希, 臼井創大, 勝又健太, 菊池悠輔, 内藤正規, 國場幸均, 大坪毅人. 抗血栓薬内服症例に対する緊急胆嚢摘出術の安全性についての検討. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 24) 亀井奈津子, 牧角良二, 西澤一, 高城伸平, 浜辺太郎, 福岡麻子, 朝野隆之, 井田圭亮, 榎本武治, 大坪毅人. 当科における SSI サーベイランス による 10 年間の変遷. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 25) 牧角良二, 福岡麻子, 浜辺太郎, 亀井奈津子, 高城伸平, 朝野隆之, 四万村司, 國場幸均, 古畑智久, 大坪毅人. 結腸憩室による結腸膀胱瘻の治療成績. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 26) 小泉哲, 大坪毅人, 小林慎二郎, 土橋篤仁, 井田圭亮, 加藤宗次郎. 切除後予測残肝 ICG の精度に関する検討. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 27) 澤田真裕, 土橋篤仁, 小林慎二郎, 加藤宗次郎, 井田圭亮, 瀬上航平, 小泉哲, 大坪毅人. 術後 5 年無再発生存中の遠位胆管原発腺扁平上皮癌の一例. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 28) 勝又健太, 大島隆一, 天野優希, 臼井創大, 菊地悠輔, 根岸宏行, 内藤正規, 國場幸均, 長曾我部基弘, 大坪毅人. 胃原発胎児消化管類似癌の1例. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 29) 内藤正規, 大島隆一, 根岸宏行, 菊池悠輔, 勝又健太, 臼井創大, 天野優希, 古畑智久, 國場幸均, 大坪毅人. double stapling technique における縫合不全に対して lip margin が及ぼす影響. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 30) 天野優希, 大島隆一, 根岸宏行, 菊地悠輔, 勝又健太, 臼井創大, 内藤正規, 國場幸均, 大坪毅人. 急性胆嚢炎を契機に診断された TAFRO 症候群の1例. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 31) 井田圭亮, 小林慎二郎, 澤田真裕, 加藤宗次郎, 土橋篤仁, 小泉哲, 大坪毅人. 遠位胆管癌の異時性肝転移に対する外科切除の意義の検討. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 32) 土橋篤仁, 小林慎二郎, 井田圭亮, 澤田真裕, 加藤宗次郎, 小泉哲, 大坪毅人. 膵頭十二指腸切除術後膵液瘻を最小限抑えるための Blumgart 変法-COMpressed PAncreatic Stump Anastomosis-. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 33) 四万村司, 佐々木大祐, 樋渡正樹, 片山真史, 石井将光, 牧角良二, 朝倉武士, 古畑智久, 國場幸均, 大坪毅人. 閉塞性大腸癌に対して大腸ステント (SEMS) 留置後の手術症例の検討. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 34) 臼井創大, 大島隆一, 天野優希, 勝又健太, 根岸宏行, 内藤正規, 國場幸均, 長曾我部基弘, 有泉泰, 大坪毅人. 胆嚢出血を契機に発見された胆嚢癌の2例. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 35) 加藤宗次郎, 井田圭亮, 小林慎二郎, 澤田真裕, 土橋篤仁, 小泉哲, 大坪毅人. 長期生存が得られている膵癌術後肺転移再発の4例. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 36) 大島隆一, 内藤正規, 臼井創大, 天野優希, 勝又健太, 菊池悠輔, 根岸宏行, 國場幸均, 大坪毅人. 瘻孔形成を伴う結腸憩室炎に対する腹腔鏡下手術の有用性. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 37) 大坪毅人. 大学病院の抱える問題と解決の鍵. 第77回日本消化器外科学会総会, 2022.

- 38) 小林慎二郎, 土橋篤仁, 中原一有, 井田圭亮, 加藤宗次郎, 澤田真裕, 小泉哲, 路川陽介, 佐藤淳也, 大坪毅人. 膵頭十二指腸切除術後の良性胆管空腸吻合部狭窄. 第 77 回日本消化器外科学会総会, 2022.
- 39) 井田圭亮, 小林慎二郎, 土橋篤仁, 小泉哲, 大坪毅人. 尾側膵切除(DP)における膵切除量と術後耐糖能異常に関する検討. 第 49 回日本膵切研究会, 2022.
- 40) 小林慎二郎, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 大坪毅人. 膵液瘻の発生を最小限にする COMpressed PSncreatic Stump (COMPAS) 膵空腸吻合. 第 49 回日本膵切研究会, 2022.
- 41) 高城伸平, 小林慎二郎, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 大坪毅人. 3 回目の再発に対して根治目的で膵頭十二指腸切除を行った腸間膜原発脂肪肉腫の 1 例. 第 49 回日本膵切研究会, 2022.
- 42) 土橋篤仁, 小林慎二郎, 井田圭亮, 小泉哲, 大坪毅人, 土居正和, 大池信之, 小池淳樹. 当院で経験した退形成癌の 7 例. 第 49 回日本膵切研究会, 2022.
- 43) 松下恒久, 大坪琢磨, 宮原利行, 角泰廣, 佐治攻, 榎本武治, 民上真也, 中野浩, 大坪毅人. 食道裂孔ヘルニアでの腹腔鏡手術における当院での工夫. 第 76 回日本食道学会学術集会, 2022.
- 44) 小林慎二郎, 中原一有, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 路川陽介, 大坪毅人. 深在性外傷性膵損傷に対する治療戦略. 第 14 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会, 2022.
- 45) 小泉哲, 嶋田仁, 土橋篤仁, 井田圭亮, 小林慎二郎, 藤谷茂樹, 平泰彦, 民上真也, 大坪毅人. 肝損傷に対する肝切除時における至適切除範囲決定のための術中肝予備能評価の試み. 第 14 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会, 2022.
- 46) 大島隆一, 内藤正規, 根岸宏行, 天野優希, 臼井創大, 勝又健太, 國場幸均, 大坪毅人. 大腸憩室症に伴う各種病態に対する手術治療の検討—特に瘻孔形成症例腹腔鏡手術の有用性について—. 第 77 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2022.
- 47) 牧角良二, 福岡麻子, 浜辺太郎, 梅澤早織, 瀬上航平, 朝野隆之, 四万村司, 國場幸均, 古畑智久, 大坪毅人. 待機的に行なった大腸憩室炎に対する手術手技とその治療成績. 第 77 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2022.
- 48) 野田顕義, 古畑智久, 有福厚孝, 西村正成, 小野龍宣, 佐々木貴浩, 大坪毅人. 当院での直腸脱手術に対する治療. 第 77 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2022.
- 49) 大坪毅人, 民上真也, 井上莊一郎, 坂本三樹, 山崎桂. 魅力ある手術室の理想と当院の現状. 第 44 回日本手術医学会総会, 2022.
- 50) 浜辺太郎, 牧角良二, 梅澤早織, 福岡麻子, 瀬上航平, 朝野隆之, 四万村司, 古畑智久, 國場幸均, 大坪毅人. 当院における脾彎曲部結腸癌の手術手技とその治療成績. 第 77 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2022.
- 51) 天野優希, 大島隆一, 根岸宏行, 勝又健太, 臼井創大, 内藤正規, 國場幸均, 長宗我部基弘, 有泉泰, 相田芳夫. 大腸原発の Spindle cell carcinoma による腸重積の 1 例. 第 77 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2022.
- 52) 西村正成, 古畑智久, 佐々木貴浩, 野田顕義, 小野龍宣, 有福厚孝, 大坪毅人. Trousseau 症候群を併発した大腸癌の 2 例. 第 77 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2022.
- 53) 根岸宏行, 内藤正規, 天野優希, 臼井創大, 勝又健太, 大島隆一, 國場幸均, 大坪毅人. 大腸癌手術における新規癒着防止剤テナリーフの使用経験. 第 77 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2022.
- 54) 福岡麻子, 牧角良二, 朝野隆之, 瀬上航平, 浜辺太郎, 梅澤早織, 大坪毅人. 当院における閉塞性大腸癌に対する術前大腸ステント挿入症例の検討. 第 77 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2022.
- 55) 勝又健太, 大島隆一, 天野優希, 臼井創大, 根岸宏行, 内藤正規, 國場幸均, 大坪毅人. 5 年の長期経過観察を行った Low-grade Appendiceal Mucinous Neoplasm の 3 例. 第 77 回日本大腸肛門病学会学術集会, 2022.
- 56) 梅澤早織, 小林慎二郎, 高城伸平, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 大坪毅人. 6mの歩行速度と 3 歩の歩行距離における相関の検討: 前向きパイロットスタディ. 第 20 回日本消化器外科学会大会, 2022.
- 57) 小林慎二郎, 梅澤早織, 大池信之, 中原一有, 増田哲之, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 路川陽介, 野呂瀬朋子, 大坪毅人. 膵腫瘍に対して過不足のない安全な膵切除を目指す取り組み. 第 26 回日本外科病理学会学術集会, 2022.
- 58) 梅澤早織, 小林慎二郎, 瀬上航平, 樋渡正樹, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 長宗我部基弘, 野呂瀬朋子, 大池信之, 小池淳樹, 大坪毅人. 術後リンパ節再発をきたした十二指腸原発組織球肉腫の 1 例. 第 26 回日本外科病理学会学術集会, 2022.
- 59) 増田哲之, 小林慎二郎, 野呂瀬朋子, 梅澤早織, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 大池信之, 大坪毅人. 化学療法が奏功し Conversion surgery 後も比較的長期生存している非乳頭十二指腸癌の 1 例. 第 26 回日本外科病理学会学術集会, 2022.
- 60) 民上真也. 当院における夜間休日の外科診療の実際と働き方改革への対応. 川崎市外科医学会学術講演会, 2022.
- 61) 笹森隆, 高松由佳, 五味潤智香, 平間千絵, 野村悠, 小林慎二郎, 清水剛治, 田中拓, 吉田徹, 藤谷茂樹. COVID-19 に合併した MALS (正中弓状靱帯圧迫症候群) による動脈瘤破裂の一例. 第 64 回神奈川医学会総会・学術大会, 2022.
- 62) 菊地悠輔, 天野優希, 臼井創大, 勝又健太, 根岸宏行, 大島隆一, 内藤正規, 大坪毅人, 長宗我部基弘. 術前診断し得なかった De Garengeot hernia に伴う盲腸穿孔の 1 例. 第 84 回日本臨床外科学会総会, 2022.

- 63) 佐々木貴浩, 古畑智久, 野田顕義, 小野龍宣, 西村正成, 有福厚孝, 大坪毅人. 当院における手術施行大腸癌の Covid-19 非常事態宣言前後の影響. 第 84 回日本臨床外科学会総会, 2022.
- 64) 大島隆一, 内藤正規, 臼井創大, 天野優希, 勝又健太, 根岸宏行, 國場幸均, 大坪毅人. 当院における直腸悪性腫瘍に対する TaTME の導入初期成績とその有用性. 第 84 回日本臨床外科学会総会, 2022.
- 65) 鈴木桜子, 内藤正規, 勝又健太, 天野優希, 臼井創大, 菊地悠輔, 根岸宏行, 大島隆一, 長宗我部基弘, 有泉泰, 小林慎二郎, 古畑智久, 國場幸均, 大坪毅人. 診断に難渋した胆嚢摘出術後と思われた患者の胆嚢腺腫及び胆嚢十二指腸瘻の 1 例. 第 84 回日本臨床外科学会総会, 2022.
- 66) 小林慎二郎, 増田哲之, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 大坪毅人. 重篤な臍液瘻を予防するシン・ギ・タイ. 第 84 回日本臨床外科学会総会, 2022.
- 67) 内藤正規, 根岸宏行, 大島隆一, 菊地悠輔, 勝又健太, 天野優希, 臼井創大, 古畑智久, 國場幸均, 大坪毅人. 一時的な回腸双孔式人工肛門造設術の標準化を目指した至適な手術手技の検討. 第 84 回日本臨床外科学会総会, 2022.
- 68) 柴田真知, 内藤正規, 勝又健太, 天野優希, 臼井創大, 菊地悠輔, 根岸宏行, 大島隆一, 民上真也, 古畑智久, 國場幸均, 大坪毅人. 食道癌術後再発に対する Nivolumab 療法により副腎不全を発症するも完全奏功となった 1 例. 第 84 回日本臨床外科学会総会, 2022.
- 69) 天野優希, 内藤正規, 大島隆一, 根岸宏行, 菊地悠輔, 勝又健太, 臼井創大, 長宗我部基弘, 古畑智久, 國場幸均, 大坪毅人. 腎細胞癌再発との鑑別が困難であった腸間膜デスマイド腫瘍の 1 例. 第 84 回日本臨床外科学会総会, 2022.
- 70) 勝又健太, 内藤正規, 小林慎二郎, 天野優希, 臼井創大, 菊地悠輔, 根岸宏行, 大島隆一, 長宗我部基弘, 有泉泰, 古畑智久, 國場幸均, 大坪毅人. 腹腔動脈を圧排するように発育した後腹膜成熟嚢胞性奇形腫の 1 例. 第 84 回日本臨床外科学会総会, 2022.
- 71) 谷口清章. 胃癌治療の最前線. 多摩川消化器疾患連携 WebSeminar, 2022.
- 72) 泉家 匠, 鈴木和臣, 佐々木大祐, 片山真史, 石井将光, 谷口清章, 四万村司, 朝倉武士, 大坪毅人. 定型化を目指した当院の手術 (Direct kugel 法). 第 13 回神奈川ヘルニア研究会, 2022.
- 73) 久恒靖人, 井田圭亮, 亀井奈津子, 小泉哲, 大坪毅人. 当院における腹壁癒痕ヘルニアに対する術式の変遷、及び治療成績の検討. 第 13 回神奈川ヘルニア研究会, 2022.
- 74) 久恒靖人, 民上真也, 樋渡正樹, 嶋田 仁, 榎本武治, 大坪毅人. アルカリ性洗浄剤による腐食性胃炎に対して腹腔鏡下亜全摘術を施行した 1 例. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会 (同時開催 アジアロボット・内視鏡外科学会), 2022.
- 75) 四万村司, 佐々木大祐, 鈴木和臣, 谷口清章, 牧角良二, 古畑智久, 國場幸均, 大坪毅人. 市中病院におけるロボット支援下直腸癌手術の導入. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会 (同時開催 アジアロボット・内視鏡外科学会), 2022.
- 76) 臼井創大, 大島隆一, 天野優希, 勝又健太, 根岸宏行, 内藤正規, 國場幸均, 古畑智久, 大坪毅人. TaTME 手術が非常に有用であった腔浸潤を伴う直腸 GIST の 1 例. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会 (同時開催 アジアロボット・内視鏡外科学会), 2022.
- 77) 塚本芳嗣, 民上真也, 久恒靖人, 嶋田仁, 榎本武治, 樋渡正樹, 大坪毅人. 4 cm の十二指腸 GIST に対して LECS による腹腔鏡下十二指腸局所切除術を施行した 1 例. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会 (同時開催 アジアロボット・内視鏡外科学会), 2022.
- 78) 高城伸平, 松下恒久, 木村紗衣, 大坪琢磨, 尾崎貴洋, 宮原利行, 角泰廣, 中野浩, 土居正和, 有泉泰, 高木正之, 大坪毅人. 術前に術式選択が問題となった十二指腸水平脚の GIST に対して腹腔鏡下十二指腸部分切除術を施行し得た 1 例. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会 (同時開催 アジアロボット・内視鏡外科学会), 2022.
- 79) 内藤正規, 大島隆一, 根岸宏行, 勝又健太, 臼井創大, 天野優希, 古畑智久, 内藤剛, 國場幸均, 大坪毅人. double stapling technique での縫合不全における危険因子の検討. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会 (同時開催 アジアロボット・内視鏡外科学会), 2022.
- 80) 西澤 一, 久恒靖人, 樋渡正樹, 塚本芳嗣, 嶋田 仁, 榎本武治, 民上真也, 大坪毅人. 成人特発性間膜軸性胃軸捻転症に対し腹腔鏡下胃固定術を施行した 1 例. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会 (同時開催 アジアロボット・内視鏡外科学会), 2022.
- 81) 根岸宏行, 内藤正規, 天野優希, 臼井創大, 勝又健太, 大島隆一, 古畑智久, 國場幸均, 大坪毅人. 腹腔鏡下大腸切除術におけるゼラチン製癒着防止吸収性バリア (テナリーフ®) の使用経験. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会 (同時開催 アジアロボット・内視鏡外科学会), 2022.
- 82) 柴田真知, 大島隆一, 天野優希, 臼井創大, 勝又健太, 根岸宏行, 内藤正規, 國場幸均, 大坪毅人. 腹腔鏡下に修復し得た左傍十二指腸ヘルニアの 1 例. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会 (同時開催 アジアロボット・内視鏡外科学会), 2022.
- 83) 佐々木貴浩, 古畑智久, 西村正成, 小野龍宣, 野田顕義, 大坪毅人. 胆嚢摘出術における Senhance Digital Laparoscopy System の治療成績. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会 (同時開催 アジアロボット・内視鏡外科学会), 2022.

- 84) 勝又健太, 天野優希, 臼井創大, 根岸宏行, 大島隆一, 古畑智久, 國場幸均, 大坪毅人. Persistent Descending Mesocolon を伴う S 状結腸癌に対して腹腔鏡下 S 状結腸切除術を施行した 1 例. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会 (同時開催 アジアロボット・内視鏡外科学会), 2022.
- 85) 劉たまみ, 久恒靖人, 西谷友里, 西牧裕樹, 樋渡正樹, 塚本芳嗣, 嶋田 仁, 民上真也, 大坪毅人. 抗凝固療法が有効であった特発性上腸間膜静脈・門脈血栓症の一例. 日本消化器病学会関東支部第 372 回例会, 2022.
- 86) 谷口清章, 鈴木和臣, 伊藤俊一, 細田圭. 残胃癌に対するロボット支援下残胃全摘術の経験. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会 (同時開催 アジアロボット・内視鏡外科学会), 2022.
- 87) 大島隆一, 國場幸均, 臼井創大, 天野優希, 勝又健太, 根岸宏行, 内藤正規, 大坪毅人. 腹腔鏡下右側結腸手術における外科解剖を考慮した安全な臓器摘出と体外操作. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会 (同時開催 アジアロボット・内視鏡外科学会), 2022.
- 88) 齋藤栞奈, 浜辺太郎, 増田哲之, 福岡麻子, 瀬上航平, 朝野隆之, 牧角良二, 大坪毅人. 魚骨による胃穿孔に対して内視鏡的摘出と保存的治療で改善した 1 例. 第 866 回外科集談会 (日本臨床外科学会東京支部会), 2022.
- 89) 浜辺太郎, 牧角良二, 増田哲之, 福岡麻子, 瀬上航平, 朝野隆之, 大坪毅人. 当院における若年性大腸癌の手術症例の検討. 第 98 回大腸癌研究会学術集会, 2023.
- 90) 佐々木貴浩. ランチョンセミナー6
SDLS による胆石症とヘルニアでの標準化にむけて. 第 15 回日本ロボット外科学会学術集会, 2023.
- 91) 福岡麻子. 当院における閉塞性大腸癌 stage II・III に対する術前大腸ステント挿入症例の検討. 第 40 回川崎市医師会医学会, 2023.
- 92) 谷口清章. 講演
「難治性胃癌に対する治療成績向上への挑戦」. 川崎市内視鏡外科学会学術講演会, 2023.
- 93) 塚本芳嗣, 民上真也, 樋渡正樹, 久恒靖人, 嶋田仁, 榎本武治, 大坪毅人. 胃癌に対する胃全摘術後に Y 脚部空腸パウチ吻合部に繰り返し腸重積を発症し、Y 脚部再吻合した 1 例. 第 95 回日本胃癌学会総会, 2023.
- 94) 谷口清章, 鈴木和臣, 泉家匠, 四万村司, 朝倉武士, 伊藤俊一, 細田圭. 幽門狭窄を伴う進行胃癌に対する治療戦略. 第 95 回日本胃癌学会総会, 2023.
- 95) 泉家匠, 谷口清章, 鈴木和臣, 佐々木大祐, 片山真史, 石井将光, 四万村司, 朝倉武士. 左噴門リンパ節単独再発を認めた幽門領域胃癌根治術後の 1 例. 第 95 回日本胃癌学会総会, 2023.
- 96) 磯村香介, 井田圭亮, 澤田真裕, 加藤宗次郎, 土橋篤仁, 小林慎二郎, 小泉哲, 大坪毅人. 鼠径部皮下腫瘍として発症した急性虫垂炎の 1 例. 第 158 回神奈川臨床外科医学会集談会, 2023.
- 97) 西牧裕樹, 浜辺太郎, 増田哲之, 福岡麻子, 朝野隆之, 牧角良二, 大坪毅人. 腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術後に腹腔鏡下 S 状結腸切除術を施行した 1 例. 第 158 回神奈川臨床外科医学会集談会, 2023.
- 98) 大坪琢磨, 松下恒久, 中山敏裕, 澤田真裕, 高城伸平, 田中雄也, 尾崎貴洋, 宮原利行, 角泰廣, 高木正之, 民上真也, 大坪毅人, 中野浩. 胃原発胎児消化管類似癌の 1 例. 第 95 回日本胃癌学会総会, 2023.
- 99) 久恒靖人, 民上真也, 樋渡正樹, 塚本芳嗣, 嶋田仁, 榎本武治, 大坪毅人. 当科における腹腔鏡下噴門側胃切除術に対する術式と成績. 第 95 回日本胃癌学会総会, 2023.
- 100) 大島隆一, 國場幸均, 天野優希, 臼井創大, 勝又健太, 菊地悠輔, 根岸宏行, 内藤正規. 右側横行結腸癌に対する腹腔鏡下結腸右半切除術+D3 郭清-カメラアングルと小切開先行の工夫-. 2023 神奈川大腸疾患腹腔鏡下手術セミナー, 2023.
- 101) 塚本芳嗣, 民上真也, 梅澤早織, 樋渡正樹, 久恒靖人, 嶋田仁, 榎本武治, 大坪毅人. 当院における特発性食道破裂に対する手術症例の検討. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 102) 和田慎司, 大杉真也, 井田圭亮, 森本毅, 松本純一, 三村秀文. 脾損傷に対し REBOA 下に 2 回 TAE を施行した症例. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 103) 西澤一, 塚本芳嗣, 樋渡正樹, 久恒靖人, 嶋田仁, 民上真也, 大坪毅人.
急性上腸間膜動脈閉塞症に対し interventional radiology で治療し得た 1 例. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 104) 西村正成, 古畑智久, 有厚厚孝, 小野龍宣, 野田顕義, 佐々木貴浩, 大坪毅人. 横行結腸を内容とした絞扼性腸閉塞の 2 例. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 105) 山田都, 塚本芳嗣, 樋渡正樹, 久恒靖人, 嶋田仁, 民上真也. 乳癌術後腹膜播種による絞扼性腸閉塞を呈し、緊急手術を行った 1 例. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 106) 土橋篤仁, 大山慧, 澤田真裕, 井田圭亮, 小林慎二郎, 小泉哲, 古田繁行, 北川博昭, 大坪毅人. 急性腹症で発見された成人逆行性腸回転異常症に伴う中腸軸捻転の 1 例. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 107) 大島隆一, 内藤正規, 臼井創大, 天野優希, 勝又健太, 菊地悠輔, 根岸宏行, 國場幸均, 大坪毅人. 当院における非外傷性小腸穿孔 28 例の臨床的特徴と治療方法. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 2023.

- 108) 臼井創大, 大島隆一, 天野優希, 勝又健太, 菊地悠輔, 根岸宏行, 内藤正規, 國場幸均, 大坪毅人. 小腸異物に対して待機的手術を施行した2例. 第59回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 109) 井田圭亮, 塚本芳嗣, 榎本武治, 永井彰大, 伊豆本なつき, 武田理香, 山崎桂, 大坪毅人. 当院における腹部緊急手術に対する手術部位感染(SSI)サーベイランスの取り組み. 第59回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 110) 小林慎二郎, 梅澤早織, 増田哲之, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 大坪毅人. (医原性を含む)外因性十二指腸損傷に対する術式選択. 第59回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 111) 大坪琢磨, 松下恒久, 中山敏裕, 澤田真裕, 高木伸平, 田中雄也, 尾崎貴洋, 宮原利行, 角泰廣, 中野浩, 大坪毅人. 魚骨誤飲に対して消化管異物除去を施行した2例. 第59回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 112) 柴田真知, 内藤正規, 大島隆一, 根岸宏行, 菊地悠輔, 勝又健太, 天野優希, 臼井創大, 有泉泰, 長宗我部基弘, 國場幸均, 大坪毅人. 虫垂炎を契機に偶発的に発見された小腸異所性腺の1例. 第59回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 113) 木村紗衣, 井田圭亮, 増田哲之, 土橋篤仁, 小林慎二郎, 小泉哲, 大坪毅人. 妊娠中に発症した特発性肝破裂の一例. 第59回日本腹部救急医学会総会, 2023.

② 国際学会

- 1) Umezawa Saori, Kobayashi Shinjiro, Takagi Shinpei, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Otsubo Takehito. Low preoperative psoas muscle mass index is a risk factor for distal cholangiocarcinoma recurrence after pancreatoduodenectomy: a retrospective analysis. The 67th Annual Congress of International College of Surgeons Japan Section, 2022.
- 2) Kimura Sae, Koizumi Satoshi, Ida Keisuke, Nishizawa Hiro, Masuda Akiyoshi, Tsuchihashi Atsuhito, Kobayashi Shinjiro, Otsubo Takehito. A case of blunt liver trauma in which the from of injury changed in a short interval. The 67th Annual Congress of International College of Surgeons Japan Section, 2022.
- 3) Sawada Masahiro, Makizumi Ryouji, Kato Sojiro, Hamabe Taro, Kamei Natsuko, Fukuoka Asako, Asano Takayuki, Otsubo Takehito. Laparoscopic cystectomy for recurrent mesenteric cystoma of the ileum: a case report. The 67th Annual Congress of International College of Surgeons Japan Section, 2022.
- 4) Masuda Akiyoshi, Koizumi Satoshi, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Kobayashi Shinjiro, Otsubo Takehito. Effect of intraoperative postural change on fluctuations in central venous pressure and stroke volume variation values. The 67th Annual Congress of International College of Surgeons Japan Section, 2022.
- 5) Arifuku Hirotaka, Makizumi Ryouji, Asano Takayuki, Fukuoka Asako, Hamabe Taro, Kimura Sae, Otsubo Takehito. Single-port Laparoscopic repair of a interamesosigmoid hernia. The 67th Annual Congress of International College of Surgeons Japan Section, 2022.
- 6) Nishizawa Hiro, Hisatsune Yasuhito, Mikami Shinya, Shimada jin, Enomoto Takeharu, Otsubo Takehito. A case of adult idiopathic mesenteric volvulus with laparoscopic gastropexy. The 67th Annual Congress of International College of Surgeons Japan Section, 2022.
- 7) Otsubo Takuma, Nakano Hiroshi, Motohashi Naoki, Hayashi Hisashi, Yoshikawa Kentaro, Abe Yu, Miyahara Toshiyuki, Matsushita Tsunehisa, Sumi Yasuhiro, Kobayashi Shinjiro, Otsubo Takehito. Postoperative hemorrhage after major hepatectomy successfully controlled by active porto-caval bypass using PCPS circuit. The 34th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2022.
- 8) Tsuchihashi Atsuhito, Kobayashi Shinjiro, Ida Keisuke, Koizumi Satoshi, Otsubo Takehito, Nariki Saeko, Tajima Shinya, Doi Masatomo, Koike Junki. Three case of pancreatic cancer diagnosed by pancreatic juice and pancreatic ductal abrasion cytology and resected without malignancy in postoperative pathological results. The 34th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2022.
- 9) Kato Sojiro, Kobayashi Shinjiro, Sawada Masahiro, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Otsubo Takehito, Naruki Saeko, Doi Masatomo, Koike Junki. A case of heterogeneous primary hepatocellular carcinoma and interhepatic cholangiocarcinoma with three overlapping tumors after surgery for pancreatic IPMN. The 34th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2022.
- 10) Otsubo Takuma, Nakano Hiroshi, Motohashi Naoki, Hayashi Hisashi, Yoshikawa kentaro, Abe Yu, Miyahara Toshiyuki, Matsushita Tsunehisa, Sumi Yasuhiro, Kobayashi Shinjiro, Otsubo Takehito. A case of unresectable gallbladder cancer successfully treated with chemotherapy followed by surgical resection. The 34th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2022.
- 11) Koizumi Satoshi, Otsubo Takehito, Kobayashi Shinjiro, Tsuchihashi Atsuhito, Ida Keisuke, Kato Soujiro. Validity of our hepatectomy eligibility criteria for super-elderly people over 80 years old. The 34th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2022.

- 12) Kobayashi shinjiro, Nakahara Kazunari, Sawada Masahiro, Kato Sojiro, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Michikawa Yosuke, Otsubo Takehito. Cholecystectomy after endoscopic transpaillary gallbladder drainage(ETGBD). The 34th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2022.
- 13) Ida Keisuke, Kobayashi Shinjiro, Kato Sojiro, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Otsubo Takehito. A Study of Pancreatic Resection Volume and Postoperative Glucose Intolerance in Distal Pancreatectomy. The 34th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2022.
- 14) Umezawa Saori, Kobayashi Shinjiro, Nakahara Kazunari, Takagi Shinpei, Ida Keisuke, Tsuchihashi Atsuhito, Koizumi Satoshi, Michikawa Yosuke, Otsubo Takehito. A case of pancreatic tail resection for pancreatic rupture associated with pseudocyst. Joint Congress of The 26th International Association of Pancreatology And The 53th Annual Meeting of Japan Pancreas Society, 2022.

③ その他

- 1) 佐々木貴浩, 古畑智久, 西村正成, 小野龍宣, 野田顕義. 胆嚢摘出術における Senhance Digital Laparoscopy System の定型化を目指したポート配置. 第1回デジタル内視鏡下手術研究会, 2022.
- 2) 大坪 毅人. 病院経営戦略における医薬品マネジメント～フォーミュラリーの可能性と経営戦略～. 慶応義塾大学/日本調剤株式会社 共催セミナー, 2022.
- 3) ◎富田真央, 千葉清, 中村竜二, 杵渕聡志, 北翔太, 縄田晋太郎, 向後美沙, 駒ヶ嶺正英, 小川普久, 縄田寛, 小林慎二郎, 近田正英, 西巻博, 宮入剛. 腹腔動脈分枝血管における解離性多発動脈瘤に対するハイブリッド治療の1例. 第189回血管外科症例検討会, 2022.
- 4) 西牧裕樹, 久恒靖人, 樋渡正樹, 塚本芳嗣, 嶋田仁, 民上真也, 大坪毅人. 胃癌との鑑別を要した胃梅毒の1例. 聖マリアンナ医学会第82回学術集会, 2022.
- 5) 塚本芳嗣. 大腸壊死、小腸壊死をきたした糞便性閉塞性大腸炎の一例. 横浜敗血症セミナー X, 2022.
- 6) 佐々木貴浩, 古畑智久, 有厚厚孝, 小野龍宣, 野田顕義. 胆嚢摘出術とヘルニア修復術の定型化にむけて. 第2回デジタル内視鏡下手術研究会, 2022.
- 7) 増田哲之, 小林慎二郎, 水上拓郎, 野呂瀬朋子, 梅澤早織, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 砂川優, 大池信之, 大坪毅人. 初診時切除不能と判断したが Conversion surgery 後も長期生存している非乳頭部十二指腸癌の1例. 第55回制癌剤適応研修会, 2023.
- 8) 小林慎二郎, 増田哲之, 梅本久美子, 梅澤早織, 井田圭亮, 土居綾子, 土橋篤仁, 小泉哲, 砂川優, 大坪毅人. 切除可能膵頭部癌に対する NAC-GS についての現況と課題. 第55回制癌剤適応研修会, 2023.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著	1	7
	解説又は総説	7	1
	症例報告	3	1
	その他		
学会発表	国内学会	113	
	国際学会		14
	その他	8	

外科学（心臓血管外科）

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 宮入剛. 聖マリアンナ医科大学の教育理念. 胸部外科, 2022;75(4) : 290-292.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Shimizu Yuuki, Kondo Kazuhisa, Hayashida Ryo, Sasaki Ken-Ichiro, Ohtsuka Masanori, Fukumoto Yoshihiro, Takashima Shinichiro, Inoue Oto, Usui Soichiro, Takamura Masayuki, Sakuma Masashi, Inoue Teruo, Nagata Tokuichiro, Akashi Yoshihiro J, Yamada Yoshihiro, Kato Tamon, Kuwahara Koichiro, Tateno Kaoru, Kobayashi Yoshio, Shibata Rei, Murohara Toyoaki; TACT-ADRC multicenter trial Group. Therapeutic angiogenesis for patients with no-option critical limb ischemia by adipose-derived regenerative cells: TACT-ADRC multicenter trial. Angiogenesis, 2022;25(4) : 535-546.
- 2) Chiba Kiyoshi, Nishimaki Hiroshi, Ogawa Yukihiisa, Tomita Masahiro, Nakamura Ryuji, Kinebuchi Satoshi, Kita Shota, Komagamine Masahide, Nawata Kan, Chikada Masahide, Miyairi Takeshi. Midterm Results of Thoracic Endovascular Aortic Repair with Reentry Closure for Chronic Type B Aortic Dissection with Aneurysmal Dilatation. Annals of Vascular Diseases, 2022;15(4) : 308-316.
- 3) Chiba Kiyoshi, Nishimaki Hiroshi, Ogawa Yukihiisa, Tomita Masahiro, Nakamura Ryuji, Kinebuchi Satoshi, Kita Shota, Komagamine Masahide, Nawata Kan, Chikada Masahide, Miyairi Takeshi. Midterm results of thoracic endovascular aortic repair with reentry closure for chronic Type B aortic dissection with aneurysmal dilatation. Annals of Vascular Diseases, 2022;15 : 308-316.

② 症例報告

- 1) Hiruma Hiromitsu, Ogawa Yukihiisa, Chiba Kiyoshi, Nawata Shintaro, Kotoku Akiyuki, Maruhashi Takaaki, Mimura Hidefumi, Miyairi Takeshi, Nishimaki Hiroshi. Clinical utility of emergency thoracic endovascular aortic repair and timing of definitive surgery in esophageal cancer patients with Aortoesophageal fistula. Annals of Vascular Surgery - Brief Report and Innovation, 2022;2(3) : DOI-10.1016/j.avsurg.2022.100117.
- 2) Chikada Masahide, Chiba Kiyoshi, Nawata Kan, Tomita Masahiro, Nakamura Ryuji, Kinebuchi Satoshi, Kita Shota, Komagamine Masahide, Kogo Misa, Nishimaki Hiroshi, Miyairi Takeshi. Longterm Followup of a Pediatric Patient with Congenital Abdominal Aortic Aneurysm with Coarctation. Annals of Vascular Diseases, 2022;15(4) : 341-343.
- 3) Motohiro Chosokabe, Yasushi Ariizumi, Toshiya Kobayashi. A Case Report of an Extensively Ossified Left Atrial Myxoma. Surgical Case Report, 2022;5(3) : 1-4.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎千葉清, 富田真央, 杵渕聡志, 北翔太, 駒ヶ嶺正英, 向後美沙, 縄田寛, 近田正英, 西巻博, 宮入剛. Living graft を有する冠動脈バイパス後の弓部動脈瘤に対する 2debranching TEVAR 後の open conversion の1例. 第50回日本血管外科学会, 2022.
- 2) 縄田晋太郎, 小川普久, 千葉清, 杵渕聡志, 中村竜士, 富田真央, 谷川和好, 三村秀文, 宮入剛, 西巻博. Improved outcomes of endograft repair of internal iliac artery aneurysm compared with embolization. 第51回日本 IVR 学会総会, 2022.
- 3) 縄田晋太郎, 小川普久, 千葉清, 杵渕聡志, 中村竜士, 富田真央, 谷川和好, 三村秀文, 宮入剛, 西巻博. 当院における内腸骨動脈瘤の血管内治療成績: 塞栓単独群と塞栓+ステントグラフト留置併用群の比較. 第28回日本血管内治療学会学術総会, 2022.
- 4) 渡邊康大, 今野愛, 長田洋資, 桜井研三, 北翔太, 近田正英, 麻生健太郎. 完全房室中隔欠損症に併発した心房頻拍による心不全に開胸 ECMO 搬送を行った乳児例. 第58回日本小児循環器学会, 2022.
- 5) ◎中村竜士, 千葉清, 杵渕聡志, 北翔太, 縄田晋太郎, 駒ヶ嶺正英, 小川普久, 縄田寛, 小林慎二郎, 西巻博, 宮入剛. 腹腔動脈分枝血管における解離性多発動脈瘤に対するハイブリッド治療の1例. 第30回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 2022.

- 6) ◎縄田寛. 移植医療の働き方改革 -関連病院内限定心臓メディカルコンサルタントとしての活動から-. 第58回日本移植学会総会, 2022.
 - 7) 仲野海渡, 沼田賢治, 千葉清, 縄田寛, 吉田徹, 藤谷茂樹. 腹部大動脈瘤が十二指腸に穿破した一例. 第50回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
 - 8) 松田迪, 佐藤如雄, 村田理沙子, 金光陽子, 鈴木規雄, 石橋祐記, 縄田寛, 宮入剛, 原田智雄, 明石嘉浩. 著名な真菌石灰化を来した急性心筋炎の1例. 第26回日本心不全学会学術集会, 2022.
 - 9) ◎千葉清, 西巻博, 縄田晋太郎, 中村竜士, 杵渕聡志, 北翔太, 富田真央, 駒ヶ嶺正英, 縄田寛, 近田正英, 宮入剛. 慢性B型大動脈解離に対する血管内治療の課題. 第63回日本脈管学会総会, 2022.
 - 10) ◎杵渕聡志, 千葉清, 富田真央, 北翔太, 駒ヶ嶺正英, 向後美沙, 縄田寛, 近田正英, 西巻博, 宮入剛. TEVAR後にOpen conversionとなったMarfan症候群の一例. 第29回神奈川心臓血管外科研究会, 2022.
 - 11) 縄田晋太郎, 小川普久, 千葉清, 杵渕聡志, 谷川和好, 駒ヶ嶺正英, 丸橋孝昭, 三村秀文, 宮入剛, 西巻博. EVAR後の瘤径拡大に対するoverhaul conceptの臨床的有用性の検証. 第63回日本脈管学会総会, 2022.
 - 12) ◎千葉清, 西巻博, 小川普久, 縄田晋太郎, 中村竜士, 杵渕聡志, 北翔太, 駒ヶ嶺正英, 縄田寛, 近田正英, 宮入剛. 慢性B型大動脈解離に対する血管内治療の課題. 第63回日本脈管学会総会, 2022.
 - 13) ◎縄田寛. 心臓血管外科手術におけるチームワークとコミュニケーション. 第60回日本人工臓器学会大会, 2022.
 - 14) ◎富田真央, 千葉清, 中村竜士, 杵渕聡志, 北翔太, 向後美沙, 駒ヶ嶺正英, 縄田寛, 近田正英, 西巻博, 宮入剛. DeBakey3b慢性解離に対するre-entry closureを併用したTEVAR術後の胸腹部置換の一例. 第190回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2022.
 - 15) ◎近田正英, 宮入剛, 西巻博, 縄田寛, 谷川和好, 千葉清, 駒ヶ嶺正英, 向後美沙, 北翔太, 杵渕聡志, 富田真央, 中村竜士. Unroofed coronary sinus 高齢成人症例の手術経験. 第24回日本成人先天性心疾患学会, 2023.
 - 16) ◎杵渕聡志, 縄田寛, 富田真央, 中村竜士, 北翔太, 向後美沙, 駒ヶ嶺正英, 千葉清, 谷川和好, 近田正英, 西巻博, 宮入剛. 左室心尖部ペント併用セントラルエクモを装着するも肝不全の進行を制御し得なかった重症両心不全の一例. 第51回人工心臓と補助循環懇話会学術集会, 2023.
 - 17) ◎西巻博. 大動脈解離・解離性大動脈瘤における最近の知見: - IVRを中心に -. 第77回北海道血管造影Interventional Radiology研究会, 2023.
 - 18) ◎富田真央, 縄田寛, 千葉清, 西巻博, 谷川和好, 縄田晋太郎, 駒ヶ嶺正英, 北翔太, 杵渕聡志, 中村竜士, 向後美沙, 近田正英, 宮入剛. 肝臓癌を合併した下腔十二指腸動脈瘤および腹腔動脈起始部閉塞に対する一期的外科治療の一例. 第158回神奈川県臨床外科医学会集談会, 2023.
 - 19) ◎Chiba Kiyoshi, Tomita Masahiro, Nakamura Ryuji, Kinebuchi Satoshi, Kita Shota, Komagamine Masahide, Nawata Kan, Chikada Masahide, Nishimaki Hiroshi, Miyairi Takeshi. Early outcomes in open surgical repair for prior thoracic endovascular aortic repair. 第53回日本心臓血管外科学会学術総会, 2023.
 - 20) ◎北翔太. 僧帽弁異形成からの二心室修復とその後の課題. 第53回日本心臓血管外科学会学術総会, 2023.
 - 21) ◎Chiba Kiyoshi, Nawata Kan, Nakamura Ryuji, Kinebuchi Satoshi, Kita Shota, Kogo Misa, Komagamine Masahide, Chikada Masahide, Nishimaki Hiroshi, Miyairi Takeshi. A case of open conversion after 2debranching TEVAR for aortic arch aneurysm after coronary artery bypass surgery with living graft. 第50回日本血管外科総会, 2022.
 - 22) 淵上真希, 小川普久, 縄田晋太郎, 淵上淳也, 駒ヶ嶺正英, 千葉清, 杵渕聡志, 三村秀文, 宮入剛, 西巻博. Iliac neck dilatation causing ruptured abdominal aortic aneurysm previously treated with EVAR. 第51回日本IVR学会総会, 2022.
 - 23) ◎Chiba Kiyoshi, Tomita Masahiro, Nakamura Ryuji, Kinebuchi Satoshi, Kita Shota, Komagamine Masahide, Nawata Kan, Chikada Masahide, Nishimaki Hiroshi, Miyairi Takeshi. Total arch replacement versus debranching thoracic endovascular aortic repair for an aortic arch aneurysm. 第75回日本胸部外科学術集会, 2022.
 - 24) ◎Nawata Kan, Miyairi Takeshi, Chiba Kiyoshi, Komagamine Masahide, Tanigawa Kazuyoshi, Kita Shota, Kinebuchi Satoshi, Tomita Masahiro, Nakamura Ryuji, Kogo Misa, Chikada Masahide, Nishimaki Hiroshi, Kuwata Shingo, Okuyama Kazuaki, Koga Masashi, Izumo Masaki, Sato Yukio, Mitarai Takanobu, Tanabe Yasuhiro, Akashi Yoshihiro. CP2-3 維持透析症例における大動脈弁置換手術の成績およびTAVIとの比較. 第75回胸部外科学会, 2022.
 - 25) ◎Nawata Kan, Komagamine Masahide, Tanigawa Kazuyoshi, Chiba Kiyoshi, Kita Shota, Kinebuchi Satoshi, Kogo Misa, Nishimaki Hiroshi, Chikada Masahide, Miyairi Takeshi. Outcomes and results of 54 cases of Impella®. 第53回日本心臓血管外科学会学術総会, 2023.
- ② その他

- 1) ◎千葉清, 富田真央, 杵渕聡志, 北翔太, 向後美沙, 駒ヶ嶺正英, 縄田寛, 近田正英, 西巻博, 宮入剛. 胸部大動脈瘤破裂、腹部大動脈瘤破裂、下大静脈穿破に対する血管内治療後の open convert による 1 救命例. 第 30 回日本大動脈外科研究会, 2022.
- 2) ◎富田真央, 千葉清, 中村竜二, 杵渕聡志, 北翔太, 縄田晋太郎, 向後美沙, 駒ヶ嶺正英, 小川普久, 縄田寛, 小林慎二郎, 近田正英, 西巻博, 宮入剛. 腹腔動脈分枝血管における解離性多発動脈瘤に対するハイブリッド治療の 1 例. 第 189 回血管外科症例検討会, 2022.
- 3) ◎杵渕聡志, 千葉清, 富田真央, 北翔太, 向後美沙, 駒ヶ嶺正英, 縄田寛, 西巻博, 近田正英, 宮入剛. 「術中に急性大動脈解離と左室破裂を来した症例」. 第 30 回神奈川心臓血管外科フォーラム, 2022.
- 4) ◎北翔太, 近田正英, 金子幸裕, 近藤良一, 武井哲理, 宮入剛. 早産かつ低出生体重児の Ebstein 奇形に対する Starnes 手術の 1 症例. 第 189 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集, 2022.
- 5) ◎近田正英, 北翔太, 宮入剛, 西巻博, 縄田寛, 千葉清, 駒ヶ嶺正英, 杵渕聡志. 成人部分肺静脈環流異常症の治療経験—中期遠隔期を含めて—. 第 58 回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2022.
- 6) 縄田晋太郎, 西巻博, 千葉清, 杵渕聡志, 谷川和好, 富田真央, 三村秀文, 宮入剛. 若年発症の特発性鎖骨下動脈仮性瘤に対して血管内治療を行った一例. 第 9 回救急外傷 IVR 症例検討会, 2023.
- 7) ◎千葉清, 富田真央, 中村竜士, 杵渕聡志, 北翔太, 駒ヶ嶺正英, 谷川和好, 縄田寛, 近田正英, 西巻博, 宮入剛. Leriche 症候群を合併した胸部下行大動脈瘤の治療方法. 第 192 回血管外科症例検討会, 2023.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		3
	解説又は総説	1	
	症例報告		3
	その他		
学会発表	国内学会	20	5
	国際学会		
	その他	7	

外科学（呼吸器外科）

著書

- 1) 小島宏司, 佐治久. 肺動静脈奇形(肺動静脈瘻) 呼吸器疾患最新の治療 2023-2024 2023;:434-436.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 佐治久. Thorax/Lung and Mediastinum, Pleura: Cancer
肺癌
肺癌診療における最新のトピックス 2022
I. 外科領域: 小型肺癌に対する縮小切除に関する新しいエビデンス—歴史を紐解く三矢の教え. 癌と化学療法, 2022;49(8): 837-841.
- 2) 佐治久. まい・てくにつく 口径の大きな肺動脈の手縫いによる閉鎖のコツと注意点. 胸部外科, 2022;75(8): 587.
- 3) 佐治久. I, II 期肺癌に対する外科治療. 最新臨床肺癌学, 2022;80(増刊号 8): 396-402.
- 4) 佐治久. JCOG0802/WJOG4607L. 腫瘍内科, 2022;30(6): 700-705.
- 5) 佐治久, 畠山高亨, 大坪莞爾, 酒井寛貴, 木村祐之, 本間崇浩, 宮澤知行, 丸島秀樹, 小島宏司. 高齢者肺癌の外科的治療. 呼吸器内科, 2023;43(2): 125-130.

② その他

- 1) 佐治久. 肺がん外科グループ JCOG0802/WJOG4607L THE LANCET 掲載. JOCG News, 2022;(199): 1-3.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Izawa N, Shiokawa H, Onuki R, Hamaji K, Morikawa K, Saji H, Ohashi H, Kasugai S, Hayakawa N, Ohara T, Sunakawa Y. The clinical utility of comprehensive measurement of autoimmune disease-related antibodies in patients with advanced solid tumors receiving immune checkpoint inhibitors: a retrospective study. ESMO Open, 2022;7(2): 100415.
- 2) Saji Hisashi, Okada Morihito, Tuboi Masahiro, Nakajima Ryu, Suzuki Kenji, Aokage Keiju, Aoki Tadashi, Okami Jiro, Yoshino Ichiro, Ito Hiroyuki, Okumura Norihito, Yamaguchi Masafumi, Ikeda Norihiko, Wakabayashi Masashi, Nakamura Kenichi, Fukuda Haruhiko, Nakamura Shinichiro, Mitsudomi Tetsuya, Watanabe Shun-Ichi, Asamura Hisao; West Japan Oncology Group and Japan Clinical Oncology Group.. Segmentectomy versus lobectomy in small-sized peripheral non-small-cell lung cancer(JCOG0802/WJOG4607L): a multicentre, open-label, phase 3, randomised, controlled, non-inferiority trial. Lancet, 2022;399(10335): 1607-1617.
- 3) Nakao Masayuki, Saji Hisashi, Mun Mingyong, Nakamura Hiroshige, Okumura Norihito, Tsuchida Masanori, Sonobe Makoto, Miyazaki Takuro, Aokage Keiju, Haruki Tomohiro, Okada Morihito, Suzuki Kenji, Chida Masayuki. Prognostic Impact of Mediastinal Lymph Node Dissection in Octogenarians With Lung Cancer: JACS1303. Clinical lung cancer, 2022;23(3): e176-e184.
- 4) Morikawa Kei, Kida Hirotaka, Handa Hiroshi, Inoue Takeo, Saji Hisashi, Koike Junki, Nakamura Seiji, Sato Yoshiharu, Ueda Yumi, Suzuki Fumihiko, Matoba Ryo, Mineshita Masamichi. A Prospective Validation Study of Lung Cancer Gene Panel Testing Using Cytological Specimens. Cancers, 2022;14(15): 3783.
- 5) Miyazaki Takuro, Saji Hisashi, Nakamura Hiroshige, Nagayasu Takeshi, Okumura Norihito Tsuchida Masanori, Sonobe Makoto, Aokage Keiju, Nakao Masayuki, Haruki Tomohiro, Okada Morihito, Suzuki Kenji, Chida Masayuki, Yoshino Ichiro; Committee for Scientific Affairs, The Japanese Association for Chest Surgery.. The C-reactive protein to albumin ratio is a prognostic factor for stage I non-small cell lung cancer in elderly patients: JACS1303. Surgery today, 2022;52(10): 1463-1471.
- 6) Kinoshita Kohei, Morikawa Kei, Tsuruoka Hajime, Chosokabe Motohiro, Kida Hirotaka, Handa Hiroshi, Inoue Takeo, Miyazawa Tomoyuki, Saji Hisashi, Mineshita Masamichi. Efficacy of combined transbronchial lung cryobiopsy and conventional forceps biopsy for lung malignancies: a prospective cohort study. Scientific Reports, 2023;13(1): 1850. doi: 10.1038/s41598-023-29007-y.

- 7) Mima Takahiro, Saji Hisashi, Nakamura Hiroshige, Okumura Norihito, Tsuchida Masanori, Sonobe Makoto, Miyazaki Takuro, Aokage Keiju, Nakao Masayuki, Haruki Tomohiro, Okada Morihito, Suzuki Kenji, Yoshino Ichiro. Sublobar Resection for Non-Small Cell Lung Cancer in Octogenarians: A Prospective, Multicenter Study. The Annals of thoracic surgery, 2023; : DOI-10.1016/j.athoracsur.2023.02.061.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎酒井寛貴, 大坪莞爾, 木村祐之, 宮澤知行, 丸島秀樹, 小島宏司, 佐治久.
肺腺癌切除例における MCM2 発現の臨床病理学的な意義. 第 18 回日本臨床プロテオゲノミクス学会, 2022.
- 2) ◎西村俊秀. 「本学会の歴史、意義、そして将来について」. 第 18 回日本臨床プロテオゲノミクス学会, 2022.
- 3) ◎佐治久. 「Detail results of JCOG0802/WJOG4607L : experience from attacking NEJM and THE LANCET」.
広島腫瘍セミナー2022, 2022.
- 4) ◎木村祐之, 大坪莞爾, 酒井寛貴, 宮澤知行, 丸島秀樹, 小島宏司, 成木佐瑛子, 土居正知, 小池淳樹, 佐治久. 同時性
三重多発肺癌の切除例. 第 193 回日本肺癌学会関東支部学術集会, 2022.
- 5) ◎佐治久. 肺がんの概要. 肺がん医療・疾患啓発のための市民講座 岐阜発 肺がんへの向き合い方と最新治療をみんな
で学ぼう 2022 in 岐阜, 2022.
- 6) ◎佐治久. JCOG0802/WJOG4607L の解析と将来展望. 第 75 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2022.
- 7) 金澤実, 栗栖美由紀, 酒井寛貴, 齋藤浩輝, 若竹春明, 北野夕佳, 小島宏司, 津久田純平, 榊井良裕, 藤谷茂樹, 平泰彦.
化膿性脊椎炎と膿胸を合併した 2 症例. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 8) ◎佐治久. 高齢者肺がんに対する外科治療戦略. 第 60 回日本癌治療学会学術集会, 2022.
- 9) ◎佐治久. Best of WCLC. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 2022.
- 10) ◎佐治久. JCOG0802/WJOG4607L の結果から求められる次の課題. 第 63 回日本肺癌学会学術集会, 2022.
- 11) ◎畠山高亨, 木村祐之, 大坪莞爾, 酒井寛貴, 宮澤知行, 土居正知, 丸島秀樹, 小島宏司, 小池淳樹, 佐治久. 後縦隔
Muller 管嚢胞の 1 切除例. 第 183 回日本呼吸器内視鏡学会 関東支部会, 2022.
- 12) ◎佐治久. 変わりゆく周術期治療 ～ADAURA 試験のインパクト～. 第 191 回日本胸部外科学会 関東甲信越地方会, 2023.
- 13) ◎木村祐之, 畠山高亨, 大坪莞爾, 酒井寛貴, 宮澤知行, 丸島秀樹, 小島宏司, 佐治久. 肺扁平上皮癌に対し右下葉楔状
スリーブ切除を施行した 1 例. 第 184 回日本呼吸器内視鏡学会 関東支部会, 2023.
- 14) ◎Saji Hisashi. Update on surgical strategies for small-sized peripheral lung cancer. 日本放射線腫瘍学会第 35
回学術大会, 2022.

② 国際学会

- 1) ◎Saji Hisashi. Final results of the JCOG0802/WJOG4607L trial. 30th ESTS MEETING, 2022.
- 2) ◎Saji Hisashi. When less is more in thoracic surgery. 2022 NCKUH Surgery Forum:Innovation and Creativity,
2022.
- 3) ◎Saji Hisashi. Sublobar resection in small-sized peripheral non-small cell lung cancer. IASLC 2022 World
Conference on Lung Cancer, 2022.
- 4) ◎Saji Hisashi. Current Evidence of Sublobar Resection for Lung Cancer. IASLC 2022 Asia Conference on Lung
Cancer, 2022.
- 5) ◎Saji Hisashi. In-depth review of JCOG 0802 study. Dinner Meeting in Korean Association For Thoracic
Surgical Oncology, 2022.
- 6) ◎Saji Hisashi. Japan Clinical Oncology Group Studies about Sublobar Resection. Korean Association for Lung
Cancer International Conference 2022 (KALC-IC2022), 2022.
- 7) ◎Saji Hisashi. JCOG 0802 TRIAL. SPCCTV CONGRESS 4D VISIONS 2022 AND 1ST IBERIC THORACIC SURGERY MEETING,
2022.
- 8) ◎Saji Hisashi. Segmentectomy in early stage lung cancer: What we have learned from JCOG0802 study?. 1st SNUH
LEE YUNG KYOON MEMORIAL SYMPOSIUM, 2022.

③ その他

- 1) ◎佐治久. 高齢者肺癌の外科治療のエビデンスと将来. 第 28 回呼吸器外科セミナー, 2022.
- 2) ◎佐治久. Two-way surgery in thoracic oncology : 時代は真に二刀流. m3.com 講演会 区域切除の魅力とは, 2022.
- 3) ◎佐治久. 「ROAD TO THE LANCET: JCOG に伝わる三矢の教え」. 呼吸器外科医のための肺癌治療 Seminar, 2022.
- 4) ◎佐治久. When less is more in thoracic surgery ?. 第 20 回千葉肺癌カンファレンス, 2022.

- 5) ◎丸島秀樹. 「補強材 SLR の使用経験からの有用性」. NEXT セミナー～「次世代」のデバイス/手技による合併症対策～, 2022.
- 6) ◎佐治久. 「JCOG0802/WJOG4607L in LANCET: Appendix data を読み解く」. Excellence Meeting on Lung Cancer in 埼玉東部, 2022.
- 7) ◎佐治久. 『Segmentectomy ver2.0 from the results of JCOG0802/WJOG4607L』. 呼吸器外科 Forum in Chiba, 2022.
- 8) ◎佐治久. Road to THE LANCET:The Two Towers
『JCOG0802 の結果の解析と縮小手術の展望』. 群馬呼吸器外科 expert_seminar, 2022.
- 9) ◎佐治久. 「Road to THE LANCET: The Two Towers」. Izumo Thoracic Surgery セミナー2022, 2022.
- 10) ◎佐治久. 『変わりゆく周術期治療～ADAURA 試験のインパクト～』. 湘南肺癌治療連携カンファレンス, 2022.
- 11) ◎佐治久. 『Road to THE LANCET: Less is more?』. 第 17 回山形呼吸器外科研究会, 2022.
- 12) ◎佐治久. 「縮小切除の時代。Based on the results of JCOG0802/WJOG4607L and CALGB140503」. Meet the Expert, 2022.
- 13) ◎佐治久. 『Seg. 2.0 の時代へ Based on the Results of JCOG/WJOG and CALGB』. 中央西日本呼吸器外科セミナー『区域切除を深堀する』, 2022.
- 14) ◎佐治久. 肺野末梢小型肺癌における手術の最新の話題：
WCLC2022 Plenary より. Boehringer Ingelheim Lung Cancer Conference 2022 肺がん治療の最近の話題, 2022.
- 15) ◎佐治久. 「ADAURA が変える、肺癌周術期治療」. AstraZeneca Lung Cancer Symposium ～肺癌周術期治療を考える～, 2023.
- 16) ◎佐治久. 「最新肺癌外科治療 –2020 年～2022 年エビデンス総特集より–」. 第 52 回東日本呼吸器医研究会, 2023.
- 17) ◎佐治久. 『JCOG0802/WJOG4607L 分かっていること、分かっていないことー事実に対して誠実に、結果の解釈は謙虚に』.
CSL 呼吸器外科区域切除 WEB セミナー, 2023.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著		7
	解説又は総説	5	
	症例報告		
	その他	1	
学会発表	国内学会	13	1
	国際学会		8
	その他	17	

外科学（小児外科）

著書

- 1) 古田繁行. 消化管異物 今日の治療指針 私はこう治療している 2023; (2023 年版):1451-1451.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 古田繁行, 大山慧, 田中邦英, 川口皓平, 北川博昭. 漏斗胸患者に対する当院の取り組み～無治療・保存的治療・手術～. 川崎市医師会医学雑誌, 2022;39:16-19.
- 2) 西谷友里, 川口皓平, 工藤公介, 川口拓哉, 大林樹真, 田中邦英, 大山慧, 古田繁行, 関保二, 小池淳樹, Pringle KC, 北川博昭. 腎発生における HNF1 β の役割. 発達腎研究会誌, 2022;29(1):21-25.

② 総説又は症例解説

- 1) 大林樹真, 脇坂宗親, 西谷友里, 古田繁行. 特集 with コロナの小児医療の変化 入院時 SARS-CoV-2 検査の意義. 小児外科, 2022;54(6):576-578.
- 2) 古田繁行, 大山慧, 田中邦英, 川口皓平. 特集 「低侵襲治療」小児への適応と可能性 気管腕頭動脈瘤 コイル塞栓. 小児外科, 2022;54(8):792-795.
- 3) 新開統子, 杉本敏美, 増本幸二, 広津崇亮. 特集 小児外科を取り巻く最新テクノロジー 線虫 C.elegans を用いた小児がんスクリーニング. 小児外科, 2022;54(10):1032-1035.
- 4) 川瀬弘一. 医療に対する私の思い 診療情報管理士と WHO 国際統計分類 (WHO-FIC), HL7 FHIR. 神奈川県医師会報, 2022;(883):35-38.
- 5) 川瀬弘一. 医療行政 保健・医療関連行為に関する国際分類 (ICHI) の動向. 医学のあゆみ, 2022;283(8):803-804.
- 6) 古田繁行, 北川博昭. 特集 巨大臍ヘルニア治療 update 治療法の変遷. 小児外科, 2022;54(12):1149-1153.
- 7) 新開統子, 増本幸二, 川上肇, 田中保成, 西潟綾, 後藤悠大, 大河内信弘, 石黒聡尚, 坂本規彰. 肝間葉性過誤腫の 2 例と本邦小児報告例のまとめ. 日本小児外科学会雑誌, 2022;58(7):996-1004.
- 8) 川瀬弘一. メヂカルレポート 小児腸重積症について 小児腸重積症のガイドライン作成に取り組んで. 神奈川県医師会報, 2023;(887):43-46.
- 9) 川瀬弘一. 巻頭言 DPC/PDPS 導入から 20 年が経過して. 川崎市医師会会報, 2023;(388):4-5.

③ 症例報告

- 1) 大山慧, 古田繁行, 西谷友里, 田中邦英, 新開統子. 特集 共有したい術式および手術経験:手術のポイントや工夫 複数回の手術を行い、安定した経過が得られている F1 o y d II 型気管無形成の 1 例. 小児外科, 2023;55(3):270-275.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Takae Seido, Furuta Shigeyuki, Iwahata Hideyuki, Iwahata Yuriko, Keino Dai, Kanamori Ryo, Oyama Kei, Tanaka Kunihide, Shiraishi Eriko, Suzuki Yuki, Sugishita Yodo, Horage Yuki, Sakamoto Miki, Mori Tetsuya, Kitagawa Hiroaki, Suzuki Nao. Cryopreservation of paediatric ovarian tissue with an updated version of the Edinburgh criteria for appropriate patient selection. Reproductive biomedicine online, 2022;44(4):667-676.
- 2) Nishiya Yuri, Kawaguchi Kohei, Kudo Kosuke, Kawaguchi Takuya, Obayashi Juma, Tanaka Kunihide, Ohyama Kei, Furuta Shigeyuki, Seki Yasuji, Koike Junki, Pringle KC, Kitagawa Hiroaki. Factors influencing the development of multicystic dysplastic kidney(MCDK) following urinary tract obstruction in the fetal lamb. Pediatric Surgery International, 2022;38(6):913-918.

② 症例報告

- 1) Shirane Kazuki, Masumoto Kouji, Shinkai Toko, Ohkohchi Nobuhiro, Endou Masato, Ishige Kazunori. Hepatolithiasis in a 52-year-old native liver survivor with postoperative biliary atresia. Journal of Pediatric Surgery Case Reports, 2022;89:DOI-10.1016/j.esc.2022.102538.
- 2) Shinkai Toko, Masumoto Kouji, Kamiyama Miki, Goto Yudai, Tanaka Yasunari, Ono Kentaro, Aoyama Tomohiro, Shirane Kazuki, Horiguchi Hinako, Tanaka Nao, Sasaki Takato, Chiba Fujiko, Jimbo Takahiro, Urita Yasuhisa, Sakamoto Naoya. Treatment of permanent tracheostomal stenosis with local steroid injection. Journal of Pediatric Surgery, 2023;:https://doi.org/10.1016/j.epsc.2022.10257.

学会発表

① 国内学会

- 1) 古田繁行, 藤川あつ子, 大山慧, 田中邦英, 川口皓平, 北川博昭. Nuss 手術は脊柱変形に影響を与えるのか?. 第 59 回日本小児外科学会学術集会, 2022.
- 2) 田中邦英, 古田繁行, 川口皓平, 大山慧, 北川博昭. 当施設における小児陰唇癒合に対する治療. 第 59 回日本小児外科学会学術集会, 2022.
- 3) 大山慧, 古田繁行, 川口皓平, 田中邦英, 北川博昭. 当院における小児腹部外傷に対する IVR. 第 59 回日本小児外科学会学術集会, 2022.
- 4) 工藤公介, 大山慧, 田中邦英, 川口皓平, 渡邊春花, 柳澤信之, 小池淳樹, 古田繁行, 北川博昭. 小児肝細胞癌における GPC3 発現の検討. 第 59 回日本小児外科学会学術集会, 2022.
- 5) 新開統子, 増本幸二, 新保教広, 田中保成, 西塔翔吾, 後藤悠大, 藤井俊輔, 佐々木理人, 千葉史子, 小野健太郎, 瓜田泰久. 脾切除後の脾液瘻に対する漢方療法の工夫. 第 59 回日本小児外科学会学術集会, 2022.
- 6) 大林樹真, Kevin C. Pringle, 関保二, 脇坂宗親, 古田繁行, 大山慧, 田中邦英, 川口皓平, 川口拓哉, 西谷友里, 工藤公介, 北川博昭. 大動物胎仔国際共同研究の経験と小児外科基礎研究の発展. 第 59 回日本小児外科学会学術集会, 2022.
- 7) 川口皓平, 田中邦英, 大山慧, 古田繁行. 小児外傷性消化管穿孔の治療経験. 第 59 回日本小児外科学会学術集会, 2022.
- 8) 川瀬弘一, 岩中督, 波多野賢二. 小児外科領域における ICD-11. 第 59 回日本小児外科学会学術集会, 2022.
- 9) 脇坂宗親, 大林樹真, 西谷友里, 北川博昭. 小児外科地位向上のための取り組み: 政令指定都市・中核病院としての大学附属病院. 第 59 回日本小児外科学会学術集会, 2022.
- 10) 渡邊春花, 大山慧, 田中邦英, 川口皓平, 渡邊康大, 長田洋資, 藤川あつ子, 古田繁行. 外傷性肺動脈損傷の 4 歳女児例. 第 58 回日本小児放射線学会学術集会, 2022.
- 11) 田中邦英, 大山慧, 川口皓平, 本間千夏, 西村陽子, 高橋千晶, 小町詩織, 長谷川潤一, 北東功, 古田繁行. 胎児期に脱出腸管が壊死した腹壁破裂の一例. 第 58 回日本周産期・新生児医学会総会, 2022.
- 12) 川口皓平, 中澤龍斗, 大山慧, 田中邦英, 渡邊春花, 菊地栄次, 古田繁行. 血尿による尿路閉塞をきたした外傷性腎損傷の 2 例. 第 31 回日本小児泌尿器科学会総会, 2022.
- 13) 渡邊春花, 大山慧, 田中邦英, 川口皓平, 渡邊康大, 長田洋資, 藤川あつ子, 清水直樹, 古田繁行. 血管アクセスを留置して Active observation を行った外傷性肺動脈損傷の 4 歳女児例. 第 35 回日本小児救急医学会学術集会, 2022.
- 14) 川瀬弘一. 我が国における ICHI 活用の可能性. 第 48 回日本診療情報管理学会学術大会, 2022.
- 15) 大林樹真, 金井理沙, 矢本信也, 三宅啓, 福本弘二. 小腸カプセル内視鏡は小児患者の診断に有用か?. 第 49 回日本小児栄養消化器肝臓学会, 2022.
- 16) 川口拓哉, 脇坂宗親, 田中邦英, 渡邊康大, 古田繁行. アデノウイルス胃腸炎罹患後に胃穿孔を発症した乳児の 1 例. 第 56 回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 2022.
- 17) 渡邊春花, 川口皓平, 田中邦英, 大山慧, 古田繁行. 呼吸障害を契機に発見された新生児梨状窩嚢胞の一例. 第 56 回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 2022.
- 18) 森田康太郎, 大山慧, 渡邊春花, 川口皓平, 田中邦英, 古田繁行. 穿孔性虫垂炎による腹腔内膿瘍が S 状結腸へ穿破した 1 例. 第 56 回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 2022.
- 19) 新開統子, 増本幸二, 田中尚, 藤井俊輔, 小野健太郎, 堀口比奈子, 白根和樹, 田中保成, 青山統寛, 後藤悠大, 佐々木理人, 千葉史子, 坂元直哉, 神保教広, 瓜田泰久. 小児気管切開後のサルベージ気管切開離脱のための気切孔頭側の肉芽治療について. 第 38 回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 2022.
- 20) 工藤公介, 大山慧, 田中邦英, 川口皓平, 渡邊春花, 柳澤信之, 小池淳樹, 古田繁行, 北川博昭. 小児肝細胞性腫瘍と成人肝細胞癌における肝細胞特異タンパク、肝幹細胞マーカーおよび類洞内皮細胞タンパク発現. 第 64 回日本小児血液・がん学会学術集会, 2022.
- 21) 田中邦英, 古田繁行, 古谷菜摘, 本間千夏, 西村陽子, 後藤海人, 森内美希, 廣瀬あかね, 北東功, 長谷川潤一. 胎児嚢胞穿刺ドレナージを施行した肝嚢胞の一例. 第 19 回日本胎児治療学会学術集会, 2022.
- 22) 大林樹真, 矢本真也, 三宅啓, 野村明芳, 金井理沙, 根本悠里, 津久井崇文, 福本弘二. 左肺穿通を起こした縦隔成熟嚢胞性奇形腫の一例. 第 55 回日本小児外科学会東北北陸地方会, 2022.
- 23) 大林樹真, 川口拓哉, 西谷友里, 古田繁行. Advanced LPEC 法を行った小児大腿ヘルニアの一例. 第 35 回日本内視鏡外科学会総会, 2022.
- 24) 劉たまみ, 久恒靖人, 西谷友里, 西牧裕樹, 樋渡正樹, 塚本芳嗣, 嶋田 仁, 民上真也, 大坪毅人. 抗凝固療法が有効であった特発性上腸間膜静脈・門脈血栓症の一例. 日本消化器病学会関東支部第 372 回例会, 2022.
- 25) 土橋篤仁, 大山慧, 澤田真裕, 井田圭亮, 小林慎二郎, 小泉哲, 古田繁行, 北川博昭, 大坪毅人. 急性腹症で発見された成人逆回転型腸回転異常症に伴う中腸軸捻転の 1 例. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 2023.

- 26) 渡邊春花, 川口皓平, 田中邦英, 大山慧, 古田繁行. 小児外傷性十二指腸穿孔 3 例の治療経験. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 27) 森田康太郎, 大山慧, 渡邊春花, 川口皓平, 田中邦英, 古田繁行. 緊急膀胱ステント留置で手術が回避できた小児外傷性膀胱損傷 (IIIb) の 1 例. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 28) 大山慧, 古田繁行, 渡邊春花, 田中邦英. 当院における小児腹部外傷に対する IVR. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 2023.

② 国際学会

- 1) Kitagawa Hiroaki. Key note lectures Management of fetal urinary tract obstruction. 35th International Symposium on Pediatric Surgical Research, 2022.
- 2) Obayashi Juma, Yamoto Masaya, Fukumoto Koji, Furuta Shigeyuki, Kitagawa Hiroaki. The comorbidities of recurrent inguinal hernia in children : A systematic review. 35th International Symposium on Pediatric Surgical Research, 2022.
- 3) Kudo Kosuke, Ohyama Kei, Tanaka Kunihide, Kawaguchi Kohei, Watanabe Haruka, Furuta Shigeyuki, Kitagawa Hiroaki, Yanagisawa Nobuyuki, Koike Junki. Comparative study of biological characteristics in adult hepatocellular carcinoma and pediatric hepatocellular tumors .(3mins). 35th International Symposium on Pediatric Surgical Research, 2022.

③ その他

- 1) 田中邦英. 短腸症候群が原因の腸管不全由来肝障害 (IFALD) に対し腸管延長術 (STEP) が有効であった一例. 第 37 回神奈川県小児肝・消化管疾患研究会, 2022.
- 2) 新開統子, 増本幸二, 田中尚, 藤井俊輔, 小野健太郎, 堀口比奈子, 白根和樹, 田中保成, 青山統寛, 後藤悠大, 佐々木理人, 千葉史子, 坂元直哉, 神保教広, 瓜田泰久. 気管切開離脱のための気切孔頭側の肉芽治療. 第 32 回日本小児外科 QOL 研究会, 2022.
- 3) 大山慧, 田中邦英, 西谷友里, 古田繁行. 生活制限を余儀なくされている葛西手術後の自己肝で生存中の 2 成人例. 第 32 回日本小児外科 QOL 研究会, 2022.
- 4) 田中邦英, 古田繁行, 渡邊春花, 川口皓平, 大山慧, 北川博昭. 腹壁破裂による短腸症候群の管理中に腸管不全関連肝障害を生じた一例. 第 51 回日本小児外科代謝研究会, 2022.
- 5) 古田繁行, 田中邦英, 大山慧, 川口皓平, 渡邊春花. 胆道閉鎖症術後管理における茵ちん蒿湯の使用経験. 第 26 回日本小児外科漢方研究会, 2022.
- 6) 川口拓哉, 大林樹真, 脇坂宗親, 古田繁行. 小児腹腔鏡下鼠経ヘルニア修復術後における再発症例の検討. 第 13 回神奈川ヘルニア研究会, 2022.
- 7) 大山慧, 田中邦英, 西谷友里, 古田繁行. 十二指腸液検査にてビリルビンが検出された胆道閉鎖 Ibv の 1 例. 第 49 回日本胆道閉鎖症研究会, 2022.
- 8) 川口皓平. 小児外科手術における術中反回神経モニタリングの経験. 第 5 回多摩外科医会, 2023.

		和文	英文
著 書		1	
論 文	原著	2	2
	解説又は総説	9	
	症例報告	1	2
	その他		
学会発表	国内学会	28	
	国際学会		3
	その他	8	

外科学（乳腺・内分泌外科）

著書

- 1) 永澤慧, 坂本祥駿, 前田一郎, 鈴木穰. がんゲノム医療時代の分子腫瘍学 病理と臨床 2022 年臨時増刊号 2022;40:258-269.
- 2) 津川浩一郎. RI 法によるセンチネルリンパ節生検 乳癌診療 state of the art 科学に基づく最新診療 2022;(1):312-314.
- 3) 永澤慧, 金井昭教, 鈴木穰. 空間トランスクリプトーム Visium のデータ解析ツール 空間オミクス解析スタートアップ 実践ガイド 2022;:36-46.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 本吉愛, 小池淳樹, 津川浩一郎. BRCA1/2 病的バリエーション保有者の対側乳房リスク低減手術検体における病理評価法の検討 . 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2022;50(2) : 47-54.
- 2) 本吉愛, 久我亜沙美, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 右田王介, 津川浩一郎. 包括的がんゲノムプロファイリング検査で抽出される二次的所見に関する実態調査. 遺伝性腫瘍, 2022;22(2) : 36-40.

② 症例報告

- 1) 末廣真理維, 小島康幸, 小林綾子, 横溝綾子, 湊川紘子, 田中恒明. 血液透析中の乳がん患者にトラスツズマブデルクステカン进行した 1 例. 医療薬学, 2022;48(7) : 284-291.
- 2) 坂本菜央, 本吉愛, 敦賀智子, 川本久紀, 津川浩一郎, 田島信哉, 小池淳樹. 心臓転移をきたした乳腺扁平上皮癌の 1 例. 乳癌の臨床, 2022;37(3) : 263-268.
- 3) 長坂智裕, 方波見卓行, 山本雄太郎, 松葉怜, 清水紗智, 矢吹由香里, 有泉泰, 長宗我部基弘, 吉田一彦, 長嶋洋治, 山崎有人, 笹野公伸, 曾根正勝. 乳癌、甲状腺乳頭癌を併発した副腎皮質癌の一例. ACTH RELATED PEPTIDES, 2022;33 : 19-21.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Yukie Kashima, Keiya Kaneko, Patrick Reteng, Nina Yoshitake, Lucky Ronaid Runtuwene, Satoi Nagasawa, Masaya Onishi, Masahide Seki, Ayako Suzuki, Sumio Sugano, Mamiko Sakata-Yanagimoto, Yumiko Imai, Kaori Nakayama-Hosoya, Ai kawana-Tachikawa, Taketoshi Mizutani, Yutaka Suzuki. Intensive single-cell analysis reveals immune-cell diversity among healthy individuals. Life Science Alliance, 2022; : 1-16.
- 2) Yamada Akimitsu, Hayashi Naoki, Kumamaru Hiraku, Nagahashi Masayuki, Usune Shiori, Asaga Sota, Iijima Kotaro, Kadoya Takayuki, Kojima Yasuyuki, Kubo Makoto, Miyashita Minoru, Miyata Hiroaki, Ogo Etsuko, Tamura Kenji, Tanakura Kenta, Tada Keiichiro, Niikura Naoki, Yoshida Masayuki, Ohno Shinji, Ishikawa Takashi, Narui Kazutaka, Endo Itaru, Imoto Shigeru, Jinno Hiromitsu. Prognostic impact of postoperative radiotherapy in patients with breast cancer and with pT1-2 and 1-3 lymph node metastases: A retrospective cohort study based on the Japanese Breast Cancer Registry. European journal of cancer, 2022;172 : 31-40.
- 3) Shimomura Akihiko, Nagahashi Masayuki, Kumamaru Hiraku, Aogi Kenjiro, Asaga Sota, Hayashi Naoki, Iijima Kotaro, Kadoya Takayuki, Kojima Yasuyuki, Kubo Makoto, Miyashita Minoru, Miyata Hiroaki, Niikura Naoki, Ogo Etsuko, Kenji Tamura, Tanakura Kenta, Yoshida Masayuki, Yamamoto Yutaka, Imoto Shigeru, Jinno Hiromitsu. Clinicopathological features of male patients with breast cancer based on a nationwide registry database in Japan. Breast Cancer, 2022; : <https://doi.org/10.1007/s12282-022-01378-6>.
- 4) Shuhei Miyake, Miho Oka, Akinori Kanai, Yosuke Kawai, Satoi Nagasawa, Yuichi Shiraishi, Katsushi Tokunaga, Takashi Kohno, Masahide Seki, Yutaka Suzuki, Ayako Suzuki. Phasing analysis of lung cancer genomes using a long read sequencer. Nature Communications, 2022;13(1) : e3464.
- 5) Chihiro Udagawa, Sherwin Kuah, Tatsunori Shimoi, Ken Kato, Teruhiko Yoshida, Mari Hara Nakano, Arata Shimo, Yasuyuki Kojima, Reiko Yoshie, Koichiro Tsugawa, Taisei Mushiroda, Ern Yu Tan, Hitoshi Zembutsu. Replication study for the association of five SNPs identified by GWAS and Trastuzumab-induced cardiotoxicity in Japanese and Singaporean cohorts. Biological & Pharmaceutical Bulletin, 2022;45(8) : 1198-1202.

- 6) Yutaka Yamamoto, Hiroji Iwata, Naruto Taira, Norikazu Masuda, Masato Takahashi, Tetsuhiro Yoshinami, Takayuki Ueno, Tatsuya Toyama, Takashi Yamanaka, Toshimi Takano, Masahiro Kashiwaba, Koichiro Tsugawa, Yoshie Hasegawa, Kenji Tamura, Hiroshi Tada, Fumikata Hara, Tomomi Fujisawa, Naoki Niikura, Shigehira Saji, Satoshi Morita, Masakazu Toi, Shinji Ohno. Pertuzumab retreatment for HER2-positive advanced breast cancer: A randomized, open-label phase III study (PRECIOUS). *Cancer Science*, 2022;113 : 3169-3179.
- 7) Kyoko Muto, Issei Tsuchiya, Soo Hyeon Kim, Satoi Nagasawa, Mariko Takishita, Koichiro Tsugawa, Hiroaki Saito, Yusuke Komazaki, Toru Torii, Teruo Fujii, Yutaka Suzuki, Ayako Suzuki, Masahide Seki. Semibulk RNA-seq analysis as a convenient method for measuring gene expression statuses in a local cellular environment. *Scientific Reports*, 2022;12(1) : 15309.
- 8) Aihara Tomohiko, Kumamaru Hiraku, Ishitobi Makoto, Miyashita Minoru, Miyata Hiroaki, Tamura Kenji, Yoshida Masayuki, Ogo Etsuyo, Nagahashi Masayuki, Asaga Sota, Kojima Yasuyuki, Kadoya Takayuki, Aogi Kenjiro, Niikura Naoki, Iijima Kotaro, Hayashi Naoki, Kubo Makoto, Yamamoto Yutaka, Takeuchi Yoshinori, Imoto Shigeru, Jinno Hiromitsu. Prognosis and effectiveness of chemotherapy for medullary breast carcinoma. *Breast cancer research and treatment*, 2022; : <https://doi.org/10.1007/s10549-022-06749-3>.
- 9) Udagawa Chiro, Nakano Hara Mari, Yoshida Teruhiko, Ohe Yuichiro, Kato Ken, Mushiroda Taisei, Zembutsu Hitoshi. Association between genetic variants and the risk of nivolumab-induced immune-related adverse events. *Pharmacogenomics*, 2022;23(16) : 887-901.
- 10) Ayu Yamaguchi, Makoto Ishitobi, Naomi Nagura, Ayaka Shimo, Hirohito Seki, Akiko Ogiya, Teruhisa Sakurai, Yukiko Seto, Chiya Oshiro, Shinsuke Sasada, Michiko Kato, Takahiko Kawate, Naoto Kondo, Kazutaka Narui, Tsuyoshi Nakagawa, Hiroko Nogi, Chikako Yamauchi, Koichiro Tsugawa, Yuka Kajiura, Tadahiko Shien. Classification of local recurrence after Nipple-Sparing mastectomy based on location: The features of Nipple-Areolar recurrence differ from those of other local recurrences. *Annals of surgical oncology : the official journal of the Society of Surgical Oncology*, 2022;3 : 1678-1686.
- 11) Mori Tomoharu, Okamoto Yusuke, Mu Anfeng, Ide Yoshimi, Yoshimura Akiyo, Senda Noriko, Kawata Inagaki Yukiko, Kawashima Masahiro, Kitao Hiroyuki, Tokunaga Eriko, Miyoshi Yasuo, Ohsumi Shozo, Tsugawa Koichiro, Ohta Tomohiko, Katagiri Toyomasa, Ohtsuru Shigeru, Koike Kaoru, Ogawa Seishi, Toi Masakazu, Iwata Hiroji, Nakamura Seigo, Matsuo Keitaro, Takata Minoru. Lack of impact of the ALDH2 rs671 variant on breast cancer development in Japanese BRCA1/2-mutation carriers. *Cancer Medicine*, 2022;12(6) : 6594-6602.
- 12) Masataka Sawaki 1, Naruto Taira 2, Yukari Uemura 3, Tsuyoshi Saito 4, Shinichi Baba 5, Kokoro Kobayashi, Hiroaki Kawashima, Michiko Tsuneizumi, Noriko Sagawa, Hiroko Bando, Masato Takahashi, Miki Yamaguchi, Tsutomu Takashima, Takahiro Nakayama, Masahiro Kashiwaba, Toshiro Mizuno, Yutaka Yamamoto, Hiroji Iwata, Tatsuya Toyama, Koichiro Tsugawa, Takuya Kawahara, Hirofumi Mukai; RESPECT study group. Adjuvant trastuzumab without chemotherapy for treating early HER2-positive breast cancer in older patients: A propensity score-adjusted analysis of a prospective cohort study. *The Breast*, 2022;66 : 245-254.
- 13) Hattori Masaya, Masuda Norikazu, Takano Toshimi, Tsugawa Koichiro, Inoue Kenichi, Matsumoto Koji, Ishikawa Takashi, Itoh Mitsuya, Yasojima Hiroyuki, Tanabe Yuko, Yamamoto Keiko, Suzuki Masato, Wilbur Pan, Javier Cortes, Iwata Hiroji. Pembrolizumab plus chemotherapy in Japanese patients with triple-negative breast cancer: Results from KEYNOTE-355. *Cancer Medicine*, 2023; : 1-14.

学会発表

① 国内学会

- 1) 本吉愛, 酒巻香織, 坂本菜央, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂新, 小島康幸, 都築麻紀子, 河原太, 大井涼子, 志茂彩華, 白英, 川本久紀, 福田護, 津川浩一郎. 乳癌腋窩リンパ節郭清術における新しいデバイス (HARMONIC HD1000i 20)の使用経験. 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022.
- 2) 津川浩一郎. HR陽性HER2陰性進行再発乳癌治療の実際～イブランスのエビデンスと経験をもとに～. 第122回日本外科学会定期学術集会, 2022.
- 3) 小島康幸, 津川浩一郎. 術前化学療法施行例での超音波検査を用いた切除範囲決定における臨床成績. 日本超音波医学会第95回学術集会, 2022.
- 4) 本吉愛, 川本久紀, 小澤南, 高橋由妃, 杉下陽堂, 久我亜沙美, 右田王介, 津川浩一郎. 若年で異時性両側乳癌及び肺癌を発症したPeutz-Jeghers症候群の一例. 第28回日本遺伝性腫瘍学会学術集会, 2022.
- 5) 西川徹. 副甲状腺腫瘍の局在診断に非造影MRI検査は有用か?. 第34回日本内分泌外科学会総会, 2022.

- 6) 小島康幸, 西川徹, 佐々木美紀, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 金山益佳, 中野万理, 津川浩一郎. ラリンジール電極による新たな神経モニタリングの使用経験. 第34回日本内分泌外科学会総会, 2022.
- 7) 大井涼子, 長宗我部基弘, 黒田貴子, 永澤慧, 吉江玲子, 秋山恭子, 都築麻紀子, 志茂新, 本吉愛, 小島康幸, 津川浩一郎. 当院における乳腺扁平上皮癌の臨床病理学的特徴. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 8) 在原卓, 川本久紀, 秋山恭子, 中野万理, 岩瀬美紀, 垣本紗代子, 酒巻香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂, 坂本菜央, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂彩華, 志茂新, 本吉愛, 小島康幸, 西川徹, 福田護, 津川浩一郎. 肉芽腫性乳腺炎の2例. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 9) 古谷悠子, 後藤由香, 津川浩一郎, 福田護. 再構成スライス厚が異なる新しいDigital Breast Tomosynthesis (DBT) 技術の診断能と読影スループットの検証. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 10) 小島康幸, 佐々木美紀, 在原卓, 垣本紗代子, 高木香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 坂本菜央, 中野万理, 田雑瑞穂, 金山益佳, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂彩華, 志茂新, 本吉愛, 西川徹, 川本久紀, 津川浩一郎. 乳癌センチネルリンパ節転移陽性症例に対する腋窩リンパ節郭清省略の長期予後. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 11) 後藤由香, 古谷悠子, 福田護. Digital Breast Tomosynthesis 検査におけるML0撮影時のフェイスガード使用の有無による水晶体線量の検証. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 12) 西川徹, 佐々木美紀, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 金山益佳, 田雑瑞穂, 坂本菜央, 中野万理, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂新, 都築麻紀子, 本吉愛, 小島康幸, 川本久紀, 福田護, 津川浩一郎, 白英, 河原太, 小池淳樹. 10mm以上の充実性腫瘤像を呈したDCIS症例. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 13) 白英, 瀧下茉莉子, 中野万理, 土屋聖子, 黒田貴子, 吉江玲子, 志茂彩華, 秋山恭子, 都築麻紀子, 志茂新, 小島康幸, 本吉愛, 川本久紀, 福田護, 津川浩一郎. 当プレストセンターにおけるトラスツマブデルクステカン(T-DXd)の治療経験. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 14) 酒巻香織, 本吉愛, 在原卓, 岩瀬美紀, 垣本紗代子, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 坂本菜央, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂新, 小島康幸, 西川徹, 川本久紀, 福田護, 津川浩一郎. 術前にHER2陽性非浸潤性乳管癌(DCIS)と診断された症例の臨床病理学的特徴. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 15) 田雑瑞穂, 小池淳樹, 小島康幸, 中野万理, 坂本菜央, 金山益佳, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂彩華, 志茂新, 本吉愛, 都築麻紀子, 白英, 西川徹, 河原太, 川本久紀, 福田護, 津川浩一郎. 当院における浸潤性小葉癌のPD-L1発現状況の検討. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 16) 金山益佳, 本吉愛, 山田都, 伊藤一希, 杉山瑠菜, 岩瀬美紀, 在原卓, 酒巻香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 中野万理, 坂本菜央, 田雑瑞穂, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂新, 小島康幸, 西川徹, 川本久紀, 津川浩一郎. 腋窩リンパ節転移数が10個以上で術後5年以上生存した症例の検討. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 17) 敦賀智子, 酒巻香織, 坂本菜央, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 志茂彩華, 志茂新, 本吉愛, 小島康幸, 川本久紀, 印牧義英, 福田護, 津川浩一郎. 乳房温存術後の放射線療法を省略した非浸潤性乳管癌の治療成績. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 18) 川本久紀, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 坂本菜央, 中野万理, 田雑瑞穂, 黒田貴子, 敦賀智子, 吉江玲子, 志茂彩華, 小島康幸, 秋山恭子, 志茂新, 都築麻紀子, 本吉愛, 白英, 河原太, 印牧義英, 福田護, 津川浩一郎. 早期の原発性乳がんに対する経皮的超音波ガイド下凍結療法安全性と有効性のPilot Study. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 19) 中野万理, 小島康幸, 在原卓, 岩瀬美紀, 垣本紗代子, 酒巻香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 坂本菜央, 田雑瑞穂, 黒田貴子, 敦賀智子, 吉江玲子, 志茂彩華, 志茂新, 本吉愛, 西川徹, 川本久紀, 福田護, 津川浩一郎. PD-L1陽性トリプルネガティブ乳癌へのアテゾリズマブ+nab-パクリタキセル併用療法の使用経験. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 20) 秋山恭子, 土屋聖子, 志茂彩華, 志茂新, 小島康幸, 本吉愛, 西川徹, 川本久紀, 福田護, 神蔵奈々, 濱口賀代, 洞下由記, 鈴木直, 津川浩一郎. 当院における乳がん患者の妊孕性温存に対する取り組み. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 21) 瀧下茉莉子, 本吉愛, 伊藤一希, 杉山瑠菜, 山田都, 在原卓, 岩瀬美紀, 酒巻香織, 喜多島美奈, 中野万理, 田雑瑞穂, 坂本菜央, 金山益佳, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂新, 西川徹, 小島康幸, 川本久紀, 津川浩一郎. 当院における術前dose-dense化学療法の成績. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 22) 松橋裕子, 松崎邦弘, 田邊幸子, 川本久紀, 津川浩一郎, 福田護. 当院におけるアベマシクリブの外りたいダクト下痢の発現状況. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 23) 垣本紗代子, 黒田貴子, 伊藤一希, 杉山瑠菜, 山田都, 在原卓, 岩瀬美紀, 酒巻香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 坂本菜央, 田雑瑞穂, 中野万理, 敦賀智子, 志茂新, 本吉愛, 小島康幸, 西川徹, 川本久紀, 津川浩一郎. 高齢者における薬物療法の適応と安全性に関する検討. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 24) 河原太, 佐々木美紀, 在原卓, 喜多島美奈, 垣本紗代子, 金山益佳, 坂本菜央, 高木香織, 中野万理, 大井涼子, 黒田貴子, 秋山恭子, 志茂新, 都築麻紀子, 本吉愛, 小島康幸, 西川徹, 川本久紀, 福田護, 津川浩一郎. 当院における女性化乳房症の検討 -より良い対応を考える-. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.

- 25) 黒田貴子, 佐戸綾子, 古川尚美, 田邊幸子, 神蔵奈々, 小島康幸, 櫛野宣久, 平川麻美, 橋口さおり, 津川浩一郎. 乳癌診療における Advance Care Planning の実施状況と課題. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 26) 杉山瑠菜, 本吉愛, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂新, 小島康幸, 西川徹, 川本久紀, 津川浩一郎. 両側 NSM 後に右乳癌を発症した Transgender (トランス男性) の一例. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 27) 喜多島美奈, 酒巻香織, 金山益佳, 瀧下茉莉子, 坂本菜央, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂彩華, 志茂新, 都築麻紀子, 本吉愛, 小島康幸, 白英, 河原太, 西川徹, 川本久紀, 福田護, 津川浩一郎. HER2 陽性乳癌脳転移における治療選択及び予後の検討. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 28) ◎原口貴史, 後藤由香, 古谷悠子, 瀧下茉莉子, 津川浩一郎, 印牧義英, 小林泰之. Axillary lymph node metastasis prediction with FFDM and s2D mammography based on machine learning. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 29) 志茂彩華, 白英, 秋山恭子, 黒田貴子, 志茂新, 本吉愛, 小島康幸, 西川徹, 川本久紀, 福田護, 津川浩一郎. 当院における BRCAAnalysis の検査状況とオラパリブの使用経験. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 30) 永澤慧, 門城拓, 小島康幸, 本吉愛, 大西達也, 岩谷胤生, 山内稚佐子, 綿貫瑠璃奈, 前田一郎, 小井土大, 津川浩一郎, 鈴木穰. 空間遺伝子発現データを用いた DCIS リスク層別化因子の探索と深層学習による組織標本プロファイリング. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 31) 中山紗由香, 吉沢あゆは, 鶴谷純司, 吉村健一, 長瀬洋之, 細永真理, 小島康幸, 平成人, 相原智彦, 木川雄一郎, 向井博文. アベマシクリブ関連薬剤性肺障害のネステッドケースコントロール研究. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 32) 津川浩一郎. 乳がんサバイバーシップ: リンパ浮腫. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 33) 佐々木美紀, 西川徹, 杉山瑠菜, 山田都, 伊藤一希, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 金山益佳, 坂本菜央, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂新, 都築麻紀子, 本吉愛, 小島康幸, 川本久紀, 津川浩一郎, 小池淳樹. 再発巣にて HER2 陽転化を生じた 6 例の検討. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 34) 志茂新, 伊藤一希, 杉山瑠菜, 山田都, 在原卓, 岩瀬美紀, 垣本紗代子, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 金山益佳, 坂本菜央, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂彩華, 小島康幸, 本吉愛, 西川徹, 津川浩一郎. CDK4/6 阻害剤の治療成績とその後治療. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 35) 本吉愛, 久我亜沙美, 瀧下茉莉子, 金山益佳, 坂本菜央, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂新, 都築麻紀子, 白英, 河原太, 小島康幸, 西川徹, 川本久紀, 福田護, 津川浩一郎.
当院における BRCA 病的バリアント陽性乳癌症例の対側リスク低減手術実施状況及び患者背景因子の検討.
第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 36) 吉田敦, 名倉直美, 竹原侑里, 難波俊文, 竹井淳子, 林直樹, 八木下和代, 鹿股直樹, 角田博子, 津川浩一郎, 岩平佳子, 山内英子. 再建術後 12 年で Breast Implant-Associated Anaplastic Large Cell Lymphoma の診断に至った 1 例. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 37) ◎柴田真知, 山本雄太郎, 長坂智裕, 清水紗智, 小柳壮史, 矢吹由香里, 吉田一彦, 長嶋洋治, 山崎有人, 曾根正勝, 笹野公伸, 方波見卓行. 乳癌、甲状腺乳頭癌を併発した副腎皮質癌の一例. 第 23 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 38) ◎山本雄太郎, 方波見卓行, 長坂智裕, 清水紗智, 小柳壮史, 矢吹由香里, 有泉泰, 長宗我部基弘, 吉田一彦, 長嶋洋治, 山崎有人, 曾根正勝, 笹野公伸. 副腎皮質癌、乳癌、甲状腺乳頭癌を併発した同時性重複癌の一例. 第 26 回日本臨床内分泌病理学会学術総会, 2022.
- 39) 西川徹, 印牧義英, 小島康幸, 横田健一, 曾根正勝, 福田護, 津川浩一郎. 甲状腺がん術後再発診断における全身 MRI 検査 (DWIBS 法) の有用性. 第 65 回日本甲状腺学会学術集会, 2022.
- 40) 佐々木美紀, 田雑瑞穂, 本吉愛, 在原卓, 垣本紗代子, 酒巻香織, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 中野万理, 金山益佳, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂彩華, 志茂新, 都築麻紀子, 小島康幸, 西川徹, 川本久紀, 川名部新, 津川浩一郎. Atezolizumab 投与中止 2 ヶ月後の劇症 1 型糖尿病を発症した乳癌の 1 例. 第 18 回日本乳癌学会関東地方会, 2022.
- 41) 在原卓, 瀧下茉莉子, 本吉愛, 佐々木美紀, 垣本紗代子, 金山益佳, 酒巻香織, 喜多島美奈, 田雑瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 敦賀智子, 志茂彩華, 志茂新, 都築麻紀子, 小島康幸, 西川徹, 川本久紀, 津川浩一郎. 乳頭乳輪温存乳房切除術 12 年後の Paget 型再発をきたした乳癌の 1 例. 第 18 回日本乳癌学会関東地方会, 2022.
- 42) 山田都, 塚本芳嗣, 樋渡正樹, 久恒靖人, 嶋田仁, 民上真也. 乳癌術後腹膜播種による絞扼性腸閉塞を呈し、緊急手術を行った 1 例. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 43) 西川徹, 小島康幸, 月山秀一, 横田健一, 曾根正勝, 谷澤雅彦, 篠田和伸, 道下由紀子, 印牧義英, 津川浩一郎. 当院における副甲状腺機能亢進症に対する手術治療～院内連携なくして治療はできない～. 聖マリアンナ医科大学医学会第 83 回学術集会, 2023.

- 44) Tsugawa Koichiro, Masuda Norikazu, Takano Toshimi, Inoue Kenichi, Matsumoto Koji, Ishikawa Takashi, Ito Mitsuya, Hattori Masaya, Yasojima Hiroyuki, Tanabe Yuko, Yamamoto Keiko, Suzuki Masato, Wilbur Pan, Vassiliki Karantza, Javier Cortes, Iwata Hiroji. KEYNOTE-355 Japan subset: Pembrolizumab+Chemotherapy vs Placebo+Chemotherapy for TNBC. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 45) Mukai Hirofumi, Takahashi Masato, Ohno Shinji, Inoue Kenichi, Tsugawa Koichiro, Watanabe Junichiro, Ito Mitsuya, Watanabe Kenichi, Mukohara Toru, Yamamoto Keiko, Adachi Noriaki, Jing Zhao, Wilbur Pan, Peter Schmid, Iwata Hiroji. Pembrolizumab/Placebo+Chemo in early Triple-Negative breast cancer : KEYNOTE-522 Japan subgroup. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.

② その他

- 1) 小島康幸. HER2 陽性乳癌治療 ～変化の過渡期にあって何を標準とするか～. 横須賀市医師会学術講演会, 2023.
- 2) 津川浩一郎. 若年性乳がんの諸問題とその早期発見に向けて. 第309回東京産婦人科医会臨床研究会, 2023.
- 3) Koichiro Tsugawa, Ai Motoyoshi. The management of HBOC in Japan. 28th Czech-Japan Surgical Symposium YOKOHAMA2022, 2022.
- 4) Toru Nishikawa, Yoshihide Kanemaki, Yasuyuki Kojima, Kenichi Yokota, Masakatsu Sone, Mamoru Fukuda, Koichiro Tsugawa. Is non-contrast MRI useful in the Localization of parathyroid tumors?. 29th Czech-Japan Surgical Symposium YOKOHAMA2022, 2022.

		和 文	英 文
著 書		3	
論 文	原著	2	13
	解説又は総説		
	症例報告	3	
	その他		
学会発表	国内学会	43	2
	国際学会		
	その他	2	2

脳神経外科学

著書

- 1) 小野元. 頭部外傷 今日の治療指針 2023 2023;(65):49-49.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 中村歩希, 工藤忠, 小野寺英孝, 榊原陽太郎, 小林博雄. 胸・腰椎部の椎弓切除後の後方要素再建に於けるハイドロキシアパタイトの固定法の工夫. Journal of Spine Research, 2022;13(7):946-951.
- 2) 小野元, 安心院康彦, 渥美生弘, 稲田慎治, 國島広之, 嶋津岳士, 横堀将司, 吉川美喜子, 横田裕行, 江川裕人, 水谷敦史, 大宮かおり, 小川直子, 中村晴美. 臓器提供経験施設への実態調査研究に基づく新たな体制構築に関する提言 (Ver. 1). 日本救急医学会雑誌, 2022;33:436-463.

② 総説又は症例解説

- 1) 村田英俊. STA-MCA バイパス術の工夫 切開縁吊り上げ法: 血管開口部を立体的に開大させるために. No shinkei geka. Neurological surgery, 2022;50(4):842-844.
- 2) 小野元, 吉田泰之, 高砂浩史, 田中雄一郎, 村田英俊, 加藤庸子. 日本における心停止後臓器提供の将来像. 日本脳死・脳蘇生学会誌, 2022;34(2):70-75.
- 3) 村田英俊. 脊髄髄内腫瘍の手術—基本と工夫—. 脊髄外科, 2022;36(2):132-140.
- 4) 村田英俊. 神経鞘腫と神経繊維腫症. Clinical Neuroscience, 2022;40(10):1260-1263.

③ 症例報告

- 1) 小野元, 高砂浩史, 田中雄一郎. 12年前の小児心停止後臓器提供の終末期対応の1例. 日本脳死・脳蘇生学会誌, 2022;第33回日本脳死・脳蘇生学会 総会・学術集会記念特集号:37-38.
- 2) 清野奈々恵, 伊藤英道, 内田将司, 藤谷茂樹, 田中雄一郎. 脳血管内治療後に穿刺部仮性動脈瘤を生じた高位大腿動脈分岐の1例. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2022;50(3):85-91.
- 3) 佐瀬泰玄, 古屋優. 大動脈直接起始椎骨動脈に起因する解離性椎骨動脈瘤破裂によるくも膜下出血の一例. Neurosurgical Emergency, 2022;27(2):165-169.
- 4) 佐瀬泰玄, 古屋優. 血管撮影で外側レンズ核線条体動脈の仮性瘤が疑われた高血圧性被殻出血の一例. Neurosurgical Emergency, 2022;27(2):148-152.

④ その他

- 1) 太組一朗, 秋野公造. クロイツフェルト・ヤコブ病と人工硬膜ライオデュラ®, そして脳神経外科に求められるプリオン病対策. No shinkei geka. Neurological surgery, 2022;50(5):1078-1086.
- 2) 小野寺英孝. 見えているのに診ていなかった CT 画像 【思い出の診療風景】. m3.com, 2022;臨床ニュース(108):43.
- 3) 太組一朗. てんかん治療と大麻由来医薬品. 医学奨学通信, 2022;(58):20-21.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Uchida Masashi, Ito Hidemichi, Takasuna Hiroshi, Goto Tetsuya, Takumi Ichiro, Fukano Takayuki, Hagiwara Yuta, Tanaka Yuichiro. Initial experience with left transradial neurointerventions for cerebral aneurysms using the 6-French Simmons guiding sheath. Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases, 2022;31(4):106350-10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2022.106350.
- 2) Takai Keisuke, Endo T, Seki T, Inoue T, Koyanagi I, Mitsuhashi T, Murata Hidetoshi (The Neurospinal Society of Japan CCJ AVF Study Investigators). Ischemic complications in the neurosurgical and edovascular treatments of craniocervical junction arteriovenous fistulas: a multicenter study. Journal of neurosurgery, 2022;:1-10.
- 3) Mogamiya Takuma, Omori Yoshitsugu, Kawagoe Junichi, Kaneda Takuto, Matsushima Shinya, Onodera Hidetaka. Association of activities of daily living with body weight change 3 months after stroke onset. Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases, 2022;31(8):106573-doi: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2022.106573.

- 4) Sasame Jo, Ikegaya N, Kawazu M, Natsumeda M, Hayashi T, Isoda M, Satomi K, Tomiyama A, Oshima A, Honma H, Miyake Y, Takabayashi K, Nakamura T, Ueno T, Matsushita Y, Iwashita H, Kanemaru Y, Murata Hidetoshi, Ryo A, Terashima K, Yamanaka S, Fujii Y, Mano H, Komori T, Ichimura K, Cahill DP, Wakimoto H, Yamamoto T, Tateishi K. HSP90 inhibition overcomes resistance to molecular targeted therapy in BRAF^{V600E}-mutant High-grade glioma. Clinical cancer research : an official journal of the American Association for Cancer Research, 2022;28(11) : 2425-2439.
- 5) Kishi Yasuhiro, Takumi Ichiro, Yamamoto Hitoshi, Ishimaru Takako, Thurber Steven. Patient complexity, depression, and quality of life in patients with epilepsy at an epilepsy center in Japan. Epilepsia Open, 2022; : doi: 10.1002/epi4.12614.
- 6) Masataka Yuji, Sugiyama Takeshi, Takumi Ichiro, Yamamoto Hitoshi. Cannabidiol supplement reduces epileptic seizures in the Japanese population: Cross-sectional study for intractable epilepsy patients. Neurology Asia, 2022;27(4) : 891-898.
- 7) Kanno H, Matsumoto S, Yoshizumi T, Nakahara K, Shinonaga M, Kubo A, Fujii S, Ishizuka Y Tanaka M, Ichibashi M, Murata Hidetoshi. SOCS7-derived BC-Box motif peptide mediated cholinergic differentiation of human adipose-derived mesenchymal stem cells. International Journal of Molecular Sciences, 2023;24(4) : doi: 10.3390/ijms24032786.
- 8) Kurisu Akemi, Sugiyama Aya, Takumi Ichiro, Yamamoto Hitoshi, Iida Koji, Tanaka Junko. Incidence and prevalence of epilepsy in Japan: a retrospective analysis of insurance claims data of 9,864,278 insured persons. Journal of epidemiology / Japan Epidemiological Association, 2023; : doi: 10.2188ea.JE20220316.

② 総説又は症例解説

- 1) Kanno H, Matsumoto S, Yoshizumi T, Nakahara K, Kubo A, Murata Hidetoshi, Shuin T, Hoi-Sang U. Role of SOCS and VHL proteins in neuronal differentiation and development. International Journal of Molecular Sciences, 2023;24 : doi: 10.3390/ijms24043880.

学会発表

① 国内学会

- 1) 村田英俊, 佐藤充, 三宅勇平, 末永潤, 池谷直樹, 鈴木良介, 飯田悠, 立石健祐, 清水信行, 山本哲哉. Anterior petrosal approach: 拡大中頭蓋法を基にした広い術や展開. 第31回日本脳神経外科手術と機器学会 (CNTT2022), 2022.
- 2) 小野元, 吉田泰之, 高砂浩史, 田中雄一郎. 術後合併症を回避するための人工骨固定の吸収糸併用について. 第15回日本整容脳神経外科学会 (JSAN2022), 2022.
- 3) 小野元, 吉田泰之, 高砂浩史, 田中雄一郎. 7年前の閉頭時持ちいたペースト人工骨 (バイオベックス) の組織学的検討. 第31回日本脳神経外科手術と機器学会 (CNTT2022), 2022.
- 4) 内田将司. Target 360 の特性を活かした coil 速戦術 ～専門医取得後5年間の軌跡と成長～. 第31回日本脳神経外科手術と機器学会 (CNTT2022), 2022.
- 5) 梶友紘, 松森隆史, 日高岳, 久代裕一郎, 川口公悠樹, 内田将司, 高砂浩史, 伊藤英道, 後藤哲哉, 太組一朗, 田中雄一郎. ガンマナイフによるAVM治療の19年後に認めたMCA末梢瘤に対するクリッピング術. 第147回一般社団法人日本脳神経外科学会 関東支部学術集会, 2022.
- 6) 横井育宝, 村田英俊, 佐藤充, 山本哲哉, 宮崎良平, 田中貴大, 善積哲也. 頸髄損傷モデルラットに対するエリスロポエチン髄注療法. 第37回日本脊髄外科学会, 2022.
- 7) 村田英俊, 佐藤充, 池谷直樹, 横井育宝, 三宅勇平, 清水信行, 飯田悠, 立石健祐, 末永潤, 山本哲哉. 脊髄髄内腫瘍の手術: 機能温存を目指した摘出の工夫. 第37回日本脊髄外科学会, 2022.
- 8) 田中貴大, 川崎貴史, 渡辺剛史, 榎藤学司, 稲垣浩, 野地雅人, 佐藤充, 村田英俊, 山本哲哉. 脳卒中様症状を示す頸髄硬膜外血腫の検討. 第37回日本脊髄外科学会, 2022.
- 9) 佐藤充, 村田英俊, 横井育宝, 山本哲哉. 大孔前半部髄膜腫に対する後方アプローチ. 第37回日本脊髄外科学会, 2022.
- 10) 中村歩希, 工藤忠, 小野寺英孝, 榊原陽太郎, 小林博雄, 田中雄一郎. 骨粗鬆症性椎体骨折に対するBKPの治療成績と新規隣接椎体骨折の検討. 第37回日本脊髄外科学会, 2022.
- 11) 善積哲也, 村田英俊, 波良勝裕, 濱田幸一, 野地雅人, 篠永正道. 外傷後に生じた神経性胸郭出口症候群に対する斜角筋離断術と術後成績. 第37回日本脊髄外科学会, 2022.
- 12) 佐藤充, 村田英俊, 横井育宝, 山本哲哉. 脊髄血管芽腫に対する当院での治療成績. 第37回日本脊髄外科学会, 2022.
- 13) 伊藤竜彦, 森みさ子, 吉田稔, 川畑亜加里, 森佑希, 清水朋子, 斎藤浩輝, 小野寺英孝, 吉田徹. 急性期転院における栄養連携～調整者同士の転院から栄養継続連携の第一歩～. 第8回神奈川急性期栄養管理研究会, 2022.

- 14) 小野寺英孝. 見えているのに見ていなかった側頭筋のはなし. 第 31 回日本脳ドック学会総会, 2022.
- 15) 佐藤健太郎, 昆祐理, 内田将司, 森川大樹, 松本純一, 下澤信彦, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹, 平泰彦. 積極的な画像利用を含む COVID19 診療フローを用いて診断し得た重症頭部外傷の一例. 第 36 回日本外傷学会総会・学術集会, 2022.
- 16) 村田英俊, 内田将司, 高砂浩史, 伊藤英道, 松森隆史, 梶友紘, 久代裕一郎, 川口公悠樹, 日高岳. Anterior petrosal approach: 拡大中頭蓋窩法を基にした広く浅い術野展開. 第 34 回日本頭蓋底外科学会, 2022.
- 17) 内田将司, 伊藤英道, 梶友紘, 久代裕一郎, 日高岳, 村田英俊. Trousseau 症候群による脳主幹動脈閉塞に対する急性期血栓回収術の検討. 第 40 回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2022.
- 18) 久代裕一郎, 内田将司, 梶友紘, 日高岳, 川口公悠樹, 松森隆史, 伊藤英道, 高砂浩史, 太組一朗, 村田英俊. 皮下膨隆を呈した右前頭頂葉神経膠芽腫治療後の一例. 第 148 回一般社団法人日本脳神経外科学会 関東支部学術集会, 2022.
- 19) 伊藤英道, 内田将司, 梶友紘, 川口公悠樹, 久代裕一郎, 日高岳, 村田英俊. 抵抗測定器を用いたアクリルモデルにおける橈骨動脈経由カテーテル操作性の検討. 第 22 回日本脳神経血管内治療学会関東地方学術集会, 2022.
- 20) 村田英俊. 脊髄・脳幹部腫瘍の外科治療 脳神経外科における脊髄外科を見据えて. 第 39 回札幌脊椎病巣集談会, 2022.
- 21) アニン祥子, 新谷亮, 松下和彦, 長島梧郎. 急性期病床から COVID-19 専門病床への変換ーある地域中核病院の対策例ー. 第 18 回日本臨床医学リスクマネジメント学会学術集会, 2022.
- 22) 本鍋田由美子, 松下和彦, 田中拓, 大熊克彰, 安藤歩, 桐生久美子, 池谷真実, 長島梧郎. 当院事例の対応から見えた課題ー参加外来癌クリニックでの病理検体取り違え事例からー. 第 18 回日本臨床医学リスクマネジメント学会学術集会, 2022.
- 23) 松森隆史, 太組一朗, 川口公悠樹, 日高岳, 高砂浩史, 山本仁, 宮本雄策, 宇多川紀子, 村田英俊. てんかんセンターにおける小児てんかん外科手術の転帰について. 第 55 回日本てんかん学会学術集会, 2022.
- 24) 廣中浩平, 饒波正博, 嘉手川淳, 比屋根雅彦, 金城雄生, 太組一朗. 沖縄県のとんかん外科の現状. 第 55 回日本てんかん学会学術集会, 2022.
- 25) 松本直樹, Ohta Yuki, Yamamoto Hitoshi, Takumi Ichiro, Yamazaki Fumie, Thai Ching. Pharmacokinetics, safety, and tolerability of cannabidiol (GWP42003-P, CBD) as a SAD and MAD in Japanese and White subjects. 日本てんかん学会学術集会, 2022.
- 26) 太組一朗, 山本仁, 松森隆史, 岸康宏, 饒波正博. 難治性てんかんにおける大麻由来医薬品開発. 第 55 回日本てんかん学会学術集会, 2022.
- 27) 岸泰宏, 太組一朗, 山本仁, 石丸貴子. 成人てんかん患者におけるケアの複雑性 (Care Complexity)・うつ病と QOL (生活の質). 第 55 回日本てんかん学会学術集会, 2022.
- 28) 山本仁, 太組一朗, Cuping Chen, 山崎文恵, Nortvedt Charlotte. カンナビジオール (CBD)は乱用や依存のリスクが低く薬物離脱症状を示さない. 第 55 回日本てんかん学会学術集会, 2022.
- 29) 内田将司. 当院における Glioma 手術時の創意工夫ー明日から使えるテクニックー. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 30) 中山博文, 池田哲也, 森嶋啓之, 大塩恒太郎, 長島梧郎, 村田英俊. 診療時間帯から見た rt-PA 治療および機械的血栓回収療法. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 31) 中村歩希. 骨粗鬆症椎体骨折に対する balloon kyphoplasty (BKP)の治療成績と新規隣接椎体骨折の検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 32) 久代裕一郎, 伊藤英道, 内田将司, 日高岳, 梶友紘, 川口公悠樹, 村田英俊. 当院における 90 歳以上の超高齢者での急性期脳梗塞に対する血栓回収療法の治療成績. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 33) 松森隆史. 当センターにおける 50 歳以上のてんかん手術症例についての検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 34) 高砂浩史, 日高岳, 松森隆史, 内田将司, 伊藤英道, 太組一朗, 村田英俊, 後藤哲哉. OPeLiNK の初期臨床経験. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 35) 吉田泰之, 小野元, 植田敏浩, 村田英俊. 高齢者の未破裂脳動脈瘤に対する開頭クリッピング術. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 36) 伊藤英道, 内田将司, 日高岳, 梶友紘, 高砂浩史, 太組一朗, 村田英俊. 左橈骨動脈アプローチによる脳動脈瘤塞栓術. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 37) 佐瀬泰玄, 古屋優, 村田英俊. 当院における cancer associated stroke の検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 38) 大塩恒太郎, 松森隆史, 内田将司, 長島梧郎, 村田英俊. ワルファリンを内服した高齢者頭部外傷疾患の病像 ThinkFAST Registry からの考察. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.

- 39) 太組一朗. 経シルヴィウス裂鉤扁桃体海馬摘出手術における内視鏡を用いた側頭葉後半切除の技術的課題. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 40) 村田英俊, 佐藤充, 内田将司, 高砂浩史, 横井育宝, 伊藤英道, 清水信行, 松森隆史, 川口公悠樹, 梶友紘, 久代裕一郎, 日高岳, 太組一朗, 山本哲哉. 脊髄髄内腫瘍の手術の基本と工夫: いかに摘出し、いかに機能を温存するか. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 41) 小野元, 吉田泰之, 高砂浩史, 村田英俊. 脳神経外科領域で術後合併症を回避するための人工骨の設定と固定について. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 42) 小野寺英孝, 中村歩希, 中山博文, 藤谷博人, 村田英俊. スポーツ関連脳震盪患者の追従性眼球運動の改善を SCAT5 の変遷絡み分析. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 43) 森嶋啓之, 池田哲也, 大塩恒太郎, 長島梧郎, 松澤源志, 干川芳弘, 村田英俊. 破裂内頸動脈 Blood blister-like aneurysm に対するステント併用コイル塞栓の臨床像及び長期画像所見. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 44) 梶友紘, 伊藤英道, 内田将司, 村田英俊. 血管内治療を行なった 85 歳以上の高齢者破裂脳動脈瘤についての検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第 81 回学術総会, 2022.
- 45) 太組一朗, 篠原久治. 日本における大麻由来医薬品の治験状況. 日本臨床カンナビノイド学会 第 8 回学術集会/総会, 2022.
- 46) 伊藤英道. 「流れ」を変える脳動脈瘤治療. 第 65 回日本脳循環代謝学会学術集会 (BRAIN Japan 2022), 2022.
- 47) 松森隆史, 高砂浩史, 日高岳, 川口公悠樹, 太組一朗, 村田英俊. 半球間裂アプローチによる腫瘍生検について. 第 29 回日本神経内視鏡学会, 2022.
- 48) 佐瀬泰玄, 古屋優, 村田英俊. 開頭血腫除去術と内視鏡下血腫除去術の侵襲性の比較検討. 第 29 回日本神経内視鏡学会, 2022.
- 49) 高砂浩史, 日高岳, 松森隆史, 内田将司, 伊藤英道, 太組一朗, 村田英俊. 神経内視鏡における OPeLiNK の臨床経験. 第 29 回日本神経内視鏡学会, 2022.
- 50) 伊藤英道, 内田将司, 梶友紘, 日高岳, 村田英俊. 経腕骨動脈の頸動脈ステント留置術における左右アプローチの相違. 第 38 回 NPO 法人 日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2022.
- 51) 内田将司, 伊藤英道, 梶友紘, 久代裕一郎, 深野崇之, 村田英俊. Trousseau 症候群による脳腫冠動脈閉塞に対する急性期血栓回収術の検討. 第 38 回 NPO 法人 日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2022.
- 52) 森嶋啓之, 池田哲也, 大塩恒太郎, 長島梧郎, 松澤源志, 干川芳弘, 村田英俊. 破裂内頸動脈 Blood blister-like aneurysm に対するステント併用コイル塞栓術の臨床像及び長期画像所見. 第 38 回 NPO 法人 日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2022.
- 53) 佐瀬泰玄, 古屋優, 村田英俊. 機械的血行再建術を行なった Cancer associated stroke. 第 38 回 NPO 法人 日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2022.
- 54) ◎浅井勇磨, 月山秀一, 高砂浩史, 加藤正高, 井下尚子, 山田正三, 曾根正勝. 鞍上部に発生し下垂体前葉機能低下症を来した血管芽腫の一例. 第 32 回臨床内分泌代謝 Update, 2022.
- 55) 棚橋淳子, 藤井真樹, 白井美江子, 組原寛之, 笠貫浩史, 古茶大樹, 井上ふみ子, 奥瀬千晃, 長島梧郎. COVID-19 患者関連メンタルサポートチーム活動 川崎市立多摩病院における職員への支援. 第 60 回全国自治体病院学会, 2022.
- 56) 谷田部かなか, 足利光平, 室井良太, 内田将司, 日高岳, 橋本和明, 染村嵩, 井上留美子, 寺脇史子, 小野寺英孝, 藤谷博人. アンケートを利用した小児における脳振盪に関する調査について. 第 33 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2022.
- 57) 小野寺英孝, 中村歩希, 中山博文, 村田英俊. 網膜中心動脈閉塞症に対する急性期血行再建術. 第 38 回 NPO 法人 日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2022.
- 58) 清野奈々恵, 内田将司, 伊藤英道, 藤谷茂樹, 村田英俊. 診療看護師参入による急性虚血性脳卒中診療における治療時間短縮効果. 第 38 回 NPO 法人 日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2022.
- 59) 小野寺英孝. 脳卒中患者のアウトカムを急性期栄養管理で改善させる試み. 第 9 回日本臨床栄養代謝学会 関越支部学術集会, 2022.
- 60) 立林恭子, 太組一朗, 松森隆史, 川口公悠樹, 村田英俊. 多嚢胞性卵巣症候群を合併した眼瞼ミオクロニーを伴うてんかんに VNS 両方が有効であったため VPA 投与. 第 46 回日本てんかん外科学会, 2023.
- 61) 廣中浩平, 饒波正博, 嘉手川淳, 比屋根真彦, 金城雄生, 太組一朗. 沖縄県のとてんかん外科の現状と課題. 第 46 回日本てんかん外科学会, 2023.
- 62) 太組一朗, 松森隆史, 廣中浩平, 村田英俊, 饒波正博. 経シルヴィウス裂鉤扁桃体海馬摘出術 エントリー・視野拡大・後方切除のコツ. 第 46 回日本てんかん外科学会, 2023.

- 63) 松森隆史, 太組一朗, 川口公悠樹, 日高岳, 村田英俊. 高齢成人におけるてんかん手術について. 第46回日本てんかん外科学会, 2023.
- 64) 松森隆史, 太組一朗, 川口公悠樹, 日高岳, 村田英俊. 脳深部刺激療法における髄液漏予防のためのDura seal とフィブリン糊の比較. 第62回日本定位・機能神経外科学会, 2023.
- 65) 内田将司, 伊藤英道, 梶友紘, 久代裕一郎, 川口公悠樹, 日高岳, 村田英俊. 塞栓戦略に悩んだ脳底動脈上小脳動脈分岐部動脈瘤の一例. 第23回NP0 法人日本脳神経血管内治療学会関東支部会, 2023.
- 66) 松森隆史, 太組一朗, 川口公悠樹, 日高岳, 村田英俊. プリミドン中止に伴い発作が再燃し、迷走神経刺激装置設置に至った外傷後てんかんの1例. 第46回日本脳神経外傷学会, 2023.
- 67) 佐瀬泰玄, 古屋優, 村田英俊. 慢性硬膜下血腫に対する手術中に発症した急性硬膜下血腫 -血腫外内膜癒着所見は注意-. 第46回日本脳神経外傷学会, 2023.
- 68) 小野元, 吉田泰之, 大坪治喜, 植田敏浩, 村田英俊. 再発を繰り返す慢性硬膜下血腫への中硬膜動脈閉塞術例の検討. 第46回日本脳神経外傷学会, 2023.
- 69) 中山博文, 中村歩希, 小野寺英孝, 村田英俊. 開頭術を要した慢性硬膜下血腫の検討. 第46回日本脳神経外傷学会, 2023.
- 70) 高砂浩史. 下垂体・傍鞍部病変における術後低Na血症の検討. 第33回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2023.
- 71) ◎三宅茂太, 石川駿, 中居康展, 甘利和光, 山本良央, 天野悠, 上村直哉, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎. 発症前mRS2-3の患者に対する急性期再還流療法の検討
KNET registry (多施設共同研究) 2313症例のサブ解析. STROKE2023 合同シンポジウム, 2023.
- 72) ◎山本良央, 上村直哉, 石川駿, 三宅茂太, 天野悠, 甘利和光, 中居康展, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 城倉健. 脳底動脈閉塞に対する血栓回収手技の比較: KNET 研究のサブ解析. 第48回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 73) ◎山崎英一, 森本将史, 岩崎充宏, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎, 寺田友昭, 森島啓之. NIHSS<6の軽症急性期脳梗塞に対する血栓回収療法の治療成績: K-NET registry sub-analysis. 第48回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 74) 小野元, 萩原悠太, 山野嘉久, 長谷川泰弘. 一都市全体のQuality Controlによる脳卒中搬送体制の最適化: 川崎脳卒中ネットワーク(KNS)の経験から. 第48回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 75) ◎大坪治喜, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 壺井祥史, 山本良央, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 井島大輔, 各務宏, 伊藤英道, 小野寺英孝. 血栓回収療法の初期画像診断としてCTあるいはMRIどちらが有用か: K-NET 登録研究サブ解析. 第48回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 76) ◎高石智, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥史, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎, 津本智幸. 脳底動脈閉塞に対する再開通療法における神経学的重症度と時間が転帰に及ぼす影響: K-NET registry サブ解析. 第48回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 77) 村田英俊, 伊藤英道, 内田将司, 梶友紘, 高砂浩史, 清水信行, 松森隆史, 川口公悠樹, 日高岳, 久代裕一郎, 飯田悠. 出血性脳動静脈奇形に対する摘出術: 複合治療としての摘出工夫. 第52回日本脳卒中の外科学会学術集会, 2023.
- 78) 日高岳, 内田将司, 伊藤英道, 村田英俊. 未破裂大型脳底-上小脳動脈瘤にバイパス術とコイル塞栓術を2期的に行った1例. 第52回日本脳卒中の外科学会学術集会, 2023.
- 79) 村田英俊, 伊藤英道, 内田将司, 梶友紘, 高砂浩史, 清水信行, 飯田悠, 松森隆史, 川口公悠樹, 日高岳, 久代裕一郎. 出血性脳動静脈奇形に対する摘出術: 複合治療としての摘出の工夫. 第52回脳卒中の外科学会学術集会, 2023.
- 80) 小野寺英孝. 新時代を迎えた急性期脳卒中の栄養管理. STROKE 2023, 2023.
- 81) ◎山下雄輔, 川越さおり, 伊佐早健司, 清水高弘, 山野嘉久, 内田将司, 伊藤英道, 村田英俊. 院内発症脳卒中对策チーム(iSAT)の活動と看護師教育について. STROKE2023 看護シンポジウム, 2023.
- 82) 内田将司, 伊藤英道, 梶友紘, 久代裕一郎, 川口公悠樹, 村田英俊. Trousseau 症候群による脳主幹動脈閉塞に対する急性期血栓回収術の検討. 第48回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 83) 佐瀬泰玄, 古屋優, 村田英俊. 機械的血栓回収療法を行なった超高齢者の検討. 第48回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 84) ◎臼杵乃理子, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥文, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎, 津本智幸. 血栓回収療法時代におけるtPA 静注療法の治療成績: K-NET registry サブ解析. 第48回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 85) 吉田泰之, 小野元, 植田敏浩, 村田英俊. 高齢者の未破裂脳動脈瘤に対する開頭クリッピング術の安全性. 第52回日本脳卒中の外科学会学術集会, 2023.

- 86) ◎植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥文, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎, 津本智幸. 脳血栓回収療法の適応外及びハイリスク例に対する治療の現状: 神奈川県登録研究 (K-NET) による解析結果. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 87) ◎吉江智秀, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥文, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎, 津本智幸, 森嶋啓之, 加賀保行, K-NET 研究グループ:13. MeVO に対する血管内治療と t-PA 静注単独療法の比較—KNET 全期間でのマッチング解析—. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 88) ◎辰野健太郎, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 山本良央, 壺井祥文, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎, 寺田友昭, 森嶋啓之. ASPECTS 低値の患者に対する脳血栓回収療法における年齢の及ぼす影響: KNET 登録研究サブ解析. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 89) 清野奈々恵, 内田将司, 伊藤英道, 藤谷茂樹, 村田英俊. 大学病院における診療看護師 (NP) の急性虚血性脳卒中診療への貢献. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 90) 大塩恒太郎, 松森隆史, 内田将司, 長島梧郎, 村田英俊. ワルファリン内服した高齢者の頭部外傷のリスクについて ThinkFAST Registry からの考察. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 91) ◎石川駿, 三宅茂太, 中居康展, 上村直哉, 天野悠, 山本良央, 甘利和光, 植田敏浩, 長谷川泰弘, 竹内昌孝, 森本将史, 壺井祥文, 郭樟吾, 綾部純一, 秋山武和, 西山和利, 田中章景, 伊藤英道, 小野寺英孝, 森健太郎. 時間帯による急性期脳梗塞治療成績の検討— K-NET Registry のサブ解析 —. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 92) 伊藤英道, 内田将司, 梶友紘, 久代裕一郎, 日高岳, 高砂浩史, 村田英俊. 左橈骨動脈アプローチによる頸動脈ステント留置術. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.

② 国際学会

- 1) Takumi Ichiro. Trans sylvian trans uncus selective amygdalohippocampectomy for mesial temporal lobe epilepsy: additional posterior resection with endoscope. 16th Asian Asutrasian Congress of Neurological Surgeons, 2022.
- 2) Takumi Ichiro. Sterilization of Videoscope: Japan nationwide measures and efforts to prevent CJD (Creutzfeldt-Jacob Disease) transmission through neurosurgical tools. 16th Asian Asutrasian Congress of Neurological Surgeons, 2022.

③ その他

- 1) 小野寺英孝. 脳卒中治療の栄養管理について. 脳卒中×栄養座談会, 2022.
- 2) 伊藤英道. バイブライン・ピギナーが考える周術期抗血栓療法. Medotornic Web Seminar Pipeline™ Shield to Medication, 2022.
- 3) 小野寺英孝. 脳卒中と栄養. 脳卒中×栄養座談会, 2022.
- 4) 小野寺英孝. 急性期から回復期・慢性期を見据えた地域を繋ぐ栄養療法. 茨城県病院法人協会主催セミナー, 2022.
- 5) 久代裕一郎. 意外な形で再発を呈した右前頭葉神経膠芽腫の症例. 第 4 回神奈川若手脳外科医のための脳腫瘍 WEB セミナー, 2022.
- 6) 村田英俊. 脳神経外科における疼痛管理の実際. Pharmacist Web Seminar, 2022.
- 7) 村田英俊. 脳神経外科領域における痛みとその管理. Pharmacist Web Seminar 2022, 2022.
- 8) 小野元. 脳神経外科/救急科 (提供側の立場から). 日本移植学会 第 8 回次世代リーダー/養成コース, 2022.
- 9) 内田将司. ベランパネルによる治療戦略—当院における治療成績をふまえて—. 脳腫瘍関連てんかんセミナー, 2022.
- 10) 村田英俊. 脳神経外科領域における疼痛管理の実際. Pain Live Symposium 2022, 2022.
- 11) 内田将司. 大口径時代の IC-top—急性期血栓回収術の戦略—. SOLITAIRE DE NIGHT!!, 2022.
- 12) 村田英俊. 脳神経外科領域における疼痛管理の実際. Pain Live Symposium in Asao 2022, 2022.
- 13) 内田将司. MOMA に難渋した 1 例. 横浜養蜂場 2022, 2022.
- 14) 村田英俊. 脳神経外科領域における疼痛管理の実際: 脳神経外科医の立場から. 横浜北部・川崎北部・脳神経連携の会, 2022.
- 15) 村田英俊. 脳脊髄疾患の疼痛管理の実際: 脳神経外科医の実際: 脳神経外科医の立場から. 脳脊髄医療連携 Web セミナー, 2022.
- 16) 内田将司. 当院における Transradial Neurointervention. 第 34 回 Kanagawa Neuro-Intervention Seminar for Stroke (KNISS), 2022.
- 17) 佐瀬泰玄, 古屋優. 当院における脳卒中の周術期管理. 脳卒中関連てんかん Up to date, 2022.

- 18) 小野寺英孝. 栄養で調和する質の高い医療を目指して
～質＝アウトカム×収益～. 中部ろうさい病院 NST 地域公開セミナー, 2022.
- 19) 村田英俊. 脳脊髄疾患の疼痛管理の実際: 脳神経外科医の立場から. 横浜市西部脳脊髄医療連携 Web セミナー, 2022.
- 20) 小野寺英孝. 栄養で調和する質の高い医療を目指して～質＝アウトカム×収益～. ネスレセミナー脳卒中の栄養管理, 2022.
- 21) 内田将司. LV0～Mevo における Solitaire の有用性. Solitaire de Night ～Eloquent area Rescue for Occlusion by Solitaire～, 2022.
- 22) 太組一朗. 大麻由来医薬品の適応各区大への期待 (疼痛・ADHD・神経変性疾患および難治てんかん). 大麻由来医薬品の治療成功と法改正に向けた緊急要請国際集会, 2022.
- 23) 佐瀬泰玄. 当院における内頸動脈内膜剥離術. 第 8 回 KYM 集談会, 2023.
- 24) 中村歩希. 椎体骨折に対する balloon kyphoplasty (BKP) の治療 ～標準使用から応用まで～. 第 8 回 KYM 集談会, 2023.
- 25) 内田将司. BA-SCA 未破裂動脈瘤のハイブリッド治療. 第 8 回 KYM 集談会, 2023.
- 26) 村田英俊. 脳神経外科領域におけるフィブリン糊の使用法. 一般社団法人日本血液製剤機構 機構内勉強会, 2023.
- 27) 村田英俊. 「脳」と「脊髄」の手術の往来: 互いのメリットを活かし合おう. 第 34 回神奈川脳神経外科手術研究会, 2023.
- 28) 小野寺英孝. 脳血管攣縮に対する当院における手術期管理とピブラッツの使用経験. SAH Expert Conference in Kanagawa, 2023.
- 29) 伊藤英道. 高齢者の脳梗塞治療. 超高齢化社会トータルケア Web セミナー, 2023.
- 30) 村田英俊. 脳神経外科領域における疼痛管理の実際: 脳神経外科医の視点から. 超高齢化社会トータルケア Web セミナー, 2023.
- 31) 村田英俊. これからの脳卒中医療連携に対する現状と課題
～急世紀血栓回収療法の現状と課題～. 脳卒中連携 Web Seminar, 2023.
- 32) 小野寺英孝. 脳卒中と栄養療法 プロトコル. 千葉県脳卒中プロトコル座談会 脳卒中と栄養療法 プロトコルを考える, 2023.
- 33) 内田将司. 2 期的に摘出術を計画した右前頭葉神経腫瘍の症例. 神奈川若手脳神経外科医のための脳腫瘍 WEB セミナー, 2023.
- 34) 内田将司, 高砂浩史, 梶友紘, 久代裕一郎, 村田英俊. 初回治療から 13 年後に再発を来した退形成性上衣腫に対し TMZ が著効した症例. 第 42 回神奈川脳腫瘍フォーラム, 2023.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著	2	8
	解説又は総説	4	1
	症例報告	4	
	その他	3	
学会発表	国内学会	92	
	国際学会		2
	その他	34	

整形外科学

著書

- 1) 赤澤努. 腰痛と坐骨神経痛 フルカラーでやさしくわかる！腰痛の理学療法 2022;(1):61-66.
- 2) 天羽健太郎, 有本竜也, 真下翔太. 症状から一発診断! 足の専門医はこう見立てる 症状から一発診断! 足の専門医はこう見立てる 2022;(1):1-269.
- 3) 三井寛之, 仁木久照. PT・OTの整形外科学 2022;1(1):281-305.
- 4) 仁木久照. XIX The Foot and Ankle キャンベル整形外科手術書 原著第14版(電子版) 2023::4030-4530.
- 5) 有本竜也, 仁木久照. Fractures and Dislocations of the Foot 足の骨折と脱臼 キャンベル整形外科手術書 原著第14版(電子版) 2023;89(14):4450-4485.
- 6) 軽辺朋子. Chapter 82 Disorders of the Hallux 母趾の病気 キャンベル整形外科手術書原著第14版 2023::4041-4132.
- 7) 三井 寛之. Chapter 87 Neurogenic Disorders 神経原性疾患 キャンベル整形外科手術書原著第14版 2023::4345-4379.
- 8) Kanaka Yatabe, Kohei Ashikaga, Ryota Muroi, Naoko Yui, Satomi Kasuya, Rumiko Inoue, Shu Somemura, Fumiko Terawaki, Hisao Miyano, Hiroto Fujiya.. Chapter 16. Effects of a Medical Approach Involving Periodic Intervention: An Approach towards Anxiety and Mood among Ballet Dancers. Emerging Trends in Disease and Health Research 2022;7:165-174.
- 9) Kanaka Yatabe, Kohei Ashikaga, Ryota Muroi, Naoko Yui, Satomi Kasuya, Shu Somemura, Fumiko Terawaki, Ko Sato, Kazuo Yudoh, Hisao Miyano, Hiroto Fujiya.. Chapter 8. Determining the Effects of Serotonin Transporter Gene Polymorphism on Mood during the Period before the Competition in Japanese Ballet Dancers. New Horizons in Medicine and Medical Research 2022;6:54-68.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 奥脇駿, 小谷俊明, 中山敬太, 佐久間毅, 飯島靖, 赤澤努, 南昌平, 大鳥精司, 山崎正志. 異なる学校検診システム地域からの側弯症手術患者の特徴-客観的検査法の有無における比較-. Journal of Spine Research, 2022;13(11): 1171-1176.

② 総説又は症例解説

- 1) 今村恵一郎, 菱沢利行, 村瀬鎮雄, 間浩通, 池上拓, 宮下次廣. 転倒歴の調査結果-当院アンケート調査より-. 埼玉県医学会雑誌, 2022;57(1): 264-269.
- 2) 三井寛之, 仁木久照. SAFE-Qでみる足部・足関節疾患. Loco Cure, 2022;8(2): 116-121.
- 3) 鳥居良昭, 赤澤努, 仁木久照. Mazor XによるC-armを用いたロボット支援脊椎手術. 臨床整形外科, 2022;57(8): 997-1003.
- 4) 植原健二, 小谷貴史, 仁木久照. ROSA®によるロボット支援TKA. 臨床整形外科, 2022;57(8): 957-962.
- 5) 原口直樹. 中足部骨折. Monthly Book Orthopaedics, 2022;35(10): 271-279.
- 6) 山本豪明. THAと解剖-神経血管損傷の回避策-. 整形外科最少侵襲手術ジャーナル, 2022;(105): 68-79.
- 7) ◎小野瀬 喜道, 秋山 唯, 仁木 久照. 【足関節果部骨折 Common practice for common fracture】治療方針決定のために必要な分類法. 整形外科 Surgical Technique, 2023;13 巻(1号): 19-27.

③ 症例報告

- 1) 尾崎裕亮, 植原健二, 木城智, 大野真弘, 工藤貴章, 仁木久照. 外反膝を伴う反復性膝蓋骨脱臼に対し内側閉鎖式楔状大腿骨遠位骨切り術と内側膝蓋大腿靭帯再建術を一期的に行った1例. 関東整形災害外科学会雑誌, 2022;53(4): 101-105.

④ その他

- 1) 赤澤努. 脊椎センター開設に合わせた脊椎手術支援ロボットの国内初導入の経緯とその評価. 新医療, 2022;49(7): 68-71.
- 2) 仁木久照. 書評「『外反母趾診療ガイドライン2022(改訂第3版)』」. 整形外科, 2022;73(12): 1254-1254.
- 3) 仁木久照. あとがき. 臨床整形外科, 2022;57(12): 1502-1502.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Yoh S, Kawarai Y, Hagiwara S, Orita S, Nakamura J, Miyamoto S, Suzuki T, Akazawa T, Shiko Y, Kawasaki Y, Ohtori S.. Intra-articular injection of monoiodoacetate induces diverse hip osteoarthritis in rats, depending on its dose. BMC Musculoskeletal Disorders, 2022;23(1): 494.

- 2) Kobayashi T, Eguchi Y, Suzuki M, Sato T, Mizutani M, Yamanaka H, Tamai H, Orita S, Inage K, Shiga Y, Maki S, Nakamura J, Hagiwara S, Aoki Y, Inoue M, Koda M, Takahashi H, Akazawa T, Ohtori S.. Evaluation of spinal alignment and clinical findings for the efficacy of one-stage surgery in tandem spinal stenosis. *Cureus*, 2022;14(5) : e25130.
- 3) Torii Y, Ueno J, Umehara T, Iinuma M, Yoshida A, Tomochika K, Niki H, Akazawa T.. Screw Insertion Time, Fluoroscopy Time, and Operation Time for Robotic-Assisted Lumbar Pedicle Screw Placement Compared With Freehand Technique. *Cureus*, 2022;14(5) : e25039.
- 4) Mizutani M, Eguchi Y, Toyoguchi T, Orita S, Inage K, Shiga Y, Furuya T, Maki S, Nakamura J, Hagiwara S, Aoki Y, Inoue M, Koda M, Takahashi H, Akazawa T, Shiko Y, Kawasaki Y, Ohtori S.. A 2-year longitudinal study of skeletal muscle mass in women over 40 years of age with degenerative lumbar scoliosis. *European Spine Journal*, 2022;31(5) : 1158-1165.
- 5) Iwata S, Eguchi Y, Takaoka H, Koroki J, Orita S, Inage K, Shiga Y, Furuya T, Maki S, Nakamura J, Hagiwara S, Watanabe A, Aoki Y, Inoue M, Koda M, Takahashi H, Akazawa T, Ohtori S.. MRI T2-mapping of lumbar facet joints is effective for quantitative evaluation of lumbar instability in patients with degenerative lumbar disorders. *European Spine Journal*, 2022;31(6) : 1479-1486.
- 6) Haraguchi N, Asano K, Arimoto T, Niki H, Ota K, Ozeki T, Gibu M, Kanetake Y, Tsutaya A. Supramalleolar lateral opening-wedge osteotomy in conjunction with progressive collapsing foot deformity reconstruction for PCFD with ankle instability. *Foot and Ankle International*, 2022;43(8) : 1070-1083.
- 7) Inaguma K, Kotani T, Kishida S, Sakuma T, Ueno K, Iijima Y, Kajiura D, Okuyama K, Sakashita K, Okuwaki S, Nakano S, Suzuki N, Nokariya S, Umeda R, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Minami S, Aoki Y, Ohtori S.. Medical accidents related to ferromagnetic objects brought into the MRI room: analysis of the national multicenter database by orthopedic surgeons. *Spine Surgery and Related Research*, 2022;7(1) : 96-102.
- 8) Sakuma T, Kotani T, Akazawa T, Nakayama K, Iijima Y, Kishida S, Muramatsu Y, Sasaki Y, Ueno K, Ohtori S, Minami S.. Efficacy of lateral lumbar interbody fusion combined with posterior spinal fusion compared with three-column osteotomy for adult spinal deformity with severe lumbar sagittal deformity. *European Journal of Orthopaedic Surgery and Traumatology*, 2022;32(5) : 973-979.
- 9) Shimada Y, Ochiai N, Hashimoto E, Hirokawa N, Nojima D, Kajiura D, Wakita H, Ise S, Matsuura Y, Ohtori S. Effect of the neck-shaft angle on stability in the on-lay type of reverse shoulder arthroplasty : a Cadaveric study. *Seminars in Arthroplasty: Journal of Shoulder and Elbow Society*, 2022;2022(6) : 1-8.
- 10) Mizutani M, Eguchi Y, Toyoguchi T, Orita S, Inage K, Shiga T, Maki S, Nakamura J, Hagiwara S, Aoki Y, Inoue M, Koda M, Takahashi H, Akazawa T, Ohtori S.. Skeletal muscle mass and clinical findings to evaluate the effectiveness of one-stage surgery in tandem spinal stenosis. *Chiba Medical Journal*, 2022;98E(4) : 29-37.
- 11) Mitsui H, Hirano T, Akiyama Y, Karube T, Haraguchi N, Niki H. Statistical analysis used in the field of foot and ankle areas. *The Journal of the Japanese Society for Surgery of the Foot*, 2022;43(1) : 41-45.
- 12) Demura S, Ohara T, Tauchi R, Takimura K, Watanabe K, Suzuki S, Uno K, Suzuki T, Yanagida H, Yamaguchi T, Kotani T, Nakayama K, Watanabe K, Yokogawa N, Oku N, Tsuchiya H, Yamamoto T, Kawamura I, Taniguchi Y, Takeshita K, Sugawara R, Kikkawa I, Sato T, Fujiwara K, Akazawa T, Murakami H, Kawakami N; Japan Spinal Deformity Institute.. Incidence and causes of instrument-related complications following primary definitive fusion for pediatric spine deformity. *Journal of Neurosurgery: Spine*, 2022;38(2) : 192-198.
- 13) Oshita Y, Matsuyama D, Sakai D, Schol J, Shirasawa E, Emori H, Segami K, Takahashi S, Yagura K, Miyagi M, Saito W, Imura T, Nakazawa T, Inoue G, Hiyama A, Katoh H, Akazawa T, Kanzaki K, Sato M, Takaso M, Watanabe M.. Multicenter retrospective analysis of intradiscal condoliase injection therapy for lumbar disc herniation. *Medicina (Kaunas)*, 2022;58(9) : 1284.
- 14) Yoshida A, Akazawa T, Torii Y, Ueno J, Iinuma M, Niki H.. Diagnosis of spinal infection with alpha-defensin lateral flow test: a preliminary report. *Spine Surgery and Related Research*, 2022;6(5) : 443-447.
- 15) Numata Kenji, Sato Kentaro, Fujitani Shigeki, Kobayashi Daiki. Respiratory Failure in COVID-19 with Awake Prone Positioning and HFNC Therapy: Aggravating Factors. *Disaster medicine and public health preparedness*, 2022;16(5) : 1732-1734.

- 16) Kanaka Yatabe, Naoko Yui, Satomi Kasuya, Ryota Muroi, Rumiko Inoue, Shu Somemura, Kohei Ashikaga, Fumiko Terawaki, Hisao Miyano, Ko Sato, Kazuo Yudoh, Hiroto Fujiya.. Professional Ballet Dancers' Balance Ability and Psychological Traits and States: A Longitudinal Pilot Study. *The Open Sports Sciences Journal*, 2022;15(e1875399X2207200) : 1-12.
- 17) Torii Y, Ueno J, Iinuma M, Yoshida A, Niki H, Akazawa T.. The learning curve of robotic-assisted pedicle screw placements using the cumulative sum analysis: a study of the first 50 cases at a single center. *Spine Surgery and Related Research*, 2022;6(6) : 589-595.
- 18) Yoh S, Nakamura J, Hagiwara S, Kawai Y, Iida S, Kishida S, Nakajima T, Shigemura T, Miyamoto S, Yoshino K, Orita S, Eguchi Y, Inage K, Shiga Y, Akazawa T, Ohtori S, Harada Y.. Long-term results of femoral curved varus osteotomy for idiopathic osteonecrosis of the femoral head. *Chiba Medical Journal*, 2022;98E(5-6) : 47-57.
- 19) Ueno J, Akazawa T, Torii Y, Umehara T, Iinuma M, Yoshida A, Tomochika K, Niki H.. Accuracy and screw insertion time of robotic-assisted cortical bone trajectory screw placement for posterior lumbar interbody fusion: a comparison of early, middle, and late phases. *Cureus*, 2022;14(12) : e32574.
- 20) Inagaki K, Ochiai N, Hiraoka Y, Ise S, Shimada Y, Hirokawa N, Hashimoto E, Ohtori S.. Effect of arthroscopic subacromial decompression during arthroscopic repair of small to medium-sized rotator cuff tears. *Journal of Shoulder and Elbow Surgery international*, 2022;7(2) : 296-300.
- 21) Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Aoki Y, Sakashita K, Okuyama K, Sunami T, Sato K, Asada T, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Hozumi T, Minami S, Ohtori S.. Risk factors for lateral translation in residual adolescent idiopathic scoliosis with a thoracolumbar/lumbar curve. *Spine Surgery and Related Research*, 2022;6(3) : 247-251.
- 22) Akazawa T, Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Torii Y, Ueno J, Yoshida A, Niki H, Ohtori S, Minami S.. Impact of the COVID-19 pandemic on middle-aged and older patients with adolescent idiopathic scoliosis who underwent spinal fusion: a questionnaire-based survey. *Cureus*, 2023;15(1) : e34370.
- 23) Yonezawa Y, Guo L, Kakinuma H, Otomo N, Yoshino S, Takeda K, Nakajima M, Shiraki T, Ogura Y, Takahashi Y, Koike Y, Minami S, Uno K, Kawakami N, Ito M, Yonezawa I, Watanabe K, Kaito T, Yanagida H, Taneichi H, Harimaya K, Taniguchi Y, Shigematsu H, Iida T, Demura S, Sugawara R, Fujita N, Yagi M, Okada E, Hosogane N, Kono K, Chiba K, Kotani T, Sakuma T, Akazawa T, Suzuki T, Nishida K, Kakutani K, Tsuji T, Sudo H, Iwata A, Sato T, Inami S, Nakamura M, Matsumoto M, Terao C, Watanabe K, Okamoto H, Ikegawa S.. Identification of a functional susceptibility variant for adolescent idiopathic scoliosis that upregulates early growth response 1 (EGR1)-mediated UNCX expression. *Journal of Bone and Mineral Research*, 2023;38(1) : 144-153.
- 24) Shimada Y, Matsuki K, Sugaya H, Takahashi N, Tokai M, Hashimoto E, Ochiai N, Ohtori S.. Return to Sports and Physical Work after Anatomical and Reverse Shoulder Arthroplasty. *Journal of Shoulder and Elbow Surgery*, 2023;2746(23) : 52-56.
- 25) Akazawa T, Torii Y, Ueno J, Umehara T, Iinuma M, Yoshida A, Tomochika K, Ohtori S, Niki H.. Accuracy of computer-assisted pedicle screw placement for adolescent idiopathic scoliosis: a comparison between robotics and navigation. *European Spine Journal*, 2023;32(2) : 651-658.
- 26) Iwata S, Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Okuwaki S, Ohyama S, Maki S, Eguchi Y, Orita S, Inage K, Shiga Y, Inoue M, Akazawa T, Minami S, Ohtori S.. Risk factors for cage subsidence in minimally invasive lateral corpectomy for osteoporotic vertebral fractures. *Spine Surgery and Related Research*, 2023;7(4) : 356-362.
- 27) Kojima A, Tsujishima N, Kamitani S, Urayama M, Hatakeyama K, Sodeyama T, Ohuchi J, Arai K, Akazawa T, Niki H, Aihara T. Balloon kyphoplasty combined with percutaneous pedicle screw (PPS) for the treatment of osteoporotic thoracolumbar fractures has minimum correction loss 2 years after surgery: compared to vertebroplasty using hydroxyapatite block combined with PPS. *Annals of Palliative Medicine*, 2023;12(2) : 301-310.
- 28) Ise S, Ochiai N, Hashimoto E, Hirokawa N, Kajiura D, Shimada Y, Inagaki K, Hiraoka Y, Hattori F, Ohtori S.. Evaluation of articular changes using a rat mono-iodoacetate-induced shoulder arthritis model by histology and radiology. *Journal of Orthopaedic Research*, 2023;3(23) : 25560.
- 29) Nokariya S, Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Okumura T, Katogi T, Okuwaki S, Miyagi M, Inoue G, Akazawa T, Shiga Y, Minami S, Ohtori S, Takaso M.. Trunk flexibility using a sit-and-reach test after surgery for adolescent idiopathic scoliosis. *Spine Deformity*, 2023;11(2) : 297-303.

- 30) Asada T, Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Nakayama K, Inage K, Shiga Y, Akazawa T, Minami S, Ohtori S, Koda M, Yamazaki M.. Impact of brace-related stress on brace compliance in adolescent idiopathic scoliosis: A single-center comparative study using objective compliance measurement and brace-related stress. Spine Surgery and Related Research, 2023;7(4) : 377-384.

② 総説又は症例解説

- 1) Shirasawa E, Saito W, Miyagi M, Imura T, Nakazawa T, Mimura Y, Yokozeki Y, Kuroda A, Kawakubo A, Uchida K, Akazawa T, Takaso M, Inoue G.. Intraoperative blood loss at different surgical procedure stages during posterior spinal fusion for idiopathic scoliosis. Medicina (Kaunas), 2023;59(2) : 387.

③ 症例報告

- 1) Kotani T, Okazumi S, Sakuma T, Iijima Y, Okuwaki S, Ohyama S, Iwata S, Sakashita K, Sunami T, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Minami S, Ohtori S.. Median arcuate ligament resection before surgery for adult spinal deformity in patient with preoperative stenosis of celiac artery: a case report. Spine Surgery and Related Research, 2022;7(3) : 284-287.
- 2) Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Sato S, Nakanishi K, Ueda T, Hara T, Nakayama K, Sunami T, Asada T, Akazawa T, Kishida S, Sasaki Y, Inage K, Shiga Y, Minami S, Ohtori S.. Acute celiac artery compression syndrome with superior mesenteric artery stenosis and aortic stenosis: A rare but life-threatening complication after adult spinal deformity surgery. Journal of Orthopaedic Science, 2023;28(2) : 490-494.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎上野純, 赤澤努, 鳥居良昭, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボットは若手外科医にとって有用なツールである. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2022.
- 2) ◎鳥居良昭, 赤澤努, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボット導入初期のペディクルスクリュー挿入時間と照射時間一従来手術との比較-. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2022.
- 3) ◎飯沼雅央, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 梅原亮, 浅野孝太, 吉田篤弘, 友近顕, 秀島貴博, 仁木久照. 転移性脊椎腫瘍患者の術前栄養状態は術後生存期間に影響する. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2022.
- 4) ◎飯沼雅央, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 梅原亮, 浅野孝太, 吉田篤弘, 友近顕, 秀島貴博, 仁木久照. 術前C-reactive protein(CRP)/アルブミン比は転移性脊椎腫瘍に対する手術患者の3ヵ月、6ヵ月後の予後を予測できる. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2022.
- 5) ◎赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 大鳥精司, 仁木久照. 思春期特発性側弯症において脊椎手術支援ロボットによる椎弓根スクリューが逸脱する要因: ロボットで狭い椎弓根に挑戦すべきか?. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2022.
- 6) ◎吉田篤弘, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 飯沼雅央, 仁木久照. α-ディフェンシンの脊椎領域における利用法. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2022.
- 7) ◎鳥居良昭, 赤澤努, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボット導入初期の術前、術直前、術中のラーニングカーブ. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2022.
- 8) ◎藤井亮爾, 小松梨恵, 仁木久照, 遊道和雄. コラーゲン誘導関節炎マウスにおけるCDK6阻害剤とTNF阻害剤の併用効果. 第66回日本リウマチ学会, 2022.
- 9) ◎牧侑平, 原口直樹, 浅野孝太, 有本竜也, 加納洋輔, 仁木久照, 山田隆之, 佐藤卓夫, 吉田学誉, 葛谷淳, 太田光紀. 変形性足関節症における距骨下関節軟骨の変性の評価. 第95回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 10) ◎秋山唯, 平野貴章, 三井寛之, 軽辺朋子, 橘川薫, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 重度強剛母趾に対するcapsular interposition arthroplastyの中間挿入膜のMRI評価. 第95回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 11) ◎赤澤努, 平野貴章, 植原健二, 小山亮太, 仁木久照, 板橋孝, 藤由崇之, 高相晶士, 山内友規, 渡慶次壮一郎, 大鳥精司. 日本において新規開発された綿形状吸収性人工骨の有効性と安全性. 第95回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 12) ◎三井寛之, 平野貴章, 秋山唯, 軽辺朋子, 牧侑平, 鈴木開, 鈴木智裕, 近藤美千代, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 変形性足関節症に対する人工足関節置換術はロコモ度の改善に有効である. 第95回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 13) ◎軽辺朋子, 秋山唯, 平野貴章, 三井寛之, 遠藤渉, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 第1足根中足関節の解剖学的検討. 第95回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 14) ◎大沼弘幸, 植原健二, 木城智, 大野真弘, 工藤貴章, 小谷貴史, 皆川直毅, 仁木久照. 高位脛骨骨切り術前後の脛骨粗面位置変位と下腿回旋アライメントについて 3次元術前計画ソフトによる評価. 第95回日本整形外科学会学術総会, 2022.

- 15) ◎大野真弘, 植原健二, 木城智, 工藤貴章, 小谷貴史, 大沼弘幸, 皆川直毅, 仁木久照. 内側半月板修復術後の変形性膝関節症進行率. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 16) ◎小谷俊明, 赤澤努, 江口和, 折田純久, 牧聡, 佐久間毅, 飯島靖, 南昌平, 大鳥精司. 側弯症での画像活用と将来の役割. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 17) ◎植原健二, 木城智, 工藤貴章, 大野真弘, 小谷貴史, 大沼弘幸, 皆川直毅, 仁木久照. 内側半月板変性断裂の修復術の意義. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 18) ◎原口直樹, 浅野孝太, 有本竜也, 木村聡美, 福本岳, 仁木久照, 太田光紀, 尾関拓磨, 儀部正樹, 岡村龍. 内側型変形性足関節症に対する低位脛骨骨切り術の治療成績. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 19) ◎有本竜也, 原口直樹, 武居功, 浅野孝太, 秋山唯, 平野貴章, 仁木久照, 儀武正樹, 太田光紀, 古澤達也. 外反母趾に対する Lapidus 変法における扁平足と術後再発率の関連. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 20) ◎秀島貴博, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 飯沼雅央, 黒屋進吾, 吉田篤弘, 小野瀬喜道, 仁木久照. 転移性脊椎腫瘍に対する手術療法は 75 歳以上の高齢者でも有用な選択肢である. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 21) ◎山本豪明, 葛西亨, 遠藤亜沙子, 仁木久照. 大転子を温存した腫瘍用人工骨頭置換術は転移性大腿骨腫瘍の 予後を悪化させずに患者の QOL 維持に貢献する. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 22) ◎小谷貴史, 植原健二, 木城智, 大野真弘, 工藤貴章, 大沼弘幸, 皆川直毅, 仁木久照. 手術支援ロボットを用いた TKA における脛骨インプラント設置の比較検討. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 23) ◎市川翔太, 熊井司, 奥貫拓実, 前道俊宏, 松本正知, 屋比久博己, 劉紫釗, 秋山唯, 三井寛之, 仁木久照. ライフセーバーにおける足部・足関節筋形態に関する研究. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 24) ◎飯沼雅央, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 梅原亮, 浅野孝太, 吉田篤弘, 友近顕, 秀島貴博, 仁木久照. 転移性脊椎腫瘍に対する手術症例において, 栄養状態は生命予後を反映する. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 25) ◎小谷貴史, 植原健二, 木城智, 大野真弘, 工藤貴章, 大沼弘幸, 皆川直毅, 仁木久照. 手術支援ロボットを用いた TKA における大腿骨インプラント設置の比較検討. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 26) ◎嶋田洋平, 落合信靖, 橋本瑛子, 廣澤直也, 上條秀樹, 伊勢昇平, 稲垣健太, 平岡佑, 大鳥精司. 新鮮凍結屍体を用いた L' Episcopo 法併用のリパース型人工肩関節置換術における不安定性の検討. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 27) ◎赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 大鳥精司, 仁木久照. 思春期特発性側弯症における脊椎手術支援ロボットによる椎弓根スクリュー設置の正確性: 従来型ナビゲーションとの比較. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 28) ◎原口直樹. 足関節部骨折の病態と治療. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 29) ◎上野純, 赤澤努, 鳥居良昭, 飯沼雅央, 遠藤渉, 吉田篤弘, 小野瀬喜道, 熊井隆智, 仁木久照, 小林哲士. 壊死性筋膜炎症例が救命できない要因-救命救急センターにおける過去 12 年間の救命例と死亡例の比較-. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 30) ◎木城智, 植原健二, 大沼弘幸, 皆川直毅, 大野真弘, 工藤貴章, 小谷貴史, 仁木久照. 脛骨内側顆脆弱性骨折は内側半月板の逸脱によって引き起こされる. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 31) ◎武居功, 小山亮太, 寺内昂, 原口直樹, 梅原亮, 浅野孝太, 仁木久照. 高齢者の Neer 分類 3 または 4-part 上腕骨近位端骨折に対する人工骨頭挿入術の大結節骨片の性状からみた適応. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 32) ◎佐藤健太郎, 平野貴章, 遠藤渉, 飯沼雅央, 金澤実, 森澤健一郎, 藤谷茂樹, 仁木久照. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) を念頭に置いた整形外科緊急手術までの時間の検討. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 33) ◎山本豪明, 葛西亨, 竹本昌紘, 本村悠真, 遠藤亜沙子, 仁木久照. 仰臥位 THA での Line to Line 法に特化したカップ設置支援ジグの開発とその精度の検証. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 34) ◎佐藤健太郎, 平野貴章, 遠藤渉, 飯沼雅央, 金澤実, 森澤健一郎, 藤谷茂樹, 仁木久照. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下でも整形外科緊急手術の入室遅延は発生しない. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 35) ◎葛西亨, 山本豪明, 竹本昌紘, 本村悠真, 遠藤亜沙子, 仁木久照. AR 技術を利用した新しい簡易ナビゲーション併用 THA におけるカップ設置角度の検討-仰臥位前外側アプローチ VS 側臥位後方アプローチ-. 第 95 回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 36) ◎鈴木開, 坂本敬, 北純, 仁木久照. 鏡視下足関節外側靱帯修復後に Accessory talar facet impingement (ATFI) を生じた 1 例. 第 119 回東北整形災害外科学会, 2022.
- 37) ◎嶋田洋平, 落合信靖, 橋本瑛子, 廣澤直也, 上條秀樹, 伊勢昇平, 稲垣健太, 平岡佑, 大鳥精司. 持続的局所抗菌薬灌流 (CLAP) で治癒した、野球少年の肘頭疲労骨折スクリュー固定後の難治性の化膿性肘関節炎、骨髄炎の 2 例. JOSKAS-JOSSM 2022, 2022.
- 38) ◎大野真弘, 植原健二, 木城智, 工藤貴章, 小谷貴史, 大沼弘幸, 仁木久照. 内側半月板損傷におけるアライメントと BMI の関連. JOSKAS-JOSSM 2022, 2022.
- 39) ◎仁木久照. 足部・足関節スポーツ障害. JOSKAS-JOSSM 2022, 2022.

- 40) ◎軽辺朋子, 三井寛之, 秋山唯, 牧侑平, 市川翔太, 仁木久照. Stress fractures of the foot and ankle. JOSKAS-JOSSM 2022, 2022.
- 41) ◎鳥居良昭, 赤澤努, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボットのスクリー挿入時間と照射時間-腰椎変性疾患における従来手術との比較-. 第12回最小侵襲脊椎治療学会, 2022.
- 42) ◎原口直樹. リスフラン関節損傷の病態と治療. 第48回日本骨折治療学会学術集会, 2022.
- 43) ◎仁木凜太郎, 山本豪明, 葛西亨, 木村聡美, 福本岳, 仁木久照. 90歳以上の超高齢者に対する人工股関節全置換術の短期成績. 第705回関東整形災害外科学会月例会, 2022.
- 44) 佐藤健太郎, 森澤健一郎, 遠藤渉, 森川大樹, 昆祐理, 松本純一, 下澤信彦, 吉田徹, 藤谷茂樹, 平泰彦. 4年間のMTP経験から見てきた当院での課題とその対策: 単施設観察研究. 第36回日本外傷学会総会・学術集会, 2022.
- 45) 佐藤健太郎, 昆祐理, 内田将司, 森川大樹, 松本純一, 下澤信彦, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹, 平泰彦. 積極的な画像利用を含むCOVID19診療フローを用いて診断し得た重症頭部外傷の一例. 第36回日本外傷学会総会・学術集会, 2022.
- 46) ◎見上豪, 石郷岡秀哉, 水摩晃一, 倉田憲一, 仁木久照. 肩鎖関節Ⅲ度脱臼に対して関節鏡下烏口鎖骨靱帯再建術に加え直視下肩峰鎖骨靱帯を同時再建した1例. 第175回神奈川整形災害外科研究会, 2022.
- 47) ◎秋山唯, 夏木靖典, 小池淳樹, 葛西亨, 小泉英樹, 山本豪明, 鳥居良昭, 松下和彦, 仁木久照. 骨感染症電子顕微鏡像による黄色ブドウ球菌の骨芽細胞内寄生の検討. 第45回日本骨・関節感染症学会, 2022.
- 48) ◎飯沼雅央, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 吉田篤弘, 仁木久照. C-reactive protein(CRP)/アルブミン比(CAR)の経時的変化と予後予測への有用性. 第10回JASA, 2022.
- 49) ◎秋山唯, 三井寛之, 軽辺朋子, 市川翔太, 牧侑平, 仁木久照. Hiflex foot gear を用いた変形性足関節症に対する保存療法. 第36回日本靴医学会学術集会, 2022.
- 50) ◎秋山唯, 三井寛之, 軽辺朋子, 市川翔太, 牧侑平, 仁木久照. 高齢者スキー愛好家の外脛骨障害に伴う成人期扁平足1例. 第36回日本靴医学会学術集会, 2022.
- 51) アニン祥子, 新谷亮, 松下和彦, 長島梧郎. 急性期病床からCOVID-19専門病床への変換ーある地域中核病院の対策例-. 第18回日本臨床医学リスクマネジメント学会学術集会, 2022.
- 52) 本鍋田由美子, 松下和彦, 田中拓, 大熊克彰, 安藤歩, 桐生久美子, 池谷真実, 長島梧郎. 当院事例の対応から見えた課題ー参加外来癌クリニックでの病理検体取り違い事例からー. 第18回日本臨床医学リスクマネジメント学会学術集会, 2022.
- 53) ◎嶋田洋平, 落合信靖, 橋本瑛子, 伊勢昇平, 稲垣健太, 平岡祐, 服部史弥, 大島精司, 仁木久照. 肩関節術後感染に対する持続的局所抗菌薬灌流(CLAP)の治療経験. 第49回日本肩関節学会, 2022.
- 54) ◎木村聡美, 山本豪明, 葛西亨, 仁木凜太郎, 福本岳, 仁木久照. 超高齢者へのTHA短期成績. 第57回関東股関節懇話会, 2022.
- 55) ◎鳥居良昭, 松下和彦, 赤澤努, 仁木久照. 整形外科手術部位感染原因菌の上気道粘膜からの感染経路. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 56) ◎軽辺朋子, 秋山唯, 三井寛之, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 第1足根中足関節における第1楔状骨関節軟骨の形状. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 57) ◎牧侑平, 原口直樹, 浅野孝太, 有本竜也, 加納洋輔, 見上豪, 仁木久照, 山田隆之, 佐藤卓夫, 吉田学誉, 蔦谷淳. 距骨下関節軟骨のT1ρ緩和時間. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 58) ◎嶋田洋平, 落合信靖, 橋本瑛子, 伊勢昇平, 稲垣健太, 平岡祐, 服部史弥, 大島精司, 仁木久照. 新鮮凍結屍体を用いたmodified Iepiscopo法併用リバーズ型人工肩関節置換術の腱移行位置における安定性の検討. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 59) ◎植原健二, 木城智, 工藤貴章, 大野真弘, 小谷貴史, 大沼弘幸, 仁木久照. 中高年齢者の内側半月板損傷患者では脛骨内側縁の骨棘は短期間に伸長する. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 60) ◎染村嵩, 遊道和雄, 熊井隆智, 谷田部かなか, 佐々木千鶴子, 藤谷博人, 仁木久照. 骨芽細胞におけるグルコース輸送体1の活性化により誘導される骨形成能の促進. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 61) ◎軽辺朋子, 秋山唯, 三井寛之, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 第1中足骨基部関節軟骨の形状. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 62) ◎三井寛之, Mehdi Nazim, Bernasconi Alessio, Fernando Celine, 軽辺朋子, 仁木久照, Lintz Francois. Peritalar configuration following fusion in varus ankle osteoarthritis. - a 3D weight bearing CT analysis -. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 63) ◎小谷貴史, 植原健二, 木城智, 大野真弘, 工藤貴章, 大沼弘幸, 仁木久照. 手術支援ロボットを用いたTKAにおける浅大腿動脈損傷の解剖学的検討. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.

- 64) ◎吉田篤弘, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 飯沼雅央, 仁木久照. α -ディフェンシンラテラルフロー検査による脊椎感染症の補助診断. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 65) ◎有本竜也, 原口直樹, 梅原亮, 小山亮太, 加納洋輔, 見上豪, 福本岳, 木村聡美, 平野貴章, 仁木久照, 岩澤裕之. 足関節用装具がブレーキ反応時間に与える影響. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 66) ◎軽辺朋子, 三井寛之, 秋山唯, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 重度外反母趾に対するLapidus法術後の隣接関節障害. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 67) ◎軽辺朋子, 三井寛之, 秋山唯, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 外反母趾治療により足幅は改善する ～外反母趾角と足幅の関係～. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 68) ◎鳥居良昭, 赤澤努, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 累積和 (CUSUM) 分析を使用したロボット支援脊椎手術のラーニングカーブ. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 69) ◎鳥居良昭, 赤澤努, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボットのスクリー挿入時間と照射時間一従来手術との比較. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 70) ◎秋山唯, 夏木靖典, 小池淳樹, 葛西亨, 小泉英樹, 山本豪明, 鳥居良昭, 松下和彦, 仁木久照. 骨感染症電子顕微鏡像による黄色ブドウ球菌の骨芽細胞内寄生の検討. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 71) ◎上野純, 赤澤努, 鳥居良昭, 梅原亮, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボットは若手外科医にとって有用なツールとなるか?. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 72) ◎飯沼雅央, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 梅原亮, 黒屋進吾, 吉田篤弘, 友近顕, 秀島貴博, 仁木久照. 原発巣・臓器転移・脊椎以外の骨転移数が転移性脊椎腫瘍に対し手術治療を施行した症例の6ヵ月生存率に影響する. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 73) ◎佐藤健太郎, 平野貴章, 遠藤渉, 熊井隆智, 小野瀬喜道, 金澤実, 仁木久照. 当院での整形外傷におけるMassive transfusion protocolの運用実績: 単施設観察研究. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 74) ◎赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 梅原亮, 友近顕, 大島精司, 仁木久照. ロボット支援による椎弓根スクリー設置の正確性に影響する要因は、リファレンスフレームからの距離でなく狭い椎弓根である. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 75) ◎三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 牧侑平, 市川翔太, 鈴木開, 鈴木智裕, 近藤美千代, 原口直樹, 仁木久照. 変形性足関節症に対する人工足関節置換術はロコモ度の改善に有効である (第2報). 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 76) ◎葛西亨, 三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 牧侑平, 市川翔太, 鈴木開, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 膝アライメント異常が変形性足関節症に及ぼす影響～人工距骨併用人工足関節置換術(cTAA)前後での変化～. 第37回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 77) ◎三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 牧侑平, 市川翔太, 鈴木開, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 変形性足関節症に対する人工足関節置換術はロコモ度の改善に有効である. 第50回日本関節病学会, 2022.
- 78) ◎門松亮明, 大沼弘幸, 浅野孝太, 黒屋進吾, 小泉英樹, 鈴木開, 塚原拓也, 松下和彦, 仁木久照. 膝内側側副靱帯損傷後40年が経過して発症したPellegrini-Stieda病に対し一期的に骨化巣摘出と前十字靱帯再建術を施行した1例. 第50回日本関節病学会, 2022.
- 79) ◎山本豪明, 葛西亨, 遠藤亜沙子, 仁木久照. 骨脆弱性症例にも応用できる安心安全なTHA実現のための工夫. 第50回日本関節病学会, 2022.
- 80) ◎三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 牧侑平, 市川翔太, 鈴木開, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 変形性足関節症のMRIによる病態解析～距骨矢状面からみたBME発生様式の検討～. 第50回日本関節病学会, 2022.
- 81) ◎山本豪明, 葛西亨, 仁木久照. 認知症・精神障害のある症例における股関節手術の周術期対応について. 第49回日本股関節学会学術集会, 2022.
- 82) ◎牧侑平, 三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 市川翔太, 原口直樹, 有本竜也, 仁木久照. 人工距骨併用人工足関節置換術前後における隣接関節の変形性関節症とSAFE-Qの関係. 第50回日本関節病学会, 2022.
- 83) ◎軽辺朋子, 三井寛之, 牧侑平, 市川翔太, 秋山唯, 仁木久照. 重度外反母趾に対するLapidus法術後の隣接関節障害. 第50回日本関節病学会, 2022.
- 84) ◎門松亮明, 大沼弘幸, 浅野孝太, 黒屋進吾, 小泉英樹, 鈴木開, 塚原拓也, 松下和彦, 仁木久照. 膝内側側副靱帯損傷後40年が経過して発症したPellegrini-Stieda病に対し一期的に骨化巣摘出と前十字靱帯再建術を施行した1例. 第50回日本関節病学会, 2022.
- 85) ◎原口直樹. 下肢アライメントから考える後足部再建手術. 第139回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会, 2022.
- 86) ◎秋山唯, 三井寛之, 軽辺朋子, 市川翔太, 牧侑平, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 重度内反尖足に対してTSFを用いた変形矯正を行った治療成績. 第47回日本足の外科学会学術集会, 2022.

- 87) ◎市川翔太, 熊井司, 奥貫拓実, 前道俊宏, 松本正和, 屋比久博己, 秋山唯, 三井寛之, 仁木久照. ライフセービング競技における動的バランス機能 と足趾把持力の関係. 第 47 回日本足の外科学会学術集会, 2022.
- 88) ◎佐藤健太郎, 原口直樹, 有本竜也, 大野真弘, 飯沼雅央, 小山亮太, 武居功, 三井寛之, 軽辺朋子, 仁木久照. 当院にて経験した 6 例の足部コンパートメント症候群. 第 47 回日本足の外科学会学術集会, 2022.
- 89) ◎仁木久照. 扁平足と PCFD へ困惑と混乱のなかでこの病態を整理する～. 第 47 回日本足の外科学会, 2022.
- 90) ◎牧侑平, 三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 市川翔太, 原口直樹, 有本竜也, 仁木久照. 人工距骨併用人工足関節置換術後の可動域と隣接関節の変形性関節症の関係. 第 47 回日本足の外科学会学術集会, 2022.
- 91) ◎原口直樹, 大野真弘, 有本竜也, 本村悠真, 仁木久照, 太田光紀, 尾関琢磨, 儀部正樹, 吉田学誉, 蔦谷淳. 人工距骨全置換術ー我々の取り組みー. 第 47 回日本足の外科学会学術集会, 2022.
- 92) ◎軽辺朋子, 三井寛之, 牧侑平, 市川翔太, 秋山唯, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 第 1 中足骨基部関節軟骨の解剖学的検討. 第 47 回日本足の外科学会学術集会, 2022.
- 93) ◎三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 牧侑平, 市川翔太, 鈴木開, 有本竜也, 原口直樹, 仁木久照. 人工足関節置換術はロコモ度の改善に有効である
～ロコモ度の改善と MRI 所見に関連はあるか?～. 第 47 回日本足の外科学会学術集会, 2022.
- 94) ◎小谷俊明, 奥脇駿, 佐久間毅, 飯島靖, 大山秀平, 岩田秀平, 赤澤努, 南昌平. 検診の実態と課題、将来に向けた提言ー側弯症基幹病院の視点からー. 第 56 回日本側弯症学会学術集会, 2022.
- 95) ◎上野純, 赤澤努, 鳥居良昭, 梅原亮, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボットは脊柱変形手術の経験の少ない外科医にとって有用である. 第 56 回日本側弯症学会学術集会, 2022.
- 96) ◎奥脇駿, 小谷俊明, 佐久間毅, 飯島靖, 大山秀平, 岩田秀平, 赤澤努, 南昌平, 大鳥精司, 山崎正志. 思春期特発性側弯症 Lenke type1, 2 における頂椎楔状化リスク因子と柔軟性への影響. 第 56 回日本側弯症学会学術集会, 2022.
- 97) ◎飯島靖, 小谷俊明, 佐久間毅, 赤澤努, 南昌平, 大鳥精司. 成人脊柱変形手術における同種血輸血に関するリスクファクターの検討. 第 56 回日本側弯症学会学術集会, 2022.
- 98) ◎赤澤努. 脊柱変形における脊椎手術支援ロボットの実際. 第 56 回日本側弯症学会学術集会, 2022.
- 99) ◎角南貴大, 小谷俊明, 谷口優樹, 青木保親, 菅原亮, 竹下克志, 出村諭, 山元拓哉, 佐久間毅, 飯島靖, 赤澤努, 南昌平, 大鳥精司, 山崎正志. 思春期特発性側弯症に合併する腰椎分離症は上位腰椎レベルに多い～多施設間共同研究による 46 例の解析～. 第 56 回日本側弯症学会学術集会, 2022.
- 100) ◎上野純, 赤澤努, 鳥居良昭, 梅原亮, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 手術支援ロボットを使用した脊柱変形手術において椎体高位がスクリー挿入時間と逸脱率に及ぼす影響. 第 56 回日本側弯症学会学術集会, 2022.
- 101) ◎奥脇駿, 小谷俊明, 佐久間毅, 飯島靖, 大山秀平, 岩田秀平, 赤澤努, 南昌平, 大鳥精司, 山崎正志. 逆三角関数 $\arctan$ による回旋計測を用いた術後頂椎 rotation の計測. 第 56 回日本側弯症学会学術集会, 2022.
- 102) ◎赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 梅原亮, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 大鳥精司, 仁木久照. 思春期特発性側弯症において脊椎手術支援ロボットによる椎弓根スクリーが逸脱する要因: 術前 CT ナビゲーションとの比較. 第 56 回日本側弯症学会学術集会, 2022.
- 103) ◎木村弘美, 大崎美奈子, 朝田智之, 小谷俊明, 佐久間毅, 飯島靖, 奥脇駿, 中山敬太, 赤澤努, 南昌平. 側弯症装具治療における温度ロガーを用いた装具装着時間の実態調査. 第 56 回日本側弯症学会学術集会, 2022.
- 104) ◎岩田秀平, 小谷俊明, 平野徹, 佐久間毅, 飯島靖, 奥脇駿, 大山秀平, 赤澤努, 稲毛一秀, 大鳥精司. 日本側弯症学会患者向けサイト「側弯症 TOWN」の閲覧者の解析. 第 56 回日本側弯症学会学術集会, 2022.
- 105) ◎赤澤努, 小谷俊明, 佐久間毅, 飯島靖, 鳥居良昭, 上野純, 梅原亮, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照, 稲毛一秀, 大鳥精司, 南昌平. 術後 40 年以上経過した思春期特発性側弯症患者の健康関連 QOL. 第 56 回日本側弯症学会学術集会, 2022.
- 106) 本鍋田由美子, 松下和彦, 田中拓, 青柳恵美. セーフティマネジメント委員会の取り組み～風通しの良い職場環境を目指して～. 第 60 回全国自治体病院学会, 2022.
- 107) 谷田部かなか, 足利光平, 室井良太, 内田将司, 日高岳, 橋本和明, 染村嵩, 井上留美子, 寺脇史子, 小野寺英孝, 藤谷博人. アンケートを利用した小児における脳振盪に関する調査について. 第 33 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2022.
- 108) ◎嶋田洋平, 落合信靖, 橋本瑛子, 仁木久照. M ネイルを用いた上腕骨近位部骨折に対する経皮的髄内固定術の経験. 第 28 回日本最小侵襲整形外科学会, 2022.
- 109) ◎友近顕, 赤澤努, 吉田篤弘, 梅原亮, 上野純, 鳥居良昭, 仁木久照. MRI 所見は特発性脊髄硬膜外血腫の重症度を反映するか?. 第 57 回日本脊髄障害医学会, 2022.
- 110) ◎赤澤努. 脊柱変形手術の変遷と今後の展望: Harrington から最新ロボット手術まで. 第 57 回日本脊髄障害医学会, 2022.
- 111) ◎上野純, 赤澤努, 鳥居良昭, 梅原亮, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 脊柱変形における脊椎手術支援ロボットによる椎弓根スクリーの逸脱とその安全性. 第 31 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2022.

- 112) ◎鳥居良昭, 赤澤努, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボットのスクリュー挿入時間と術中照射時間—腰椎変性疾患における従来手術との比較—. 第31回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2022.
- 113) ◎鳥居良昭, 赤澤努, 上野純, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボットの術直前・術中準備時間と術中放射線照射時間—疾患別の比較—. 第31回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2022.
- 114) ◎飯島靖, 小谷俊明, 佐久間毅, 赤澤努, 南昌平, 大鳥精司. 成人脊柱変形手術における同種血輸血に関するリスクファクターの検討. 第31回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2022.
- 115) 本鍋田由美子, 田中拓, 松下和彦, 青柳恵美. 事故防止策の遵守状況から見た院内周知に対する課題. 第17回医療の質・安全学会学術集会, 2022.
- 116) ◎赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 梅原亮, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 大鳥精司, 仁木久照. 思春期特発性側弯症におけるロボット支援脊椎手術: 術前CTナビゲーションと比較した椎弓根スクリューが逸脱する要因. 第31回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2022.
- 117) ◎奥脇駿, 小谷俊明, 佐久間毅, 飯島靖, 大山秀平, 岩田秀平, 赤澤努, 南昌平, 大鳥精司, 山崎正志. 全脊椎2方向レントゲン画像を用いた術後頂椎rotationの計測—逆三角関数 $\arctan$ を使った定量評価. 第31回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2022.
- 118) ◎染村嵩, 嶋田洋平, 木村聡美, 加納洋輔, 寺内昂, 仁木久照. 血友病患者の胸鎖関節後方脱臼に対して観血的脱臼整復術を施行した1例. 関東整形災害外科学会 月例会 第707回整形外科集談会 東京地方会, 2022.
- 119) ◎軽辺朋子, 三井寛之, 秋山唯, 仁木久照. 足のトリセツ; 保存療法を中心とした外反母趾治療. 第3回日本フットケア・足病医学会年次学術集会, 2023.
- 120) ◎原口直樹. 足の運動と変形の用語. 第3回日本フットケア・足病医学会年次学術集会, 2023.
- 121) ◎山本豪明, 葛西亨, 仁木凛太郎, 木村聡美, 仁木久照. 認知症・精神障害のある症例における股関節手術の周術期対応には多職種連携が必須である. 第53回日本人工関節学会, 2023.
- 122) ◎木村聡美, 山本豪明, 葛西亨, 岩田英明, 仁木凛太郎, 遠藤亜沙子, 仁木久照. 人工股関節全置換術においてAR技術を使用した簡易ナビゲーションの使用は術中透視の放射線量と照射時間を有意に減少させる. 第53回日本人工関節学会, 2023.
- 123) ◎土田京太, 大沼正宏, 高橋秀介, 栗島宏明, 野呂篤史, 山田則一, 大山正瑞, 北純, 仁木久照. 外反膝に対するショートシステムTKAの使用経験. 第53回日本人工関節学会, 2023.
- 124) ◎花田陵, 増田敏光, 仁木久照. 大腿骨頸部骨折に対する骨接合術の治療成績. 第177回神奈川整形災害外科研究会, 2023.
- 125) ◎本村悠真, 原口直樹, 武居 功, 飯沼雅央, 小山亮太, 大野真弘, 有本竜也, 尾崎裕亮, 秀島貴博, 佐藤健太郎, 仁木久照. 診断に時間を要した脆弱性骨盤骨折の1例. 関東整形災害外科学会 月例会 第708回整形外科集談会 東京地方会, 2023.
- 126) ◎友近顕, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 梅原亮, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 秀島貴博, 仁木久照. 特発性脊髄硬膜外血腫の臨床所見と麻痺の重症度の関係. 第63回関東整形災害外科学会, 2023.
- 127) ◎寺内昂, 小野瀬喜道, 加納洋輔, 染村嵩, 嶋田洋平, 仁木久照. 下腿開放骨折に伴う腱露出創に対して全層植皮にperifascial areolar tissueを併用した一例. 第63回関東整形災害外科学会, 2023.
- 128) ◎小谷貴史, 植原健二, 木城智, 大野真弘, 工藤貴章, 熊井隆智, 大沼弘幸, 仁木久照. 大腿骨遠位矢状断面の骨切り精度を向上させるTKA手術テクニックの検討. 第63回関東整形災害外科学会, 2023.
- 129) ◎市川翔太, 三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 牧侑平. Combined TAA後感染に対してDAIRを施行しインプラント温存に成功した一例. 第63回関東整形災害外科学会, 2023.
- 130) ◎塚原拓也, 大沼弘幸, 小泉英樹, 黒屋進吾, 浅野孝太, 鈴木開, 門松亮明, 友近顕, 仁木久照. 外傷性大腿四頭筋断裂修復後の脛骨粗面裂離骨折に対しSpeedBridgeを応用して使用し膝伸展機構の再建を行った1例. 第63回関東整形災害外科学会, 2023.
- 131) ◎佐藤健太郎, 飯沼雅央, 有本竜也, 大野真弘, 小山亮太, 武居功, 原口直樹, 仁木久照. 整形外科における予定外入院症例は嚥下障害リスクが高い. 第63回関東整形災害外科学会, 2023.
- 132) ◎牧侑平, 三井寛之, 軽辺朋子, 秋山唯, 市川翔太, 原口直樹, 有本竜也, 仁木久照. 人工足関節置換術のエビデンス. 第63回関東整形災害外科学会, 2023.

② 国際学会

- 1) ◎Haraguchi Naoki. Posterior malleolar fracture: Anatomy, biomechanics, and treatment. International Federation of Foot & Ankle Societies Scientific Meeting, 2022.

- 2) ◎Haraguchi N, Shiratuschi T, Ichikawa S, Niki H, Hirano T, Akiyama Y, Mitsui H, Endo W, Karube T, Ota K, Ozeki T, Gibu M. Aggressive fixation of osteochondral lesions of the talus. International Federation of Foot & Ankle Societies Scientific Meeting, 2022.
 - 3) ◎Sato K, Numata K, Wakatake H, Masui Y, Yoshida T, Fujitani S. Comparison of length of emergency department stay before and after using microarray for investigating coronavirus disease 2019: A single-center study. 21st International Conference on Emergency Medicine, 2022.
 - 4) ◎Niki Hisateru. Adaptationsof innovations and new technologies in spinal deformity treatment. World Orthopaedic Research Congress, 2022.
 - 5) ◎Haraguchi Naoki. T1ρ mapping of ankle cartilage. World Orthopaedic Research Congress, 2022.
 - 6) ◎Haraguchi N, Shiratuschi T, Kumai T, Niki H, Hirano T, Akiyama Y, Mitsui H, Endo W, Karube T, Ota K, Ozeki T, Gibu M. Low tibial osteotomy combined with ankle mortise reconstruction for advanced osteoarthritis of the ankle. International Federation of Foot & Ankle Societies Scientific Meeting, 2022.
- ③ その他
- 1) ◎仁木久照. 足部疾患に対する再建手術 up date. 第 16 回お茶ノ水運動器疾患セミナー, 2022.
 - 2) ◎原口直樹. 変形性足関節症に対する関節温存手術. 西多摩整形外科医会(西多摩整形外科フォーラム), 2022.
 - 3) ◎飯沼雅央. 聖マリアンナ医科大学本院における骨転移診療連携一見えてきた骨転移の課題と整形外科が介入する意義とは?-. 第 23 回川崎北部地域連携緩和ケアの会, 2022.
 - 4) ◎仁木久照. 小児の足部診療アップデートー痛みと変形の診断と治療を中心にー. 第 17 回佐賀関節外科研究会, 2022.
 - 5) ◎仁木久照. 成人期扁平足 UPDATE -PTTD から PCFD まで-. 整形外科セミナー ～骨粗鬆症と足の外科～, 2022.
 - 6) ◎飯沼雅央, 赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 吉田篤弘, 秀島貴博, 原口直樹, 仁木久照. 脊髄症を生じた頸椎後弯の症例. 第 108 回神奈川脊椎骨髄研究会, 2022.
 - 7) ◎仁木久照. 小児の足部診療 updateー痛みと変形を中心にー. 桜 骨・関節セミナー, 2022.
 - 8) ◎門松亮明, 大沼弘幸, 浅野孝太, 黒屋進吾, 小泉英樹, 鈴木開, 塚原拓也, 松下和彦, 仁木久照. 陳旧性前十字靱帯付着部剥離骨折と内側側副靱帯損傷後に発症した Pellegrini-Stieda 病の治療経験. 第 175 回神奈川整形災害外科研究会, 2022.
 - 9) ◎植原健二, 木城智, 大野真弘, 工藤貴章, 小谷貴史, 熊井隆智, 仁木久照. 膝関節疾患に対する修復・再建術時の膝関節周囲骨切り術併用の取り組みと工夫. 第 175 回神奈川整形災害外科研究会, 2022.
 - 10) ◎仁木久照. 小児の足部診療 update ー痛みと変形を中心にー. 第 13 回横浜市整形外科医会三区合同講演会, 2022.
 - 11) ◎原口直樹. 足関節果部骨折の受傷機転と分類. 第 86 回 JABO 研修会, 2022.
 - 12) ◎赤澤努. 脊椎疾患治療の最前線ーロボット支援手術と神経障害性疼痛治療薬ー. 千葉県整形外科医会 第 41 回整形外科夏期卒後研修会, 2022.
 - 13) ◎赤澤努. 最新の脊椎疾患治療ー手術支援ロボットと神経障害性疼痛治療薬ー. Spine Expert Meeting, 2022.
 - 14) ◎原口直樹. 足関節脱臼. 第 12 回骨折治療学会アドバンスコース研修会, 2022.
 - 15) ◎熊井隆智, 遊道和雄, 植原健二, 木城智, 工藤貴章, 小谷貴史, 仁木久照. 軟骨および軟骨下骨組織の再生に向けた自己組織化技術による人工軟骨-人工骨複合バイオマテリアルの創製. 日本運動器移植再生医学研究会, 2022.
 - 16) ◎植原健二, 木城智, 大野真弘, 工藤貴章, 小谷貴史, 熊井隆智, 大沼弘幸, 仁木久照. 内反膝を伴う内側半月板断裂では半月板修復術に高位脛骨骨切り術の併用が身体活動面で有用である. 第 2 回日本 Knee Osteotomy and Joint Preservation 研究会, 2022.
 - 17) ◎仁木久照. 足部・足関節の基礎と再建手術 update. 整形外科グローアップセミナー2022 足の外科編, 2022.
 - 18) ◎飯沼雅央. 骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術療法ー手術療法を行うべき骨折型と術後骨粗鬆症治療における病診連携ー. 横浜西部整形外科フォーラム, 2022.
 - 19) ◎赤澤努. 最新の脊椎疾患治療ーロボット手術と神経障害性疼痛治療薬ー. 整形外科地域連携 Web 講演会, 2022.
 - 20) ◎仁木久照. 関節リウマチ足趾変形に対する前足部再建手術 ～Combination Metatarsal Osteotomies for Shortening, CMOSー. 第 3 回 Orthopedics RA Meeting, 2022.
 - 21) ◎原口直樹. 変形性足関節症に対する関節温存手術. 第 203 回備後整形外科医会学術講演会, 2022.
 - 22) ◎赤澤努. 脊椎疾患治療の最前線ー神経障害性疼痛治療薬と手術支援ロボットー. Pain Management Symposium, 2022.
 - 23) ◎内藤利仁, 新井賢一郎, 金子天哉, 皆川直毅, 松下和彦, 仁木久照. 手指・手骨骨折に対する鋼線縮結型創外固定器の治療経験. 第 176 回神奈川整形災害外科研究会, 2022.
 - 24) ◎小野瀬喜道, 遠藤渉, 熊井隆智, 岩田英明, 仁木凜太郎, 仁木久照. 当院における脆弱性盤骨盤輪折の現状と治療方針. 第 176 回神奈川整形災害外科研究会, 2022.
 - 25) ◎嶋田洋平, 落合信靖, 仁木久照. 人工肩関節置換術後の CLAP の治療経験. 関東肩を語る会, 2023.

- 26) ◎仁木久照. 小児の足部診療 update 一痛みと変形の診断と治療を中心にー. 第 24 回 ニューウェーブセミナー, 2023.
- 27) ◎赤澤努. 脊椎疾患治療 up-to-date～神経障害性疼痛治療薬とロボット手術. 川崎北部整形疾患セミナー, 2023.
- 28) ◎仁木久照. 変形性足関節症の診断と治療 update. 第 9 回横浜・川崎ロコモセミナー, 2023.
- 29) ◎三井寛之, 秋山唯, 軽辺朋子, 牧侑平, 市川翔太, 仁木久照. 脛骨天蓋骨折の治療戦略. 第 177 回神奈川整形災害外科学研究会, 2023.
- 30) ◎山本豪明, 葛西亨, 仁木凜太郎, 木村聡美, 仁木久照. 「ROSA HIP システム」による透視下で行う新しいロボット支援 THA の小経験. 第 17 回日本 CAOS 研究会, 2023.
- 31) ◎鳥居良昭, 赤澤努, 上野純, 梅原亮, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 脊椎手術支援ロボット手術の術中不具合. 第 17 回日本 CAOS 研究会, 2023.
- 32) ◎赤澤努, 鳥居良昭, 上野純, 梅原亮, 飯沼雅央, 吉田篤弘, 友近顕, 仁木久照. 脊柱変形におけるロボット支援手術. 第 17 回日本 CAOS 研究会, 2023.
- 33) ◎小谷貴史, 植原健二, 木城智, 大野真弘, 工藤貴章, 熊井隆智, 大沼弘幸, 仁木久照. 手術支援ロボットを用いた TKA における従来法とのインプラント設置の比較検討. 第 17 回日本 CAOS 研究会, 2023.
- 34) ◎仁木久照. 足部・足関節捻挫後遺残疼痛の診断と治療. 第 46 回埼玉・県南東部整形外科勉強会, 2023.
- 35) ◎仁木久照. 足部・足関節捻挫後遺残疼痛の診断と治療. 第 11 回長州スポーツ整形塾～やまぐちスポーツ整形外科フォーラム～, 2023.

		和 文	英 文
著 書		7	2
論 文	原著	1	30
	解説又は総説	7	1
	症例報告	1	2
	その他	3	
学会発表	国内学会	132	
	国際学会		6
	その他	35	

形成外科学

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 梶川明義. [特集]私の乳房再建選択アルゴリズム⑤一患者が選ぶ再建法一. 形成外科, 2022;65(9):1055-1064.
- 2) 梶川明義, 宮野竜太郎, 望月靖史, 関 征央, 恩田慶子, 友近真世, 神川真由子, 高田女里, 沖野照仁, 鍋島諒大. Twin Bird Transformer 広背筋皮弁による新しい乳房再建法. Oncoplastic Breast Surgery, 2022;7(4):97-107.

② 症例報告

- 1) 岩本承豪, 杉本同, 塩出のぞみ, 佐々木絵里香, 梶川明義. 帯状疱疹後の Trigeminal trophic syndrome により前鼻孔閉鎖症に至った1例. 創傷, 2022;13(3):138-142.
- 2) 浅井凜太郎, 宮野竜太郎, 貴志有紗, 相原正記, 梶川明義. 頭部多発皮膚腫瘍を呈した Brooke-Spiegler 症例群が男性に発症した1例. 形成外科, 2022;65(12):1434-1440.
- 3) 沖野照仁, 関征央, 鍋島諒大, 清水文華, 相原正記, 梶川明義. 両側下顎骨関節突起骨折で保存療法による良好なリモデリングが得られた11歳9ヵ月女児の1例. 創傷, 2023;14(1):36-39.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Mayo Tomochika, Rena Sumie, Ryotaro Miyano, Yasushi Mochizuki, Hajime Inoue, Akiyoshi Kajikawa. Possible Cellular Communication with Human Follicle Dermal Papilla Cells via Secretions from Human Hair Follicle Keratinocytes. Journal of St. Marianna University, 2023;13(2):87-93.

② 症例報告

- 1) Yasushi Mochizuki, Akihiko Oyama, Akiyoshi Kajikawa. Two-staged Correction for Pouter Pigeon Chest: A Less Invasive Procedure. Journal of Plastic and Reconstructive Surgery, 2023;2(1):17-19.

学会発表

① 国内学会

- 1) 梶川明義, 宮野竜太郎, 恩田慶子, 高田女里, 沖野照仁, 浅井凜太郎, 海野英美香, 望月靖史. Twin Birds 3D 広背筋皮弁による乳房再建. 第65回日本形成外科学会総会・学術集会, 2022.
- 2) 梶川明義, 宮野竜太郎, 恩田慶子, 沖野照仁, 鍋島諒大, 浅井凜太郎, 海野英美香, 望月靖史. Twin Birds 3D 広背筋皮弁と Muscle-fat-millefeuille 法による豊かで美しい乳房再建法. 第65回日本形成外科学会総会・学術集会, 2022.
- 3) 宮野竜太郎, 梶川明義, 恩田慶子, 友近真世, 海野英美香, 望月靖史. 広背筋皮弁での乳房再建に於けるネオバールナノによる背部浸出液の減少効果について. 第65回日本形成外科学会総会・学術集会, 2022.
- 4) 浅井凜太郎, 宮野竜太郎, 貴志有紗, 相原正記, 梶川明義. 頭部に巨大な円柱腫を呈した, 稀な男性発症の Brooke-Spiegler 症候群の1例. 第65回日本形成外科学会総会・学術集会, 2022.
- 5) ◎家 研也, 八木橋 国博, 橋本 一樹, 大岡 正道, 関 征央, 内田 竜二, 酒井翼, 本橋 伊織, 奥瀬 千晃, 松田 隆秀, 大平 善之. シェーグレン症候群のステロイド抵抗性乳び胸に胸管塞栓術が有用であった1例. 第25回日本病院総合診療医学会学術総会, 2022.
- 6) 友近真世, 住江玲奈, 宮野竜太郎, 望月靖史, 井上肇, 梶川明義. 毛包由来表皮細胞の液性因子が培養毛乳頭細胞の遺伝子発現に及ぼす影響. 第31回日本形成外科学会基礎学術集会, 2022.
- 7) 遠藤春夏, 梶川明義, 神川真由子, 友近真世, 沖野照仁, 鍋島諒大, 浅井凜太郎, 海野英美香, 宮野竜太郎, 関征央. TE 挿入後に生じた漿液腫に対する安全な穿刺法. 第10回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2022.
- 8) 宮野竜太郎, 梶川明義, 高田女里, 友近真世, 沖野照仁, 鍋島諒大, 海野英美香, 浅井凜太郎, 遠藤春夏, 望月靖史. 広背筋皮弁での背部浸出液の管理についての検討. 第10回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2022.
- 9) 大沼舞, 梶川明義, 友近真世, 神川真由子, 沖野照仁, 海野英美香, 清水文華, 遠藤春夏, 塩出のぞみ, 佐々木絵里香. 再建乳輪に対する刺青による着色の経時的色調変化に関する研究. 第10回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2022.
- 10) 梶川明義, 宮野竜太郎, 望月靖史, 恩田慶子, 友近真世, 神川真由子, 高田女里, 沖野照仁, 鍋島諒大, 浅井凜太郎, 海野英美香, 遠藤春夏, 杉本同, 関征央. Transformer 広背筋皮弁による自然な乳房再建法. 第10回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会, 2022.
- 11) 関征央, 梶川明義, 相原正記, 望月靖史. 「Aesthetic で Functional なかつこい Microsurgery」を目指して. 第49回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2022.

- 12) 望月靖史, 関征央, 梶川明義. 遊離空腸移植での上甲状腺動脈使用時における後壁縫合法を併用したスリーブ型動脈吻合の有用性. 第49回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2022.
- 13) 関征央, 浅井凜太郎, 友近真世, 高田女里, 梶川明義. 治療効果を高める! 24時間リンパシンチグラフィー法と ICG リンパ管造影を組み合わせた新しい上肢 LVA 部位選択. 第49回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 2022.
- 14) 関征央, 梶川明義. ナノマイクロサージャリー: 世界最小 12-0s 針を用いた LVA とその効果. 第28回日本形成外科手術手技学会, 2023.
- 15) 梶川明義. 弯曲の曲率を変えた新しい縫合針による縫合新世界. 第28回日本形成外科手術手技学会, 2023.
- 16) 宮野竜太郎. 自家組織移植におけるリンパ漏予防の工夫. 第28回日本形成外科手術手技学会, 2023.
- 17) 梶川明義. 突破! Game Changer を目指せ 一私の形成外科手術突破史ー. 第28回日本形成外科手術手技学会, 2023.
- 18) ©Yukio Seki, Rintaro Asai, Fumika Unno, Teruhito Okino, Mayo Tomochika, Meri Takada, Yudai Numata, Akiyoshi Kajikawa. An Anatomical Study of Aged Collecting Lymphatic Vessels at the Lower Limbs: A Clue to the Etiology of Aging-Related Lymphedema in Human. The 31st Research Council Meeting of Japan Society of Plastic and Reconstructive Surgery, 2022.

② 国際学会

- 1) ©Yukio Seki, Akiyoshi Kajikawa. Fundamental and essential techniques for supermicrosurgical lymphaticovenular anastomosis: the art of Isao Koshima's supermicrosurgery and nanomicrosurgery beyond supermicrosurgery. Plastic and Aesthetic Research Webinar: Lymphatic Reconstruction, 2022.
- 2) ©Yukio Seki, Akiyoshi Kajikawa, Rintaro Asai, Mayo Tomochika, Takehiro Terashima, Norimitsu Kurogi. Aging-related Lymphedema in Human: Anatomical and Histological Study and Clinical Effectiveness of Lymphaticovenular Anastomosis. American Society for Reconstructive Microsurgery Annual Meeting 2023, 2023.

③ その他

- 1) 梶川明義. 聖マリアンナ医科大学病院における SBI による乳房再建. 第7回神奈川乳房再建研究会, 2022.
- 2) 梶川明義. 最新脂肪冷却痩身機器の乳房再建治療への活用と痩身治療効果について. 第1回 クラッシューズ ジャパン シンポジウム, 2022.
- 3) 杉本同, 望月靖史, 相原正記, 海野英美香, 清水文華, 関征央, 梶川明義. 急性期の両側下顎骨関節突起骨折の加療目的に当科に紹介された一例. 神奈川県形成外科症例検討会, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著	2	1
	解説又は総説		
	症例報告	3	1
	その他		
学会発表	国内学会	17	1
	国際学会		2
	その他	3	

皮膚科学

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 門野岳史. 【マイナーエマージェンシー 外来診療・一人当直に強くなる!いざというときの対処法】皮膚科的 minor emergency 接触皮膚炎. Medical Practice, 2022;39(臨増):277-279.
- 2) 門野岳史. 多形紅斑. 【病態から考える 薬物療法】皮膚科の臨床(臨時増刊号), 2022;64(5):666-669.
- 3) 宮垣朝光. デニロイキン ジフチトクスによる皮膚T細胞リンパ腫の治療. 臨床皮膚科, 2022;76(5):164-166.
- 4) 村上富美子. 新型コロナウイルス感染によって生じる皮膚症状(脱毛症). Derma, 2022;:58-65.
- 5) 門野岳史. Your Diagnosis! 丘疹状結核疹. Visual Dermatology, 2022;21(7):718-720.
- 6) 門野岳史. 【悪性上皮系腫瘍】Buccal Musculomucosal Flapにより再建した左下口唇有棘細胞癌の1例. Visual Dermatology, 2022;21(7):702.
- 7) 門野岳史. 【爪のアトラス】(Part5.)結節・腫瘍(Atlas 47) onychomatricoma. Visual Dermatology, 2022;21(7):702.
- 8) 門野岳史. 【爪のアトラス】(Part5.)結節・腫瘍(Atlas 44) 爪下外骨腫. Visual Dermatology, 2022;21(7):699.
- 9) 門野岳史. 【爪のアトラス】(Part5.)結節・腫瘍(Atlas 42) Koenen 腫瘍. Visual Dermatology, 2022;21(7):697.
- 10) 門野岳史. 【爪のアトラス】(Part5.)結節・腫瘍(Atlas 40) エクリン汗孔腫. Visual Dermatology, 2022;21(7):695.
- 11) 門野岳史. 【爪のアトラス】(Part5.)結節・腫瘍(Atlas 39) 有棘細胞癌. Visual Dermatology, 2022;21(7):694.
- 12) 門野岳史. 【爪のアトラス】(Part4.)色調の変化(Atlas 38) 黄色爪. Visual Dermatology, 2022;21(7):693.
- 13) 門野岳史. 【爪のアトラス】(Part4.)色調の変化(Atlas 30) 先天性色素性母斑. Visual Dermatology, 2022;21(7):684.
- 14) 門野岳史. 【爪のアトラス】(Part1.)爪甲変形(Atlas 8) Cronkhite-Canada 症候群. Visual Dermatology, 2022;21(7):661.
- 15) 宮垣朝光. 皮膚T細胞リンパ腫における免疫チェックポイント分子・共刺激分子. 西日本皮膚科, 2022;84(3):187-193.
- 16) 加藤豊章, 宮垣朝光, 帆足俊彦. 難治性の足底疣贅に対するいぼ剥ぎ法の有効性. 皮膚科の臨床, 2022;64(10):1645-1648.
- 17) 門野岳史. Your Diagnosis! Kaposi 肉腫. Visual Dermatology, 2022;21(11):1152-1154.
- 18) 門野岳史. 【臀部・肛門のアトラス】(Part4.)結節・物理的皮膚障害(Atlas38) 深部損傷褥瘡. Visual Dermatology, 2022;21(12):1219.
- 19) 門野岳史. 【臀部・肛門のアトラス】(Part4.)結節・物理的皮膚障害(Atlas37) 褥瘡. Visual Dermatology, 2022;21(12):1218.
- 20) 門野岳史. 【臀部・肛門のアトラス】(Part3.)炎症(Atlas32) 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症. Visual Dermatology, 2022;21(12):1213.
- 21) 門野岳史. 【臀部・肛門のアトラス】(Part3.)炎症(Atlas20) 肛門皮膚炎. Visual Dermatology, 2022;21(12):1201.
- 22) 門野岳史. 【臀部・肛門のアトラス】(Part2.)母斑・色素性病変(Atlas19) S-1による薬剤性色素沈着. Visual Dermatology, 2022;21(12):1200.
- 23) 門野岳史. 【臀部・肛門のアトラス】(Part2.)母斑・色素性病変(Atlas13) 蒙古斑. Visual Dermatology, 2022;21(12):1194.
- 24) 門野岳史. 【臀部・肛門のアトラス】(Part2.)母斑・色素性病変(Atlas12) McCune-Albright 症候群. Visual Dermatology, 2022;21(12):1193.
- 25) 門野岳史. 【臀部・肛門のアトラス】(Part1.)腫瘍(Atlas10) 直腸癌の皮膚浸潤. Visual Dermatology, 2022;21(12):1191.

② 症例報告

- 1) 望月俊彦, 松岡摩耶, 川上民裕, 相馬良直, 門野岳史. 成人女性の四肢に生じた extensive Subcutaneous Sarcoidosis の1例. 皮膚科の臨床, 2022;64(6):1093-1096.
- 2) 望月俊彦, 渡部秀憲, 竹内そら, 宮垣朝光, 門野岳史. オルメサルタンメドキシミルによる乾癬型薬疹の1例. 皮膚科の臨床, 2022;64(7):1199-1202.
- 3) 中島香緒里, 岡野達郎, 大橋洋之, 竹内そら, 宮垣朝光, 門野岳史. 経カテーテル的大動脈弁植え込み術(TAVI)後に生じた皮膚親水性ポリマー塞栓症. 皮膚病診療, 2022;44(7):594-598.
- 4) 小野田慶子, 竹内そら, 貴志有紗, 宮垣朝光, 門野岳史. 手指に多発した結節状強皮症の1例. 皮膚科の臨床, 2022;64(8):1371-1374.
- 5) 小野田慶子, 村上富美子. 潰瘍型サルコイドーシスの1例. 皮膚科の臨床, 2022;64(10):1607-1610.

- 6) 大森怜奈, 宮垣朝光, 奥平あずさ, 竹内そら, 門野岳史. 【扁平苔癬と類縁疾患】ペムブロリズマブにより誘発された肥大型扁平苔癬. 皮膚病診療, 2022;44(10) : 890-893.
- 7) 浅井凜太郎, 宮野竜太郎, 貴志有紗, 相原正記, 梶川明義. 頭部多発皮膚腫瘍を呈した Brooke-Spiegler 症例群が男性に発症した 1 例. 形成外科, 2022;65(12) : 1434-1440.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Izawa N, Shiokawa H, Onuki R, Hamaji K, Morikawa K, Saji H, Ohashi H, Kasugai S, Hayakawa N, Ohara T, Sunakawa Y. The clinical utility of comprehensive measurement of autoimmune disease-related antibodies in patients with advanced solid tumors receiving immune checkpoint inhibitors: a retrospective study. ESMO Open, 2022;7(2) : 100415.
- 2) Kubo M, Miyagaki T, Ohashi H, Kishi A, Miyano K, Okano T, Muto M, Takeuchi S, Imamura M, Kadono T. A case of ruptured Baker's cyst induced by nivolumab and ipilimumab. Cutaneous Immunology and Allergy, 2023; : <https://doi.org/10.1002/cia2.12290>.

学会発表

① 国内学会

- 1) 浅井凜太郎, 宮野竜太郎, 貴志有紗, 相原正記, 梶川明義. 頭部に巨大な円柱腫を呈した, 稀な男性発症の Brooke-Spiegler 症候群の 1 例. 第 65 回日本形成外科学会総会・学術集会, 2022.
- 2) 小牧玲雄, 竹内そら, 宮垣朝光, 門野岳史. 頭部有茎性脂腺母斑の 1 例. 日本皮膚科学会第 901 回東京地方会, 2022.
- 3) 大森怜奈, 宮垣朝光, 岡野達郎, 門野岳史. 右半身に Blaschko 線に沿って多発した線状強皮症. 日本皮膚科学会第 901 回東京地方会, 2022.
- 4) 加持達弥, 入澤亮吉, 大塚正樹, 加古智子, 門野岳史, 古賀文二, 野北陽子, 廣崎邦紀, 藤原浩. ガイドラインに沿った褥瘡診療の要点. 第 121 回日本皮膚科学会総会, 2022.
- 5) 三石修平, 岡野達郎, 堀江明弘, 竹内そら, 宮垣朝光, 門野岳史, 殿岡久美子. 新型コロナウイルスワクチン接種後に生じた呼吸窮迫症候群を伴う膿疱性乾癬の 1 例. 第 121 回日本皮膚科学会総会, 2022.
- 6) 伊丹綾香, 竹内そら, 大庭慎也, 大橋洋之, 岡野達郎, 武藤真悠子, 宮垣朝光, 門野岳史. 皮膚症状を呈した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 17 例の検討. 第 121 回日本皮膚科学会総会, 2022.
- 7) 橋本実奈, 宮垣朝光, 中島香緒里, 大橋洋之, 竹内そら, 門野岳史. メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の 1 例. 第 38 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2022.
- 8) 小牧玲雄, 宮垣朝光, 橋本実奈, 大橋洋之, 竹内そら, 門野岳史. デュビルマブ投与後に扁平隆起結節が出現した IL-13 受容体 $\alpha 2$ 陽性の紅皮症型菌状肉肉症の 1 例. 第 38 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2022.
- 9) 大庭慎也, 岡野達郎, 小牧玲雄, 伊丹綾香, 三石修平, 竹内そら, 宮垣朝光, 門野岳史. 帯状疱疹罹患後の運動麻痺により歩行障害をきたした 1 例. 日本皮膚科学会第 902 回東京地方会 (合同臨床地方会), 2022.
- 10) 原義明, 門野岳史, 大橋洋之, 秋野幸. 繰り返すリンパ節転移および局所再発に対し外科的切除を行なったエクリン汗孔癌の 1 例. 第 37 回日本皮膚外科学会総会・学術大会, 2022.
- 11) 中島香緒里, 宮垣朝光, 小野田慶子, 岡野達郎, 竹内そら, 門野岳史. ゲフィチニブによる紫斑型薬疹の 1 例. 第 86 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2022.
- 12) 宮垣朝光. 皮膚 T 細胞リンパ腫治療におけるベキサロテンの位置づけ. 第 86 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2022.
- 13) 小牧玲雄, 門野岳史, 江田怜奈, 伊丹綾香, 三石修平, 大橋洋之, 宮垣朝光. イミキモドクリーム外用にて寛解した陰部乳房外 Paget 病の 1 例. 第 86 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2022.
- 14) 飯島真珠, 宮垣朝光, 橋本実奈, 久保麻梨絵, 伊丹綾香, 岡野達郎, 竹内そら, 門野岳史, 安田宏. 潰瘍性大腸炎に対してメサラジン投与中に生じた血管炎の 1 例. 日本皮膚科学会第 904 回東京地方会, 2022.
- 15) 久保麻梨絵, 橋本実奈, 岡野達郎, 竹内そら, 宮垣朝光, 門野岳史. 反対側色素性扁平苔癬の 1 例. 日本皮膚科学会第 904 回東京地方会, 2022.
- 16) 鄭永宇, 三石修平, 岡野達郎, 竹内そら, 宮垣朝光, 門野岳史, 菱田吉明. 皮疹を契機として脂質異常症, 糖尿病の診断に至った発疹性黄色腫の 1 例. 日本皮膚科学会第 905 回東京地方会, 2023.
- 17) 大庭慎也, 望月俊彦, 村上富美子. 生検後に自然退縮した脂腺腺腫の 1 例. 日本皮膚科学会第 905 回東京地方会, 2023.
- 18) 原義明, 門野岳史, 宮垣朝光, 竹内そら, 鄭永宇. 皮膚爬行症との鑑別を要した線状エクリン螺旋腺腫の 1 例. 日本皮膚科学会第 905 回東京地方会, 2023.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		2
	解説又は総説	25	
	症例報告	7	
	その他		
学会発表	国内学会	18	
	国際学会		
	その他		

腎泌尿器外科学

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 早川望, 菊地栄次. TURBT 評価システム—独自の TUR 評価票を用いた自己・他己評価による若手泌尿器科医育成の試み—. Japanese Journal of Endourology and Robotics, 2022;35(1) : 30-37.
- 2) 與座直利, 中澤龍斗, 西智弘, 塚田光, 白井大介, 安達裕之, 山田龍治, 松村かおり, 岩田鉄平, 薄場渉, 相田紘一郎, 早川望, 佐々木秀郎, 菊地栄次. MRI-US 融合画像ガイド下前立腺生検における癌検出率の検討. 泌尿器科紀要, 2022;68(9) : 291-294.

② 総説又は症例解説

- 1) 篠田和伸. 増刊号特集 専門性と多様性を両立させる! 泌尿器科外来ベスト NAVI ●腎性高血圧・腎血管性病変●腎梗塞. 臨床泌尿器科, 2022;76(4) : 265-268.
- 2) 早川望, 菊地栄次. ここまで来た! 腎盂・尿管癌診療——エキスパートが語る臨床の最前線<治療編>切除不能/転移性腎盂・尿管癌に対する一次全身薬物治療の最前線. 臨床泌尿器科, 2022;76(6) : 398-401.
- 3) 菊地栄次, 早川望. 筋層浸潤性膀胱癌に対する周術期補助薬物治療の最前線. 臨床泌尿器科, 2022;76(6) : 347-353.
- 4) 早川望, 菊地栄次. 【chapter 4<泌尿器がん免疫療法: チーム医療の実践>】 14 尿路上皮がんにおけるチーム医療の実践. 泌尿器 Care&Cure Uro-Lo, 2022;27(3) : 358-390.
- 5) 早川望, 菊地栄次. おさえておくべき, Clinical trial !—進行性尿路上皮癌編— 新薬 Enfortumab vedotin とは?. 泌尿器外科, 2022;35(7) : 614-619.
- 6) 中澤龍斗, 菊地栄次. 新規前立腺マーカーproPSA: 開発から保険収載までの道程
9. エクスパートが考えるプロステートヘルスインデックス(phi)を組み入れた新しい前立腺癌診断フローシート
⑥当院におけるプロステートヘルスインデックスを組み入れた PIRADS カテゴリー別でも前立腺癌診断のフローの考察
. Prostate Journal, 2022;9(2) : 199-201.
- 7) 菊地栄次, 早川望. 転移性尿路上皮がんに対する薬物療法の update2022. 泌尿器科, 2022;16(6) : 692-700.
- 8) 早川望, 清水嵩, 菊地栄次. 筋層非浸潤性膀胱癌に対する BCG 膀胱内注入療法後にきたした BCG 関連腎結核 [難渋症例から学ぶ診療のエッセンス (170)]. Web 医事新報, 2023;5156 : 10-11.

③ その他

- 1) 菊地栄次. 雑誌「泌尿器外科」とゴッドファーザー. 泌尿器外科, 2022;35(4) : 276.
- 2) 菊地栄次. 特集 ここまで来た! 腎盂・尿管癌診療——エキスパートが語る臨床の最前線 企画にあたって. 臨床泌尿器科, 2022;76(6) : 355.
- 3) 菊地栄次. 特集 おさえておくべき, clinical trial !—進行性尿路上皮癌編— 序文. 泌尿器外科, 2022;35(7) : 561.
- 4) 藤本清秀, 菊地栄次, 北村寛. 再発・転移性尿路上皮癌治療の Up-to-Date アベルマブ維持療法により変わるこれからの尿路上皮癌治療. 泌尿器外科, 2022;35(12) : 1239-1248.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Izawa N, Shiokawa H, Onuki R, Hamaji K, Morikawa K, Saji H, Ohashi H, Kasugai S, Hayakawa N, Ohara T, Sunakawa Y. The clinical utility of comprehensive measurement of autoimmune disease-related antibodies in patients with advanced solid tumors receiving immune checkpoint inhibitors: a retrospective study. ESMO Open, 2022;7(2) : 100415.
- 2) Omura Minami, Kikuchi Eiji, Shigeta Keisuke, Ogihara Koichiro, Hakozaki Kyohei, Hara Satoshi, Shirotake Suguru, Ide Hiroki, Yoshimine Shunsuke, Ohigashi Takashi, Mizuno Ryuichi, Oya Mototsugu. Potential therapeutic effects of adjuvant chemotherapy after neoadjuvant chemotherapy for locally advanced muscle-invasive bladder cancer. Japanese Journal of Clinical Oncology, 2022;52(4) : 388-396.
- 3) Shigeta Keisuke, Matsumoto Kazuhiro, Tanaka Nobuyuki, Mikami Shuji, Kosaka Takeo, Yasumizu Yota, Takeda Toshikazu, Mizuno Ryuichi, Kikuchi Eiji, Oya Mototsugu. Profiling the biological characteristics and transitions through upper tract tumor origin, bladder recurrence, and muscle-invasive bladder progression in upper tract urothelial carcinoma. International Journal of Molecular Sciences, 2022;23(9) : 5154.
- 4) Usuba Wataru, Marta Prieto-Vila, Yoshioka Yusuke, Takeshita Fumitaka, Yoshiike Miki, Sasaki Hideo, Yamamoto Yusuke, Kikuchi Eiji, Ochiya Takahiro. High-grade bladder cancer cells secrete extracellular vesicles containing miRNA-146a-5p and promotes angiogenesis. Journal of Extracellular Biology, 2022;1(8) : e47.

- 5) Shinoda Kazunobu, Hyodo Yoji, Oguchi Hideyo, Mikami Tetuo, Nishikawa Kenta, Sakurabayashi Kei, Yonekura Takashi, Aoki Yujiro, Itabashi Yoshihiro, Muramatsu Masaki, Kawamura Takeshi, Sakai Ken, Shishido Seiichiro. Outcome of ABO-incompatible kidney transplantation using a modified desensitization protocol without plasmapheresis. *International Journal of Urology*, 2022;29(9) : 1017-1025.
- 6) Miyake Makito, Kikuchi Eiji, Shinozaki Kenta, Piao Yi, Hayashi Nobuya, Koto Ryo, Jinushi Masahisa, Kobayashi Takashi. Real-world treatment patterns and clinical outcomes of Japanese patients with non-muscle invasive bladder cancer receiving intravesical bacillus Calmette-Guérin treatment. *International Journal of Urology*, 2022;29(10) : 1120-1129.
- 7) Ikenaga Jumpei, Aratake Satoe, Yoshida Kaoru, Yoshida Manabu. A novel role for ATP2B in ascidians: Ascidian-specific mutations in ATP2B contribute to sperm chemotaxis. *Journal of Experimental Zoology. Part B. Molecular and Developmental Evolution*, 2022;338(7) : 430-437.
- 8) Kojima Shigeki, Marui Yuhji, Shibagaki Yugo, Sakurada Tsutomu. Accidental removal of dialysis central venous catheter inserted for blood purification therapy: a single-center study. *Clinical and Experimental Nephrology*, 2022;26(12) : 1218-1222.
- 9) Shigeta Keisuke, Hasegawa Masanori, Hishiki Takako, Naito Yoshiko, Baba Yuto, Mikami Shuji, Matsumoto Kazuhiro, Mizuno Ryuichi, Miyajima Akira, Kikuchi Eiji, Saya Hideyuki, Kosaka Takeo, Oya Mototsugu. IDH2 stabilizes HIF-1 α -induced metabolic reprogramming and promotes chemoresistance in urothelial cancer. *The EMBO Journal*, 2023; : e110620.
- 10) Katayama Satoshi, Pradere Benjamin, Grossman Nico C, Potretzke Aaron M, Boorjian Stephen A, Ghoreifi Alireza, Daneshmand Sia, Djaladat Hooman, Sfakianos John P, Mari Andrea, Khene Zine-Eddine, D'Andrea David, Hayakawa Nozomi, Breda Alberto, Fontana Matteo, Fujita Kazutoshi, Antonelli Alessandro, van Doeveren Thomas, Steinbach Christina, Mori Keiichiro, Laukhtina Ekaterina, Rouprêt Morgan, Margulis Vitaly, Karakiewicz Pierre I, Araki Motoo, Compérat Eva, Nasu Yasutomo, Shariat Shahrokh F. Biological and prognostic implications of biopsy upgrading for high-grade upper tract urothelial carcinoma at nephroureterectomy. *International Journal of Urology*, 2023;30(1) : 63-69.
- 11) Grossmann Nico C, Soria Francesco, Juvet Tristan, Potretzke Aaron M, Djaladat Hooman, Ghoreifi Alireza, Kikuchi Eiji, Mari Andrea, Khene Zine-Eddine, Fujita Kazutoshi, Raman Jay D, Breda Alberto, Fontana Matteo, Sfakianos John P, Pfärl John L, Laukhtina Ekaterina, Rajwa Pawel, Pallau Maximilian, Poyet Cédric, Cacciamani Giovanni E, van Doeveren Thomas, Boormans Joost L, Antonelli Alessandro, Jamil Marcus, Abdollah Firas, Ploussard Guillaume, Heidenreich Axel, Storz Enno, Daneshmand Siamak, Boorjian Stephen A, Rouprêt Morgan, Rink Michael, Shariat Shahrokh F, Pradere Benjamin. Comparing oncological and perioperative outcomes of open versus laparoscopic versus robotic radical nephroureterectomy for the treatment of upper tract urothelial carcinoma: A multicenter, multinational, propensity score-matched analysis. *Cancers (Basel)*, 2023;15(5) : 1409.
- 12) Arita Yuki, Yoshida Soichiro, Shigeta Keisuke, Kwee Thomas C, Edo Hiromi, Okawara Naoko, Hashimoto Masahiro, Ishii Ryota, Ueda Ryo, Mikami Shuji, Fujiwara Motohiro, Waseda Yuma, Kikuchi Eiji, Fujii Yasuhisa, Jinzaki Masahiro. Diagnostic value of the vesical imaging-reporting and data system in bladder urothelial carcinoma with variant histology. *European Urology Oncology*, 2023;6(1) : 99-102.

② 症例報告

- 1) Miyauchi T, Terashita M, Ogata M, Murata M, Osako K, Imai N, Sakurai Y, Sasaki H, Ohashi Y, Ichida K, Shibagaki Y, Yazawa M. Renal hypouricemia in recipient with living kidney transplantation: a case report and literature review. *CEN Case Reports*, 2022;11(2) : 177-183.
- 2) Uematsu Hikaru, Shinoda Kazunobu, Saito Akinobu, Sakai Ken. Deep venous thrombosis in a kidney transplant recipient with COVID-19: a case report. *CEN Case Reports*, 2022;12(1) : 98-103.
- 3) Hayakawa Nozomi, Kikuchi Eiji. A case of pseudoprogression in avelumab maintenance therapy for metastatic bladder cancer. *IJU Case Reports*, 2023;6(1) : 5-7.

③ その他

- 1) Hayakawa Nozomi, Kikuchi Eiji. Editorial Comment from Dr Hayakawa and Dr Kikuchi to Bladder cancer prospective cohort study on high-risk non-muscle invasive bladder cancer after photodynamic diagnosis-assisted transurethral resection of the bladder tumor (BRIGHT study). *International Journal of Urology*, 2022;29(7) : 639-640.

学会発表

① 国内学会

- 1) 岩田鉄平, 早川望, 森本勇樹, 山田龍治, 蜂須賀智, 中澤龍斗, 篠田和伸, 丸井祐二, 菊地栄次. 陰茎折症の一例. 第31回日本性機能学会東部総会, 2022.
- 2) 菊地栄次, 早川望, 生澤竜, 小池淳樹. 泌尿器科医からみた尿細胞診標本採取の現状と課題. 第63回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2022.
- 3) 菊地栄次. 進行性尿路上皮癌のパラダイムシフト. 第290回日本泌尿器科学会東海地方会, 2022.
- 4) 森本勇樹, 篠田和伸, 大出創, 塚田光, 山田龍治, 西智弘, 早川望, 中澤龍斗, 丸井祐二, 菊地栄次. 片腎の腎細胞癌に対し, ex vivo partial nephrectomy 後に自家腎移植を施行した一例. 第37回腎移植・血管外科研究会, 2022.
- 5) 塚田光, 篠田和伸, 森本勇樹, 白井大介, 山田龍治, 西智弘, 早川望, 中澤龍斗, 丸井祐二, 菊地栄次. 尿管尿管吻合後の尿瘻遷延に対し無側孔尿管ステント留置が有効だった献腎移植後の一例. 第37回腎移植・血管外科研究会, 2022.
- 6) 篠田和伸. 腎移植の適応・不適応. 第67回日本透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 7) 山田龍治, 早川望, 森本勇樹, 塚田光, 白井大介, 岩田鉄平, 蜂須賀智, 中澤龍斗, 篠田和伸, 丸井祐二, 菊地栄次. 転移性膀胱癌の治療方針決定に遺伝子パネル検査が有用であった1例. 第31回日本がん転移学会学術集会・総会, 2022.
- 8) 川口皓平, 中澤龍斗, 大山慧, 田中邦英, 渡邊春花, 菊地栄次, 古田繁行. 血尿による尿路閉塞をきたした外傷性腎損傷の2例. 第31回日本小児泌尿器科学会総会, 2022.
- 9) 塚田光, 早川望, 山田龍治, 青木直人, 相田紘一郎, 中澤龍斗, 篠田和伸, 丸井祐二, 菊地栄次. 術前診断がされなかったT3腎盂癌を伴ったhigh risk 下部尿管癌の3例. 第9回泌尿器画像診断・治療技術研究会, 2022.
- 10) 込田みどり, 森本毅, 木村裕介, 和田慎司, 橋本一樹, 三村秀文, 與座直利, 薄場渉, 西智弘, 菊地栄次. 陰茎海綿体腫瘍の1例. 第58回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2022.
- 11) 佐々木雅英, 中澤龍斗, 清水嵩, 松原圭輔, 山田龍治, 塚田光, 與座直利, 青木直人, 西智弘, 相田紘一郎, 早川望, 篠田和伸, 丸井祐二, 菊地栄次. 先天性ゴナドトロピン単独欠損症に対してゴナドトロピン自己注射にて性腺機能の回復を認めた一例. 日本性機能学会第32回学術総会, 2022.
- 12) 佐藤好嗣, 松村かおり, 薄場渉, 関口善吉. 単腎の外傷によるpage kidney に対して開窓術が有効であった一例. 第65回日本泌尿器科学会神奈川地方会, 2022.
- 13) 佐々木雅英, 中澤龍斗, 清水嵩, 松原圭輔, 塚田光, 山田龍治, 與座直利, 青木直人, 西智弘, 相田紘一郎, 早川望, 篠田和伸, 丸井祐二, 菊地栄次. 両側副腎腺腫によるクッシング症候群を認めた小児の一例. 第65回日本泌尿器科学会神奈川地方会, 2022.
- 14) 吉田圭佑, 小島茂樹, 森久保悟, 小山哲平, 小松純, 野田竜之介, 友廣忠寿, 山川宙, 宮本雅仁, 丸井祐二, 櫻田勉. 当院におけるVAIVT モダリティの変化とその影響に関する検討. 第17回日本インターベンショナルネフロロジー学会学術集会, 2022.
- 15) 谷澤雅彦, 村田真理絵, 宮内隆政, 緒方聖友, 櫻井裕子, 斉藤由美子, 田中真純, 杉山彩, 平木幸治, 篠田和伸, 柴垣有吾. 82歳への腎移植. 第7回腎移植内科研究会, 2022.
- 16) 菊地栄次. 転移性尿路上皮癌治療のUpdate2022. 第81回日本癌学会学術総会, 2022.
- 17) 小松純, 野田竜之介, 吉田圭佑, 櫻田勉, 丸井祐二, 小島茂樹. 同一部位頻回穿刺により表在化動脈からの出血を繰り返した一例. 第26回日本透析アクセス医学会学術集会・総会, 2022.
- 18) 菊地栄次, 安井孝周, 賀本敏行. 専門医制度におけるNCDの活用状況と臓器がん登録としてのNCDの在り方. 第72回日本泌尿器科学会中部総会, 2022.
- 19) 松原圭輔, 篠田和伸, 白井大介, 佐々木秀郎, 丸井祐二, 櫻井裕子, 大迫希代美, 寺下真帆, 谷澤雅彦, 柴垣有吾, 菊地栄次. 聖マリアンナ医科大学病院における腎移植後のCOVID-19患者の重症化リスク因子の検討. 第58回日本移植学会総会, 2022.
- 20) 山田龍治, 早川望, 相田紘一郎, 中澤龍斗, 篠田和伸, 丸井祐二, 菊地栄次. 転移性尿路上皮癌に対するアベルマブ維持療法の初期経験. 第60回日本癌治療学会学術総会, 2022.
- 21) 早川望, 塚田光, 山田龍治, 青木直人, 相田紘一郎, 中澤龍斗, 篠田和伸, 丸井祐二, 菊地栄次. 当院における尿路上皮癌に対するエンホルツマブ ベドチン療法の初期経験. 日本泌尿器腫瘍学会第8回学術集会, 2022.
- 22) 永田政義, 菊地栄次, 神戸杏, 佐藤聖士, 大木美栄, 遠藤シェーラ, 梶田昌裕, 西山博之. 根治切除不能な尿路上皮癌患者を対象としたアベルマブ維持療法に関する使用成績調査中(中間報告). 日本泌尿器腫瘍学会第8回学術集会, 2022.
- 23) 茂田啓介, 松本一宏, 三上修治, 安水洋太, 田中伸之, 武田利和, 森田伸也, 小坂威雄, 水野隆一, 浅沼宏, 菊地栄次, 大家基嗣. 腎盂尿管癌術後の膀胱内再発及び筋層浸潤における分子サブタイプ別進展系統樹の作成. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022.

- 24) 菊地栄次, 早川望. 筋層非浸潤性膀胱癌に対する治療ストラテジーのオーバービュー. 第 60 回日本癌治療学会学術集会, 2022.
- 25) 菊地栄次, 早川望, 砂川優. 尿路上皮癌における個別化治療の現状と課題. 日本泌尿器腫瘍学会第 8 回学術集会, 2022.
- 26) 菊地栄次. 10 時代のリンパ節転移に対する治療戦略. 日本泌尿器腫瘍学会第 8 回学術集会, 2022.
- 27) 菊地栄次. 腎盂・尿管・膀胱癌取り扱い規約第 2 版の主たる改訂点: 臨床編. 日本泌尿器腫瘍学会第 8 回学術集会, 2022.
- 28) 早川望, 菊地栄次. Sarcomatoid および plasmacytoid variant を伴った尿路上皮癌にどう立ち向かうか. 第 87 回日本泌尿器科学会東部総会, 2022.
- 29) 柄澤宏至, 安水洋太, 田中伸之, 武田利和, 松本一宏, 森田伸也, 小坂威雄, 水野隆一, 浅沼宏, 弓削和之, 早川望, 砂川優, 菊地栄次, 大家基嗣. MEK 阻害剤 trametinib で長期間の奏効が得られた BRAF 変異陽性膀胱癌の一例. 第 87 回日本泌尿器科学会東部総会, 2022.
- 30) 菊地栄次. 専門医制度における NCD の活用状況と臓器がん登録としての NCD のあり方. 第 87 回日本泌尿器科学会東部総会, 2022.
- 31) 菊地栄次. 周術期補助療法を深堀する - 膀胱癌編 -. 第 87 回日本泌尿器科学会東部総会, 2022.
- 32) 佐々木雅英, 中澤龍斗, 清水嵩, 松原圭輔, 塚田光, 山田龍治, 與座直利, 青木直人, 西智弘, 相田紘一郎, 早川望, 篠田和伸, 丸井祐二, 菊地栄次. 先天性ゴナドトロピン単独欠損症の一例. 第 87 回日本泌尿器科学会東部総会, 2022.
- 33) 清水嵩, 早川望, 塚田光, 山田龍治, 青木直人, 相田紘一郎, 中澤龍斗, 篠田和伸, 丸井祐二, 菊地栄次. BCG 膀胱内注入療法により BCG 関連腎肉芽腫をきたした筋層非浸潤性膀胱癌の 1 例. 第 87 回日本泌尿器科学会東部総会, 2022.
- 34) 弓削和之, 安水洋太, 宮崎保匡, 山本喜啓, 菊地栄次, 飯沼誠一. レックリックハウゼン病を伴わない膀胱神経線維腫の 1 例. 第 87 回日本泌尿器科学会東部総会, 2022.
- 35) 松原圭輔, 早川望, 佐々木雅英, 塚田光, 山田龍治, 青木直人, 相田紘一郎, 中澤龍斗, 篠田和伸, 丸井祐二, 小池淳樹, 菊地栄次. 孤立性乳房転移を認めた腎盂癌の一例. 第 74 回西日本泌尿器科学会総会, 2022.
- 36) 塚田光, 早川望, 松原圭輔, 佐々木雅英, 山田龍治, 青木直人, 相田紘一郎, 中澤龍斗, 篠田和伸, 丸井祐二, 小池淳樹, 菊地栄次. 膣・陰唇に続発性乳房外パジェット病を呈した膀胱上皮内癌の 1 例. 第 74 回西日本泌尿器科学会総会, 2022.
- 37) 菊地栄次. 専門医制度における NCD の活用状況と臓器がん登録としての NCD のあり方. 第 74 回西日本泌尿器科学会総会, 2022.
- 38) 西智弘, 中澤龍斗, 佐々木雅英, 清水嵩, 松原圭輔, 塚田光, 山田龍治, 與座直利, 青木直人, 相田紘一郎, 早川望, 篠田和伸, 丸井祐二, 菊地栄次. 腫瘍性尿管閉塞に対する全長型金属尿管ステントとシリコン製尿管ステントの治療成績. 第 36 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 2022.
- 39) 吉岡まき, 栗原毅, 安達裕之, 菊地栄次. ソリウムレーザーによる経尿道的膀胱腫瘍一塊切除術 (THUEB-BT) の経験. 第 36 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会, 2022.
- 40) 早川望, 塚田光, 山田龍治, 青木直人, 相田紘一郎, 中澤龍斗, 篠田和伸, 丸井祐二, 菊地栄次. 尿路上皮癌に対するエンホルツマブペドチンの療法の初期経験. 第 96 回日本薬理学会年会, 2022.
- 41) 山田龍治, 早川望, 相田紘一郎, 中澤龍斗, 篠田和伸, 丸井祐二, 菊地栄次. 組織型と腫瘍免疫環境の経時的変化を評価した転移性膀胱癌の 1 例. 第 66 回日本泌尿器科学会神奈川地方会, 2023.
- 42) 篠田和伸, 武田弘幸, 櫻井裕子, 大迫希代美, 谷澤雅彦, 佐々木秀郎, 中澤龍斗, 柴垣有吾, 菊地栄次. 腎移植後に甲状腺乳頭癌が再発し、I-131 内用療法抵抗性の症例に対しレンパチニブを導入した経験. 第 56 回日本臨床腎移植学会, 2023.
- 43) 菊地栄次. ガイドラインのポイント解説 -筋層非浸潤性膀胱癌編-. 第 21 回泌尿器細胞診カンファレンス学術集会, 2023.
- 44) 薄場渉, 吉池美紀, 荒武里衣, 吉岡祐亮, 山田龍治, 早川望, 落谷孝弘, 菊地栄次. 膀胱がんにおける尿中エクソソームの表面抗原 CD55・CD9 と内包物質 miR-146a-5p のバイオマーカーとしての検討. 第 32 回泌尿器科分子・細胞研究会, 2023.
- 45) 中澤龍斗. 高齢者の LOH 症候群の診療を再考する 前立腺患者の LOH の治療について. 第 32 回日本性機能学会東部総会, 2023.
- 46) 西智弘, 中澤龍斗, 佐々木雅英, 清水嵩, 松原圭輔, 塚田光, 山田龍治, 與座直利, 青木直人, 相田紘一郎, 早川望, 篠田和伸, 丸井祐二, 菊地栄次. Expanded Prostate Cancer Index Composite (EPIC) を用いた鏡視下小切開拡大前立腺全的術後の性機能に関する検討. 第 32 回日本性機能学会東部総会, 2023.
- 47) 西川徹, 小島康幸, 月山秀一, 横田健一, 曾根正勝, 谷澤雅彦, 篠田和伸, 道下由紀子, 印牧義英, 津川浩一郎. 当院における副甲状腺異能亢進症に対する手術治療～院内連携なくして治療はできない～. 聖マリアンナ医科大学医学会第 83 回学術集会, 2023.
- 48) 蛭間弘光, 和田慎司, 縄田晋太郎, 橋本一樹, 横道憲幸, 久慈志保, 菊地栄次, 鈴木直, 三村秀文. Uterine STUMP with huge arteriovenous fistula treated surgically post embolization: a cased report. 第 51 回日本 IVR 学会総会, 2022.

② 国際学会

- 1) Marui Yuhji. The promotion for the transplantation and organ donation by the global virtual sports competition under the pandemic of COVID-19. The Transplantation Society of Australia and New Zealand 40th Annual Scientific Meeting, 2022.
- 2) Grande E, Galsky MD, Elzen RV, Banchereau R, Peterson M, Sedano C, Koeppen H, Li H, Bamias A, Arranz JA, Kikuchi E, Santis MD, Davis ID, Mellman I, Oh S, Williams P, Bernhard S, Lee C, Kockx M, Mariathasan S. PD-L1 Expression on immune cells by SP142 Co-Localises with dendritic cells and is associated with improved overall survival with atezolizumab in patients with untreated metastatic urothelial cancer (mUC). European Society For Medical Oncology Congress 2022, 2022.
- 3) Tzu-Ping Lin, Kanesvaran r, Kikuchi E, Kitamura H, Ku JH, Lee LS, Nishiyama H, Ng CF, Ng J, Poon D, Seo HK, Spiteri C, Tan EM, Tran B, Tsai YS. Variations in the risk stratification and management of non-muscle invasive bladder cancer: a physician survey in six Asia-Pacific territories. 19th Urological Association of Asia Congress, 2022.
- 4) Hayakawa Nozomi, Yamada Ryuji, Aratake Satoe, Yoshiike Miki, Usuba Wataru, Yoshioka Yusuke, Ochiya Takahiro, Kikuchi Eiji. CD55 positive exosomes as a novel urinary biomarker for bladder cancer. 19th Urological Association of Asia Congress, 2022.
- 5) Yamada Ryuji, Hayakawa Nozomi, Aida Koichiro, Nakazawa Ryuto, Shinoda Kazunobu, Marui Yuhji, Kikuchi Eiji. The influence of neoadjuvant chemotherapy on the incidence of venous thromboembolism in bladder cancer patients receiving radical cystectomy. 19th Urological Association of Asia Congress, 2022.
- 6) Morita Shinya, Kitaoka Sotaro, Takahashi Ryohei, Hasegawa Yasushi, Yamada Yohei, Shinoda Kazunobu, Yoshida Tadashi, Obara Hideaki, Asanuma Hiroshi, Nakagawa Ken. Our first experience of simultaneous liver and kidney transplantation. Transplantation Science Symposium, Asian Regional Meeting 2022, 2022.
- 7) Nishikawa Kenta, Shinoda Kazunobu, Yonekura Takashi, Maeda Maho, Sakurabayashi Kei, Aoki Yujiro, Itabashi Yoshihiro, Muramatsu Masaki, Kawamura Takeshi, Sakai Ken, Shishido Seiichiro. Choice of renal arterial anastomotic methods in kidney allografts with multiple renal arteries does not affect the recovery rate of renal plasma flow after kidney transplantation. Transplantation Science Symposium, Asian Regional Meeting 2022, 2022.
- 8) Marui Yuhji, Aoki Naoto, Matsubara Keisuke, Shimizu Takashi, Sasaki Masahide, Yamada Ryuji, Tsukada Hikaru, Yoza Naoto, Nishi Tomohiro, Aida Koichiro, Hayakawa Nozomi, Nakazawa Ryuto, Shinoda Kazunobu, Kikuchi Eiji. The characteristics of renal cell carcinoma patients who received dialysis and/or kidney transplant. Transplantation Science Symposium, Asian Regional Meeting 2022, 2022.
- 9) Yonekura Takashi, Shinoda Kazunobu, Nishikawa Kenta, Maeda Maho, Sakurabayashi Kei, Aoki Yujiro, Itabashi Yoshihiro, Muramatsu Masaki, Kawamura Takeshi, Sakai Ken, Shishido Seiichiro. Recovery rate of renal plasma flow after kidney transplantation did not differ in the choice of renal arterial anastomotic site. Transplantation Science Symposium, Asian Regional Meeting 2022, 2022.
- 10) Shinoda Kazunobu, Sakurabayashi Kei, Oguchi Hideyo, Arai Taichi, Nishikawa Kenta, Yonekura Takashi, Itabashi Yoshihiro, Muramatsu Masaki, Kawamura Takeshi, Shishido Seiichiro, Sakai Ken. Affectors related to worse kidney allograft survival in chronic active antibody-mediated rejection. Transplantation Science Symposium, Asian Regional Meeting 2022, 2022.
- 11) Tamaki Satoshi, Shinoda Kazunobu, Shimoda Masayuki, Morita Shinya, Asanuma Hiroshi, Oya Mototsugu. Recombinant thrombomodulin alpha attenuates kidney graft damage after long cold ischemia time in a rat kidney transplant model. Transplantation Science Symposium, Asian Regional Meeting 2022, 2022.
- 12) Pallauf M, D'Andrea D, König F, Laukthina E, Yanagisawa T, Rouprêt M, Daneshmand S, Djaladat H, Ghoreifi A, Soria F, Fujita K, Boorjian SA, Potretzke AM, Mari A, Campi R, Roumiguié R, Kikuchi E, Antonelli A, Bianchi A, Khene Z, Sfakianos, JP, Jamil M, Boormans JL, Raman JD, Grossmann NC, Breda A, Heidenreich A, Giudice FD, Singla N, Karakiewicz PI, Shariat SF, Pradere B. Diagnostic accuracy of clinical lymph node staging for upper tract urothelial cancer patients- a multicenter, retrospective, observational study. 23rd Annual Meeting of the Society of Urologic Oncology, 2022.

- 13) Pallauf M, von Deimling M, Laukthina E, Kawada T, Martin SF, Boorjian SA, Potretzke AM, Daneshmand S, Djaladat H, Ghoreifi A, Soria F, Gontero P, Kikuchi E, Hayakawa N, Fujita K, Sfakianos JP, Ploussard G, Roumiguié M, Antonelli A, Rouprêt M, Khene Z, Mari A, Campi R, Breda A, Heidenreich A, Boormans JL, Raman JD, Abdollah F, Grossman NC, Rink M, Karakiewicz PI, Abufaraj M, Babjuk M, Singla N, Shariat SF, Pradere B. Comparison of neoadjuvant and adjuvant chemotherapy in upper tract urothelial cancer- results from a propensity-score matched multi-center patient cohort. 23rd Annual Meeting of the Society of Urologic Oncology, 2022.
 - 14) Lee LS, Kanesvaran R, Kikuchi E, Kitamura H, Ku JH, Lin T, Nishiyama H, Ng ACF, Ng J, Poon DNC, Seo HK, Shamaileh RR, Spiteri C, Tan EM, Tran B, Tsai Y. A need for clear definitions and improved management for BCG-unresponsive tumors in Asia-Pacific. European Society For Medical Oncology Asia Congress 2022, 2022.
 - 15) Ravindran Kanesvaran, Kikuchi E, Kitamura H, Ku JH, Lee LS, Lin T, Nishiyama H, Poon DNC, Seo HK, Shamaileh RR, Spiteri C, Tan EM, Tran B, Tsai Y. Use of neoadjuvant chemotherapy for non-metastatic muscle-invasive bladder cancer in Asia-Pacific. European Society For Medical Oncology Asia Congress 2022, 2022.
 - 16) Hayakawa N, Kaneko G, Oyama M, Kikuchi E. The association between response to enfortumab vedotin therapy and primary tumor location in Japanese urothelial carcinoma patients. European Society For Medical Oncology Asia Congress 2022, 2022.
 - 17) Kikuchi Eiji. Integrating immuno-oncology approaches in the early MIUC treatment pathway. European Society For Medical Oncology Asia Congress 2022, 2022.
- ③ その他
- 1) 石井健夫, 丸井祐二, 鶴岡佳代, 田山宏典, 大山邦雄. 早期抗ウイルス薬投与により COVID-19 感染から安定的に推移した、免疫低下状態患者の 2 例. 第 102 回神奈川腎研究会 総会・研究集会, 2022.
 - 2) 青木直人, 相田紘一郎, 佐々木雅英, 清水嵩, 松原圭輔, 塚田光, 山田龍治, 與座直利, 西智弘, 早川望, 中澤龍斗, 篠田和伸, 丸井祐二, 菊地栄次. IgG4 関連硬化性胆管炎に発症した右尿管癌の一例. 第 99 回神奈川県泌尿器科医会, 2022.
 - 3) ◎清水紗智, 方波見卓行, 山本雄太郎, 長坂智裕, 竹本彩夏, 池田七海, 小柳壮史, 薄場渉, 山崎有人, 鈴木貴, 曾根正勝, 笹野公伸. メトピロンからオシロドロスタットへの変更を試みた副腎性クッシング症候群の 1 例. 第 34 回間脳・下垂体・副腎系研究会, 2023.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著	2	12
	解説又は総説	8	
	症例報告		3
	その他	4	1
学会発表	国内学会	47	1
	国際学会		17
	その他	3	

産婦人科学

著書

- 1) 古山紗也子, 鈴木直. 4 ART 関連技術の応用 1. がん・生殖医療 スキルアップ ART ラボ ー生殖補助医療の必須知識とテクニック 2022;1(1):169-172.
- 2) 鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対する妊孕性温存の診療ー本邦におけるがん・生殖医療の課題 第 37 回日本小児外科学会卒後教育セミナーテキスト 2022;:91-96.
- 3) 長谷川潤一. 第 2 章 母体の管理 II. 産科合併症 (妊娠に伴って発症した併発症) 臍帯異常 改訂 4 版 MFICU マニュアル 2022; (4):163-169.
- 4) 洞下由記, 鈴木直. D 妊孕性保存法 1 がん・生殖医療 生殖医療ポケットマニュアル第 2 版 2022; (2):381-387.
- 5) 長谷川潤一. 第 2 章 産科救急についての疑問 Q11 母体死亡があった場合の適切な対応を教えてください 現場の疑問に答える 周産期医療 Q&A 2022; (1):237-243.
- 6) 洞下由記, 鈴木直. 第 29 章 若年性乳癌の臨床 3. 妊孕性温存 乳癌診療 state of the art 科学に基づく最新診療 2022; (1):607-610.
- 7) 久慈志保. Q30 卵巣がんにおいて、G-CSF 一次予防投与を前提に増強したがん薬物療法を行うことは有用か? G-CSF 適正使用ガイドライン 2022; (2):120-123.
- 8) 久慈志保. Q39 発熱性好中球減少症の発症リスクと関連する患者背景因子は何か? G-CSF 適正使用ガイドライン 2022; (2):152-153.
- 9) 久慈志保. Q11 卵巣がんのがん薬物療法において、G-CSF の一次予防投与は有用か?
Q12 子宮頸がんのがん薬物療法において、G-CSF の一次予防投与は有用か?
Q13 子宮体がんのがん薬物療法において、G-CSF の一次予防投与は有用か? G-CSF 適正使用ガイドライン 2022; (2):57-63.
- 10) 長谷川潤一. Q&A プロウペスを用いた計画分娩 (社会的適応について) は? 社会的適応の計画分娩 分娩の整理・病理に基づいた頸管熟化と分娩誘発法 2022; (1):88-89.
- 11) 長谷川潤一. Q&A 妊娠 22 週までのプレグランディン, 22 週以降のオキシトシン 分娩の生理・病態に基づいた頸管熟化と分娩誘発法 2022; (1):128-129.
- 12) 鈴木直. 事例 5 子宮頸がん, 29 歳・女性-聖マリアンナ医科大学チームの取り組み
ケアのアウトライン AYA 世代のがんサポーターケア・緩和ケア 2022;:159-160.
- 13) 澤田紫乃. 1 術後後遺症 : 卵巣機能不全に伴う合併症 AYA 世代のがんサポーターケア・緩和ケア 2022;:161-164.
- 14) 遠藤拓. 2 術後後遺症 : 排尿障害等の泌尿器関連障害 AYA 世代のがんサポーターケア・緩和ケア 2022;:164-168.
- 15) 横道憲幸, 瀧音綾子. 3 術後後遺症 : リンパ浮腫 AYA 世代のがんサポーターケア・緩和ケア 2022;:168-173.
- 16) 久慈志保. 4 セクシュアリティ・性と生殖 AYA 世代のがんサポーターケア・緩和ケア 2022;:173-178.
- 17) 今井悠. 5 アピアランスケア AYA 世代のがんサポーターケア・緩和ケア 2022;:179-182.
- 18) 大原樹. 6 がんに罹患したことへのスティグマにどのように対応していくべきか AYA 世代のがんサポーターケア・緩和ケア 2022;:183-185.
- 19) 杉浦貴子. 7 就労の問題 AYA 世代のがんサポーターケア・緩和ケア 2022;:186-191.
- 20) 山谷佳子. 8 治療後の人生を支える心理支援のあり方 AYA 世代のがんサポーターケア・緩和ケア 2022;:191-196.
- 21) 洞下由記. 9 ピアサポート AYA 世代のがんサポーターケア・緩和ケア 2022;:196-201.
- 22) 長谷川潤一. Q14. 全治胎盤・低置胎盤で出血が多い際の対応は? 研修ノート No. 110 帝王切開 Q&A 私はこうしている 2023;1(1):75-81.
- 23) Yodo Sugishita, Nao Suzuki. Methods of Ovarian Tissue Cryopreservation: Vitriification Principles and Practice of Ovarian Tissue Cryopreservation and Transplantation 2022;:99-107.
- 24) Junichi Hasegawa, Chika Homma. Cases Associate with Umbilical cord Cerebral Palsy : Perspective, and Clinical Relation to Perinatal Complications/Events in Japan 2022;:175-183.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 仲村将光. 【子宮収縮抑制薬の長期投与はやめられるのか?-切迫早産管理のエビデンスと実践-】切迫早産の病態仮説と管理方法の実際 当院が行ってきた管理方法とその効果(1). 産婦人科の実際, 2022;71(7):731-741.
- 2) 澤田紫乃, 杉下陽堂, 鈴木直. 早発卵巣不全患者の ART による双胎妊娠・分娩後に骨粗鬆症と診断した 1 例. 日本 IVF 学会雑誌, 2023;26(1):16-21.

- 3) 澤田紫乃, 杉下陽堂, 鈴木直. 当院における子宮体がん治療後、外科的閉経におけるエストロゲン補充療法施行率と骨密度検査施行率の変遷. 日本がん・生殖医療学会誌, 2023;6(1) : 25-29.
- 4) 磯崎太一, 沼崎玲子, 新井努, ルイズ横田奈朋, 大原樹, 佐々木康, 加藤一喜, 松島隆, 平澤猛, 川野藍子, 土谷聡, 森岡幹, 松永竜也, 中田さくら, 小野瀬亮, 田島敏久, 石本人士, 中野眞佐男. 令和3年神奈川産科婦人科学会婦人科悪性腫瘍登録集計報告. 神奈川産科婦人科学会誌, 2023;59(2) : 23-31.

② 総説又は症例解説

- 1) 長谷川潤一. Quiz!教えて!はせじゅん先生 産科のCase Study ビジュアル解説(第34回) まっすぐいかないで!. ペリネイタルケア, 2022;41(4) : 321-325.
- 2) 長谷川潤一. 【Late preterm・Early termを展望する】産科編 産科合併症・合併症妊娠の最適な分娩時期 臍帯卵膜付着・前置血管. 周産期医学, 2022;52(4) : 500-503.
- 3) 西村陽子. 産科救急疾患における他科との連携 産科危機的出血に対するIVRの役割と限界. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 2022;57(4) : 615-618.
- 4) 出浦伊万里. 【婦人科腹腔鏡下手術TLH/LM/LCの基本とコツ】全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH) TLHにおけるトラブルシューティング. 産科と婦人科, 2022;89(4) : 373-379.
- 5) 前沢忠志, 池田智明, 鈴木直. ホルモン受容体陽性乳がん患者に対する妊孕性温存療法におけるアロマターゼ阻害薬を併用した調節卵巣刺激の意義. 臨床婦人科産科, 2022;76(4) : 149-154.
- 6) 長谷川潤一. Quiz!教えて!はせじゅん先生 産科のCase Study ビジュアル解説(第35回) 忘れたところにやってくる. ペリネイタルケア, 2022;41(5) : 417-421.
- 7) 高江正道, 鈴木直. 今日の話 分子標的治療薬がもつ卵巣毒性に関する基礎的検証. 産婦人科の実践, 2022;71(5) : 572-582.
- 8) 古谷菜摘. 微細超音波ドプラによる胎盤の超音波病理学的評価. 超音波 TECHNO, 2022;34(3) : 76-80.
- 9) 長谷川潤一. Quiz!教えて!はせじゅん先生 産科のCase Study ビジュアル解説(第36回) いっただすの. ペリネイタルケア, 2022;41(6) : 521-525.
- 10) 長谷川潤一. 周産期におけるポイントオブケア超音波. 映像情報 Medical, 2022;54(6) : 14-19.
- 11) 長谷川潤一. Quiz!教えて!はせじゅん先生 産科のCase Study ビジュアル解説(第37回) たまごパワー. ペリネイタルケア, 2022;41(7) : 633-637.
- 12) 長谷川潤一. Quiz!教えて!はせじゅん先生 産科のCase Study ビジュアル解説(第38回) こぶ. ペリネイタルケア, 2022;41(8) : 737-741.
- 13) 金森玲, 高江正道, 近藤春裕, 鈴木直. 【ここまで進んだ産婦人科関連の予防医学】腫瘍 遺伝性乳癌卵巣癌に対するリスク低減効果 予防的卵巣卵管切除術(解説). 産科と婦人科, 2022;89(8) : 805-810.
- 14) 長谷川潤一. Quiz!教えて!はせじゅん先生 産科のCase Study ビジュアル解説(第39回) たすけて〜. ペリネイタルケア, 2022;41(9) : 841-845.
- 15) 小田原圭, 洞下由記, 鈴木直. 【AYA世代の女性ヘルスケア対応と実際】生殖機能維持と保存 卵巣組織凍結と卵巣組織移植. 産婦人科の実践, 2022;71(10) : 1133-1141.
- 16) 古谷菜摘. FGRと臍帯の異常. 産科と婦人科, 2022;76(9) : 861-868.
- 17) 古谷菜摘. 【胎児発育のすべて-FGRから巨大児まで】原因からみた胎児発育の異常 FGRと臍帯の異常. 臨床婦人科産科, 2022;76(9) : 861-868.
- 18) 長谷川潤一. QUIZ!教えて!はせじゅん先生 産科のCase Study ビジュアル解説(第40回) 気をつけていても. ペリネイタルケア, 2022;41(10) : 953-957.
- 19) 長谷川潤一. Quiz!教えて!はせじゅん先生 産科のCase Study ビジュアル解説(第41回) 妊娠中に使ってはいけません. ペリネイタルケア, 2022;41(11) : 1053-1058.
- 20) 仲村将光. 産科危機的出血に対する治療戦略の意思決定とその実践 産科危機的出血に対する止血戦略 産科医の視点から(解説). 分娩と麻酔, 2022;(104) : 51-57.
- 21) 仲村 将光, 佐治 正太, 八幡 将喜. 【「ダメージコントロール」の現在地】患者背景に応じたダメージコントロールの現在地 妊婦・周産期患者におけるダメージコントロール(解説). 救急医学, 2022;46(11) : 1359-1364.
- 22) 長谷川潤一. Quiz!教えて!はせじゅん先生 産科のCase Study ビジュアル解説(第42回) 妊婦ののどいた. ペリネイタルケア, 2022;41(12) : 1157-1163.
- 23) 鈴木直. 本邦における小児・AYA世代がん患者(女性)に対するがん・生殖医療の現状と課題. 癌の臨床, 2023;66(6) : 397-402.
- 24) 長谷川潤一, 古谷菜摘. 高解像度のハイエンド装置を産科診療に活かす. 産科と婦人科, 2023;90(2) : 133-137.

- 25) 長谷川潤一. Quiz!教えて!はせじゅん先生 産科の Case Study ビジュアル解説(第 39 回) 母児を助ける! シリーズ 3~母児にやさしい分娩. ペリネイタルケア, 2023;42(3) : 1-5.
- 26) 仲村将光. 【妊産婦死亡の現状と削減に向けた対策】劇症型 A 群溶連菌感染症. 周産期医学, 2023;53(3) : 395-398.
- 27) 岩端秀之, 鈴木直. AYA 世代女性のがん患者さんの妊孕性温存. 思春期学, 2023;41(1) : 63-68.

③ 症例報告

- 1) 岩端秀之, 近藤春裕, 岩端由里子, 遠藤拓, 今井悠, 高江正道, 鈴木直. Two-step 子宮鏡下手術によって子宮温存が可能であった子宮頸管妊娠の 1 例. 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌, 2022;38(1) : 152-157.
- 2) 本間千夏, 西村陽子, 伊藤 薫, 古谷 菜摘, 倉崎 昭子, 近藤 春裕, 長谷川 潤一, 鈴木 直. 妊娠中期の一時的な羊水過少が肺低形成を惹起したと考えられる 1 例. 超音波医学, 2022;49(4) : 351-355.
- 3) 中村健太郎, 出浦伊万里, 永澤侑子, 戸澤晃子, 高江正道, 大原樹, 鈴木直. 腹腔鏡手術後単純 X 線検査で腹腔内異物と消化管異物の鑑別に苦慮した 1 例. 神奈川産科婦人科学会誌, 2022;59(1) : 2-7.
- 4) 本間千夏, 西村陽子, 古谷菜摘, 近藤春裕, 長谷川潤一, 鈴木直. 胎盤娩出困難例に対する SMI を用いた癒着胎盤と胎盤遺残の鑑別. 超音波医学, 2023;50(1) : 81-84.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Yuriko Iwahata, Junichi Hasegawa, Chika Homma, Hideyuki Iwahata, Natsumi Furuya, Haruhiro Kondo, Nao Suzuki. Perinatal Risk Factors for the Development of Neonatal Intraventricular Hemorrhage in Preterm Infants. Clinical and experimental obstetrics & gynecology, 2022;49(5) : DOI-10.31083/j.ceog4905101.
- 2) Tadashi Maezawa, Nao Suzuki, Hiroki Takeuchi, Chikako Kiyotani, Keishiro Amano, Dai Keino, Hiroyuki Okimura, Mitsuru Miyachi, Maki Goto, Seido Takae, Akihito Horie, Junko Takita, Haruhiko Sago, Masahiro Hirayama, Tomoaki Ikeda, Kimikazu Matsumoto. Identifying Issues in Fertility Preservation for Childhood and Adolescent Patients with Cancer at Pediatric Oncology Hospitals in Japan. Journal of Adolescent and Young Adult Oncology, 2022;11(2) : 156-162.
- 3) Lingbo Meng, Kazuhiro Kawamura, Nobuhito Yoshioka, Midori Tamura, Sayako Furuyama, Mariko Nakajima, Yuki Suzuki-Takahashi, Hideyuki Iwahata, Seido Takae, Yodo Sugishita, Yuki Horage-Okutsu, Nao Suzuki. Learning Curve of Surgeons Performing Laparoscopic Ovarian Tissue Transplantation in Women with Premature Ovarian Insufficiency: A Statistical Process Control Analysis. Journal of minimally invasive gynecology, 2022;29(4) : 559-966.
- 4) Takae Seido, Furuta Shigeyuki, Iwahata Hideyuki, Iwahata Yuriko, Keino Dai, Kanamori Ryo, Oyama Kei, Tanaka Kunihide, Shiraishi Eriko, Suzuki Yuki, Sugishita Yodo, Horage Yuki, Sakamoto Miki, Mori Tetsuya, Kitagawa Hiroaki, Suzuki Nao. Cryopreservation of paediatric ovarian tissue with an updated version of the Edinburgh criteria for appropriate patient selection. Reproductive biomedicine online, 2022;44(4) : 667-676.
- 5) Naoki Okamoto, Mariko Nakajima, Yodo Sugishita, Seido Takae, Yuki Horage, Nao Suzuki. Shortening the duration between ovarian removal and cryopreservation helps preserve fertility and maintain ovarian reserve after transplantation in mice. F&S Science, 2022;3(2) : 140-147.
- 6) Mila Maidarti, Wataru Tarumi, Seido Takae, Budi Wiweko, Nao Suzuki. Paclitaxel is evidence to reduce growing ovarian follicle growth in mice model study. Toxicology in Vitro, 2022; : DOI-10.1016/j.tiv.2022.105386.
- 7) Seido Takae, Keiichi Kato, Chie Watanabe, Kazuko Nara, Tomoe Koizumi, Kiyotaka Kawai, Kuniaki Ota, Yasushi Yumura, Akiko Yabuuchi, Akira Kuwahara, Tatsuro Furui, Yasushi Takai, Minoru Irahara, Nao Suzuki. A practical survey of fertility-preservation treatments in the startup phase in Japan. The journal of obstetrics and gynaecology research, 2022;48(5) : 1061-1075.
- 8) Shinji Katsuragi, Hiroaki Tanaka, Junichi Hasegawa, Akiko Kurasaki, Masamitsu Nakamura, Naohiro Kanayama, Masahiko Nakata, Eijiro Hayata, Takeshi Murakoshi, Jun Yoshimatsu, Kazuhiro Osato, Kayo Tanaka, Tomoaki, Oda, Akihiko Sekizawa, Takako Shimaoka, Isamu Ishiwata, Jun Takahashi & Tomoaki Ikeda on behalf of the Maternal Death Exploratory Committee in Japan and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists. Perinatal outcome in case of maternal death for cerebrovascular acute disorders: a nationwide study in Japan. The Journal of maternal-fetal medicine, 2022;35(13) : 2429-2434.
- 9) Yuki Okutsu-Horage, Hideyuki Iwahata, Yuki Suzuki-Takahashi, Yodo Sugishita, Seido Takae, Nao Suzuki. Clinical outcome of embryo cryopreservation in Japanese breast cancer patients: pregnancy rates after transfer of thawed embryos. Journal of assisted reproduction and genetics, 2022;39(8) : 1769-1777.

- 10) Yuki Okutsu-Horage, Hideyuki Iwahata, Yuki Suzuki-Takahashi, Yodo Sugishita, Seido Takae, Nao Suzuki. Correction to: Clinical outcome of embryo cryopreservation in Japanese breast cancer patients: pregnancy rates after transfer of thawed embryos. *Journal of assisted reproduction and genetics*, 2022;39(9) : 2201-2201.
- 11) Seido Takae, Ikkei Oyama, Mukyo Abe, Hideo Sugo, Yumari Kusano, Yoichiro Imaoka, Yuka Makino, Arisa Ukai, Yuko Mitsuyama, Chiaki Fujino, Rieka Miyamoto, Manami Yoshimura, Kaoru Yamada, Nao Suzuki. An adolescent and young adult (AYA) cancer education initiative aimed at healthcare students in Japan. *International Journal of Clinical Oncology*, 2022; : DOI-10.1007/s10147-022-02261-2.
- 12) Mikiko Asai-Sato, Nao Suzuki, Hitomi Sakai, Yoshio Itani, Shinya Sato, Masayuki Futagami, Yoshio Yoshida. Perceptions and practice patterns of cancer survivorship care among Japanese gynecologic oncologists: The JGOG questionnaire survey. *Journal of Gynaecologic Oncology*, 2022;34(1) : e10--.
- 13) Shiho Kuji, Akira Endo, Manabu Kubota, Atsushi Uekawa, Fumi Kawakami, Yoshiki Mikami, Junki Koike, Nao Suzuki. Immunosenescence and specificity of insulinoma-associated protein 1 (INSM1) for neuroendocrine neoplasms of the uterine cervix. *Journal of Gynecologic Oncology*, 2022; : DOI-10.3802/jgo.2023.34.e1.
- 14) Junichi Hasegawa, Hiroaki Tanaka, Shinji Katsuragi, Masafumi Nii, Akihiko Sekizawa, Isamu Ishiwata, Tomoaki Ikeda. Maternal death due to serious group A streptococcal toxic shock syndrome reduced after the coronavirus disease pandemic in Japan. *The journal of maternal-fetal & neonatal medicine : the official journal of the European Association of Perinatal Medicine, the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies, the International Society of Perinatal Obstetricians*, 2022;35(26) : 10451-10454.
- 15) Masahiro Nakao, Yukiko Nanba, Asumi Okumura, Junichi Hasegawa, Satoshi Toyokawa, Kiyotake Ichizuka, Naohiro Kanayama, Shoji Satoh, Nanako Tamiya, Akihito Nakai, Keiya Fujimori, Tsugio Maeda, Hideaki Suzuki, Mitsutoshi Iwashita, Akira Oka, Tomoaki Ikeda. Fetal heart rate evolution and brain imaging findings in preterm infants with severe cerebral palsy. *American journal of obstetrics and gynecology*, 2022; : DOI-10.1016/j.ajog.2022.11.1277.
- 16) Lingbo Meng, Yodo Sugishita, Sandy Nishimura, Atsushi Uekawa, Yuki Suzuki-Takahashi, Nao Suzuki. Investigation of the optimal culture time for warmed bovine ovarian tissues before transplantation. *Biology of reproduction*, 2022;107(5) : 1319-1330.
- 17) Tadashi Maezawa, Seido Takae, Hiroki Takeuchi, Motoki Takenaka, Kuniaki Ota, Akihito Horie, Tatsuya Suzuki, Yasushi Takai, Fuminori Kimura, Tatsuro Furui, Tomoaki Ikeda, Nao Suzuki. A Nationwide Survey Aimed at Establishing an Appropriate Long-Term Storage and Management System for Fertility Preserving Specimens in Japan. *Journal of Adolescent and Young Adult Oncology*, 2022; : DOI-10.1089/jayao.2021.0209.
- 18) Kosuke Shigematsu, Chikako Shimizu, Tatsuro Furui, Shinsuke Kataoka, Kiyotaka Kawai, Toru Kishida, Akira Kuwahara, Naoko Maeda, Azumi Makino, Naoki Mizunuma, Ken-Ichiro Morishige, Takako Eguchi Nakajima, Kuniaki Ota, Masanori Ono, Naomi Shiga, Yuma Tada, Seido Takae, Nobuko Tamura, Chie Watanabe, Yasushi Yumura, Nao Suzuki, Yasushi Takai. Current Status and Issues of the Japan Oncofertility Registry. *Journal of Adolescent and Young Adult Oncology*, 2022; : DOI-10.1089/jayao.2022.0110. .
- 19) Takayoshi Nakamura, Nabeel Kajihara, Naoki Hama, Takuto Kobayashi, Ryo Otsuka, Nanumi Han, Haruka Wada, Yoshinori Hasegawa, Nao Suzuki, Ken-Ichiro Seino. Interleukin-34 cancels anti-tumor immunity by PARP inhibitor. *Journal of Gynaecologic Oncology*, 2022; : DOI-10.3802/jgo.2023.34.e25.
- 20) Toshiaki Yasuoka, Noriyuki Iwama, Kuniaki Ota, Junichi Hasegawa, Hirohito Metoki, Masatoshi Saito, Takashi Sugiyama, Nao Suzuki. Pregnancy outcomes among female childhood, adolescent, and young adult cancer survivors assessed using internet-based nationwide questionnaire surveys in Japan. *The journal of maternal-fetal & neonatal medicine : the official journal of the European Association of Perinatal Medicine, the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies, the International Society of Perinatal Obstetricians*, 2022;35(26) : 10667-10675.
- 21) Seido Takae, Yuriko Iwahata, Yodo Sugishita, Hideyuki Iwahata, Ryo Kanamori, Eriko Shiraishi, Kaoru Ito, Yuki Suzuki, Yoshiko Yamaya, Kunihide Tanaka, Kei Oyama, Dai Keino, Kentaro Nakamura, Kei Odawara, Yuki Horage, Lingbo Meng, Arby Igualada, Ahmad Mohd Faizal, Ludmilla Ogouma Aworet, Shigeyuki Furuta, Miki Sakamoto, Tetsuya Mori, Hiroaki Kitagawa, Nao Suzuki. Survey of understanding and awareness of fertility preservation in pediatric patients: Is conversation about fertility preservation unpleasant for pediatric patients?. *Front Endocrinol (Lausanne)*, 2023;2022(13) : DOI-10.3389/fendo.2022.1074603.

- 22) Reiko Suzuki, Yuki Horage-Okutsu, Tai Kawahara, Kentaro Nakamura, Eriko Shiraishi, Hideyuki Iwahata, Yuki Suzuki-Takahashi, Yodo Sugishita, Seido Takae, Nao Suzuki. The effect of aromatase inhibitor on controlled ovarian stimulation for oocyte cryopreservation in adolescent and young cancer patients. The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2023; : DOI-10.1111/jog.15535.
- 23) Atsuo Itakura, Satoh Shoji, Aoki Shigeru, Fukushima Kotaro, Hasegawa Junichi, Hyodo Hironobu, Yoshimasa Kamei, Kondoh Eiji, Makino Shintaro, Matsuoka Ryu, Morikawa Mamoru, Nagamatsu Takeshi, Nakata Masahiko, Katsuhiko Naruse, Nishigori Hidekazu, Nishiguchi Tomizo, Obata-Yasuoka Mana, Ohno Yasumasa, Oura Kuniaki, Shimoya Koichiro, Shiozaki Arihiro, Suzuki Shunji, Tanaka Kanji, Yoshida Shiro, Kudo Yoshiki, Maeda Tsugio, Shozu Makio. Guidelines for obstetrical practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2020 edition. The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2023;49(1) : 5-53.
- 24) Hideyuki Iwahata, So-Youn Kim, Yuriko Iwahata, Nao Suzuki, Teresa K. Woodruff. Thyroid hormone triiodothyronine does not protect ovarian reserve from DNA damage induced by X-ray and cisplatin. Journal of assisted reproduction and genetics, 2023; : DOI-10.1007/s10815-023-02740-z.
- 25) Tomomi Matsushita, Tatsuya Arakaki, Akihiko Sekizawa, Junichi Hasegawa, Hiroaki Tanaka, Shinji Katsuragi, Masahiko Nakata, Takeshi Murakoshi, Tomoaki Ikeda, Isamu Ishiwata. Pregnancy-related maternal deaths due to cardiovascular diseases in Japan from 2010 to 2019: an analysis of maternal death exploratory committee data. The journal of maternal-fetal & neonatal medicine : the official journal of the European Association of Perinatal Medicine, the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies, the International Society of Perinatal Obstetricians, 2023;36(1) : DOI-10.1080/14767058.2023.2175207.
- 26) Ryota Shirai, Tomoo Osumi, Dai Keino, Kazuhiko Nakabayashi, Toru Uchiyama, Masahiro Sekiguchi, Mitsuteru Hiwatari, Masanori Yoshida, Kaoru Yoshida, Yuji Yamada, Daisuke Tomizawa, Seido Takae, Nobutaka Kiyokawa, Kimikazu Matsumoto, Takako Yoshioka, Kenichiro Hata, Toshinori Hori, Nao Suzuki, Motohiro Kato. Minimal residual disease detection by mutation-specific droplet digital PCR for leukemia/lymphoma. International Journal of Hematology, 2023;117(6) : 910-918.
- 27) Yoshio Itani, Hitomi Sakai, Tetsutaro Hamano, Mikiko Asai-Sato, Masayuki Futagami, Masaki Fujimura, Yoichi Aoki, Nao Suzuki, Yoshio Yoshida, Takayuki Enomoto. Comparison of older and younger patients with ovarian cancer: A post hoc study (JGOG3016-A3) of the treatment strength and prognostic outcomes of conventional or dose-dense chemotherapy. The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2023;49(5) : 1400-1411.

② 総説又は症例解説

- 1) Masanori Ono, Kimikazu Matsumoto, Narikazu Boku, Nobuharu Fujii, Yumi Tsuchida, Tatsuro Furui, Miyuki Harada, Yoshinobu Kanda, Akira Kawai, Mitsuru Miyachi, Atsuko Murashima, Robert Nakayama, Hiroyuki Nishiyama, Chikako Shimizu, Kazuhiko Sugiyama, Yasushi Takai, Keishi Fujio, Ken-Ichiro Morishige, Yutaka Osuga, Nao Suzuki. Correction to: Indications for fertility preservation not included in the 2017 Japan Society of Clinical Oncology Guideline for Fertility Preservation in Pediatric, Adolescent, and Young Adult Patients treated with gonadal toxicity, including benign diseases. International Journal of Clinical Oncology, 2022;27(4) : 825-826.
- 2) H Woopen, J Sehouli, A Davis, Y C Lee, P A Cohen, A Ferrero, N Gleeson, A Jhingran, Y Kajimoto, J Mayadev, M P Barretina-Ginesta, S Sundar, N Suzuki, E van Dorst, F Joly. GCIG-Consensus guideline for Long-term survivorship in gynecologic Cancer: A position paper from the gynecologic cancer Intergroup (GCIG) symptom benefit committee. Cancer treatment reviews, 2022;107 : DOI-10.1016/j.ctrv.2022.102396.
- 3) Samantha J. Mitchell, Georgia Ngo, Kimberly A. Maurel, Junichi Hasegawa, Tatsuya Arakaki, Yaakov Melcer, Ron Maymon, Françoise Vendittelli, Alireza A. Shamshirsaz, Hadi Erfani, Scott A. Shainker, Antonio F. Saad, Marjorie C. Treadwell, Ashley S. Roman, Joanne L. Stone, Daniel L. Rolnik. Timing of birth and adverse pregnancy outcomes in cases of prenatally diagnosed vasa previa: a systematic review and meta-analysis. American Journal of Obstetrics & Gynecology, 2022;227(2) : 173-181.
- 4) Ahmad Mohd Faizal, Yodo Sugishita, Yuki Suzuki-Takahashi, Hideyuki Iwahata, Seido Takae, Yuki Horage-Okutsu, Nao Suzuki. Twenty-first century oocyte cryopreservation-in vitro maturation of immature oocytes from ovarian tissue cryopreservation in cancer patients: A systematic review. Women's Health, 2022;18 : DOI-/10.1177/17455057221114269.

③ 症例報告

- 1) Yuriko Iwahata, Hideyuki Iwahata, Junichi Hasegawa, Chika Homma, Yoko Nishimura, Haruhiro Kondo, Nao Suzuki. Hemothorax after fetal pleural effusion-thoracoamniotic shunting procedure due to transient myeloproliferative disorder. Case Reports in Perinatal Medicine, 2022;11(1) : DOI-10.1515/crpm-2021-0032.
- 2) Kaoru Ito, Junichi Hasegawa, Yoko Nishimura, Natsumi Furuya, Chika Homma, Haruhiro Kondo, Nao Suzuki. Eventration of the Diaphragm in Trisomy 18: Providing Information and Helping Choose a Treatment and Management Plan with an Exact Diagnosis. Donald School Journal of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology, 2022;16(2) : 160-162.
- 3) Chika Homma, Junichi Hasegawa, Natsumi Furuya, Yuriko Iwahata, Nao Suzuki. Placental Mesenchymal Dysplasia without Severe Maternal-fetal Complications. Donald School Journal of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology, 2022;16(2) : 157-159.
- 4) Yoko Nishimura, Chika Homma, Chihiro Hirama, Yuriko Iwahata, Hideyuki Iwahata, Natsumi Furuya, Haruhiro Kondo, Junichi Hasegawa, Nao Suzuki. Fetal Intra-abdominal Umbilical Vein Varix: Prenatal Sonographic Diagnosis and Delivery Management. Donald School Journal of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology, 2022;16(2) : 153-156.
- 5) Reiko Suzuki, Natsumi Furuya, Junichi Hasegawa, Chika Homma, Yuriko Iwahata, Nao Suzuki. Ultrasonographic findings of placental abruption observed on superb microvascular imaging. Taiwanese journal of obstetrics & gynecology, 2022;61(4) : 713-716.
- 6) Natsumi Furuya, Junichi Hasegawa, Chika Homma, Tai Kawahara, Yuriko Iwahata, Hideyuki Iwahata, Haruhiro Kondo, Masatomo Doi, Junki Koike, Nao Suzuki. Novel ultrasound assessment of placental pathological function using superb microvascular imaging. The journal of maternal-fetal & neonatal medicine : the official journal of the European Association of Perinatal Medicine, the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies, the International Society of Perinatal Obstetricians, 2022;35(16) : 3036-3039.

④ その他

- 1) Junichi Hasegawa, Natsumi Furuya, Masatomo Doi, Junki Koike, Chika Homma, Mayumi Nieda, Yoko Nishimura, Nao Suzuki. Histological Assessment of the Placenta Accreta Spectrum Diagnosed with a 33-MHz Linear Probe during Cesarean Section. Ultrasound in medicine & biology, 2022;48(6) : 1151-1156.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎牧雅子, 遠藤拓, 津田しずか, 小川裕子, 小林香織, 得平麻菜, 渡邊弘子, 佐久間保代, 吉村ゆかり, 遠山左知子, 古江たか子, 鈴木直. 女性泌尿器外来開設に伴う看護師の関わりについての検討. 第15回日本骨盤臓器脱手術学会学術集会, 2022.
- 2) ◎遠藤拓, 黒川一平, 中川智絵, 岡田義之, 野村由紀子, 鈴木直, 嘉村康邦. 骨盤臓器脱術後に発症した完全膀胱行内反の一例. 第15回日本骨盤臓器脱手術学会学術集会, 2022.
- 3) ◎新井正美, 近藤春裕. JOHBOC 全国登録事業報告. 第2回 JOHBOC 学術総会, 2022.
- 4) ◎鈴木直. 本邦におけるがん・生殖医療の現状と課題—リウマチ学との接点は?. 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 5) ◎八幡将喜, 西村陽子, 石井雅人, 岩端由里子, 本間千夏, 古谷菜摘, 近藤春裕, 長谷川潤一, 鈴木直. 妊娠中に診断した閉塞型単一臍帯動脈. 日本超音波医学会第95回学術集会, 2022.
- 6) ◎福田雄介, 太田邦明, 泊博幸, 菊池裕幸, 沖津撰, 水野里志, 沖村匡史, 藪内晶子, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 洞下由記, 鈴木直. 妊孕性温存療目的とした精子・精巣内精子凍結保存の実施状況～ Web による全国調査から～ (厚生労働科学研究補助金(がん政策研究事業) 研究班(20EA1004)). 第63回日本卵子学会学術集会, 2022.
- 7) ◎水野里志, 泊博幸, 沖津撰, 菊池裕幸, 沖村匡史, 古山紗也子, 藪内晶子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. 本邦における妊孕性温存療法に使用する凍結保存タンク管理の実施状況調査 (厚生労働科学研究補助金(がん政策研究事業) 研究班(20EA1004)). 第63回日本卵子学会学術集会, 2022.
- 8) ◎沖村匡史, 泊博幸, 沖津撰, 水野里志, 菊池裕幸, 藪内晶子, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. 妊孕性温存を目的とした受精卵(胚)の凍結保存に関する実施状況調査 (厚生労働科学研究補助金(がん政策研究事業) 研究班(20EA1004)). 第63回日本卵子学会学術集会, 2022.

- 9) ◎古山紗也子, 洞下由記, 泊博幸, 沖津撰, 水野里志, 菊地裕幸, 沖村匡史, 藪内晶子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 鈴木直. 本邦の妊孕性温存療法における卵巣組織凍結実施状況調査 (厚生労働科学研究補助金 (がん政策研究事業) 研究班 (20EA1004)). 第 63 回日本卵子学会学術集会, 2022.
- 10) ◎菊地裕幸, 泊博幸, 沖津撰, 水野里志, 沖村匡史, 藪内晶子, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. 胚培養士を対象とした妊孕性温存療法における未受精卵子凍結保存実施状況調査 (厚生労働科学研究補助金 (がん政策研究事業) 研究班 (20EA1004)). 第 63 回日本卵子学会学術集会, 2022.
- 11) ◎高江正道, 鈴木直. 卵巣組織凍結・移植の軌跡と最新知見. 第 63 回日本卵子学会学術集会, 2022.
- 12) ◎鈴木直. 本邦におけるがん・生殖医療の現状と今後の課題. 第 3 回仙台東部がんセミナー〜テーマ「妊孕性温存療法」〜, 2022.
- 13) ◎鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対する妊孕性温存の診療ー本邦におけるがん・生殖医療の課題. 2022 年度第 1 回神奈川県がん相談員研修会, 2022.
- 14) ◎宮下紗季, 生澤竜, 島田直樹, 大川千絵, 小池淳樹, 伊藤薫, 鈴木直. 浸潤性小葉癌が卵巣に転移した 1 例. 第 63 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2022.
- 15) ◎山中弘之, 大熊克彰, 大原 樹, 横道憲幸, 細沼信示, 久慈志保, 戸澤晃子, 鈴木 直. ソフトブランを用いた子宮頸管細胞診が子宮頸部上皮内腺癌の診断に寄与した一例. 第 63 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2022.
- 16) ◎平間千尋, 細沼信示, 佐藤 匠, 山中弘之, 大熊克彰, 長谷川潤一, 鈴木 直. 意識障害を伴った常位胎盤早期剥離の一例. 第 143 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会, 2022.
- 17) ◎美馬康幸, 伊藤薫, 原田賢, 安藤歩, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 仲村将光, 田村みどり, 鈴木直. 稀な起因菌 (Edwardsiella tarda) により腹腔内膿瘍をきたした一例. 第 143 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会, 2022.
- 18) ◎高江正道, 鈴木直. がん・生殖医療ネットワークの現状と今後の展望ー生殖医療の立場から. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 19) ◎劉璟壬, 伊藤薫, 大原樹, 河津理, 山本紗季, 飯田瀬里香, 今井悠, 金森玲, 遠藤拓, 竹内淳, 横道憲幸, 久慈志保, 近藤春裕, 長谷川潤一, 鈴木直, 柳澤信之, 小池淳樹, 戸澤晃子. 腹腔鏡手術で診断及び治療に至った大網妊娠の 1 例. 第 436 回神奈川産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 20) ◎石井雅人, 細沼信示, 武永智, 大熊克彰, 長谷川潤一, 鈴木直. 電解質異常を伴った妊娠時一過性甲状腺中毒症の一例. 第 436 回神奈川産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 21) ◎本間千夏, 長谷川潤一, 西村陽子, 古谷菜摘, 岩端由里子, 近藤春裕, 鈴木直. 新型コロナウイルス感染症に対する第 1 回緊急事態宣言による母体搬送・早産率の変化. 第 58 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2022.
- 22) ◎岩部恵子, 長谷川潤一, 西村陽子, 本間千夏, 古谷菜摘, 仲村将光, 鈴木直. 前置胎盤の帝王切開中の多量出血の予測に関する検討. 第 58 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2022.
- 23) ◎佐治正太, 長谷川潤一, 古谷菜摘, 岩端由里子, 本間千夏, 西村陽子, 鈴木直. 前置血管の診断・管理に関する検討. 第 58 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2022.
- 24) ◎長谷川潤一. 頸管熟化から分娩誘発の実際. 第 58 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 2022.
- 25) ◎横道憲幸, 久慈志保, 武永智, 今井悠, 遠藤拓, 金森玲, 竹内淳, 大原樹, 戸澤晃子, 鈴木 直. 当院における子宮頸部細胞診 AGC 症例の検討. 第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2022.
- 26) ◎竹内淳, 久慈志保, 武永智, 今井悠, 遠藤拓, 金森玲, 横道憲幸, 大原樹, 戸澤晃子, 鈴木直. 当院における高齢婦人科癌患者の治療成績に関する報告. 第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2022.
- 27) ◎遠藤拓, 久慈志保, 武永智, 今井悠, 金森玲, 竹内淳, 横道憲幸, 大原樹, 戸澤晃子, 鈴木直. 他科連携により外科的切除後に腔原発脱分化型脂肪肉腫の診断に至った一例. 第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2022.
- 28) ◎鈴木直. 婦人科腫瘍医が知っておきたい妊孕性温存療法その 2. 第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2022.
- 29) ◎鈴木直. 化学療法前の卵巣がん・卵管癌・腹膜癌患者に対する腹水濾過濃縮再静注法 (CART) の有効性を検討するランダム化第 II 相試験について. 第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2022.
- 30) ◎鈴木直. トピックス (がん生殖) 2. がん生殖ネットワークについて. 第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2022.
- 31) ◎土田 優美, 原田美由紀, 庄田 宏文, 後藤 文音, 鈴木 直, 村島 温子, 大須賀 穰, 藤尾 圭志. 膠原病領域における妊孕性温存療法の実態. 第 7 回日本母性内科学会総会・学術集会, 2022.
- 32) ◎高江正道, 鈴木直. Oncofertility における妊孕性温存療法. 第 40 回日本受精着床学会総会・学術講演会, 2022.
- 33) ◎沖津撰, 泊博幸, 水野里志, 藪内晶子, 菊地裕幸, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. 妊孕性温存療法への胚培養士の関わりに関する全国調査 (厚生労働科学研究補助金 (がん政策研究事業) 研究班 (20EA1004)). 第 40 回日本受精着床学会総会・学術講演会, 2022.

- 34) ◎沖村匡史, 泊博幸, 沖津撰, 水野里志, 菊地裕幸, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. 本邦における妊孕性温存を目的とした受精卵(胚)凍結保存に関する実施状況調査(厚生労働科学研究補助金(がん政策研究事業)研究班(20EA1004)). 第40回日本受精着床学会総会・学術講演会, 2022.
- 35) ◎菊地裕幸, 泊博幸, 沖津撰, 水野里志, 沖村匡史, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. 妊孕性温存療法における未受精卵凍結保存実施状況の全国調査(厚生労働科学研究補助金(がん政策研究事業)研究班(20EA1004)). 第40回日本受精着床学会総会・学術講演会, 2022.
- 36) ◎服部葵, 中尾朋子, 木田尚子, 好村正博, 下井華代, 馬場真有美, 杉下陽堂, 洞下由記, 高江正道, 鈴木直, 岡田英孝. 他院での卵巣組織凍結・移植後に当院でARTにより妊娠に至った1例. 第40回日本受精着床学会総会・学術講演会, 2022.
- 37) ◎高江正道, 鈴木直. 医学部早期体験実習におけるマタニティ実習の成果と課題. 第54回日本医学教育学会大会, 2022.
- 38) ◎長谷川潤一. J-MELSの普及と産科危機的出血死の減少. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 39) ◎上川篤志, 孟令博, 杉下陽堂, 高江正道, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 白血病モデルマウスを用いた卵巣組織凍結における微小残存病変(MRD)の評価. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 40) ◎洞下由記, 岩端秀之, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 高江正道, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. AYA世代造血管腫瘍患者における妊孕性温存療法84例の検討. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 41) ◎田村みどり, 仲村将光, 近藤春裕, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 妊産褥婦の睡眠時無呼吸に関する観察研究. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 42) ◎竹内淳, 久慈志保, 佐治正太, 武永智, 今井悠, 遠藤拓, 金森玲, 横道憲幸, 大原樹, 長谷川潤一, 戸澤晃子, 鈴木直. 進行・再発婦人科癌患者の腸閉塞に対する緩和的治療に関する検討. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 43) ◎八幡将喜, 久慈志保, 武永智, 金森玲, 今井悠, 遠藤拓, 竹内淳, 横道憲幸, 大原樹, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 婦人科悪性腫瘍におけるリンパ節転移の術前評価に対するFDG-PET/CTの有用性. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 44) ◎岩端秀之, 高江正道, 杉下陽堂, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 卵巣移植における微小残存病変再移植のリスク低減を目指した人工卵巣の開発について. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 45) ◎近藤春裕. 日本子宮鏡研究会 子宮鏡ハンズオンセミナー 最新の子宮鏡器具に慣れ親しむ. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 46) ◎武永智, 大原樹, 金森玲, 今井悠, 遠藤拓, 竹内淳, 横道憲幸, 久慈志保, 出浦伊万里, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 当院のmyChoice診断システムの臨床実装. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 47) ◎遠藤拓, 澤田紫乃, 杉下陽堂, 五十嵐豪, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 当院における女性泌尿器外来開設と骨盤Cine MRI検査の導入について—2症例の検討から. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 48) ◎本間千夏, 佐々木貴充, 平間千尋, 古谷菜摘, 岩端由里子, 岩端秀之, 倉崎昭子, 西村陽子, 近藤春裕, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 切迫早産に対する塩酸リトドリンのshort term tocolysis trialの効果に関する前方視的コホート研究. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 49) ◎長谷川潤一. 妊産婦死亡の現状と再発防止. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 50) ◎長谷川潤一. 児頭最大周囲径の位置を正確に評価するためには? ~急速遂娩のための鉗子・吸引シミュレーション講習~. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 51) ◎近藤春裕, 野村弘行, 関根正幸, 隅丸拓, 吉田裕章, 新井正美, 中村清吾, 鈴木直. 本邦におけるRRS0の現状とオカルト癌に対する対応について. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 52) ◎杉下陽堂, 鈴木由妃, 岩端秀之, 高江正道, 洞下由記, 右田王介, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 早発卵巣不全患者における染色体異常に関する後方視的検討. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 53) ◎石井雅人, 金森玲, 大原樹, 八幡将喜, 武永智, 今井悠, 竹内淳, 横道憲幸, 久慈志保, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 子宮体癌術後の難治性リンパ嚢胞に対してリンパ管造影を行い, 改善を認めた2例. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 54) ◎鈴木由妃, 杉下陽堂, 孟令博, 上川篤志, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 未受精卵凍結におけるミトコンドリア動態の検討. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 55) ◎孟令博, 杉下陽堂, 鈴木由妃, 上川篤志, 岩端秀之, 高江正道, 洞下由記, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 卵巣組織移植術前における融解卵巣組織の至適培養時間の検討. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 56) ◎金森玲, 高江正道, 岩端由里子, 鈴木由妃, 岩端秀之, 杉下陽堂, 洞下由記, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 妊娠成績と原疾患予後調査による卵巣組織移植の有効性と安全性の検証. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 57) ◎前沢忠志, 高江正道, 竹中基記, 太田邦明, 堀江昭史, 鈴木達也, 高井泰, 木村文則, 古井辰郎, 鈴木直, 池田智明. 妊孕性温存検体の長期保管管理体制の必要性について—安全性の担保を志向して. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.

- 58) ◎仲村将光, 長谷川潤一, 関沢明彦, 桂木真司, 田中博明, 西村陽子, 中田雅彦, 村越毅, 金山尚裕, 石渡勇, 池田智. タイプ別に見た羊水塞栓症の発症時期に関する研究. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 59) ◎山本紗希, 西村陽子, 古谷菜摘, 美馬康幸, 本間千夏, 岩端秀之, 倉崎昭子, 近藤春裕, 仲村将光, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 一次産科医療施設で発症した母体急変のバイタルサインと産褥搬送のタイミングに関する検討. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 60) ◎岩端秀之, 鈴木直. AYA世代女性のがん患者さんの妊孕性温存. 第41回日本思春期学会総会・学術集会, 2022.
- 61) ◎遠藤拓, 黒川一平, 中川智絵, 岡田義之, 重田美和, 野村由紀子, 鈴木直, 嘉村康邦. 当院における85歳以上の高齢者の骨盤臓器脱管理について. 第29回日本排尿機能学会, 2022.
- 62) ◎長谷川潤一. ディベートプログラム1「胎児心拍数モニタリングの5段階評価は是か非か?」非の立場から. 第44回日本母体胎児医学会学術集会, 2022.
- 63) ◎仲村将光. 切迫早産の病態仮説を考慮した管理の実際と効果. 第44回日本母体胎児医学会学術集会, 2022.
- 64) ◎山本紗希, 古谷菜摘, 北村卓也, 仲村将光, 長谷川潤一, 鈴木直. 双角子宮の子宮破裂を繰り返した一症例. 第44回日本母体胎児医学会学術集会, 2022.
- 65) ◎古谷菜摘, 長谷川潤一, 土居正知, 仲村将光, 小池淳樹, 鈴木直. 胎児発育不全をきたした胎盤病理の出生前超音波ドブラ診断. 第44回日本母体胎児医学会学術集会, 2022.
- 66) ◎北村卓也, 古谷菜摘, 山本紗希, 仲村将光, 長谷川潤一, 鈴木直. 胎児心拍数陣痛図の所見に比し新生児の状態が悪かった症例の検討. 第44回日本母体胎児医学会学術集会, 2022.
- 67) ◎佐治正太, 仲村将光, 古谷菜摘, 本間千夏, 西村陽子, 長谷川潤一, 鈴木直. 妊娠高血圧腎症に周産期心筋症を発症した一例. 第44回日本母体胎児医学会学術集会, 2022.
- 68) ◎高江正道, 鈴木直. 本邦における小児・AYA世代がん患者に対する妊孕性温存療法の現状. 第58回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2022.
- 69) ◎鈴木直. 本邦におけるAYA世代がん患者に対するがん・生殖医療の現状と課題. チームで考える大腸がん治療講演会, 2022.
- 70) ◎田村みどり, 近藤春裕, 大原樹, 高江正道, 戸澤晃子, 鈴木直. 腹腔鏡手術用小径開創器の有用性の検討. 第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2022.
- 71) ◎石井雅人, 金森玲, 大原樹, 今井悠, 遠藤拓, 竹内淳, 横道憲幸, 久慈志保, 近藤春裕, 戸澤晃子, 鈴木直. 審査腹腔鏡により臨床的侵入奇胎と診断した一例. 第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2022.
- 72) ◎伊藤滉一郎, 細田真希, 高江正道, 鈴木直, 塚田孝祐. 近赤外光干渉断層計による卵巣組織内原始卵胞の高空間分解能イメージング. 生体医工学シンポジウム2022, 2022.
- 73) ◎戸澤晃子. 子宮頸がんの予防と治療～最近の話題～. 第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2022.
- 74) ◎中村健太郎, 永澤侑子, 金森玲, 横道憲幸, 高江正道, 大原樹, 近藤春裕, 鈴木直, 戸澤晃子. 子宮内膜ポリープの術前診断で子宮鏡手術を行い子宮内膜異型増殖症と診断された8症例の検討. 第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2022.
- 75) ◎鈴木直. 小児・AYA世代がん患者等に対する妊孕性温存に関する国の研究促進事業の現状と課題. 第21回生殖バイオロジー東京シンポジウム, 2022.
- 76) ◎大木美里, 本間千夏, 北村卓也, 古谷菜摘, 岩端由里子, 岩端秀之, 西村陽子, 近藤春裕, 高江正道, 長谷川潤一, 鈴木直. 産褥期に急性腎機能障害を来し血液透析導入となった2症例. 第437回神奈川県産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 77) ◎長谷川潤一. 大学病院の妊婦健診の中での各種出生前検査の提供. 日本超音波医学会第34回関東甲信越地方会学術集会, 2022.
- 78) ◎遠藤拓, 澤田紫乃, 岩端秀之, 杉下陽堂, 五十嵐豪, 久慈志保, 大原樹, 近藤春裕, 鈴木直. cine MRI検査を用いた新たな骨盤臓器脱診断法について—2症例の検討から. JSAWI 2022, 2022.
- 79) ◎河津理, 金森玲, 大原樹, 遠藤拓, 竹内淳, 横道憲幸, 成木佐瑛子, 藤川あつ子, 西尾美佐子, 久慈志保, 近藤春裕, 戸澤晃子, 小池淳樹, 三村秀文, 鈴木直. 術前の画像診断が治療方針の決定に有用となった、異所性妊娠との鑑別を要した臨床的侵入奇胎の一例. JSAWI 2022, 2022.
- 80) ◎石井明里, 細沼信示, 石井雅人, 武永智, 大熊克彰, 長谷川潤一, 鈴木直. 帝王切開癒痕部妊娠の子宮内容除去術後の多量出血に対し, 子宮動脈塞栓術を施行し奏効した一例. 第144回関東連合産科婦人科学会学術集会, 2022.
- 81) ◎横道憲幸, 久慈志保, 河津理, 山本紗希, 伊藤薫, 飯田瀬理香, 遠藤拓, 竹内淳, 大原樹, 鈴木直. 当院の10年間にける子宮頸部細胞診AGC症例の検討. 第31回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会／第36回関東臨床細胞学会学術集会・第39回神奈川県臨床細胞学会学術集会, 2022.
- 82) ◎河津理, 竹内淳, 山本紗希, 伊藤薫, 飯田瀬理香, 遠藤拓, 横道憲幸, 久慈志保, 大原樹, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 診断に苦慮した腹膜偽粘液腫の一例. 第144回関東連合産科婦人科学会学術集会, 2022.

- 83) ◎水野里志, 泊博幸, 沖津撰, 菊地裕幸, 沖村匡史, 古山紗也子, 藪内晶子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. 妊孕性温存療法に使用する凍結保存タンクの管理に関する調査 厚生労働科学研究補助金(がん政策研究事業)研究班(20EA1004). 第25回日本IVF学会学術集会, 2022.
- 84) ◎佐藤美紀子, 高橋俊文, 太田邦明, 小宮ひろみ, 岩佐武, 荻島創一, 水野聖士, 鈴木直. 第二がん予防に対する女性小児・AYA がんサバイバーの意識と行動: ウェブアンケート調査. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022.
- 85) ◎織田克利, 藤原寛行, 高橋伸卓, 坂田純, 種市明代, 池田正恵, 都茜, 三橋暁, 小林陽一, 山下博, 鈴木直, 秋山梓, 徳永英樹, 田中尚武, 三上幹男. 進行・再発子宮体癌におけるがん関連遺伝子解析 ～多施設共同臨床研究(ECGA study)～. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022.
- 86) ◎洞下由記, 古山紗也子, 泊博幸, 沖津撰, 水野里志, 菊地裕幸, 沖村匡史, 藪内晶子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 鈴木直. 本邦の妊孕性温存療法における卵巣組織凍結実施調査(厚労科研究班 20EA1004). 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022.
- 87) ◎鈴木直. 本邦における小児・AYA 世代がん患者等に対するがん・生殖医療の現状と課題. 日本泌尿器腫瘍学会第8回学術集会, 2022.
- 88) ◎久慈志保, 原田美由紀, 吉岡範人, 梶山広明, 佐藤豊実, 三上幹男, 生水真紀夫, 榎本隆之, 大須賀穰, 鈴木直. 卵巣上皮性境界悪性腫瘍に対する妊孕性温存手術の生命・妊娠予後についての全国調査. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022.
- 89) ◎鈴木直. 本邦におけるがん・生殖医療の現状と今後の課題ーがんとの共生における妊孕性温存. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022.
- 90) ◎鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の現状と課題. 第55回日本小児内分泌学会学術集会, 2022.
- 91) ◎福田雄介, 太田邦明, 泊博幸, 菊地裕幸, 沖津撰, 水野里志, 沖村匡史, 藪内晶子, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 洞下由記, 鈴木直. 小児・AYA 世代男性がん患者の妊孕性温存療法としての精子・精巣内精子凍結保存～全国調査からの実態と問題点～(厚生労働科学研究補助金(がん政策研究事業)研究班(20EA1004)). 第67回日本生殖医学会学術講演会・総会, 2022.
- 92) ◎洞下由記, 岩端秀之, 小田原圭, 橋場萌香, 出田莉央, 松山夏美, 中嶋真理子, 古山紗也子, 鈴木由紀, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. がん患者における妊孕性温存凍結胚の妊娠成績. 第67回日本生殖医学会学術講演会・総会, 2022.
- 93) ◎鈴木直. がん・生殖医療におけるトピックスと今後の課題. 第67回日本生殖医学会学術講演会・総会, 2022.
- 94) ◎水野里志, 泊博幸, 沖津撰, 菊地裕幸, 沖村匡史, 古山紗也子, 藪内晶子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. 妊孕性温存療法に使用する凍結保存タンク管理の実施状況調査(厚生労働科学研究補助金(がん政策研究事業)研究班(20EA1004)). 第67回日本生殖医学会学術講演会・総会, 2022.
- 95) ◎菊地裕幸, 泊博幸, 沖津撰, 水野里志, 沖村匡史, 藪内晶子, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. 妊孕性温存療法における未受精卵子凍結およびIVM実施状況の全国調査(厚生労働科学研究補助金(がん政策研究事業)研究班(20EA1004)). 第67回日本生殖医学会学術講演会・総会, 2022.
- 96) ◎沖村匡史, 泊博幸, 沖津撰, 水野里志, 菊地裕幸, 藪内晶子, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. 本邦の妊孕性温存療法としての胚(受精卵)凍結保存に関する実施状況調査報告(厚生労働科学研究補助金(がん政策研究事業)研究班(20EA1004)). 第67回日本生殖医学会学術講演会・総会, 2022.
- 97) ◎泊博幸, 沖津撰, 水野里志, 沖村匡史, 藪内晶子, 菊地裕幸, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. 本邦における妊孕性温存療法の実施状況と胚培養士の関わりに関する調査(厚生労働科学研究補助金(がん政策研究事業)研究班(20EA1004)). 第67回日本生殖医学会学術講演会・総会, 2022.
- 98) ◎古山紗也子, 洞下由記, 泊博幸, 沖津撰, 水野里志, 菊地裕幸, 沖村匡史, 藪内晶子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 鈴木直. がん患者における卵巣組織凍結に対する実態調査(厚生労働科学研究補助金(がん政策研究事業)研究班(20EA1004)). 第67回日本生殖医学会学術講演会・総会, 2022.
- 99) ◎杉本公平, 正木希世, 竹川悠起子, 鈴木啓介, 新屋芳里, 加藤佑樹, 大坂晃由, 岩端威之, 小泉智恵, 白石絵莉子, 前沢忠志, 谷垣伸治, 岡田弘, 鈴木直. がん・生殖医療における里親制度・特別養子縁組制度の普及に関する研究. 第67回日本生殖医学会学術講演会・総会, 2022.
- 100) ◎戸澤晃子, 中村勝, 原勝洋, 永澤侑子, 久慈志保, 大原樹, 大熊克彰, 小泉宏隆, 小池淳樹, 木口一成, 鈴木直. 当院におけるASC-H症例の臨床病理学的検討. 第61回日本臨床細胞学会秋期大会, 2022.
- 101) ◎荻野正宗, 矢嶋祥英, 沖津駿介, 宇杉美由紀, 早川智絵, 大熊克彰, 相田芳夫. 卵管原発発癌肉腫の一例. 第61回日本臨床細胞学会秋期大会, 2022.
- 102) ◎高江正道, 鈴木直. 卵巣組織凍結(採取)・移植における内視鏡手術の役割. 第45回日本産婦人科手術学会, 2022.
- 103) ◎遠藤拓, 中川智絵, 岡田義之, 野村由紀子, 鈴木直, 嘉村康邦. 骨盤臓器脱術後に発症した完全膀胱内反の一例. 第37回日本女性医学学会学術集会, 2022.

- 104) ◎石井明里, 澤田紫乃, 遠藤拓, 杉下陽堂, 五十嵐豪, 鈴木直. ジエノゲスト 0.5mg/日 (0.25mg×2/日) の内服で改善した若年の月経困難症 2 例. 第 37 回日本女性医学学会学術集会, 2022.
- 105) ◎長谷川潤一. 改めて考える胎盤: 診断と治療. 第 30 回日本胎盤学会学術集会/第 40 回日本絨毛性疾患研究会, 2022.
- 106) ◎高江正道, 鈴木直. 小児患者における卵子凍結・卵巣組織凍結. 第 64 回日本小児血液・がん学会, 2022.
- 107) ◎久慈志保. 静岡発婦人科悪性腫瘍診療 地域一日本一そして未来へ!. 令和 4 年度静岡県産婦人科医会・静岡産科婦人科学会臨時総会 子宮がん集団検診医師研修会, 2022.
- 108) ◎長谷川潤一. 分娩室での超音波 Focused assessment with sonography for Obstetrics (FASO). 第 126 回日本産科麻酔学会学術集会, 2022.
- 109) ◎長谷川潤一, 瀧田寛子, 伊賀健太郎, 大宮久美. 助産における超音波活用. 第 126 回日本産科麻酔学会学術集会, 2022.
- 110) ◎飯田瀬里香, 大原樹, 大木美里, 中村貴香, 遠藤拓, 竹内淳, 横道憲幸, 久慈志保, 近藤春裕, 高江正道, 長谷川潤一, 戸澤晃子, 鈴木直. 子宮内反症を契機に診断された子宮体癌の 1 例. 第 387 回四水会, 2022.
- 111) 田中邦英, 古田繁行, 古谷菜摘, 本間千夏, 西村陽子, 後藤海人, 森内美希, 廣瀬あかね, 北東功, 長谷川潤一. 胎児嚢胞穿刺ドレナージを施行した肝嚢胞の一例. 第 19 回日本胎児治療学会学術集会, 2022.
- 112) ◎白石絵莉子, 高江正道, 中村健太郎, 伊藤薫, 岡本愛光, 鈴木直. イマチニブの卵巣毒性に関する検証. 第 43 回日本臨床薬理学会学術集会, 2022.
- 113) ◎中村健太郎, 高江正道, 白石絵莉子, 鈴木直. PARP 阻害薬の性腺毒性に関する検証. 第 43 回日本臨床薬理学会学術集会, 2022.
- 114) ◎鈴木直. 本邦におけるがん・生殖医療の現状と課題-エンブリオロジストの役割は?. 第 28 回日本臨床エンブリオロジスト学会ワークショップ・学術集会, 2023.
- 115) ◎沖村匡史, 泊博幸, 沖津撰, 水野里志, 菊地裕幸, 藪内晶子, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. 胚培養士を対象とした妊孕性温存療法における未受精卵・受精卵 (胚) 凍結保存実施状況調査. 第 28 回日本臨床エンブリオロジスト学会ワークショップ・学術集会, 2023.
- 116) ◎古山紗也子, 洞下由記, 水野里志, 菊地裕幸, 沖村匡史, 藪内晶子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 泊博幸, 沖津撰, 鈴木直. 本邦の卵巣組織凍結に関する実態調査. 第 28 回日本臨床エンブリオロジスト学会ワークショップ・学術集会, 2023.
- 117) ◎泊博幸, 沖津撰, 水野里志, 沖村匡史, 藪内晶子, 菊地裕幸, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. 本邦における胚培養士を対象とした妊孕性温存療法の実施状況調査. 第 28 回日本臨床エンブリオロジスト学会ワークショップ・学術集会, 2023.
- 118) ◎鈴木直. 本邦におけるがん・生殖医療の現状と今後の課題-がん・サバイバーシップ向上を志向して. 第 667 回宮城産科婦人科学会集談会 宮城県がん・生殖医療ネットワーク年次総会, 2023.
- 119) ◎高江正道. 腎移植患者における不妊治療の実際. 第 56 回日本臨床腎移植学会, 2023.
- 120) ◎高江正道. 妊孕性温存療法の最新知見-卵巣組織凍結・移植を中心に-. 第 18 回日本 A-PART 学術講演会, 2023.
- 121) ◎鈴木直. 本邦におけるがん・生殖医療の現状と課題-薬剤師の皆様に伝えたいこと. 第 58 回長野県薬剤師会学術大会, 2023.
- 122) ◎佐治正太, 仲村将光, 西村陽子, 中野茉莉恵, 長谷川潤一, 鈴木直. 区分診断法を活用した複雑心疾患の胎児診断. 日本胎児心臓病学会第 29 回学術集会, 2023.
- 123) ◎小田原圭, 洞下由記, 岩端秀之, 山谷佳子, 松山夏美, 古山紗也子, 伊藤薫, 中村健太郎, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. 妊娠希望に対しホルモン療法を中断したホルモン受容体陽性がん症例の検討. 第 13 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 124) ◎沖村匡史, 泊博幸, 沖津撰, 水野里志, 菊地裕幸, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. 胚培養士を対象とした妊孕性温存療法としての胚 (受精卵) 凍結保存に関する実施状況調査 (厚生労働科学研究補助金 (がん政策研究事業) 研究班 (20EA1004)). 第 13 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 125) ◎泊博幸, 沖津撰, 水野里志, 沖村匡史, 菊地裕幸, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. がん・生殖医療における胚培養士の役割と妊孕性温存療法の実態調査. 第 13 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 126) ◎岡本直樹, 中嶋真理子, 杉下陽堂, 洞下由記, 高江正道, 鈴木直. 卵巣凍結までの組織保存時間の短縮が、移植後の卵巣寿命を延長する. 第 13 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 127) ◎杉下陽堂, 孟令博, 鈴木由妃, 上川篤志, 鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対する卵巣組織凍結・融解卵巣移植に要する至適時間の検討. 第 13 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 128) ◎鈴木由妃, 杉下陽堂, 上川篤志, 戸澤晃子, 鈴木直.
-196℃の液体窒素内で動作可能な RFID タグを用いた新規卵巣凍結検体管理システムの開発.
第 13 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.

- 129) ◎中村健太郎, 高江正道, 伊藤薫, 岩端由里子, 小田原圭, 金森玲, 鈴木由妃, 岩端秀之, 杉下陽堂, 洞下由記, 鈴木直. 小児患者における妊孕性温存療法に対する理解度と意識に関する調査. 第13回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 130) ◎伊藤薫, 高江正道, 杉下陽堂, 中村健太郎, 小田原圭, 鈴木由妃, 岩端秀之, 洞下由記, 鈴木直. 初経前女児における卵巣組織凍結保存時の同時卵子凍結 (combined procedure) 成績の検証. 第13回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 131) ◎古山紗也子, 洞下由記, 水野里志, 菊地裕幸, 沖村匡史, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 泊博幸, 沖津撰, 鈴木直. 本邦の卵巣組織凍結に関する実態調査 (厚生労働科学研究補助金 (がん政策研究事業) 研究班 (20EA1004)). 第13回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 132) ◎菊地裕幸, 泊博幸, 沖津撰, 水野里志, 沖村匡史, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 太田邦明, 福田雄介, 洞下由記, 鈴木直. 妊孕性温存療法における卵子凍結および未成熟卵子 IVF 実施状況の全国調査 (厚生労働科学研究補助金 (がん政策研究事業) 研究班 (20EA1004)). 第13回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 133) ◎谷垣伸治, 小林千絵, 谷川珠美子, 片山紗弥, 小林陽一, 森洋文, 杉本公平, 白石絵莉子, 白井千晶, 鈴木直. プレコンセプションカウンセリングにより新しい家族の作り方として里親制度を検討した1例. 第13回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 134) ◎岩端秀之, 洞下由記, 小田原圭, 山谷佳子, 松山夏美, 古山紗也子, 伊藤薫, 中村健太郎, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. 妊孕性温存療法によって妊娠・出産した造血幹細胞移植を要する急性骨髄性白血病再発の一事例. 第13回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 135) ◎竹川悠起子, 杉本公平, 正木希世, 新屋芳里, 小泉智恵, 牧野あずみ, 森洋文, 白石絵莉子, 前沢忠志, 谷垣伸治, 白井千晶, 鈴木直. がん・生殖医療における里親制度・特別養子縁組制度の普及に関する研究. 第13回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 136) ◎福田雄介, 太田邦明, 泊博幸, 菊地裕幸, 沖津撰, 水野里志, 沖村匡史, 古山紗也子, 谷口憲, 田村功, 洞下由記, 鈴木直. 男性がん患者の妊孕性温存療法の課題を全国調査から考える (厚生労働科学研究補助金 (がん政策研究事業) 研究班 (20EA1004)). 第13回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 137) ◎金森玲, 高江正道, 伊藤薫, 中村健太郎, 鈴木由妃, 岩端秀之, 杉下陽堂, 洞下由記, 鈴木直. 効果的な卵巣組織移植を志向した移植手技に関する基礎的検討. 第13回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 138) ◎長谷川潤一. 超音波の臨床研究のすすめ. 日本産婦人科超音波研究会第2回学術集会, 2023.
- 139) ◎古谷菜摘. 超音波専門医になるための必須知識・2 胎児超音波検査 胎盤・臍帯. 日本産婦人科超音波研究会第2回学術集会, 2023.
- 140) ◎遠藤拓, 澤田紫乃, 岩端秀之, 杉下陽堂, 高江正道, 五十嵐豪, 近藤春裕, 長谷川潤一, 鈴木直. 当院の女性泌尿器外来における現状と課題について. 第438回神奈川産科婦人科学会学術講演会, 2023.
- 141) ◎Junichi Hasegawa, Akihiko Sekizawa, Hiroaki Tanaka, Shinji Katsuragi, Yoko Nishimura, Masamitsu Nakamura, Tomoaki Ikeda. Improved obstetric management and initial treatment for maternal emergency in primary obstetric facilities reduced direct causes of maternal death in Japan. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 142) ◎Yoko Nishimura, Junichi Hasegawa, Hiroaki Tanaka, Masahiko Nakata, Shinji Katsuragi, Masamitsu Nakamura, Akihiko Sekizawa, Takeshi Murakoshi, Isamu Ishiwata, Katsuyuki Kinoshita, Tomoaki Ikeda. Maternal deaths due to stroke related to pre-eclampsia significantly associated with delayed intensive observation: The nationwide maternal death analysis. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 143) ◎Tomomi Matsushita, Tatsuya Arakaki, Akihiko Sekizawa, Junichi Hasegawa, Hiroaki Tanaka, Shinji Katsuragi, Takeshi Murakoshi, Tomoaki Ikeda, Isamu Ishiwata. Pregnancy-related maternal deaths due to cardiovascular diseases in Japan from 2010 to 2019: an analysis of the Maternal Death Exploratory Committee data in Japan. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 144) ◎Tatsuya Arakaki, Akihiko Sekizawa, Junichi Hasegawa, Tomoaki Ikeda, Isamu Ishiwata, Katsuyuki Kinoshita. Risk factors for disease severity among COVID-19 pregnant women: a nationwide questionnaire survey in Japan. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 145) ◎Yuriko Iwahata, Seido Takae, Hideyuki Iwahata, Akiko Tozawa, Junichi Hasegawa, Nao Suzuki. Physicians-Patient communication: Assessing physician strategies for informing children and adolescents about their cancer diagnosis and the risk of gonadal dysfunction in Japan and the US. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.

- 146) ◎Kosei Hasegawa, Shunji Takahashi, Kimio Ushijima, Masao Okadome, Kan Yonemori, Harushige Yokota, Ignace Vergote, Bradley J Monk, Krishnansu S Tewari, Keiichi Fujiwara, Jingjin Li, Shaheda Jamil, Anne Paccaly, Kazuhiro Takehara, Tomoka Usami, Yoichi Aoki, Nao Suzuki, Yoichi Kobayashi, Yoshio Yoshida, Hidemichi Watari, Frank Seebach, Israel Lowry, Melissa Mathias, Matthew G Fury, Ana Oaknin. Phase 3 EMPOWER-Cervical 1/GOG-3016/ENGOT-cx9 trial of cemiplimab (CEMI) in recurrent or metastatic (R/M) cervical cancer: Subgroup analysis of patients (pts) enrolled in Japan. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022.
- 147) ◎Shota Saji, Masamitsu Nakamura, Natsumi Furuya, Chika Homma, Junichi Hasegawa, Nao Suzuki. A case of Williams-Beuren syndrome with specific facial dysmorphism on 3D ultrasound. 日本産婦人科超音波研究会第2回学術集会, 2023.

② 国際学会

- 1) ◎Masaki Hosoda, Daisuke Oida, Koichiro Ito, Seido Takae, Nao Suzuki, Kosuke Tsukada. Ex vivo sensing of primordial follicles in ovarian tissues by spectral-domain optical coherence tomography. SPIE Medical Imaging 2022, 2022.
- 2) ◎Shiho Kuji, Nao Suzuki. Survival and reproductive outcomes after fertility-sparing surgery performed for borderline epithelial ovarian tumor. ASFP webinar, 2022.
- 3) ◎Hiromitsu Hiruma, Shinji Wada, Shintaro Nawata, Kazuki Hashimoto, Noriyuki Yokomichi, Shiho Kuji, Eiji Kikuchi, Nao Suzuki, Hidefumi Mimura. Uterine STUMP with huge arteriovenous fistula treated surgically post embolization: a case report. JSIR, ISIR & APSCVIR 2022, 2022.
- 4) ◎Nao Suzuki. Oncofertility: A new hope for cancer patients. 3rd Malaysian Advances in Women's Health Congress, 2022.
- 5) ◎Takahiro Okubo, Seido Takae, Nao Suzuki, Kosuke Tsukada. Automatic 3-Dimensional Follicle Detection from Ovarian Optical Coherence Tomography Images by Generic Object Detection. 44th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine & Biology Society (EMBC), 2022.
- 6) ◎Nao Suzuki. Discussion 5 - Oncofertility Services in Asia. Grand Clinico-Pathological Conference, 2022.
- 7) ◎Nao Suzuki. Oncofertility. Breast's Annual Meeting of Henan Province, 2022.
- 8) ◎Nalini Kaul Mahajan, Nao Suzuki, Budi Wiweko, Mariam Faruqui (Shati), Virgilio M. Novero, T.M. Chau Le, Padma Rekha Jirge. Fertility preservation for benign conditions - pros & cons. 7th World Congress of the International Society for Fertility Preservation (ISFP), 2022.
- 9) ◎Nao Suzuki. Recent Advances in Fertility Preservation for the CAYA Cancer Patients-Aiming for new innovative technology development. The 83rd Conference of Korean Society for Reproductive Medicine, 2022.
- 10) ◎Yodo Sugishita, Nao Suzuki. Ovarian cortex vitrification - Concept and techniques. Fertiprotect 2022 9th International Annual Conference of the Fertility Preservation Society, 2022.
- 11) ◎Yuki Suzuki, Nao Suzuki. Reproductive outcome with vitrified oocytes in cancer survivors. Fertiprotect 2022 9th International Annual Conference of the Fertility Preservation Society, 2022.
- 12) ◎Nao Suzuki. Current status of oncofertility for childhood and AYA cancer patients in Japan. Fertiprotect 2022 9th International Annual Conference of the Fertility Preservation Society, 2022.
- 13) ◎Reiko Suzuki, Xiujuan Tan, Katarzyna J Szymanska, Nada Kubikova, Columba A Perez, Dagan Wells, Kutluk Oktay. Role of Declining Ataxia-Telangiectasia-Mediated (ATM) Function in Oocyte Aging. The 70th Annual Meeting of the Society for Reproductive Investigation (SRI), 2023.

③ その他

- 1) ◎鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の現状と課題ーがんとの共生を志向して. 第21回思春期診療研修会, 2022.
- 2) ◎上川篤志, 久慈志保, 大原樹, 戸澤晃子, 鈴木直. 卵巣明細胞癌におけるがん抑制遺伝子 ARID1A の機能解析. 第9回婦人科バイオマーカー研究会, 2022.
- 3) ◎鈴木直. 本邦における小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の実情と課題. 第37回日本小児外科学会卒後教育セミナー, 2022.
- 4) ◎久慈志保. 激論!! 進行卵巣がん治療戦略 in 横浜川崎. 激論!! 進行卵巣がん治療戦略 in 横浜川崎, 2022.
- 5) ◎鈴木直. 本邦におけるがん・生殖医療の現状. 小児・AYA 世代がん患者に対する妊孕性温存セミナー, 2022.
- 6) ◎鈴木直. 家族をつくること (女性の妊孕性、男性の妊孕性). 第5回 AYA 世代 がんサポート研修会, 2022.
- 7) ◎八幡将喜, 仲村将光, 西牧裕樹, 佐治正太, 平間千尋, 原田賢, 安藤歩, 田村みどり, 近藤春裕, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 帝王切開での児頭娩出困難時の対応について. 第386回四水会, 2022.

- 8) ◎鈴木直. 国の小児・AYA 世代がん患者等に対する妊孕性温存研究促進事業とがん・生殖医療の現状. 令和4年度三重県がん・生殖医療セミナー, 2022.
- 9) ◎鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の現状と課題. 第22回臨床腫瘍夏期セミナー, 2022.
- 10) ◎澤田紫乃. 世代別に考える月経困難症の薬剤選択. 持田製薬社員教育, 2022.
- 11) ◎鈴木直. 本邦におけるがん・生殖医療の現状. 小児・AYA 世代がん患者に対する妊孕性温存セミナー, 2022.
- 12) ◎長谷川潤一. 安全な人工妊娠中絶のために. 山形県医師会母体保護法指定医師研修会, 2022.
- 13) ◎鈴木直. 本邦における小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の現状と課題-今後の10年を目指して. 福岡大学医学部産婦人科学教室 婦人科腫瘍 講演会, 2022.
- 14) ◎高江正道. 血液疾患領域における最新情報. The Hematological Hotline~2nd call, 2022.
- 15) ◎長谷川潤一. 安全な人工妊娠中絶のために. 石川県医師会母体保護法指定医師研修会, 2022.
- 16) ◎大原樹. 婦人科腫瘍の薬物治療~当院における現状について~. 社内学術研修, 2022.
- 17) ◎長谷川潤一. 胎児付属物. 第44回日本母体胎児医学会学術集会, 2022.
- 18) ◎長谷川潤一. 胎児発育不全の診断と管理. 香川大学講義, 2022.
- 19) ◎長谷川潤一. 母体保護法指定医に必要な生命倫理. 令和4年度第1回高知県医師会母体保護法指定医師研修会, 2022.
- 20) ◎久慈志保. 実臨床における子宮体癌治療と副作用マネジメント-当院の取り組み-. Endometrial Cancer Symposium in Kawasaki, 2022.
- 21) ◎鈴木直. がんとの共生 妊孕性温存-概要編-. PLUS CHUGAI, 2022.
- 22) ◎大原樹. 婦人科腫瘍専門としてのあゆみ-卵巣がん治療をふまえて-. 第3回Shizuoka Young Gynecologist Ovarian Cancer Seminar, 2022.
- 23) ◎鈴木直. 本邦におけるがん・生殖医療の現状. 小児・AYA 世代がん患者に対する妊孕性温存セミナー, 2022.
- 24) ◎高江正道. 最新の医学的知見-がん治療と妊娠-. がん治療と妊娠 Web セミナー, 2022.
- 25) ◎久慈志保, 野呂瀬朋子, 三上芳喜. 子宮体癌 MSI-high の3症例. 第4回聖マリアンナ医科大学婦人科病理症例カンファレンス, 2022.
- 26) ◎鈴木直. 家族をつくること (1) 女性の妊孕性 (2) 男性の妊孕性. 第6回AYA 世代がんサポート研修会, 2022.
- 27) ◎鈴木直. 本邦におけるがん・生殖医療の現状. 小児・AYA 世代がん患者に対する妊孕性温存セミナー, 2022.
- 28) ◎鈴木直. がん患者の妊孕性温存について. 第11回がん治療マネジメント研修会, 2022.
- 29) ◎長谷川潤一. 産科危機的出血など母体急変時の対応について. 神奈川県助産師会研修会, 2022.
- 30) ◎鈴木直. 小児・思春期がん患者の妊孕性温存に関する基礎知識. 第6回小児がん看護研修会, 2022.
- 31) ◎長谷川潤一. 超音波とCTGを使った安全な分娩管理. 石川県医師会第1回周産期・母子保健研修会, 2022.
- 32) ◎竹内淳. 「働き方改革に向けての取り組み状況」「宿日直許可申請や特例水準の申請予定」. 第4回KTOG主催医師の働き方改革セミナー, 2023.
- 33) ◎鈴木直. がん生殖医療:若いがん患者の希望を叶える技術と制度. 第22回リプロダクティブ・ヘルスに関する勉強会, 2023.
- 34) ◎河津理. 新型コロナウイルス肺炎のため3ヶ月以上ECMOを使用して母児を救命した一例. 第92回PWG(神奈川総合周産期センター連絡会), 2023.
- 35) ◎鈴木直. 本邦におけるがん・生殖医療の現状と課題-小児・AYA 世代がん患者のサバイバーシップ向上を志向して. 第3回NTMC がん治療セミナー, 2023.
- 36) ◎長谷川潤一. 前置胎盤、癒着胎盤の診断. 第31回広島産婦人科超音波研究会, 2023.
- 37) ◎高江正道. 生殖補助医療の保険適用. 第7回ART Clinical Research Conference, 2023.
- 38) ◎鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の現状と今後の課題. AYA 世代がん・生殖セミナー, 2023.
- 39) ◎鈴木直. 小児・思春期がん患者に対するがん・生殖医療の現状と課題. 小児がんと長期フォローアップ, 2023.
- 40) ◎鈴木直. AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の現状と課題について. 悪性腫瘍から生殖医療を考える会, 2023.
- 41) ◎久慈志保. 当院におけるir-AE 対策について. 神奈川 Cervical Cancer Conference, 2023.
- 42) ◎長谷川潤一. 医療安全・安全な人工妊娠中絶. 茨城県医師会令和4年度第2回母体保護法指定医師研修会, 2023.
- 43) ◎久慈志保. 実臨床での子宮頸癌治療-知っというてよかったこと・やっておいてよかったこと-. Cervical Cancer Symposium in Kawasaki, 2023.
- 44) ◎中村健太郎, 高江正道, 伊藤薫, 小田原圭, 金森玲, 鈴木由妃, 岩端秀之, 杉下陽堂, 洞下由記, 大原樹, 近藤春裕, 鈴木直. 乳がん患者における腹腔鏡下卵巣組織移植術の一例. 第49回神奈川県産婦人科内視鏡研究会プログラム, 2023.
- 45) ◎鈴木直. AYA 世代支援を行うにあたって準備すべきこと. 令和4年度AYA 世代患者支援講演会, 2023.
- 46) ◎角田彩華, 長谷川潤一. 分娩誘発を要する無痛分娩で経膈分娩の完遂に関わる産科的因子の検討. 聖マリアンナ医科大学医学会第83回学術集会, 2023.

- 47) ◎鈴木直. AYA 世代の卵巣悪性腫瘍に対する妊孕性温存に関する話題. 第 22 回産婦人科手術療法・周術期研究会, 2023.
- 48) ◎鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の現状と課題. 第 5 回松山リプロダクション研究会, 2023.
- 49) ◎久慈志保. 子宮体がんに対する複合免疫治療の意義～化学療法後の再発子宮体がんに対する新たな治療選択肢～. 子宮体癌 Endometrial Cancer Web Seminar, 2023.
- 50) ◎竹内淳. 当院における PARP 阻害剤の使用経験. 第 29 回鈴木・産婦セミナー, 2023.

		和 文	英 文
著 書		22	2
論 文	原著	4	27
	解説又は総説	27	4
	症例報告	4	6
	その他		1
学会発表	国内学会	140	7
	国際学会		13
	その他	50	

眼科学

著書

- 1) 松澤亜紀子. コンタクトレンズフィッティング 新篇 眼科プラクティス 2 細隙灯顕微鏡の徹底活用-キミはどこまで見えているか- 2022;2:103-107.
- 2) 松澤亜紀子. I 眼外傷
3. 眼球の外傷
1) コンタクトレンズトラブル 新篇眼科プラクティス 5 眼科救急治療-まったなし! 急がば学べ- 2022;5:17-20.
- 3) 向後二郎. III 眼科手術レスキュー
4. 硝子体手術
1) 水晶体核落下 新篇眼科プラクティス 5 眼科救急治療-まったなし! 急がば学べ- 2022;5:234-237.
- 4) 松澤亜紀子. カラーコンタクトレンズの処方 新篇 眼科プラクティス 9 必読! コンタクトレンズ診療 2023;9:97-102.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 佐藤圭司, 重城達哉, 藤田直輝, 関根伶生, 向後二郎, 高木均. 増殖糖尿病網膜症の術後経過と血小板機能との関連についての検討. あたらしい眼科, 2022;39(4): 496-500.
- 2) 山田雄介, 徳田直人, 重城達哉, 塚本彩香, 豊田泰大, 北岡康史, 高木均. プリモニジン酒石酸塩・プリングラミド配合点眼薬の有効性について. 臨床眼科, 2022;76(5): 695-699.
- 3) 戎谷さくら, 松澤亜紀子, 林泰博, 吉村雅弘, 工藤昌之, 高木均. アートメイクにより角結膜障害を生じた1症例. 臨床眼科, 2022;76(10): 1434-1439.
- 4) 豊田泰大, 徳田直人, 塚本彩香, 山田雄介, 北岡康史, 高木均. 血管新生緑内障に対する緑内障チューブシャント術(プレートのあるもの)の中期成績. あたらしい眼科, 2022;39(11): 1539-1543.
- 5) 原飛鳥, 徳田直人, 塚本彩香, 豊田泰大, 荒川明, 北岡康史, 高木均. 緑内障チューブシャント手術(プレートのないものEX-PRESS®)の術後中期成績. 臨床眼科, 2023;77(1): 134-140.

② 総説又は症例解説

- 1) 徳田直人. Minimally Invasive Glaucoma Surgery (MIGS): マイクロフックを用いた ab interno トラベクロトミー. あたらしい眼科, 2022;39(6): 793-794.
- 2) 松澤亜紀子. 年代別・目的別眼鏡・コンタクトレンズ処方-私はこうしている- 壮年~老年期のコンタクトレンズ処方. OCULISTA, 2022;(112): 54-61.
- 3) 重城達哉, 高木均. 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 飛蚊症. 日本医事新報, 2022;(5130): 48.
- 4) 河野通大, 谷戸正樹, 浪口孝治, 庄司拓平, 真鍋伸一, 塚本彩香, 徳田直人. 手術相談室 症例呈示: トラベクロトミー・白内障同時手術を予定したが、Zinn 小帯断裂のため水晶体全摘となり、トラベクロトミーを施行できなかった落屑緑内障. 眼科手術, 2022;35(4): 654-658.
- 5) 松澤亜紀子. 世代別コンタクトレンズで快適ライフ 安全なコンタクトレンズ管理. あたらしい眼科, 2022;39(11): 1491-1497.
- 6) 松澤亜紀子. 角膜・結膜疾患アップデート コンタクトレンズ. 医学と薬学, 2022;80(1): 47-52.
- 7) 徳田直人. 選択的レーザートラベクロプラスティの位置付け. 日本の眼科, 2023;94(3): 50-51.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Tokuda N, Kitaoka Y, Tsukamoto A, Toyoda Y, Yamada Y, Sase K, Takagi H. Comparison of minimally invasive glaucoma surgery with trabecular micro-bypass stent and microhook ab interno trabeculotomy performed in conjunction with cataract surgery. International Journal of Ophthalmology, 2022;15(7): 1082-1088.
- 2) Sato K, Jujo T, Sekine R, Uchiyama N, Kakehashi K, Kogo J. Correlation between the Outcome of Vitrectomy for Proliferative Diabetic Retinopathy and Erythrocyte Hematocrit Level and Platelet Function. Journal of Clinical Medicine, 2022;11(17): 5055.

- 3) Sugisawa T, Ishikawa H, Uchida K, Takesue Y, Mori J, Kinoshita T, Morikawa S, Okamoto F, Sawada T, Ohji M, Kanda T, Takeuchi M, Miki A, Kusuhara S, Ueda T, Ogata N, Sugimoto M, Kondo M, Yoshida S, Ogata T, Kimura K, Mitamura Y, Jujo T, Takagi H, Terasaki H, Sakamoto T, Komuku Y, Gomi F. Risk Factors for Legal Blindness in 77 Japanese Patients with Endogenous Endophthalmitis: A Multicenter Cohort Study from J-CREST. *Ocular Immunology and Inflammation*, 2022; : 1-8.
- 4) Ura T, Takeuchi M, Kawagoe T, Mizaki N, Okuda K and Shimada M. Current Vaccine Platforms in Enhancing T-Cell Response. *vaccines*, 2022;10(8) : 1367.
- 5) Yoshimura A, Ishikawa H, Uchida K, Takesue Y, Mori J, Kinoshita T, Morikawa S, Okamoto F, Sawada T, Ohji M, Kanda T, Takeuchi M, Miki A, Kusuhara S, Ueda T, Ogata N, Sugimoto M, Kondo M, Yoshida S, Ogata T, Kimura K, Mitamura Y, Jujo T, Takagi H, Terasaki H, Sakamoto T, Sugisawa T, Komuku-Yamamoto Y, and Gomi F. Risk Factors for Legal Blindness in 237 Japanese Patients with Exogenous Endophthalmitis: A Multicenter Cohort Study from J-CREST. *OCULAR IMMUNOLOGY AND INFLAMMATION*, 2023; : doi.org-10.1080/09273948.2023.2165111.
- 6) Sawada T, Yasukawa T, Imaizumi H, Matsubara H, Kimura K, Terasaki H, Ishikawa H, Murakami T, Takeuchi M, Mitamura Y, Mizusawa Y, Takamura Y, Murata T, Kogo J, Ohji M. Subtype prevalence and baseline visual acuity by age in Japanese patients with neovascular age-related macular degeneration. *Japanese Journal of Ophthalmology*, 2023; : doi.org-10.1007/s10384-023-00981-0.

② 総説又は症例解説

- 1) Kusuhara S, Simura M, Kitano S, Sugimoto M, Muramatsu D, Fukushima H, Takamura Y, Matsumoto M, Kokado M, Kogo J, Sasaki M, Morizane Yuki, Utsumi T, Kotake O, Koto T, Terasaki H, Hirano T, Ishikawa H, Mitamura Y, Okamoto F, Kinoshita T, Kimura K, Yamashiro K, Suzuki Y, Hikichi T, Washio N, Sato T, Ohkoshi K, Tsujinaka H, Kondo M, Takagi H, Murata T, Sakamoto Taiji, On behalf of Japan Clinical Retina Study (J-CREST) group. Treatment of diabetic macular edema in real-world clinical practice: The effect of aging. *Journal of Diabetes Investigation*, 2022;13(8) : 1339-1346.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎関根伶生, 塩野陽, 四方田涼, 松村欣宏, 酒井寿郎, 高木均. ヒストン脱メチル化酵素 JMJD1A によるエピゲノムの網膜血管新生へ影響. 第 126 回日本眼科学会総会, 2022.
- 2) ◎金成真由, 畑真由美, 櫻井謙三, 河越龍方, 高木均. 片眼性視神経炎寛解後に肥厚性硬膜炎が明らかとなった一症例. 第 126 回日本眼科学会総会, 2022.
- 3) ◎四方田涼, 佐々木寛季, 渡邊昂大, 寺本謙典, 荒川明, 高木均. アフリバルセプトに抵抗性を示す加齢黄斑変性に対するプロルシズマブの効果. 第 126 回日本眼科学会総会, 2022.
- 4) ◎重城達哉, 佐藤圭司, 関根伶生, 河越龍方, 向後二郎, 高木均. 特発性網膜前膜に対する広範囲内境界膜 離後の術後視機能に関する検討. 第 126 回日本眼科学会総会, 2022.
- 5) ◎南早紀子, 内田敦, 永井紀博, 篠田肇, 栗原俊英, 伴紀充, 寺崎寛人, 高木均, 坪田一男, 坂本泰二, 小沢洋子. 【第 75 回日本臨床眼科学会学術展示優秀賞演題】網膜剥離手術前の増殖硝子体網膜症 (PVR-C) の発生および手術予後と眼軸長の関係. 第 126 回日本眼科学会総会, 2022.
- 6) ◎藤田直輝, 佐瀬佳奈, 塚原千広, 有菌生吹, 高木均, 北岡康史. 高眼圧モデルラットに対するペマフィブラート内服による神経保護効果. 第 126 回日本眼科学会総会, 2022.
- 7) 村上智哉, 岡本史樹, 木下貴正, 森潤也, 四宮加容, 三田村佳典, 西智, 緒方奈保子, 小幡峻平, 松本理子, 小椋俊太郎, 平野佳男, 西原由華, 坂井貴三彦, 松原央, 三羽晃平, 重城達哉, 高木均, 上田香織, 大鹿哲郎. 未熟児網膜症治療を受けた児の 5 歳児における経過一多施設共同研究. 第 126 回日本眼科学会総会, 2022.
- 8) 豊田泰大. 当院緑内障外来におけるエイベリス点眼薬 0.002% の使用法について. 第 13 回聖マリアンナ眼科臨床フォーラム, 2022.
- 9) 佐藤圭司. 当院における眼外傷診療について. 第 13 回聖マリアンナ眼科臨床フォーラム, 2022.
- 10) ◎関根伶生, 向後二郎, 重城達哉, 佐藤圭司, 河越龍方, 高木均. 黄斑前膜中心窩分離症に対して中心窩温存内境界膜剥離術を行った症例の術後検討. 第 14 回神奈川眼科学会, 2022.
- 11) ◎四方田涼, 向後二郎, 高木均. 網膜前膜の 27 ゲージ硝子体手術における強膜創の垂直切開と斜切開の比較検討. 第 14 回神奈川眼科学会, 2022.
- 12) ◎遠藤誠子, 徳田直人, 塚本彩香, 豊田泰大, 山田雄介, 北岡康史, 高木均. 水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術の有効性について～iStent®と iStent inject®の比較～. 第 14 回神奈川眼科学会, 2022.

- 13) ◎畑真由美, 花田真由, 濱口友里, 金成真由, 徳田直人, 高木均. 周辺部虹彩陥凹を認めた近視性不同視弱視の1例. 第78回日本弱視斜視学会総会, 2022.
- 14) 加藤直子, 西田知也, 大林知央, 佐伯めぐみ, 松澤亜紀子. 見逃していませんか? 『円錐角膜』へスクリーニングから手術まで〜ORTができること. 第37回JSCRS 学術総会(インストラクションコース), 2022.
- 15) 松澤亜紀子, 伊藤恵利. カラーコンタクトレンズ診療アップデート. 第64回日本コンタクトレンズ学会イブニングセミナー1, 2022.
- 16) 松澤亜紀子. 見えてきたマイデイ®マルチフォーカルの世界. 第64回日本コンタクトレンズ学会ランチョンセミナー7, 2022.
- 17) ◎豊田泰大, 徳田直人, 塚本彩香, 山田雄介, 北岡康史, 高木均. オミデネバグ・イソプロピル点眼液 0.002%の眼圧下降効果、副作用について. 第33回日本緑内障学会, 2022.
- 18) ◎佐瀬佳奈, 塚原千広, 藤田直輝, 有菌生吹, 高木均, 北岡康史. TNF 誘発視神経障害モデルにおける p 38 阻害剤の保護作用. 第33回日本緑内障学会, 2022.
- 19) 北岡康史. オートファジーと軸索変性. 第33回日本緑内障学会, 2022.
- 20) ◎遠藤誠子, 徳田直人, 塚本彩香, 豊田泰大, 山田雄介, 佐瀬佳奈, 北岡康史, 高木均. 同一症例における白内障手術併用 iStent inject 挿入術と線維柱帯切開術眼内法の術後早期成績. 第33回日本緑内障学会, 2022.
- 21) 徳田直人. 点眼薬の基本. 第33回日本緑内障学会(教育セミナー), 2022.
- 22) ◎梯滉太, 関根伶生, 佐藤圭司, 重城達哉, 内山直人, 向後二郎, 河越龍方, 高木均. LHEP の有無による Stage2 黄斑円孔の臨床的特徴についての検討. 第76回日本臨床眼科学会, 2022.
- 23) ◎佐藤圭司, 関根伶生, 重城達哉, 梯滉太, 内山直人, 河越龍方, 向後二郎, 高木均. PDR 術後 ME の予後予測因子としての赤血球ヘマトクリット値の有効性についての検討. 第76回日本臨床眼科学会, 2022.
- 24) 塚本彩香. 水晶体再建術併用線維柱帯切開術(眼内法)の術後中期成績. 第76回日本臨床眼科学会, 2022.
- 25) 寺本謙典. オオスズメバチによる角膜刺傷の1例. 第76回日本臨床眼科学会, 2022.
- 26) 村上智哉, 岡本史樹, 木下貴正, 四宮加容, 三田村佳典, 西智, 緒方奈保子, 小幡峻平, 松本理子, 小椋俊太郎, 平野佳男, 安川力, 西原由華, 坂井貴三彦, 築留英之, 重城達哉, 上田香織, 大鹿哲郎. 未熟児網膜症に対する抗 VEGF 薬とレーザー治療の長期治療成績の比較-Zone ごとの検討. 第76回日本臨床眼科学会, 2022.
- 27) 佐藤尚人, 向後二郎, 米田一仁, 大澤俊介, 平形明人. 硝子体手術クエスチョンバンク薬剤活用編. 第76回日本臨床眼科学会(インストラクションコース), 2022.
- 28) ◎北岡康史, 藤田直輝, 塚原千広, 有菌生吹, 佐瀬佳奈. ULK と高眼圧モデル. 第42回日本眼薬理学会, 2022.
- 29) ◎塚原千広, 佐瀬佳奈, 藤田直輝, 有菌生吹, 北岡康史. NFAT c 阻害剤の軸索保護効果における 1L-1 β と NFAT c 1 発現の検討. 第42回日本眼薬理学会, 2022.
- 30) ◎佐藤圭司, 関根伶生, 重城達哉, 河越龍方, 向後二郎, 北岡康史. 糖尿病黄斑浮腫と赤血球ヘマトクリット値との関連についての検討. 第55回神奈川県眼科臨床談話会(ハイブリット開催), 2023.
- 31) ◎楠島志帆, 徳田直人, 遠藤誠子, 塚本彩香, 豊田泰大, 山田雄介, 佐瀬佳奈, 北岡康史. 白内障手術併用眼内ドレーン挿入術後の検討. 第55回神奈川県眼科臨床談話会(ハイブリット開催), 2023.
- 32) ◎吉村雅弘, 徳田直人, 重城達哉, 遠藤誠子, 山田雄介, 豊田泰大, 塚本彩香, 北岡康史. アイケア ic200 手持眼圧計による眼圧測定値と他機種による眼圧測定値との比較検討. 第55回神奈川県眼科臨床談話会(ハイブリット開催), 2023.
- 33) ◎花田真由, 河越龍方, 山田瑛子, 北岡康史. 小児の非典型 Cogan 症候群の一例. 第55回神奈川県眼科臨床談話会(ハイブリット開催), 2023.
- 34) 向後二郎. 硝子体手術教育時の指導医の心境-この瞬間にこのトラブル-. 第46回日本眼科手術学会学術総会(インストラクションコース), 2023.
- 35) 向後二郎. 黄斑手術における観察系の進化. 第46回日本眼科手術学会学術総会(教育セミナー), 2023.
- 36) 徳田直人. 線維柱帯切開術(眼内法). 第46回日本眼科手術学会学術総会(教育セミナー), 2023.
- 37) ◎楠島志帆, 徳田直人, 遠藤誠子, 塚本彩香, 豊田泰大, 山田雄介, 佐瀬佳奈, 北岡康史. 白内障手術併用眼内ドレーン挿入術のステント位置が術後眼圧に及ぼす影響について. 第46回日本眼科手術学会学術総会, 2023.
- 38) 向後二郎. どう動かす? Massive Subretinal Hemorrhage. 第46回日本眼科手術学会学術総会ランチョンセミナー, 2023.
- 39) 梯滉太. 網膜動脈閉塞症の治療及び予防について. 第15回神奈川クロスオーバーシンポジウム, 2023.
- 40) ◎向後二郎, Wendy Zhi Wang, Elizabeth Persaud, Richard kara, Kayla Mills. Burden of Gas Tamponades: A Targeted Literature Review. 第76回日本臨床眼科学会, 2022.

② 国際学会

- 1) ©Kogo J, Sekine R, Jujo T, Sato K, Kawagoe T, Takagi H.. Efficacy of fovea-sparing internal limiting membrane peeling for epiretinal membrane foveoschisis. FUJIRETINA, 2022.

③ その他

- 1) 荒川 明. 治療継続を目指した加齢黄斑変性診療. SENJU LIVE WEB セミナー 抗 VEGF 治療最前線～今後の展望を考える～, 2022.
- 2) 向後二郎. ラニビズマブ BS (バイオシミラー) の今後の展望. SENJU LIVE WEB セミナー 抗 VEGF 治療最前線～今後の展望を考える～, 2022.
- 3) 重城達哉. 2022 年聖マリアンナ医科大学 当院に於ける糖尿病網膜症診療について. 第 17 回糖尿病カンファレンス, 2022.
- 4) 徳田直人. 最近の SLT の使用方法の報告や症例検討会及び質疑応答. エレックス SLT ユーザーズミーティング (関東エリア), 2022.
- 5) 荒川明. 視力良好な DME 患者の治療経過. Clinical Update Meeting, 2022.
- 6) 重城達哉. 治療に難渋する黄斑浮腫症. Clinical Update Meeting, 2022.
- 7) 松澤亜紀子. 「わっ！よく見える！マルチフォーカルコンタクトレンズ」. 茨城県眼科医会コンタクトレンズ研修会, 2022.
- 8) 向後二郎. OCTA の外来診療での使い方のポイント！ ～一気に診療レベルを上げるコツ～. 第 16 回さがみ眼科研究会, 2022.
- 9) 向後 二郎. VEGF 阻害薬のさまざまなステージの糖尿病網膜症に対する効果. Retina Expert Meeting, 2022.
- 10) 松澤亜紀子. わっ！よく見える！マルチフォーカルコンタクトレンズ. クーパービジョン・ウェビナー2022, 2022.
- 11) 大澤俊介, 向後二郎, 鈴木浩太郎, 中村竜大, 米田一仁. なんでも症例検討会！. EVA Meeting in Tokyo, 2022.
- 12) 向後二郎. 糖尿病眼合併症 (DME, NPDR, PDR) に対する抗 VEGF 療法の今後の展望. Chugai Ophthalmology Seminar, 2022.
- 13) 野口三太郎, 向後二郎, 大澤俊介, 米田一仁. 日帰り 27G 硝子体手術の極意. First take, First visit, 2022.
- 14) 四方田涼. 当院における網膜硝子体手術. 第 8 回聖マリアンナ眼科シンポジウム, 2022.
- 15) 松澤亜紀子. 当院における角膜診療. 第 8 回聖マリアンナ眼科シンポジウム, 2022.
- 16) 塚本彩香. 当院における涙道手術. 第 8 回聖マリアンナ眼科シンポジウム, 2022.
- 17) 荒川明. 視力良好な DME 患者の治療経過. 第 16 回神奈川黄斑研究会 WEB 開催, 2022.
- 18) 向後二郎. 内境界膜の神秘・取説. 湖東眼疾患研究会, 2022.
- 19) 北岡康史. 眼疾患と疑わしき神経疾患. Novartis Web Symposium, 2023.
- 20) 佐藤圭司. Correlation between the Outcome of Vitrectomy for Proliferative Diabetic Retinopathy and Erythrocyte Hematocrit Level and Platelet Function. 第 20 回聖マリアンナ医科大学眼科学教室同窓会学会, 2023.
- 21) 向後二郎. 術後視機能を意識した黄斑円孔手術の試み. 第 20 回聖マリアンナ医科大学眼科学教室同窓会学会 (教育講演), 2023.

		和 文	英 文
著 書		4	
論 文	原著	5	6
	解説又は総説	7	1
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	39	1
	国際学会		1
	その他	21	

耳鼻咽喉科学

著書

- 1) 肥塚 泉. めまい診療ハンドブック 2022;:346-349.
- 2) 瀬尾 徹. 遅発性内リンパ水腫の診断と治療 めまい診療ハンドブック 2022;:115-118.
- 3) 肥塚 泉. 週刊 医学のあゆみ 2022;No. 3 (Vol. 282):194-196.
- 4) 小森 学. 今後期待される遠隔医療 プラクティス耳鼻咽喉科の臨床 2 耳鼻咽喉科 外来処置・外来手術最新マニュアル 2022;:276-278.
- 5) 笹野恭之, 小森学. 非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) プラクティス耳鼻咽喉科の臨床 3 耳鼻咽喉科 薬物治療ベッドサイドガイド 2023;:101-107.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 肥塚泉. 前庭神経炎診療ガイドライン作成における医学統計. JHNS, 2022;38(6):651-653.
- 2) 堀江怜央, 晝間清, 肥塚泉. 歯性感染から鼻中隔膿瘍に至った1例. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 2022;94(8):687-691.
- 3) 肥塚 泉. 良性発作性頭位めまい症. JHNS, 2022;38(10):1341-1344.
- 4) 晝間清, 藤井正文, 森田翔, 大塚雄一郎. 内視鏡下に摘出した鼻中隔多形腺腫の1例. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 2023;95(3):237-241.

② 総説又は症例解説

- 1) 瀬尾 徹. 前庭誘発筋電位検査 (VEMP). 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 2022;94(5):96-100.
- 2) 小森 学. サイトメガロウイルス感染症の検査と結果の見方. JHNS, 2022;38(4):391-394.
- 3) 小森 学. インピーダンスオージオメトリ. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 2022;94(5):16-20.
- 4) 小森 学. 子どもの難聴を見逃さない! 慢性中耳炎. ENTONI, 2022;271:43-19.
- 5) 晝間清. めまいに対する診断と薬の使い方のコツ. ENTONI, 2022;270:33-39.
- 6) 小森 学. 真珠腫の個別化医療は可能か?—病態に応じた術式を目指して— 全国調査からみえてくる治療戦略. Otology Japan, 2022;32(2):185-188.
- 7) 小森 学. 小耳症・先天性外耳道閉鎖症. 日本医事新報, 2022;5138:52-53.
- 8) 小森 学. メニエール病に対する内リンパ嚢開放術. 耳鼻咽喉科臨床, 2022;115(10):821-825.
- 9) 瀬尾 徹. VEMPによる耳石器機能の評価. Otology Japan, 2022;32(3):189-193.
- 10) 齋藤善光, 小森学. 新型コロナウイルス感染症後遺症に対する上咽頭擦過療法の有効性. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会, 2022;2(4):153-159.
- 11) 大平真也, 小森学. コロナ時代の新たな耳鼻咽喉科診療 耳科診療. JHNS, 2023;39(1):48-50.

③ 症例報告

- 1) 肥塚泉 久保佑介 四戸達也 中村学 瀬尾徹. 上気道感染後に生じた環軸推回旋位固定例. 耳鼻咽喉科臨床 Vol. 115 No. 8, 2022;115(8):705-709.
- 2) 大草方子, 及川貴生, 肥塚 泉. 味覚異常を主訴とした側頭頭頂葉脳腫瘍例. 耳鼻咽喉科臨床, 2022;115(9):737-742.

④ その他

- 1) 肥塚 泉. 前庭神経炎～前庭神経炎診療ガイドライン 2021年版を踏まえて～. メディカル・ビューポイント, 2022;43(4):3-4.
- 2) 肥塚 泉. 前庭神経炎診療ガイドライン 2021年版. 週刊 医学のあゆみ 別刷, 2022;282(3):194-195.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Izawa N, Shiokawa H, Onuki R, Hamaji K, Morikawa K, Saji H, Ohashi H, Kasugai S, Hayakawa N, Ohara T, Sunakawa Y. The clinical utility of comprehensive measurement of autoimmune disease-related antibodies in patients with advanced solid tumors receiving immune checkpoint inhibitors: a retrospective study. ESMO Open, 2022;7(2):100415.
- 2) Toru Seo, Yohei Okano, Mizuho Aomi, Zenyu Yamada, Shigeru Kasugai, Manabu Nakamura, Yasuhiro Miyamoto, Izumi Koizuk. Endolymphatic hydrops presumption tests for patients with vestibular migraine. Acta Oto-Laryngologica, 2022;AHEAD-OF-PRINT:1-4.

- 3) Shinsuke Ito, Hiromasa Takakura, Katsuishi Akaogi, Hideo Shojaku, Noriaki Takeda, Mamoru Suzuki, Yukio Watanabe, Mitsuhiro Aoki, Katsumi Doi, Tetsuo Ikezono, Akinobu Kakigi, Tadashi Kitahara, Izumi Koizuka, Toshihisa Murofushi, Hideaki Naganuma, Koichi Omori, Katsumasa Takahashi, Masaya Takumida, Shin-ichi Usami, and Hiroshi Yamashita. A 14-year nationwide epidemiological analysis of delayed endolymphatic hydrops in Japan. ACTA OTO - LARYNGOLOGICA, 2022;142(NOS. 7-8) : 568-574.
- 4) Mouri M, Imamura M, Suzuki S, Kawasaki T, Ishizaki Y, Sakurai K, Nagafuchi H, Matsumura N, Uchida M, Ando T, Yoshioka K, Ooka S, Sugihara T, Miyoshi H, Mori M, Okada T, Yamaguchi M, Kunishima H, Kato M, Kawahata K. Serum polyethylene glycol-specific IgE and IgG in patients with hypersensitivity to COVID-19 mRNA vaccines. Allergology international : official journal of the Japanese Society of Allergology, 2022;71(4) : 512-519.
- 5) Shinya Ohira, Manabu Komori, Mitsuto Nakamura, Kentaro Matsuura, Hiroshi Osafune, Riko Kajiwarra and Kota Wada. Morphological relationships between external auditory canal and vital structures of tympanic cavity. Head and Face Medicine, 2022; : DOI-10.1186/s13005-022-00341-2.

② 症例報告

- 1) Imai T, Shinohara K, Uchino K, Okuma H, Maki F, Hiruma K, Ariizumi Y, Yamano Y. Paraneoplastic cerebellar degeneration with anti-Yo antibodies and an associated submandibular gland tumor: a case report. BMC Neurology, 2022;22(1) : 165.

学会発表

① 国内学会

- 1) 瀬尾 徹, 岡野 洋平, 青海 瑞穂, 山田 善宥, 中村 学, 肥塚 泉. 前庭性片頭痛の神経耳科学的検討. 第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会, 2022.
- 2) 釧持 睦, 越智健太郎, 木下裕継, 春日井滋, 肥塚 泉. サリチル酸によるモルモット聴皮質 dorsocaudal area への影響—single unitによる検討—. 第123回日本耳鼻咽喉科総会・学術講演会, 2022.
- 3) 中村 学, 岡野洋平, 青海瑞穂, 山田善宥, 瀬尾徹, 肥塚泉. COVID-19 院内クラスターが発生した当院における経営状況の検討と取り組み. COVID-19 院内クラスターが発生した当院における経営状況の検討と取り組み, 2022.
- 4) 小森 学. 口蓋扁桃摘出術を科学する. 第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2022.
- 5) 西山和宏, 鶴岡一, 沼田雄, 田中智士, 半田寛, 峯下昌道, 宮本康裕. リバース鉗子を用いて硬性気管支鏡下に T-tube 留置を行った一例. 第45回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2022.
- 6) 小森 学. 耳鼻咽喉科頭頸部外科学会公式 YouTube チャンネルの運用. 第123回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2022.
- 7) 小森 学. 耳科・小児耳鼻咽喉科診療の未来予想図—聴覚改善手術からアレルギー性鼻炎まで—. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会学術集会, 2022.
- 8) 深澤雅彦, 久保佑介, 藤井正文, 小野瀬好英, 明石愛美, 春日井滋, 小森学. 当科における Pembrolizumab の使用経験. 第46回日本頭頸部癌学会, 2022.
- 9) 在原理瑛, 笹野 恭之, 金山 友亮, 赤羽 邦彬, 多村 悠紀, 川島 孝介, 伊藤友祐, 齋藤 善光, 小森 学. glove finger flap technique で摘出し得た鼓室型グロムス腫瘍の一例. 第199回日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会, 2022.
- 10) 肥塚 泉. 良性発作性頭めまい症 | 耳石置換法を極める! . 第38回 日本めまい平衡医学会 医師講習会, 2022.
- 11) 齋藤善光, 岩武桜子, 赤羽邦彬, 笹野恭之, 肥塚 泉, 小森 学. 新型コロナウイルス感染症の後遺症患者に対する上咽頭擦過療法の検討. 第84回 耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 2022.
- 12) 青海瑞穂, 瀬尾徹, 菅原一見, 岡野洋平, 山田善宥, 中村学, 肥塚泉, 小森学. 音恐怖症によるめまいの1例. 第84回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 2022.
- 13) 金山友亮, 笹野恭之, 伊藤友祐, 小森学. 外耳道閉鎖術で人工内耳植込術を施行した CHARGE 症候群の一例. 第17回 日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2022.
- 14) 笹野恭之, 金山友亮, 伊藤友祐, 小森学. 急速に症状が進行した Cogan 症候群の小児例. 第16回日本小児耳鼻咽喉科学会, 2022.
- 15) 小森 学. 特別企画「新時代の口腔咽頭科学を切り開く! 新任教授陣による抱負と学会への提言」口腔・咽頭科学会の未来予想図. 第35回口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会, 2022.
- 16) 村上綱亮, 岩武桜子. 頸椎に達した頸部穿通性外傷の1例. 第35回日本口腔・咽頭科学会総会, 2022.
- 17) 晝間清, 多村悠紀, 棚橋淳子. 異時性交代性に発症したアレルギー性真菌性副鼻腔炎と推定される1例. 第71回日本アレルギー学会学術集会, 2022.

- 18) 棚橋淳子, 角田哲人, 西田皓平, 今村愉子, 森田翔, 多村悠紀, 晝間清, 半田寛, 西根広樹, 井上健男, 峯下昌道. 重症喘息患者に対する dupilumab 投与間隔延長の現状. 第 71 回日本アレルギー学会学術集会, 2022.
- 19) 晝間清, 多村悠紀, 森田翔, 棚橋淳子, 今村愉子. 異時性交代性に発症したアレルギー性真菌性副鼻腔炎と推測される 1 例. 第 71 回日本アレルギー学会学術大会, 2022.
- 20) 多村悠紀, 齋藤善光, 赤羽邦彬, 川島孝介, 小森学. 好酸球性副鼻腔炎に対するデュピルマブの有効性の検討. 第 61 回日本鼻科学会総会・学術講演会, 2022.
- 21) 荒井 康裕, 瀬尾 徹, 西尾 信哉, 和田 昂, 高田 顕太郎, 宇佐美 真一, 折館 伸彦. 大人になって診断された CMV 感染症による遅発性内リンパ水腫の 1 例. 第 32 回日本耳科学会総会, 2022.
- 22) 笹野恭之, 稲垣太朗, 小森学. 当科における内リンパ嚢開放術および中耳加圧治療の検討. 第 32 回日本耳科学会, 2022.
- 23) 春日井滋, 神川文彰, 齋藤善光, 小森学. 喉頭軟骨壊死を伴った喉頭癌再発の 1 症例. 第 73 回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 2022.
- 24) 瀬尾 徹, 釧持 新, 岡野洋平, 青海瑞穂, 伊藤友祐, 中村 学, 肥塚 泉, 小森 学. 内リンパ水腫の評価におけるフロセミド負荷 VEMP と内耳造影 MRI の関係. 第 81 回日本めまい平衡医学会, 2022.
- 25) 伊藤友祐, 望月文博, 青海瑞穂, 笹野恭之, 瀬尾 徹, 肥塚 泉, 小森 学. 健常者と前庭疾患における VEMP および回転刺激検査による耳石器機能の比較(第 3 報). 第 81 回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会, 2022.
- 26) 瀬尾 徹, 中村学, 肥塚 泉, 小森 学. 中心軸回転と偏中心軸回転による卵形嚢機能障害の検出. 第 68 回日本宇宙航空環境医学会大会, 2022.
- 27) 笹野恭之, 望月文博, 伊藤友祐, 秋山久尚. 前庭性片頭痛における内耳造影 MRI 検査の検討. 第 50 回日本頭痛学会総会, 2022.
- 28) 深澤雅彦 久保佑介 藤井正文 岩武桜子 神川文彰 春日井滋 小森学. 当科における 75 歳以上の高齢頭頸部がん患者治療の検討. 第 32 回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 2023.
- 29) 藤井正文, 深澤雅彦, 岩武桜子, 神川文彰, 春日井 滋, 小森 学. 当院における下咽頭癌・食道癌の重複癌症例の検討. 第 32 回 日本頭頸部外科学会総会・学術講演会, 2023.
- 30) 小森 学. データから読み解く耳鼻咽喉・頭頸部外科診療. 第 40 回川崎市医師会医学会, 2023.

② 国際学会

- 1) Manabu KOMORI. JWGEES Session Multicenter Study in Japan Pars flaccid and pars tensa cholesteatomas. 4th World Congress on Endoscopic Ear Surgery, 2022.
- 2) Yoshiyuki Sasano, Manabu Komori. Surgical Clipping for the Large Vestibular Aqueduct Syndrome:A Case Report. EES 2022, 2022.
- 3) Toru Seo. Assessment of endolymphatic hydrops by furosemide loading VEMP. IFOS Dubai ENT world congress, 2023.
- 4) Toru Seo, Manabu Nakamura, Izumi Koizuka, Manabu Komori. Assessment for the utricular function using centered and eccentric rotation. 46th Association for Research in Otolaryngology Annual Midwinter Meeting, 2023.
- 5) Yusuke Ito, Fumihiro Mochizuki, Toru Seo, Izumi Koizuka. Comparison of the Schellong test for patients complaining of dizziness/vertigo. Association for Research in Otolaryngology 46th Annual MidWinter Meeting, 2023.

③ その他

- 1) 小森 学. 小児耳鼻咽喉科診療の未来予想図. 第 482 回慈大耳鼻咽喉科会総会・学術講演会, 2022.
- 2) 齋藤善光. 慢性副鼻腔炎に対するデュピルマブの治療効果. Type2 Inflammation Cross-Link Seminar, 2022.
- 3) 小森 学. メニエール病の外科手術 -HYDROPS 時代の内リンパ嚢開放術-. 第 43 回札幌 ENT カンファレンス, 2022.
- 4) 小森 学. あなたの知らない側頭骨手術 -めまい手術と Baha について-. 第 16 回東邦学術フォーラム, 2022.
- 5) 小森 学. 患者中心に医療・療育・行政を結びつける多職種連携システムの構築. 2022 年度 聖マリアンナ医科大学・明治大学共同研究会, 2022.
- 6) 小森 学. 好酸球性中耳炎の Total Care. ECRS Up to Date Forum, 2022.
- 7) 小森 学. より良い耳鼻咽喉科診療に向かって. 第 82 回聖マリアンナ医科大学医学会学術集会, 2022.
- 8) 洲上淳也, 八木橋国博, 蛭間弘光, 大森淳二, 木村裕介, 熊野玲子, 岩武桜子, 長宗我部基弘. 副鼻腔炎手術を契機に診断された NK/T 細胞リンパ腫の 1 例. 神奈川県放射線医学会総会・第 62 回例会, 2022.
- 9) 小森 学. 新時代の小児 OSA 低侵襲手術 扁桃炎・咽頭炎 GL をふまえて. Kyorin Tama WEB seminar, 2022.

- 10) 小森 学. メニエール病の外科手術 HYDROPS 時代の内リンパ嚢開放術. 第 202 回御茶ノ水耳鼻咽喉科・頭頸科治療研究会, 2022.
- 11) 小森 学. 小児睡眠時無呼吸 安全な手術と鼻呼吸の重要性. 川崎市医師会学校医部会 学術講演会, 2023.
- 12) 小森 学. 小児扁桃・アデノイド手術のゲームチェンジャー. 第 21 回県央耳鼻咽喉科臨床研究会, 2023.
- 13) 小森 学. 伝音・混合性難聴に対する人工聴覚器戦略. 第 143 回難聴言語障害研究会, 2023.
- 14) 小森 学. 知ってほしい難聴の治療 届けあなたのことば. 川崎市市民公開講座 知って得する耳鼻咽喉科, 2023.
- 15) 小森 学. 扁桃・アデノイド手術の Game Changer アレルギー性鼻炎も見逃すな. 相模原市耳鼻咽喉科医会学術講演会, 2023.
- 16) 釧持 睦、小森 学. 当院で経験した耳硬化症の一症例. 第 9 回青葉区医師会学術集談会, 2023.
- 17) 小森 学. 小児気管切開の実際. 第 3 回にじいろスマイルの会, 2023.

		和 文	英 文
著 書		5	
論 文	原著	4	5
	解説又は総説	11	
	症例報告	2	1
	その他	2	
学会発表	国内学会	30	
	国際学会		5
	その他	17	

放射線医学

著書

- 1) 縄田晋太郎, 小川普久, 三村秀文. 読影レポート Lesson 血管編 「大動脈瘤」 画像診断 2022;12(42):1184-1188.
- 2) 中村直樹. 放射線療法 がんの痛み治療テキスト 2023;:171-183.
- 3) 中村直樹, ガイドライン作成ワーキンググループ. 総説 3 骨転移の治療とケア
2. 放射線治療の意義 骨転移診療ガイドライン 改訂第2版 2022;:13-13.
- 4) 中村直樹, ガイドライン作成ワーキンググループ. Clinical Question 18 有痛性脊椎転移に体幹部定位放射線治療は有効か? 骨転移診療ガイドライン 改訂第2版 2022;:62-63.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 大槻拓矢, 家研也, 廣瀬雅宣, 本橋伊織, 土田知也, 相原茉莉, 櫛渚, 八木橋国博, 奥瀬千晃, 松田隆秀, 大平善之. 気腫性変化を基礎に有する肺炎患者の予後予測～A-DROP と Goddard 分類を組み合わせた A G - D R O P による評価法～. 日本病院総合診療医学会雑誌, 2022;18(5):332-339.

② その他

- 1) 齋藤祐貴. 【小児画像診断のコツ】読影のコツ (マネージメントのコツ含む) 骨軟部におけるコツ 骨折. 小児科診療, 2022;85:342-348.
- 2) 藤川あつ子. 【小児画像診断のコツ】読影のコツ (マネージメントのコツ含む) 胸部(肺・縦隔)におけるコツ 縦隔腫瘍. 小児科診療, 2022;85:250-256.
- 3) 齋藤祐貴. 【小児画像診断のコツ】検査のコツ 単純X線撮影におけるコツ 骨格系. 小児科診療, 2022;85:24-31.
- 4) 藤川あつ子. 【小児画像診断のコツ】検査のコツ CTにおけるコツ 腹部造影CT. 小児科診療, 2022;85:134-141.
- 5) 中村直樹, 江島泰生. 骨転移キャンサーボードの実態調査. 臨床放射線, 2022;67(4):373-379.
- 6) 蛭間弘光, 藤川あつ子, 三村秀文. 【今日からの診療に役立つ ビジュアルでダイレクトに解説する体表・軟部疾患の検査&臨床画像】画像検査各論 血管腫・血管奇形 血管腫・脈管奇形の画像診断と IVR. 形成外科, 2022;65:s 279-s 294.
- 7) 八木橋国博, 石田光. 【画像でみかける偶発的所見のマネジメント 2022-あなたならどう書く?】胸部 呼吸器 胸膜肥厚. 画像診断, 2022;42(11):A62-A63.
- 8) 松岡伸. 【画像診断レポート ここだけは落とせない! 主治医に伝えるべきポイント】(第3章)呼吸器 閉塞性肺疾患. 臨床放射線, 2022;67(11):1285-1291.
- 9) 和田慎司. 血管外科に関するターミノロジー (第31回) 血管塞栓物質. 血管外科, 2022;41(1):116-119.
- 10) 縄田晋太郎, 小川普久, 三村秀文. 読影レポート Lesson 血管編 大動脈瘤. 画像診断, 2022;42(12):1184-1188.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Kawamoto T, Saito T, Kosugi T, Nakamura N, Wada H, Tonari A, Ogawa H, Mitsuhashi N, Yamada K, Takahashi T, Ito K, Sekii S, Araki N, Nozaki M, Heianna J, Murotani K, Hirano Y, Satoh A, Onoe t, Shikama N. Temporal Profiles of Symptom Scores After Palliative Radiotherapy for Bleeding Gastric Cancer With Adjustment for the Palliative Prognostic Index: An Exploratory Analysis of a Multicentre Prospective Observational Study (JROSG 17-3). Clinical oncology, 2022;34(12):e505-e514.
- 2) Miyauchi Ryosuke, Komita Midori, Matsumura Yosuke, Matsumoto Junichi. Proactive use of whole-body computed tomography and resuscitative endovascular balloon occlusion of the aorta in hemodynamically unstable trauma patients. Journal of endovascular Resuscitation and Trauma Management, 2022;6(1):72-76.
- 3) Tomita Hayato, Yamashiro Tsuneo, Iida Gyo, Tsubakimoto Maho, Mimura Hidefumi, Murayama Sadayuki. Radiomics analysis for differentiating of cervical lymphadenopathy between cancer of unknown primary and malignant lymphoma on unenhanced computed tomography. Nagoya journal of medical science, 2022;84(2):269-285.
- 4) Yamasaki Y, Iida H, Ando T, Goto Y, Suzuki S, Kawasaki T, Ishizaki Y, Sakurai K, Kiyokawa T, Mizushima M, Takakuwa Y, Tonooka K, Yamazaki K, Imamura M, Ooka S, Nagafuchi H, Kawahata K.. Long-term outcomes and chronological lung volumes in patients with interstitial lung disease with anti-aminoacyl tRNA synthetase antibodies and anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibodies. Clinical Rheumatology and Related Research, 2022;34(2):152-165.

- 5) Kataoka Y, Baba T, Ikenoue T, Matsuoka Y, Matsumoto J, Kumasawa J, Tochitani K, Funakoshi H, Hosoda T, Kugimiya A, Shirano M, Hamabe F, Iwata S, Kitamura Y, Goto T, Hamaguchi S, Haraguchi T, Yamamoto S, Sumikawa H, Nishida K, Nishida H, Ariyoshi K, Sugiura H, Nakagawa H, Asaoka T, Yoshida N, Oda R, Koyama T, Iwai Y, Miyashita Y, Okazaki K, Tanizawa K, Handa T, Kido S, Fukuma S, Tomiyama N, Hirai T, Ogura Ti. Development and external validation of a deep learning-based computed tomography classification system for COVID-19. *Annals of Clinical Epidemiology*, 2022;4(4) : 110-119.
- 6) Hasegawa Tetsuya, Arai Yasuaki, Sone Miyuki, Sugawara Shunsuke, Itou Chihiro, Wada Shinji, Umakoshi Noriyuki, Kubo Takatoshi, Kimura Shintaro, Kusumoto Masahiko. Clinical outcomes of image-guided percutaneous drainage of pericardial effusion in cancer patients: A single-center retrospective analysis. *Asia-Pacific Journal of Clinical Oncology*, 2022; : DOI-10.1111/ajco.13810.
- 7) Ito Renma, Nakamura Yoshiaki, Sunakawa Hironori, Fujiwara Hisashi, Hojo Hidehiro, Nakamura Naoki, Fujita Takeo, Yano Tomonori, Daiko Hiroyuki, Akimoto Tetsuo, Yoshino Takayuki, Kojima Takashi. Tumor response and survival outcomes of salvage concurrent chemoradiotherapy with three-dimensional conformal radiotherapy and 5-fluorouracil/platinum-based chemotherapy for postoperative locoregional recurrence of esophageal squamous cell carcinoma. *Esophagus*, 2022; : DOI-10.1007/s10388-022-00936-3.
- 8) Ito Renma, Nakamura Yoshiaki, Sunakawa Hironori, Fujiwara Hisashi, Hojo Hidehiro, Nakamura Naoki, Fujita Takeo, Yano Tomonori, Daiko Hiroyuki, Akimoto Tetsuo, Yoshino Takayuki, Kojima Takashi. Tumor response and survival outcomes of salvage concurrent chemoradiotherapy with three-dimensional conformal radiotherapy and 5-fluorouracil/platinum-based chemotherapy for postoperative locoregional recurrence of esophageal squamous cell carcinoma. *Esophagus*, 2022;19(4) : 645-652.
- 9) Wada Shinji, Matsuoka Shin, Mimura Hidefumi. Inspiratory and expiratory CT analyses of the diaphragmatic crus in chronic obstructive pulmonary disease. *Japanese journal of radiology*, 2022; : DOI-10.1007/s11604-022-01314.
- 10) Uehara Yuko, Matsumoto Yoshihisa, Kosugi Toshifumi, Sone Miyuki, Nakamura Naoki, Mizushima Akio, Miyashita Mitsunori, Morita Tatsuya, Yamaguchi Takuhiro, Satomi Eriko. Availability of and factors related to interventional procedures for refractory pain in patients with cancer: a nationwide survey. *BMC Palliat Care*, 2022;21(1) : 166-166.
- 11) Ito Kei, Saito Tetsuo, Nakamura Naoki, Imano Nobuki, Peter Hoskin. Stereotactic body radiotherapy versus conventional radiotherapy for painful bone metastases: a systematic review and meta-analysis of randomised controlled trials. *Radiation oncology*, 2022;17(1) : 156-156.
- 12) Tomita Hayato, Kuramochi Kenji, Fujikawa Atsuko, Ikeda Hirotaka, Komita Midori, Kurihara Yoshiko, Kobayashi Yasuyuki, Mimura Hidefumi. Effects of model-based iterative reconstruction in low-dose paranasal computed tomography: a comparison with filtered back projection and hybrid iterative reconstruction. *Acta Medica Okayama*, 2022;76(5) : 511-517.
- 13) Saito Tetsuo, Muratani Kenta, Nakamura Naoki, Oya Natsuo. Bias due to statistical handling of death and reirradiation in the assessment of duration of response after palliative radiotherapy: a scoping review and analysis of clinical data. *The British Journal of Radiology*, 2022; : DOI-10.1259/bjr.20220398.
- 14) Yamasaki Y, Ooka S, Matsuoka S, Tomita H, Hirose M, Takano T, Suzuki S, Imamura M, Handa H, Nishine H, Takita M, Minoura A, Morisawa K, Inoue T, Mineshita M, Kawahata K, Takemura H, Fujitani S, Kunishima H. Predicting the aggravation of coronavirus disease-19 pneumonia using chest computed tomography scans. *PloS One*, 2022;3(17) : 11.
- 15) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, Kurokawa MS, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K. Serum gasdermin D levels are associated with the chest computed tomography findings and severity of COVID-19. *Respiratory Investigation*, 2022;60(6) : 750-761.
- 16) Kawamoto Terufumi, Shikama Naoto, Imano Nobuki, Kubota Hikaru, Kosugi Takashi, Sekii Shuhei, Harada Hideyuki, Yamada Kazunari, Naoki Yutaka, Miyazawa Kazunari, Hirano Yasuhiro, Wada Yuki, Tonari Ayako, Saito Tetsuo, Uchida Nobue, Araki Norio, Nakamura Naoki. Incidence of and risk factors for non-hematologic toxicity with combined radiotherapy and CDK4/6 inhibitors in metastatic breast cancer using dose-volume parameters analysis: a multicenter cohort study. *Breast Cancer*, 2022;30(2) : 282-292.

- 17) Zenda Sadamoto, Ara Yasunori, Sugawara Shunsuke, Inaba Yoshitaka, Hashimoto Kazuki, Yamamoto Kouji, Saigusa Yusuke, Kawaguchi Takashi, Shimada Sanae, Yokoyama Marie, Miyaji Tempei, Okano Tomoka, Nakamura Naoki, Kobayashi Eisuke, Takagi Tatsuya, Matsumoto Yoshihisa, Uchitomi Yosuke, Sone Miyuki. Protocol for a confirmatory trial of the effectiveness and safety of palliative arterial embolization for painful bone metastases. *BMC Cancer*, 2023;23(1) : 1-8.
- 18) Ishiki Hiroto, Kikawa Yuichiro, Terada Mitsumi, Mizusawa Junki, Honda Michitaka, Iwatasni Tsuguo, Mizutani Tomonori, Mori Keita, Nakamura Naoki, Miyaji Tempei, Yamaguchi Takuhiro, Ando Masahiro, Nakamura Kenichi, Fukuda Haruhiko, Kiyota Naomi; PRO/QOL research Committee of Japan Clinical Oncology Group. Patient-reported outcome and quality of life research policy: Japan Clinical Oncology Group (JCOG) policy. *Japanese journal of clinical oncology*, 2023; : doi-10.1093/jjco/hyad007..
- 19) Imano Nobuki, Saito Tetsuo, Peter Hoskin, Nakamura Naoki, Ito Kei, Yoroze Atsunori, Nishibuchi Ikuno, Murakami Yuji, Nagata Yasushi. Pain response rates after conventional radiation therapy for bone metastases assessed using the international consensus pain response endpoints: a systematic review and meta-analysis of initial radiation therapy and re-irradiation. *International journal of radiation oncology, biology, physics*, 2023;116(4) : 739-746.
- 20) Nobuyuki Sasaki, Masato Yamatoku, Tomoya Tsuchida, Hiroyuki Sato, Keiichi Yamaguchi.. Effect of Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation on Long Coronavirus Disease 2019 with Fatigue and Cognitive Dysfunction. *Progress in Rehabilitation Medicine*, 2023;8 : doi: 10.2490/prm.20230004.
- 21) Takakuwa Y, Yamasaki Y, Matsushita H, Kiyokawa T, Mizushima M, Tonooka K, Nagafuchi H, Matsuo S, Ooka S, Kawahata K. Long-term survival, causes of death, and prognostic factors for mortality in patients with microscopic polyangiitis and those with anti-neutrophil cytoplasmic antibody-positive interstitial lung disease: A single-center retrospective study. *International journal of rheumatic diseases*, 2023;26(3) : 446-453.
- 22) Ishiki Hiroto, Kikawa Yuichiro, Terada Mitsumi, Mizusawa Junki, Honda Michitaka, Iwatani Tsuguo, Mizutani Tomonori, Mori Keita, Nakamura Naoki, Miyaji Tempei, Yamaguchi Takuhiro, Ando Masahiro, Nakamura Kenichi, Fukuda Haruhiko, Kiyota Naomi. Patient-reported outcome and quality of life research policy: Japan Clinical Oncology Group (JCOG) policy. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, 2023;53(3) : 195-202.

② 症例報告

- 1) Ogawa Yukihiisa, Kubota Manabu, Takagi Masayuki, Hidefumi Mimura. A feasibility study of percutaneous transhepatic gallbladder filling (PTGBF) in a swine model. *Minimally Invasive Therapy & Allied Technologies*, 2022; : DOI-10.1080/13645706.2022.2080509.
- 2) Saito Tetsuo, Nakamura Naoki, Oya Natsuo. A neuropathic component of tumor-related pain as a predictor of good response to palliative radiotherapy. *Radiotherapy and Oncology*, 2022;175 : 17.
- 3) Hiruma Hiromitsu, Ogawa Yukihiisa, Chiba Kiyoshi, Nawata Shintaro, Kotoku Akiyuki, Maruhashi Takaaki, Mimura Hidefumi, Miyairi Takeshi, Nishimaki Hiroshi. Clinical utility of emergency thoracic endovascular aortic repair and timing of definitive surgery in esophageal cancer patients with Aortoesophageal fistula. *Annals of Vascular Surgery - Brief Report and Innovation*, 2022;2(3) : DOI-10.1016/j.avsurg.2022.100117.
- 4) Hamaguchi Shingo, Michigami Yoshihiro, Inoue Masanori, Tsukamoto Kaoru, Wada Shinji, Ogawa Yukihiisa. Successful treatment of chylous ascites by superselective embolization of the inflowing lymphatic vessels using a steerable microcatheter: a case study. *Radiology Case Reports*, 2022;17(9) : 3205-3208.
- 5) Fuchigami Junya, Wada Shinji, Ishida Hikaru, Hashimoto Kazuki, Yoshida Keisuke, Kohatsu Kaori, Mumura Hidefumi. Development of ileocolic artery pseudoaneurysm after renal biopsy. *Radiology case reports*, 2022;17(11) : 4413-4416.
- 6) Okumura Norihisa, Okada Yukinori, Kumai Keiichi, Hosokawa Tomomitsu, Oonuma Jiro, Takata Yuichi, Ito Masatoshi. The changes in the 18F FDG metabolism in the muscles by the use of cuboid support insoles. *Indian Journal of Nuclear Medicine*, 2022;37(2) : 178-185.

③ その他

- 1) Aokage Keiju, Tsuboi Masahiro, Zenke Yoshitaka, Horinouchi Hidehito, Nakamura Naoki, Ishikura Satoshi, Nishikawa Hiroyoshi, Kumagai Shogo, Koyama Shohei, Kanato Keisuke, Kataoka Tomoko, Wakabayashi Masashi, Fukutani Miki, Fukuda Haruhiko, Ohe Yuichiro, Watanabe Shun-ichi, Lung Cancer Surgical Study Group of the Japan Clinical Oncology Group. Study protocol for JCOG1807C (DEEP OCEAN): a interventional prospective trial to evaluate the efficacy and safety of durvalumab before and after operation or durvalumab as maintenance therapy after chemoradiotherapy against superior sulcus non-small cell lung cancer. Japanese Journal of Clinical Oncology, 2022;52(4) : 383-387.
- 2) Saito Tetsuo, Nakamura Naoki, Oya Natsuo. A neuropathic component of tumor-related pain as a predictor of good response to palliative radiotherapy. Journal of the European society for therapeutic radiology and oncology, 2022; : DOI-10.1016/j.rsdonc.2022.08.006.
- 3) Saito Tetsuo, Nakamura Naoki, Oya Natsuo. A neuropathic component of tumor-related pain as a predictor of good response to palliative radiotherapy. Radiotherapy and oncology, 2022;175(17) : DOI-10.1016/j.radonc.2022.08.006.
- 4) Hashimoto Kazuki, Nawata Shintaro, Wada Shinji, Mimura Hidefumi. Comment on: Endovascular Stenting in Superior Vena Cava Syndrome: A Systematic Review and Meta-analysis. CardioVascular and Interventional Radiology, 2022;46(11) : 168-169.

学会発表

① 国内学会

- 1) 齋藤祐貴. 救急外来で遭遇する小児腹部救急疾患. 第 81 回日本医学放射線学会総会, 2022.
- 2) 藤川あつ子. Child Death Review に際して死因検索高度化をめぐる医学的・社会的課題について. 第 125 回日本小児科学会学術集会, 2022.
- 3) 藤川あつ子. CT 画像を用いた患者の体重推定の検討. 第 81 回日本医学放射線学会総会, 2022.
- 4) 古田繁行, 藤川あつ子, 大山慧, 田中邦英, 川口皓平, 北川博昭. Nuss 手術は脊柱変形に影響を与えるのか?. 第 59 回日本小児外科学会学術集会, 2022.
- 5) 渡邊春花, 大山慧, 田中邦英, 川口皓平, 渡邊康大, 長田洋資, 藤川あつ子, 古田繁行. 外傷性肺動脈損傷の 4 歳女児例. 第 58 回日本小児放射線学会学術集会, 2022.
- 6) Junji Omori, Shunsuke Sugawara, Miyuki Sone, Chihiro Itou, Shintaro Kimura, Mizuki Ozawa, Yuji Koretune, Masahiko Kusumoto, Yasuaki Arai. Weight of specimens obtained with seven different biopsy needles:an experimental study. 第 51 回 IVR 学会総会, 2022.
- 7) Mizuki Ozawa, Miyuki Sone, Shunsuke Sugawara, Chihiro Itou, Shintaro Kimura, Junji Omori, Yuji Koretune, Yasuaki Arai, Masahiko Kusumoto. The Necessity of the Anticoagulation Therapy after IVC Stent Placement in Cancer Patients. 第 51 回 IVR 学会総会, 2022.
- 8) 橋本一樹. 骨転移に対する IVR. 第 51 回日本 IVR 学会総会, 2022.
- 9) 縄田晋太郎, 小川普久, 千葉清, 杵渕聡志, 中村竜士, 富田真央, 谷川和好, 三村秀文, 宮入剛, 西巻博. Improved outcomes of endograft repair of internal iliac artery aneurysm compared with embolization. 第 51 回日本 IVR 学会総会, 2022.
- 10) 廣石篤司, 藤川あつ子, 福元拓郎, 大出創, 齋藤祐貴, 三村秀文, 勝田友博, 長江千愛, 清水直樹. 血球貪食性リンパ組織球症の 2 例. 第 58 回小児放射線科学会学術集会, 2022.
- 11) Yuji Koretune, Shunsuke Sugawara, Miyuki Sone, Chihiro Itou, Shintaro Kimura, Junji Omori, Mizuki Ozawa, Yasuaki Arai, Ayumu Arakawa, Chitose Ogawa, Masahiko Kusumoto. Central Venous ports in infants:review of a 11-year experience. 第 51 回 IVR 学会総会, 2022.
- 12) 小川普久. TEVAR の Up-to-date. 第 51 回日本 IVR 学会総会, 2022.
- 13) 森本毅, 木村裕介, 藤川あつ子, 三村秀文. 空腸間膜内異所性膵の一例. 第 35 回日本腹部放射線学会, 2022.
- 14) 中村直樹. 放射線治療医からみた脊椎転移に対する多診療科診療の重要性. 第 12 回最小侵襲脊椎治療学会, 2022.
- 15) 小川普久. 本邦におけるエクスクルーダー-IBE の実カ-マルチセンターレジストリから-. 第 28 回日本血管内治療学会学術総会, 2022.
- 16) 縄田晋太郎, 小川普久, 千葉清, 杵渕聡志, 中村竜士, 富田真央, 谷川和好, 三村秀文, 宮入剛, 西巻博. 当院における内腸骨動脈瘤の血管内治療成績:塞栓単独群と塞栓+ステントグラフト留置併用群の比較. 第 28 回日本血管内治療学会学術総会, 2022.

- 17) ◎原口貴史、後藤由香、古谷悠子、瀧下茉莉子、津川浩一郎、印牧義英、小林泰之. Axillary lymph node metastasis prediction with FFDM and s2D mammography based on machine learning. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 18) 川本久紀, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 坂本菜央, 中野万理, 田維瑞穂, 黒田貴子, 敦賀智子, 吉江玲子, 志茂彩華, 小島康幸, 秋山恭子, 志茂新, 都築麻紀子, 本吉愛, 白英, 河原太, 印牧義英, 福田護, 津川浩一郎. 早期の原発性乳がんに対する経皮的超音波ガイド下凍結療法安全性と有効性のPilot Study. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 19) 敦賀智子, 酒巻香織, 坂本菜央, 喜多島美奈, 瀧下茉莉子, 田維瑞穂, 中野万理, 黒田貴子, 志茂彩華, 志茂新, 本吉愛, 小島康幸, 川本久紀, 印牧義英, 福田護, 津川浩一郎. 乳房温存術後の放射線療法を省略した非浸潤性乳管癌の治療成績. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 20) 中村直樹. 緩和照射の適正使用を目指すうえでの多職種・多診療科連携の重要性. 第27回日本緩和医療学会学術大会, 2022.
- 21) 森川松次郎, 橋本一樹, 大杉真也, 縄田晋太郎, 和田慎司, 富田隼人, 小川普久, 濱口真吾, 三村秀文, 菱田吉明. 選択的副甲状腺サンプリングにて原発性副甲状腺機能亢進症の局在診断をしえた一例. 第33回関東IVR研究会, 2022.
- 22) 込田みどり, 橋本一樹, 昆祐理, 縄田晋太郎, 和田慎司, 富田隼人, 西尾美佐子, 小川普久, 濱口真吾, 三村秀文. 後上腕回旋動脈損傷に対するTAEを施行した1例. 第33回関東IVR研究会, 2022.
- 23) 麻生健太郎, 長田洋資, 桜井研三, 中野茉莉恵, 升森智香子, 小徳暁生. 心臓のMRIのT1 mappingを加えることで心筋性状評価が可能となった心筋疾患の3例～遅延造影だけでは見落とす可能性がある～. 第58回日本小児循環器学会, 2022.
- 24) 長田洋資, 桜井研三, 中野茉莉恵, 升森智香子, 紺野愛, 渡邊康大, 麻生健太郎, 橋本一樹, 藤川あつ子. Fontan術後の難治性PLEの病態確認のための造影MR lymphangiography. 第58回日本小児循環器学会, 2022.
- 25) 渡邊春花, 大山慧, 田中邦英, 川口皓平, 渡邊康大, 長田洋資, 藤川あつ子, 清水直樹, 古田繁行. 血管アクセスを留置してActive observationを行った外傷性肺動脈損傷の4歳女児例. 第35回日本小児救急医学会学術集会, 2022.
- 26) ◎家 研也, 八木橋 国博, 橋本 一樹, 大岡 正道, 関 征央, 内田 竜二, 酒井翼, 本橋 伊織, 奥瀬 千晃, 松田 隆秀, 大平 善之. シェーグレン症候群のステロイド抵抗性乳び胸に胸管塞栓術が有用であった1例. 第25回日本病院総合診療医学会学術総会, 2022.
- 27) 道下由紀子, 宮寄治, 今井絢子, 岡本礼子, 堤義之, 宮坂実木子, 金森豊, 左合治彦, 野坂俊介. 食道閉鎖症の胎児MRI診断: 評価指標の検討. 第58回日本医学放射線医学会秋季臨床大会, 2022.
- 28) 藤川あつ子. 小児頸部嚢胞性病変の画像診断. 第58回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2022.
- 29) 込田みどり, 森本毅, 木村裕介, 和田慎司, 橋本一樹, 三村秀文, 與座直利, 薄場渉, 西智弘, 菊地栄次. 陰茎海綿体腫瘍の1例. 第58回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2022.
- 30) 小川普久, 西尾美佐子, 縄田晋太郎, 和田慎司, 橋本一樹, 濱口真吾, 三村秀文, 長谷部光泉. 産科危機的出血に対するIVR. 第58回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2022.
- 31) 藤塚進司. イメージインタープリテーション: 症例5 泌尿器. 第58回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2022.
- 32) 齋藤祐貴. 手・手関節疾患(外傷・神経絞扼など)のMRI. 第50回日本磁気共鳴医学会大会, 2022.
- 33) ◎中村竜士, 千葉清, 杵渕聡志, 北翔太, 縄田晋太郎, 駒ヶ嶺正英, 小川普久, 縄田寛, 小林慎二郎, 西巻博, 宮入剛. 腹腔動脈分枝血管における解離性多発動脈瘤に対するハイブリッド治療の1例. 第30回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 2022.
- 34) ◎河津理, 金森玲, 大原樹, 遠藤拓, 竹内淳, 横道憲幸, 成木佐瑛子, 藤川あつ子, 西尾美佐子, 久慈志保, 近藤春裕, 戸澤晃子, 小池淳樹, 三村秀文, 鈴木直. 術前の画像診断が治療方針の決定に有用となった、異所性妊娠との鑑別を要した臨床的侵入奇胎の一例. JSAWI 2022, 2022.
- 35) ◎千葉 清, 西巻 博, 縄田晋太郎, 中村竜士, 杵渕聡志, 北 翔太, 富田真央, 駒ヶ嶺正英, 縄田 寛, 近田正英, 宮入 剛. 慢性B型大動脈解離に対する血管内治療の課題. 第63回日本脈管学会総会, 2022.
- 36) 縄田晋太郎, 小川普久, 千葉清, 杵渕聡志, 谷川和好, 駒ヶ嶺正英, 丸橋孝昭, 三村秀文, 宮入剛, 西巻博. EVAR後の瘤径拡大に対するoverhaul conceptの臨床的有用性の検証. 第63回日本脈管学会総会, 2022.
- 37) 三村秀文. 静脈奇形の硬化療法. 第63回日本脈管学会総会, 2022.
- 38) ◎千葉清, 西巻博, 小川普久, 縄田晋太郎, 中村竜士, 杵渕聡志, 北翔太, 駒ヶ嶺正英, 縄田寛, 近田正英, 宮入剛. 慢性B型大動脈解離に対する血管内治療の課題. 第63回日本脈管学会総会, 2022.
- 39) 西川徹, 印牧義英, 小島康幸, 横田健一, 曾根正勝, 福田護, 津川浩一郎. 甲状腺がん術後再発診断における全身MRI検査(DWIBS法)の有用性. 第65回日本甲状腺学会学術集会, 2022.
- 40) 戸塚雄介, 八木橋国博. 「想定外疾患の見落とし防止体制の構築に向けて」一適切な患者フォローアップの確認一. 第17回 医療の質・安全学会学術集会, 2022.
- 41) 中村直樹. 体幹部定位放射線治療の緩和照射への応用と課題 放射線治療医の立場から. 第14回日本放射線外科学会, 2023.

- 42) ◎富田真央, 縄田寛, 千葉清, 西巻博, 谷川和好, 縄田晋太郎, 駒ヶ嶺正英, 北翔太, 杵渕聡志, 中村竜士, 向後美沙, 近田正英, 宮入剛. 肝臓癌を合併した下腔十二指腸動脈瘤および腹腔動脈起始部閉塞に対する一次的外科治療の一例. 第158回神奈川県臨床外科医学学会集談会, 2023.
- 43) 中村直樹. 骨転移に対する高精度放射線治療. 第36回高精度放射線外部照射部会学術大会, 2023.
- 44) 和田慎司, 大杉真也, 井田圭亮, 森本毅, 松本純一, 三村秀文. 脾損傷に対しREBOA下に2回TAEを施行した症例. 第59回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 45) 和田慎司, 橋本一樹, 濱口真吾, 三村秀文. 当院における小児に対する経皮的腹腔ドレナージ. 第59回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 46) 中村直樹. 骨転移に対する集学的治療における放射線療法意義. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.
- 47) 西川徹, 小島康幸, 月山秀一, 横田健一, 曾根正勝, 谷澤雅彦, 篠田和伸, 道下由紀子, 印牧義英, 津川浩一郎. 当院における副甲状腺機能亢進症に対する手術治療～院内連携なくして治療はできない～. 聖マリアンナ医科大学医学部第83回学術集会, 2023.
- 48) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, S.Kurokawa M, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K.. Pyroptosis-apoptosis imbalance affects the severity and chest CT findings in COVID-19. 第62回日本呼吸器学会学術講演会, 2022.
- 49) 小川普久. How do I treat? - Effective embolization with fewer coils-. 第51回日本IVR学会総会, 2022.
- 50) 橋本一樹, 土屋洋輔, 和田慎司, 小川普久, 濱口真吾, 西尾美佐子, 三村秀文. A fundamental study of foam sclerosant made by EOI. 第51回日本IVR学会総会, 2022.
- 51) 昆祐理, 松本 純一, 藤谷茂樹, 小川普久, 橋本一樹, 和田慎司, 三村秀文. VV-ECMO留置中のCOVID19肺炎に対するTAE症例の検討. 第51回日本IVR学会総会, 2022.
- 52) 小川普久. Ideal peripheral branch embolization using iED coils taking advantage of its features. 第51回日本IVR学会総会, 2022.
- 53) 渕上真希, 小川普久, 縄田晋太郎, 渕上淳也, 駒ヶ嶺正英, 千葉清, 杵渕聡志, 三村秀文, 宮入剛, 西巻博. Iliac neck dilatation causing ruptured abdominal aortic aneurysm previously treated with EVAR. 第51回日本IVR学会総会, 2022.
- 54) 和田慎司, 渕上真希, 蛭間弘光, 橋本一樹, 小川普久, 三村秀文. A case of percutaneous transrenal biopsy of a renal vein inferior vena cava tumor. 第51回日本IVR学会総会, 2022.
- 55) 和田慎司. Foot avm (case discussion). 第51回日本IVR学会総会, 2022.
- 56) 渕上淳也, 和田慎司, 石田光, 渕上真希, 濱崎樹里亜, 福元拓郎, 大杉真也, 蛭間弘光, 細井康太郎, 縄田晋太郎, 富田隼人, 橋本一樹, 小川普久, 三村秀文. Transcatheter arterial embolization of an ileocolic artery pseudoaneurysm after kidney biopsy. 第51回日本IVR学会総会, 2022.
- 57) 蛭間弘光, 和田慎司, 縄田晋太郎, 橋本一樹, 横道憲幸, 久慈志保, 菊地栄次, 鈴木直, 三村秀文. Uterine STUMP with huge arteriovenous fistula treated surgically post embolization: a case report. 第51回日本IVR学会総会, 2022.

② 国際学会

- 1) Ishida Hikaru, Matsumoto Junichi, Morimoto Tsuyoshi, Michishita Yukiko, Fujitani Shigeki, Mimura Hidefumi. No time to dye: how to diagnose and manage critical diseases with non-contrast enhanced CT. American Society of Emergency Radiology 2022 Annual Meeting, 2022.
- 2) Michishita Yukiko, Matsumoto Junichi, Ishida Hikaru, Mimura Hidefumi. No Time to Dye: How to diagnose and manage critical diseases with non-contrast enhanced CT. The Radiological Society of North America (RSNA) 2022, Scientific Assembly and Annual Meeting, 2022.

③ その他

- 1) 中村直樹. 乳癌骨転移に対する放射線治療. 第64回東海乳腺疾患懇話会, 2022.
- 2) 中村直樹. 緩和的放射線治療の上手な使い方. 日本緩和医療学会第33回教育セミナー, 2022.
- 3) 小川普久. IBE内腸骨動脈温存の意義を考える. EVENING OF CLINICAL DISCUSSION, 2022.
- 4) 小林真梨子. 乳癌に対する放射線治療. 聖マリアンナ医科大学病院地域連携WEBセミナー, 2022.
- 5) 濱口真吾. 「救急外来における診断へのアプローチ」と「緊急IVRのビットホール」. FCA-Webinar in Yokohama, 2022.
- 6) 中村直樹. 骨転移に対する放射線治療 最近の話題. 第30回名古屋放射線夏季セミナー, 2022.
- 7) 藤川あつ子. 画像診断ガイドライン最新版2 小児. Society of Advanced Medical Imaging 2022, 2022.
- 8) 三村秀文. 機器・ソフトの進歩2 IVR. Society of Advanced Medical Imaging 2022, 2022.
- 9) 中村直樹. コンセプト作成のいろは. 日本放射線腫瘍学会第23回放射線腫瘍学夏季セミナー, 2022.

- 10) 土手季, 齋藤祐貴, 和田慎司, 藤川あつ子, 森本毅, 三村秀文. 胃軸捻症の1例. 第33回日本救急放射線研究会, 2022.
- 11) 小西秀弥. 診療所から依頼を頂き緩和照射を行った症例の報告. 第38回浜松緩和ケア研究会, 2022.
- 12) 洲上淳也, 八木橋国博, 蛭間弘光, 大森淳二, 木村裕介, 熊野玲子, 岩武桜子, 長宗我部基弘. 副鼻腔炎手術を契機に診断されたNK/T細胞リンパ腫の1例. 神奈川県放射線医会総会・第62回例会, 2022.
- 13) 中村直樹. こわくない緩和的放射線治療. 千葉県がん患者大集合 2022, 2022.
- 14) 山口慶一郎. 当院におけるPETとSPECTの運用法. PET/CTセミナー, 2022.
- 15) 中村直樹. 腎癌骨転移に対する放射線治療. 腎癌骨転移における放射線治療療法・全身療法の最前線, 2022.
- 16) 濱口真吾. 椎間板穿刺の技術的工夫～ISOP法の椎体外への応用. 第33回Radiology Seminar, 2023.
- 17) 中村直樹. 脊椎転移に対する放射線治療. 第61回大阪脊椎フォーラム, 2023.
- 18) 縄田晋太郎, 西巻博, 千葉清, 杵渕聡志, 谷川和好, 富田真央, 三村秀文, 宮入剛. 若年発症の特発性鎖骨下動脈仮性瘤に対して血管内治療を行った一例. 第9回救急外傷IVR症例検討会, 2023.
- 19) 蛭間弘光. 異物による多発腸重責. 第399回東京レントゲンカンファレンス, 2023.
- 20) 橋本一樹. 3D針による内頸穿刺 臨床使用経験報告. TERUMO Webinar 新開発「3D針」の臨床使用経験 ～確実留置で医療従事者・患者の負担軽減を目指して～, 2023.
- 21) Toru Nishikawa, Yoshihide Kanemaki, Yasuyuki Kojima, Kenichi Yokota, Masakatsu Sone, Mamoru Fukuda, Koichiro Tsugawa. Is non-contrast MRI useful in the Localization of parathyroid tumors?. 29th Czech-Japan Surgical Symposium YOKOHAMA2022, 2022.
- 22) 中村直樹. Re-irradiation. IAEA/RCA PROJECT RAS 6098 REGIONAL TRAINING COURSE, 2022.

		和 文	英 文
著 書		4	
論 文	原著	1	22
	解説又は総説		
	症例報告		6
	その他	10	4
学会発表	国内学会	47	10
	国際学会		2
	その他	20	2

麻酔学

著書

- 1) 井上 莊一郎. 術後の疼痛管理 最新主要文献とガイドラインでみる
麻酔科学レビュー2022 2022; (1):253-258.
- 2) 井上 莊一郎, 小幡由美. 術後疼痛管理 ハートチームのための 心臓血管外科手術 周術期管理のすべて 2023; (2):126-133.
- 3) 清野雄介. 術中経食道心エコー検査 (TEE) ハートチームのための 心臓血管外科手術 周術期管理のすべて
2023; (2):189-195.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 浜辺宏介, 井上 莊一郎, 吉川昂成, 川名由樹, 森田さおり, 永納和子. COVID-19 感染防御対策は麻酔に関連する手術室占有時間に影響を及ぼさない. 臨床麻酔, 2022;46(10):1319-1323.
- ② 総説又は症例解説
- 1) 井上 莊一郎. 術後痛を軽減させるための要点. 臨床麻酔, 2022;46(12):1549-1556.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Kimura M, Yamauchi J, Sato T, Yagishita N, Araya N, Aratani S, Tanabe K, Horibe E, Watanabe T, Coler-Reilly A, Nagasaka M, Akasu Y, Kaburagi K, Kikuchi T, Shibata S, Matsumoto H, Koseki A, Inoue S, Takata A, Yamano Y.. Health-related quality of life evaluation using the Short Form-36 in patients with human T-Lymphotropic leukemia virus type 1-associated myelopathy. *Frontiers in Medicine*, 2022;9:879379.
- 2) Takae Seido, Furuta Shigeyuki, Iwahata Hideyuki, Iwahata Yuriko, Keino Dai, Kanamori Ryo, Oyama Kei, Tanaka Kunihide, Shiraishi Eriko, Suzuki Yuki, Sugishita Yodo, Horage Yuki, Sakamoto Miki, Mori Tetsuya, Kitagawa Hiroaki, Suzuki Nao. Cryopreservation of paediatric ovarian tissue with an updated version of the Edinburgh criteria for appropriate patient selection. *Reproductive biomedicine online*, 2022;44(4):667-676.
- 3) Ryota Yanaizumi, Yusuke Nagamine, Shinsuke Harada, Tomoko Kuramochi, Shuhei Ota, Yoichiro Abe, Masayuki Nakagawa, Kenya Kamijima, Maya Hayashi, Toshiharu Tazawa, Kenichi Ogawa, Takahisa Goto.. Efficacy and Safety of Neurolytic Splanchnic Nerve Block via Transintervertebra Disc Approach to Retrocrural Space: A Multicenter Retrospective Study. *Pain and Therapy*, 2022;11(4):1359-1372.
- 4) Hirokiyo Nomura, Takanari Yoshikawa, Kosuke Hamabe, Shoichiro Takehara, and Soichiro Inoue.. Comparison of Intubation Time, Head Movements, and Gaze Distribution during Tracheal Intubation Using a Video Laryngoscope between Experts and Novices. *Journal of St. Marianna University*, 2022;13(2):77-86.

学会発表

① 国内学会

- 1) 濱田悠佑, 大胡田駿, 長島聡志, 野秋裕真, 渡邊智生, 五十嵐義浩, 大川修, 佐藤 賢治, 吉田徹, 井上 莊一郎, 藤谷茂樹. AVALON ダブルルーメンカテーテルの再循環率. 第 32 回日本臨床工学会及び 2022 年度公益社団法人日本臨床工学技士会総会, 2022.
- 2) 濱田悠佑, 大胡田駿, 永井琴子, 川口裕正, 五十嵐義浩, 中島礼, 大野俊夫, 大川修, 佐藤賢治, 吉田徹, 井上 莊一郎, 藤谷茂樹. AVALON ダブルルーメンカテーテルの適応体格の検討. 第 32 回日本臨床工学会及び 2022 年度公益社団法人日本臨床工学技士会総会, 2022.
- 3) 浜辺宏介, 井上 莊一郎, 吉川昂成, 森田さおり, 永納和子. COVID-19 感染防御対策は麻酔に関連する手術室占有時間に影響を及ぼさない. 日本麻酔科学会第 69 回学術集会, 2022.
- 4) 大井智, 升森泰, 加藤篤子, 内藤善介, 高木摩衣. 術前の麻酔説明に用いる、「手術麻酔に関する動画」に関係するアンケート調査. 日本麻酔科学会第 69 回学術集会, 2022.
- 5) 山浦綾子, 小幡由美, 杉毬那, 野村浩清, 中山知沙香, 井上 莊一郎. カテーテルアブレーション治療におけるレミマゾラムと揮発性吸入麻酔薬の循環動態への影響に関する検討. 日本麻酔科学会第 69 回学術集会, 2022.
- 6) 小幡由美, 奥田紘隆, 坂本三樹, 井上 莊一郎. 僧帽弁形成術前に SAM を予測できなかった 2 症例の検討. 日本心臓血管麻酔学会第 27 回学術大会, 2022.

- 7) 佐藤未祐奈, 森田さおり, 吉川昂成, 奥田紘隆, 坂本三樹, 井上莊一郎. 外傷性気管損傷がある患者の周術期管理経験. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部第 62 回合同学術集会, 2022.
- 8) 竹田真子, 小幡由美, 井上莊一郎. 重症肺 MAC 症患者に術前介入し全身麻酔で管理できた 1 例. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部第 62 回合同学術集会, 2022.
- 9) 野村浩清, 吉川昂成, 浜辺宏介, 井上莊一郎. McGrath®を用いた気管挿管時の初心者と熟年者の視点分布と施行時間の比較. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部第 62 回合同学術集会, 2022.
- 10) 清野雄介. 低心機能患者の術中術後輸液管理. 日本心臓血管麻酔学会第 27 回学術大会, 2022.
- 11) 井上莊一郎. 生体刺激による疼痛治療. 第 4 回日本スティミュレーションセラピー学会学術大会 in 鹿児島, 2022.
- 12) 大坪毅人, 民上真也, 井上莊一郎, 坂本三樹, 山崎桂. 魅力ある手術室の理想と当院の現状. 第 44 回日本手術医学会総会, 2022.
- 13) 虻川由紀, 奥田紘隆, 林田牧人, 清野雄介, 井上莊一郎. 発症当初に非閉塞性腸管虚血が疑われた敗血症ショック症例. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 14) 大胡田駿, 濱田悠佑, 五十嵐義浩, 佐藤賢治, 大川修, 井上莊一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹. AVALON ダブルルーメンカテーテルの留置位置の検討. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 15) 石川淳哉, 清野雄介, 佐藤暢夫, 吉田拓生, 中川雅史, 吉田拓也, 星野あつみ, 幸野真樹, 野村岳志. 気道と栄養上の問題を持つ患者に対し, 経空腸栄養を用いて良好に管理しえた一例. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 16) 松下真也, 石川淳哉, 佐藤暢夫, 吉田拓生, 木内直人, 吉田拓也, 幸野真樹, 星野あつみ, 中川雅史, 清野雄介, 野村岳志. 糖尿病性ケトアシドーシス治療中にプロポフォールによる急性肺炎を発症した一例. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 17) 松下真也, 佐藤暢夫, 清野雄介, 石川淳哉, 幸野真樹, 星野あつみ, 吉田拓生, 吉田拓也, 木内直人, 中川雅史, 野村岳志. 徐々に進行する換気不良により, 診断に難渋した小児気管チューブ狭窄の一例. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 18) 奥田紘隆, 虻川由紀, 林田牧人, 佐藤未祐奈, 清野雄介, 井上莊一郎. 緊急切開排膿を要する頸部膿瘍患者の術後腎障害予測. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 19) 米澤唯, 吉川昂成, 丹羽康則, 井上莊一郎. 急性間欠性ボルフィリン症合併妊婦の帝王切開術の麻酔管理. 神奈川麻酔科医会 第 54 回学術集会, 2023.
- 20) 坂本三樹. PICC(抹消挿入式中心静脈カテーテル) ハンズオンセミナー. 神奈川麻酔科医会 第 54 回学術集会, 2023.
- 21) 田澤利治. 麻酔科医のサブスペシャリティとしてのペインクリニック・緩和ケア—今後の担い手をふやしていくために—. 神奈川麻酔科医会 第 54 回学術集会, 2023.

② その他

- 1) 小幡由美. カテーテルアブレーションとレミマゾラム. 第 2 回神奈川静脈麻酔アカデミー, 2022.
- 2) 井上莊一郎. 急性痛管理のトピックス. 第 35 回青函ペインクリニック研究会, 2022.
- 3) 内藤善介. レミマゾラムによりビーチチェア一位で血圧低下なく管理できた一例. 第 1 回 Kanagawa Intra-Venous Anesthesia Online meeting, 2022.
- 4) 井上莊一郎. 帯状疱疹に伴う神経障害性疼痛に関して. 痛みの治療フォーラム Online Seminar, 2022.
- 5) 坂本三樹. 麻酔科医の立場からの AS 患者の他科との連携. AS 治療戦略セミナー, 2023.
- 6) 清野雄介. With コロナ時代の重症病棟のあり方. 第 44 回成和会合同学会, 2023.
- 7) 坂本三樹. 経カテーテル治療における周術期モニタリング. 第 37 回 経食堂心エコー講習会, 2023.
- 8) 清野雄介. ICUにおける心筋保護不全の診断・治療. 日本心筋保護研究会 第 3 回教育セミナー, 2023.
- 9) 竹田真子. レミマゾラムの生体腎移植への使用経験. 第 3 回 Kanagawa Intra-Venous Anesthesia online meeting, 2023.

		和 文	英 文
著 書		3	
論 文	原著	1	4
	解説又は総説	1	
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	21	
	国際学会		
	その他	9	

救急医学

著書

- 1) 足立拓也, 鮎沢衛, 氏家無限, 大曲貴夫, 織田順, 加藤康幸, 神谷元, 川名明彦, 忽那賢志, 小谷透, 鈴木忠樹, 多屋馨子, 徳田浩一, 橋本修, 馳亮太, 早川智, 藤田次郎, 藤野裕士, 迎寛, 森村尚登, 倭正也, 横山彰仁, 斎藤浩輝, 船木孝則, 勝田友博, 菅秀, 津川毅. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 診療の手引き・第 8.0 版 2022;(8):5-72.
- 2) 船越拓, 東秀律, 内藤啓子, 小野寺隆太, 山内素直, 竹内慎哉, 白根翔悟, 竹原慧, 小林郁絵, 大前奈菜, 石上雄一郎, 飯尾純一郎, 中澤太一, 横山和久, 石垣佳織, 田中駿, 菅谷明彦, 茂野綾美, 梁豪晟, 井上敦人, 松本大賀, 森浩介, 飯塚祐基, 本間洋輔, 岩田耕生, 沼田賢治, 嘉村洋志, 瀬田宏哉. 救急外来でコミュニケーションに困ったとき読む本 2023;;1-356.
- 3) 横山仁志, 川口剛史. C 理学療法士は, 適応, 禁忌, テクニックのエビデンス, および進歩の理解を含む以下のテクニックができる
C-10. 人工呼吸患者のモビライゼーション (例 端座位, 立位, リフターやスライドによる椅子への移乗, 足踏み, 歩行, 歩行補助具の使用) 理学療法士 集中治療 テキスト 2023;;302-303.
- 4) 横山仁志, 川口剛史. C 理学療法士は, 適応, 禁忌, テクニックのエビデンス, および進歩の理解を含む以下のテクニックができる
C-9. 非人工呼吸患者のモビライゼーション (例 端座位, 立位, リフターやスライドによる椅子への移乗, 足踏み, 歩行, 歩行補助具の使用) 理学療法士 集中治療 テキスト 2023;;302-313.
- 5) 横山仁志, 川口剛史. C 理学療法士は, 適応, 禁忌, テクニックのエビデンス, および進歩の理解を含む以下のテクニックができる
C-11. ベッド上運動 (例 他動・自動・抵抗下での ROM 運動, 頸部・体幹の他動・自動運動も含む) 理学療法士 集中治療 テキスト 2023;;314-320.
- 6) 松嶋真哉, 斎藤浩輝. F 理学療法士は, 以下のことを実施することができる
2. 安全管理 (転倒・ルート抜きの予防) 理学療法士 集中治療 テキスト 2023;;394-398.
- 7) 松嶋真哉, 斎藤浩輝. F 理学療法士は, 以下のことを実施することができる
3. チューブやライン類の固定の確認 理学療法士 集中治療 テキスト 2023;;399-402.
- 8) 松嶋真哉, 斎藤浩輝. F 理学療法士は, 以下のことを実施することができる
4. 身体抑制具の適切な解除と装着 理学療法士 集中治療 テキスト 2023;;403-407.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 小向潤, 松本健二, 康史朗, 蒲田脩圭里, 米田佳美, 永石真知子, 吉田英樹. 新型コロナウイルス感染症に対するステロイド投与後に塗抹陽性肺結核と診断された事例. 結核, 2022;97(3):211-212.
- 2) 田北無門, 吉田徹, 尾崎将之, 川口剛史, 森澤健一郎, 平泰彦, 藤谷茂樹. 集中治療後にハイケアユニットに入室した高齢者の死亡率と滞在期間に影響する要因. 日本救命医療学会雑誌, 2022;36:1-9.
- 3) 吉田稔, 平泰彦, 尾崎将之, 斎藤浩輝, 吉田徹, 榊井良裕, 藤谷茂樹. 分離肺換気における肺保護戦略: 片側肺炎 2 例の Mechanical power を用いた後ろ向き検討. 日本救命医療学会雑誌, 2022;36(2022):14-18.
- 4) 吉田稔, 角和恵, 宮城朋果, 内藤みなみ, 田中優子, 岡田晋一郎, 山口貴宣, 斎藤浩輝, 毛利健, 吉田徹. 複合微量元素製剤末梢静脈投与が有効であった亜鉛・銅欠乏合併難治性創傷の 1 例. 学会誌 JSPEN, 2022;4(4-5):183-188.
- 5) 鈴木桜子, 若竹春明, 斎藤浩輝, 金澤実, 森内麻美, 栗栖美由希, 永富彰仁, 榊井良裕. 壊疽性膿瘍を呈し緑膿菌による敗血症を併発した症例. 日本救急医学会関東地方会雑誌, 2022;43(4):198-201.

② 総説又は症例解説

- 1) 土井研人, 河合佑亮, 卯野木健, 相嶋一登, 小倉崇以, 高木俊介, 志馬伸朗, 橋本悟, 垣花泰之, 谷口巧, 藤谷茂樹, 土井松幸, 武居哲洋, 西田修, 日本集中治療医学会理事会. Recommendations for resilient intensive care providing system in Japan 我が国の集中治療医療提供体制を強化するための提言. Journal of the Japanese Society of Intensive Care Medicine, 2022;29(5):485-492.
- 2) 昆祐理. 【チームで取り組む! 救急ナースが知っておきたい外傷初期診療のキホン】(Chapter 1) 知識編「画像診断」 外傷患者では、いつ、何を見る? 何を探す? 撮像の目的を中心に. Emer Log, 2022;35(2):183-190.
- 3) 鈴木由美, 斎藤浩輝. たのしく学んで、さあ、始めよう! WHO の手指衛生多角的戦略! 第 3 回 本戦略の導入のための土台をつくる. INFECTION CONTROL, 2022;31(4):422-425.

- 4) 田邊翔太, 吉田英樹. 集中治療に関する最新厳選 20 論文. INTENSIVIST, 2022;14(2) : 451-457.
- 5) 徳永英彦, 津久田純平. 心肺蘇生の生理学-プロトコル化された CPR の根拠と未来の CPR の可能性. INTENSIVIST, 2022;14(2) : 317-329.
- 6) 北野夕佳. 症例から学ぶ-電解質と体液量管理のベストアンサー 体液量の管理 体液量減少 これって volume over? volume. Medicina, 2022;59(5) : 670-675.
- 7) 本多英喜, 藤谷茂樹. COVID-19 診療の最前線から 現場の医師による報告 (Vol. 16) COVID-19 後遺症 COVID-19 重症患者の後遺症への対応が急がれる. 医学のあゆみ B 型肝炎ウイルスに対する飽くなき挑戦, 2022;281(3) : 275-281.
- 8) 坂本 健一, 川上 和美, 齋藤 浩輝. 【物・人・事から組織まで総力で臨む手指衛生戦略】手指衛生の人材戦略 指導者養成トレーニング(TTT)の最前線 ジュネーヴ大学による手指衛生指導者育成セミナーを知る. 感染対策 ICT ジャーナル, 2022;17(2) : 116-123.
- 9) 坂本健一, 川上和美, 齋藤浩輝. 指導者養成トレーニング (TTT) の最前線-ジュネーヴ大学による手指衛生指導者育成セミナーを知る. 感染対策 ICT ジャーナル, 2022;17(2) : 116-123.
- 10) 林晃一, 今井直彦. 1 ページでわかる内科疾患の診療ノート-“あたりまえ”のなかにある大事な視点 (第 10 章)腎臓 腎硬化症. 臨床雑誌内科, 2022;129(4) : 1019-1022.
- 11) 鈴木由美, 齋藤浩輝. たのしく学んで、さあ、始めよう! WHO の手指衛生多角的戦略!(第 4 回) 1 の要素 物品設備. INFECTION CONTROL, 2022;31(5) : 444-447.
- 12) 三池慧, 吉田英樹, 藤谷茂樹. 【パンデミック感染症 COVID-19 を経験して-危機管理の視点からの考察】臨床像 救命センターの視点. 臨床と微生物, 2022;49(3) : 211-216.
- 13) 山崎さつき, 吉田徹. Rapid Response System. 集中治療医学レビュー, 2022;23 : 314-319.
- 14) 平泰彦. 特集 薬剤師の集中治療, 救急への参画 特集にあたって. ICU と CCU, 2022;46(6) : 319-319.
- 15) 前田貴史, 内藤貴基. 【明日起こりうる急変対応 リーダーはあなた!】急変対応の基本 RRS って何?. レジデントノート, 2022;24(4) : 591-596.
- 16) 吉田徹, 藤谷茂樹. 行動目標 6 急変時の迅速対応. 患者安全・医療安全 実践ハンドブック, 2022;46(8) : 191-192.
- 17) 鈴木由美, 齋藤浩輝. たのしく学んで、さあ、始めよう!WHO の手指衛生多角的戦略!(第 5 回) 2 の要素 研修教育. INFECTION CONTROL, 2022;31(7) : 664-667.
- 18) 吉田稔. CCU における静脈栄養 (アクセス、介入タイミング、投与量、リスクマネジメント). 心不全栄養バイブル, 2022; : 124-133.
- 19) 山田万里央, 内藤貴基. 【Rapid Response System を再確認する】Rapid Response System 海外研究最前線. ICU と CCU, 2022;46(8) : 463-469.
- 20) 櫻井千浪, 吉田徹, 三上翔平, 藤谷茂樹. 【Rapid Response System を再確認する】迅速対応システム (Rapid Response System:RRS) の現状と課題. ICU と CCU, 2022;46(8) : 451-456.
- 21) 鈴木由美, 齋藤浩輝. たのしく学んで、さあ、始めよう!WHO の手指衛生多角的戦略!(第 6 回) 3 の要素 測定評価 Evaluation and feedback. INFECTION CONTROL, 2022;31(8) : 814-817.
- 22) 田邊翔太, 吉田英樹. 集中治療に関する最新厳選 20 論文. INTENSIVIST, 2022;14(3) : 636-642.
- 23) 北野夕佳. 【身体診察】総論編 身体診察総論 まずは「通しの身体診察」を実現, 継続しよう!. Hospitalist, 2022;10(1) : 5-15.
- 24) 山田万里央, 北野夕佳. 【身体診察】手の診察 手を触れることから始まる, 身体所見の宝庫. Hospitalist, 2022;10(1) : 105-114.
- 25) 鈴木由美, 齋藤浩輝. たのしく学んで、さあ、始めよう! WHO の手指衛生多角的戦略! 4 の要素 : 現場掲示 Reminders in the workplace. INFECTION CONTROL, 2022;31(9) : 10-13.
- 26) 鈴木由美, 齋藤浩輝. 今アツい!感染界限 MyTopic 薬剤耐性 (Antimicrobial Resistance, AMR) はどんな影響をもたらしている?. INFECTION CONTROL 2022 年 9 月号, 2022;31(9) : 72-74.
- 27) 土井研人, 河合佑亮, 卯野木健, 相嶋一登, 小倉崇以, 高木俊介, 志馬伸朗, 橋本悟, 垣花泰之, 谷口巧, 藤谷茂樹, 土松幸, 武居哲洋, 西田修, 日本集中治療医学会理事会. 我が国の集中治療医療提供体制を強靱化するための提言. 日本集中治療医学会雑誌, 2022;29(5) : 485-492.
- 28) 田邊翔太, 吉田英樹. 集中治療に関する最新厳選 20 論文. INTENSIVIST, 2022;14(4) : 871-877.
- 29) 牛田享宏, 岡部信彦, 加藤康幸, 釜范敏, 喜多村祐里, 忽那賢志, 下畑享良, 高尾昌樹, 高橋晶, 辻本哲士, 野出孝一, 福永興彦, 三輪高喜, 向野雅彦, 森内浩幸, 横山彰仁, 吉川徹, 渡辺大輔, 渡辺宏久, 五十嵐侑, 石井誠, 大平雅之, 岸拓弥, 桑原政成, 小柳憲司, 齋藤浩輝, 立石清一郎, 寺井秀樹, 南宮湖, 馬場研二, 船木孝則, 松原貴子. 別冊 罹患後症状のマネジメント 第 2.0 版. 新型コロナウイルス感染症 (19-COVID) 診療の手引き, 2022; : 1-61.

- 30) 川口剛史. 【ER スタンダード@ショック】(Part 2)対応力を磨く とはいえ、クリアカットにできない患者は? 蘇生輸液の安全域が狭いケースでの対応方針を押さえる. BeyondER, 2022;1(1):160-162.
 - 31) 堀川武宏, 北野夕佳. 【腎を救うのはあなた!急性腎障害の診かた AKI の初期評価から腎代替療法、コンサルトまで長期フォローにつなげる“一歩早い”診療のコツ】AKI に有用な画像検査・モニター管理 重篤な合併症の評価. レジデントノート, 2022;24(12):2065-2073.
 - 32) 堀川武宏, 北野夕佳. 【腎を救うのはあなた!急性腎障害の診かた AKI の初期評価から腎代替療法、コンサルトまで長期フォローにつなげる“一歩早い”診療のコツ】AKI に有用な画像検査・モニター管理 体液量の評価. レジデントノート, 2022;24(12):2055-2064.
 - 33) 北野夕佳. 35号 身体診察 身体診察と「車の両輪」の病歴聴取 問診力も「型」にして習得!. HOSPITALIST, 2022;10(2):347-356.
 - 34) 田邊翔太, 吉田英樹. 集中治療に関する最新厳選 20 論文. INTENSIVIST, 2023;15(1):169-175.
 - 35) 山田万里央, 北野夕佳. 【“じゃないほう”の消化器症状-潜んでいる他領域疾患を見逃さない】[Chapter 2]腹痛で受診した患者の……? 急性腸間膜虚血 腸間膜動脈血栓症, 腸間膜動脈血栓症, 非閉塞性腸間膜虚血, 上腸間膜静脈血栓症. 臨床雑誌内科, 2023;131(1):52-57.
- ③ 症例報告
- 1) 清野奈々恵, 伊藤英道, 内田将司, 藤谷茂樹, 田中雄一郎. 脳血管内治療後に穿刺部仮性動脈瘤を生じた高位大腿動脈分岐の1例. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2022;50(3):85-91.
 - 2) 星野俊, 清水高弘, 藤井修一, 柳澤俊之, 長谷川泰弘, 山野嘉久. New-Onset Refractory Status Epilepticus の治療経過中に両手指足趾にテタニー様症状を呈した 39 歳女性例. 神経治療学, 2022;39(1):37-41.
 - 3) 吉田稔, 角和恵, 宮城朋果, 内藤みなみ, 田中優子, 岡田晋一郎, 斎藤浩輝, 毛利健, 吉田徹. 複合微量元素製剤末梢静脈投与が有効であった亜鉛・銅欠乏合併難治性創傷の1例. 学会誌 JSPEN, 2022;4(4-5):183-188.
 - 4) 佐藤 健太郎, 北野 夕佳, 遠藤 渉, 吉田 徹, 藤谷 茂樹, 平 泰彦. 急速に大腿から腹部まで進展した壊死性筋膜炎に対し股関節離断を回避し社会復帰した一例. 日本救命医療学会 雑誌, 2023;37:7-13.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) REMAP-CAP Writing Committee for the REMAP-CAP Investigators: Charlotte A Bradbury, Patrick R Lawler,...Hiroki Saito.... Effect of Antiplatelet Therapy on Survival and Organ Support-Free Days in Critically Ill Patients With COVID-19 A Randomized Clinical Trial. JAMA : the journal of the American Medical Association, 2022;; DOI-10.1001/jama.2022.2910.
- 2) Wakatake H, Hayashi K, Kitano Y, Hsu HC, Yoshida T, Masui Y, Taira Y, Fujitani S. Eleven-year retrospective study characterizing patients with severe brain damage and poor neurological prognosis -role of physicians' attitude toward life-sustaining treatment. BMC Palliative Care, 2022;21(1): DOI-10.1186/s12904-022-00975-8.
- 3) Miyauchi Ryosuke, Komita Midori, Matsumura Yosuke, Matsumoto Junichi. Proactive use of whole-body computed tomography and resuscitative endovascular balloon occlusion of the aorta in hemodynamically unstable trauma patients. Journal of endovascular Resuscitation and Trauma Management, 2022;6(1):72-76.
- 4) Hosoda Tomohiro, Hamada Shota, Numata Kenji, Saito Yutaka, Yamazaki Satsuki, Minoura Ayu, Sakamoto Mitsuo, Fujitani Shigeki. Intensive care burden of COVID-19 in tertiary care hospitals during the first year of outbreak in Kawasaki City, Japan: A retrospective cohort study. Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of Chemotherapy, 2022;28(5):678-683.
- 5) Takita M, Yoshida T, Tsuchida T, Nakagama Y, Kido Y, Suzuki S, Imamura M, Kawahata K, Shimizu G, Yoshida H, Morikawa D, Kawaguchi T, Fujii S, Tsukuda J, Motohashi T, Fujitani S. Low SARS-CoV-2 antibody titers may be associated with poor clinical outcomes for patients with severe COVID-19. Scientific Reports, 2022;12(1):9147.

- 6) Kataoka Y, Baba T, Ikenoue T, Matsuoka Y, Matsumoto J, Kumasawa J, Tochtani K, Funakoshi H, Hosoda T, Kugimiya A, Shirano M, Hamabe F, Iwata S, Kitamura Y, Goto T, Hamaguchi S, Haraguchi T, Yamamoto S, Sumikawa H, Nishida K, Nishida H, Ariyoshi K, Sugiura H, Nakagawa H, Asaoka T, Yoshida N, Oda R, Koyama T, Iwai Y, Miyashita Y, Okazaki K, Tanizawa K, Handa T, Kido S, Fukuma S, Tomiyama N, Hirai T, Ogura Ti. Development and external validation of a deep learning-based computed tomography classification system for COVID-19. *Annals of Clinical Epidemiology*, 2022;4(4) : 110-119.
- 7) Di Zhu, Zhen Zhang, Jianli Zhao, Demin Liu, Lu Gan, Wayne Bond Lau, Dina Xie, Zhijun Meng, Peng Yao, Tsukuda Jumpei , Theodore A Christopher, Bernard L Lopez, Erhe Gao, Walter J Koch, Yajing Wang, Xin-Liang Ma. Targeting Adiponectin Receptor 1 Phosphorylation Against Ischemic Heart Failure. *Circulation research*, 2022;131(2) : e34-e50.
- 8) Namkoong H, Edahiro R, Takano T, Nishihara H, Shirai Y, Sonehara K, Tanaka H, Azekawa S, Mikami Y, Lee H, Hasegawa T, Okudela K, Okuzaki D, Motooka D, Kanai M, Naito T, Yamamoto K, Wang QS, Saiki R, Ishihara R, Matsubara Y, Hamamoto J, Hayashi H, Yoshimura Y, Tachikawa N, Yanagita E, Hyugaji T, Shimizu E,...,Tsuchida T, Fujitani S, Takita M, Morikawa D, Yoshida T, Izumo T, Inomata M,...,Komase Y, Hida N, Tsuburai T, Oyama B,...,Shimada H, Endo M, Ohira Y, Watanabe M,...,Fukunaga K,Okada Y. DOCK2 is involved in the host genetics and biology of severe COVID-19. DOCK2 is involved in the host genetics and biology of severe COVID-19. *Nature*, 2022;609(7928) : 754-760.
- 9) Wang QS, Edahiro R, Namkoong H, Hasegawa T, Shirai Y, Sonehara K, Tanaka H, Lee H, Saiki R, Hyugaji T, Shimizu E, Katayama K, Kanai M, Naito T, Sasa N, Yamamoto K, Kato Y, Morita T, Takahashi K, Harada N, Naito T, Hiki M, Matsushita Y, Takagi H, Ichikawa M, Nakamura A, Harada S, Sandhu Y, Kabata H, Masaki K,...,Tsuchida T, Fujitani S, Takita M, Morikawa D, Yoshida T, Izumo T,..., Komase Y, Hida N, Tsuburai T, Oyama B, Takada M, Kanda H, Kitagawa Y, Fukuta T,...,Endo M, Ohira Y, Watanabe M, Inoue S,..., Okada Y. The whole blood transcriptional regulation landscape in 465 COVID-19 infected samples from Japan COVID-19 Task Force Miyake T, Yoshida S, Ogura S, Abe S. The whole blood transcriptional regulation landscape in 465 COVID-19 infected samples from Japan COVID-19 Task Force. *Nature Communications*, 2022;13(1) : 4830.
- 10) Yoshida H, Motohashi T, Liesbet De Bus, Jan De Waele, Takaba A, Kuriyama A, Kobayashi A, Tanaka C, Hashi H, Hashimoto H, Nashiki H, Shibata M, Kanamoto M, Inoue M, Hashimoto S, Katayama S, Fujiwara S, Kameda S, Shindo S, Suzuki T, Komuro T, Kawagishi T, Kawano Y, Fujita Y, Kida Y, Hara Y, Fujitani S, DIANA Study Japanese group. Use of broad-spectrum antimicrobials for more than 72 h and the detection of multidrug-resistant bacteria in Japanese intensive care units: a multicenter retrospective cohort study. *Antimicrobial Resistance & Infection Control*, 2022;11(1) : 119.
- 11) Minoura Ayu, Yoshida Toru, Yamazaki Satsuki, Kanamitsu Yoko, Kon Yuri, Matsumoto Junichi ,Fujitani Shigeki. Estimation of Possible Causes of Out-of-Hospital Cardiac Arrest Using the Modified Clinical Thrombolysis in Myocardial Infarction Risk and Agatston Score: A Retrospective Observational Study. *Journal of St.Marianna*, 2022;13(1) : 9-21.
- 12) Numata Kenji, Sato Kentaro, Fujitani Shigeki, Kobayashi Daiki. Respiratory Failure in COVID-19 with Awake Prone Positioning and HFNC Therapy: Aggravating Factors. *Disaster medicine and public health preparedness*, 2022;16(5) : 1732-1734.
- 13) Nomoto H, Saito H, Ishikane M, Gu Y, Ohmagari N, Didier Pittet, Kunishima H, Benedetta Allegranzi, Yoshida M. First nationwide survey of infection prevention and control among healthcare facilities in Japan: impact of the national regulatory system. *Antimicrobial resistance & infection control*, 2022;11(1) : DOI-10.1186/s13756-022-01175-y.
- 14) Miyakawa Y, Imada K, Ichikawa S, Uchiyama H, Ueda Y, Yonezawa A, Fujitani S, Ogawa Y, Matsushita T, Asakura H, Nishio K, Suzuki K, Hashimoto Y, Murakami H, Tahara S, Tanaka T, Matsumoto M. The efficacy and safety of caplacizumab in Japanese patients with immune-mediated thrombotic thrombocytopenic purpura: an open-label phase 2/3 study. *International journal of hematology*, 2022; : DOI : -10.1007/s12185-022-03495-6.
- 15) Yamasaki Y, Ooka S, Matsuoka S, Tomita H, Hirose M, Takano T, Suzuki S, Imamura M, Handa H, Nishine H, Takita M, Minoura A, Morisawa K, Inoue T, Mineshita M, Kawahata K, Takemura H, Fujitani S, Kunishima H. Predicting the aggravation of coronavirus disease-19 pneumonia using chest computed tomography scans. *PloS One*, 2022;3(17) : 11.

- 16) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, Kurokawa MS, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K. Serum gasdermin D levels are associated with the chest computed tomography findings and severity of COVID-19. *Respiratory Investigation*, 2022;60(6) : 750-761.
- 17) Authors/Members of the Writing Committee for the REMAP-CAP Investigators:…; Ichihara N, …Saito H, … . Long-term (180-Day) Outcomes in Critically Ill Patients With COVID-19 in the REMAP-CAP Randomized Clinical Trial. *JAMA*, 2022; : DOI-10.1001/jama.2022.23257.
- 18) Yamada T, Ehara J, Funakoshi H, Endo K, Kitano Y.. Effectiveness of point of care ultrasound (POCUS) simulation course and skills retention for Japanese nurse practitioners. *BMC Nursing*, 2023;22(1) : DOI-10.1186/s12912-023-01183-2..
- 19) Writing Committee for the REMAP-CAP Investigators; Alisa M Higgins, Lindsay R Berry, Elizabeth Lorenzi, Srinivas Murthy, Zoe McQuilten, … Saito H, … Cameron Green, Roger J Lewis, Derek C Angus, Colin J McArthur, Scott Berry , Lennie P G Derde, Anthony C Gordon, Steve A Webb, Patrick R Lawler. Long-term (180-Day) Outcomes in Critically Ill Patients With COVID-19 in the REMAP-CAP Randomized Clinical Trial. *JAMA : the journal of the American Medical Association*, 2023;329(1) : 39-51.
- 20) Nakagawara K, Kamata H, Chubachi S, Namkoong H, Tanaka H, Lee H, Otake S, Fukushima T, Kusumoto T, Morita A, Azekawa S, Watase M, Asakura T, Masaki K, Ishii M, Endo A, Koike R, Ishikura H, Takata T, Matsushita Y, Harada N, Kokutou H, Yoshiyama T, Kataoka K, Mutoh Y, Miyawaki M, Ueda S, Ono H, Ono T, Shoko T, Muranaka H, Kawamura K, Mori N, Mochimaru T, Fukui M, Chihara Y, Nagasaki Y, Okamoto M, Amishima M, Odani T, Tani M, Nishi K, Shirai Y, Eda Hiro R, Ando A, Hashimoto N, Ogura S, Kitagawa Y, Kita T, Kagaya T, Kimura Y, Miyazawa N, Tsuchida T, Fujitani S, Murakami K, …Miyano S, Hasegawa N, Ogawa S, Kanai T, Fukunaga K; Japan COVID-19 Task Force.. Diagnostic significance of secondary bacteremia in patients with COVID-19. *Journal of Infection and Chemotherapy*, 2023;29(4) : 422-426.
- 21) Okazaki T, Kawakami D, Fujitani S, Shinohara N, Kawakita K, Kuroda Y, J-PICS study group Affiliations expand. Potential Interaction Between Sepsis and Acute Respiratory Distress Syndrome and Effect on the 6-Month Clinical Outcomes: A Preliminary Secondary Analysis of a Prospective Observational Study. *Journal of Intensive Care Medicine*, 2023;38(1) : 60-69.
- 22) Ito A, Shime N, Fujishima S, Fujitani S, Komiya K, Philipp Schuetz. An algorithm for PCT-guided antimicrobial therapy: a consensus statement by Japanese experts. *Clinical chemistry and laboratory medicine*, 2023;61(3) : 407-411.
- 23) Inada M, Ichihara N, Saito H. Global landscape of randomized controlled trials responding to the COVID-19 pandemic: a literature review protocol. *F1000Research*, 2023;1 : doi.-org/10.12688/f1000research.129241.1.
- 24) Alexis Tabah, Niccolò Buetti, Quentin Staiquly, …The members of the Eurobact 2 Study Group are: …Yoshida H, Fujitani S, … Saito H, Atobe K, … . Epidemiology and outcomes of hospital-acquired bloodstream infections in intensive care unit patients: the EUROBACT-2 international cohort study. *Intensive Care Medicine*, 2023;49 : 178-190.
- 25) Endo K, Hayashi K, Hara Y, Miyake A, Takano K, Horikawa T, Yoshino K, Sakai M, Kitamura K, Ito S, Imai N, Fujitani S, Suzuki T. Impact of early initiation of renin-angiotensin blockade on renal function and clinical outcomes in patients with hypertensive emergency: a retrospective cohort study. *BMC Nephrology*, 2023; : doi-org/10.1186/s12882-023-03117-1.
- 26) Mitaka H, Fujitani S, Kuno T, David C Perlman. Association between follow-up blood cultures for gram-negative bacilli bacteremia and length of hospital stay and duration of antibiotic treatment: A propensity score-matched cohort study. *Infection Control and Hospital Epidemiology*, 2023;44(3) : 474-479.
- 27) Miyakawa Y, Imada K, Ichikawa S, Uchiyama H, Ueda Y, Yonezawa A, Fujitani S, Ogawa Y, Matsushita T, Asakura H, Nishio K, Suzuki K, Hashimoto Y, Murakami H, Tahara S, Tanaka T, Matsumoto M. The efficacy and safety of caplacizumab in Japanese patients with immune-mediated thrombotic thrombocytopenic purpura: an open-label phase 2/3. *International Journal of Hematology*, 2023;117(3) : 366-377.
- 28) Saito H. International platform trials: as diseases cross borders, so should trials. *THE LANCET infectious Diseases*, 2023; : DOI:-/10.1016/S1473-3099(23)00193-7.

- 29) Kawaguchi T, Tsukuda J, Onoe R, Morisawa K, Yoshida T, Hayashi K, Fujitani S. Association between regional cerebral oxygen saturation and outcome of patients with out-of-hospital cardiac arrest: An observational study. Resuscitation Plus, 2023;13 : doi. -/10.1016/j.resplu.2022.100343.

② 症例報告

- 1) Tanii R, Harada S, Saito H, Okamoto K, Doi Y, Suzuki M. A case report of fatal COVID-19 complicated by rapidly progressive sepsis caused by Klebsiella variicola. BMC Infectious Diseases, 2023; : DOI-10.1186/s12879-023-08128-9.

学会発表

① 国内学会

- 1) 小林芳邦, 佐藤如雄, 庄司達朗, 土井駿一, 本田圭, 金光陽子, 桑田真吾, 奥山和明, 古賀将史, 渡部美佳, 出雲昌樹, 原田智雄, 明石嘉浩. TAVI 術中に左房内異常構造物が出現! ? 経食道心エコー図で観察し得た一例. 日本心エコー図学会第33回学術集会, 2022.
- 2) 中菌健一, 齋藤浩輝, 一原直昭, 加藤英明, 國島広之, 吉田英樹, 藤谷茂樹, 田野島玲大, 小谷祐樹. 国際共同臨床試験 (REMAP-CAP) 日本地域研究管理委員会における薬剤師の活動と役割. 第96回日本感染症学会総会・学術講演会, 2022.
- 3) 木庭茂, 中菌健一, 田野島玲大, 吉田英樹, 加藤英明, 國島広之, 齋藤浩輝, 一原直昭, 藤谷茂樹. 市中肺炎における経験的抗菌薬投与およびマクロライド投与 国際プラットフォーム試験 REMAP-CAP への参加の実際. 第96回日本感染症学会総会・学術講演会, 2022.
- 4) 齋藤浩輝. 集中治療における COVID-19 とその影響. 第96回日本感染症学会総会・学術講演会, 2022.
- 5) 辻大河, 吉田稔, 山口貴宣, 清雲聡子, 内藤みなみ, 宮城朋果, 内倉淑男, 岩澤孝昌, 吉田徹, 藤谷茂樹. 2-1 β ヒドロキシ酪酸を用いて敗血症を契機とした飢餓性ケトアシドーシスを診断し治癒し得た1例. 第13回日本臨床栄養代謝学会首都圏支部会学術集会, 2022.
- 6) 濱田悠佑, 大胡田駿, 長島聡志, 野秋裕真, 渡邊智生, 五十嵐義浩, 大川修, 佐藤賢治, 吉田徹, 井上莊一郎, 藤谷茂樹. AVALON ダブルルーメンカテーテルの再循環率. 第32回日本臨床工学会及び2022年度公益社団法人日本臨床工学技士会総会, 2022.
- 7) 濱田悠佑, 大胡田駿, 永井琴子, 川口裕正, 五十嵐義浩, 中島礼, 大野俊夫, 大川修, 佐藤賢治, 吉田徹, 井上莊一郎, 藤谷茂樹. AVALON ダブルルーメンカテーテルの適応体格の検討. 第32回日本臨床工学会及び2022年度公益社団法人日本臨床工学技士会総会, 2022.
- 8) ◎佐藤健太郎, 平野貴章, 遠藤渉, 飯沼雅央, 金澤実, 森澤健一郎, 藤谷茂樹, 仁木久照. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下でも整形外科緊急手術の入室遅延は発生しない. 第95回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 9) ◎佐藤健太郎, 平野貴章, 遠藤渉, 飯沼雅央, 金澤実, 森澤健一郎, 藤谷茂樹, 仁木久照. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) を念頭に置いた整形外科緊急手術までの時間の検討. 第95回日本整形外科学会学術総会, 2022.
- 10) 松本純一. I was blind, but now I see ～ポータブル胸部単純 X 線写真, どう撮る? どう読む?～. 第25回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 11) 佐藤優, 大村樹, 宅間洸士郎, 高倉永治, 昆祐理, 松本純一, 吉田徹, 藤谷茂樹. モバイルCアームを用いた COVID-19 Avalon ダブルルーメンカテーテル (VV-ECMO) の挿入経験. 第25回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 12) 伊藤竜彦, 北野夕佳, 安藤大吾, 谷井梨美, 森澤健一郎, 齋藤浩輝, 若竹春明, 榊井良裕, 平泰彦, 藤谷茂樹. COVID-19 患者の転院搬送におけるドクターカー積極利用の取り組み. 第25回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 13) 永富彰仁, 若竹春明, 北野夕佳, 榊井良裕, 平泰彦, 藤谷茂樹. COVID-19 流行期における脳卒中症例の救急搬送時間と診断に要した時間 ～当院における後方視的評価～. 第25回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 14) 老沼大輔, 伊藤竜彦, 森澤健一郎, 滝澤章太, 齋藤健斗, 平泰彦, 藤谷茂樹. COVID-19 の最大感染数を記録した第5波を乗り越えて ～救命調整員による迅速な応需と転院の実績～. 第25回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 15) 藤谷茂樹. 勇の探求: 効果的な Rapid response system とは. 第25回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 16) 田中拓, 野村悠, 安食孝士, 上山裕二, 宮道亮輔, 菅原亮, 高橋恒存, 黒谷一志, 西頭知宏, 田邊翔太. へき地発! 総合医に役立つ整形手技ハンズオンセミナー. 第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 2022.
- 17) 藤谷茂樹. 院内急変対応体制: Rapid Response System と集中治療. 日本集中治療医学会 第6回東海北陸支部学術集会, 2022.
- 18) ◎中本悠輔, 前畑忠輝, 佐藤義典, 高松由佳, 伊東文生. 内視鏡時の急変に対する Rapid response system の有用性について. 第114回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 2022.

- 19) 斎藤浩輝. WHO 手指衛生多角的戦略に基づく“Train the Trainer” 手指衛生指導者育成セミナー：“Adapt to Adopt” . 第 37 回日本環境感染学会総会・学術集会, 2022.
- 20) 倉骨美恵子, 斎藤 浩輝, 浅野美奈子, 小澤賀子, 川上和美, 黒木利恵, 坂本健一, 島中延枝, 杉崎ゆかり, 鈴木由美, 田村祐子, 豊留有香, 林三千雄, 濱田亜弥, 平松玉江, 細川聖子, 松本千秋, 岡本耕, 森野誠子. Train the Trainer in hand hygiene—Japan—WHO 手指衛生多角的戦略に基づく手指衛生指導者育成セミナー “Trainer” の経験. 第 37 回日本環境感染学会総会・学術集会, 2022.
- 21) 若竹春明, 斎藤浩樹, 松本香, 内田ゆかり, 中菌健一, 田中洋輔, 細谷美鈴. Elizabethkingia anophelis による敗血症症例に関連した環境感染の調査報告. 第 37 回日本環境感染学会総会・学術集会, 2022.
- 22) 伊藤竜彦, 森みさ子, 吉田稔, 川畑亜加里, 森佑希, 清水朋子, 斎藤浩輝, 小野寺英孝, 吉田徹. 急性期転院における栄養連携～調整者同士の転院から栄養継続連携の第一歩～. 第 8 回神奈川急性期栄養管理研究会, 2022.
- 23) 森内麻美. 最新論文 20 選 2022 年～忙しいあなたのために～. ACP 日本支部年次総会・講演会 2022, 2022.
- 24) 堤健. 最新論文 20 選 2022 年～忙しいあなたのために～. ACP 日本支部年次総会・講演会 2022, 2022.
- 25) 山田万里央. 最新論文 20 選 2022 年～忙しいあなたのために～. ACP 日本支部年次総会・講演会 2022, 2022.
- 26) 吉田徹, 谷井梨美, 森川大樹, 内藤貴基, 藤谷茂樹, 北野夕佳, 田中拓, 伊藤誠, 橋本悟, 木村哲也. Early warning score 算出アプリケーションによる RRS への取り組み. 第 33 回日本臨床モニター学会総会, 2022.
- 27) 永富彰仁. 当院における COVID19 肺炎症例の抜管後嚥下障害の調査. 第 59 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2022.
- 28) 藤本佳久. 神経集中治療におけるモニタリングを身近に感じてもらいます 経頭蓋カラー Doppler 法 (TC-CFI) を臨床でどう活用するか?. 第 33 回日本臨床モニター学会総会, 2022.
- 29) 藤本佳久. POCUS(Point-of-Care Ultrasonography)の Clinical Evidence を問う! 頭蓋内圧上昇に対する経頭蓋カラー Doppler 法 (TC-CFI) の臨床における有効性. 第 33 回日本臨床モニター学会総会, 2022.
- 30) 佐藤健太郎, 森澤健一郎, 遠藤渉, 森川大樹, 昆祐理, 松本純一, 下澤信彦, 吉田徹, 藤谷茂樹, 平泰彦. 4 年間の MTP 経験から見てきた当院での課題とその対策: 単施設観察研究. 第 36 回日本外傷学会総会・学術集会, 2022.
- 31) 佐藤健太郎, 昆祐理, 内田将司, 森川大樹, 松本純一, 下澤信彦, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹, 平泰彦. 積極的な画像利用を含む COVID19 診療フローを用いて診断し得た重症頭部外傷の一例. 第 36 回日本外傷学会総会・学術集会, 2022.
- 32) 若竹春明, 斎藤浩輝, 堤健, 細谷美鈴, 中菌健一, 松本香, 内田ゆかり, 佐野文明. Elizabethkingia anophelis による敗血症を発症した維持透析症例の一例. 第 67 回日本透析医学会学術集会・総会, 2022.
- 33) 込田みどり, 橋本一樹, 昆祐理, 縄田晋太郎, 和田慎司, 富田隼人, 西尾美佐子, 小川普久, 濱口真吾, 三村秀文. 後上腕回旋動脈損傷に対する TAE を施行した 1 例. 第 33 回関東 IVR 研究会, 2022.
- 34) 森川大樹. コロナパンデミックでの重症患者での命の選択. 日本集中治療医学会第 6 回関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 35) 吉田徹, 谷井梨美, 森川大樹, 内藤貴基, 藤谷茂樹, 北野夕佳, 田中拓, 伊藤誠, 橋本悟, 木村哲也. 一般病棟における Early warning score 自動算出/表示アプリデータと予後との関連. 日本集中治療医学会第 6 回関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 36) 昆祐理, 松本純一, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹. 胸部動態ポータブル X 線画像により腹臥位療法後の換気改善が示唆された重症 COVID19 肺炎の 1 例. 第 44 回日本呼吸療法医学会学術集会, 2022.
- 37) 森内麻美, 吉田英樹, 吉田徹, 川口剛史, 田北無門, 三上翔平, 清水剛治, 五十嵐義浩, 藤谷茂樹. 約 3 ヶ月の長期 ECMO 管理患者の ECMO 離脱に際して EIT モニタリングが一助となった症例の報告. 第 44 回日本呼吸療法医学会学術集会, 2022.
- 38) 平間千絵, 満尾有沙, 加藤優一, 本橋伊織, 酒井翼, 家研也, 田中拓, 奥瀬千晃, 藤谷茂樹. 肺骨化像の急速な進行と改善を認めた COVID-19 肺炎の稀な一例. 第 182 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会 第 251 回日本呼吸器学会関東地方会 合同学会, 2022.
- 39) 本鍋田由美子, 松下和彦, 田中拓, 大熊克彰, 安藤歩, 桐生久美子, 池谷真実, 長島梧郎. 当院事例の対応から見えた課題—参加外来癌クリニックでの病理検体取り違い事例から—. 第 18 回日本臨床医学リスクマネジメント学会学術集会, 2022.
- 40) 沼田賢治. 救急の生死～患者の価値を尊重した救急医療の在り方とは～ 日本の救急外来において ACP の教育を浸透させていくには. 第 27 回日本臨床死生学会年次大会, 2022.
- 41) 小泉哲, 嶋田仁, 土橋篤仁, 井田圭亮, 小林慎二郎, 藤谷茂樹, 平泰彦, 民上真也, 大坪毅人. 肝損傷に対する肝切除時における至適切除範囲決定のための術中肝予備能評価の試み. 第 14 回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会, 2022.
- 42) 吉田徹, 下澤信彦, 昆祐理, 松本純一, 森澤健一郎, 藤谷茂樹. 川崎殺傷事件の後に当院が実施した取り組み. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 43) 金澤実, 栗栖美由紀, 酒井寛貴, 斎藤浩輝, 若竹春明, 北野夕佳, 小島宏司, 津久田純平, 榊井良裕, 藤谷茂樹, 平泰彦. 化膿性脊椎炎と膿胸を合併した 2 症例. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.

- 44) 柴橋康平, 吉田英樹, 藤谷茂樹, 尾上梨郁, 前田貴央, 久米 敦紀. Film Array 髄膜炎・脳炎パネルの有効性の検討. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 45) 沼田 賢治, 清水剛治, 箕浦安祐, 山崎さつき, 吉田徹, 藤谷茂樹. 新型コロナウイルス感染症患者に対する意識下腹臥位療法の有効性の検討. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 46) 吉田徹, 下澤信彦, 昆祐理, 松本純一, 森澤健一郎, 藤谷茂樹. 刃物による Mass casualty incident での感染管理対策について. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 47) 諸橋優祐, 森川大樹, 久米敦紀, 前田貴央, 田北無門, 津久田純平, 下澤信彦, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹. 市販プロモワレリル尿素含有製剤の長期加療内服後の離脱期に生じた痙攣と救急医に求められる初期治療. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 48) 久米敦紀 津久田純平, 中島拓郎, 清水剛治, 岡本賢太郎, 川口剛史, 田北無門, 沼田賢治, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹. コルヒチン中毒の急性期の低心機能に対しテンポラリーペースメーカーが有効であった一例. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 49) 野村爵匡, 森川大樹, 津久田純平, 吉田徹, 藤谷茂樹. 心室細動をきたし ECPella で救命しえたカルシウムチャネル拮抗薬およびアンジオテンシン II 受容体拮抗薬過量内服の 1 例. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 50) 中島拓郎, 津久田純平, 清水剛治, 山本一太, 岡本賢太郎, 宿谷光則, 前田幹広, 吉田徹, 森澤健一郎, 藤谷茂樹. 絞扼性腸閉塞の術後に徐脈を契機に診断に至ったジスチグミン臭化物によるコリン作動性クリーゼの一例. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 51) 高橋仁, 後藤匡啓, 藤谷茂樹, 萩原佑亮, 岡本洋史, 渡瀬博子, 長谷川耕平. 救急外来での気管挿管における上気道閉塞と初回成功および挿管合併症の関連. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 52) 前田貴央, 諸橋優祐, 三上翔平, 藤本佳久, 森川大樹, 田北無門, 吉田徹, 藤谷茂樹. 肺高血圧症による右心不全に VAV-ECMO を導入し PCrTO で離脱を行った一例. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 53) 仲野海渡, 沼田賢治, 千葉清, 縄田寛, 吉田徹, 藤谷茂樹. 腹部大動脈瘤が十二指腸に穿破した一例. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 54) 森川大樹, 下澤信彦, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹. HELLP 症候群後の劇症型抗リン脂質抗体症候群の 1 例. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 55) 遠藤拓郎, 藤谷茂樹, 志賀隆. 近未来の搬送トリアージは早期警告スコア 24 時間モニタリングと連動したシステムで劇的な変化がある: 直近の研究内容を踏まえて. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 56) 吉田徹, 下澤信彦, 昆祐理, 松本純一, 森澤健一郎, 藤谷茂樹. Mass casualty incident における効率的なコマンドシステムについての検討. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 57) 渡部弥生, 草間朋子, 藤谷茂樹. 救急外来における診療看護師 (NP) の役割に関する検討-A 病院の診療看護師 (NP) の行動観察による業務分析を通して-. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 58) 藤谷茂樹, 森澤健一郎, 吉田徹, 安宅一見, 野村岳志. 遠隔システムを用いた在宅から院内までのシームレスな個人情報管理による医療安全とよりよい医療環境創りに向けて. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 59) 津久田純平, 吉田徹, 藤谷茂樹. 新型コロナウイルス感染症パンデミック前後での米国留学. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 60) 川口剛史, 舩越拓, 志賀隆, 藤谷茂樹. 多施設で持続可能な勉強会のススメ. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 61) 下澤信彦, 吉田徹, 森川大樹, 昆祐理, 森澤健一郎, 藤谷茂樹, 平 泰彦. 小児を含む多数傷病者事案が発生しても可能な限り平時と同等の治療を提供するために何が必要か-川崎殺傷事件の経験より. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 62) 吉田徹, 谷井梨美, 森川大樹, 内藤貴基, 北野夕佳, 田中拓, 伊藤誠, 橋本悟, 木村哲也, 森澤健一郎, 藤谷茂樹. 終末期緩和と例外を試みた退室前 24 時間の Early warning score と死亡退室との関連. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 63) 永富彰仁, 吉田稔, 若竹春明, 榊井良裕, 吉田徹, 平泰彦, 藤谷 茂樹. 当院救命救急センターICU/HCUへ入室した後期高齢者(75歳以上)のフレイルの有無による転帰の相違. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 64) 吉田徹, 田北無門, 川口剛史, 五十嵐義浩, 濱田悠佑, 昆祐理, 松本純一, 森澤健一郎, 藤谷茂樹. COVID-19 での VV-ECMO におけるカテーテルスイッチの有用性について. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 65) 三上翔平, 津久田純平, 野村爵匡, 前田貴央, 田原康次郎, 諸橋優祐, 森川大樹, 田北無門, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹. EWS (Endobronchial Watanabe Spigot) を用いた気管支充填術が奏効した有癭性膿胸の一例. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 66) 吉田英樹. COVID-19 が突きつけた重症肺炎管理の課題と世界の潮流. 第 50 回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.

- 67) 川口剛史, 津久田純平, 林晃一, 森澤健一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹. 脳組織酸素飽和度(絶対値)の初回測定値と変化量による院外心停止の蘇生率の予測. 第50回日本救急医学会総会・学術集会, 2022.
- 68) 松田迪, 佐藤如雄, 村田理沙子, 金光陽子, 鈴木規雄, 石橋祐記, 縄田寛, 宮入剛, 原田智雄, 明石嘉浩. 著名な真菌石灰化を来した急性心筋炎の1例. 第26回日本心不全学会学術集会, 2022.
- 69) 和田朝子, 齋藤浩輝, 一原直昭, 中菌健一, 藤谷茂樹. 本邦における国際多施設アダプティブプラットフォーム臨床試験参加施設の実態調査. 第71回日本感染症学会東日本地方会学術集会/第69回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会, 2022.
- 70) 仙頭佳起, 森安恵実, 藤原紳祐, 川崎達也, 細川康二, 内藤貴基, 藤谷茂樹, 栗田健郎, 升田好樹, 安宅一晃. 全国調査によるRapid Response Systemの問題点抽出と経年変化追跡: 初年度調査の中間報告. 日本蘇生学会 第41回大会, 2022.
- 71) 齋藤浩輝. 重症COVID-19含むパンデミック対応型国際プラットフォーム研究に関わる国内の集中治療医の人材育成. 第92回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 2022.
- 72) 森川大樹. 眠りSCANを用いたケアの発展. 日本看護技術学会 第20回学術集会, 2022.
- 73) 本鍋田由美子, 松下和彦, 田中拓, 青柳恵美. セーフティマネジメント委員会の取り組み〜風通しの良い職場環境を目指して〜. 第60回全国自治体病院学会, 2022.
- 74) 清野奈々恵, 内田将司, 伊藤英道, 藤谷茂樹, 村田英俊. 診療看護師参入による急性虚血性脳卒中診療における治療時間短縮効果. 第38回NPO法人 日本脳神経血管内治療学会学術集会, 2022.
- 75) 藤谷茂樹, 吉田徹, 森川大樹, 谷井梨美, 内藤貴基. RRSへの臨床現場への対応一病院情報システムを用いた診療補助の可能性一. 第42回医療情報学連合大会, 2022.
- 76) 野村爵匡, 清水剛治, 沼田賢治, 吉田徹, 藤谷茂樹. 高用量カテコラミンを要し鑑別に苦慮した血液分布異常性ショックの一例. 第64回神奈川医学会総会・学術大会, 2022.
- 77) 笹森瞳, 高松由佳, 五味渕智香, 平間千絵, 野村悠, 小林慎二郎, 清水剛治, 田中拓, 吉田徹, 藤谷茂樹. COVID-19に合併したMALS(正中弓状韌帯圧迫症候群)による動脈瘤破裂の一例. 第64回神奈川医学会総会・学術大会, 2022.
- 78) 本鍋田由美子, 田中拓, 松下和彦, 青柳恵美. 事故防止策の遵守状況から見た院内周知に対する課題. 第17回医療の質・安全学会学術集会, 2022.
- 79) 藤谷茂樹. RRSのエビデンス確立にむけて 診療報酬改定を経て新たな院内急変対応システムの在り方. 第17回医療の質・安全学会学術集会, 2022.
- 80) 齊藤岳史, 田中拓, 高松由佳, 井上ふみ子. 当院におけるmodified early warning score(MEWS)の活用方法検討. 第17回医療の質・安全学会学術集会, 2022.
- 81) 藤谷茂樹, 一原直昭, 齋藤浩輝. COVID-19の臨床現場と臨床研究導入に向けての経験. 第96回日本薬理学会年会 / 第43回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.
- 82) ◎吉田良仁, 黒木優一郎, 金澤 実, 見原雄貴, 得平卓也, 高橋秀明, 松本伸行, 長宗我部基弘, 有泉 泰, 立石敬介. H. pylori除菌にてESD術中出血コントロール可能であった免疫性血小板減少性合併早期胃癌の一例. 第115回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 2022.
- 83) ◎片山皓太, 鈴木智晴, 沼田賢治, 片山真穂, 和足孝之, 徳田安春, 大平善之. 本邦の剖検事例における診断エラーの検討. 第26回日本病院総合診療医学会学術総会, 2023.
- 84) 谷井梨美, 内藤貴基, 森川大樹, 藤谷茂樹. 各施設の現状: 聖マリアンナ医科大学病院. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 85) 石川淳哉, 清野雄介, 佐藤暢夫, 吉田拓生, 中川雅史, 吉田拓也, 星野あつみ, 幸野真樹, 野村岳志. 気道と栄養上の問題を持つ患者に対し, 経空腸栄養を用いて良好に管理しえた一例. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 86) 松下真也, 石川淳哉, 佐藤暢夫, 吉田拓生, 木内直人, 吉田拓也, 幸野真樹, 星野あつみ, 中川雅史, 清野雄介, 野村岳志. 糖尿病性ケトアシドーシス治療中にプロポフォルによる急性膵炎を発症した一例. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 87) 後藤理華, 長江千愛, 宮本雄策, 長田洋資, 田中拓, 加久翔太郎, 吉村博, 清水直樹, 川口敦. オナセムノゲン-アベパルボベクによる血栓性微小血管症に対し保存的に腎不全管理を行った小児の一例. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 88) 江原淳, 大出幸子, 平岡栄治, 本間洋輔, 藤谷茂樹. 外来における早期警告スコアの重症患者予測精度の検討. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 89) 大胡田駿, 濱田悠佑, 五十嵐義浩, 佐藤賢治, 大川修, 井上莊一郎, 吉田徹, 藤谷茂樹. AVALON ダブルルーメンカテーテルの留置位置の検討. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 90) 若竹春明, 林晃一, 中村晴美, 阿部都世子, 北野夕佳, 榊井良裕, 藤谷茂樹. 当大学における臓器・組織提供の不成立の理由を紐解く〜疫学研究〜. 第50回日本集中治療医学会学術集会, 2023.

- 91) 藤谷茂樹. 院内早期治療介入システムによる医療安全とよりよい医療環境創りに向けて. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 92) 辻達也, 仙頭佳起, 中西俊之, 田村哲也, 加古英介, 佐藤泉美, 川上浩司, 川崎達也, 内藤貴基, 藤谷茂樹, 父江和哉. Rapid Response System と Do-Not-Attempt-Resuscitation order: レジストリからの研究報告. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 93) 吉田徹, 木村哲也, 中川正人, 伊藤誠, 山崎正記, 田中拓, 谷井梨美, 森川大樹, 内藤貴基, 藤谷茂樹. 退室前 24 時間 Early warning score と RRS・死亡退室との関連. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 94) 伊藤竜彦, 北野夕佳, 谷井梨美, 齋藤浩輝, 森澤健一郎, 若竹春明, 林 晃一, 榊井良裕, 藤谷茂樹. 集中治療専念のタスクシフト 救命調整員の取り組み. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 95) 藤井修一, 越田善久, 中川俊, 藤本佳久, 中本英俊. 急性の認知機能低下を呈し, 脳幹に腫大を伴う病変を認めた後方可逆性脳症症候群の 1 例. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 96) 藤谷茂樹. 敗血症におけるプロカルシトニンの活用. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 97) 藤谷茂樹. 国内における RRS 指針作成の必要性. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 98) 藤原紳祐, 森安恵実, 仙頭佳起, 川崎達也, 細川康二, 内藤貴基, 藤谷茂樹, 栗田健郎, 升田好樹, 安宅一晃. 全国調査による Rapid Response System の問題点抽出と経年変化追跡: 初年度調査報告. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 99) 谷井梨美, 林邦好, 内藤貴基, 吉田徹, 藤谷茂樹. 院内急変予測におけるバイタルサインの経時的推移の有用性. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 100) 松下真也, 佐藤暢夫, 清野雄介, 石川淳哉, 幸野真樹, 星野あつみ, 吉田拓生, 吉田拓也, 木内直人, 中川雅史, 野村岳志. 徐々に進行する換気不良により, 診断に難渋した小児気管チューブ狭窄の一例. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 101) 川口剛史, 津久田純平, 森澤健一郎, 吉田徹, 林晃一, 藤谷茂樹. 院外心停止の自己心拍再開の予測因子としての呼吸終末二酸化炭素分圧と脳組織酸素飽和度の比較. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 102) 森川大樹, 藤谷茂樹, 吉田徹, 森澤健一郎, 下澤信彦. 臓器提供までに 1 ヶ月のドナー管理を要した 1 症例. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 103) 辻大河, 吉田稔, 清水剛治, 箕浦安祐, 岡本賢太郎, 田北無門, 本多英喜, 吉田徹, 藤谷茂樹. 高電圧による電撃傷で深部組織に障害が及び治療に難渋した 1 例. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 104) 金光陽子, 曾根啓太, 佐藤如雄, 桑田真吾, 出雲昌樹, 石橋祐記, 原田智雄, 明石嘉浩, 藤谷茂樹. ECPELLA を要する心原性ショックを呈し, 鑑別診断に苦慮した COVID-19 (BA-5 株) の一例. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 105) 藤本佳久, 江川悟史. ICH score の予後予測精度の妥当性の検証. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 106) 鶴井亮扶, 吉田稔, 畑貴美子, 山田大地, 上田匠哲, 内倉淑男, 神尾学, 砂川浩, 本多英喜, 岩澤孝昌, 藤谷茂樹. 特定行為研修修了生 (特定ケア看護師) の麻酔科・ICU での活動報告: 吸入麻酔薬を用いた重篤な喘息発作の一例. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 107) 石崎さくら, 井料田夏海, 斎藤浩輝, 神代和明, 押谷仁, Tess Kulstad. コロナ禍における救命救急センターでの医師・看護師による医学的・医療的判断に関する質的研究. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 108) 黒田泰弘, 河北賢哉, 井上明彦, 一二三亨, 一原直昭, 斎藤浩輝, 藤谷茂樹, 横堀将司. 心停止後症候群に対する集中治療の有効性を検討するバイズ流プラットフォーム試験構想. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 109) 斎藤浩輝. パンデミック対応型国際プラットフォーム試験 REMAP-CAP の現在と今後の展望. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 110) 宮本恭兵, 島望, 飯田康, 中菌健一, 斎藤浩輝, 一原直昭, 藤谷茂樹. 重症インフルエンザ肺炎の臨床研究基盤を日本に導入する取り組み: 国際プラットフォーム試験 REMAP-CAP. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会, 2023.
- 111) 和田慎司, 大杉真也, 井田圭亮, 森本毅, 松本純一, 三村秀文. 脾損傷に対し REBOA 下に 2 回 TAE を施行した症例. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 2023.
- 112) 清野奈々恵, 内田将司, 伊藤英道, 藤谷茂樹, 村田英俊. 大学病院における診療看護師 (NP) の急性虚血性脳卒中診療への貢献. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.

- 113) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, S.Kurokawa M, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K.. Pyroptosis-apoptosis imbalance affects the severity and chest CT findings in COVID-19. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 2022.
- 114) 昆祐理, 松本 純一, 藤谷茂樹, 小川普久, 橋本一樹, 和田慎司, 三村秀文. VV-ECMO 留置中の COVID19 肺炎に対する TAE 症例の検討. 第 51 回日本 IVR 学会総会, 2022.

② 国際学会

- 1) Ohki Uiri, Warisawa Takayuki, Hashimoto Yukiko, Suzuki Norio, Doi Shunichi, Kasahara Mizuho, Mizukoshi Kei, Matsuda Hisao, Mizuno Koichi, Akashi Yoshihiro. Directional rotational atherectomy for calcified nodule of left main bifurcation. Euro PCR 2022, 2022.
- 2) Hashimoto Yukiko, Warisawa Takayuki, Ohki Uiri, Nagatomi Akiyoshi, Doi shunichi, Mizukoshi Kei, Matsuda Hisao, Mizuno Koichi, Akashi Yoshihiro. Impact of pericardial effusion on physiological assessment of coronary disease. Euro PCR 2022, 2022.
- 3) Warisawa Takayuki, Nakanishi Toru, Hashimoto Yukiko, Ohki Uiri, Koto Dan, Kasahara Mizuho, Matsuda Hisao, Mizuno Koichi, Akashi Yoshihiro. Successful kissing balloon technique via 7Fr-matched guide extension catheter in transradial PCI. Euro PCR 2022, 2022.
- 4) ©Sato K, Numata K, Wakatake H, Masui Y, Yoshida T, Fujitani S. Comparison of length of emergency department stay before and after using microarray for investigating coronavirus disease 2019: A single-center study. 21st International Conference on Emergency Medicine, 2022.
- 5) Ichihara Nao, Saito Hiroki. Future funding priorities and sustainability - Perspectives from Japan. Critical Care Asia-Africa, 2022.
- 6) Ishida Hikaru, Matsumoto Junichi, Morimoto Tsuyoshi, Michishita Yukiko, Fujitani Shigeki, Mimura Hidefumi. No time to dye: how to diagnose and manage critical diseases with non-contrast enhanced CT. American Society of Emergency Radiology 2022 Annual Meeting, 2022.
- 7) Saito H, Kasai F, Takakura T, Ohno T, Hosoyama A, Fujitani S. Epidemiological interaction of MRSA, ESBL E.coli and C. difficile between ICU/Step-down Unit of University-affiliated Community Hospital and LTACs in Japan: Utility of Molecular Epidemiology Analysis by PCR-based ORF Typing (POT method). ID Week, 2022.
- 8) Jindai K, Saito H, Horii S, Kamata K. Lesson Learned from Investigators of Clinical Trials to Identify Therapeutics for COVID-19: Qualitative Study. ID Week, 2022.
- 9) Shruti K. Gohil, Bardia Bahadori, Shereen Nourollahi, Thomas T. Tjoa, Saito H, Jessica Bethlahmy, Mohamad Alsharif, Justin Chang, Edward L. Nelson, Richard A. Van Etten, Linda Armendariz, Vincent Torres, Sandra Masson, Syma Rasheed, Marlene Esteves, Raheeb Saavedra, Raveena D. Singh, Susan S. Huang, ... The SAFER Lines Project: A Mobile-App Strategy for Prevention of Outpatient Central Line Associated Bloodstream Infection (CLABSI). ID Week, 2022.
- 10) Yoshida H. The relationship between the usage of broad-spectrum antimicrobials for more than 72 hours and the detection of multidrug-resistant bacteria in Japanese intensive care units : a multicenter retrospective cohort study. 35th Annual Congress, 2022.
- 11) Michishita Yukiko , Matsumoto Junichi, Ishida Hikaru, Mimura Hidefumi. No Time to Dye: How to diagnose and manage critical diseases with non-contrast enhanced CT. The Radiological Society of North America (RSNA) 2022, Scientific Assembly and Annual Meeting, 2022.

③ その他

- 1) 吉田英樹. これからの VAP 診断・治療. 第 4 回 bioMerieux Syndromic Symposium, 2022.
- 2) 藤谷茂樹. ポストコロナ禍を見据えた、プラットフォーム研究としての REMAP-CAP Japan の役割. 第 4 回 bioMerieux Syndromic Symposium, 2022.
- 3) 昆祐理. 救急集中治療領域における動態回診車の利用. 第 4 回 X 線動態画像セミナー, 2022.
- 4) 森川大樹. 一救急医療における看取医療、スムーズな臓器提供の展開を目指してー Vol.2 「臓器提供とドナー管理」 「症例から見る臓器保護とドナー管理のポイント」. 新潟大学・聖マリアンナ医科大学合同 臓器提供推進セミナー, 2022.
- 5) 齋藤浩輝. WHO 手指衛生の最新動向. 第 1 回 CNIC のための手指衛生セミナー, 2022.
- 6) 齋藤浩輝. WHO の手指衛生・感染管理予防管理の取り組み. 令和 4 年度 第 1 回 千葉県院内感染対策地域支援ネットワーク研修会, 2022.
- 7) 齋藤浩輝. 医療関連感染症の疾病負荷とその対策. 日本医科大学千葉北総病院感染対策講義, 2022.

- 8) 森川大樹, 滝澤章太, 藤谷茂樹. コロナ禍におけるベッド調整. 第10回かわさき救急フォーラム, 2022.
- 9) 吉田英樹. 整理して理解する COVID-19 治療. 第19回 野ログラウンドラウンド, 2022.

		和 文	英 文
著 書		8	
論 文	原著	5	29
	解説又は総説	35	
	症例報告	4	1
	その他		
学会発表	国内学会	112	2
	国際学会		11
	その他	9	

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Izawa N, Shiokawa H, Onuki R, Hamaji K, Morikawa K, Saji H, Ohashi H, Kasugai S, Hayakawa N, Ohara T, Sunakawa Y. The clinical utility of comprehensive measurement of autoimmune disease-related antibodies in patients with advanced solid tumors receiving immune checkpoint inhibitors: a retrospective study. *ESMO Open*, 2022;7(2) : 100415.
- 2) Bando H, Nakamura Y, Taniguchi H, Shiozawa M, Yasui H, Esaki T, Kagawa Y, Denda T, Satoh T, Yamazaki K, Sunakawa Y, Kato T, Goto M, Yuki S, Nishina T, Oki E, Shinozaki E, Matsuhashi N, Takahashi N, Tsuji A, Ohtsubo K, Wakabayashi M, Ikeno T, Hata M, Odegaard JI, Yoshino T. Effects of Metastatic Sites on Circulating Tumor DNA in Patients With Metastatic Colorectal Cancer. *JCO precision oncology*, 2022;6 : e2100535.
- 3) Tanioka H, Shimada K, Tsuji A, Kochi M, Kim HM, Takahashi T, Denda T, Takagane A, Watanabe T, Kotaka M, Nakamura M, Sunakawa Y, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M. Phase II Study of S-1 and Irinotecan Plus Bevacizumab as Second-line Treatment for Patients With Metastatic Colorectal Cancer Resistant to the Fluoropyrimidine-oxaliplatin-cetuximab Regimen. *Anticancer research*, 2022;42(5) : 2675-2681.
- 4) Kajiwarra T, Nishina T, Nakasya A, Yamashita N, Yamashita R, Nakamura Y, Shiozawa M, Yuki S, Taniguchi H, Hara H, Ohta T, Esaki T, Shinozaki E, Takashima A, Moriwaki T, Denda T, Ohtsubo K, Sunakawa Y, Horita Y, Kawakami H, Kato T, Satoh T, Ando K, Mizutani T, Yasui H, Goto M, Okuyama H, Yamazaki K, Yoshino T, Hyodo I. NOTCH gene alterations in metastatic colorectal cancer in the Nationwide Cancer Genome Screening Project in Japan (SCRUM-Japan GI-SCREEN). *Journal of cancer research and clinical oncology*, 2022;148(10) : 2841-2854.
- 5) Umemoto K, Yamamoto H, Oikawa R, Takeda H, Doi A, Horie Y, Arai H, Ogura T, Mizukami T, Izawa N, Moore JA, Sokol ES, Sunakawa Y. The molecular landscape of pancreatobiliary cancers for novel targeted therapies from real-world genomic profiling. *Journal of the National Cancer Institute*, 2022;114(9) : 1279-1286.
- 6) Mizukami T, Takahashi M, Sunakawa Y, Yuki S, Kagawa Y, Takashima A, Kato K, Hara H, Denda T, Yamamoto Y, Shiozawa M, Oki E, Okamoto W, Yoshino T, Eguchi Nakajima T. Genomic Landscape of Primary Tumor Site and Clinical Outcome for Patients with Metastatic Colorectal Cancer Receiving Standard-of-Care Chemotherapy. *Targeted Oncology*, 2022;17(3) : 343-353.
- 7) Joshua Millstein, Francesca Battaglin, Hiroyuki Arai, Wu Zhang, Priya Jayachandran, Shivani Soni, Aparna R Parikh, Christoph Mancao, Heinz-Josef Lenz. fdrci: FDR confidence interval selection and adjustment for large-scale hypothesis testing. *Bioinformatics Advances*, 2022;2(1) : vbac047.
- 8) Sunakawa Y, Satake H, Usher J, Jaimes Y, Miyamoto Y, Nakamura M, Kataoka M, Shiozawa M, Takagane A, Terazawa T, Watanabe T, Ishiguro K, Tanaka C, Takeuchi M, Fujii M, Danenberg K, Danenberg PV, Lenz HJ, Sekikawa T, Ichikawa W. Dynamic changes in RAS gene status in circulating tumour DNA: a phase II trial of first-line FOLFOXIRI plus bevacizumab for RAS-mutant metastatic colorectal cancer (JACCRO CC-11). *ESMO Open*, 2022;7(3) : 100512.
- 9) Higashibata Takahiro, Hamano Jun, Kessoku Takaomi, Kajiura Shinya, Hirakawa Mami, Horie Yoshiki, Shimizu Masaki, Oyamada Shunsuke, Ariyoshi Keisuke, Kihara Kota, Yamanaka Yohei, Konishi Kumi, Doki Kosuke, Takashima Yasuyuki, Horiuchi Manabu, Homma Masato, Yamada Takeshi, Yamamoto Yoshiyuki, Moriwaki Toshikazu, Morita Tatsuya, Nakajima Atsushi, Nagaoka Hiroka.. Rationale and design of a multicenter, double-blinded, randomized, placebo-controlled trial to investigate the effects of naldemedine on opioid-induced constipation for patients with cancer pain: A study protocol. *Contemporary Clinical Trials Communications*, 2022;29 : doi-10.1016/j.conctc.2022.100967. .
- 10) Hiroyuki Arai, Joshua Millstein, Yan Yang, Sebastian Stintzing, Jingyuan Wang, Francesca Battaglin, Natsuko Kawanishi, Priya Jayachandran, Shivani Soni, Wu Zhang, Volker Heinemann, Heinz-Josef Lenz. Germline Polymorphisms in Genes Involved in the Antioxidant System Predict the Efficacy of Cetuximab in Metastatic Colorectal Cancer Patients Enrolled in FIRE-3 Trial. *Clinical Colorectal Cancer*, 2022;21(3) : 259-266.

- 11) Jingyuan Wang, Yi Xiao, Fotios Loupakis, Sebastian Stintzing, Yan Yang, Hiroyuki Arai, Francesca Battaglin, Natsuko Kawanishi, Priya Jayachandran, Shivani Soni, Wu Zhang, Christoph Mancao, Chiara Cremolini, Tianshu Liu, Volker Heinemann, Alfredo Falcone, Lin Shen, Joshua Millstein, Heinz-Josef Lenz. Genetic variants involved in the cGAS-STING pathway predict outcome in patients with metastatic colorectal cancer: Data from FIRE-3 and TRIBE trials. *European journal of cancer*, 2022;172 : 22-30.
- 12) Yohei Kubota, Yu Aoki, Akihito Kawazoe, Kohei Shitara. Role of Nivolumab in the Management of First-Line Unresectable Advanced or Recurrent Gastric Cancer in Combination with Chemotherapy: Lessons from the Japanese Experience. *Cancer Management and Research*, 2022;14 : 3083-3094.
- 13) Sunakawa Y, Takahashi K, Kawaguchi O, Yamamoto N. Phase I study of aflibercept in combination with docetaxel in Japanese patients with advanced solid malignancies. *Investigational New Drugs*, 2022;40(5) : 1032-1041.
- 14) Shimizu T, Nakajima TE, Yamamoto N, Yonemori K, Koyama T, Kondo S, Sunakawa Y, Izawa N, Horie Y, Xiang S, Xu S, Qin L, Gong J, Liu D. Phase I study of envafolimab (KN035), a novel subcutaneous single-domain anti-PD-L1 monoclonal antibody, in Japanese patients with advanced solid tumors. *Investigational new drugs*, 2022;40(5) : 1021-1031.
- 15) Kobayashi S, Suzuki M, Ueno M, Maruki Y, Okano N, Todaka A, Ozaka M, Tsuji K, Shioji K, Doi K, Kojima Y, Tsumura H, Tanaka K, Higuchi H, Kawabe K, Imaoka H, Yamashita T, Miwa H, Nagano H, Arima S, Hayashi H, Naganuma A, Yamaguchi H, Hisanoyama T, Umamoto K, Ishii S, Nakashima K, Suzuki R, Kitano Y, Misumi T, Furuse J, Ishii H. Comparing the Efficacy and Safety of Gemcitabine plus Nab-Paclitaxel versus Gemcitabine Alone in Older Adults with Unresectable Pancreatic Cancer. *The oncologist*, 2022;27(10) : e774-e782.
- 16) Tanaka S, Umamoto K, Kubo S, Sato Y, Mimaki S, Tsuchihara K, Takemura S, Shinkawa H, Mori A, Ikeda M. Nivolumab for treating patients with occupational cholangiocarcinoma. *Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences*, 2022;29(11) : 1153-1155.
- 17) Nakamura M, Ishiguro A, Dazai M, Kawamoto Y, Yuki S, Sogabe S, Hosokawa A, Sawada K, Muto O, Izawa N, Nakashima K, Horie Y, Yagisawa M, Kajiura S, Ando T, Mitsushashi Y, Sunakawa Y, Kikuchi Y, Komatsu Y. Feasibility of edoxaban for asymptomatic cancer-associated thrombosis in Japanese patients with gastrointestinal cancer: ExCAVE study. *BMC cancer*, 2022;22(1) : 1322.
- 18) Okamoto W, Sakai K, Makiyama A, Yamamoto Y, Shitara K, Denda T, Izawa N, Nakano Y, Nishina T, Esaki T, Hara H, Miura Y, Boku N, Yamazaki K, Hironaka S, Misumi T, Hyodo I, Muro K, Nishio K. A phase II study to explore biomarkers for the use of mFOLFOX6/XELOX plus bevacizumab as a first-line chemotherapy in patients with metastatic colorectal cancer (WJOG7612GTR). *ESMO Open*, 2022;7(6) : 100592.
- 19) Yoshida Y, Kobayashi S, Ueno M, Morizane C, Tsuji K, Maruki Y, Mori K, Watanabe K, Ohba A, Furuta M, Todaka A, Tsujimoto A, Ozaka M, Okano N, Yane K, Umamoto K, Kawamoto Y, Terashima T, Tsumura H, Doi K, Shioji K, Asagi A, Kojima Y, Suzuki E, Toshiyama R, Furukawa M, Naganuma A, Suzuki R, Miwa H, Ikeda M, Furuse J. Efficacy of chemotherapy for patients with metastatic or recurrent pancreatic adenocarcinoma: A multicenter retrospective analysis. *Pancreatology.*, 2022;22(8) : 1159-1166.
- 20) Strickler JH, Satake H, George TJ, Yaeger R, Hollebecque A, Garrido-Laguna I, Schuler M, Burns TF, Coveler AL, Falchook GS, Vincent M, Sunakawa Y, Dahan L, Bajor D, Rha SY, Lemech C, Juric D, Rehn M, Ngarmchamnanrith G, Jafarinasabian P, Tran Q, Hong DS. Sotorasib in KRAS p.G12C-Mutated Advanced Pancreatic Cancer. *The New England journal of medicine*, 2023;388(1) : 33-43.
- 21) Y Kubota, A Kawazoe, S Mishima, Y Nakamura, D Kotani, Y Kuboki, H Bando, T Kojima, T Doi, T Yoshino, T Kuwata, K Shitara. Comprehensive clinical and molecular characterization of claudin 18.2 expression in advanced gastric or gastroesophageal junction cancer. *ESMO Open*, 2023;8(1) : 100762.
- 22) Wang J, Xiu J, Farrell A, Baca Y, Arai H, Battaglin F, Kawanishi N, Soni S, Zhang W, Millstein J, Shields AF, Grothey A, Weinberg BA, Marshall JL, Lou E, Khushman M, Sohal DPS, Hall MJ, Liu T, Oberley M, Spetzler D, Korn WM, Shen L, Lenz HJ. Mutational analysis of microsatellite-stable gastrointestinal cancer with high tumour mutational burden: a retrospective cohort study. *The Lancet Oncology*, 2023;24(2) : 151-161.
- 23) Wang J, Millstein J, Yang Y, Stintzing S, Arai H, Battaglin F, Kawanishi N, Soni S, Zhang W, Mancao C, Cremolini C, Liu T, Heinemann V, Falcone A, Shen L, Lenz HJ. Impact of genetic variants involved in the lipid metabolism pathway on progression free survival in patients receiving bevacizumab-based chemotherapy in metastatic colorectal cancer: a retrospective analysis of FIRE-3 and MAVERICC trials. *eClinicalMedicine*, 2023;57 : 101827.

学会発表

① 国内学会

- 1) 宇井一眞, 土井綾子, 武田弘幸, 梅本久美子, 新井裕之, 堀江良樹, 水上拓郎, 伊澤直樹, 小倉孝氏, 砂川優. 切除可能大腸がん高齢患者の高齢者機能評価と臨床経過. 第7回日本がんサポーターティブケア学会学術集会, 2022.
- 2) 堀江良樹, 宮路天平, 土井綾子, 川口崇, 小倉孝氏, 兼安貴子, 長島文夫, 中島貴子, 山口拓洋. がんの日常診療におけるePROによる症状モニタリングの有用性の評価および、有害事象とQoLの実態に関するレジストリ研究 (RegiPRO study). 第7回がんサポーターティブケア学会学術集会, 2022.
- 3) ◎内山修太朗, 原直也, 川名部新, 中川朋子, 中村祐太, 月山秀一, 水上拓郎, 曾根正勝. 食道癌に対してニボルマブ治療開始13か月後、尿糖自己測定によりirAEによる劇症1型糖尿病を早期に捉えた1例. 第23回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2022.
- 4) ◎武田弘幸, 土井綾子, 堀江良樹, 新井裕之, 梅本久美子, 伊澤直樹, 小倉孝氏, 砂川優. 食道扁平上皮癌・胃食道接合部癌におけるctDNAを用いた治療戦略. 第76回日本食道学会学術集会, 2022.
- 5) 砂川優, 安井久晃, 塩澤学, 武田弘幸, 赤澤直也, 佐川保, 白石和寛, 大北仁裕, 奥山浩之, 結城敏志, 谷中昭子, 阿部由紀子, 市川度, 藤井雅志, 辻晃仁. RAS野生型大腸癌における血管新生因子と2次治療FOLFIRI+RAMの効果: JACCRO CC-16AR. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022.
- 6) 太田高志, 山崎健太郎, 賀川義規, 小谷大輔, 坂東英明, 加藤健志, 沖英次, 篠崎英司, 砂川優, 結城敏志, 中島裕理, 中村能章, 若林将史, 谷口浩也, 吉野孝之. RAS/BRAF野生型進行再発大腸癌患者における血中バイオマーカーのダイナミクスと抗EGFR抗体リチャレンジの有効性. REMARRY試験/PURSUIT試験. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022.
- 7) 横溝綾子, 森田一, 幕内麻里, 湊川紘子, 計良貴之, 熱方智和子, 堀江良樹, 伊澤直樹, 坂上逸孝, 田中恒明, 砂川優. 当院における抗EGFR抗体薬投与患者に対する診察前面談の取り組み. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022.
- 8) 武田弘幸, 山本博之, 及川律子, 梅本久美子, 土井綾子, 新井裕之, 堀江良樹, 久保田洋平, 小倉孝氏, 伊澤直樹, Jay A Moore, Ethan Soko, 砂川優. リアルワールドデータ (RWD) から見た小腸癌のゲノムランドスケープ. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022.
- 9) 渡邊純, 久保木恭利, 寺澤哲志, 川上尚人, 横田満, 中村将人, 小高雅人, 沖英次, 砂川優, 石原聡一郎, 谷口浩也, 中島貴子, 森田智視, 白尾國昭, 吉野孝之. TRUSTY試験における血管新生関連遺伝子とFTD/TPI+BEVの有効性の検討. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022.
- 10) 片岡幸三, 辻晃仁, 勝屋弘雄, 藤田正太郎, 弓削浩太郎, 木藤陽介, 福永睦, 中村将人, 佐川保, 渡邊貴紀, 塩澤学, 砂川優, 竹内正弘, 市川度, 藤井雅志. RAS野生型切除不能大腸癌における二次治療FOLFIRI+ラムシルマブ療法の前治療レジメン別の効果: JACCRO CC-16サブ解析. 第60回日本癌治療学会学術集会, 2022.
- 11) 新井裕之, 山本博幸, 武田弘幸, 久保田洋平, 土井綾子, 堀江良樹, 梅本久美子, 伊澤直樹, 砂川優. 胃癌ゲノムプロファイリングによるdruggable alterationの同定. 第95回日本胃癌学会学術集会, 2023.
- 12) 土井綾子, 久保田洋平, 武田弘幸, 梅本久美子, 新井裕之, 堀江良樹, 伊澤直樹, 小倉孝氏, 砂川優. 高齢胃癌患者における高齢者機能評価と臨床経過. 第95回日本胃癌学会学術集会, 2023.
- 13) 砂川優. 進行胃癌における腸内細菌関連バイオマーカー. 第95回日本胃癌学会学術集会, 2023.
- 14) 澤田憲太郎, 山下理宇, 酒井俊輔, 吉河歩, 洞澤智至, 中村能章, 藤澤孝夫, 門脇重憲, 安井久晃, 高橋直樹, 町田望, 牧山明資, 後藤昌弘, 砂川優, 江崎泰斗, 山崎健太郎, 辻晃仁, 吉野孝之. 胃がん患者における腸内細菌叢と臨床的特徴の検討: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN. 第95回日本胃癌学会学術集会, 2023.
- 15) 篠田和伸, 武田弘幸, 櫻井裕子, 大迫希代美, 谷澤雅彦, 佐々木秀郎, 中澤龍斗, 柴垣有吾, 菊地栄次. 腎移植後に甲状腺乳頭癌が再発し、I-131内用療法抵抗性の症例に対しレンパチニブを導入した経験. 第56回日本臨床腎移植学会, 2023.
- 16) Ayako Doi, Yohei Kubota, Hiroyuki Takeda, Kumiko Unemoto, Hiroyuki Arai, Yoshiki Horie, Naoki Izawa, Takashi Ogura, Yu Sunakawa. Treatment for elderly gastric cancer patients-Geriatric assessment and clinical outcomes-. 第95回日本胃癌学会学術集会, 2023.
- 17) Naoki Izawa, Hiroyuki Takeda, Yohei Kubota, Ayako Doi, Yoshiki Horie, Hiroyuki Arai, Kumiko Unemoto, Yu Sunakawa. 胃癌患者における免疫関連有害事象の予測因子としての自己免疫疾患関連抗体の臨床的意義. 第95回日本胃癌学会学術集会, 2023.
- 18) 中村真穂, 下寄啓太郎, 平田賢郎, 三谷誠一郎, 杉山圭司, 廣田玲, 有山寛, 杉本直俊, 伊澤直樹, 山本祥之, 高山歳三, 篠原雄大, 國枝献治, 安藤孝将, 長島健悟, 佐藤泰憲, 山崎健太郎, 廣中秀一, 高石官均, 室圭. BRAF V600E変異型切除不能進行・再発大腸癌に対するFOLFOXIRI+/-Bevacizumab療法とDoublet療法の有効性及び安全性に関する後方視的検討. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.

- 19) 日野 佳織, 木藤 陽介, 三谷 誠一郎, 川上 賢太郎, 伊澤 直樹, 花村 文康, 山本 祥之, 庄司 広和, 小森 梓, 朴 将源, 土橋 賢司, 馬場 英司, 加藤 恭子, 野長瀬 祥兼, 松本 俊彦, 古田 光寛, 川上 尚人. 切除不能な vulnerable 大腸がん患者に関する実態調査: 1 次治療症例 210 例の検討. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.
- 20) 伊澤 直樹, 松原 裕樹, 仁科 慎一, 塩澤 学, 傳田 忠道, 太田 博文, 根来 裕二, 田中 千弘, 川上 尚人, 松岡 宏, 田邊 裕貴, 池永 雅一, 奥田 博介, 石黒 敦, 賀川 義規, 佐竹 悠良, 砂川 優, 竹内 正弘, 市川 度, 藤井 雅志. RAS 変異型切除不能進行・再発大腸癌患者における化学療法後の ctDNA 中 RAS 遺伝子変異ステータス: RASMEX study (JACCRO CC-17). 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.
- 21) Ayako Doi, Erika Horibe, Yohei Kubota, Hiroyuki Takeda, Kumiko Umemoto, Hiroyuki Arai, Yoshiki Horie, Naoki Izawa, Takashi Ogura, Kazumasa Tanzawa, Yasuyuki Kaga, Tomomi Shibuya, Satoshi Muta, Yu Sunakawa. A study to evaluate the clinical utility of stress data collection in cancer patients treated with chemotherapy. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.
- 22) 伊澤 直樹, 木藤 陽介, 三谷 誠一郎, 日野 佳織, 川上 賢太郎, 花村 文康, 山本 祥之, 庄司 広和, 小森 梓, 朴 将源, 土橋 賢司, 馬場 英司, 加藤 恭子, 野長瀬 祥兼, 松本 俊彦, 古田 光寛, 川上 尚人. 切除不能な vulnerable 大腸がん患者に関する実態調査: 治療パターンと 2 次治療移行に関連する因子の検討. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.
- 23) 牧山 明資, 庄司 広和, 川上 尚人, 田村 孝雄, 杉山 圭司, 原 浩樹, 長瀬 通隆, 西川 和男, 江崎 泰斗, 伊澤 直樹, 中村 将人, 安藤 孝将, 三浦 裕司, 成田 有季哉, 下川 元継, 山崎 健太郎, 廣中 秀一, 朴 成和, 兵頭 一之介, 室 圭. 高齢者切除不能・再発胃癌に対する S-1 単剤療法と S-1/L-OHP 併用療法のランダム化第 2 相試験. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.
- 24) 青木 優, 中村 能章, 谷口 浩也, 小松 嘉人, 砂川 優, 塩澤 学, 太田 高志, 江崎 泰斗, 山崎 健太郎, 佐竹 悠良, 松橋 延壽, 後藤 昌弘, 賀川 義規, 仁科 智裕, 吉野 孝之. 進行胃癌・大腸癌における治療前の血中循環腫瘍 DNA 検出の臨床的妥当性. 第 60 回日本癌治療学会学術集会, 2022.
- 25) Daisuke Kotani, Takayuki Yoshino, Toshiki Masuishi, Yu Sunakawa, Atsuo Takashima, Kentaro Yamazaki, Hisato Kawakami, Tomohiro Nishina, Yoshito Komatsu, Taito Esaki, Cathy Eng, Stacey Ukrainskyj, Rajash Pallai, Shivani Nanda, Zhao Yang, William Schelman, Marek Kania, Taroh Satoh. Efficacy and safety of fruquintinib in Japanese patients with refractory metastatic colorectal cancer from FRESKO-2. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.
- 26) 間中 大, 辻 晃仁, 澁谷 雅常, 石橋 敬一郎, 藪野 太一, 岡村 修, 古谷 卓三, 田中 千弘, 中村 将人, 佐川 保, 渡邊 貴紀, 塩澤 学, 砂川 優, 太田 博文, 小高 雅人, 奥山 浩之, 大北 仁裕, 竹内 正弘, 市川 度, 藤井 雅志. 抗 EGFR 抗体薬併用化学療法進行再発大腸癌患者に対する 2 次治療 FOLFIRI/ラムシルマブ併用療法の第 II 相試験: JACCRO CC-16 Update 解析. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.
- 27) 砂川 優, 安井 久晃, 松浦 正徒, 峯 孝志, 湯浅 康弘, 渡邊 貴紀, 金城 達也, 大北 仁裕, 奥山 浩之, 結城 敏志, 宮川 公毅, 小原 采奈, 市川 度, 藤井 雅志, 辻 晃仁.
RAS 野生型切除不能進行再発大腸癌に対する血中 RAS 変異と 2 次治療 FOLFIRI+ramucirumab 療法の効果: JACCRO CC-16AR. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.
- 28) 新井 裕之, 傳田 忠道, 久保田 洋平, 武田 弘幸, 土井 綾子, 堀江 良樹, 梅本 久美子, 伊澤 直樹, 砂川 優. 切除不能進行大腸癌における CDC37 遺伝子発現のレゴラフェニブ療法の効果予測. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.
- 29) 土井 綾子, 堀部 恵梨佳, 久保田 洋平, 武田 弘幸, 梅本 久美子, 新井 裕之, 堀江 良樹, 小倉 孝氏, 伊澤 直樹, 丹澤 和雅, 加賀 保行, 澁谷 朋実, 牟田 敏志, 砂川 優.
がん薬物療法患者におけるストレスデータ収集の有用性に関する研究. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.
- 30) 辻 晃仁, 遠藤 出, 小林 建司, 楠本 哲也, 湯浅 康弘, 三輪 啓介, 東風 貢, 佐川 保, 小高 雅人, 久保田 祐太郎, 砂川 優, 関川 高志, 中村 将人, 市川 度, 藤井 雅志. RAS 野生型切除不能進行再発大腸癌に対する m-FOLFOXIRI+cetuximab vs. bevacizumab の生存解析: DEEPER 試験 (JACCRO CC-13). 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2023.

② 国際学会

- 1) H Kawakami, S Oyamada, Y Horie, S Fumita, N Izawa, T Miyaji, T Kawaguchi, T Yamaguchi, T Nakajima. An observational study of health-related quality of life (HRQoL) with electronic patient-reported outcome (ePRO) monitoring during nivolumab therapy for advanced gastric cancer as the 3rd or later line treatment: NIVO-G QoL study. ESMO-GI 2022, 2022.
- 2) Y Okita, A Tsuji, T Watanabe, H Satake, M Goto, H Yasui, M Nakamura, T Sagawa, K Kataoka, M Shiozawa, Y Sunakawa, H Ota, M Kotaka, K Miwa, Y Kobayashi, H Okuyama, M Kochi, T Masuishi, M Takeuchi, W Ichikawa, M Fujii. Efficacy of 2nd-line ramucirumab (RAM) plus FOLFIRI for RAS wild-type metastatic colorectal cancer (mCRC) by prior regimen: Subgroup analysis of the JACCRO CC-16. ESMO-GI 2022, 2022.

- 3) Y Kagawa, D Kotani, H Bando, N Takahashi, Y Horita, A Kanazawa, T Kato, K Ando, H Satake, E Shinozaki, Y Sunakawa, A Takashima, K Yamazaki, S Yuki, H Nakajima, Y Nakamura, M Wakabayashi, H Taniguchi, T Ohta, T Yoshino. Plasma RAS dynamics and efficacy of anti-EGFR rechallenge in patients with RAS/BRAF wild-type metastatic colorectal cancer: REMARRY and PURSUIT trials. ESMO-GI 2022, 2022.
- 4) Bennett Adam Caughey, Kumiko Umemoto, Michelle Green, Masafumi Ikeda, Rachel D'Anna, Makoto Ueno, Donna Niedzwiecki, Hiroya Taniguchi, Daniel Walden, Yoshito Komatsu, Katherine I. Zhou, Taito Esaki, Ryne Ramaker, Tadamichi Denda, Michael Datto, Hideaki Bando, Tanios S. Bekaii-Saab, Takayuki Yoshino, John H Strickler, Yoshiaki Nakamura. Identification of an optimal circulating tumor DNA (ctDNA) shedding threshold to detect actionable driver mutations in colorectal and pancreatic adenocarcinoma. 2022 ASCO Annual meeting, 2022.
- 5) Alison M Schram, Koichi Goto, Dong-Wan Kim, Patricia Martin-Romano, Sai-Hong I Ou, Grainne M O'Kane, Eileen M O'Reilly, Kumiko Umemoto, Michaël Duruisseaux, Cindy Neuzillet, Frans Opdam, Jordi Rodon Ahnert, Misako Nagasaka, Benjamin A Weinberg, Teresa Macarulla, Andrew K Joe, Jim Ford, Viktoriya Stalbovska, Ernesto Wasserman, Alexander E Drilon. Efficacy and safety of zenocutuzumab, a HER2 x HER3 bispecific antibody, in advanced NRG1 fusion-positive (NRG1+) cancer. 2022 ASCO Annual meeting, 2022.
- 6) ©Hiroyuki Arai, Yan Yang, Joshua Millstein, Tadamichi Denda, Fang-Shu Ou, Federico Innocenti, Hiroyuki Takeda, Ayako Doi, Yoshiki Horie, Kumiko Umemoto, Naoki Izawa, Jingyuan Wang, Francesca Battaglin, Natsuko Kawanishi, Priya Jayachandran, Shivani Soni, Zhang Wu, Alan P. Venook, Yu Sunakawa, Heinz-Josef Lenz. Predictive value of CDC37 gene expression for targeted therapy in metastatic colorectal cancer (mCRC). 2022 ASCO Annual meeting, 2022.
- 7) Yoshinori Kagawa, Daisuke Kotani, Hideaki Bando, Naoki Takahashi, Tetsuya Hamaguchi, Akiyoshi Kanazawa, Takeshi Kato, Koji Ando, Hironaga Satake, Eiji Shinozaki, Yu Sunakawa, Atsuo Takashima, Kentaro Yamazaki, Satoshi Yuki, Hiromichi Nakajima, Yoshiaki Nakamura, Masashi Wakabayashi, Hiroya Taniguchi, Takashi Ohta, Takayuki Yoshino. Plasma RAS dynamics and anti-EGFR rechallenge efficacy in patients with RAS/BRAF wild-type metastatic colorectal cancer: REMARRY and PURSUIT trials. 2022 ASCO Annual meeting, 2022.
- 8) Satoshi Yuki, Yu Sunakawa, Kentaro Yamazaki, Hiromichi Shirasu, Hiroya Taniguchi, Toshiki Masuishi, Manabu Shiozawa, Hideaki Bando, Tomohiro Nishina, Hisateru Yasui, Takashi Ohta, Naoki Takahashi, Tadamichi Denda, Taito Esaki, Hisato Kawakami, Hironaga Satake, Atsuo Takashima, Yukiko Abe, Shogo Nomura, Takayuki Yoshino. Analysis of plasma angiogenesis factors on the efficacy of first-line (1L) chemotherapy (chemo) combined with biologics in RAS wild-type metastatic colorectal cancer (mCRC): Results from GI-SCREEN CRC Ukit study. 2022 ASCO Annual meeting, 2022.
- 9) Y Sunakawa, C Inagaki, S Yuki, M Shiozawa, A Tsuji, R Matoba, E Inoue, K Muro, W Ichikawa. An observational/translational study of BRAF inhibitor combination therapy for BRAF-mutant metastatic colorectal cancer including biomarker research: BEETS trial (JACCRO CC-18). ESMO-GI 2022, 2022.
- 10) Y Sunakawa, E Inoue, Y Sakamoto, R Kawabata, A Ishiguro, Y Akamaru, Y Kito, M Takahashi, J Matsuyama, H Yabusaki, A Makiyama, T Suzuki, M Tsuda, H Yasui, H Kawakami, TE Nakajima, K Muro, R Matoba, W Ichikawa, M Fujii. Final analysis of clinical outcomes in the DELIVER trial: Observational study of nivolumab treatment in advanced gastric cancer (JACCRO GC-08). ESMO 2022, 2022.
- 11) Yu Sunakawa, Manabu Shiozawa, Takanori Watanabe, Hirofumi Ota, Hisateru Yasui, Taichi Yabuno, Mitsuyoshi Tei, Mitsugu Kochi, Dai Manaka, Hisatsugu Ohori, Tatsuro Yamaguchi, Tamotsu Sagawa, Masahito Kotaka, Yutaro Kubota, Takashi Sekikawa, Masato Nakamura, Masahiro Takeuchi, Wataru Ichikawa, Masashi Fujii, Akihito Tsuji. Modified (m)-FOLFOXIRI plus cetuximab versus m-FOLFOXIRI plus bevacizumab as initial treatment of patients with unresectable RAS and BRAF wild-type metastatic colorectal cancer: Survival analysis of the phase II randomized DEEPER trial by JACCRO. ASCO-GI2023, 2023.
- 12) Yu Sunakawa, Hisateru Yasui, Manabu Shiozawa, Hiroyuki Takeda, Naoya Akazawa, Tamotsu Sagawa, Kazuhiro Shiraishi, Yoshihiro Okita, Hiroyuki Okuyama, Satoshi Yuki, Shoko Yanaka, Koutatsu Matsushima, Koki Miyakawa, Ayana Kobara, Wataru Ichikawa, Masashi Fujii, Akihito Tsuji. Plasma biomarkers to predict clinical outcomes of FOLFIRI plus ramucirumab (RAM) as second-line treatment for RAS wild-type metastatic colorectal cancer: JACCRO CC-16AR. ASCO-GI2023, 2023.

- 13) Hiroo Ishida, Yu Sunakawa, Yasuhiro Koda, Kazuhiro Yoshida, Mitsugu Kochi, Yoshihiro Kakeji, Takeshi Sano, Masahiro Takeuchi, Wataru Ichikawa, Masashi Fujii. Post-recurrent survival of a phase III trial comparing adjuvant chemotherapy with docetaxel plus S-1 versus S-1 alone in stage III gastric cancer: A post-hoc analysis of the START-2 trial (JACCRO GC-07). ASCO-GI2023, 2023.
- 14) Shun Tezuka, Shunsuke Sakai, Riu Yamashita, Satoshi Horasawa, Takao Fujisawa, Kentaro Sawada, Ayumu Yoshikawa, Yoshiaki Nakamura, Kumiko Umemoto, Nobuhiro Shibata, Koushiro Ohtsubo, Shinji Itoh, Akiko Todaka, Kentaro Sudo, Masayuki Furukawa, Masafumi Ikeda, Chigusa Morizane, Makoto Ueno, Takayuki Yoshino. Interim analysis results of gut microbiota in patients with unresectable cholangiopancreatic cancer: SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN. ASCO-GI 2023, 2023.
- 15) Naohiro Okano, Kentaro Sakamaki, Takafumi Mie, Kazuo Watanabe, Satoshi Kobayashi, Akiko Todaka, Yuko Suzuki, Hidetoshi Kitamura, Kazunari Tanaka, Kei Nakagawa, Keiko Kamei, Kumiko Umemoto, Nobuaki Azemoto, Yasuyuki Kawamoto, Hiroaki Yanagimoto, Kunihiro Tsuji, Hiroshi Imaoka, Takeshi Terashima, Makoto Ueno, Junji Furuse. Outcomes of FOLFIRINOX and gemcitabine plus nab-paclitaxel in patients with early recurrent pancreatic cancer after adjuvant S-1: A propensity score-matching analysis. ASCO-GI 2023, 2023.

③ その他

- 1) 砂川優. 遠隔医療を用いた
治験プレスクリーニング検査の実装. DCT 産学連携勉強会, 2022.
- 2) 砂川優. 臨床試験における遠隔同意について考える
～医療機関の導入・実施経験から～. CRC と臨床試験のあり方を考える
会議, 2022.
- 3) 小林慎二郎, 増田哲之, 梅本久美子, 梅澤早織, 井田圭亮, 土居綾子, 土橋篤仁, 小泉哲, 砂川優, 大坪毅人. 切除可能
膵頭部癌に対する NAC-GS についての現況と課題. 第 55 回制癌剤適応研修会, 2023.
- 4) 増田哲之, 小林慎二郎, 水上拓郎, 野呂瀬朋子, 梅澤早織, 井田圭亮, 土橋篤仁, 小泉哲, 砂川優, 大池信之, 大坪毅人.
初診時切除不能と判断したが Conversion surgery 後も長期生存している非乳頭部十二指腸癌の 1 例. 第 55 回制癌剤適応研
修会, 2023.
- 5) John H Strickler, Hironaga Satake, Antoine Hollebecque, Yu Sunakawa, Pascale Tomasini, David Lawrence Bajor, Martin H. Schuler, Rona Yaeger, Thomas J. George, Ignacio Garrido-Laguna, Andrew L. Coveler, Mark David Vincent, Gerald Steven Falchook, Timothy F. Burns, Sun Young Rha, Charlotte Rose Lemech, Dejan Juric, Pegah Jafarinasabian, Qui Tran, David Hong. First data for sotorasib in patients with pancreatic cancer with KRAS p.G12C mutation: A phase I/II study evaluating efficacy and safety. ASCO Plenary Series, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		23
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	23	7
	国際学会		15
	その他	4	1

リハビリテーション医学

著書

- 1) 佐々木信幸. 1. 脳血管障害 1) 急性期 最新 リハビリテーション医学 2023; (3) :220-228.
- 2) 佐々木信幸. 足関節 標準リハビリテーション医学 2023; (第4版) :317-319.
- 3) 佐々木信幸. 失語に対するリハビリテーションは、いつから始めるか? 脳卒中治療 Controversy 2023; (1) :240-244.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 木田圭亮, 貝原俊樹, 佐々木信幸. 【第4次産業革命がもたらすリハビリテーション医療のこれから】遠隔心臓リハビリテーション治療の現状と課題. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2022;59(4) : 377-384.
- 2) 佐々木信幸. 重力のもたらす生体の反応と急性期リハビリテーション治療. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2022;59(8) : 817-824.
- 3) 木田圭亮, 鈴木規雄, 佐々木信幸. 【Onco-Cardiology Update】治す 今後の腫瘍循環器診療の展望 腫瘍循環器リハビリテーションの可能性. Heart View, 2022;26(10) : 1006-1013.
- 4) 佐々木信幸. COVID-19 後のブレインフォグに対する反復性経頭蓋磁気刺激 (rTMS). 精神科治療学, 2022;37(11) : 1281-1286.
- 5) 佐々木信幸. 脳卒中に対する反復性経頭蓋磁気刺激 (rTMS). 老年医学, 2022;60(11) : 997-1001.
- 6) 佐々木信幸. コロナ後遺症 (Long COVID) におけるブレインフォグと社会復帰. CLINICAL REHABILITATION, 2022;31(14) : 1418-1423.
- 7) 木田圭亮, 鈴木規雄, 佐々木信幸. リハビリテーションと薬剤 リハビリテーションにおける疾患・病態に応じた薬剤管理(2) 心不全. Journal of Clinical Rehabilitation, 2022;31(14) : 1432-1437.
- 8) 佐々木信幸. 脳卒中片麻痺に対する反復性経頭蓋磁気刺激 (rTMS). MEDICAL REHABILITATION, 2022;282 : 85-91.
- 9) 佐々木信幸. COVID-19 後遺症に対するリハビリテーション治療. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2023;60(2) : 121-128.
- 10) 佐々木信幸. 脳卒中の予後予測に関する現状と課題. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2023;60(3) : 222-229.

② その他

- 1) 佐々木信幸. COVID-19 第7波を迎えて思うこと. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine, 2022;59(9) : 868-868.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Sasaki N, Sato T, Yamatoku M, Yamano Y.. Efficacy of repetitive transcranial magnetic stimulation for gait disturbance in HTLV-1 associated myelopathy. NeuroRehabilitation, 2022;51(3) : 519-526.
- 2) Teppei Komatsu, Takuya Hada, Nobuyuki Sasaki, Hiroyuki Kida, Junichiro Takahashi, Takahiro Maku, Ryoji Nakada, Tomotaka Shiraishi, Shiho Akiyama, Tomomichi Kitagawa, Takeo Sato, Hiroki Takatsu, Kenichi Sakuta, Kenichiro Sakai, Tadashi Umehara, Shusaku Omoto, Hidetomo Murakami, Hidetaka Mitsumura, Masahiro Abo, Yasuyuki Iguchi.. Effects and safety of high-frequency rTMS in acute intracerebral hemorrhage patients: A pilot study. Journal of the neurological sciences., 2022; : doi: 10.1016/j.jns.2022.120473.
- 3) Nobuyuki Sasaki, Masato Yamatoku, Tomoya Tsuchida, Hiroyuki Sato, Keiichiro Yamaguchi.. Effect of Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation on Long Coronavirus Disease 2019 with Fatigue and Cognitive Dysfunction. Progress in Rehabilitation Medicine, 2023;8 : doi: 10.2490/prm.20230004.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎山徳雅人, 萩原悠太, 長谷川大輔, 桑島規夫, 高田礼子, 山野嘉久. 脳神経内科における両立支援外来の重要性. 第63回日本神経学会学術大会, 2022.
- 2) 佐々木信幸. 痙攣治療のプロフェッショナルを目指して. 第59回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2022.
- 3) 佐々木信幸. 脳卒中の予後予測に関する現状と課題. 第59回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2022.

- 4) 佐々木信幸. 「脳神経領域」の新アプローチ 機能回復を最大限引き出す rTMS～離床+反復磁気刺激で導く治療の進め方～. 第 12 回日本離床学会全国学術大会, 2022.
 - 5) 佐々木信幸. 脳疾患後の復職に向けて. 第 12 回日本脳血管・認知症学会総会, 2022.
 - 6) 佐々木信幸, 山徳雅人. Long COVID の倦怠感や認知機能障害に対する反復性経頭蓋磁気刺激の効果. 第 6 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022.
 - 7) 佐々木信幸. 脳卒中に対する治療的 rTMS. 第 6 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022.
 - 8) 服部皓大, 佐々木信幸, 村田貴哉, 秋山雄太, 増田景太, 諸岡暁.
10 代 COVID-19 感染後の筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群に対する rTMS 効果の検討.
第 6 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022.
 - 9) 佐々木信幸. 上肢・下肢痙縮に対する 400 単位超使用と院内連携. 日本リハビリテーション医学会 近畿地方会, 2023.
- ② その他
- 1) 佐々木信幸. ボツリヌス療法の新たなステージ～上限拡大における再考～. 痙縮治療 WEB セミナー in 栃木, 2022.
 - 2) 佐々木信幸. Long COVID の Brain fog に対する rTMS. 聖マリアンナ医科大学病院 WEB セミナー
【第 40 回】地域医療連携 WEB セミナー, 2022.
 - 3) 佐々木信幸. 上・下肢痙縮に対する 400 単位超使用と院内連携. 痙縮治療 WEB 講演会, 2022.
 - 4) 山徳雅人. 脳神経内科における嚥下造影検査 (VF) の活用方法. 第 31 回神奈川県嚥下研究会, 2022.
 - 5) 佐々木信幸. 上・下肢痙縮に対する 400 単位超使用と院内連携. ボツリヌス療法 expert seminar in 京都, 2022.
 - 6) 山徳雅人, 小池英子. 神経内病の終末期における緩和ケアチームとの連携. 非がん疾患の緩和ケアを考える会, 2022.
 - 7) 佐々木信幸. 反復性経頭蓋磁気刺激 (rTMS) ～中枢神経由来運動障害や Long COVID への挑戦～. 神奈川県内科医学会 第 46 回臨床医学研修講座, 2022.
 - 8) 佐々木信幸. 回復期リハビリテーションに必要な評価. 第 10 回医師のための総合リハビリテーション講座, 2022.
 - 9) 佐々木信幸. 上肢・下肢痙縮に対する 400 単位超使用と院内連携. 山梨痙縮治療 Web セミナー, 2022.
 - 10) 佐々木信幸. 痙縮麻痺や高次脳機能障害に対する包括的治療戦略 ～コロナ後遺症の Brain fog への適用～. 第 13 回桜山リハビリテーション研究会, 2022.
 - 11) 佐々木信幸. 脳卒中痙縮性麻痺へのトータルケア～ボトックス 12 年の歴史と未来～. GSK Special Web Conference 2022, 2022.
 - 12) 佐々木信幸. 痙縮治療における多面的アプローチ. Spasticity Management Meeting, 2023.
 - 13) 佐々木信幸. 痙縮治療における多面的アプローチ. GSK Spasticity Conference, 2023.
 - 14) 佐々木信幸. 上肢・下肢痙縮に対する 400 単位超使用と院内連携. 痙縮治療 Web 講演会, 2023.

		和 文	英 文
著 書		3	
論 文	原著		3
	解説又は総説	10	
	症例報告		
	その他	1	
学会発表	国内学会	9	
	国際学会		
	その他	14	

感染症学

著書

- 1) 高野知憲, 山崎行敬, 國島広之. 災害時における感染症と敗血症への対応. 救急・集中治療アドバンス 敗血症 感染症と臓器障害への対応 2023;:384-392.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 小野元, 安心院康彦, 渥美生弘, 稲田慎治, 國島広之, 嶋津岳士, 横堀将司, 吉川美喜子, 横田裕行, 江川裕人, 水谷敦史, 大宮かおり, 小川直子, 中村晴美. 臓器提供経験施設への実態調査研究に基づく新たな体制構築に関する提言 (Ver. 1). 日本救急医学会雑誌, 2022;33 : 436-463.

② 総説又は症例解説

- 1) 山崎行敬, 高野知憲, 國島広之. Clostridioides (Clostridium) difficile 感染症診療ガイドラインの概要. 診断と治療, 2022;110(7) : 893-897.
- 2) 高野知憲, 山崎行敬, 國島広之. 新型コロナウイルス感染症に対する換気測定技術・指標とその運用. 感染対策 ICT ジャーナル, 2023;18(1) : 11-15.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Adachi M, Murakami M, Yoneoka D, Kawashima T, Hashizume M, Sakamoto H, Eguchi A, Ghaznavi C, Gilmour S, Kaneko S, Kunishima H, Maruyama-Sakurai K, Tanoue Y, Yamamoto Y, Miyata H, Nomura S.. Factors associated with the risk perception of COVID-19 infection and severe illness: A cross-sectional study in Japan. SSM - Population Health, 2022;18(101105) : doi-10.1016/j.ssmph.2022.101105.
- 2) Ohishi T, Yamagishi T, Kurosu H, Kato H, Takayama Y, Anan H, Kunishima H. SARS-CoV-2 Delta AY.1 Variant Cluster in an Accommodation Facility for COVID-19: Cluster Report. International journal of environmental research and public health, 2022;19(15) : DOI-10.3390/ijerph19159270.
- 3) Tsuchida T, Hirose M, Inoue Y, Kunishima H, Otsubo T, Matsuda T. Relationship between changes in symptoms and antibody titers after a single vaccination in patients with Long COVID. Journal of Medical Virology, 2022;94(7) : 3416-3420.
- 4) Ghaznavi C, Yoneoka D, Kawashima T, Eguchi A, Murakami M, Gilmour S, Kaneko S, Kunishima H, Naito W, Sakamoto H, Maruyama-Sakurai K, Takahashi A, Takayama Y, Tanoue Y, Yamamoto Y, Yasutaka T, Miyata H, Nomura S.. Factors associated with reversals of COVID-19 vaccination willingness: Results from two longitudinal, national surveys in Japan 2021-2022. The Lancet Regional Health Western Pacific, 2022;27(100540) : DOI-10.1016/j.lanwpc.2022.100540.
- 5) Tashiro S, Mihara T, Sasaki M, Shimamura C, Shimamura R, Suzuki S, Yoshikawa M, Hasegawa T, Enoki Y, Taguchi K, Matsumoto K, Ohge H, Suzuki H, Nakamura A, Mori N, Morinaga Y, Yamagishi Y, Yoshizawa S, Yanagihara K, Mikamo H, Kunishima H.. Oral fidaxomicin versus vancomycin for the treatment of Clostridioides difficile infection: A systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials. Journal of Infection and Chemotherapy, 2022;28(11) : 1536-1545.
- 6) Tomonori Takano, Takashi Okanda, Masanori Hirose, Yukitaka Yamasaki, Tomoya Tsuchida, Hiromu Takemura, Kimito Kawahata, Hiroyuki Kunishima. Diagnostic accuracy of four serological tests for COVID-19 and differences in antibody positivity rates based on the need for treatment or ventilator support. Journal of St. Marianna University, 2022;13(1) : 29-37.
- 7) Mouri M, Imamura M, Suzuki S, Kawasaki T, Ishizaki Y, Sakurai K, Nagafuchi H, Matsumura N, Uchida M, Ando T, Yoshioka K, Ooka S, Sugihara T, Miyoshi H, Mori M, Okada T, Yamaguchi M, Kunishima H, Kato M, Kawahata K. Serum polyethylene glycol-specific IgE and IgG in patients with hypersensitivity to COVID-19 mRNA vaccines. Allergology international : official journal of the Japanese Society of Allergology, 2022;71(4) : 512-519.

- 8) Nomura S, Eguchi A, Yoneoka D, Murakami M, Ghaznavi C, Gilmour S, Kaneko S, Kawashima T, Kunishima H, Naito W, Sakamoto H, Maruyama-Sakurai K, Takahashi A, Takayama Y, Tanoue Y, Yamamoto Y, Yasutaka T, Miyata H. Characterising reasons for reversals of COVID-19 vaccination hesitancy among Japanese people: One-year follow-up survey. The Lancet Regional Health Western Pacific, 2022;27(100541) : DOI-10.1016/j.lanwpc.2022.100541.
 - 9) Nomoto H, Saito H, Ishikane M, Gu Y, Ohmagari N, Didier Pittet, Kunishima H, Benedetta Allegranzi, Yoshida M. First nationwide survey of infection prevention and control among healthcare facilities in Japan: impact of the national regulatory system. Antimicrobial resistance & infection control, 2022;11(1) : DOI-10.1186/s13756-022-01175-y.
 - 10) Uchibori M, Ghaznavi C, Murakami M, Eguchi A, Kunishima H, Kaneko S, Maruyama-Sakurai K, Miyata H, Nomura S. Preventive Behaviors and Information Sources during COVID-19 Pandemic: A Cross-Sectional Study in Japan. International journal of environmental research and public health, 2022;19(21) : DOI-10.3390/ijerph192114511.
 - 11) Yamasaki Y, Ooka S, Matsuoka S, Tomita H, Hirose M, Takano T, Suzuki S, Imamura M, Handa H, Nishine H, Takita M, Minoura A, Morisawa K, Inoue T, Mineshita M, Kawahata K, Takemura H, Fujitani S, Kunishima H. Predicting the aggravation of coronavirus disease-19 pneumonia using chest computed tomography scans. PloS One, 2022;3(17) : 11.
 - 12) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, Kurokawa MS, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K. Serum gasdermin D levels are associated with the chest computed tomography findings and severity of COVID-19. Respiratory Investigation, 2022;60(6) : 750-761.
 - 13) Nakagama Y, Candray K, Kaku N, Komase Y, Rodriguez-Funes MV, Dominguez R, Tsuchida T, Kunishima H, Nagai E, Adachi E, Ngoyi DM, Yamasue M, Komiya K, Hiramatsu K, Uemura N, Sugiura Y, Yasugi M, Yamagishi Y, Mikamo H, Shiraishi S, Izumo T, Nakagama S, Watanabe C, Nitahara Y, Tshibangu-Kabamba E, Kakeya H, Kido Y. Antibody avidity maturation, following recovery from infection or the booster vaccination, grants breadth in SARS-CoV-2 neutralizing capacity. The Journal of Infectious Diseases, 2022;227(6) : 780-787.
 - 14) Takano T, Okanda T, Hirose M, Yamasaki Y, Tsuchida T, Takemura H, Kawahata K, Kunishima H. Diagnostic Accuracy of Four Serological Tests for COVID-19 and Differences in Antibody Positivity Rates Based on the Need for Treatment or Ventilator Support. Journal of St. Marianna University, 2022;13 : 29-37.
- ② 症例報告
- 1) Takada K, Sada Y, Samura M, Matsuura M, Hirose N, Kurata T, Nagumo F, Ishii J, Koshioka S, Uchida M, Inoue J, Tanikawa K, Kunishima H. A Case of Exacerbation of Haloperidol-Induced Rhabdomyolysis Following the Onset of COVID-19. American journal of case reports, 2022;23 : DOI-10.12659/AJCR.936589.

学会発表

① 国内学会

- 1) 中菌健一, 齋藤浩輝, 一原直昭, 加藤英明, 國島広之, 吉田英樹, 藤谷茂樹, 田野島玲大, 小谷祐樹. 国際共同臨床試験 (REMAP-CAP) 日本地域研究管理委員会における薬剤師の活動と役割. 第 96 回日本感染症学会総会・学術講演会, 2022.
- 2) 木庭茂, 中菌健一, 田野島玲大, 吉田英樹, 加藤英明, 國島広之, 齋藤浩輝, 一原直昭, 藤谷茂樹. 市中肺炎における経験的抗菌薬投与およびマクロライド投与 国際プラットフォーム試験 REMAP-CAP への参加の実際. 第 96 回日本感染症学会総会・学術講演会, 2022.
- 3) 國島広之. イベント時の COVID-19 への対応～感染対策, 診断を中心に. 第 96 回日本感染症学会総会・学術集会 共催セミナー5, 2022.
- 4) 國島広之. COVID-19 施設内感染アンケート調査から見えてくるもの. 第 96 回日本感染症学会総会・学術講演会, 2022.
- 5) 國島広之. 糖尿病治療における針刺し損傷ゼロを目指して～糖尿病患者の注射療法に関する感染マネジメントバンドル～. 第 10 回日本感染ネットワーク学会学術集会 共催セミナー オープニングセミナー2, 2022.
- 6) 國島広之. 新型コロナウイルスの最近の話題. 第 70 回日本化学療法学会総会, 2022.
- 7) 竹村弘, 寺久保繁美, 大神田敬, 越川拓郎, 高野知憲, 國島広之. β -ラクタマーゼ半定量的検査法の開発とその有用性について. 第 70 回日本化学療法学会総会, 2022.
- 8) 高野知憲, 松元一明, 國島広之. セフトリアキソン脳症を発症した透析患者の一例. 第 70 回日本化学療法学会総会 PK/PD・TDM5, 2022.

- 9) 國島広之. Clostridioides difficile 感染症ガイドライン～プロバイオティクスの可能性～. 第 70 回日本化学療法学会総会 スポンサーードシンポジウム 9, 2022.
- 10) 國島広之. Clostridioides difficile 感染症診療の新たな展望. 第 70 回日本化学療法学会総会 教育講演 24, 2022.
- 11) 國島広之. COVID-19 院内感染から学んだこと、これから解決すべきこと. 第 70 回日本化学療法学会総会 ICD 講習会, 2022.
- 12) 國島広之. インバウンド診療時の感染制御の課題. 第 37 回日本環境感染学会総会・学術集会 委員企画 3, 2022.
- 13) 國島広之. 感染対策の今後のあり方. 第 37 回日本環境感染学会総会・学術集会 シンポジウム 6, 2022.
- 14) 國島広之. C. difficile 感染症診療と感染制御. 第 37 回日本環境感染学会総会・学術集会 ランチョンセミナー11, 2022.
- 15) 國島広之. 糖尿病治療における針刺し損傷ゼロを目指して～糖尿病患者の注射療法に関する感染マネジメントバンドル 2022～. 第 9 回日本糖尿病協会年次学術集会 共済セミナー ランチョンセミナー5, 2022.
- 16) 高野知憲, 工藤逸美, 江口修平, 松本麻未, 岡健太郎, 山崎行敏, 高橋志達, 國島広之. Candida albicans のバイオフィルム形成能の評価と乳酸桿菌培養上清によるバイオフィルム形成阻害作用の検討. 第 25 回日本臨床腸内微生物学会総会・学術集会, 2022.
- 17) 國島広之. 真菌感染症の症例から学ぶ. 第 66 回日本医真菌学会総会・学術集会 教育セミナー12, 2022.
- 18) 國島広之. Clostridioides difficile 感染症の最近の話題～ガイドラインのアップデート～. 第 71 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 69 回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会 モーニングセミナー3, 2022.
- 19) 國島広之. グラム陰性菌感染症治療 Up to date -ESBL 産生菌を中心に-. 第 71 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 69 回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会 教育セミナー1, 2022.
- 20) 國島広之. 新型コロナウイルス感染症に対する医療現場の取組み. 第 21 回日本バイオセーフティ学会 総会・学術集会 特別講演 2, 2022.
- 21) 永田 恵理, 大柳 忠智, 高橋 儀行, 黒沢 未希, 加峯 えみり, 志村 佳菜, 國島 広之, 竹村 弘. 重症 COVID-19 治療中に活動性結核の診断に至った 1 症例. 第 34 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 2023.
- 22) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, S.Kurokawa M, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K. Pyroptosis-apoptosis imbalance affects the severity and chest CT findings in COVID-19. 第 62 回日本呼吸器学会学術講演会, 2022.

② 国際学会

- 1) 國島広之. COVID-19 パンデミック後の医療関連感染に関連した日本の院内環境コントロール. 感染制御国際セミナー2022, 2022.
- 2) Hiroyuki Kunishima. Management of C. difficile Infection. 32nd International Congress of Antimicrobial Chemotherapy, 2022.

③ その他

- 1) 國島広之. 耐性グラム陰性菌感染症の最近の話題. 難治性感染症研究会 2022 in Osaka, 2022.
- 2) 國島広之. グラム陰性菌感染症に対するアプローチについて. 抗菌薬適正使用支援セミナー, 2022.
- 3) 國島広之. 糖尿病と感染症-新型コロナを含め-. 第 7 回三重糖尿病と感染症フォーラム, 2022.
- 4) 國島広之. 耐性グラム陰性菌感染制御のためのポイント. 感染症 Virtual Meeting in 兵庫, 2022.
- 5) 國島広之. COVID-19 (新興感染症) の診療と対策について. 福井県医師会産業医研修会, 2022.
- 6) 國島広之. 新型コロナ診療の uptodate. 盛岡市医師会内科医会 (廿日会) 特別講演会, 2022.
- 7) 國島広之. 病院清掃の基本と病院感染対策. 2022 年度 (第 9 回) 病院清掃受託責任者講習, 2022.
- 8) 國島広之. ワンヘルスで考える感染対策. 第 1 回ワンヘルスネットワークフォーラム ワンヘルスシンポジウム 1, 2022.
- 9) 國島広之. 神奈川県における感染症地域連携の取り組み. 令和 4 年度第 3 回愛知県実践感染対策カンファレンス, 2022.
- 10) 國島広之. AMR 対策時代における抗菌薬適正使用. 川崎エリア呼吸器感染症 WEB セミナー, 2022.
- 11) 國島広之. 期待される抗菌化学療法支援チームの活動について. 臨床感染症サロン 2022, 2022.
- 12) 國島広之. グラム陰性菌感染症の最近の話題. 上越感染症セミナー～耐性菌治療のサイエンス&アート～, 2022.
- 13) 國島広之. グラム陰性菌感染症の最近の話題. 静岡県感染症セミナー, 2022.
- 14) 國島広之. グラム陰性菌感染症の最近の話題. 感染対策ネットワーク講演会, 2022.
- 15) 國島広之. 薬剤耐性菌感染症の最近の話題. 令和 4 年度第 13 回高崎市医師会学術講演会, 2022.
- 16) 國島広之. クロストリジイオイデス・ディフィシル感染症 uptodate. 名古屋市立大学病院感染対策講演会, 2022.
- 17) 國島広之. COVID-19 とインフルエンザの最新知見. 第 136 回江戸川区小児科医会学術講演会, 2022.
- 18) 國島広之. 改訂された CDI ガイドラインのエッセンス. 福井感染症セミナー2022, 2022.
- 19) 國島広之. グラム陰性菌感染症治療の新機軸. 川崎感染症セミナー2022, 2022.

- 20) 國島広之. クロストリディオイデス・ディフィシル感染症における最近のガイドライン動向. 第10回中部実践感染対策セミナー, 2023.
- 21) 國島広之. 改訂されたCDIガイドラインのエッセンス. 感染症特別講演会 2023, 2023.
- 22) 國島広之. コロナ時代の病院における面会のあり方を考える. 感染防止対策・抗菌薬適正使用支援に関する講演会, 2023.
- 23) 國島広之. COVID-19 とインフルエンザ. 公益財団法人 日本感染症医薬品協会 メディカル・サイエンス セミナー, 2023.
- 24) 國島広之. 改訂されたCDIガイドラインのエッセンス. 大洲・八幡浜感染症セミナー, 2023.
- 25) 國島広之. 改訂されたCDIガイドラインのエッセンス. 第2回佐賀消化器外科学術講演会, 2023.
- 26) 國島広之. 改訂されたCDIガイドラインのエッセンス. 第6回長崎腸内細菌研究会, 2023.
- 27) 國島広之. COVID-19 の最新知見. COVID-19 診療 update, 2023.
- 28) 國島広之. COVID-19 の最新知見. 釧路 COVID-19 感染症セミナー, 2023.
- 29) 國島広之. COVID-19 の最新知見. 西多摩感染症フォーラム, 2023.
- 30) 國島広之. COVID-19 の最新知見. COVID-19 Web Conference in 神奈川, 2023.
- 31) 國島広之. 5 類化に向けた新型コロナに対する感染症対策の考え方. 第15回 COVID-19 臨床懇談会, 2023.
- 32) 國島広之. COVID-19 の最新知見. 神田医師会学術講演会, 2023.
- 33) 國島広之. Clostridioides difficile 感染症 uptodate -ガイドラインを含め-. 第9回 GC 研究会, 2023.
- 34) 國島広之. COVID-19 の最新知見. 郡山感染症フォーラム 2023, 2023.
- 35) 國島広之. COVID-19 の最新知見. COVID-19 診療 UP-TO-DATE, 2023.
- 36) 國島広之. COVID-19 の最新知見. 山口感染症 Forum ～COVID-19 感染症を考える～, 2023.
- 37) 國島広之. COVID-19 の最新知見. 発熱診療フォーラム, 2023.
- 38) 國島広之. COVID-19 の最新知見. 感染症セミナー in 函館, 2023.
- 39) 國島広之. COVID-19 の最新知見. 浜松 COVID-19 セミナー, 2023.
- 40) 國島広之. COVID-19 の最新知見. COVID-19 Seminar in mie, 2023.
- 41) 國島広之. COVID-19 の最新知見. COVID-19 Web Conference in Okayama, 2023.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著	1	14
	解説又は総説	2	
	症例報告		1
	その他		
学会発表	国内学会	21	1
	国際学会	1	1
	その他	41	

緩和医療学

著書

- 1) 橋口さおり．がん性疼痛の発生機序 がん性疼痛 薬の使い方 2022;:2-10.
- 2) 橋口さおり．緩和ケアとがんの痛みの治療 麻酔科学レビュー2022 2022;:275-279.

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 橋口さおり．緩和医療の現状と展望．聖マリアンナ医科大学雑誌，2022;50(1)：11-16.
- 2) 橋口さおり．オピオイドスイッチングのやり方．LiSA，2022;29(別冊秋)：127-131.
- 3) 橋口さおり．緩和ケアと痛みへの対応．日本医師会雑誌，2022;151(特別号(2))：341-343.

② その他

- 1) 橋口さおり．第27回日本緩和医療学会学術大会．臨床麻酔，2022;46(10)：1339.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Higashibata Takahiro, Hamano Jun, Kessoku Takaomi, Kajiura Shinya, Hirakawa Mami, Horie Yoshiki, Shimizu Masaki, Oyama Shunsuke, Ariyoshi Keisuke, Kihara Kota, Yamanaka Yohei, Konishi Kumi, Doki Kosuke, Takashima Yasuyuki, Horiuchi Manabu, Homma Masato, Yamada Takeshi, Yamamoto Yoshiyuki, Moriwaki Toshikazu, Morita Tatsuya, Nakajima Atsushi, Nagaoka Hiroka.. Rationale and design of a multicenter, double-blinded, randomized, placebo-controlled trial to investigate the effects of naldemedine on opioid-induced constipation for patients with cancer pain: A study protocol. Contemporary Clinical Trials Communications, 2022;29 : doi-10.1016/j.conctc.2022.100967..

学会発表

① 国内学会

- 1) 黒田貴子，佐戸綾子，古川尚美，田邊幸子，神蔵奈々，小島康幸，櫛野宣久，平川麻美，橋口さおり，津川浩一郎．乳癌診療におけるAdvance Care Planningの実施状況と課題．第30回日本乳癌学会学術総会，2022.
- 2) 橋口さおり．がんサバイバーの痛み．第27回日本緩和医療学会学術大会，2022.
- 3) 橋口さおり．がん疼痛治療の未来．第27回日本緩和医療学会学術大会，2022.
- 4) 橋口さおり．がんサバイバーの痛みの評価．日本ペインクリニック学会第56回学術集会，2022.
- 5) 橋口さおり．緩和ケアと意思決定 アドバンス・ケア・プランニングについての考察．第17回日本精神対話学会，2022.
- 6) 橋口さおり．がんサバイバーの疼痛治療-急性期から慢性期へのシームレスな対応をめざして-．第4回日本緩和医療学会北海道支部学術大会，2022.
- 7) 橋口さおり．麻酔科医と緩和医療．日本麻酔科学会2022年度支部学術集会，2022.
- 8) 橋口さおり．がん疼痛緩和-急性期から慢性期へ変化に対応する-．第3回日本緩和医療学会東北支部学術大会，2022.
- 9) 橋口さおり．地域をつなぐ緩和ケア．第8回熊本緩和薬物療法研究会，2022.
- 10) 橋口さおり．緩和医療における麻酔科医の役割．神奈川県麻酔科医会第54回学術集会，2023.
- 11) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．第5回川崎南緩和医療研究会，2023.

② その他

- 1) 櫛野宣久．がん患者の不眠にどうアプローチするか？．がん患者の不眠について考える会，2022.
- 2) 橋口さおり．がん性疼痛のマネジメントについて～基本的緩和ケアの普及に向けて～．Palliative Care Web Seminar, 2022.
- 3) 橋口さおり．診断時からの緩和ケア-Patient-friendlyな鎮痛の重要性-．ジクトルテープ75mg発売1周年記念Web講演会，2022.
- 4) 橋口さおり．緩和ケアにおけるチーム医療の重要性～がん終末期における排便管理～．第6回便秘ゼミ～便秘治療の実際を考える～，2022.
- 5) 橋口さおり．がん疼痛緩和の創意工夫-緩和ケアチームがタコツボ化しないために-．みやざきホスピス緩和ケアネットワーク第22回学術集会，2022.
- 6) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．緩和ケア地域連携Webセミナー，2022.

- 7) 橋口さおり．がん疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．痛みの治療トータルマネジメント Web Seminar, 2022.
- 8) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．北武蔵 緩和ケアと疼痛病診連携セミナー, 2022.
- 9) 橋口さおり．がん性疼痛のマネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．がん性疼痛について考える会, 2022.
- 10) 橋口さおり．今、必要とされている緩和ケア-診断時から慢性期まで-．近畿「がんプロ」コンソーシアムがんプロセミナー, 2022.
- 11) 橋口さおり．早期からの緩和ケアの実践をめざして．がん患者サポートセミナー2022, 2022.
- 12) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．がん患者さんの痛みについて考える Web seminar, 2022.
- 13) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．がんのトータルケア WebSeminar, 2023.
- 14) 橋口さおり．がん性疼痛のトータルケアマネジメント～オピオイドと鎮痛補助薬について～．痛み治療の未来に向けてトータルマネジメント WEB セミナー, 2023.
- 15) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．がん診療における疼痛管理を考える, 2023.
- 16) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．エキスパートから学ぶがん診療 Web セミナー in 栃木～患者さんに悩みを我慢させない治療を目指して～, 2023.
- 17) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．在宅患者の疼痛管理を考える, 2023.
- 18) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．WebSeminar～血液疾患を包括的に考える～, 2023.
- 19) 橋口さおり．緩和ケアにおける排便困難への対応．緩和における排便管理セミナー, 2023.
- 20) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．消化器がんトータルマネジメント Webseminar～胃癌診療と神経障害性疼痛～, 2023.
- 21) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．Diverse Disease Seminar～COVID-19と疼痛治療の今を知る～, 2023.
- 22) 橋口さおり．がん疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．がん性疼痛カンファランス, 2023.
- 23) 橋口さおり．がん性疼痛マネジメント～オピオイドと鎮痛補助剤の話題を含めて～．湘南の緩和ケアを考える会, 2023.

		和 文	英 文
著 書		2	
論 文	原著		1
	解説又は総説	3	
	症例報告		
	その他	1	
学会発表	国内学会	11	
	国際学会		
	その他	23	

医学教育文化部門（人文・社会科学）

学術論文[和文]

① その他

- 1) 小田武彦. カトリック信者にとっての「幸い」と「死」. 新薬と臨牀, 2022;71(7) : 70-80.

学会発表

① その他

- 1) 小田武彦. 2023 年 シノドスを目指すもの. 2022 年度横浜教区修道女連盟総会, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他	1	
学会発表	国内学会		
	国際学会		
	その他	1	

医学教育文化部門（医学教育研究）

学術論文〔和文〕

① 総説又は症例解説

- 1) 伊野美幸. 設問 7. スキルスラボ（シミュレーションセンター）. 2021 年度（令和 3 年度）医学教育カリキュラムの現状, 2022; : 220-220.
- 2) 伊野美幸. 2021 年度（令和 3 年度）医学教育カリキュラムの現状序文. 2021 年度（令和 3 年度）医学教育カリキュラムの現状, 2022; : 1-1.
- 3) 伊野美幸, 望月 篤, 信岡祐彦, 黄世捷, 東郷建, 松本伸行. 【精神科医療における女性医師の役割と期待】医学部教育の視点から 現行の医学部教育および大学の女性医師支援について. 精神科治療学, 2022;37(5) : 525-531.

② その他

- 1) 伊野美幸. 令和 3 年度新型コロナウイルス感染拡大への対応に関する調査序文. 令和 3 年度新型コロナウイルス感染拡大への対応に関する調査, 2022; : 1-1.
- 2) 田嶋ティナ宏子. はげたかジャーナルの実際. 聖マリアンナ医科大学雑誌, 2022;50(2) : 55-59.
- 3) 望月 篤. 医科大学におけるキリスト教精神に基づく医師の養成. 医学と福音, 2022;74(9) : 24-27.
- 4) 伊野美幸. 総合討論「Student Doctor のための診療参加型臨床実習」. J.M.E.F, 2023; (43) : 72-73.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎磯部真倫, 松島加代子, 青松棟吉, 石原慎, 石丸裕康, 伊野美幸, 落合甲太, 近藤昭信, 安井浩樹, 高橋誠. 臨床研修を練る会議 2021. 第 54 回日本医学教育学会大会, 2022.
- 2) 春田淳志, 伊野美幸, 石川さと子, 内山靖, 大槻眞嗣, 加藤博孝, 後藤道子, 後藤亮平, 内藤知佐子, 野呂瀬崇彦, 前野貴美, 吉見憲二, 安井浩樹. 医学生が多職種連携コンピテンシーを評価する OSCE を経験する. 第 54 回日本医学教育学会大会, 2022.
- 3) 青木恵美子, 三輪敬蔵, 望月 篤, 東郷建, 黄世捷, 佐野政子, 星野紀子, 松田隆秀, 信岡祐彦, 伊野美幸. 医科大学で SDGs に取り組む意義と課題. 第 54 回日本医学教育学会大会, 2022.

② その他

- 1) 伊野美幸. ワークショップのやりかた. 令和 4 年度防衛医科大学校医学教育ワークショップ, 2022.
- 2) 伊野美幸. パフォーマンス評価. 令和 4 年度防衛医科大学校医学教育ワークショップ, 2022.
- 3) 伊野美幸. 方略. 第 6 回一般教養・基礎社会医学系教員のためのカリキュラムプランニングワークショップ, 2022.
- 4) 伊野美幸. リーダーシップ. 第 19 回リーダー養成ワークショップ, 2022.
- 5) 伊野美幸. コーチング. 第 19 回リーダー養成ワークショップ, 2022.
- 6) 伊野美幸. モチベーションマネジメント. 第 19 回リーダー養成ワークショップ, 2022.
- 7) 伊野美幸. 指導医のリーダーシップとモチベーション. 第 47 回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ, 2022.
- 8) 伊野美幸. 分野別認証評価受審に向けて. 北里大学 2022 年度 Advanced FD 講演会, 2022.
- 9) 伊野美幸. コーチング. 第 20 回リーダー養成ワークショップ, 2022.
- 10) 伊野美幸. モチベーションマネジメント. 第 20 回リーダー養成ワークショップ, 2022.
- 11) 伊野美幸. リーダーシップ. 第 20 回リーダー養成ワークショップ, 2022.
- 12) 伊野美幸. コーチング. 第 25 回初期臨床研修指導医養成ワークショップ, 2022.
- 13) 伊野美幸. 最新の医療者教育について. 第 91 回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 東海（三重）, 2022.
- 14) 伊野美幸. 必修科目ローテーションでの到達目標達成. 令和 4 年度プログラム責任者養成講習会（3 クール）, 2022.
- 15) 望月 篤, 田嶋ティナ宏子, 伊野美幸. 医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂と本学が目指すプロフェッショナルリズム教育の方向性. 第 82 回聖マリアンナ医科大学医学会学術集会, 2022.
- 16) 伊野美幸. 必修科目ローテーションでの到達目標達成. 令和 4 年度プログラム責任者養成講習会（4 クール）, 2022.
- 17) 伊野美幸. 職場のメンタルヘルスとサイコロジカル・セーフティ. 済生会宇都宮病院令和 4 年度医長セミナー, 2022.
- 18) 伊野美幸. 指導医のコーチング. 第 18 回北里大学病院初期臨床研修指導医養成ワークショップ, 2022.
- 19) 伊野美幸. 指導医のリーダーシップとモチベーション. 第 48 回全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップ, 2022.
- 20) 伊野美幸. アイスブレイキング. 第 47 回医学教育者のためのワークショップ, 2022.
- 21) 伊野美幸. 到達目標. 第 47 回医学教育者のためのワークショップ, 2022.
- 22) 伊野美幸. プロフェッショナルリズム. 第 31 回青森県医師臨床研修対策協議会医師臨床研修指導医ワークショップ, 2023.
- 23) 伊野美幸. 研修目標. 第 31 回青森県医師臨床研修対策協議会医師臨床研修指導医ワークショップ, 2023.

- 24) 伊野美幸. リーダーシップ・コーチング. 第 31 回青森県医師臨床研修対策協議会医師臨床研修指導医ワークショップ, 2023.
- 25) 伊野美幸. コーチング. 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院指導者研修会, 2023.
- 26) 伊野美幸. 医療者のリーダーシップ. 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院指導者研修会, 2023.
- 27) 伊野美幸. 卒前教育の新しい流れ. 第 167 回全自病協・国診協臨床研修指導医講習会, 2023.
- 28) 伊野美幸. 医療人のリーダーシップ. 三重県 MMC ブラッシュアップセミナー, 2023.
- 29) 望月 篤. 医学教育、これからの 50 年. 第 83 回聖マリアンナ医科大学医学会学術集会, 2023.
- 30) 伊野美幸. 職場のメンタルヘルスケアと psychological safety (心理的安全性) —コミュニケーションを手掛かりに—. 第 83 回聖マリアンナ医科大学医学会学術集会, 2023.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		
	解説又は総説	3	
	症例報告		
	その他	4	
学会発表	国内学会	3	
	国際学会		
	その他	30	

医学情報学

学会発表

① 国内学会

- 1) 早川 智絵, 稲山 久美子, 干川 晶弘, 井村 穰二, 荻野 正宗, 沖津 駿介, 宇杉 美由紀, 上野 隆彦, 相田 芳夫.
腭領域における良悪性の鑑別方法と診断上の落とし穴. 第 63 回日本臨床細胞学会総会, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	1	
	国際学会		
	その他		

応用分子腫瘍学

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 太田智彦. 遺伝性乳癌に対する遺伝子修復不全標的治療. 乳癌診療 state of the art - 科学に基づく最新診療, 2022; : 26-30.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Tencer AH, Liu J, Zhu J, Burkholder NT, Zhang Y, Wu W, Strahl BD, Ohta T, Kutateladze TG. The ZZ domain of HERC2 is a receptor of arginylated substrates. Scientific Reports, 2022;12 : 6063.
- 2) Zhu J, Wu W, Togashi Y, Nihira NT, Johmura Y, Zhu D, Nakanishi M, Miyoshi Y, Ohta T.. Alteration of Trop-2 expression in breast cancer cells by clinically used therapeutic agents and acquired tamoxifen resistance. Breast Cancer, 2022;29 : 1076-1087.
- 3) Mori Tomoharu, Okamoto Yusuke, Mu Anfeng, Ide Yoshimi, Yoshimura Akiyo, Senda Noriko, Kawata Inagaki Yukiko, Kawashima Masahiro, Kitao Hiroyuki, Tokunaga Eriko, Miyoshi Yasuo, Ohsumi Shozo, Tsugawa Koichiro, Ohta Tomohiko, Katagiri Toyomasa, Ohtsuru Shigeru, Koike Kaoru, Ogawa Seishi, Toi Masakazu, Iwata Hiroji, Nakamura Seigo, Matsuo Keitaro, Takata Minoru.. Lack of impact of the ALDH2 rs671 variant on breast cancer development in Japanese BRCA1/2-mutation carriers. Cancer Medicine, 2022;12(6) : 6594-6602.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎仁平直江. 免疫チェックポイント分子 PD-L1 の核内移行阻害剤は抗 PD-1 抗体による抗腫瘍効果を向上させる. 第 30 回日本乳癌学会学術総会, 2022.

② 国際学会

- 1) ◎Tomohiko Ohta. Does Trop-2 expression really not matter for the sensitivity to sacituzumab govitecan?. Best of San Antonio Breast Cancer Symposium (SABCS) 2022 in Kyoto, 2023.

③ その他

- 1) ◎太田智彦. Critical role of KDM4B phosphorylation in DSB repair. 第 9 回 DNA 損傷応答ワークショップ, 2022.
- 2) ◎太田智彦. トリプルネガティブ乳がん治療・夜明けの予感 -anticipated game changers-. 第 30 回乳癌基礎研究会, 2022.
- 3) ◎仁平直江. PD-L1 の細胞内機能の解明と治療への応用. Breast Cancer Expert Meeting in Chiba, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		3
	解説又は総説	1	
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	1	
	国際学会		1
	その他	3	

難治性疾患病態制御学

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 大橋彩香, 上村 悠, 新井文子. Epstein-Barr Virus による T,NK 細胞の腫瘍化のメカニズム. 日本臨床, 2023;81(増刊3): 107-111.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Kimura M, Yamauchi J, Sato T, Yagishita N, Araya N, Aratani S, Tanabe K, Horibe E, Watanabe T, Coler-Reilly A, Nagasaka M, Akasu Y, Kaburagi K, Kikuchi T, Shibata S, Matsumoto H, Koseki A, Inoue S, Takata A, Yamano Y.. Health-related quality of life evaluation using the Short Form-36 in patients with human T-Lymphotropic leukemia virus type 1-associated myelopathy. *Frontiers in Medicine*, 2022;9: 879379.
- 2) Ayaka Ohashi, Yu Uemura, Mayumi Yoshimori, Naomi Wada, Ken-Ichi Imadome, Kazuo Yudo, Takatoshi Koyama, Norio Shimizu, Miwako Nishio and Ayako Arai. The Plasma Level of IL-1 β can be a Biomarker of Angiopathy in Systemic Chronic Active Epstein-Barr Virus Infection. *Frontiers in Microbiology*, 2022;13: 874998.
- 3) Arai Hidenori, Bujo Hideaki, Masuda Daisaku, Ishibashi Toshiyuki, Nakagawa Satoshi, Tanabe Kenichiro, Kagimura Tatsuo, Kang Hyun-Jae, Kim Moo Hyun, Sung Jidong, Kim Sang-Hyun, Kim Cheol-Ho, Park Jeong Euy, Ge Junbo, Oh Byung-Hee, Kita Toru, Saito Yasushi, Fukushima Masanori, Matsuzawa Yuji, Yamashita Shizuya. Integrated Analysis of Two Probucol Trials for the Secondary Prevention of Atherosclerotic Cardiovascular Events: PROSPECTIVE and IMPACT. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*, 2022;29(6): 850-865.
- 4) Sanuki Tetsuji, Oridate Nobuhiko, Tateya Ichiro, Nito Takaharu, Mizoguchi Kenji, Tanabe Kenichiro. Validity of intraoperative voice monitoring undergoing type 2 thyroplasty with titanium bridges for adductor spasmic dysphonia. *Laryngoscope Investigative Otolaryngology*, 2022;7(5): 1481-1490.
- 5) Uemura Y, Ohashi A, Yoshimori M, Nishio M, Hirakawa T, Shimizu N, Wada N, Imadome K, Arai A. Plasma interferon- γ concentration: a potential biomarker of disease activity of systemic chronic active Epstein-Barr virus infection. *Frontiers in Virology*, 2022;doi:10.3389/fviro.2022:2:~999929.
- 6) Matsumoto H, Shiraishi M, Higashi A, Hino S, Kaburagi M, Mizukami H, Maki F, Yamauchi J, Tanabe K, Sato T, Yamano Y. The Forward and Lateral Tilt Angle of the Neck and Trunk Measured by Three-Dimensional Gait and Motion Analysis as a Candidate for a Severity Index in Patients with Parkinson's Disease. *Neurology International*, 2022;14(3): 727-737.
- 7) Kanaka Yatabe, Naoko Yui, Satomi Kasuya, Ryota Muroi, Rumiko Inoue, Shu Somemura, Kohei Ashikaga, Fumiko Terawaki, Hisao Miyano, Ko Sato, Kazuo Yudo, Hiroto Fujiya.. Professional Ballet Dancers' Balance Ability and Psychological Traits and States: A Longitudinal Pilot Study. *The Open Sports Sciences Journal*, 2022;15(e1875399X2207200): 1-12.
- 8) Narita Ichiei, Hayashi Terumasa, Maruyama Shoichi, Masaki Takao, Nangaku Masaomi, Nishino Tomoya, Sato Hiroshi, Sofue Tadashi, Wada Takashi, Imai Enyu, Iwasaki Manabu, Mizuno Kyoichi, Hase Hiroki, Kamouchi Masahiro, Yamamoto Hiroyasu, Kagimura Tatsuo, Tanabe Kenichiro, Kato Hideki, Wada Takehiko, Usui Tomoko, Akizawa Tadao, Hirakata Hideki, Tsubakihara Yoshiharu. Hyporesponsiveness to erythropoiesis-stimulating agent in non-dialysis-dependent CKD patients: The BRIGHTEN study. *PloS One*, 2022;17(11): 1-17.
- 9) Shibata S, Sakurai K, Tachikawa K, Ko R, Hino S, Fukano T, Isahaya K, Haraguchi T, Yamauchi J, Tanabe K, Nagasaka M, Hagiwara Y, Shimizu T, Akiyama H, Kobayashi Y, Hasegawa Y, Yamano Y. The Utility of Automated ASPECTS in Acute Ischemic Stroke for Intravenous Recombinant Tissue Plasminogen Activator (IV-rtPA) Therapy. *Neurology International*, 2022;14(4): 981-990.

② 総説又は症例解説

- 1) Murayama M.A, Shimizu J, Miyabe C, Yudo K, Miyabe Y.. Chemokines and chemokine receptors as promising targets in rheumatoid arthritis. *Front Immunol*, 2023;14: 1100869.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎藤井亮爾, 小松梨恵, 仁木久照, 遊道和雄. コラーゲン誘導関節炎マウスにおける CDK6 阻害剤と TNF 阻害剤の併用効果. 第 66 回日本リウマチ学会, 2022.
- 2) ◎小松梨恵, 藤井亮爾, 仁木久照, 遊道和雄. CDK6 阻害剤と TNF 阻害剤の併用による抗関節炎効果の検討. 第 37 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 3) 上村悠, 大島久美, 伏屋愛加, 細貝茜, 大橋彩香, 神野正敏, 新井文子. ペグフィルグラスチム投与後の末梢血幹細胞移植ドナーに発症した大動脈炎. 第 45 回日本造血・免疫細胞学会, 2023.
- 4) 鈴木 黎, 佐野文明, 齊木祐輔, 上村悠, 大島久美, 細貝茜, 大橋彩香, 辻村浩司, 小島尚美, 清水則夫, 今留謙一, 新井文子. Alemtuzumab を用いた HLA 半合致造血幹細胞移植が奏効した成人発症慢性活動性 EB ウイルス病. 第 45 回日本造血・免疫細胞学会, 2023.
- 5) Ayaka Ohashi, Morito Kurata, Ayako Arai. The Effects of BCL2 Inhibitors on Chronic Active EBV Infections, an Intractable T- or NK-cell Lymphoid Neoplasm. 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022.
- 6) 齊藤美緑, 熊木優喜, 吉森真由美, 大橋彩香, 米瀬一朗, 澤田めぐみ, 西尾美和子, 新井文子. 慢性活動性 EB ウイルス感染症 における血清中抗 EBV 抗体価の検討. 第 84 回日本血液学会学術集会, 2022.
- 7) Ayaka Ohashi, Yusuke Saiki, Ken Shimizu, Marie Ohbuchi, Norio Shimizu, Kazuo Yudo, Morito Kurata, Mayumi Yoshimori, Miwako Nishio, Ayako Arai. BCL2 and BCL-xL inhibitors combat both tumor and inflammation of chronic active EBV infection. 第 84 回日本血液学会学術集会, 2022.

② 国際学会

- 1) ◎Rie Karasawa, James N. Jarvis, Toshiko Sato, Megumi Tanaka, Terrance P. O'Hanlon, Payam Noroozi-Farhadi, Willy A. Flegel, Kazuo Yudo, Lisa G. Rider. Anti-Peroxiredoxin 6 and Anti-Myosin Light Polypeptide 6 Autoantibodies with Interstitial Lung Disease and Severe Disease in Juvenile Dermatomyositis. The American College of Rheumatology Annual Meeting, 2022.
- 2) ◎Rie Karasawa, James N. Jarvis, Toshiko Sato, Megumi Tanaka, Terrance P. O'Hanlon, Payam Noroozi-Farhadi, Willy A. Flegel, Kazuo Yudo, Lisa G. Rider. Association of Anti-Tropomyosin Alpha-4 Autoantibodies with Cutaneous Manifestations in Juvenile Dermatomyositis. The American College of Rheumatology Annual Meeting, 2022.
- 3) Ayaka Ohashi, Ayako Arai. Will BCL2 be a potent therapeutic target for systemic chronic active Epstein-Barr virus disease?. 12th AACR-JCA Joint Conference, 2022.
- 4) Mayumi Yoshimori, Ayaka Ohashi, Kotaro Yoshioka, Takanori Yokota, Norio Shimizu, Miwako Nishio, Ayako Arai. Expression Profile of EBV-Derived Micro-RNA in Systemic Chronic Active EBV Disease. 64th ASH Annual Meeting & Exposition, 2022.

③ その他

- 1) ◎熊井隆智, 遊道和雄, 植原健二, 木城智, 工藤貴章, 小谷貴史, 仁木久照. 軟骨および軟骨下骨組織の再生に向けた自己組織化技術による人工軟骨-人工骨複合バイオマテリアルの創製. 日本運動器移植再生医学研究会, 2022.
- 2) ◎世古卓也, 山下由美子, 山下倫明, 臼井一茂, 遊道和雄, 杉下陽堂, 高橋由妃. マグロ肉摂取がヒトの赤血球中セレノネイン濃度に与える影響. 第 3 回エルゴチオネイン・セレノネイン研究会, 2022.
- 3) 竹ノ内里早, 大橋彩香, 住谷 卓, 吉森真由美, 西尾美和子, 清水則夫, 今留謙一, 新井文子. 慢性活動性 EB ウイルス病に対する BCL 2 阻害剤の効果の検討. 第 3 1 回 EBV 感染症研究会, 2023.
- 4) 鈴木 黎, 佐野文明, 齊木祐輔, 上村 悠, 大島久美, 大橋彩香, 辻村浩司, 小島尚美, 清水則夫, 今留謙一, 新井文子. Alemtuzumab を用いた HLA 半合致造血幹細胞移植が奏効した成人発症慢性活動性 EB ウイルス病. 第 3 1 回 EBV 感染症研究会, 2023.
- 5) 吉森真由美, 大橋彩香, 吉岡耕太郎, 横田隆徳, 清水則夫, 西尾美和子, 新井文子. 慢性活動性 EB ウイルス病の EBV 由来 microRNA 発現プロファイル解析. 第 3 1 回 EBV 感染症研究会, 2023.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		9
	解説又は総説	1	1
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	4	3
	国際学会		4
	その他	5	

難病治療研究センター

著書

- 1) Yodo Sugishita, Nao Suzuki. Methods of Ovarian Tissue Cryopreservation: Vitrification Principles and Practice of Ovarian Tissue Cryopreservation and Transplantation 2022:99-107.

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 今井健, 清水高弘, 土橋瑠子, 赤須友香利, 秋山久尚, 山内淳司, 長谷川泰弘, 山野嘉久. 活動性担癌患者における脳梗塞発症後の死亡関連因子に関する検討. 脳卒中, 2022;44(3):252-258.
- 2) 本吉愛, 久我亜沙美, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 右田王介, 津川浩一郎. 包括的がんゲノムプロファイリング検査で抽出される二次的所見に関する実態調査. 遺伝性腫瘍, 2022;22(2):36-40.
- 3) 星野俊, 土橋瑠子, 佐々木梨衣, 大塚快信, 山野嘉久. 新規診断基準が早期診断に有用であった Creutzfeldt-Jakob 病 4 例の比較検討. 脳神経内科, 2022;97(6):776-782.
- 4) 澤田紫乃, 杉下陽堂, 鈴木直. 早発卵巣不全患者の ART による双胎妊娠・分娩後に骨粗鬆症と診断した 1 例. 日本 IVF 学会雑誌, 2023;26(1):16-21.
- 5) 澤田紫乃, 杉下陽堂, 鈴木直. 当院における子宮体がん治療後、外科的閉経におけるエストロゲン補充療法施行率と骨密度検査施行率の変遷. 日本がん・生殖医療学会誌, 2023;6(1):25-29.

② 総説又は症例解説

- 1) 山野嘉久. HTLV-1-associated myelopathy (HAM). 日本臨床, 2022;80(suppl5):340-346.
- 2) 鷹尾直誠, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM). CLINICAL NEUROSCIENCE, 2022;40(6):798-800.
- 3) 山野嘉久. 難病患者へのオンライン診療の挑戦と展望. Medical Science Digest, 2022;48(7):16-18.
- 4) 山野嘉久, 松田文彦. 難病プラットフォームの確立と展開. 臨床評価, 2022;50(2):194-208.
- 5) 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM). CLINICAL NEUROSCIENCE, 2022;40(11):1406-1408.
- 6) 櫻井謙三, 山野嘉久. 神経感染症の治療の進歩 (2021). 神経治療学, 2022;39(5):760-763.
- 7) 鷹尾直誠, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の病態に基づく個別化医療. 神経治療学, 2022;39(4):448-452.
- 8) 鷹尾直誠, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM). CLINICAL NEUROSCIENCE, 2023;41(1):122-125.

③ 症例報告

- 1) 星野俊, 清水高弘, 藤井修一, 柳澤俊之, 長谷川泰弘, 山野嘉久. New-Onset Refractory Status Epilepticus の治療経過中に両手指足趾にテタニー様症状を呈した 39 歳女性例. 神経治療学, 2022;39(1):37-41.
- 2) 星野俊, 伊藤葵, 清水高弘, 秋山久尚, 山野嘉久. 延髄梗塞を合併した帯状疱疹性脊髄炎の一例. BRAIN and NERVE, 2023;75(3):269-273.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Kimura M, Yamauchi J, Sato T, Yagishita N, Araya N, Aratani S, Tanabe K, Horibe E, Watanabe T, Coler-Reilly A, Nagasaka M, Akasu Y, Kaburagi K, Kikuchi T, Shibata S, Matsumoto H, Koseki A, Inoue S, Takata A, Yamano Y.. Health-related quality of life evaluation using the Short Form-36 in patients with human T-Lymphotropic leukemia virus type 1-associated myelopathy. Frontiers in Medicine, 2022;9:879379.
- 2) Ayaka Ohashi, Yu Uemura, Mayumi Yoshimori, Naomi Wada, Ken-Ichi Imadome, Kazuo Yudo, Takatoshi Koyama, Norio Shimizu, Miwako Nishio and Ayako Arai. The Plasma Level of IL-1 β can be a Biomarker of Angiopathy in Systemic Chronic Active Epstein-Barr Virus Infection. Frontiers in Microbiology, 2022;13:874998.
- 3) Lingbo Meng, Kazuhiro Kawamura, Nobuhito Yoshioka, Midori Tamura, Sayako Furuyama, Mariko Nakajima, Yuki Suzuki-Takahashi, Hideyuki Iwahata, Seido Takae, Yodo Sugishita, Yuki Horage-Okutsu, Nao Suzuki. Learning Curve of Surgeons Performing Laparoscopic Ovarian Tissue Transplantation in Women with Premature Ovarian Insufficiency: A Statistical Process Control Analysis. Journal of minimally invasive gynecology, 2022;29(4):559-966.
- 4) Takae Seido, Furuta Shigeyuki, Iwahata Hideyuki, Iwahata Yuriko, Keino Dai, Kanamori Ryo, Oyama Kei, Tanaka Kunihide, Shiraishi Eriko, Suzuki Yuki, Sugishita Yodo, Horage Yuki, Sakamoto Miki, Mori Tetsuya, Kitagawa Hiroaki, Suzuki Nao. Cryopreservation of paediatric ovarian tissue with an updated version of the Edinburgh criteria for appropriate patient selection. Reproductive biomedicine online, 2022;44(4):667-676.

- 5) Naoki Okamoto, Mariko Nakajima, Yodo Sugishita, Seido Takae, Yuki Horage, Nao Suzuki. Shortening the duration between ovarian removal and cryopreservation helps preserve fertility and maintain ovarian reserve after transplantation in mice. *F&S Science*, 2022;3(2) : 140-147.
- 6) Nakajima T, Yoshifuji H, Yamano Y, Yurugi K, Miura Y, Maekawa T, Yoshida T, Handa H, Ohmura K, Mimori T, Terao C. Co-occurrence of Relapsing Polychondritis and Autoimmune Thyroid Diseases. *Orphanet Journal of Rare Diseases*, 2022;17(1) : 101.
- 7) Wada Y, Sato T, Hasegawa H, Matsudaira T, Nao N, Coler-Reilly A, Tasaka T, Yamauchi S, Okagawa T, Momose H, Tanio M, Kuramitsu M, Sasaki D, Matsumoto N, Yagishita N, Yamauchi J, Araya N, Tanabe K, Yamagishi M, Nakashima M, Nakahata S, Iha H, Ogata M, Imaizumi Y, Uchimaru K, Miyazaki Y, Konnai S, Yanagihara K, Morishita K, Watanabe T, Yamano Y, Saito M. RAISING is a high-performance method for identifying random transgene integration sites. *Commun Biol*, 2022;5(1) : 535.
- 8) Tanaka Y, Sato T, Yagishita N, Yamauchi J, Araya N, Aratani S, Takahashi K, Kunitomo Y, Nagasaka M, Kanda Y, Uchimaru K, Morio T, Yamano Y. Potential Role of HTLV-1 Tax-Specific Cytotoxic T Lymphocytes expressing a Unique T-cell Receptor to Promote Inflammation of the Central Nervous System in Myelopathy Associated with HTLV-1. *Frontiers in Immunology*, 2022;13 : 993025.
- 9) Hagiwara Y, Takao N, Usuki N, Yoshie T, Takaishi S, Shimizu T, Ueda T, Hasegawa Y, Yamano Y. Carotid ultrasound using superb microvascular imaging to identify patients developing in-stent restenosis after CAS. *Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases*, 2022;31(8) : 106627.
- 10) Yuki Okutsu-Horage, Hideyuki Iwahata, Yuki Suzuki-Takahashi, Yodo Sugishita, Seido Takae, Nao Suzuki. Clinical outcome of embryo cryopreservation in Japanese breast cancer patients: pregnancy rates after transfer of thawed embryos. *Journal of assisted reproduction and genetics*, 2022;39(8) : 1769-1777.
- 11) Sasaki N, Sato T, Yamatoku M, Yamano Y. Efficacy of repetitive transcranial magnetic stimulation for gait disturbance in HTLV-1 associated myelopathy. *NeuroRehabilitation*, 2022;51(3) : 519-526.
- 12) Yuki Okutsu-Horage, Hideyuki Iwahata, Yuki Suzuki-Takahashi, Yodo Sugishita, Seido Takae, Nao Suzuki. Correction to: Clinical outcome of embryo cryopreservation in Japanese breast cancer patients: pregnancy rates after transfer of thawed embryos. *Journal of assisted reproduction and genetics*, 2022;39(9) : 2201-2201.
- 13) Matsumoto H, Shiraishi M, Higashi A, Hino S, Kaburagi M, Mizukami H, Maki F, Yamauchi J, Tanabe K, Sato T, Yamano Y. The Forward and Lateral Tilt Angle of the Neck and Trunk Measured by Three-Dimensional Gait and Motion Analysis as a Candidate for a Severity Index in Patients with Parkinson's Disease. *Neurology International*, 2022;14(3) : 727-737.
- 14) Kikuchi T, Takao N, Sato T, Isahaya K, Hino S, Kaburagi M, Tachikawa K, Ko R, Shibata S, Kaburagi K, Iijima N, Mizukami H, Sakurai K, Yamauchi J, Kimura A, Shimohata T, Yamano Y. The level of CSF CXCL10 is highly elevated and decreased after steroid therapy in patients with autoimmune glial fibrillary acidic protein astrocytopathy. *Clinical and Experimental Neuroimmunology*, 2022;14(1) : 61-68.
- 15) Kanaka Yatabe, Naoko Yui, Satomi Kasuya, Ryota Muroi, Rumiko Inoue, Shu Somemura, Kohei Ashikaga, Fumiko Terawaki, Hisao Miyano, Ko Sato, Kazuo Yudoh, Hiroto Fujiya. Professional Ballet Dancers' Balance Ability and Psychological Traits and States: A Longitudinal Pilot Study. *The Open Sports Sciences Journal*, 2022;15(e1875399X2207200) : 1-12.
- 16) Lingbo Meng, Yodo Sugishita, Sandy Nishimura, Atsushi Uekawa, Yuki Suzuki-Takahashi, Nao Suzuki. Investigation of the optimal culture time for warmed bovine ovarian tissues before transplantation. *Biology of reproduction*, 2022;107(5) : 1319-1330.
- 17) Puccioni-Sohler M, Poton AD, Cabral-Castro MJ, Yamano Y, Taylor G, Casseb J. Human T lymphotropic virus type 1-associated myelopathy: overview of HTLV-1/2 tests and potential biomarkers. *AIDS Research and Human Retroviruses*, 2022;38(12) : 924-932.
- 18) Shibata S, Sakurai K, Tachikawa K, Ko R, Hino S, Fukano T, Isahaya K, Haraguchi T, Yamauchi J, Tanabe K, Nagasaka M, Hagiwara Y, Shimizu T, Akiyama H, Kobayashi Y, Hasegawa Y, Yamano Y. The Utility of Automated ASPECTS in Acute Ischemic Stroke for Intravenous Recombinant Tissue Plasminogen Activator (IV-rtPA) Therapy. *Neurology International*, 2022;14(4) : 981-990.
- 19) Komine Y, Shimizu T, Akiyama H, Hagiwara Y, Fukano T, Kuwata C, Hasegawa Y, Yamano Y. The Usefulness of Heart Rate Variability Spectral Analysis in Detecting Covert Atrial Fibrillation Among Patients with Cryptogenic Stroke. *St. Marianna Medical Journal*, 2022;13(2) : 127-135.

- 20) Seido Takae, Yuriko Iwahata, Yodo Sugishita, Hideyuki Iwahata, Ryo Kanamori, Eriko Shiraishi, Kaoru Ito, Yuki Suzuki, Yoshiko Yamaya, Kunihide Tanaka, Kei Oyama, Dai Keino, Kentaro Nakamura, Kei Odawara, Yuki Horage, Lingbo Meng, Arby Igualada, Ahmad Mohd Faizal, Ludmilla Ogouma Aworet, Shigeyuki Furuta, Miki Sakamoto, Tetsuya Mori, Hiroaki Kitagawa, Nao Suzuki. Survey of understanding and awareness of fertility preservation in pediatric patients: Is conversation about fertility preservation unpleasant for pediatric patients?. Front Endocrinol (Lausanne), 2023;2022(13) : DOI-10.3389/fendo.2022.1074603.
- 21) Kaburagi K, Shimizu T, Hagiwara Y, Fukano T, Shibata S, Hoshino M, Sasaki N, Akiyama H, Hasegawa Y, Yamano Y. Usefulness of carotid duplex ultrasonography in predicting residual large-vessel occlusions after intravenous recombinant tissue plasminogen activator therapy in patients with acute ischemic stroke. Journal of Medical Ultrasonics, 2023;50(1) : 103-109.
- 22) Reiko Suzuki, Yuki Horage-Okutsu, Tai Kawahara, Kentaro Nakamura, Eriko Shiraishi, Hideyuki Iwahata, Yuki Suzuki-Takahashi, Yodo Sugishita, Seido Takae, Nao Suzuki. The effect of aromatase inhibitor on controlled ovarian stimulation for oocyte cryopreservation in adolescent and young cancer patients. The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 2023; : DOI-10.1111/jog.15535.
- 23) Nozuma S, Matsuura E, Tashiro Y, Nagata R, Ando M, Hiramatsu Y, Higuchi Y, Sakiyama Y, Hashiguchi A, Michizono K, Higashi K, Matsuzaki T, Kodama D, Tanaka M, Yamano Y, Moritoyo T, Kubota R, Takashima H. Efficacy of l-Arginine Treatment in Patients with HTLV-1-Associated Neurological Disease. Annals of Clinical and Translational Neurology, 2023;10(2) : 237-245.
- 24) Shiraishi M, Kamo T, Kumazawa R, Sasaki N, Isahaya K, Akiyama H, Furusawa Y, Onodera R, Fernandez J Otsuka M, Yamano Y. A multicenter, prospective, observational study to assess the satisfaction of an integrated digital platform of online medical care and remote patient monitoring in Parkinson's disease. Neurology and Clinical Neuroscience, 2023;11(3) : 152-163.

② 総説又は症例解説

- 1) Ahmad Mohd Faizal, Yodo Sugishita, Yuki Suzuki-Takahashi, Hideyuki Iwahata, Seido Takae, Yuki Horage-Okutsu, Nao Suzuki. Twenty-first century oocyte cryopreservation-in vitro maturation of immature oocytes from ovarian tissue cryopreservation in cancer patients: A systematic review. Women's Health, 2022;18 : DOI-/10.1177/17455057221114269.
- 2) Murayama M.A, Shimizu J, Miyabe C, Yudo K, Miyabe Y.. Chemokines and chemokine receptors as promising targets in rheumatoid arthritis. Front Immunol, 2023;14 : 1100869.

③ 症例報告

- 1) Imai T, Shinohara K, Uchino K, Okuma H, Maki F, Hiruma K, Ariizumi Y, Yamano Y. Paraneoplastic cerebellar degeneration with anti-Yo antibodies and an associated submandibular gland tumor: a case report. BMC Neurology, 2022;22(1) : 165.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎秋山久尚, 栗田千尋, 深野崇之, 萩原悠太, 清水高弘, 山野嘉久, 田邊康宏, 鈴木知美, 栗田真吾, 明石嘉浩. 経皮的卵円孔開存閉鎖術 12 か月後の閉鎖栓内膜被覆度を血管内視鏡で評価した 1 例. 第 9 回日本心血管脳卒中学会学術集会, 2022.
- 2) ◎藤井亮爾, 小松梨恵, 仁木久照, 遊道和雄. コラーゲン誘導関節炎マウスにおける CDK6 阻害剤と TNF 阻害剤の併用効果. 第 66 回日本リウマチ学会, 2022.
- 3) ◎秋山久尚, 佐々木直, 山野嘉久. 実臨床におけるエレンマブ皮下注投与終了後の片頭痛頻度についての検討. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 4) ◎白石眞, 三上恭平, 加茂晃, 常深泰司, 加茂力, 大熊泰之, 藤本健一, 野川茂, 横田優樹, 中嶋秀人, 長田高志, 関守信, 永山寛, 鈴木圭輔, 山元敏正, 波田野琢, 山野嘉久, 服部信孝, 飯嶋睦. パーキンソン病患者の垂直姿勢の認識が前屈姿勢に及ぼす影響～多施設研究(中間報告). 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 5) ◎新谷奈津美, 荒谷聡子, 八木下尚子, 山内淳司, 佐藤知雄, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の病態形成機構. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 6) ◎赤須友香利, 清水高弘, 秋山久尚, 栗田千尋, 萩原悠太, 長谷川泰弘, 山野嘉久. 潜在性心房細動の予測因子探索のための長時間心電図モニターの心拍変動の自律神経解析. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 7) ◎栗田千尋, 秋山久尚, 柴田宗一郎, 山野嘉久. 実臨床におけるガルカネズマブ皮下注に対する患者満足度調査. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.

- 8) ◎水上平祐, 白石眞, 鎗木真弓, 日野栄絵, 鎗木圭, 松本博文, 眞木二葉, 山野嘉久. パーキンソン病患者における血中カルニチン濃度の検討. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 9) ◎柴田宗一郎, 櫻井謙三, 太刀川慶史, 高梨世子, 日野栄絵, 深野崇之, 伊佐早健司, 原口貴史, 石橋麻希, 小林泰之, 山野嘉久. 脳梗塞における人口知能(AI)を用いた頭部CT画像読影の検証. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 10) ◎佐藤衆望, 伊佐早健司, 櫻井謙三, 栗田千尋, 萩原悠太, 深野崇之, 清水高弘, 秋山久尚, 長谷川泰弘, 山野嘉久. 院内発症脳梗塞の国内実態調査. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 11) ◎鎗木圭, 清水高弘, 萩原悠太, 飯島直樹, 栗田千尋, 深野崇之, 秋山久尚, 長谷川泰弘, 山野嘉久. 脳血管障害における JAK2V617F 変異遺伝子有病率とその患者背景についての検討. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 12) ◎伊佐早健司, 柴田宗一郎, 飯島直樹, 平川経晃, 伊藤歩, 西村直, 福田隆浩, 佐々木諒, 藤井伸治, 佐藤知雄, 山野嘉久. 成人 T 細胞白血病移植後の神経障害例 2 例の検討. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 13) ◎櫻井謙三, 伊佐早健司, 今井健, 土橋瑤子, 鷹尾直誠, 山野嘉久. 患者報告アウトカム(PRO)を用いた多発性硬化症の治療標的に関する探索研究. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 14) ◎清水高弘, 赤須友香利, 萩原悠太, 深野崇之, 栗田千尋, 秋山久尚, 鈴木知美, 栗田真吾, 田邊康宏, 山野嘉久. 高リスク PF0 を合併し、再発リスクが高いと考えられた奇異性脳塞栓症の 73 歳女性例. 第 41 回日本脳神経超音波学会総会, 2022.
- 15) 本吉愛, 川本久紀, 小澤南, 高橋由妃, 杉下陽堂, 久我亜沙美, 右田王介, 津川浩一郎. 若年で異時性両側乳癌及び肺癌を発症した Peutz-Jeghers 症候群の一例. 第 28 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会, 2022.
- 16) ◎山野嘉久. 難病の全ゲノム解析等実証事業の現状と展望. 第 7 回クリニカルバイオバンク学会シンポジウム, 2022.
- 17) ◎白石眞, 三上恭平, 加茂晃, 常深泰司, 加茂力, 大熊泰之, 藤本健一, 横田優樹, 野川茂, 長田高志, 関守信, 永山寛, 波田野琢, 中嶋秀人, 鈴木圭輔, 山元敏正, 山野嘉久, 服部信孝, 飯嶋睦. パーキンソン病患者の垂直姿勢の認識が前屈姿勢に及ぼす影響～多施設観察研究～. 第 16 回パーキンソン病・運動障害疾患カンファレンス, 2022.
- 18) ◎水上平祐, 白石眞, 鎗木真弓, 日野栄絵, 鎗木圭, 菊池崇之, 松本博文, 山野嘉久. パーキンソン病患者におけるカルニチン欠乏症の検討. 第 16 回パーキンソン病・運動障害疾患カンファレンス, 2022.
- 19) ◎服部葵, 中尾朋子, 木田尚子, 好村正博, 下井華代, 馬場真有美, 杉下陽堂, 洞下由記, 高江正道, 鈴木直, 岡田英孝. 他院での卵巣組織凍結・移植後に当院で ART により妊娠に至った 1 例. 第 40 回日本受精着床学会総会・学術講演会, 2022.
- 20) ◎洞下由記, 岩端秀之, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 高江正道, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. AYA 世代造血器腫瘍患者における妊孕性温存療法 84 例の検討. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 21) ◎遠藤拓, 澤田紫乃, 杉下陽堂, 五十嵐豪, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 当院における女性泌尿器外来開設と骨盤 Cine MRI 検査の導入について—2 症例の検討から. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 22) ◎上川篤志, 孟令博, 杉下陽堂, 高江正道, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 白血病モデルマウスを用いた卵巣組織凍結における微小残存病変(MRD)の評価. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 23) ◎岩端秀之, 高江正道, 杉下陽堂, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 卵巣移植における微小残存病変再移植のリスク低減を目指した人工卵巣の開発について. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 24) ◎杉下陽堂, 鈴木由妃, 岩端秀之, 高江正道, 洞下由記, 右田王介, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 早発卵巣不全患者における染色体異常に関する後方視的検討. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 25) ◎金森玲, 高江正道, 岩端由里子, 鈴木由妃, 岩端秀之, 杉下陽堂, 洞下由記, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 妊娠成績と原疾患予後調査による卵巣組織移植の有効性と安全性の検証. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 26) ◎孟令博, 杉下陽堂, 鈴木由妃, 上川篤志, 岩端秀之, 高江正道, 洞下由記, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 卵巣組織移植術前における融解卵巣組織の至適培養時間の検討. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 27) ◎鈴木由妃, 杉下陽堂, 孟令博, 上川篤志, 戸澤晃子, 長谷川潤一, 鈴木直. 未受精卵子凍結におけるミトコンドリア動態の検討. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会, 2022.
- 28) ◎遠藤拓, 澤田紫乃, 岩端秀之, 杉下陽堂, 五十嵐豪, 久慈志保, 大原樹, 近藤春裕, 鈴木直. cine MRI 検査を用いた新たな骨盤臓器脱診断法について—2 症例の検討から. JSAWI 2022, 2022.
- 29) ◎小松梨恵, 藤井亮爾, 仁木久照, 遊道和雄. CDK6 阻害剤と TNF 阻害剤の併用による抗関節炎効果の検討. 第 37 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2022.
- 30) ◎高梨世子, 櫻井謙三, 柴田宗一郎, 赤須友香利, 鎗木真弓, 飯島直樹, 鎗木圭, 土橋瑤子, 鷹尾直誠, 山野嘉久. 当院での水痘・帯状疱疹ウイルス髄膜炎での機能予後の検討. 第 26 回日本神経感染症学会総会・学術大会, 2022.
- 31) ◎鎗木圭, 櫻井謙三, 鷹尾直誠, 柴田宗一郎, 日野栄絵, 水上平祐, 伊佐早健司, 木村暁夫, 下畑享良, 山野嘉久. 当院における自己免疫性 GFAP アストロサイトパチーの中期的な経時的変化の検討. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022.
- 32) ◎伊佐早健司, 櫻井謙三, 柴田宗一郎, 鎗木圭, 赤須友香利, 高桑由宇, 川畑仁人, 山野嘉久. 好酸球性多発血管炎性肉腫による抹消神経障害に対する IL-5 モノクローナル抗体の効果. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022.

- 33) ◎山野嘉久. HAM 病態研究の最近の知見と今後の展望. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022.
- 34) ◎柴田宗一郎, 櫻井謙三, 金子航, 小嶺友香利, 今井健, 伊佐早健司, 山野嘉久. 来院時所見から人工呼吸器管理を予知する因子についての検討. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022.
- 35) ◎小嶺友香利, 櫻井謙三, 鍋木真弓, 森翔, 山崎和子, 今井健, 伊佐早健司, 森雅亮, 山野嘉久. NMOSD と MCTD を合併した 14 歳女性にサトラリズマブ導入し良好な経過を辿った一例. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022.
- 36) ◎櫻井謙三, 柴田宗一郎, 金子航, 今井健, 伊佐早健司, 山野嘉久. 視神経脊髄炎関連疾患のオンライン診療～当院での事例より～. 第 34 回日本神経免疫学会学術集会, 2022.
- 37) ◎高梨世子, 櫻井謙三, 柴田宗一郎, 小嶺友香利, 鍋木真弓, 飯島直樹, 鍋木圭, 土橋瑠子, 鷹尾直誠, 山野嘉久. 当院での水痘・带状疱疹ウイルスによる髄膜炎の臨床的特徴の検討. 第 40 回日本神経治療学会学術集会, 2022.
- 38) ◎鍋木圭, 伊佐早健司, 小嶺友香利, 土橋瑠子, 櫻井謙三, 今井健, 大塚快信, 秋山久尚, 山野嘉久. Loffer 心膜炎, 多発脳梗塞を合併した好酸球増多症候群に対しメボリツマブが有効であった 50 歳女性例. 第 40 回日本神経治療学会学術集会, 2022.
- 39) ◎櫻井謙三, 伊佐早健司, 今井健, 山野嘉久. 視神経脊髄炎における生物学的製剤導入後のステロイド薬減量速度の検討. 第 40 回日本神経治療学会学術集会, 2022.
- 40) ◎秋山久尚, 栗田千尋, 伊佐早健司, 山野嘉久. 抗 CGRP 関連抗体薬の有効性・卒業に関する患者アンケート調査. 第 40 回日本神経治療学会学術集会, 2022.
- 41) ◎白石眞, 三上恭平, 加茂晃, 野川茂, 長田高志, 関守信, 永山寛, 中嶋秀人, 山野嘉久. 服部信孝, 飯嶋睦. パーキンソン病患者の前屈姿勢の経過と薬物投与状況について～多施設観察研究 (中間報告) ～. 第 40 回日本神経治療学会学術集会, 2022.
- 42) ◎山野嘉久. 難病領域におけるリアルワールドデータ活用への動向～難病プラットフォームを例に～. 第 40 回日本神経治療学会学術集会, 2022.
- 43) ◎洞下由記, 岩端秀之, 小田原圭, 橋場萌香, 出田莉央, 松山夏美, 中嶋真理子, 古山紗也子, 鈴木由妃, 杉下 陽堂, 高江正道, 鈴木直. がん患者における妊孕性温存凍結胚の妊娠成績. 第 67 回日本生殖医学会学術講演会・総会, 2022.
- 44) ◎相良康子, 中村仁美, 堀部恵梨佳, 入田和男, 山野嘉久, 渡邊俊樹. ウェブサイト・トラフィック -HTLV-1 ウェブサイトの検証と解析-. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 45) ◎菅田 謙治, タン ベンジー・ジェックヤン, ホサイン ベラル, ラジブ サミウルラジ, レダ オムニア, 徳永 雅仁, 野村 隼也, 増田 曜章, 佐藤 知雄, 植田 光晴, 宇都宮 與, 山野 嘉久, 佐藤 賢文. HAM 患者末梢血および脳脊髄液のシングルセル解析による HAM 病態解明と疾患サロゲートマーカーの探索研究. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 46) ◎新谷 奈津美, 荒谷 聡子, 八木下 尚子, 山内 淳司, 鷹尾 直誠, 佐藤 知雄, 山野 嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の神経障害機構の解析. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 47) ◎倉光 球, 石塚 賢治, 久保田 龍二, 佐藤 知雄, 山野 嘉久, 橋倉 悠輝, 梅北 邦彦, 野坂 生郷, 長谷川 寛雄, 三浦 清徳, 宇都宮 與, 高 起良, 相良 康子, 蕎麦田 理英子, 佐竹 正博, 浜口 功. イムノクロマト法による新規 HTLV-1 抗体検査法の性能評価—多施設共同研究. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 48) ◎堀部恵梨佳, 相良康子, 山野嘉久, 内丸薫, 浜口功, 渡邊俊樹. JSPFAD アンケート調査による HTLV-1 水平感染の現状. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 49) ◎伊佐早健司, 柴田宗一郎, 飯島直樹, 平川経見, 伊藤歩, 福田隆浩, 佐々木諒, 藤井伸治, 佐藤知雄, 山野嘉久. 成人 T 細胞白血病移植後の神経障害例 2 例の検討. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 50) ◎鷹尾直誠, 佐藤知雄, 山内淳司, 八木下尚子, 新谷奈津美, 荒谷聡子, 山野嘉久. HAM の排尿障害における臨床症状評価と治療効果判定の標準化スケールの確立. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 51) ◎山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の病態生理に基づく治療. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 52) ◎松浦英治, 野妻智嗣, 田代雄一, 安藤匡宏, 平松有, 樋口雄二郎, 崎山雄介, 橋口昭大, 道園久美子, 東桂子, 松崎敏男, 兒玉大介, 田中正和, 山野嘉久, 久保田龍二, 高嶋博. HAM/TSP の運動障害に対する L-アルギニンの効果を評価する第 2 相臨床試験 (特定臨床研究). 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 53) ◎佐藤 知雄, 斎藤 益満, 和田 悠作, 長谷川 寛雄, 松平 崇弘, 今泉 芳孝, 内丸 薫, 渡邊 俊樹, 山野 嘉久. HTLV-1 クロナリティ定量検査 RAISING-CLOVA を用いた ATL 発症リスク評価法の開発. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 54) ◎佐藤知雄. オンライン相談の実際. 世界 HTLV デー記念講演会, 2022.
- 55) ◎石井明里, 澤田紫乃, 遠藤拓, 杉下陽堂, 五十嵐豪, 鈴木直. ジェノゲスト 0.5mg/日 (0.25mg×2/日) の内服で改善した若年の月経困難症 2 例. 第 37 回日本女性医学学会学術集会, 2022.
- 56) ◎秋山久尚, 伊佐早健司, 山野嘉久. 単眼性視覚障害発作の出現側と反対側に頭痛を生じた網膜片頭痛の一例. 第 60 回日本神経眼科学会総会, 2022.

- 57) ◎伊佐早健司, 櫻井謙三, 鐺木圭, 柳澤俊之, 山野嘉久. prolonged excise test 陽性であった抗体陰性重症筋無力症の一例. 日本臨床神経生理学会 第 52 回学術大会, 2022.
- 58) ◎秋山久尚, 伊佐早健司, 山野嘉久. 単眼性視覚障害側と反対側に頭痛を生じた網膜片頭痛の一例. 第 50 回日本頭痛学会総会, 2022.
- 59) ◎秋山久尚, 山野嘉久. リアルワールドにおけるラスミジタンコハク酸塩の有効性と安全性. 第 50 回日本頭痛学会総会, 2022.
- 60) ◎秋山久尚, 赤須友香利, 柴田宗一郎, 栗田千尋, 山野嘉久. ヒト化抗 CGRP モノクローナル抗体製剤ガルカネズマブ皮下注の長期的有効性. 第 50 回日本頭痛学会総会, 2022.
- 61) ◎山野嘉久. 難病領域におけるレジストリ活用の動向 ～難病プラットフォームについて～. 第 43 回日本臨床薬理学会学術総会, 2022.
- 62) ◎金森玲, 高江正道, 伊藤薫, 中村健太郎, 鈴木由妃, 岩端秀之, 杉下陽堂, 洞下由記, 鈴木直. 効果的な卵巣組織移植を志向した移植手技に関する基礎的検討. 第 13 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 63) ◎中村健太郎, 高江正道, 伊藤薫, 岩端由里子, 小田原圭, 金森玲, 鈴木由妃, 岩端秀之, 杉下陽堂, 洞下由記, 鈴木直. 小児患者における妊孕性温存療法に対する理解度と意識に関する調査. 第 13 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 64) ◎小田原圭, 洞下由記, 岩端秀之, 山谷佳子, 松山夏美, 古山紗也子, 伊藤薫, 中村健太郎, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. 妊娠希望に対しホルモン療法を中断したホルモン受容体陽性がん症例の検討. 第 13 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 65) ◎岩端秀之, 洞下由記, 小田原圭, 山谷佳子, 松山夏美, 古山紗也子, 伊藤薫, 中村健太郎, 鈴木由妃, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. 妊孕性温存療法によって妊娠・出産した造血幹細胞移植を要する急性骨髄性白血病再発の一事例. 第 13 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 66) ◎伊藤薫, 高江正道, 杉下陽堂, 中村健太郎, 小田原圭, 鈴木由妃, 岩端秀之, 洞下由記, 鈴木直. 初経前女児における卵巣組織凍結保存時の同時卵子凍結 (combined procedure) 成績の検証. 第 13 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 67) ◎岡本直樹, 中嶋真理子, 杉下陽堂, 洞下由記, 高江正道, 鈴木直. 卵巣凍結までの組織保存時間の短縮が、移植後の卵巣寿命を延長する. 第 13 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 68) ◎鈴木由妃, 杉下陽堂, 上川篤志, 戸澤晃子, 鈴木直. -196℃の液体窒素内で動作可能な RFID タグを用いた新規卵巣凍結検体管理システムの開発. 第 13 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 69) ◎杉下陽堂, 孟令博, 鈴木由妃, 上川篤志, 鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対する卵巣組織凍結・融解卵巣移植に要する至適時間の検討. 第 13 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2023.
- 70) ◎遠藤拓, 澤田紫乃, 岩端秀之, 杉下陽堂, 高江正道, 五十嵐豪, 近藤春裕, 長谷川潤一, 鈴木直. 当院の女性泌尿器外来における現状と課題について. 第 438 回神奈川産科婦人科学会学術講演会, 2023.
- 71) ◎山下雄輔, 川越さおり, 伊佐早健司, 清水高弘, 山野嘉久, 内田将司, 伊藤英道, 村田英俊. 院内発症脳卒中対策チーム (iSAT) の活動と看護師教育について. STROKE2023 看護シンポジウム, 2023.
- 72) ◎赤松伸太郎, 植田敏浩, 吉江智秀, 白杵乃理子, 高石智, 辰野健太郎, 大坪治喜, 飯島直樹, 萩原悠太, 山野嘉久. 当院におけるプラスグレールを含めた抗血小板薬併用療法の使用経験. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 73) ◎伊佐早健司, 清水高弘, 萩原悠太, 深野崇之, 栗田千尋, 星野俊, 秋山久尚, 山野嘉久. 血管炎による脳梗塞症例の検討. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 74) ◎石井誠也, 清水高弘, 深野崇之, 萩原悠太, 栗田千尋, 星野俊, 秋山久尚, 山野嘉久. 担癌患者における脳梗塞発症後の再発予防療法についての検討. 第 48 回日本脳卒中学会学術集会, 2023.
- 75) ◎廣井朋子, 金子英恵, 大滝正訓, 那和雪乃, 坪野谷真朗, 松本直樹, 佐藤知雄, 松井宏晃. ヒト中枢型トリプトファン水酸化酵素 (TPH2) の exon3 には 75 塩基対の翻訳抑制配列が存在する. 日本薬学会 第 143 年会, 2023.
- 76) ◎阿部恵, 矢口裕章, 工藤彰彦, 長井梓, 白井慎一, 岩田育子, 松島理明, 中村直子, 伊佐早健司, 赤須 友香利, 柴田宗一郎, 山野嘉久, 芦田真士, 笠井高士, 木村暁夫, 下畑享良, 矢部一郎. Cerebellar ataxia patients with anti-Sez612 antibody in Japan. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 77) Ayaka Ohashi, Yusuke Saiki, Ken Shimizu, Marie Ohbuchi, Norio Shimizu, Kazuo Yudo, Morito Kurata, Mayumi Yoshimori, Miwako Nishio, Ayako Arai. BCL2 and BCL-xL inhibitors combat both tumor and inflammation of chronic active EBV infection. 第 84 回日本血液学会学術集会, 2022.

② 国際学会

- 1) Yamauchi J, Sato T, Yagishita N, Araya N, Nakagawa M, Matsuura E, Tsuboi Y, Tamaki K, Sakima H, Ishihara S, Araujo A, Jacobson S, Grassi MFR, Galvão-Castro B, Bland M, Taylor GP, Martin F, Yamano Y.. A randomized controlled trial on corticosteroid therapy for HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis in Japan (HAMLET-P trial). 20th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses(HTLV2022), 2022.
 - 2) Sato T, Yagishita N, Araya N, Yamauchi J, Takahashi K, Kunitomo Y, Hasegawa Y, Higashikuse Y, Miyachi K, Yamano Y.. Evaluation of quantification method of HTLV-1 proviral load in white blood cells using whole blood. 20th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses(HTLV22), 2022.
 - 3) ©Rie Karasawa, James N. Jarvis, Toshiko Sato, Megumi Tanaka, Terrance P. O'Hanlon, Payam Noroozi-Farhadi, Willy A. Flegel, Kazuo Yudoh, Lisa G. Rider. Anti-Peroxiredoxin 6 and Anti-Myosin Light Polypeptide 6 Autoantibodies with Interstitial Lung Disease and Severe Disease in Juvenile Dermatomyositis. The American College of Rheumatology Annual Meeting, 2022.
 - 4) ©Rie Karasawa, James N. Jarvis, Toshiko Sato, Megumi Tanaka, Terrance P. O'Hanlon, Payam Noroozi-Farhadi, Willy A. Flegel, Kazuo Yudoh, Lisa G. Rider. Association of Anti-Tropomyosin Alpha-4 Autoantibodies with Cutaneous Manifestations in Juvenile Dermatomyositis. The American College of Rheumatology Annual Meeting, 2022.
 - 5) YODO SUGISHITA, Yuki Suzuki, NAO SUZUKI. ovarian tissue cryopreservation. 9th International annual conference of the fertility preservation society (India) Fertiprotect 2022, 2022.
 - 6) ©Yodo Sugishita, Nao Suzuki. Ovarian cortex vitrification - Concept and techniques. Fertiprotect 2022 9th International Annual Conference of the Fertility Preservation Society, 2022.
 - 7) YUKI SUZUKI-Takahashi, Yodo Sugishita, Nao Suzuki. Reproductive outcomes of vitrified oocytes in Cancer survivors. 9th International annual conference of the fertility preservation society (India) Fertiprotect 2022, 2022.
 - 8) YODO SUGISHITA, Nao Suzuki. ovarian cortex vitrification—concept and techniques. International seminar on update in fertility preservation for young cancer patient in 2022 web meeting, 2022.
- ③ その他
- 1) ©白石眞, 三上恭平, 加茂晃, 常深泰司, 加茂力, 大熊泰之, 藤本健一, 横田優樹, 野川茂, 長田高志, 関守信, 永山寛, 波田野琢, 中嶋秀人, 鈴木圭輔, 山元敏正, 山野嘉久, 服部信孝, 飯嶋睦. パーキンソン病患者の垂直姿勢の認識が前屈姿勢の長期経過に及ぼす影響～多施設観察研究(中間報告)～. カテコールアミンと神経疾患研究会 2022, 2022.
 - 2) ©山野嘉久. 難病プラットフォームの確立と展開. LHS 研究所設立一周年記念プログラム, 2022.
 - 3) ©山野嘉久. リサーチクエスションの作り方. 第2回臨床研究セミナー, 2022.
 - 4) ©山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症. 第1回神経免疫疾患診療医育成セミナー, 2022.
 - 5) ©山野嘉久. HTLV-1 の基礎知識とキャリア妊産婦・患者への支援. 令和4年度山梨県 HTLV-1 母子感染予防対策研修会, 2022.
 - 6) ©山野嘉久. 脳神経内科領域における総合的な取り組みを目指して ～急性期疾患から神経難病診療の現状と展望～. 神奈川県内科医学会 第46回臨床医学研修講座, 2022.
 - 7) ©山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) 診療ガイドライン作成の実際について. 第24回診療ガイドライン作成に関する意見交換会「難治性疾患を対象とした診療ガイドライン作成における工夫と課題」, 2022.
 - 8) ©熊井隆智, 遊道雄, 植原健二, 木城智, 工藤貴章, 小谷貴史, 仁木久照. 軟骨および軟骨下骨組織の再生に向けた自己組織化技術による人工軟骨-人工骨複合バイオマテリアルの創製. 日本運動器移植再生医学研究会, 2022.
 - 9) ©山野嘉久. 医療薬学持論. 東京大学大学院薬学系研究科講義, 2022.
 - 10) ©世古卓也, 山下由美子, 山下倫明, 臼井一茂, 遊道雄, 杉下陽堂, 高橋由妃. マグロ肉摂取がヒトの赤血球中セレノニン濃度に与える影響. 第3回エルゴチオニン・セレノニン研究会, 2022.
 - 11) ©山野嘉久. 医師主導治験. 愛媛大学大学院医学系研究科臨床薬理学講義, 2023.
 - 12) ©山野嘉久. HTLV-1 の基礎知識と HAM について ～HTLV-1 陽性と判明した妊婦への説明例も含めて～. 令和4年度 HTLV-1 対策講演会, 2023.
 - 13) ©山野嘉久. HTLV-1 の基礎知識と相談支援について. 北海道 HTLV-1 母子感染予防対策研修会, 2023.
 - 14) ©山野嘉久. HTLV-1 母子感染の予防と対策. 令和4年度性と健康の相談支援者研修, 2023.
 - 15) ©山野嘉久. HAM・HTLV-1 陽性難治性疾患の患者レジストリ活用によるエビデンス創出. 令和4年度厚生労働省&AMED 支援課題 HTLV-1 関連疾患研究領域研究班合同発表会, 2023.

- 16) ◎山野嘉久. 新規 HTLV-1 感染モデルを用いた HAM の発症予防法・治療法の開発. 令和 4 年度厚生労働省&AMED 支援課題 HTLV-1 関連疾患研究領域研究班合同発表会, 2023.
- 17) ◎山野嘉久. HAM ならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂. 令和 4 年度厚生労働省&AMED 支援課題 HTLV-1 関連疾患研究領域研究班合同発表会, 2023.
- 18) ◎中村健太郎, 高江正道, 伊藤薫, 小田原圭, 金森玲, 鈴木由妃, 岩端秀之, 杉下陽堂, 洞下由記, 大原樹, 近藤春裕, 鈴木直. 乳がん患者における腹腔鏡下卵巣組織移植術の一例. 第 49 回神奈川県産婦人科内視鏡研究会プログラム, 2023.
- 19) 山野嘉久. これからの難病医療と産学連携. RDD medU-net フォーラム, 2023.
- 20) ◎山野嘉久. 患者レジストリを活用した医療イノベーションへの挑戦 ～治療そして予防まで～. 令和 4 年度第 3 回聖マリア病院特別講演会, 2023.
- 21) ◎Rie Karasawa. Anti-Endothelial Cell Antibodies in Juvenile Dermatomyositis. The Environmental Autoimmunity Group's Special Seminar of National Institutes of Health (NIH), 2022.

		和 文	英 文
著 書			1
論 文	原著	5	24
	解説又は総説	8	2
	症例報告	2	1
	その他		
学会発表	国内学会	75	2
	国際学会		8
	その他	20	1

アイソトープ研究施設

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Kimura M, Yamauchi J, Sato T, Yagishita N, Araya N, Aratani S, Tanabe K, Horibe E, Watanabe T, Coler-Reilly A, Nagasaka M, Akasu Y, Kaburagi K, Kikuchi T, Shibata S, Matsumoto H, Koseki A, Inoue S, Takata A, Yamano Y.. Health-related quality of life evaluation using the Short Form-36 in patients with human T-Lymphotropic leukemia virus type 1-associated myelopathy. *Frontiers in Medicine*, 2022;9 : 879379.
- 2) Wada Y, Sato T, Hasegawa H, Matsudaira T, Nao N, Coler-Reilly A, Tasaka T, Yamauchi S, Okagawa T, Momose H, Tanio M, Kuramitsu M, Sasaki D, Matsumoto N, Yagishita N, Yamauchi J, Araya N, Tanabe K, Yamagishi M, Nakashima M, Nakahata S, Iha H, Ogata M, Imaizumi Y, Uchimaru K, Miyazaki Y, Konnai S, Yanagihara K, Morishita K, Watanabe T, Yamano Y, Saito M.. RAISING is a high-performance method for identifying random transgene integration sites. *Commun Biol*, 2022;5(1) : 535.
- 3) Tanaka Y, Sato T, Yagishita N, Yamauchi J, Araya N, Aratani S, Takahashi K, Kunitomo Y, Nagasaka M, Kanda Y, Uchimaru K, Morio T, Yamano Y. Potential Role of HTLV-1 Tax-Specific Cytotoxic T Lymphocytes expressing a Unique T-cell Receptor to Promote Inflammation of the Central Nervous System in Myelopathy Associated with HTLV-1. *Frontiers in Immunology*, 2022;13 : 993025.
- 4) Sasaki N, Sato T, Yamatoku M, Yamano Y.. Efficacy of repetitive transcranial magnetic stimulation for gait disturbance in HTLV-1 associated myelopathy. *NeuroRehabilitation*, 2022;51(3) : 519-526.
- 5) Matsumoto H, Shiraishi M, Higashi A, Hino S, Kaburagi M, Mizukami H, Maki F, Yamauchi J, Tanabe K, Sato T, Yamano Y. The Forward and Lateral Tilt Angle of the Neck and Trunk Measured by Three-Dimensional Gait and Motion Analysis as a Candidate for a Severity Index in Patients with Parkinson's Disease. *Neurology International*, 2022;14(3) : 727-737.
- 6) Kikuchi T, Takao N, Sato T, Isahaya K, Hino S, Kaburagi M, Tachikawa K, Ko R, Shibata S, Kaburagi K, Iijima N, Mizukami H, Sakurai K, Yamauchi J, Kimura A, Shimohata T, Yamano Y. The level of CSF CXCL10 is highly elevated and decreased after steroid therapy in patients with autoimmune glial fibrillary acidic protein astrocytopathy. *Clinical and Experimental Neuroimmunology*, 2022;14(1) : 61-68.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎新谷奈津美, 荒谷聡子, 八木下尚子, 山内淳司, 佐藤知雄, 山野嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の病態形成機構. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 2) ◎伊佐早健司, 柴田宗一郎, 飯島直樹, 平川経見, 伊藤歩, 西村直, 福田隆浩, 佐々木諒, 藤井伸治, 佐藤知雄, 山野嘉久. 成人 T 細胞白血病移植後の神経障害例 2 例の検討. 第 63 回日本神経学会学術大会, 2022.
- 3) 梅沢陽太郎, 山下敦己, 森美佳, 足利朋子, 長江千愛, 秋田美恵子, 鈴木典子, 山崎哲, 松井宏晃, 杉山誠, 高山成伸, 瀧正志. 糖質コルチコイドはヒト肝類洞内皮細胞における凝固第 VIII 因子 mRNA 産生を直接亢進する. 第 44 回日本血栓止血学会学術集会, 2022.
- 4) ◎新谷 奈津美、荒谷 聡子、八木下 尚子、山内 淳司、鷹尾 直誠、佐藤 知雄、山野 嘉久. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の神経障害機構の解析. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 5) ◎倉光 球、石塚 賢治、久保田 龍二、佐藤 知雄、山野 嘉久、橋倉 悠輝、梅北 邦彦、野坂 生郷、長谷川 寛雄、三浦 清徳、宇都宮 與、高 起良、相良 康子、蕎麦田 理英子、佐竹 正博、浜口 功. イムノクロマト法による新規 HTLV-1 抗体検査法の性能評価—多施設共同研究. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 6) ◎菅田 謙治、タン ベンジージェックヤン、ホサイン ベラル、ラジブ サミウルラジ、レダ オムニア、徳永 雅仁、野村 隼也、増田 曜章、佐藤 知雄、植田 光晴、宇都宮 與、山野 嘉久、佐藤 賢文. HAM 患者末梢血および脳脊髄液のシングルセル解析による HAM 病態解明と疾患サロゲートマーカーの探索研究. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 7) ◎伊佐早健司, 柴田宗一郎, 飯島直樹, 平川経見, 伊藤歩, 福田隆浩, 佐々木諒, 藤井伸治, 佐藤知雄, 山野嘉久. 成人 T 細胞白血病移植後の神経障害例 2 例の検討. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 8) ◎鷹尾直誠, 佐藤知雄, 山内淳司, 八木下尚子, 新谷奈津美, 荒谷聡子, 山野嘉久. HAM の排尿障害における臨床症状評価と治療効果判定の標準化スケールの確立. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 9) ◎佐藤 知雄, 斎藤 益満, 和田 悠作, 長谷川 寛雄, 松平 崇弘, 今泉 芳孝, 内丸 薫, 渡邊 俊樹, 山野 嘉久. HTLV-1 クロナリティ定量検査 RAISING-CLOVA を用いた ATL 発症リスク評価法の開発. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.

- 10) ◎佐藤知雄. オンライン相談の実際. 世界 HTLV デー記念講演会, 2022.
- 11) ◎廣井朋子, 金子英恵, 大滝正訓, 那和雪乃, 坪野谷真朗, 松本直樹, 佐藤知雄, 松井宏晃. ヒト中枢型トリプトファン水酸化酵素 (TPH2) の exon3 には 7 5 塩基対の翻訳抑制配列が存在する. 日本薬学会 第 143 年会, 2023.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		6
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	11	
	国際学会		
	その他		

疾患バイオマーカー・標的分子制御学

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, Kurokawa MS, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K. Serum gasdermin D levels are associated with the chest computed tomography findings and severity of COVID-19. Respiratory Investigation, 2022;60(6) : 750-761.

学会発表

① 国内学会

- 1) 黒川 真奈絵, 佐藤 利行, 佐藤 政秋, 永井 宏平, 内田 貞輔, 有戸 光美, 高桑 由希子, 大岡 正道, 末松 直也, 川畑 仁人, 山野嘉久, 加藤 智啓. 再発性多発軟骨炎のバイオマーカー候補となる血清ペプチドの解析. 第66回日本リウマチ学会総会・学術集会, 2022.
- 2) 佐藤政秋, 加藤 正樹, 佐藤 利行, 土屋 貴大, 表山 和樹, 有戸 光美, 末松 直也, 加藤 智啓, 黒川 真奈絵. 潰瘍性大腸炎の新規血清ペプチドバイオマーカーの網羅的探索. 第95回 日本生化学会大会, 2022.
- 3) Suzuki S, Imamura M, Mouri M, Tsuchida T, Tomita H, Matsuoka S, Takita M, Kakinuma K, Kawasaki T, Sakurai K, Yamazaki K, S.Kurokawa M, Kunishima H, Matsuda T, Mineshita M, Takemura H, Fujitani S, Ooka S, Sugihara T, Kato T, Kawahata K.. Pyroptosis-apoptosis imbalance affects the severity and chest CT findings in COVID-19. 第62回日本呼吸器学会学術講演会, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		1
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	2	1
	国際学会		
	その他		

医療情報処理技術応用研究

著書

- 1) 小林泰之, 平原大助, 高屋英知. サクッとわかる医療 AI 2022;1(1):1-140.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Tomita Hayato, Kuramochi Kenji, Fujikawa Atsuko, Ikeda Hiroataka, Komita Midori, Kurihara Yoshiko, Kobayashi Yasuyuki, Mimura Hidefumi. Effects of model-based iterative reconstruction in low-dose paranasal computed tomography: a comparison with filtered back projection and hybrid iterative reconstruction. Acta Medica Okayama, 2022;76(5):511-517.
- 2) Shibata S, Sakurai K, Tachikawa K, Ko R, Hino S, Fukano T, Isahaya K, Haraguchi T, Yamauchi J, Tanabe K, Nagasaka M, Hagiwara Y, Shimizu T, Akiyama H, Kobayashi Y, Hasegawa Y, Yamano Y. The Utility of Automated ASPECTS in Acute Ischemic Stroke for Intravenous Recombinant Tissue Plasminogen Activator (IV-rtPA) Therapy. Neurology International, 2022;14(4):981-990.
- 3) Kobayashi T, Haraguchi T, Nagao T. Classifying presence or absence of calcifications on mammography using generative contribution mapping. Radiological Physics and Technology, 2022;15(4):340-348.
- 4) Takaya E, Haraoka M, Takahashi H, Yairi E I, Kobayashi Y. Effect of Super Resolution on Low-Resolution MRI Segmentation. Journal of St. Marianna University, 2023;13(2):95-100.
- 5) Haraoka M, Takaya E, Kobayashi T, Haraguchi T, Hirahara D, Kobayashi Y. A Predictive Model for the Success of Endoscopic Combined Intrarenal Surgery by Machine Learning Using Medical Record Information and Diagnostic Image Findings. Journal of St. Marianna University, 2023;13(2):101-111.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎小林泰之. AI/ICTを活用した人間中心の次世代医療の実現に向けて: 診療放射線技師の皆さんが今すべきこととは. 日本放射線技術学会東京支部 第76回東京支部春期学術大会, 2022.
- 2) ◎小林泰之. Web3時代の放射線科医を目指して. 第7回 Advanced Medical Imaging 研究会 (SAMI2022), 2022.
- 3) ◎小林泰之. Basic knowledge of medical information necessary for radiologists in the age of artificial intelligence. 第58回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2022.

② その他

- 1) ◎小林泰之. 熱い思いで未来の医療を創る: 僕と聖マリアンナ医科大学の挑戦. AIデータと個人情報保護 第8回研究会, 2022.
- 2) ◎小林泰之. 熱い想いで未来の医療を創る!. AIコンソーシアム WG 合同イベント, 2022.
- 3) ◎小林泰之. スマートホスピタル. 第12回豊橋ライブデモンストレーションコース, 2022.
- 4) ◎小林泰之. 統計ってなに?. 未来の医療を創る “医療人2030” 育成プロジェクト 【スペース1】 医療データサイエンス講座, 2022.
- 5) ◎小林泰之. 本学のDXへの挑戦: AI・ICTを活用した次世代医療の実現に向けて. Hokuso Spine Joint Meeting, 2022.
- 6) ◎小林泰之. 今年度の医療人2030 育成プロジェクトについて. 未来の医療を創る “医療人2030” 育成プロジェクト 【スペース2】 医療人2030 育成プログラム, 2022.
- 7) ◎小林泰之. 次世代医療を創る新時代の医療人材を育成するために. 第17回医療系eラーニング全国交流会, 2022.
- 8) ◎小林泰之. 医療従事者に必要なWeb3基礎知識: 国家戦略の “Web3” って何? 医療に役立つものの? . 未来の医療を創る “医療人2030” 育成プロジェクト 【スペース3】 Web3/DAO/NFT×メタバースを活用したインタープレナー・コミュニティ, 2023.
- 9) ◎小林泰之. AI/ICTを活用した次世代医療を実現する “自分の夢を実現する、自分が変わる”. 千葉県放射線技術フォーラム (CRTF), 2023.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著		5
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	3	
	国際学会		
	その他	9	

先端生体画像情報研究講座

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Kataoka Y, Baba T, Ikenoue T, Matsuoka Y, Matsumoto J, Kumasawa J, Tochitani K, Funakoshi H, Hosoda T, Kugimiya A, Shirano M, Hamabe F, Iwata S, Kitamura Y, Goto T, Hamaguchi S, Haraguchi T, Yamamoto S, Sumikawa H, Nishida K, Nishida H, Ariyoshi K, Sugiura H, Nakagawa H, Asaoka T, Yoshida N, Oda R, Koyama T, Iwai Y, Miyashita Y, Okazaki K, Tanizawa K, Handa T, Kido S, Fukuma S, Tomiyama N, Hirai T, Ogura Ti. Development and external validation of a deep learning-based computed tomography classification system for COVID-19. *Annals of Clinical Epidemiology*, 2022;4(4) : 110-119.
- 2) Shibata S, Sakurai K, Tachikawa K, Ko R, Hino S, Fukano T, Isahaya K, Haraguchi T, Yamauchi J, Tanabe K, Nagasaka M, Hagiwara Y, Shimizu T, Akiyama H, Kobayashi Y, Hasegawa Y, Yamano Y. The Utility of Automated ASPECTS in Acute Ischemic Stroke for Intravenous Recombinant Tissue Plasminogen Activator (IV-rtPA) Therapy. *Neurology International*, 2022;14(4) : 981-990.
- 3) Kobayashi T, Haraguchi T, Nagao T. Classifying presence or absence of calcifications on mammography using generative contribution mapping. *Radiological Physics and Technology*, 2022;15(4) : 340-348.
- 4) Haraoka M, Takaya E, Kobayashi T, Haraguchi T, Hirahara D, Kobayashi Y. A Predictive Model for the Success of Endoscopic Combined Intrarenal Surgery by Machine Learning Using Medical Record Information and Diagnostic Image Findings. *Journal of St. Marianna University*, 2023;13(2) : 101-111.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎柴田宗一郎, 櫻井謙三, 太刀川慶史, 高梨世子, 日野栄絵, 深野崇之, 伊佐早健司, 原口貴史, 石橋麻希, 小林泰之, 山野嘉久. 脳梗塞における人口知能(AI)を用いた頭部CT画像読影の検証. 第63回日本神経学会学術大会, 2022.
- 2) ◎原口貴史, 後藤由香, 古谷悠子, 瀧下茉莉子, 津川浩一郎, 印牧義英, 小林泰之. Axillary lymph node metastasis prediction with FFDM and s2D mammography based on machine learning. 第30回日本乳癌学会学術総会, 2022.
- 3) ◎原口貴史. 画像診断領域AIの最新動向. 第42回日本画像医学会 学術集会, 2023.

② その他

- 1) ◎小林泰之. AI/ICTが実現する医療の未来: このために我々はどうに行動するべきか. 令和4年度医療関連産業支援セミナー, 2022.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		4
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	3	
	国際学会		
	その他	1	

分子神経科学

学術論文[和文]

① 原著

- 1) 山田雄介, 徳田直人, 重城達哉, 塚本彩香, 豊田泰大, 北岡康史, 高木均. プリモニジン酒石酸塩・プリンゾラミド配合点眼薬の有効性について. 臨床眼科, 2022;76(5):695-699.
- 2) 豊田泰大, 徳田直人, 塚本彩香, 山田雄介, 北岡康史, 高木均. 血管新生緑内障に対する緑内障チューブシャント術（プレートのあるもの）の中期成績. あたらしい眼科, 2022;39(11):1539-1543.
- 3) 原飛鳥, 徳田直人, 塚本彩香, 豊田泰大, 荒川明, 北岡康史, 高木均. 緑内障チューブシャント手術（プレートのないもの EX-PRESS®）の術後中期成績. 臨床眼科, 2023;77(1):134-140.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Tokuda N, Kitaoka Y, Tsukamoto A, Toyoda Y, Yamada Y, Sase K, Takagi H. Comparison of minimally invasive glaucoma surgery with trabecular micro-bypass stent and microhook ab interno trabeculotomy performed in conjunction with cataract surgery. International Journal of Ophthalmology, 2022;15(7):1082-1088.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎藤田直輝, 佐瀬佳奈, 塚原千広. 有菌生吹, 高木均, 北岡康史. 高眼圧モデルラットに対するペマフィブラート内服による神経保護効果. 第126回日本眼科学会総会, 2022.
- 2) ◎遠藤誠子, 徳田直人, 塚本彩香, 豊田泰大, 山田雄介, 北岡康史, 高木均. 水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術の有効性について～iStent®とiStent inject®の比較～. 第14回神奈川眼科学会, 2022.
- 3) ◎豊田泰大, 徳田直人, 塚本彩香, 山田雄介, 北岡康史, 高木均. オミデネバグ・イソプロピル点眼液 0.002%の眼圧下降効果、副作用について. 第33回日本緑内障学会, 2022.
- 4) ◎佐瀬佳奈, 塚原千広, 藤田直輝, 有菌生吹, 高木均, 北岡康史. TNF誘発視神経障害モデルにおけるp38阻害剤の保護作用. 第33回日本緑内障学会, 2022.
- 5) ◎遠藤誠子, 徳田直人, 塚本彩香, 豊田泰大, 山田雄介, 佐瀬佳奈, 北岡康史, 高木均. 同一症例における白内障手術併用iStent inject挿入術と線維柱帯切開術眼内法の術後早期成績. 第33回日本緑内障学会, 2022.
- 6) 北岡康史. オートファジーと軸索変性. 第33回日本緑内障学会, 2022.
- 7) ◎塚原千広, 佐瀬佳奈, 藤田直輝, 有菌生吹, 北岡康史. NFATc1阻害剤の軸索保護効果におけるIL-1 β とNFATc1発現の検討. 第42回日本眼薬理学会, 2022.
- 8) ◎北岡康史, 藤田直輝, 塚原千広, 有菌生吹, 佐瀬佳奈. ULKと高眼圧モデル. 第42回日本眼薬理学会, 2022.
- 9) ◎佐藤圭司, 関根伶生, 重城達哉, 河越龍方, 向後二郎, 北岡康史. 糖尿病黄斑浮腫と赤血球ヘマトクリット値との関連についての検討. 第55回神奈川県眼科臨床談話会（ハイブリット開催）, 2023.
- 10) ◎楠島志帆, 徳田直人, 遠藤誠子, 塚本彩香, 豊田泰大, 山田雄介, 佐瀬佳奈, 北岡康史. 白内障手術併用眼内ドレーン挿入術後の検討. 第55回神奈川県眼科臨床談話会（ハイブリット開催）, 2023.
- 11) ◎吉村雅弘, 徳田直人, 重城達哉, 遠藤誠子, 山田雄介, 豊田泰大, 塚本彩香, 北岡康史. アイケアic200手持眼圧計による眼圧測定値と他機種による眼圧測定値との比較検討. 第55回神奈川県眼科臨床談話会（ハイブリット開催）, 2023.
- 12) ◎花田真由, 河越龍方, 山田瑛子, 北岡康史. 小児の非典型Cogan症候群の一例. 第55回神奈川県眼科臨床談話会（ハイブリット開催）, 2023.
- 13) ◎楠島志帆, 徳田直人, 遠藤誠子, 塚本彩香, 豊田泰大, 山田雄介, 佐瀬佳奈, 北岡康史. 白内障手術併用眼内ドレーン挿入術のステント位置が術後眼圧に及ぼす影響について. 第46回日本眼科手術学会学術総会, 2023.

② その他

- 1) 北岡康史. 眼疾患と疑わしき神経疾患. Novartis Web Symposium, 2023.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著	3	1
	解説又は総説		
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	13	
	国際学会		
	その他	1	

医療情報実用化マネジメント学寄附研究部門

著書

- 1) 菅又昌実、柏崎英樹、渡邊俊樹、大曲貴夫、長谷川秀樹、他 22 名. 成人 T 細胞白血病一発症の分子基盤理解の進展と発症予防法開発の試み 日本の感染症-明らかにされたこと のこされた課題 2022;:99-108.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Kimura M, Yamauchi J, Sato T, Yagishita N, Araya N, Aratani S, Tanabe K, Horibe E, Watanabe T, Coler-Reilly A, Nagasaka M, Akasu Y, Kaburagi K, Kikuchi T, Shibata S, Matsumoto H, Koseki A, Inoue S, Takata A, Yamano Y.. Health-related quality of life evaluation using the Short Form-36 in patients with human T-Lymphotropic leukemia virus type 1-associated myelopathy. *Frontiers in Medicine*, 2022;9 : 879379.
- 2) Wada Y, Sato T, Hasegawa H, Matsudaira T, Nao N, Coler-Reilly A, Tasaka T, Yamauchi S, Okagawa T, Momose H, Tanio M, Kuramitsu M, Sasaki D, Matsumoto N, Yagishita N, Yamauchi J, Araya N, Tanabe K, Yamagishi M, Nakashima M, Nakahata S, Iha H, Ogata M, Imaizumi Y, Uchimar K, Miyazaki Y, Konnai S, Yanagihara K, Morishita K, Watanabe T, Yamano Y, Saito M.. RAISING is a high-performance method for identifying random transgene integration sites. *Commun Biol*, 2022;5(1) : 535.
- 3) Sagara Y, Nakamura H, Satake M, Watanabe T, Hamaguchi I. Increasing horizontal transmission of human T-cell leukemia virus type 1 in adolescents and young adults in Japan. *Journal of clinical virology : the official publication of the Pan American Society for Clinical Virology*, 2022; : DOI-10.1016/j.jcv.2022.105324.
- 4) Nakashima M, Utsunomiya A, Watanabe T, Horie R, Uchimar K. The oncogenic driving force of CD30 signaling-induced chromosomal instability in adult T-cell leukemia/lymphoma. *Cancer Science*, 2023; : doi-10.1111/cas.15706.
- 5) Kameda T, Kataoka K, Kamiunten A, Hidaka M, Miyoshi H, Nakano N, Nosaka K, Yoshimitsu M, Yasunaga JI, Kogure Y, Shide K, Miyahara M, Sakamoto T, Akizuki K, Hidaka T, Kubuki Y, Koya J, Kawano N, Yamashita K, Kawano H, Toyama T, Maeda K, Marutsuka K, Imaizumi Y, Kato K, Sugio T, Tokunaga M, Tashiro Y, Takaori-Kondo A, Miyazaki Y, Akashi K, Ishitsuka K, Matsuoka M, Ohshima K, Watanabe T, Kitanaka A, Utsunomiya A, Ogawa S, Shimoda K. Integrated genetic and clinical prognostic factors for aggressive adult T-cell leukemia/lymphoma. *Haematologica*, 2023; : doi-10.3324/haematol.2022.281510.
- 6) Imaizumi Y, Iwanaga M, Nosaka K, Ishitsuka K, Ishizawa K, Ito S, Amano M, Ishida T, Uike N, Utsunomiya A, Ohshima K, Tanaka J, Tokura Y, Tobinai K, Watanabe T, Uchimar K, Tsukasaki K. Validation of the iATL-PI prognostic index in therapeutic decision-making for patients with smoldering and chronic ATL: a multicenter study. *International Journal of Hematology*, 2023;117(2) : 206-215.

② 総説又は症例解説

- 1) Kamoi K, Watanabe T, Uchimar K, Okayama A, Kato S, Kawamata T, Kurozumi-Karube H, Horiguchi N, Zong Y, Yamano Y, Hamaguchi I, Nannya Y, Tojo A, Ohno-Matsui K. Updates on HTLV-1 uveitis. *Viruses*, 2022;14(4) : 794.
- 2) Nakano K, Watanabe T. Tuning Rex rules HTLV-1 pathogenesis. *Frontiers in Immunology*, 2022;13:959962 : DOI-10.3389/fimmu.2022.959962.

学会発表

① 国内学会

- 1) 中島 誠, 宇都宮 與, 渡邊俊樹, 堀江良一, 内丸薫. CD30 シグナルが誘導する染色体不安定性の促進機構. 第 81 回日本癌学会学術総会, 2022.
- 2) ◎堀部恵梨佳, 相良康子, 山野嘉久, 内丸薫, 浜口功, 渡邊俊樹. JSPFAD アンケート調査による HTLV-1 水平感染の現状. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 3) ◎相良康子, 中村仁美, 堀部恵梨佳, 入田和男, 山野嘉久, 渡邊俊樹. ウェブサイト・トラフィック -HTLV-1 ウェブサイトの検証と解析-. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 4) 渡邊俊樹. 我が国の HTLV-1 感染対策の現状と WHO の HTLV 感染対策. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 5) ◎佐藤 知雄, 斎藤 益満, 和田 悠作, 長谷川 寛雄, 松平 崇弘, 今泉 芳孝, 内丸 薫, 渡邊 俊樹, 山野 嘉久. HTLV-1 クロナリティ定量検査 RAISING-CLOVA を用いた ATL 発症リスク評価法の開発. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.

- 6) 田部亜季, 高橋良明, 那須智博, 由井杏奈, 中木戸誠, 内丸薫, 渡邊俊樹, 津本浩平, 中野和民. 新規抗 CADM1 抗体を用いた成人 T 細胞白血病・リンパ腫細胞に対する抗体薬物複合体の開発. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 7) 登坂充, 山岸誠, 水池潤, 草柳世奈, 久世裕太, 田中勇悦, 渡邊俊樹, 鈴木穰, 内丸薫. HTLV-1 感染細胞で形成される Tax-転写因子複合体の同定と機能的意義の検討. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 8) 草柳世奈, 山岸誠, 久世裕太, 鈴木佳子, 水池潤, 登坂充, 田中勇悦, 中野和民, 渡邊俊樹, 鈴木穰, 内丸薫. シングルセル RNA/エピゲノム解析で得た HTLV-1 感染初期の知見. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 9) 瀬賀亜里沙, 中島誠, 山岸誠, 水池潤, 宇都宮與, 渡邊俊樹, 内丸薫. ATL における CD30 発現機構の解析. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 10) 中野和民, 田部亜季, 高橋良明, 山本菜央佳, 津本浩平, 渡邊俊樹, 内丸薫. 新規 CADM1 抗体-FoxM1 阻害剤複合体による ATL 細胞への標的治療の試み. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 11) 中島誠, 川俣豊隆, 南谷泰仁, 宇都宮與, 渡邊俊樹, 内丸薫. Membrane CD30 と Soluble CD30 の二重解析による CD30 発現評価法の検討. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 12) 高橋良明, 田部亜季, 中野和民, 渡邊俊樹, 津本浩平. 新規抗 CADM1 モノクローナル抗体の作製: clone YTH-W-2C2. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 13) 亀田拓郎, 片岡圭亮, 日高道弘, 三好寛明, 木暮泰寛, 宮原正晴, 高折晃史, 宮崎泰司, 赤司浩一, 大島孝一, 石塚賢治, 松岡雅雄, 渡邊俊樹, 宇都宮與, 小川誠司, 下田和哉. Aggressive ATL における臨床的予後因子と遺伝的予後因子の統合. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会, 2022.
- 14) Hidekatsu Iha, Shanaz Irwani Binti Sabri, Omar Kwang Kugan, Saliz Mazrina Binti Shaharom, Mohammad Saffree Jeffree, Kimberly Fornace, Daisuke Mori, Takaaki Yahiro, Isao Hamaguchi, Toshiki Watanabe, Akira Nishizono, Kamruddin Ahmed. Epidemiological evidence of human T-lymphotropic virus type 1 prevalence in the northern area of Borneo, Malaysia: The latest update in 2022. 第 63 回日本熱帯医学会大会・第 26 回日本渡航医学会学術集会, 2022.

② 国際学会

- 1) Mizuike J, Yamagishi M, Tosaka S, Tanaka Y, Watanabe T, Suzuki Y, Uchamaru K. Interactome and epigenetic functions of HTLV-1 Tax. 20th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 2022.
- 2) Utsunomiya A, Nakano N, Tokunaga M, Odawara J, Miyazono T, Fujino S, Ito, Y, Yonekura K, Tashiro Y, Takatsuka Y, Takeuchi S, Uchamaru K, Watanabe T. Fluctuation of HTLV-1 provirus loads in long survival patients with ATL underwent allogeneic hematopoietic cell transplantation. 20th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 2022.
- 3) Yamagishi M, Kuze Y, Yokomizo A, Fukuda T, Watanabe T, Suzuki Y, Uchamaru K. Chronological genome and single-cell epigenome/transcriptome integration characterizes the evolutionary process of adult T cell leukemia-lymphoma. 20th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 2022.
- 4) Nakano K, Tanaka M, Uchida K, Watanabe T, Uchamaru K. Analysis in the mechanism of co-operative and mutual regulation among viral proteins in HTLV-1 infection. 20th International Conference on Human Retrovirology: HTLV and Related Viruses, 2022.
- 5) Yamagishi M, Kuze Y, Nakashima M, Kobayashi S, Morishima S, Kawamata T, Makiyama J, Abe K, Imamura K, Watanabe E, Tsuchiya K, Yasumatsu I, Takayama G, Ito K, Nannya Y, Tojo A, Watanabe T, Tsutsumi S, Suzuki Y, Uchamaru K. Durable Clinical Impacts and Mechanisms of Action and Resistance in EZH1/2-Targeting Epigenetic Therapy. 64th ASH Annual Meeting and Exposition, 2022.

③ その他

- 1) 田部亜季, 田中勇悦, 那須智博, 内丸薫, 中野和民, 津本浩平, 中木戸誠, 由井杏奈, 渡邊俊樹. 成人 T 細胞白血病リンパ腫を標的とした新規抗体薬物複合体の開発. 日本レトロウイルス研究会 2022, 2022.

		和 文	英 文
著 書		1	
論 文	原著		6
	解説又は総説		2
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	13	1
	国際学会		5
	その他	1	

バイオインフォマティクス学

学術論文[和文]

① 総説又は症例解説

- 1) 津田桃子, 渡邊嘉行, 渡辺亮介, 東野真幸, 久保公利, 山本博幸, 加藤元嗣. 胃内視鏡廃液を用いた Qprobe 法を原理とする H. pylori 遺伝子検出 POCT 試薬の臨床評価. 日本ヘリコバクター学会誌, 2022;24(1) : 22-24.
- 2) 津田桃子, 渡邊嘉行, 渡辺亮介, 東野真幸, 久保公利, 山本博幸, 加藤元嗣. 胃内 H. pylori の CAM 耐性変異率と除菌治療成績についての検討. 日本ヘリコバクター学会誌, 2022;24(1) : 19-21.

学術論文[英文]

① 原著

- 1) Umemoto K, Yamamoto H, Oikawa R, Takeda H, Doi A, Horie Y, Arai H, Ogura T, Mizukami T, Izawa N, Moore JA, Sokol ES, Sunakawa Y. The molecular landscape of pancreatobiliary cancers for novel targeted therapies from real-world genomic profiling. Journal of the National Cancer Institute, 2022;114(9) : 1279-1286.
- 2) Watanabe Y, Matsuba I, Kunishima T, Takechi Y, Takuma T, Araki Y, Hirotsu N, Sakai H, Oikawa R, Danno H, Fukuda M, Futagami S, Wada K, Yamamoto H, Itoh F, Oda I, Hatori Y, Degawa H. Heterogeneity assessment of vaccine-induced effect using the point-of-care test based surrogate neutralization test for severe acute respiratory syndrome coronavirus 2. Journal of clinical laboratory analysis, 2022;36(7) : e24545.
- 3) Tanaka I, Ono S, Watanabe Y, Yamamoto H, Oikawa R, Matsumoto S, Kubo M, Nishimura Y, Shimoda Y, Ono M, Yamamoto K, Sakamoto N. Long-term changes in aberrant DNA methylation and gastritis after Helicobacter pylori eradication focused on metachronous gastric cancer. Helicobacter, 2022;27(5) : e12915.
- 4) Oikawa R, Watanabe Y, Yotsuyanagi H, Yamamoto H, Itoh F. DNA methylation at hepatitis B virus integrants and flanking host mitochondrially encoded cytochrome C oxidase III. Oncology Letters, 2022;24(6) : 424.
- 5) Tsuda M, Watanabe Y, Watanabe Y, Higashino M, Kubo K, Yamamoto H, Kato M. Clinical evaluation of a novel molecular diagnosis kit for clarithromycin-resistant Helicobacter pylori using gastric juice. Helicobacter, 2022;27(6) : e12933.
- 6) Mihara H, Uchida K, Watanabe Y, Nanjo S, Sakumura M, Motoo I, Ando T, Minemura M, Muhammad JS, Yamamoto H, Itoh F, Yasuda I. Colonic TRPV4 overexpression is related to constipation severity. BMC Gastroenterology, 2023;23(1) : 13.

② 総説又は症例解説

- 1) Maehata Tadateru, Sato Yoshinori, Nakamoto Yusuke, Kato Masaki, Kawashima Akiyo, Kiyokawa Hirofumi, Yasuda Hiroshi, Yamamoto Hiroyuki, Tateishi Keisuke. Updates in the Field of Submucosal Endoscopy. Life, 2022;13(1) : 104.

学会発表

① 国内学会

- 1) ◎荒木建一, 清川博史, 前畑忠輝, 飯島良彦, 薩田祐輔, 中本悠輔, 加藤正樹, 佐藤義典, 山本博幸, 安田 宏. 当院における十二指腸憩室出血に対する内視鏡的止血術の治療経験. 第 103 回日本消化器内視鏡学会総会, 2022.

② 国際学会

- 1) Momoko Tsuda, Yoshiyuki Watanabe, Ryosuke Watanabe, Masayuki Higashino, Kimitoshi Kubo, Hiroyuki Yamamoto, Mototsugu Kato. Clinical evaluation of H. pylori molecular diagnosis POCT kit based on Qprobe using gastric juice. The 18th Japan-Korea H. pylori Joint Symposium, 2022.

③ その他

- 1) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘症 WEB セミナー, 2022.
- 2) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘症 WEB セミナー in 藤沢, 2022.
- 3) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘症 WEB セミナー in 東葛北部, 2022.
- 4) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘症 WEB 講演会, 2022.
- 5) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 透析疾患合併症フォーラム, 2022.
- 6) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 便秘 Web フォーラム in 千葉, 2022.
- 7) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘 Web セミナー, 2022.
- 8) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘 Web セミナー, 2022.

- 9) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘 Web セミナー, 2022.
- 10) 山本博幸. 患者満足度の高い新型コロナ時代の慢性便秘症診療 A to Z. 慢性便秘症 WEB セミナー, 2022.
- 11) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 便秘診療ステップアップレクチャー, 2022.
- 12) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 神奈川県慢性便秘 WEB チャンネル, 2022.
- 13) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 便秘治療を考える会, 2022.
- 14) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 便秘診療ステップアップレクチャー, 2022.
- 15) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 埼玉西部慢性便秘症セミナー, 2022.
- 16) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 慢性便秘症ウェブセミナー, 2022.
- 17) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 慢性便秘 Web セミナー, 2022.
- 18) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 便秘診療ステップアップレクチャー, 2022.
- 19) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 慢性便秘症治療 Web フォーラム, 2022.
- 20) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. グーフィス WEB チャンネル長野・山梨, 2022.
- 21) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2022. 慢性便秘症治療 STEP UP セミナー, 2022.
- 22) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 生活習慣病フォーラム, 2023.
- 23) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. メディカルオンラインセミナー, 2023.
- 24) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 女性疾患研究会, 2023.
- 25) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 慢性便秘 Web セミナー, 2023.
- 26) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 腎・透析から診る慢性便秘症治療 Seminar, 2023.
- 27) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 東部地区慢性便秘症 WEB フォーラム, 2023.
- 28) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 慢性便秘症治療を考える会 in 桜山, 2023.
- 29) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 慢性便秘症 Web セミナー ～便秘治療を考える～, 2023.
- 30) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 便秘診療ネットフォーラム, 2023.
- 31) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 慢性便秘症治療を考える会, 2023.
- 32) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 慢性便秘 Web セミナー, 2023.
- 33) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 慢性便秘症 WEB セミナー, 2023.
- 34) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 西三河慢性便秘症 WEB フォーラム, 2023.
- 35) 山本博幸. シン・慢性便秘症診療 2023. 慢性便秘症 WEB セミナー, 2023.

		和 文	英 文
著 書			
論 文	原著		6
	解説又は総説	2	1
	症例報告		
	その他		
学会発表	国内学会	1	
	国際学会		1
	その他	35	